

# 城南一丁目遺跡

## 発掘調査報告書

1999

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

じょう なん いっ ちょう め

# 城南一丁目遺跡

## 発掘調査報告書

平成11年 3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、城南一丁目遺跡の調査成果をまとめたものです。

城南一丁目遺跡は、山形県の県都である山形市街地のほぼ中央、JR山形駅の西口に隣接したところにあります。この地は斯波兼頼公によって開かれ、最上義光公の時代に最盛期をむかえた山形城三の丸の一部にあたります。遺跡の北にある山形城の本丸と二の丸の跡は、霞城公園として県民の憩いの場となっておりとともに、大手門の復元をはじめ、現在史跡整備がすすめられております。

この度山形駅西口新都心ビル（仮称）建設工事に伴い、工事に先立って城南一丁目遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、山形城に係わる安土桃山時代から江戸時代にかけての貴重な遺構、遺物とともに、その後の複雑な土地利用を物語る多種多様な資料が出土しています。また、奈良時代・平安時代の大規模な集落跡の存在も確認されました。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成11年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木場清耕

## 例 言

- 1 本書は山形駅西口新都心ビル（仮称）建設工事に係る「城南一丁目遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、山形県土木部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

遺 跡 名	城南一丁目遺跡（CYGJI）	遺跡番号	平成9年度登録
所 在 地	山形県山形市城南一丁目		
調 査 主 体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
調 査 期 間	平成10年4月1日～平成11年3月31日		
現 地 調 査	平成10年4月8日～平成10年8月12日		
発掘担当者	調査第二課長	野尻	侃
	主任調査研究員	尾形	與典
	調査研究員	黒坂	雅人
	調査研究員	須賀井	新人
	調査研究員	佐竹	桂一
	調査研究員	水戸	弘美
	嘱託職員	國井	修
	嘱託職員	稲村	圭一

- 4 発掘調査および本書を作成するにあたり、山形県土木部都市計画課都市整備推進室、山形市都市開発部新都市拠点整備課、山形市教育委員会、東南村山教育事務所、大成建設株式会社など関係機関の協力を得た。また阿子島功、横山昭男、松井敏也、五十嵐貴久、斎藤仁、武田和宏、須藤英之、山口博之、平田禎文、関根達人、佐々木洋治の各氏に御指導、御教示いただいた。
- 5 本書の作成・執筆は、黒坂雅人が担当し、國井 修、稲村圭一がこれを補佐した。編集は、須賀井新人、尾形與典、長瀬えみ子が担当し、全体については野尻 侃が監修した。
- 6 委託業務は下記の通りである。

遺構の写真測量・実測	株式会社シン技術コンサル
資料の理科学分析	株式会社パレオ・ラボ
- 7 出土遺物・調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡 例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

S T…竪穴住居跡	S B…掘立柱建物跡	S K…土坑	S D…溝跡
S E…井戸跡	S X…性格不明遺構	S G…河川跡	S P…ピット
E L…カマド跡	E P…遺構内柱穴	E K…遺構内土坑	E B…掘立柱
R P…登録土器	R Q…登録石製品	R M…登録金属製品	S ……礫

2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3 報告書執筆基準は下記の通りである

(1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構平面図中の方位は磁北を示す。

(2) グリッドの南北軸は、N-24°-Eを測る。

(3) 遺構実測図は1/60～1/120他の縮尺で採録し、各々スケールを付した。

(4) 遺物実測図は1/3、1/4で採録し、各々スケールを付した。なお実測図断面中の▲は須恵器を、●は赤焼土器を表す。

(5) 遺物計測表中の計測値の( )は復元による推定値、[ ]は残存値、-は計測不能、空欄は計測不要を示す。また単位は特に断りがないかぎりmmを使用している。

(6) 遺物図版には任意の縮尺で撮影したものを除き、およその縮尺を付した。

(7) 掲載遺物番号は、挿図・付表・図版ともに共通とした。

(8) 土層断面図中の色調の記載は、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	2
III	調査の経過	4
IV	遺跡の概要	6
1	基本層序	6
2	遺構と遺物の分布	8
V	検出された遺構	9
1	竪穴住居跡	9
2	河川跡	26
3	掘立柱建物跡	26
4	井戸跡	28
5	石組遺構	33
6	溝 跡	34
7	土 坑	50
VI	出土した遺物	72
1	縄文時代の遺物	72
2	古代の土器	73
3	中世・近世の土器・陶磁器	99
4	土製品	144
5	石製品	147
6	金属製品	156
7	近現代の遺物	162
VII	調査のまとめ	163
1	竪穴住居跡の土器組成と所属時期について	163
2	近世の遺構と遺物について	166
3	調査のまとめ	169
	報告書抄録	170

付 編

巻末

「城南一丁目遺跡 胎土分析および坩堝・スラグの成分分析」

## 表

第1表	SB1347柱穴計測表	28
第2表	井戸跡観察表	30
第3表	縄文土器観察表	93
第4表	石器計測表	93
第5表	古代土器計測表(1)	93
第6表	古代土器計測表(2)	94
第7表	古代土器計測表(3)	95
第8表	古代土器計測表(4)	96
第9表	古代土器計測表(5)	97
第10表	古代土器計測表(6)	98
第11表	瓦器・土師質土器計測表	134
第12表	土師質土器計測表(1)	135
第13表	土師質土器計測表(2)	136
第14表	土師質土器計測表(3)	137
第15表	陶磁器計測表(1)	138
第16表	陶磁器計測表(2)	139
第17表	陶磁器計測表(3)	140
第18表	陶磁器計測表(4)	141
第19表	陶磁器計測表(5)	142
第20表	陶磁器計測表(6)	143
第21表	瓦計測表	158
第22表	埴塼計測表	158
第23表	鋳型計測表	158
第24表	羽口計測表	158
第25表	転用土製品計測表	158
第26表	盤状石製品計測表	159
第27表	容器形石製品計測表	160
第28表	ガラス製品計測表	160
第29表	銭貨計測表	161

## 挿 図

第1図 遺跡位置図 .....	3	第35図 SD496 .....	47
第2図 調査区概要図 .....	5	第36図 SD461 .....	48
第3図 調査区基本層序 .....	7	第37図 SD544 .....	49
第4図 ST287 .....	9	第38図 SK20・21 .....	51
第5図 ST563 .....	10	第39図 SK1239 .....	52
第6図 ST290 .....	11	第40図 SK122・186・295 .....	53
第7図 ST262 .....	12	第41図 SK187・188 .....	54
第8図 ST237 .....	13	第42図 SK37・56 .....	55
第9図 ST375 .....	14	第43図 SK502・1390・522 .....	56
第10図 ST465 .....	15	第44図 SK787~790・535 .....	57
第11図 ST1276 .....	16	第45図 SK1296・1228・604・602 .....	58
第12図 ST498 .....	17	第46図 SK695 .....	59
第13図 ST508 .....	18	第47図 SK696・697・699 .....	60
第14図 ST584 .....	19	第48図 SK1028・1391・648 .....	61
第15図 ST1120 .....	20	第49図 SK1052~1055 .....	62
第16図 ST944 .....	21	第50図 SK941 .....	63
第17図 ST1190 .....	22	第51図 SK909・913 .....	64
第18図 ST970 .....	23	第52図 SK909遺物分布 .....	65
第19図 ST729・751(1) .....	24	第53図 SK940・906・954・955 .....	66
第20図 ST729・751(2) .....	25	第54図 SK1183 .....	67
第21図 SG300 .....	27	第55図 SK507 .....	69
第22図 SB1347 .....	29	第56図 SK552 .....	70
第23図 SE116・175・19 .....	31	第57図 SK925 .....	71
第24図 SE359・387・29・693 .....	32	第58図 縄文土器 .....	72
第25図 SX360 .....	33	第59図 ST287出土須恵器・土師器 .....	75
第26図 SD555・9(1) .....	34	第60図 ST287出土土師器・赤焼土器 .....	76
第27図 SD555・9(2) .....	35	第61図 ST563出土須恵器・土師器・ 赤焼土器 .....	77
第28図 SD76・82 .....	37	第62図 ST290出土須恵器・土師器 .....	78
第29図 SD185・118 .....	39	第63図 ST262出土須恵器(1) .....	79
第30図 SD25・33 .....	40	第64図 ST262出土須恵器(2) .....	80
第31図 SD185・118・25・33土層断面 .....	41	第65図 ST262出土須恵器・土師器 .....	81
第32図 SD1000・1010 .....	42	第66図 ST262出土土師器 .....	82
第33図 SD397・276・272 .....	43	第67図 ST237出土須恵器・土師器 .....	83
第34図 SD41 .....	45		



第68図	ST375出土須恵器・土師器・ 赤焼土器	84	第89図	陶磁器(6)	114
第69図	ST465・1276・498出土須恵器・ 土師器	85	第90図	陶磁器(7)	115
第70図	ST584・1120出土須恵器・ 土師器	86	第91図	陶磁器(8)	116
第71図	ST1190・729・751出土須恵器・ 土師器	87	第92図	陶磁器(9)	117
第72図	土坑・溝跡・井戸跡出土の須恵器・ 赤焼土器	88	第93図	陶磁器(10)	119
第73図	土坑・溝跡・河川跡出土の 須恵器	89	第94図	陶磁器(11)	120
第74図	土坑・溝跡・遺構外出土須恵器・ 土師器	90	第95図	陶磁器(12)	121
第75図	土坑・河川跡・井戸跡・溝跡・遺構外 出土須恵器・土師器・赤焼土器	91	第96図	陶磁器(13)	123
第76図	土坑・河川跡・溝跡・ 遺構外出土須恵器	92	第97図	陶磁器(14)	124
第77図	瓦器	99	第98図	陶磁器(15)	125
第78図	土師質土器・かわらけ(1)	101	第99図	陶磁器(16)	126
第79図	土師質土器・かわらけ(2)	102	第100図	陶磁器(17)	127
第80図	土師質土器・かわらけ(3)	103	第101図	陶磁器(18)	129
第81図	土師質土器・かわらけ(4)	104	第102図	陶磁器(19)	130
第82図	土師質土器・かわらけ(5)	105	第103図	陶磁器(20)	131
第83図	土師質土器・かわらけ(6)	106	第104図	陶磁器(21)	132
第84図	陶磁器(1)	108	第105図	陶磁器(22)	133
第85図	陶磁器(2)	109	第106図	瓦	145
第86図	陶磁器(3)	110	第107図	土製品	146
第87図	陶磁器(4)	111	第108図	石製品(1)	148
第88図	陶磁器(5)	113	第109図	石製品(2)	149
			第110図	石製品(3)	150
			第111図	石製品(4)	151
			第112図	石製品(5)	152
			第113図	石製品(6)	153
			第114図	石製品(7)	154
			第115図	石製品(8)	155
			第116図	金属製品(1)	156
			第117図	金属製品(2)	157
			第118図	古代土器分類図	165

## 図 版

- |      |                                                                                                |      |         |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------|
| 図版 1 | 遺跡近景・調査区近景                                                                                     | 図版26 | 調査区完掘状況 |
| 図版 2 | 表土剥取、面整理作業状況・調査区杭打ち作業状況・第1期調査区遺構検出作業・SK648精査状況・第2期調査区遺構精査・ST498 SK507精査記録作業状況・ST729平面図作成・調査説明会 | 図版27 | 縄文土器・石器 |
| 図版 3 | 第1・2期調査区遺構検出状況・第3期調査区遺構検出状況                                                                    | 図版28 | 土器(1)   |
| 図版 4 | ST262                                                                                          | 図版29 | 土器(2)   |
| 図版 5 | ST287・290・237                                                                                  | 図版30 | 土器(3)   |
| 図版 6 | ST375・465・1276                                                                                 | 図版31 | 土器(4)   |
| 図版 7 | ST498・508・584                                                                                  | 図版32 | 土器(5)   |
| 図版 8 | ST1120・944・1190・970                                                                            | 図版33 | 土器(6)   |
| 図版 9 | ST729・751                                                                                      | 図版34 | 土器(7)   |
| 図版10 | SG300・SB1347                                                                                   | 図版35 | 土器(8)   |
| 図版11 | SE265・266・566・119・116・175                                                                      | 図版36 | 土器(9)   |
| 図版12 | SE19・220・55・387・319・390・358・359                                                                | 図版37 | 土器(10)  |
| 図版13 | SE392・393・403・394・467・523・385・370・435                                                          | 図版38 | 土器(11)  |
| 図版14 | SE212・52・29・860・1266・624・693                                                                   | 図版39 | 土器(12)  |
| 図版15 | SE654・804・692・613・536・587・1225・999                                                             | 図版40 | 土器(13)  |
| 図版16 | SX1024・360                                                                                     | 図版41 | 土器(14)  |
| 図版17 | SD555・9                                                                                        | 図版42 | 土器(15)  |
| 図版18 | SD33・82・41                                                                                     | 図版43 | 土器(16)  |
| 図版19 | SK20・21・1239・122・186・295・502・1390・522                                                          | 図版44 | 土器(17)  |
| 図版20 | SK37・56・787~789・790・1296・1228                                                                  | 図版45 | 土器(18)  |
| 図版21 | SK695                                                                                          | 図版46 | 土器(19)  |
| 図版22 | SK604・602・696・697・699・648・1053・1055・1054                                                       | 図版47 | 陶磁器(1)  |
| 図版23 | SK909                                                                                          | 図版48 | 陶磁器(2)  |
| 図版24 | SK941・906・1183                                                                                 | 図版49 | 陶磁器(3)  |
| 図版25 | SK954・955・507・552・925・904・987                                                                  | 図版50 | 陶磁器(4)  |
|      |                                                                                                | 図版51 | 陶磁器(5)  |
|      |                                                                                                | 図版52 | 陶磁器(6)  |
|      |                                                                                                | 図版53 | 陶磁器(7)  |
|      |                                                                                                | 図版54 | 陶磁器(8)  |
|      |                                                                                                | 図版55 | 陶磁器(9)  |
|      |                                                                                                | 図版56 | 陶磁器(10) |
|      |                                                                                                | 図版57 | 陶磁器(11) |
|      |                                                                                                | 図版58 | 陶磁器(12) |
|      |                                                                                                | 図版59 | 陶磁器(13) |

図版60 陶磁器(14)  
図版61 陶磁器(15)  
図版62 陶磁器(16)  
図版63 陶磁器(17)  
図版64 陶磁器(18)  
図版65 陶磁器(19)  
図版66 陶磁器(20)  
図版67 陶磁器(21)  
図版68 陶磁器他  
図版69 陶磁器(22)  
図版70 陶磁器(23)  
図版71 陶磁器(24)  
図版72 ガラス製品  
図版73 土製品(1)  
図版74 土製品(2)

図版75 土製品(3)  
図版76 土製品(4)  
図版77 石製品(1)  
図版78 石製品(2)  
図版79 石製品(3)  
図版80 石製品(4)  
図版81 石製品(5)  
図版82 石製品(6)  
図版83 石製品(7)  
図版84 石製品(8)  
図版85 石製品(9)  
図版86 石製品(10)・金属製品(1)  
図版87 金属製品(2)  
図版88 金属製品(3)



## I 調査に至る経過

JR山形駅西地区の区画整理事業は、平成7年度に基本計画が策定され、翌年から事業提案競技実施、事業計画調整、基本協定の締結、基本・実施設計を経て、平成10年度から工事が具体化することになった。計画では、山形駅西口に隣接する駅前広場を取り囲むように、高層ビルおよび多目的広場からなるAブロック、商業・業務・レクリエーションゾーンとなるBブロック、業務ゾーンとなるCブロック、総合文化センター（仮称）のDブロックの4つのメインブロックに区画される。その中で中核をになう施設がAブロックに建設が予定されている山形駅西口新都心ビル（仮称）である。ビルは、建築面積約9,400㎡、延床面積約69,800㎡、地下2階、地上24階、高さ116.5mの規模で、平成13年1月のオープンに向けて施工計画がすすめられることになった。

山形県教育委員会では、この高層ビルが建設される予定地について、埋蔵文化財が存在するかどうかを明らかにすることを目的として、平成9年8月26・27日の両日に試掘調査を実施した。調査は現況である駐車場内外の空き地に、長さ2m～10m、幅0.7mのトレンチを9箇所を設定して地山までの掘り下げをおこなった。そのうち4箇所のトレンチから溝跡、土坑、柱穴等の遺構が検出され、6箇所のトレンチから須恵器、土師器、中世および近世陶磁器等の遺物が出土し、事業地区内に遺跡の存在が確認され、城南一丁目遺跡として登録された。山形県教育委員会は、この結果を平成9年9月2日付けで関係機関に報告、事業主体である山形県土木部都市計画課都市整備推進室、山形市都市開発部新都心拠点整備課、ビルの建設工事にあたる大成建設株式会社、山形市教育委員会等の関係機関と遺跡の取り扱いについて協議をおこない、事業の計画変更が不可能である以上、破壊を受ける区域について緊急発掘調査による記録保存を実施することで合意した。

山形県教育委員会はさらに、上記調査で存在が明らかとなった遺跡の発掘調査歩掛かり積算のためのデータ収集を目的に予備調査を平成9年11月17日から28日にかけて実施している。調査は、経費を事業主体である山形市が負担し、山形市教育委員会と協同ですすめられた。事業区域に10m×5mのトレンチを12箇所、合計600㎡設定し、地山面までの掘り下げをおこない遺構の分布状況を把握するとともに、手掘り土量の総量を把握するため遺構の一部掘り下げもおこなっている。調査区のほぼ全域にわたって、地表面下1m前後まで産業廃棄物を含む整地層があり、一部はそれ以下までかく乱を受けるが、地山付近での遺構の遺存状況は概ね良好で12箇所中11箇所のトレンチで多数の遺構、遺物が検出された。

調査結果は平成10年3月17日付けで関係機関に報告、さらに調整が重ねられ、平成10年3月20日付けで山形県土木部長より、財団法人山形県埋蔵文化財センター理事長あてに発掘調査依頼が提出された。これを受けて山形県埋蔵文化財センターでは3月26日付けで回答を提出、4月1日付けで城南一丁目遺跡発掘調査に関する委託契約を締結した。

### 引用参考文献

山形県教育委員会（1998）「分布調査報告書（25）」山形県埋蔵文化財調査報告書第199集

## II 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

山形県の県都である山形市は、県域の東部中央やや南寄りに位置する。面積381.34km<sup>2</sup>、東は標高1,841mの蔵王熊野岳をはじめとして1,000m級の山が連なる奥羽山脈によって宮城県と境を接し、西は同じく奥羽山脈から北に張り出した標高994mの白鷹山を主峰とする丘陵に挟まれた盆地である。こうした地形の特徴は、夏のフェーン現象による高温や冬の降雪など、年間をとおして変化に富んだ気候を生み出す。また低地部は、これらの山々を源とする立谷川、馬見ヶ崎川、須川など多くの中小河川が流れ込み、複合扇状地を形成している。こうした環境は、水稲やさくらんぼ、りんご、ぶどうなどの果樹栽培に好適な条件を提供している。

山形市街地は、蔵王山系に源流をもつ馬見ヶ崎川によって形成された半径約5kmの扇状地上に広がる。扇端部は、史跡「山形城」跡（霞城公園）付近を南北に走る湧泉帯と一応考えられているが、その西に扇状地前縁部ともいべき漸移帯が広がる。現在の馬見ヶ崎川の河道は江戸時代の初期に固定されたものであるが、過去には扇状地面上を放射状に変遷した。

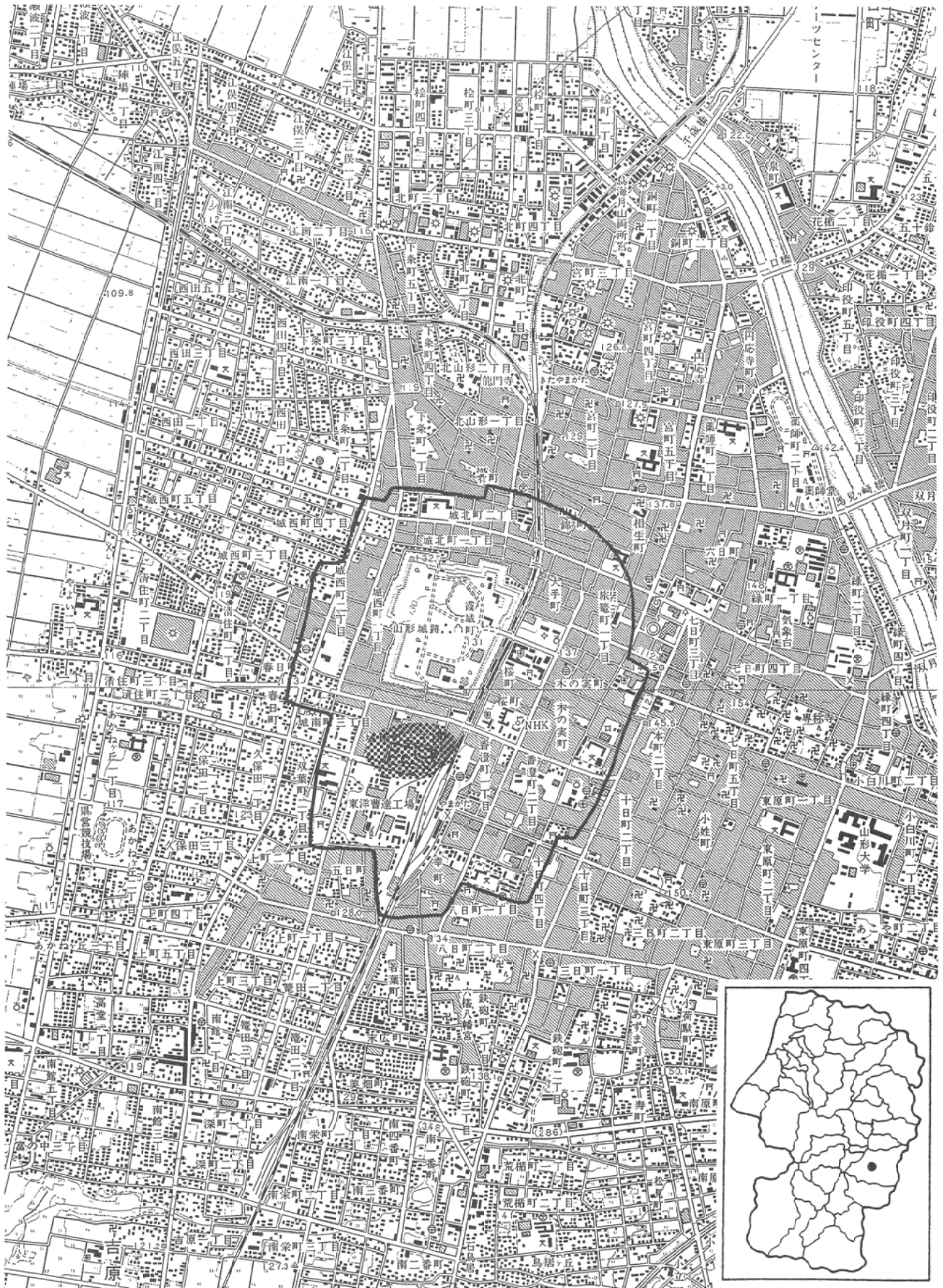
城南一丁目遺跡は、山形県山形市城南一丁目地内に所在する。山形市街地のほぼ中央、JR山形駅の西口に隣接し、史跡「山形城」跡から南に約500mの位置にある。立地は、上記に従えば馬見ヶ崎川扇状地の扇端部から漸移帯に移行するあたりとなる。遺跡は東西450m、南北250mの規模をもつ。標高131m前後を測り、現況は宅地・駐車場となっている。

### 2 歴史的環境

地理的環境で述べた城南一丁目遺跡周辺の立地は、豊富な伏流水と水はけのよい土地をもたらし、古くから人間の生活の場に適していたと考えられる。付近には縄文時代から奈良・平安時代の遺跡が数多く点在する。

現在この地は山形市街地の中心部に位置しているが、その礎となったのが山形城の築城であろう。山形城を築いたのは、延文元年（1356）に入部した斯波兼頼といわれるが、最盛期は16世紀末に最上義光によって二の丸と三の丸が整備された時期と思われる。その規模は、本丸が東西一丁十九間一尺（約144m）、南北一丁十三間（約133m）、二の丸が東西四丁三間（約433m）、南北四丁二十一間（約474m）、三の丸が、東西十四丁五十間二尺（約1,617m）、南北十四丁十五間（約1,553m）である。第1図は城南一丁目遺跡と山形城三の丸の範囲推定図である。この時点で城南一丁目遺跡は、三の丸の南側に吸収される。義光時代の城下を描いた絵図では正確な位置の特定はできないものの、調査区内には家臣団の屋敷が並んでいたようである。元和8年（1622）に最上家が改易されると、鳥居忠政が入部し二の丸の改築がおこなわれたが、この時期からしばらく城南一丁目遺跡付近は農用地として利用されたようである。調査区内の遺構・遺物の出土状況からも人間活動の停滞した状況がうかがわれた。

明治31年（1898）に陸軍の歩兵第32連隊が本丸跡を中心に設置され、遺跡付近は練兵場となった。太平洋戦争終結後は、工場や保線区、電力区等の国鉄施設、駐車場へと目まぐるしく土地利用が変化し現在に至っている。



第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

### Ⅲ 調査の経過

城南一丁目遺跡の緊急発掘調査は、山形駅西口新都心ビル（仮称）建設用地内8,890㎡を対象に実施された。調査の手順は、概ね重機による表土剥ぎ取り、面整理、遺構検出、遺構半截、遺構完掘の順に実施し、その間に断面図・平面図の作成、写真撮影等の記録作業を逐次おこなった（図版2）。また、調査は建設工事との兼ね合いから調査区を第1期から第3期の3つに分け、調査区ごとに終了後順次引き渡しをおこなった。なお第3期調査区は、山形停車場西口線現道および公共地下道前の駐輪場となっているため、仮設道路完成後の調査着手となった。グリッドは、調査区北の区道のセンター杭No.3とNo.10を結ぶ線をX軸の基準線とし、No.3の杭をB-0として設定した（第2図）。現地調査は平成10年4月6日から8月12日までの86日間実施した。以下に現地調査の経過を略記する。

4月8日

現場事務所に器材を搬入する。午後2時より山形県土木部、同教育庁文化財課、大成建設株式会社等関係機関と発掘作業員出席のもと、調査の安全を祈願する歛入式をおこなう。第1期・第2期調査区の表土剥ぎ取り作業は調査開始に先行して実施され、8日までに全体の約5割を終了する。

4月9日～4月21日

第1期・第2期調査区の重機による調査区の表土剥ぎ取り作業を17日で完了する。9日より表土剥ぎ取りが終了している西縁から第1回目の面整理作業にはいり、10日までに終了する。また、10日から2回目の面整理作業および遺構検出作業を開始し、21日に終了した。

4月22日

委託業務による遺構検出状況の空中写真測量を実施する。

4月23日～6月27日

第1期調査区の遺構精査および完掘。遺構精査は、調査区南西部分のA～F-8・9区から始め、北に向かって精査区域を拡張した。SD555溝跡以西について、竪穴住居跡等の一部遺構を除いて5月29日までに終了する。残土仮置場所確保のためG・H-1・2区を5月29日に精査し、6月2日に完掘した。6月2日より東半部分の遺構精査を開始した。6月17・18日に公共地下道の撤去・移設に伴い、G～L-5・6区およびF-7・8区を重機により拡張し、遺構精査を実施する。それらを含め、6月27日までに第1期調査区の調査をほぼ終了した。

6月28日

午前11時より調査説明会を開催する。好天に恵まれた日曜日ということもあり、119名の見学者があった。

6月30日

委託業務による第1期調査区の遺構完掘状況の空中写真測量を実施する。

7月1日～7月9日

1日より第2期調査区の遺構精査を開始する。第1期調査区内の地下ケーブル埋設部分につい



て、ケーブルの移設完了に伴い、2日よりE・F-6・7について重機による表土剥ぎ取りを開始した。3日より遺構精査をおこない、6日までに完掘、7日朝に工事側に引き渡した。また、公共地下道西の駐輪場部分F・G-6～8区は、6日に表土剥ぎ取りを実施、7日に面整理、遺構検出、8日に遺構精査、記録、9日の記録終了後に引き渡しをおこない、第1期調査区について全ての調査を終了した。

7月10日～7月23日

第2期調査区の遺構精査を継続。この間、15日に文教公安委員会の発掘調査現場視察、23日に新都心ビル建設の起工式がおこなわれた。

7月24日～8月4日

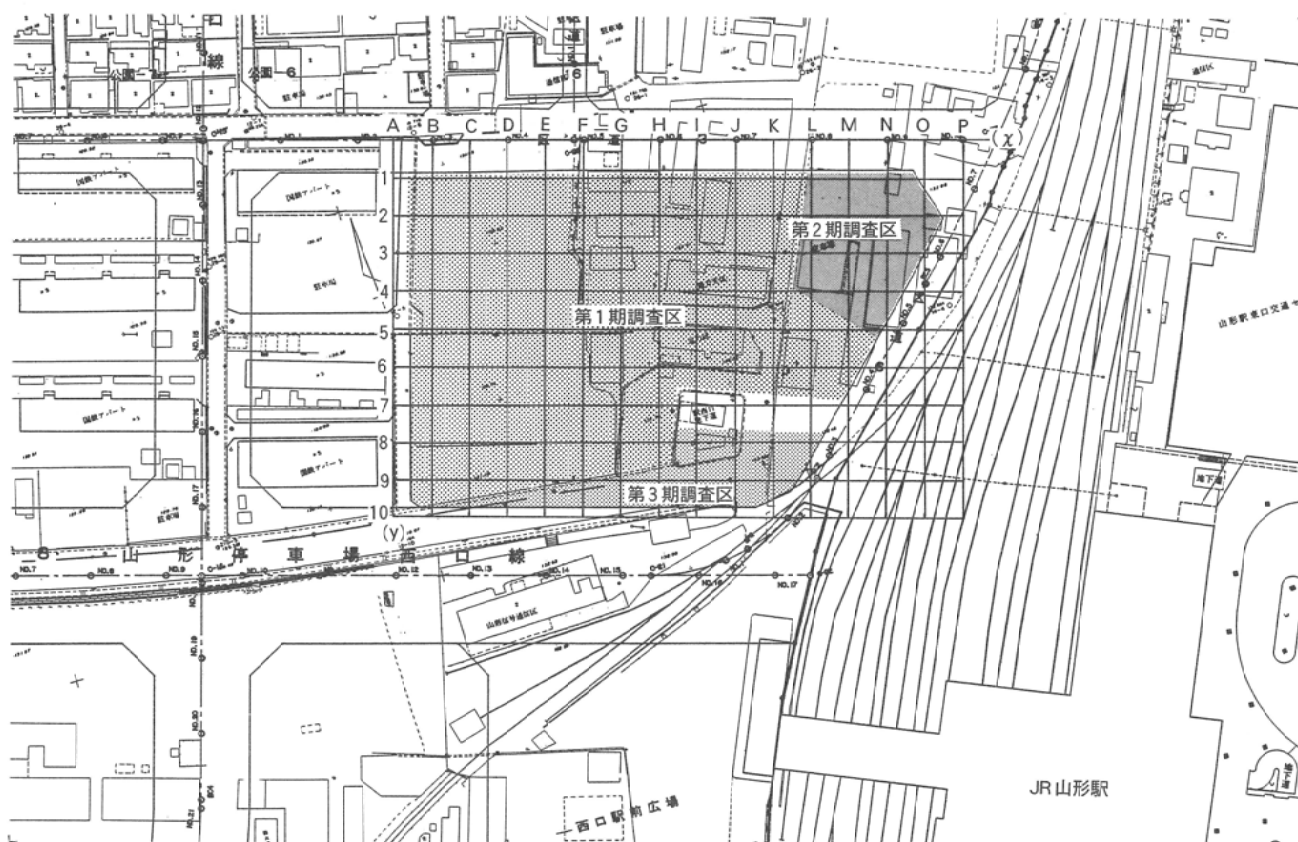
第2期調査区・第3期調査区の遺構精査および完掘。第3期調査区では、24日に調査区の東半にあたるF～J-8・9区について表土剥ぎ取り作業、27日に遺構検出、28日から遺構精査をおこない、31日までに完掘した。西半のA～E-9区は、29日に表土剥ぎ取り作業、8月3日に遺構検出を終了し、4日までに完掘した。

8月5日～8月11日

委託業務による第2期調査区・第3期調査区の遺構完掘状況の空中写真測量の実施後、関係機関立会いのもと現地引き渡しをおこなう。

8月12日

器材撤収。



第2図 調査区概要図 (S=1:2,000)

## IV 遺跡の概要

### 1 基本層序

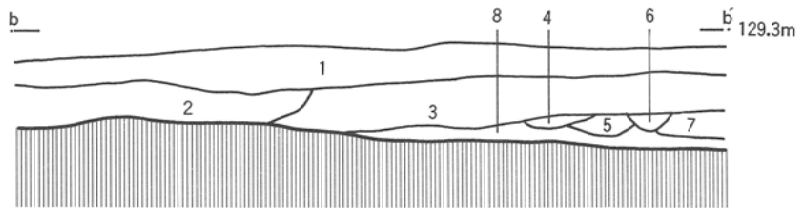
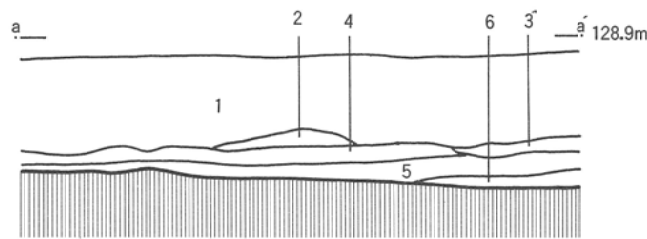
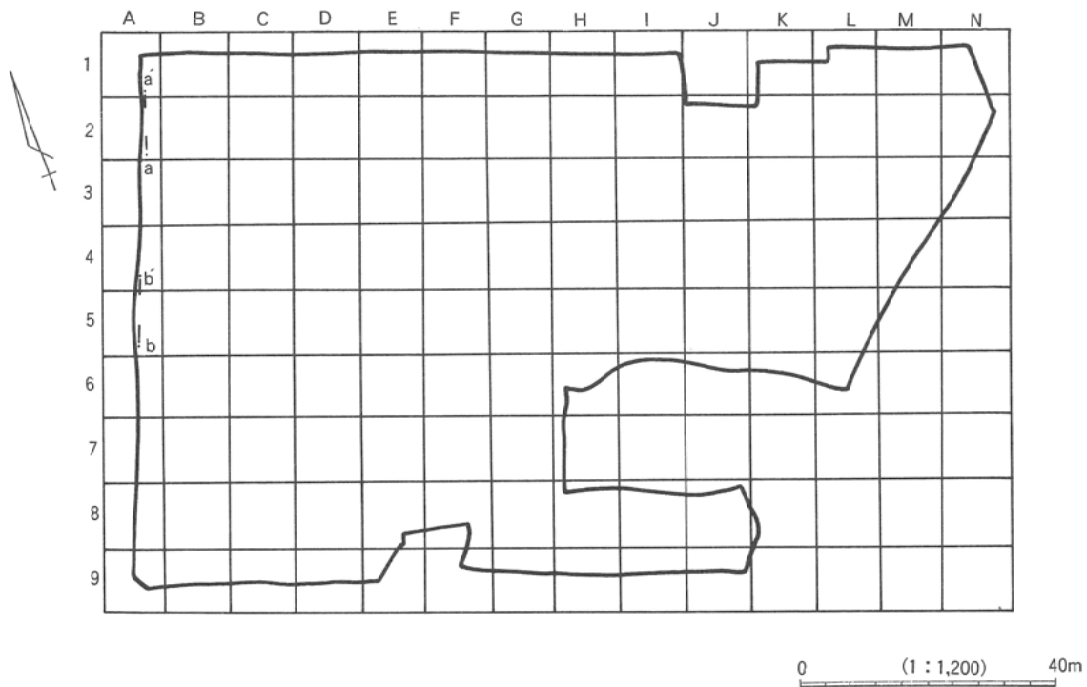
調査区内の地表面は、整地が頻繁におこなわれた結果、自然堆積の原形を全くとどめていない。標高をみると、東端付近で132.5m前後、中央で約132.0m、西端付近で130.8m前後を測り、概ね東から西に約1.7mの比高差をもって低くなっているが、南北方向には明確な傾向は指摘できない。同様に遺構確認面の標高をみると、東縁辺部で131.5m前後、南西角で130.1m、北西角で129.5mであり、東から西へ、特に北西方向に低くなる。遺構確認面までの深さは1～1.5mであった。

第3図は、調査区西壁2箇所を表土から遺構確認面までの堆積状況である。表土層は50cm前後の厚さで堆積しているところが多い。若干砂質を帯びる黒褐色土であるが、コンクリート塊、鉄管等の産業廃棄物を多く含む。国鉄施設撤収後の整地にかかわる盛土と考えられる。表土層以下はブロック状あるいは斑状に黄褐色土が多量に混入する盛土層である。堆積状況は土色、土質ともに地点によりかなり変化する。これは練兵場または国鉄施設建設にかかわる整地層とみられるが、詳細は不明である。

第3図中のaラインの5層および6層、bラインの7層および8層にみられる黒褐色系の堆積土は、若干の砂礫、炭化物等の混入がみられるものの、ほぼ均質である。これらの層序は自然堆積とみられ、盛土以前の旧表土である可能性が高い。その分布は、調査区北西部分で安定した状態で観察され、他の区域では部分的な検出にとどまっている。こうした状況は、上記整地の際に広範囲に削平を被った結果と考えられる。

黒褐色土層以下は、黄褐色または暗黄褐色の砂質土から細砂が堆積する。一部に小礫を含み硬くしまった部分がみられるが、全般に均質である。この土層の最上面は、今回の調査での遺構確認面である。面的には調査区西半および北東部・南部に広く分布するが、土色、土質ともに安定せず、暗褐色から黒褐色の砂質土が帯状あるいは面的な広がりをもって分布しているところがみられる（図版3）。これら各土の境界は漸移的に変化することから、人為的な遺構の堆積土とは考え難い。調査を進めるにしたがって、この暗褐色や黒褐色の砂質土は、暗黄褐色砂質土の下にもぐりこんでいることがわかり、扇状地の形成過程における旧河川の堆積土であることが確認された。第21図に示したSG300はそのひとつであり、そのほかにも複数の河川跡が調査区内に存在するものとみられる。層厚は15～70cmで、それ以下は、砂礫層となる。調査区引き渡し後の工事現場のカッティングから、砂礫層の層厚は調査区西辺部で5m以上に及ぶことがわかった。

遺構確認面の土層は、調査区中央から南東のF～J-1～3区およびI～K-6区付近では粗砂が主体となり、直径10～50cmの円礫を多量に含んで川原のような状況を呈する。砂質土との境界付近では、この砂礫層が砂質土の下層にもぐりこみ、下位にある砂礫層が緩い尾根状に高く露出しているものであることが確認された。以上のように調査区内の地山は、砂質が強く水の浸透性にすぐれた特徴をもつ。



0 (1:60) 2m

基本層序 (a-a')

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. 10 YR/3/1 黒褐色土   | (表土層。)                 |
| 2. 10 YR/3/3 暗褐色土   | 黄褐色土を粒状に5%含む。          |
| 3. 10 YR/4/2 灰黄褐色砂礫 | (表土整地層。)               |
| 4. 10 YR/3/3 暗褐色土   | にふい黄褐色土を斑状に50%全体に含む。   |
| 5. 10 YR/2/1 黒色土    | 上位で礫を少量含む。炭化物を粒状に若干含む。 |
| 6. 10 YR/2/2 黒褐色土   | 均質。                    |

基本層序 (b-b')

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. 10 YR 3/1 黒褐色土   | (表土層。)                         |
| 2. 10 YR 3/2 黒褐色土   | にふい黄褐色細砂及び黒色土をブロック状に含む。礫を少量含む。 |
| 3. 10 YR 3/2 黒褐色土   | にふい黄褐色細砂をブロック状に含む。             |
| 4. 10 YR 3/3 暗褐色土   | にふい黄褐色細砂を斑状に含む。炭化物を含む。         |
| 5. 10 YR 3/3 暗褐色土   | にふい黄褐色砂質土を斑状に含む。(4層より明るい。)     |
| 6. 10 YR 3/2 黒褐色土   | にふい黄褐色細砂を斑状に含む。                |
| 7. 10 YR 3/3 暗褐色土   | 均質。                            |
| 8. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土 | 均質。                            |

第3図 調査区基本層序

## 2 遺構と遺物の分布

今回の調査で登録された遺構数は1,422基を数える。調査区内での遺構の分布は、ひとつの確認面からの検出となったため、古代から近・現代にいたる各時期の遺構が密集・重複した状況を呈する。全体的な遺構の分布は、F～J-1～3区およびI～K-6区の砂礫層が露出した部分については疎となるが、その他では非常に密である。各遺構の機能、年代等についての分析は、現地調査期間および整理期間の制約から未だに不十分であり、遺跡の性格のより具体的な把握のためにも、継続して検討すべき課題である。以下には、現段階までに知り得た各期の遺構と遺物の分布状況について述べる(付図)。

古代の遺構は、竪穴住居跡17棟、河川跡1条(SG300)の存在が確認された。竪穴住居跡は、A・B-1・2区に5棟が集中するほか、E～G-8・9区に3棟、F～I-4・5区に3棟、K～M-1～5区に6棟と、大きく4つのまとまりをもちながら、調査区の東、南、西の各縁辺に沿って分布する。各竪穴住居跡の所属時期については、いずれも9世紀代、特に9世紀前半を主体としているものと考えられ、特に集中の著しいA・B-1・2区では5棟のうち4棟が重複するが、それぞれの出土遺物には大きな時期差は認められず、比較的短期間のうちに重複したものと推測される。

河川跡は、A～H-3～9区において調査区を南東から北西に弧状に横断するように検出された。遺構の密集区域を通過しており、重複するあらゆる遺構に切られているが、竪穴住居跡とは重複していない。遺物は縄文時代から平安時代に至るものが出土しており、その中でも平安時代の土師器、須恵器が主体となる。おそらく中世にはほとんど埋没していたものと考えられる。そのほか、SD327を一縁辺とし、B-4区付近でSG300に合流する河川跡がB～D-1～4区に、またF～H-1～3区ではSG716河川跡が検出された。前者はSG300と同様に中世以前に埋没したものと考えられるが、詳細は把握し得なかった。後者は、礫層上での平面プランは捉えられたもののSD555以西は不明となる。出土遺物はなかったが、近世以前には埋没していたものと考えられる。なお、古代の遺物は、竪穴住居跡、河川跡からばかりではなく、調査区のほぼ全域、遺物が出土した多くの遺構から出土している。

中世の遺構は確実なものは検出されていない。遺物はいくつかの遺構から中世陶器の破片が散見される程度であり、その分布は非常に希薄である。

調査区内で検出された遺構は、その大半が近世以降に属するものと考えられる。17世紀前半に山形城三の丸として機能していた時期は武家屋敷であったが、その時期の屋敷割、建物跡などは、それ以後の土地利用の影響もあり判然としにくい。冒頭にも述べたように、遺物の出土状況などから近世の所産と認識し得る遺構は、現段階では少なく、今後より一層分析を進める必要がある。近現代の遺構は、練兵場関連のものとしては、塹壕とみられる溝跡がY軸Iライン以西に5条検出された。また、国鉄に関連するとみられる地下室跡や廃棄物処分のための穴はY軸Fライン以東に多く分布する。近世以降の遺物は表土から各遺構内まで調査区の全域に分布するが、江戸時代の遺物は17世紀半ば以降は一旦出土量が減少し、明治時代以後にまた増加する傾向がみられた。

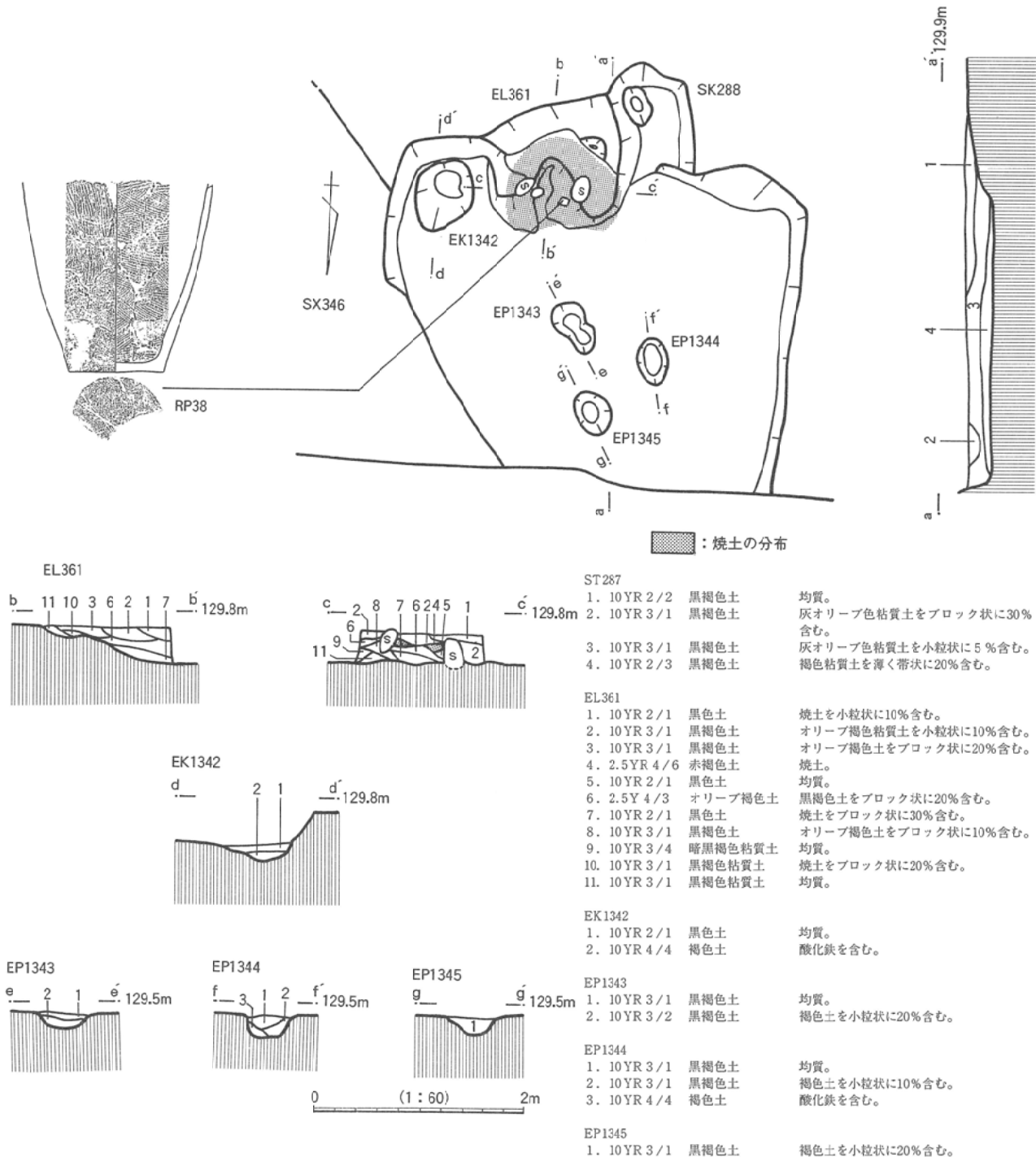
## V 検出された遺構

### 1 竪穴住居跡

古代の竪穴住居跡は17棟検出された。以下にその概要を述べる。

#### ST287 (第4図 図版5)

B-1区で検出された。東辺の大半をSX346に、また南辺の中央付近をSK288に切られ、北辺が調査区外となるが、平面形は、残存部分から一辺が4.1mの方形を呈すると考えられる。

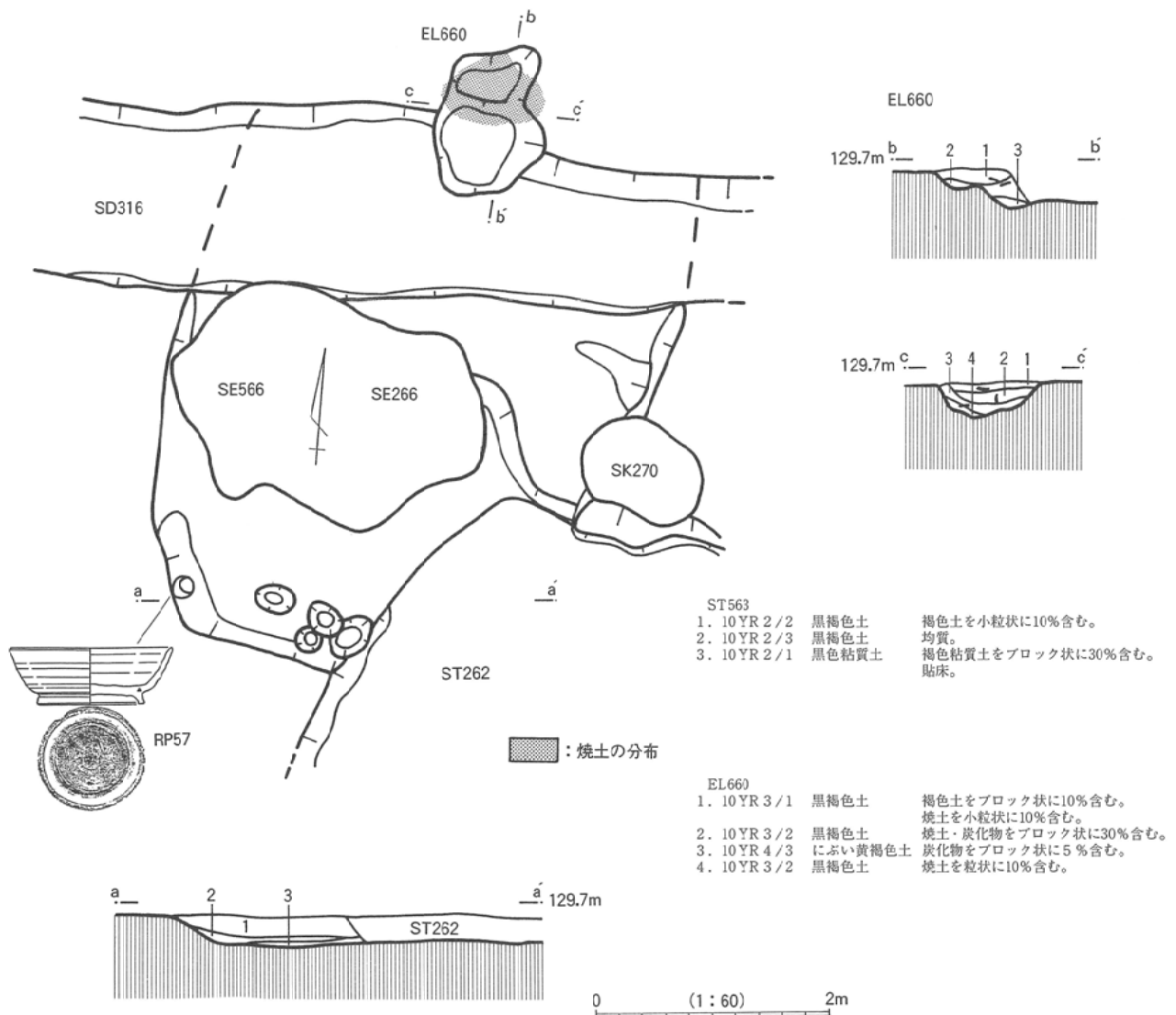


第4図 ST287

床面は平坦であり、硬くしまる。確認面からの深さは30cm前後を測る。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。床面からは3基のピットと1基の土坑が検出された。いずれも浅く、支柱穴は不明である。カマド (EL361) は南辺やや東寄りで見出された。焚口から袖にかけて比較的良好に遺存していたが、煙道は見出されなかった。出土した遺物を第59図・60図に示した。供膳形態では切り離しが回転籠切りとなる須恵器、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕または筵痕を有する土師器が主体となり、若干の赤焼土器が伴う。

ST563 (第5図 図版5)

A・B-1・2区で見出された。北半をSD316、中央をSE566・SE266、南東辺をST262およびSK270にそれぞれ切られる。また西辺でST290と接するが、切り合いの関係は不明確である。残存している部分のごく限られているものの、規模および平面形は東西4.1m、南北4.9mの不整長方形を呈するものと考えられる。確認面から床面までの深さは約25cmを測る。貼床が残る部分は平坦で硬くしまる。壁の立上がりは緩やかである。柱穴は見出されなかった。

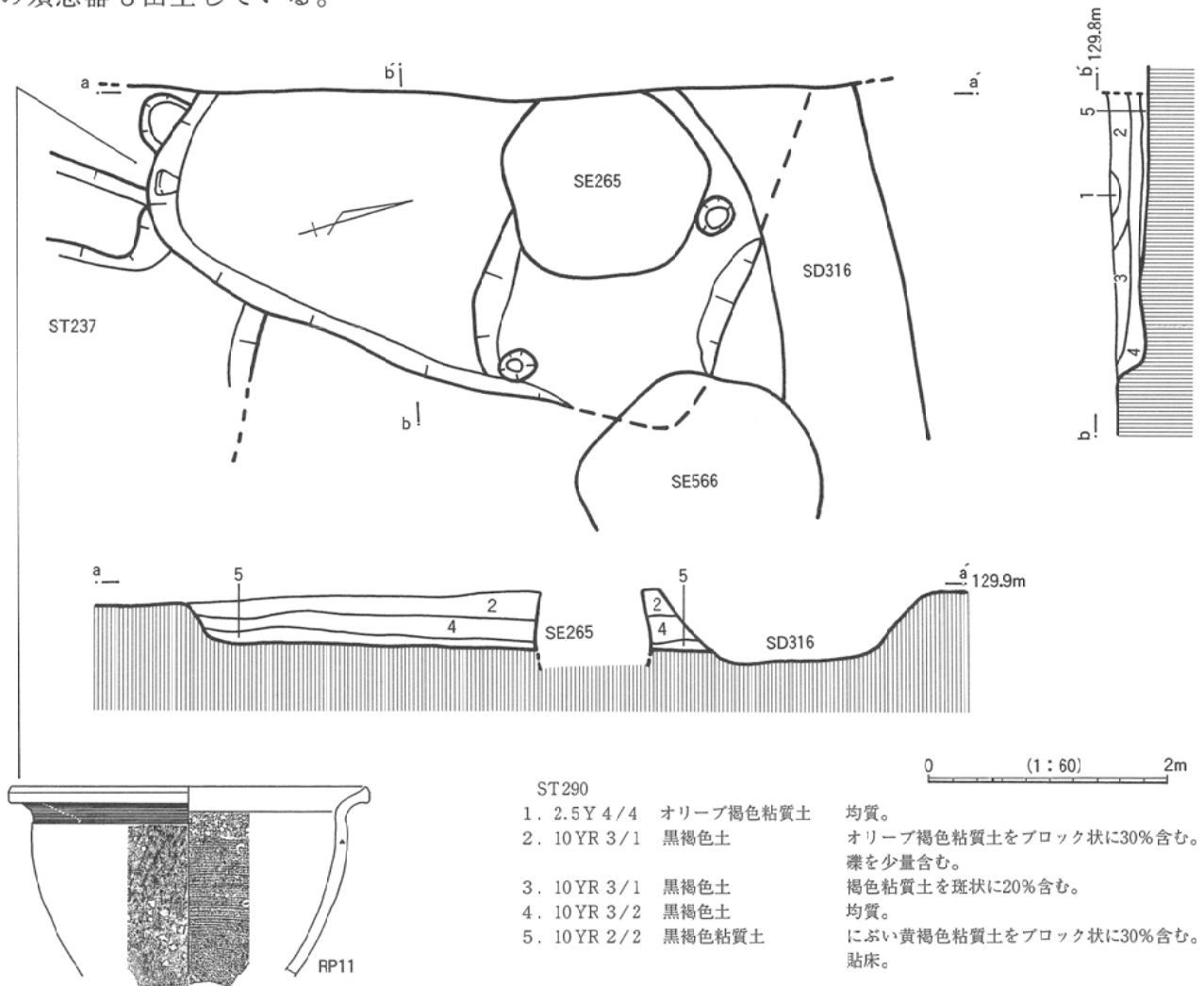


第5図 ST563

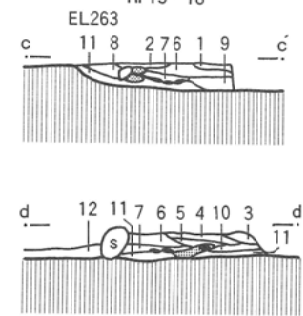
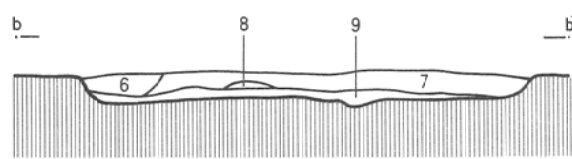
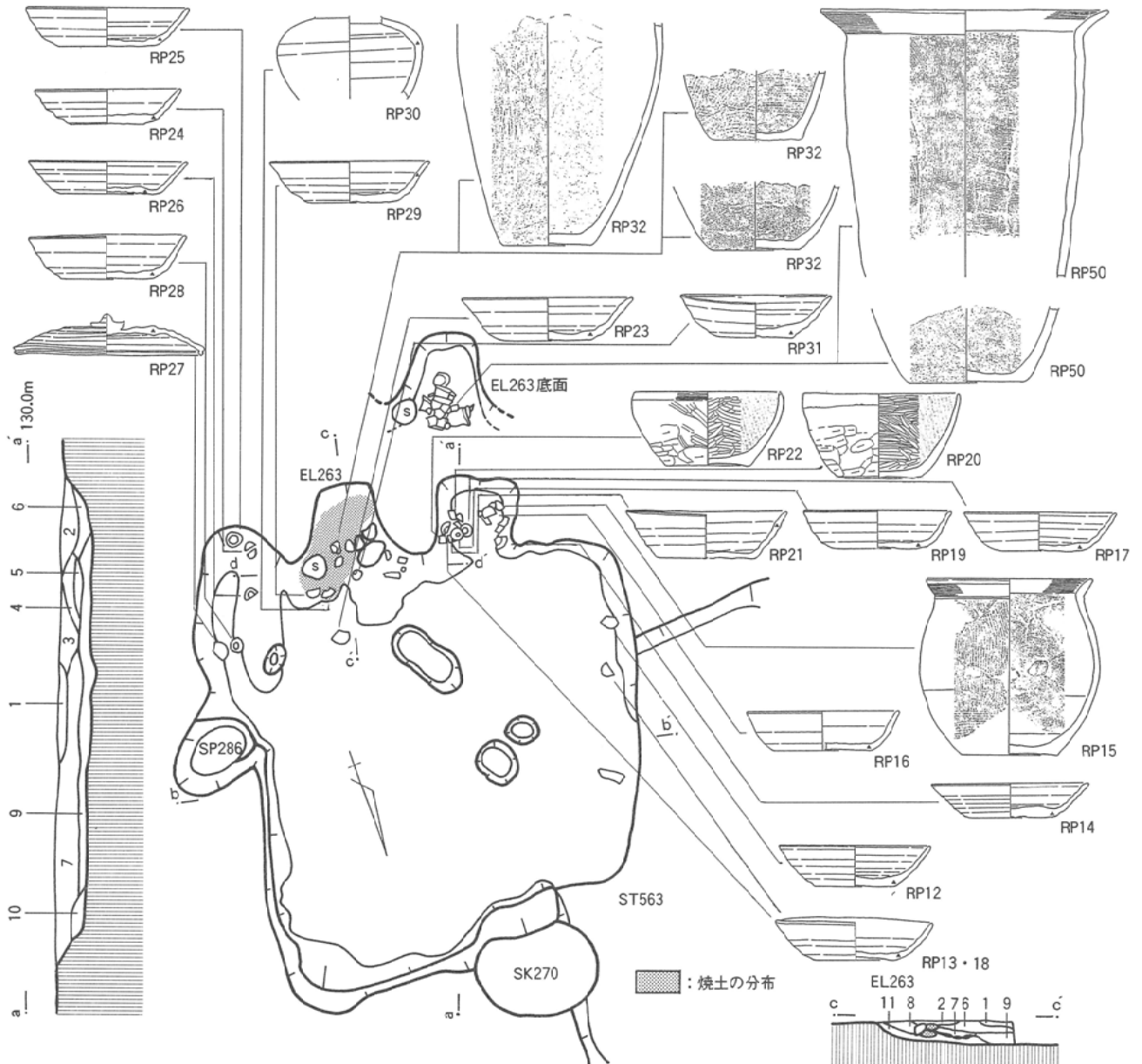
カマド (EL660) は北辺中央で検出された。SD316によって大半が破壊されるが、北端部分に焼土および掘込みが残る。また、北に突出した部分は、煙道の一部と考えられる。出土遺物は第61図に示した。量的には少ないが、供膳形態では切り離しが回転篋切りとなる須恵器、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕を有する土師器が主体となり、若干の赤焼土器が伴う。

ST290 (第6図 図版5)

A-2区で検出された。西半が調査区外となり、北辺をSD316ならびにSE566に切られ、中央北寄りをSE265に切られる。また南東角でST237と重複するが、これを切っている。規模および平面形は、一辺が4.9mの方形を呈すると考えられる。確認面から床面までの深さは約40cmを測る。床面では貼床が明瞭に検出され、平坦で硬くしまる。壁の立上がりは緩やかである。屋内の施設は検出されなかった。出土遺物は第62図に示した。供膳形態では、切り離しが回転篋切りまたは径の比較的大きな回転糸切りとなる須恵器に、内面黒色処理を施した土師器が伴い、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕を有する土師器が主体となる。また、貯蔵形態の須恵器も出土している。



第6図 ST290



0 (1:60) 2m

- ST262
1. 10YR 3/4 暗褐色土
  2. 10YR 2/2 黒褐色土
  3. 10YR 2/2 黒褐色土
  4. 10YR 3/2 黒褐色土
  5. 10YR 2/2 黒褐色土
  6. 10YR 2/2 黒褐色土
  7. 10YR 2/3 黒褐色土
  8. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土
  9. 10YR 2/2 黒褐色土
  10. 10YR 2/2 黒褐色土

- 黒褐色土をブロック状に20%含む。礫を少量含む。  
 褐色土をブロック状に20%含む。  
 褐色土を小粒状に10%含む。細砂を少量含む。  
 均質。  
 焼土をブロック状に20%含む。  
 オリーブ褐色土をブロック状に20%含む。  
 褐色土を斑状に20%含む。  
 均質。  
 褐色粘質土をブロック状に30%含む。  
 均質。

- EL263
1. 10YR 3/1 黒褐色土
  2. 10YR 3/1 黒褐色土
  3. 10YR 3/2 黒褐色土
  4. 10YR 3/1 黒褐色土
  5. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  6. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  7. 2.5YR 3/6 暗赤褐色土
  8. 10YR 3/3 暗褐色粘質土
  9. 10YR 3/2 黒褐色土
  10. 10YR 3/3 暗褐色土
  11. 10YR 4/4 褐色砂質土
  12. 10YR 3/4 暗褐色粘質土

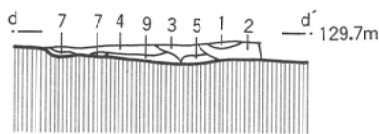
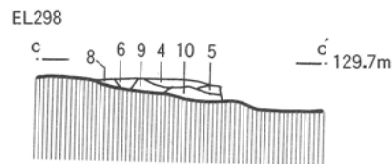
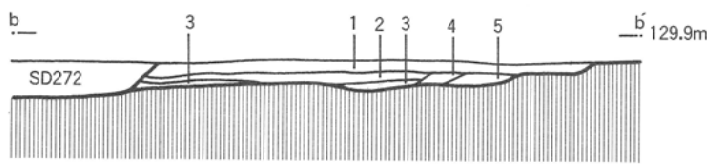
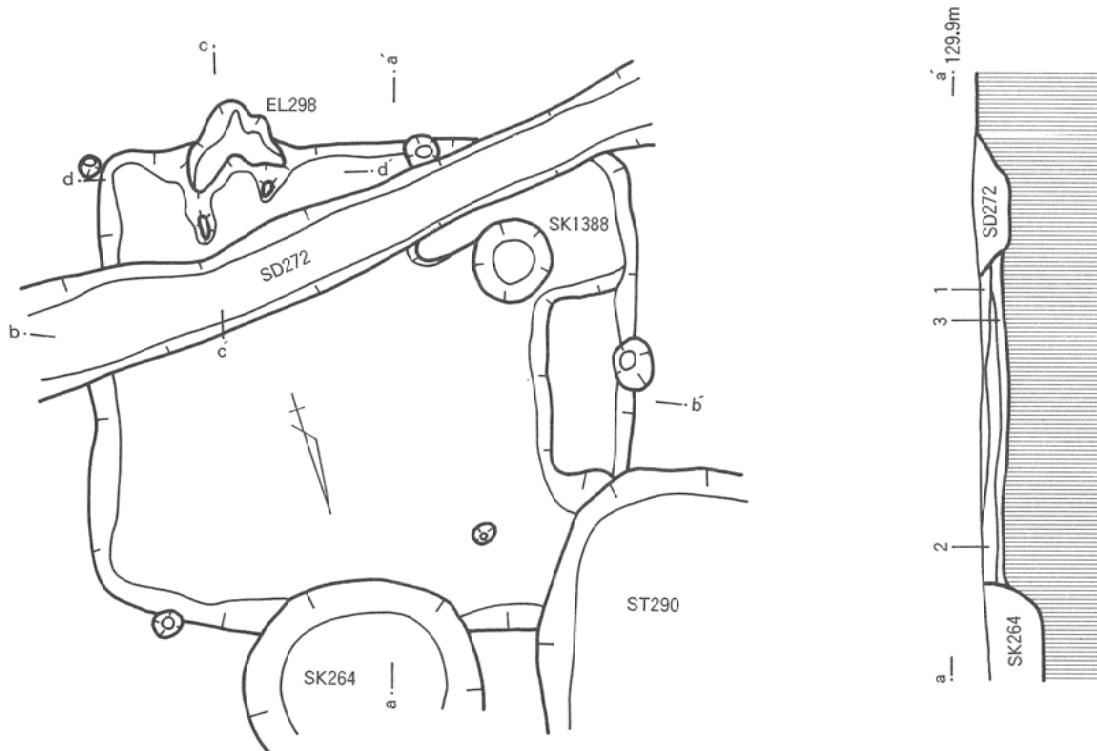
- オリーブ色粘質土を粒状に10%含む。  
 焼土・炭化物をブロック状に20%含む。  
 オリーブ色粘質土をブロック状に20%含む。  
 均質。  
 焼土を粒状に20%含む。  
 焼土・炭化物をブロック状に20%含む。  
 オリーブ色粘質土を斑状に10%含む。  
 炭化物をブロック状に20%含む。  
 焼土・炭化物をブロック状に30%含む。  
 焼土をブロック状に10%含む。  
 オリーブ色粘質土を小粒状に20%含む。  
 焼土をブロック状に10%含む。  
 暗褐色粘質土をブロック状に20%含む。  
 炭化物を小粒状に5%含む。  
 焼土・炭化物をブロック状に10%含む。

第7図 ST262



ST262 (第7図 図版4)

B-2区で検出された。北西部分でST563と重複し、これを切っている。また、北辺の一部をSK270に切られる。規模および平面形は、一辺が4.0mの不整形形を呈する。確認面から床面までの深さは約30cmを測る。床面は硬くしまるが、若干の起伏がある。貼床は床面のほぼ全域から検出された。壁の立上りは緩やかである。柱穴は検出されなかった。カマド (EL263) は南



0 (1:60) 2m

ST237

1. 10YR 3/2 黒褐色土
2. 10YR 3/2 黒褐色土
3. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
4. 5 Y 4/2 灰オリーブ粘質土
5. 10YR 3/2 黒褐色土

EL298

1. 10YR 3/1 黒褐色土
2. 10YR 3/2 黒褐色土
3. 10YR 3/1 黒褐色土
4. 10YR 3/1 黒褐色土

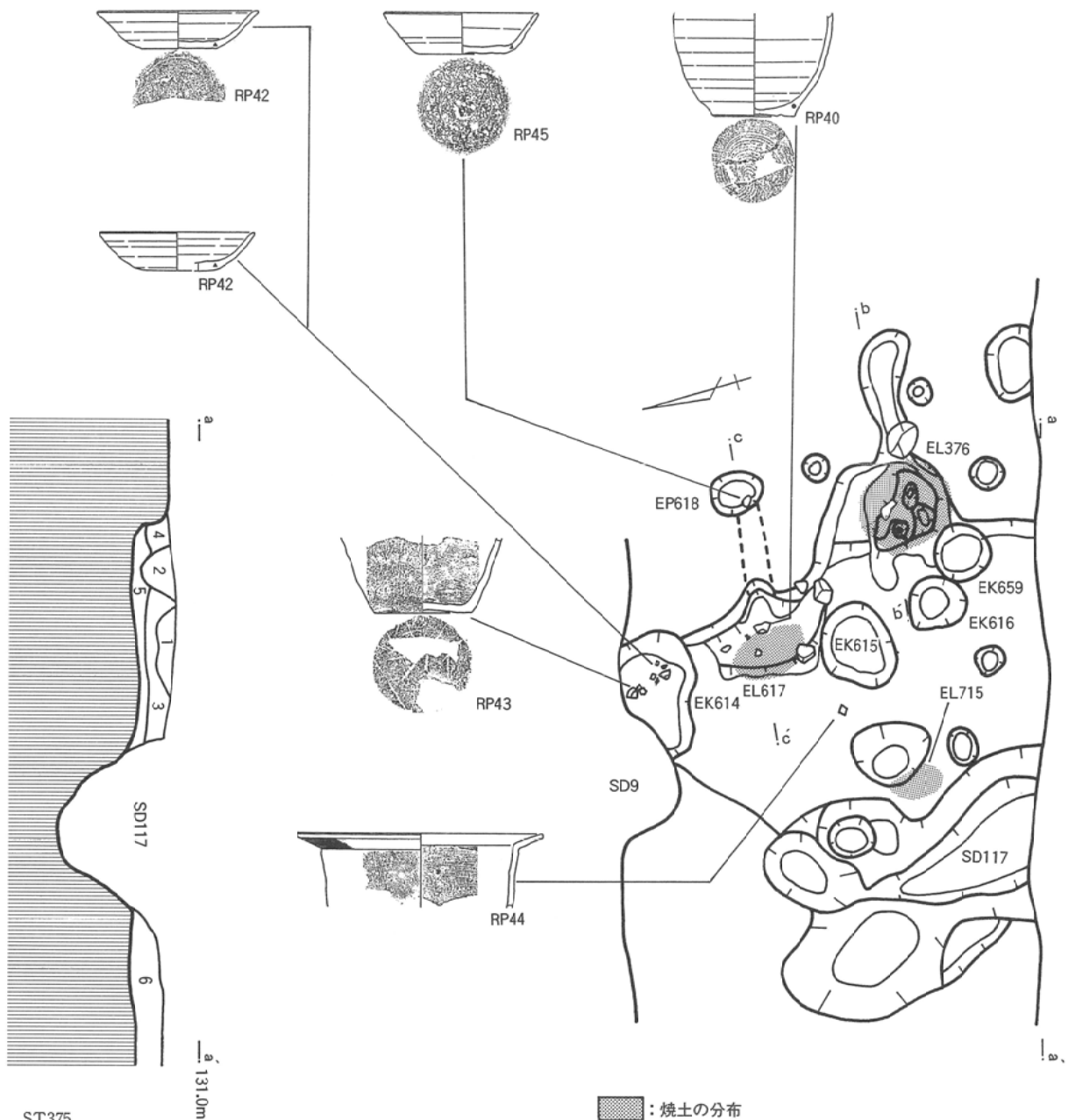
5. 10YR 3/1 黒褐色土
6. 10YR 3/2 黒褐色土
7. 10YR 3/1 黒褐色土
8. 10YR 3/2 黒褐色粘質土
9. 10YR 4/4 褐色土
10. 10YR 3/1 黒褐色土

礫を多量に含む。  
褐色粘質土を斑状に20%含む。  
褐色粘質土をブロック状に20%含む。  
均質。  
褐色粘質土を斑状に30%含む。

均質。  
均質。  
オリーブ色粘質土を斑状に20%含む。  
焼土を小粒状に10%含む。オリーブ色粘質土を小粒状に10%含む。  
オリーブ色粘質土を斑状に30%含む。  
均質。  
焼土を小粒状に20%含む。  
褐色土を小粒状に10%含む。  
オリーブ色粘質土を斑状に30%含む。  
均質。  
焼土・炭化物を小斑状に20%含む。  
焼土・炭化物をブロック状に20%含む。  
オリーブ色粘質土を小粒状に10%含む。

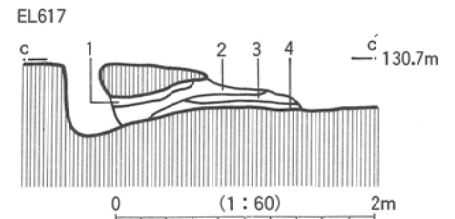
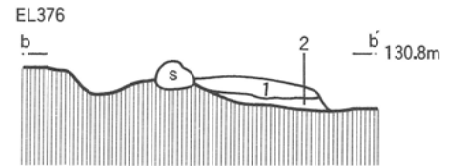
第8図 ST237

検出された遺構



- ST375
- |                      |                                     |
|----------------------|-------------------------------------|
| 1. 10 YR 6/4 におい黄橙色土 | 褐灰色土を斑状に20%含む。礫を一部含む。               |
| 2. 10 YR 3/2 黒褐色土    | 炭化物をブロック状に5%含む。                     |
| 3. 10 YR 2/1 黒色土     | わずかに砂質を帯びる。下位で焼土を小粒状に5%含む。          |
| 4. 10 YR 3/1 黒褐色土    | 焼土をブロック状に20%含む。                     |
| 5. 10 YR 3/4 暗褐色粘質土  | 黒褐色土をブロック状に40%含む。                   |
| 6. 10 YR 3/1 黒褐色土    | 焼土・炭化物をブロック状に5%含む。におい黄褐色土を斑状に30%含む。 |
- EL376
- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 7.5 YR 4/4 褐色土 | 焼土をブロック状に30%含む。            |
| 2. 10 YR 3/2 黒褐色土 | 焼土をブロック状に20%含む。下位で遺物を包含する。 |
- EL617
- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 7.5 YR 4/4 褐色土 | 焼土をブロック状に30%含む。         |
| 2. 10 YR 3/2 黒褐色土 | 焼土をブロック状に20%含む。         |
| 3. 10 YR 3/2 黒褐色土 | 焼土を斑状に40%含む。遺物を大量に包含する。 |
| 4. 10 YR 3/3 暗褐色土 | 黒褐色土を小斑状に20%含む。         |

■ : 焼土の分布

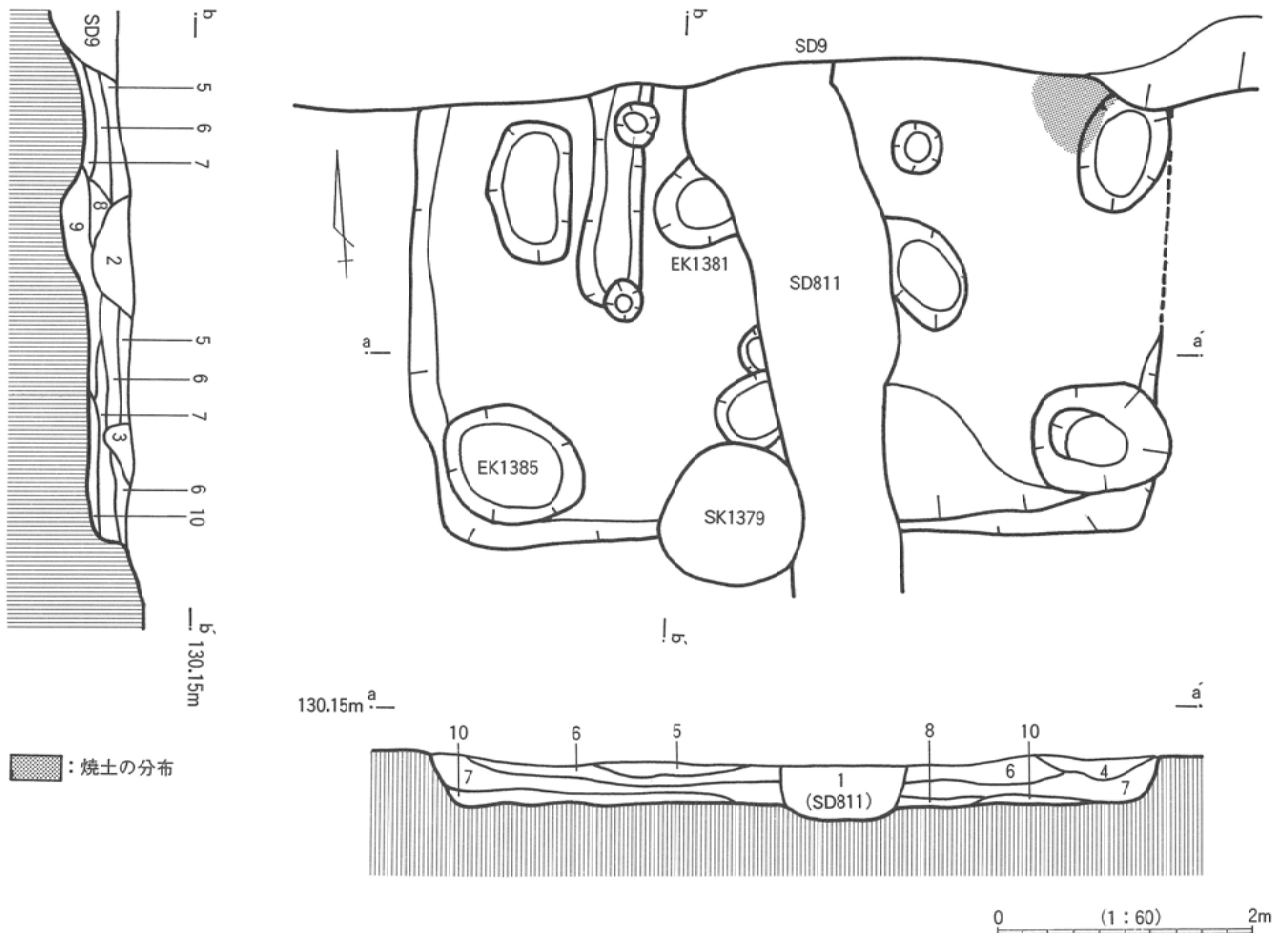


第9図 ST375

辺東寄りに検出された。カマド本体は、住居跡の南辺から約70cm突出している。袖は径25cm程の礫が両側から検出され、更に角礫によって補強される。煙道は判然としない。出土遺物は第63～66図に示した。各竪穴住居跡の中で、もっともまとまって遺物が出土している。分布は南半に集中し、特にEL263およびそれと並んで南辺から張り出すEP284から多く出土した。器種組成の傾向はST290に類似する。

ST237 (第8図 図版5)

A・B-2区で検出された。南半をSD272およびSK1388に切られ、北辺中央をSK264に切られている。また北西角をST290に切られている。規模および平面形は、東西4.25m南北3.9mの方形を呈する。確認面から床面までの深さは18cm前後である。貼床は中央から北東部分にかけて顕著であり、硬くしまるが、若干の起伏が認められる。壁の立上がりは緩やかである。柱穴は検出されなかった。カマド(EL298)は南辺東寄りで見出された。焚口から袖にかけて比較的良好に遺存するが、焼土は顕著ではない。出土遺物は第67図に示した。遺物の出土数量では、



ST465			
1.	10YR 2/3	黒褐色土	やや砂質を帯びる。褐色土をブロック状に20%含む。SD811堆積土。
2.	10YR 3/2	黒褐色土	明黄褐色土を斑状に30%含む。炭化物を小粒状に5%含む。
3.	10YR 2/3	黒褐色土	黒色土を粒状に20%含む。
4.	10YR 3/1	黒褐色土	均質。
5.	10YR 3/1	黒褐色土	にぶい黄橙色土を小斑状に20%含む。
6.	10YR 6/4	にぶい黄橙色土	黒褐色土をブロック状に20%含む。
7.	10YR 3/2	黒褐色粘質土	均質。
8.	10YR 3/3	暗褐色粘質土	焼土を中粒状に20%含む。
9.	10YR 2/3	黒褐色粘質土	暗褐色土を斑状に20%含む。中に炭化物をブロック状に10%含む。
10.	10YR 2/2	黒褐色粘質土	暗褐色土をブロック状に40%含む。下に炭化物をブロック状に10%含む。

第10図 ST465

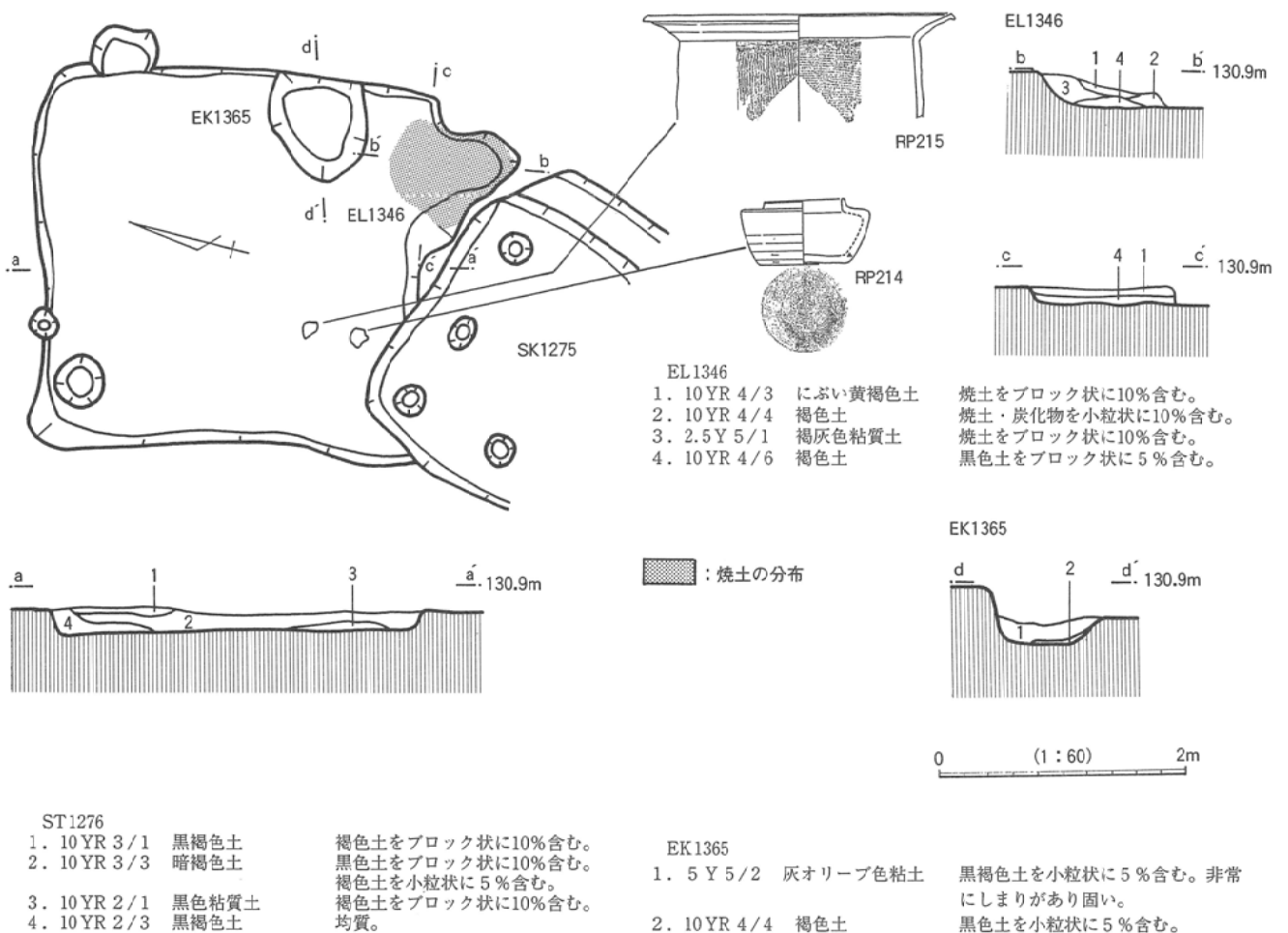
特に煮沸形態の出土量が少ない。供膳形態では、双耳坏および高台付坏の出土が目立ち、また、貯蔵形態の須恵器の破片が若干出土している。

ST375 (第9図 図版6)

調査区南辺中央、E・F-8区で検出された。南半が調査区外、北辺をSD9、西半をSD117に切られるため、平面形、規模は不明確である。壁は、東辺部分にのみ遺存し、立上がりは急である。床面は全般に不明瞭で、貼床は検出されなかった。柱穴は不明であるが、カマドは東辺に2基検出され(EL617・376)たほか、中央付近から地床炉とみられる施設(EL715)が検出された。また、東半部分から本住居跡に伴うとみられる土坑が4基検出されている。カマドは2基ともに袖および煙道の遺存状態が良く、特にEL617の煙道はトンネル状に残る。これらの屋内施設のあり方から、2基以上の住居の重複の可能性があるが確認には至っていない。出土遺物は第68図に示した。

ST465 (第10図 図版6)

F-8区で検出された。北半をSD9、中央および南辺をSD811ならびにSK1379に切られる。規模および平面形は、一辺約5.9mの方形を呈するものと考えられる。確認面から床面までの深さは33cm前後を測る。床面は若干しめるが全般に不明瞭であり、また攪乱が著しい。壁の立上

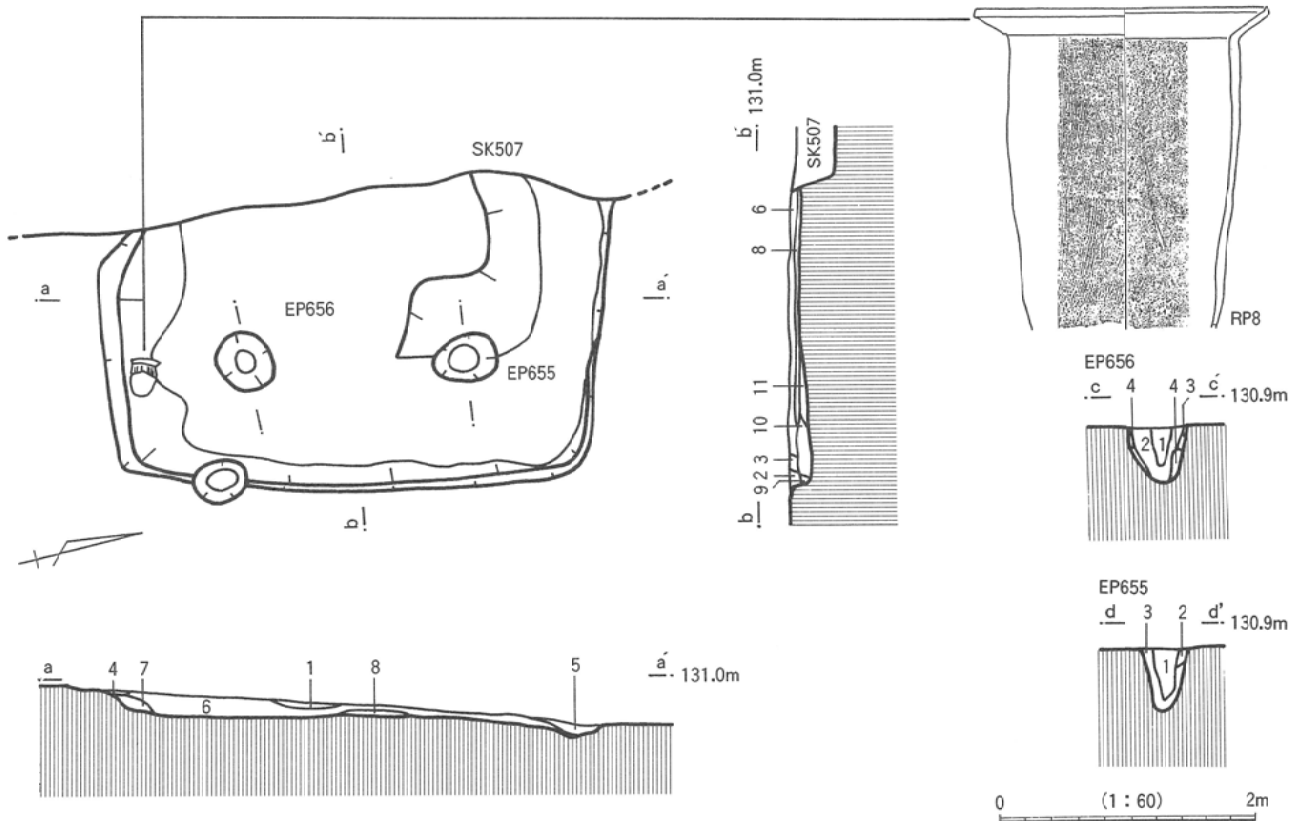


第11図 ST1276

がりは急である。柱穴は検出されなかったが、床面からは2基の浅い落ち込み (EK 1381・1385) が検出された。また東辺付近に焼土の分布がみられた。出土遺物は、第69図に示した。供膳形態に内面黒色処理、ロクロ成形の土師器を伴うが、煮沸形態の成形技法については、前出の各竪穴住居跡の出土遺物に類似する。

ST1276 (第11図 図版6)

F-9区で検出された。南辺の西半部分をSK 1275に切られる。規模および平面形は、東西が3.1m、南北が3.2mのやや崩れた方形を呈する。確認面から床面までの深さは約15~20cmを測る。床面は全般に不明瞭で起伏が目立つ。貼床は検出されなかった。壁の立上がりは急である。柱穴は検出されていないが、床面からは本住居跡に伴うとみられる落ち込みが1基検出された (EK 1365)。また南辺東寄りにカマド (EL 1346) が検出された。袖および煙道の一部が遺存し、カマド全域に焼土が分布する。出土遺物は第69図に示した。量的に少ないが、供膳形態では回転籠切りの須恵器坏、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕を有する土師器、また、貯蔵形態では須恵器短頸壺が出土している。



ST498

- |                          |                                        |
|--------------------------|----------------------------------------|
| 1. 10 YR 4 / 4 褐色土       | 黒褐色土を小粒状に5%含む。                         |
| 2. 10 YR 2 / 1 黒色土       | にぶい黄褐色粘質土を中粒状に10%含む。                   |
| 3. 10 YR 2 / 2 黒褐色土      | 黒色土をブロック状に10%含む。                       |
| 4. 10 YR 2 / 2 黒褐色細砂     | 均質。                                    |
| 5. 10 YR 5 / 4 にぶい黄褐色粘質土 | 黒褐色土をブロック状に20%含む。                      |
| 6. 10 YR 2 / 2 黒褐色土      | 褐色土を小粒状に10%含む。にぶい黄褐色粘質土を粒状に5%含む。       |
| 7. 10 YR 2 / 2 黒褐色土      | にぶい黄褐色土をブロック状に20%含む。炭化物を小粒状に3%含む。壁崩落土。 |
| 8. 10 YR 5 / 6 黄褐色細砂     | 均質。                                    |
| 9. 10 YR 2 / 2 黒褐色粘質土    | 黒色土をブロック状に20%含む。                       |
| 10. 10 YR 2 / 2 黒褐色粘質土   | 均質。                                    |
| 11. 10 YR 3 / 1 黒褐色砂質土   | 褐色土を小粒状に10%含む。                         |

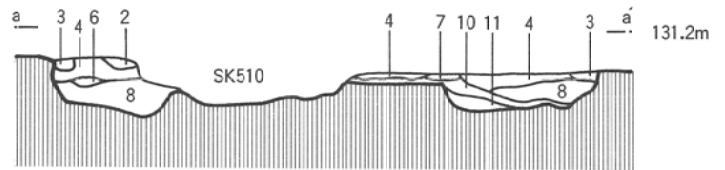
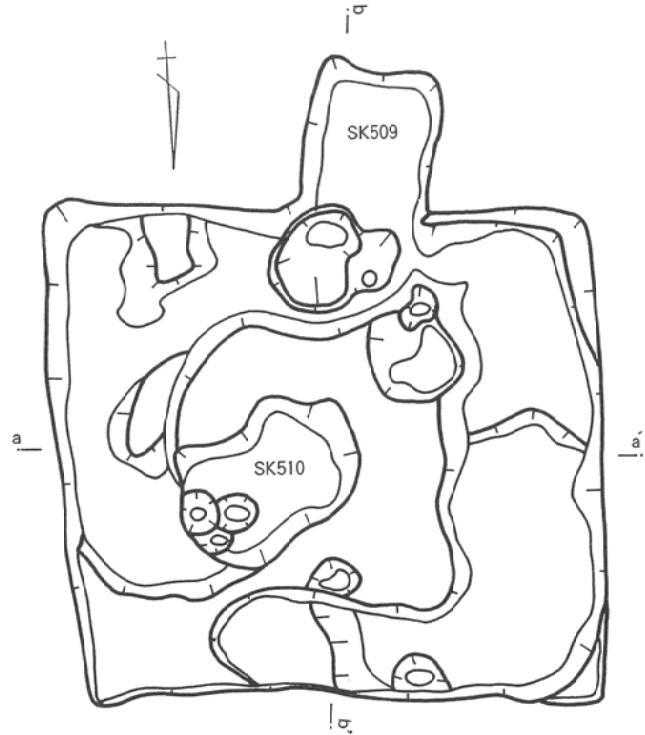
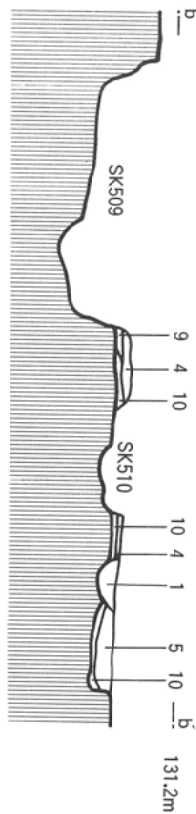
EP656

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| 1. 10 YR 2 / 2 黒褐色砂質土   | 褐色細砂を小粒状に10%含む。  |
| 2. 10 YR 4 / 4 褐色細砂     | 黒褐色砂質土を斑状に20%含む。 |
| 3. 10 YR 2 / 2 黒褐色粘質土   | 均質。              |
| 4. 10 YR 5 / 4 にぶい黄褐色細砂 | 均質。              |

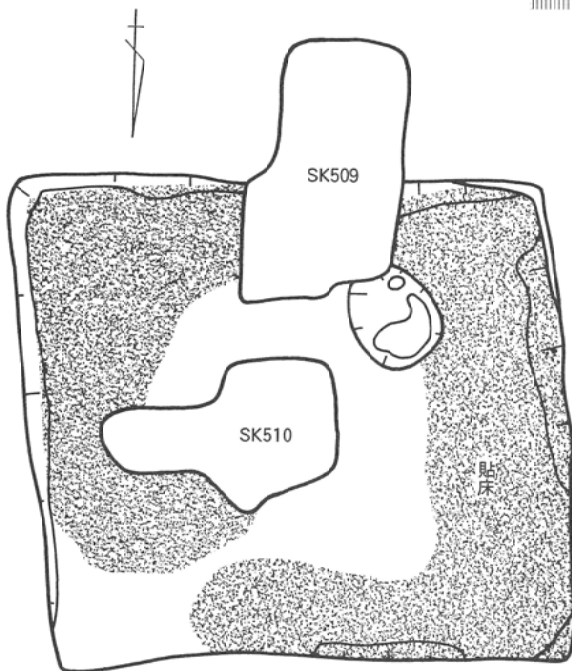
EP655

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 10 YR 2 / 2 黒褐色砂質土 | 褐色細砂を小粒状に10%含む。  |
| 2. 10 YR 2 / 2 黒褐色粘質土 | 均質。              |
| 3. 10 YR 4 / 4 褐色細砂   | 黒褐色砂質土を斑状に20%含む。 |

第12図 ST498



ST508 床面検出状況



- ST508
- |               |           |                           |
|---------------|-----------|---------------------------|
| 1. 10 YR 3/2  | 黒褐色砂質土    | 褐色土を中粒状に3%含む。             |
| 2. 10 YR 2/2  | 黒褐色砂質土    | 褐色砂質土を粒状に10%含む。           |
| 3. 10 YR 3/1  | 黒褐色土      | 暗褐色土をブロック状に5%含む。<br>壁崩落土。 |
| 4. 10 YR 2/3  | 黒褐色砂質土    | 褐色土を大粒状に5%含む。             |
| 5. 10 YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 黒褐色粘質土を小粒状に3%含む。          |
| 6. 10 YR 2/3  | 黒褐色土      | 均質。                       |
| 7. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | 均質。                       |
| 8. 10 YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 黒褐色粘質土をブロック状に10%含む。       |
| 9. 10 YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 黒褐色粘質土を斑状に5%含む。           |
| 10. 10 YR 4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | 均質。                       |
| 11. 10 YR 3/4 | 暗褐色粘質土    | 均質。                       |

0 (1:60) 2m

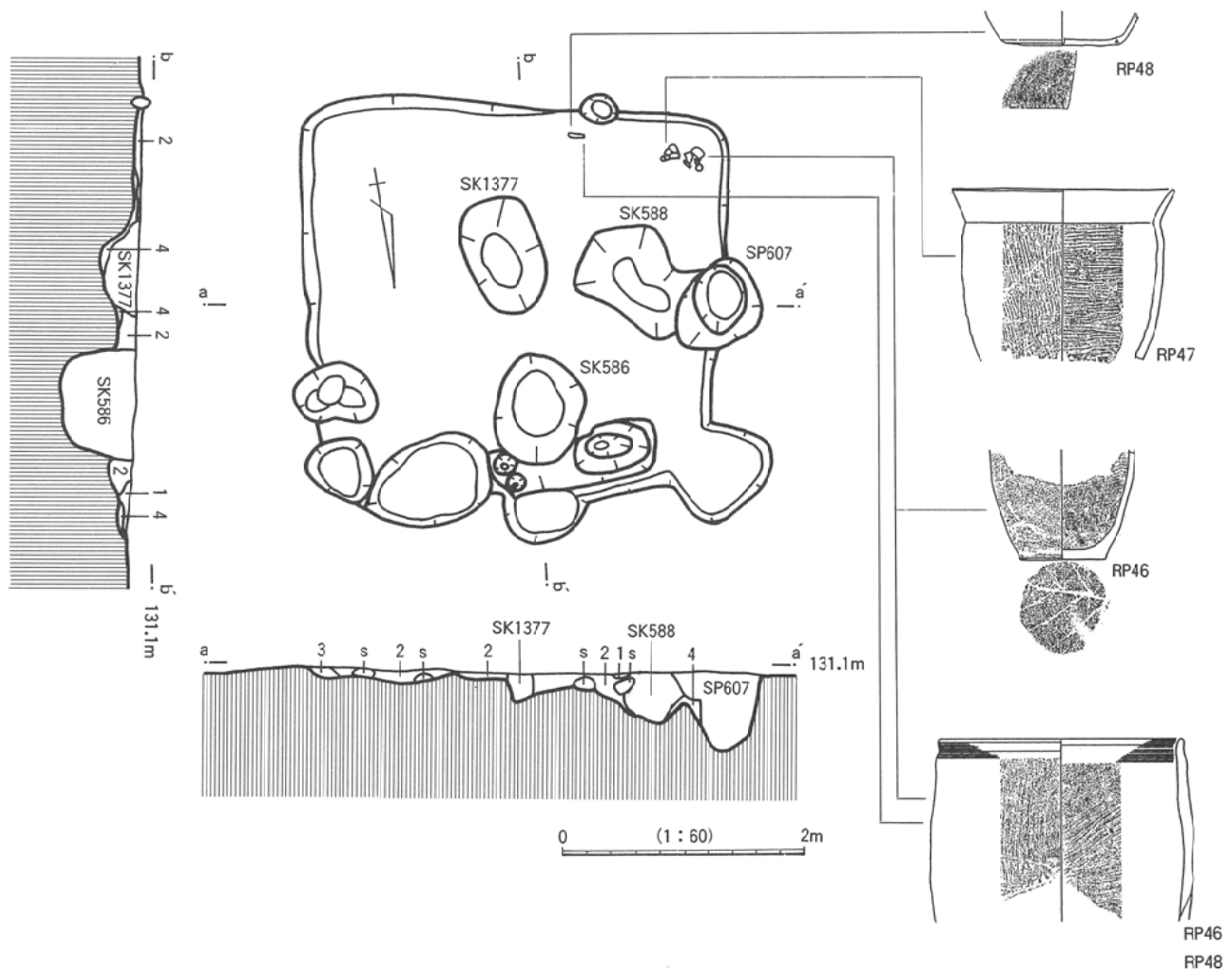
第13図 ST508

ST498 (第12図 図版7)

G-4・5区で検出された。西半部分をSK507に切られるが、規模および平面形は一辺4.0mの方形を呈するものと考えられる。遺構確認面から床面までの深さは5~15cmを測る。床面は、若干のしまりと土色の濁りがある程度であり、地山の傾斜に沿って北に向かって下がり、起伏が認められる。壁の立上がりは東辺では急であるが南北辺では緩やかである。床面では中央にアタリが残るピットが2基検出された(EP655・656)。その位置関係から、いずれも本竪穴住居跡の支柱穴と考えられる。カマドは未検出である。出土遺物は、図化した第69図185(RP8)のほかは若干の破片の出土に留まる。

ST508 (第13図 図版7)

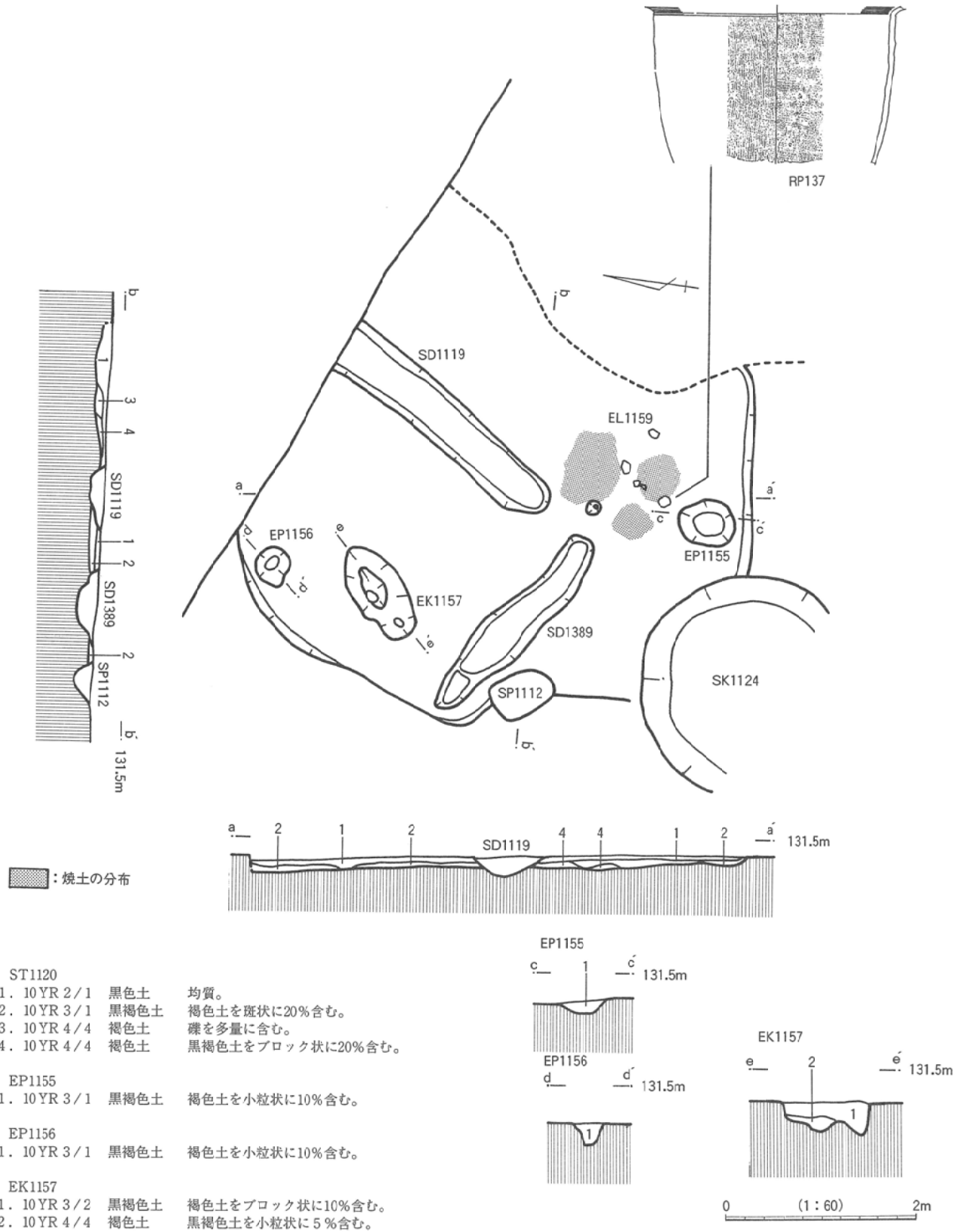
G-4・5区で検出された。南辺中央をSK509に切られ、中央付近をSK510に切られる。規模および平面形は東西4.4m、南北3.95mの長方形を呈する。遺構確認面から床面までの深さ



ST584

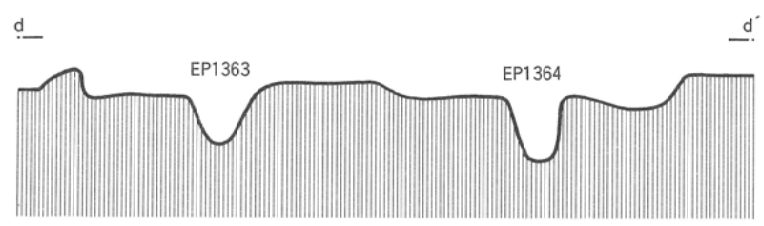
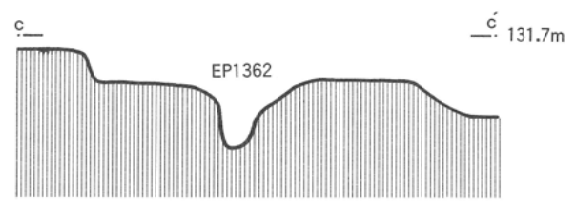
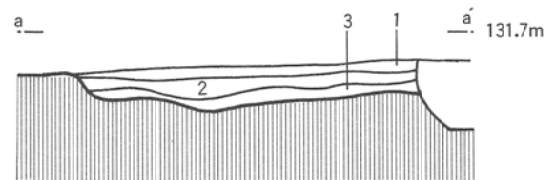
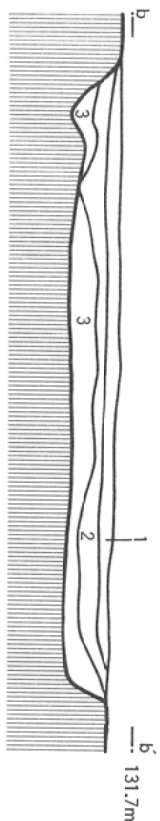
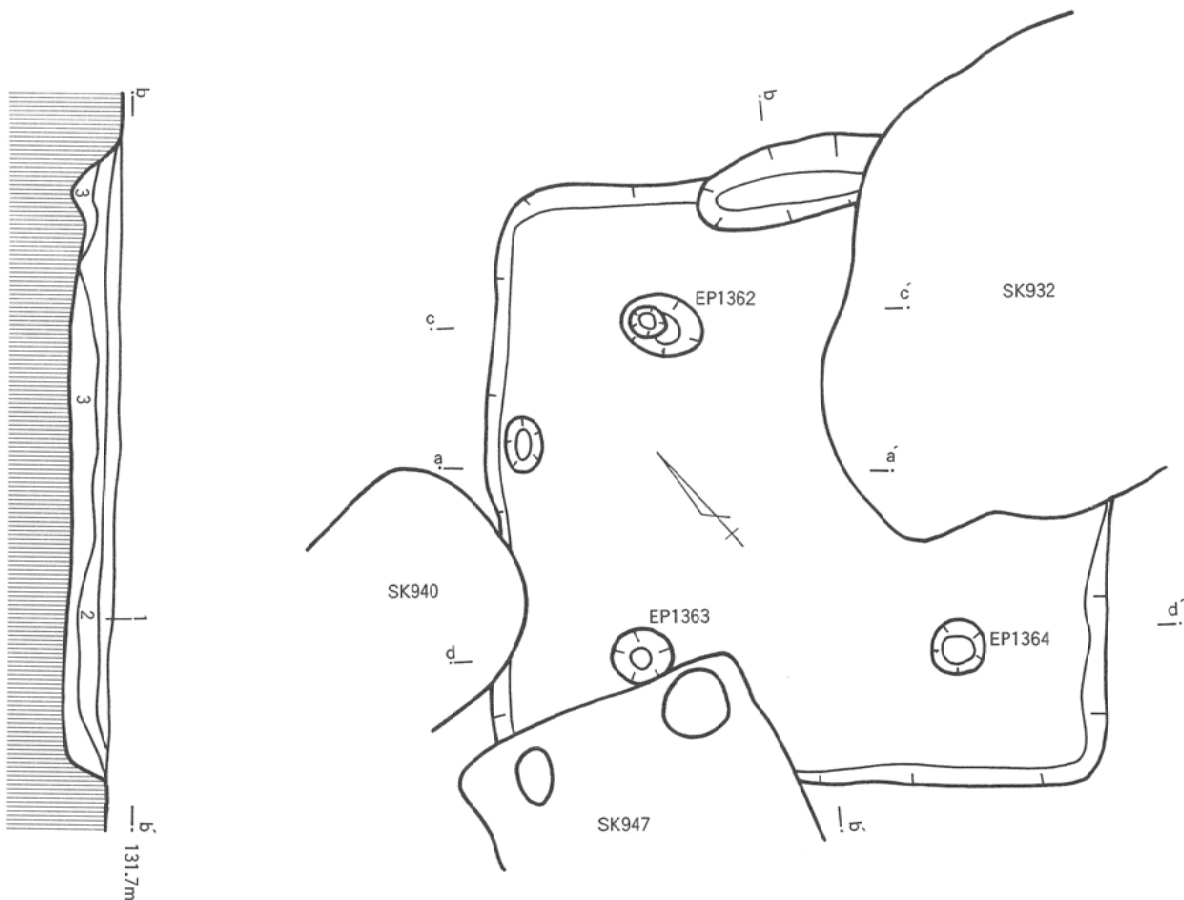
- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土 | 褐色細砂をブロック状に20%含む。 |
| 2. 10 YR 2/2 黒褐色砂質土 | 褐色細砂を中粒状に5%含む。    |
| 3. 10 YR 3/3 暗褐色土   | 礫を多量に含む。          |
| 4. 10 YR 4/4 褐色細砂   | 黒褐色砂質土を斑状に10%含む。  |

第14図 ST584



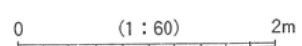
第15図 ST1120





- ST944
- 1. 10YR 3/4 暗褐色土
  - 2. 10YR 3/4 暗褐色土
  - 3. 10YR 4/6 褐色細砂

黒色土をブロック状に20%含む。  
 褐色砂質土をブロック状に10%含む。  
 黒色土を小粒状に5%含む。  
 黒色土を小粒状に5%含む。

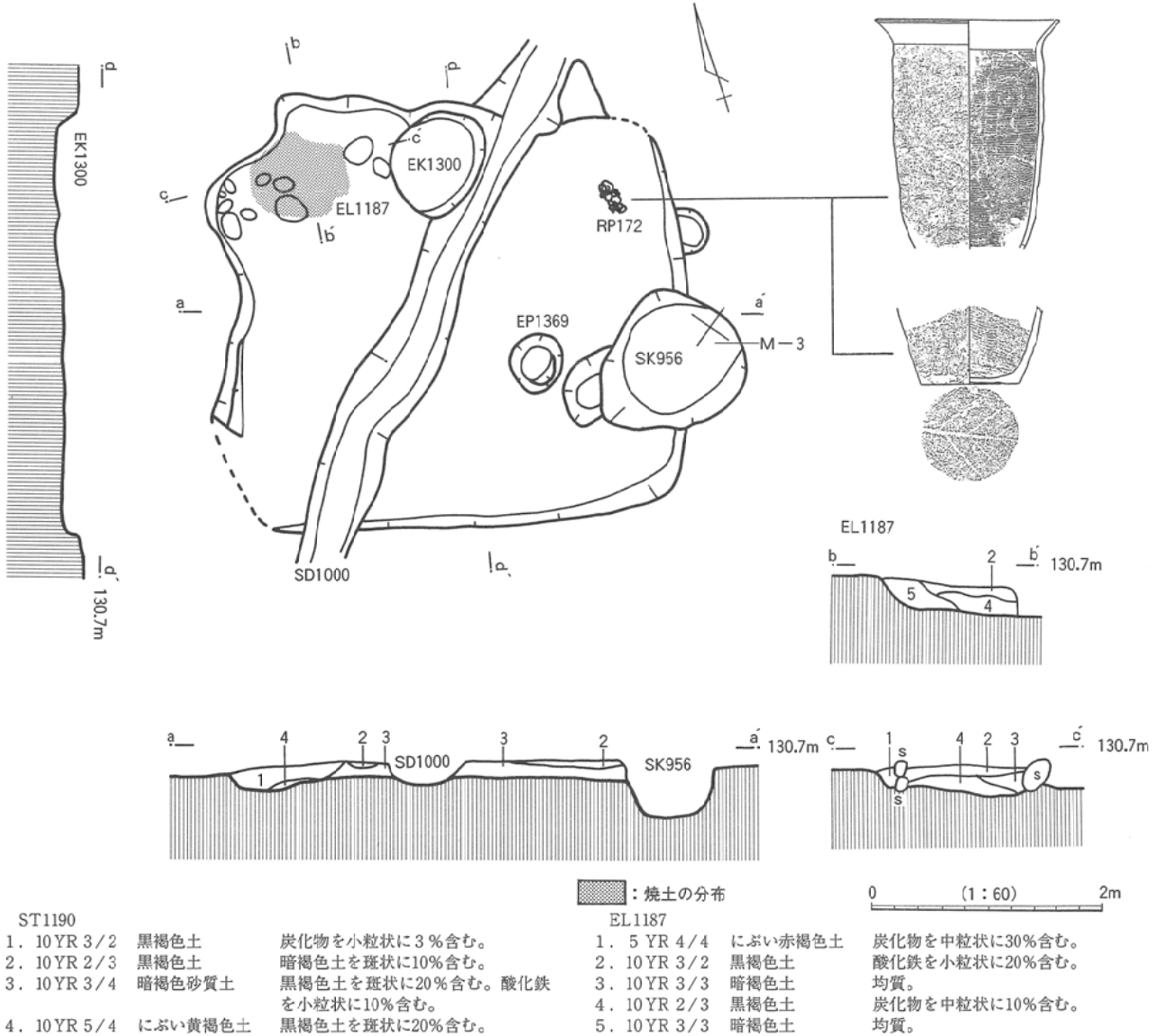


第16図 ST944

は約5cmを測る。床面には中央部および北東角を除き貼床が認められる(8~10層)。しかし起伏が著しく良好な状態ではない。壁の立上がりは急である。屋内の施設は検出されなかった。遺物は土師器の小破片が若干出土したにとどまり、図化し得るものは出土していない。

ST584 (第14図 図版7)

I-4・5区で検出された。西辺から中央付近にかけSP607、SK588、SK1377に切られる。また、北辺付近をSK586のほか6基の未登録の土坑に切られる。規模および平面形は東西3.6m、南北3.3mの不整形を呈する。地山の砂礫層を床面としており、径10cmを超える円礫が多く、起伏が著しい。貼床は認められない。確認面から床面までの深さは7cm~15cmを測る。壁の立上がりは緩やかである。屋内の施設は検出されなかった。出土遺物は第70図に示した。遺物は南西部分に集中して出土した。供膳形態では回転篋切りの須恵器坏、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕を有する土師器が出土している。



第17図 ST1190

ST1120 (第15図 図版8)

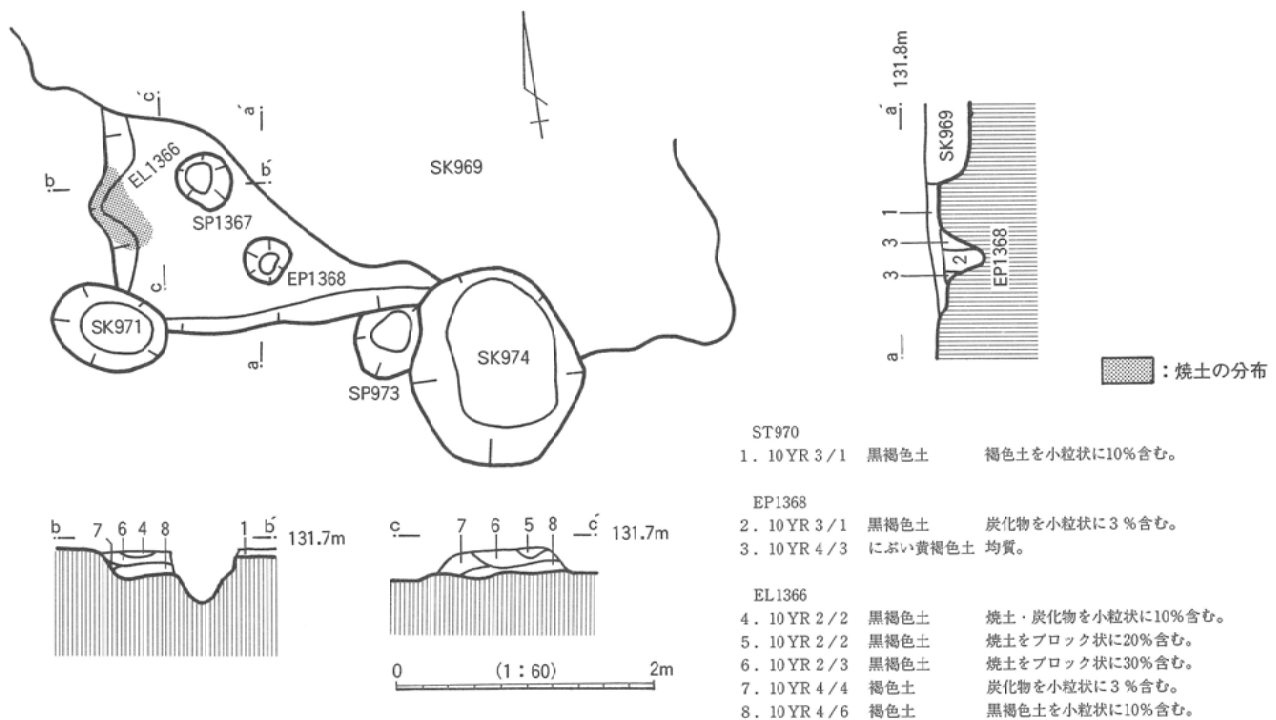
K-1・2区で検出された。北辺が調査区外となり、南西角をSK1124およびSP1112に切られ、東辺をSK1179に切られる。また中央付近をSD1119ならびにSD1389に切られる。確認面から床面までの深さは10cm前後である。地山細砂を床面とし、貼床は検出されなかった。規模および平面形は東西4.3m、南北4.8mの不整形を呈する。2基の竪穴住居の重複の可能性があるが、断面観察等での確認はできなかった。カマドは検出されなかったが地床炉的な焼土の分布が南東部分で検出された(EL1159)。そのほかピットと落ち込みが3基床面で検出されたが主柱穴は不明である。出土遺物は第70図に示した。

ST944 (第16図 図版8)

M-1・2区で検出された。東半をSK932に、南西辺をSK947に、北西辺の一部をSK940にそれぞれ切られる。規模および平面形は一辺4.9mの方形を呈する。確認面から床面までの深さは15~30cmを測る。3層は貼床と考えられ、床面全域に分布するが、若干のしまりがあり、また、かなりの起伏がある。壁の立上りは緩やかである。床面から3基のピットが検出された。その配置状況や深さから本竪穴住居跡の主柱穴とみられる。堆積土および床面から土師器、須恵器の破片が若干出土したが、図化できる資料は得られなかった。

ST1190 (第17図 図版8)

L・M-2・3区で検出された。中央付近をSD1000に、東辺をSK956に切られる。また北東角をSK1183に、南西角をSK1054に切られる。規模および平面形は東西4.0m、南北3.8mの不整形を呈する。確認面から床面までの深さは15cm前後を測る。地山細砂を床面とし、貼床は認められない。壁の立上りは緩やかである。カマド(EL1187)は北西角付近で検出された。遺



第18図 ST970

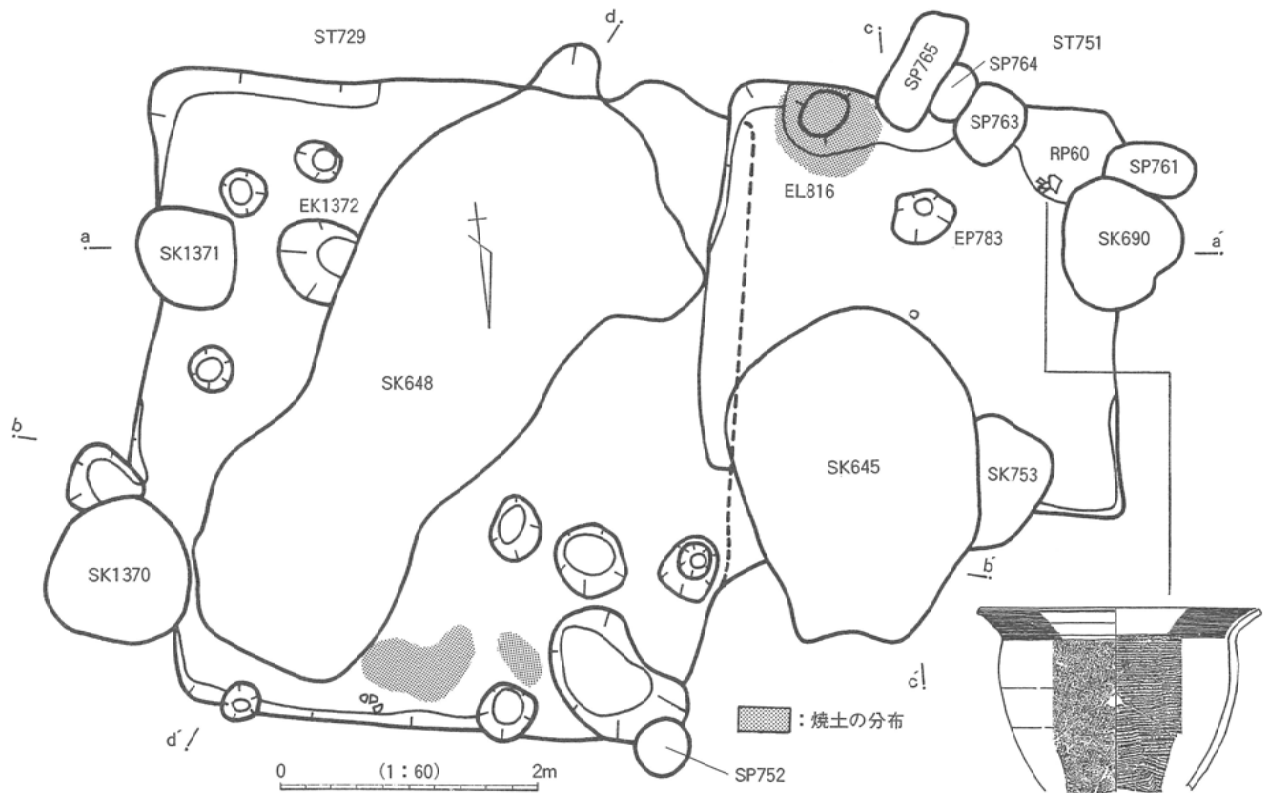
存状態が悪く、袖石の一部と焼土の広がりが残るが煙道は検出されなかった。ほかに床面からは、ピット（EP1369）と土坑（EK1300）が検出された。出土遺物は第71図に示した。遺物の分布はEL1187およびEK1300堆積土、RP192など、主に住居北半にまとまっている。供膳形態では回転糸切りの須恵器坏、煮沸形態では内外面にハケメ調整、底部に木葉痕または筵痕を有する土師器が出土している。

ST970（第18図 図版8）

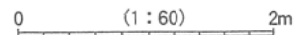
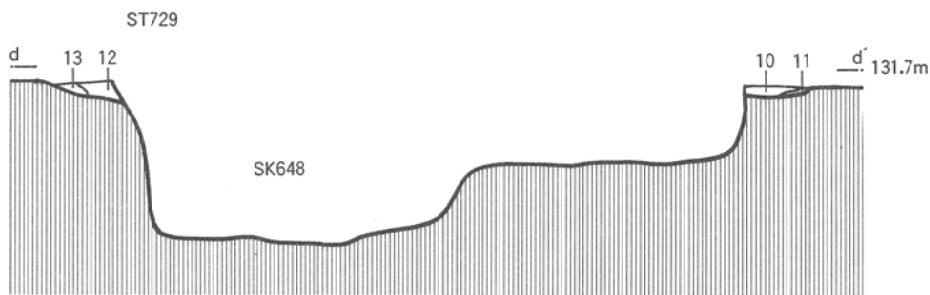
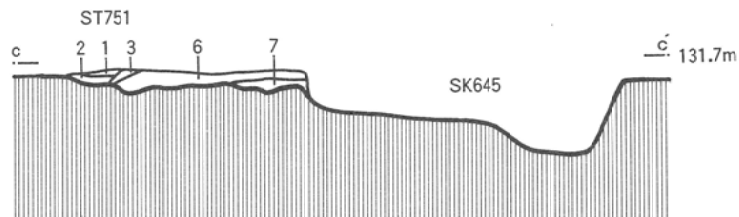
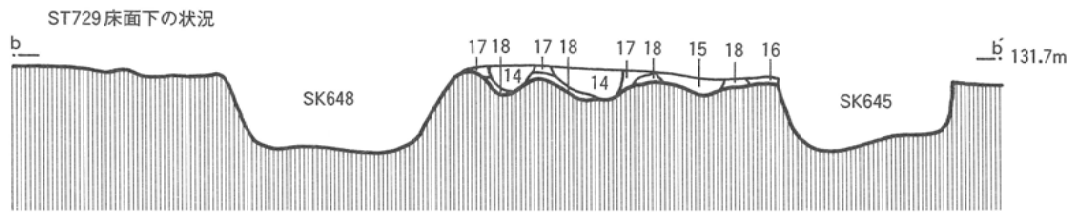
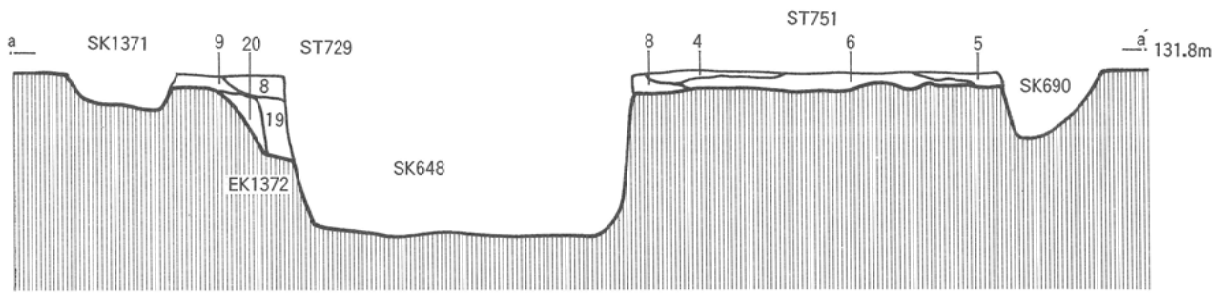
M-3区で検出された。大半をSK969に切られるほか、SK974、SK971、SP1367に切られ、南西の一部が残存する。平面形は方形を呈すると考えられるが、規模は不明である。確認面から床面までの深さは4cm前後と浅い。地山細砂を床面とし、若干の起伏があるが硬くしまる。壁の立上がりは比較的緩やかである。カマド（EL1366）は西辺南寄りに検出された。遺存状態は悪いが、燃烧部分の焼土化が顕著である。そのほか床面から柱穴（EP1368）が1基検出されている。遺物は土師器、須恵器の小破片が若干出土したに留まる。

ST729（第19・20図 図版9）

K・L-4・5区で検出された。中央部をSK698に、東辺をSK1370・SK1371に、北西角をSP752にそれぞれ切られる。また西辺でST751と重複し、これに切られる。規模および平面形は東西4.8m、南北5.2mの長方形を呈する。南東角および北辺の一部に壁の立上がりが確認できたが、検出の段階でほぼ床面が露出していた。第20図の14層以下は、貼床の堆積状況を示す。床面は



第19図 ST729・ST751(1)



ST751

- |              |           |                   |
|--------------|-----------|-------------------|
| 1. 7.5YR 4/6 | 褐色土       | 黒褐色砂質土を粒状に10%含む。  |
| 2. 7.5YR 5/6 | 明褐色土      | 均質。               |
| 3. 10YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 均質。               |
| 4. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土    | 褐色土を斑状に20%含む。     |
| 5. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土    | 褐色土を小粒状に10%含む。    |
| 6. 10YR 2/2  | 黒褐色砂質土    | 黒色細砂をブロック状に40%含む。 |
| 7. 10YR 4/4  | 褐色土       | 黒褐色砂質土を斑状に20%含む。  |

ST729

- |              |        |                     |
|--------------|--------|---------------------|
| 8. 10YR 2/1  | 黒色砂質土  | 黒褐色砂質土をブロック状に5%含む。  |
| 9. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 褐色砂質土をブロック状に30%含む。  |
| 10. 10YR 2/2 | 黒褐色砂質土 | 褐色砂質土をブロック状に20%含む。  |
| 11. 10YR 2/3 | 黒褐色砂質土 | 均質。                 |
| 12. 10YR 2/2 | 黒褐色土   | 均質。                 |
| 13. 10YR 3/1 | 黒褐色砂質土 | 均質。                 |
| 14. 10YR 2/1 | 黒色砂質土  | 暗褐色砂質土を中粒状に10%含む。   |
| 15. 10YR 2/2 | 黒褐色砂質土 | 褐色砂質土をブロック状に5%含む。   |
| 16. 10YR 2/3 | 黒褐色砂質土 | 均質。                 |
| 17. 10YR 2/2 | 黒褐色砂質土 | 褐色砂質土をブロック状に30%含む。  |
| 18. 10YR 4/4 | 褐色砂質土  | 黒褐色砂質土をブロック状に10%含む。 |

EK1372

- |              |       |                  |
|--------------|-------|------------------|
| 19. 10YR 2/1 | 黒色砂質土 | 黒褐色砂質土を斑状に20%含む。 |
| 20. 10YR 4/4 | 褐色砂質土 | 黒褐色砂質土を中粒状に5%含む。 |

第20図 ST729・ST751(2)

ほぼ平坦であり硬くしまっている。北辺中央付近にカマドとみられる焼土の分布を検出したが、遺存状態が悪く、詳細は不明である。そのほか、床面の南東部分でEK1372を検出した。本住居跡に伴う柱穴の可能性はある。出土遺物は第71図に示した。数量的には僅少であるが、供膳形態では丸底・内面黒色処理の土師器坏、煮沸形態では内外面にハケメ調整を有する土師器が出土している。

#### ST751 (第19・20図 図版9)

K・L-5区で検出された。南辺から西辺の南半にかけてSP763~765、SP761・SK690に切られ、北半部分をSK645・753に切られる。また、東辺でST729を切っている。規模および平面形は一辺3.3mの方形を呈する。ST729同様検出の段階でほぼ床面が露出しており、壁の立上がりは北西角および南辺でごく浅いものが確認された。床面はほぼ平坦で硬くしまっている。南辺東寄りにカマドとみられる焼土の分布を検出した。遺存状態が悪く、構造は不明である。そのほか、床面の中央南寄りにEP783を検出した。出土遺物は第71図に示した。内外面にハケメ調整を有する土師器甕が出土している。

## 2 河川跡

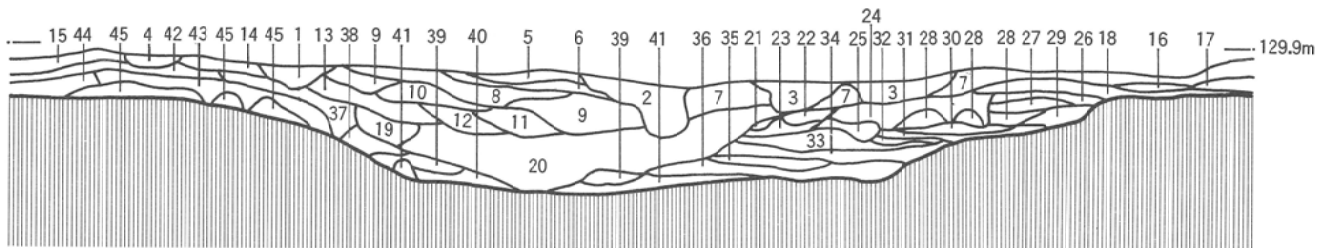
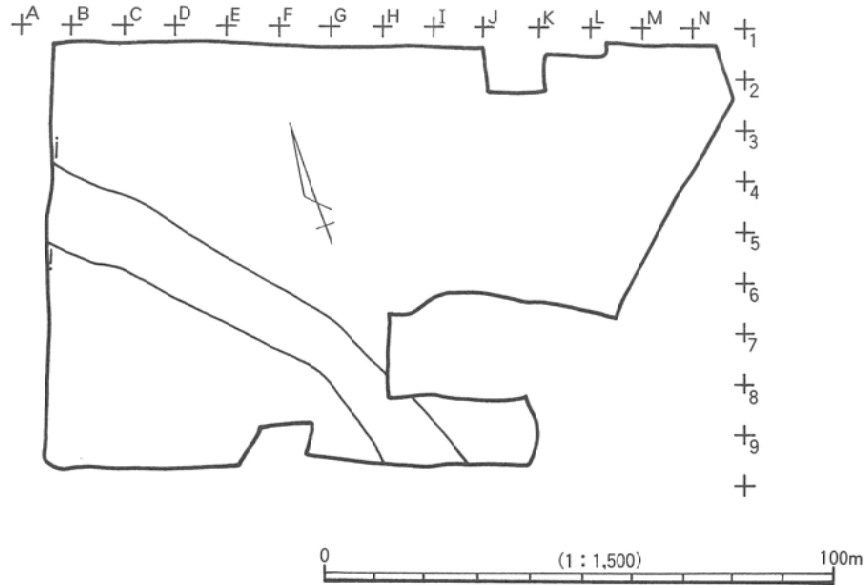
#### SG300 (第21図 図版10)

調査区の西半部に検出され、その向きを南東から北西方向にとる。調査区西辺の遺構掘り下げの際、遺構覆土とは異なる堆積土の一部が検出されたために、トレンチにてその広がりを確認したところ、幅約13mの自然流路と判断された。遺構検出時の空中写真より把握できた土色変化の様相から直線的な流路と想定され、重複する遺構の土層観察等をふまえて河道を確認している。検出し得た長さ58m、幅9~14m、深さは調査区西辺のトレンチ部で検出面より1.4mを測り、地形や標高のありかたから北西方向へ流れる。検出面下の堆積土は、概括的に大別4層位が認められる。中央部には砂礫層がレンズ状で厚く堆積しており、埋積過程における河川幅の変動が理解された。堆積状況は土地改変による掘込みの痕跡が随所にみられたが、概ね自然堆積の過程を示し、両岸からの土砂流れ込みの様相が窺えた。遺物の出土状況から、中世初期にはほぼ埋積を完了していたものと推測される。

## 3 掘立柱建物跡

#### SB1347 (第22図 第1表 図版10)

C・D-4・5区で検出された。南北軸は、磁北から約13度東に傾く。規模は東西2間×南北4間である。柱間の距離は、東西が2.1m(西側)、2.5m(東側)、南北がそれぞれ2.1mを測る。西側中央の柱穴がSD347を切る敷石の遺構に、東側の北から2つ目の柱穴がSK333に破壊され、ともに未検出である。また、EB1358・1359はSK333に切られている。各柱穴の規模、平面形は、長径で96~146cm、短径で76~122cmの円または楕円を呈し、確認面からの深さは、22~78cmとばらつきがある。柱穴からは、磨滅した須恵器、土師器の破片が数点ずつのほか、EB431から土師質土器の破片、EB348から陶磁器の破片が1点ずつ出土しているが、所属時期は不明である。調査区全域からは数多くの柱穴が検出されたが、建物跡として確認できたのは、この1棟のみであった。



※出土遺物：2・3・7・227・262・267・880・1130

SG300

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 近現代の遺構堆積土</p> <p>2. 10YR 3/2 黒褐色土 におい黄褐色細砂をブロック状に40%含む。</p> <p>3. 10YR 3/2 黒褐色土 におい黄褐色砂質土を斑状及び帯状に含む。炭化物を含む。小さな礫を含む。</p> <p>4. 10YR 3/2 黒褐色土 暗褐色砂質土及びにおい黄褐色砂質土を斑状に40%含む。</p> <p>5. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 黒色土をブロック状に、におい黄褐色砂質土を小粒状に含む。</p> <p>6. 10YR 3/3 暗褐色土 におい黄褐色砂質土を斑状に30%含む。</p> <p>7. 10YR 3/4 暗褐色土 黒褐色土をブロック状に40%含む。におい黄褐色砂質土を斑状に含む。</p> <p>8. 10YR 3/3 暗褐色土 やや粘性あり。におい黄褐色砂質土を斑状に10%含む。</p> <p>9. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 におい黄褐色細砂及び黒褐色粘質土を斑状に5%含む。</p> <p>10. 10YR 4/2 灰黄褐色砂質土 均質。</p> <p>11. 10YR 4/2 灰黄褐色細砂 均質。</p> <p>12. 10YR 4/2 灰黄褐色細砂 均質。11層より明るい。</p> <p>13. 10YR 4/2 灰黄褐色細砂 黒褐色土及びにおい黄褐色砂質土を斑状に10%含む。酸化鉄を含む。礫を含む。</p> <p>14. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 黒褐色土及びにおい黄褐色砂質土及び褐色砂質土を斑状に含む。</p> <p>15. 10YR 3/2 黒褐色土 同粗砂を含む。におい黄褐色砂質土を小粒状に含む。</p> <p>16. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 上位でにおい黄褐色細砂を帯状に含む。</p> <p>17. 7.5YR 2/1 黒色土 暗褐色砂質土をブロック状に20%含む。</p> <p>18. 7.5YR 1.7/1 黒色土 17層に同じ。</p> <p>19. 10YR 3/2 黒褐色細砂 灰黄褐色細砂及びにおい黄褐色砂質土をブロック状に20%含む。</p> | <p>20. 砂礫層</p> <p>21. 10YR 4/2 灰黄褐色細砂 酸化鉄砂を帯状に含む。</p> <p>22. 10YR 4/2 灰黄褐色細砂 黒褐色及びにおい黄褐色砂質土を斑状に含む。</p> <p>23. 10YR 2/2 黒褐色土 黒色土及び暗赤褐色砂を斑状に含む。</p> <p>24. 10YR 2/3 黒褐色土 暗褐色砂質土をブロック状に5%含む。</p> <p>25. 7.5YR 1.7/1 黒色土 暗褐色砂質土を粒状に含む。礫を含む。</p> <p>26. 10YR 2/2 黒褐色土 暗褐色砂質土を斑状に10%含む。</p> <p>27. 10YR 2/3 黒褐色粘質土 上位でにおい黄褐色砂質土をブロック状に20%含む。</p> <p>28. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 暗オリーブ褐色砂及び酸化鉄砂を全体に含む。におい黄褐色砂質土を斑状に含む。</p> <p>29. 7.5YR 1.7/1 黒色土 ほぼ均質。</p> <p>30. 10YR 3/1 黒褐色砂質土 ほぼ均質。</p> <p>31. 10YR 3/2 黒褐色粘土 純粋。</p> <p>32. 10YR 3/1 黒褐色砂質土 砂礫を多量に含む。</p> <p>33. 10YR 3/3 暗褐色砂 暗オリーブ褐色砂～粗砂を含む。</p> <p>34. 10YR 2/2 黒褐色砂質土 黒色土及び暗オリーブ褐色砂を斑状に含む。</p> <p>35. 2.5YR 4/3 オリーブ褐色砂 酸化鉄砂を帯状に含む。</p> <p>36. 10YR 2/2 黒褐色砂質土 34層に同じ。砂礫を含む。</p> <p>37. 10YR 2/3 黒褐色土 黒色土及び褐色砂質土を斑状に20%含む。</p> <p>38. N1.5/1 黒色土 小さな礫を多量に含む。</p> <p>39. 10YR 2/2 黒褐色砂質土 酸化鉄を含む。礫を含む。</p> <p>40. 7.5YR 2/1 黒色細砂 ほぼ均質。</p> <p>41. 10YR 3/3 暗褐色砂 礫を含む。</p> <p>42. 10YR 2/1 黒色土 褐色砂質土を斑状に20%含む。褐色粗砂を含む。</p> <p>43. 10YR 2/1 黒色土 暗褐色砂質土をブロック状に10%含む。</p> <p>44. 10YR 1.7/1 黒色土 小さな礫を少量含む。</p> <p>45. 10YR 3/3 暗褐色細砂 ほぼ均質。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第21図 SG300

#### 4 井戸跡 (第23・24図 第2表 図版11~15)

井戸跡は39基検出された。その内訳は、素掘り井戸1基、石組井戸37基のほか、近現代の鉄管埋設井戸が1基である。前二者については、出土遺物および構造などの分析が未だ不十分であるが、概ね近世以降の所産と考えられる。

井戸跡の分布は、Y軸Iライン以西に集中し、それ以东では例外的にL-1区からSE999を検出したのみである。全体的には、碁盤目状の区画性は認められないものの、ある程度東西方向および南北方向に直線的に分布する傾向が観察される。これは掘削当時の地下水脈の位置あるいは屋敷割などから規制をうけた結果と考えられる。

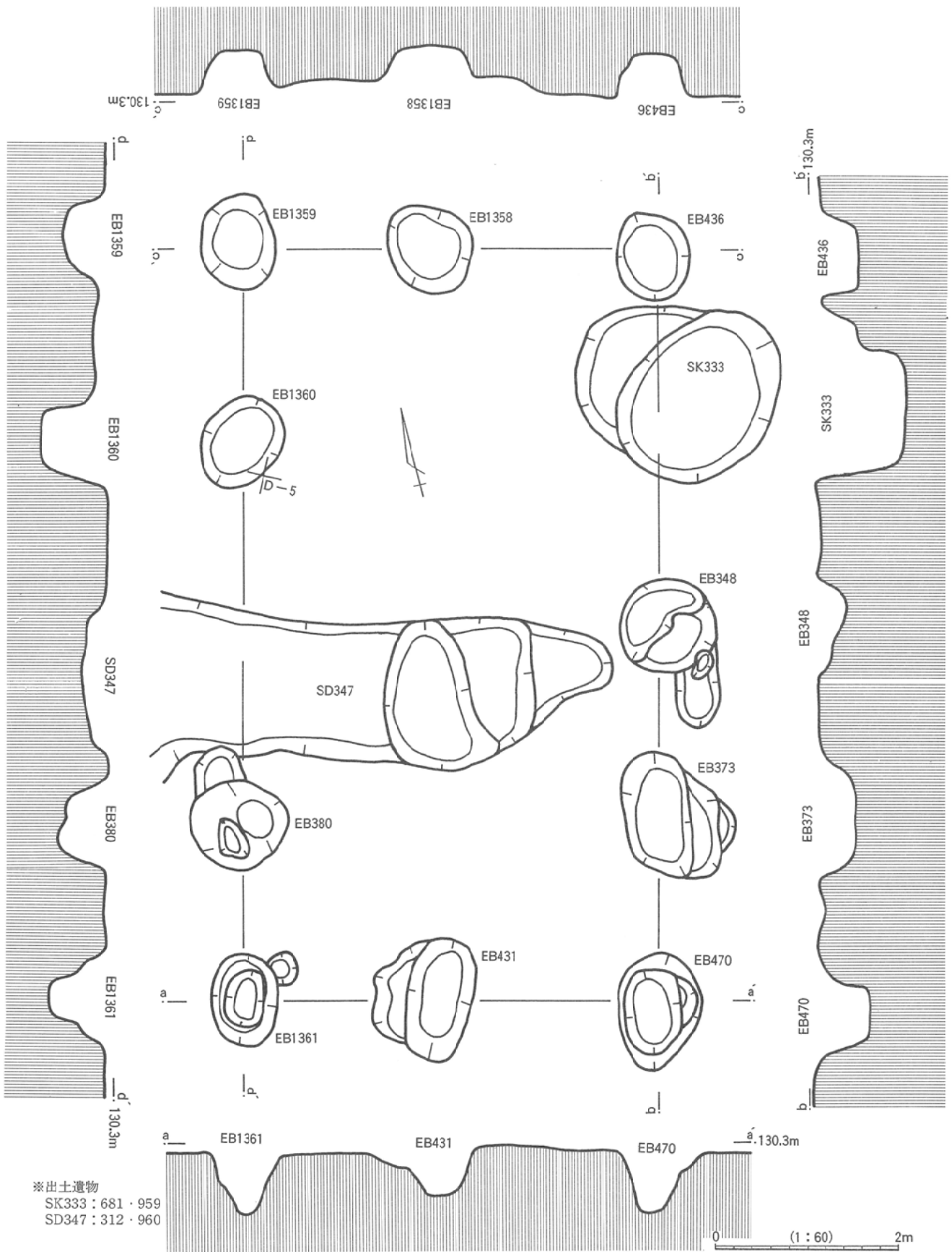
井戸同士の重複が認められるものはSE266と566、SE119と175、SE358と359、SE392と393、SE394と467の5例がある。それらを含めて、複数の井戸が集团的に重複または隣接して分布している地点は、A・B-2区(SE265・266・566)、A-7区(SE116・119・175)、H-2・3区(SE613・654・692)でそれぞれ3基ずつのほか、D・E-2~4区では、SX360を挟んで10基(SE358・359・385・392・393・394・370・403・467・523)が密集して検出された。重複する井戸のうち、崩落危険回避のため底面まで下げられなかったものを除いた3箇所6基については、いずれも新しいものが深く掘り下げられている。このことは、井戸の掘削後比較的短期間のうちに、地点によっては井戸の枯渇と地下水脈の低下がおこったことを示しており、このことは近世以降の扇央部での居住域の拡大に伴う水利の増大を反映しているものと推測される。

石組井戸は、すべて上部が破壊を受け、検出面で石組みが露出したものはごく僅かであった。底面はいずれも砂礫層まで掘込まれているが、現在湧水を確認できるものはない。開口部の平面形は円から略円形を呈する。口径は0.45~1.25mをはかるが、ほぼ0.7~1.1mに集約される。石組は、長径20cm前後の楕円形の扁平な礫を数段放射状に組み重ねるが、最下部では長径40cmを超える大型の礫が横置きにされる。石組の外周部分に径3~15cmの礫が充填される。SE55・387・390・435・29では掘方全体に礫を充填している。掘方径は、長径で1.58m~4.37mをはかる。開口部は掘方の一方の壁に寄って構築される。井戸内の堆積土は、比較的均質な黒色土または黒褐色土を主体とし、上部から崩された礫が多量に伴出するが、SE999では堆積土がほとんどなく、瓦が一括廃棄された状況で検出された。

第1表 SB1347柱穴計測表

						※単位cm
番号	平面形	長径	短径	深さ	備考	
EB 436	楕円	96	81	36		
EB 348	円	107	101	28	2回以上の立替痕	
EB 373	楕円	146	122	55	3回以上の立替痕	
EB 470	楕円	128	90	70	2回以上の立替痕	
EB 431	楕円	133	111	59	2回以上の立替痕	
EB 1361	楕円	99	76	63		
EB 380	円	109	104	55	2回以上の立替痕	
EB 1360	楕円	103	85	78		
EB 1359	楕円	102	83	31		
EB 1358	不整楕円	99	86	22		



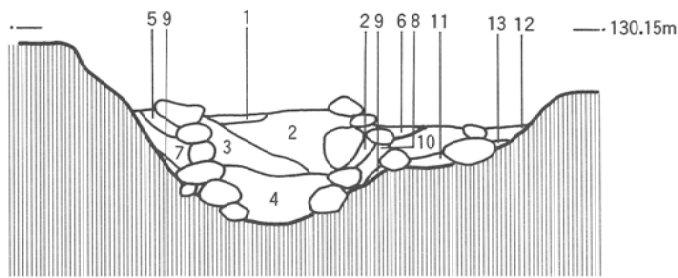
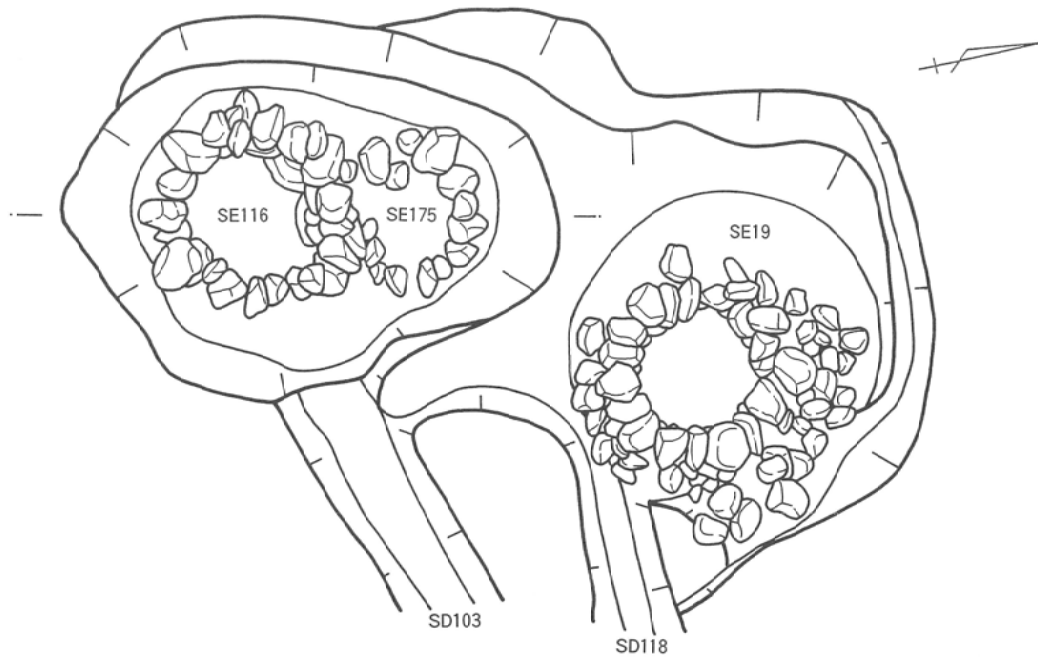


第22図 SB1347

第2表 井戸跡観察表

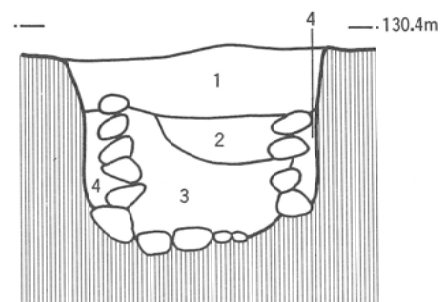
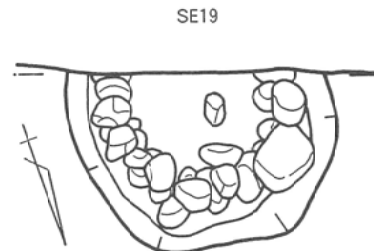
遺構番号	地区	名称	掘方径	内径	深さ	底面標高	重複他	出土遺物	挿図	図版
SE265	A-2	石組井戸	1.84	0.64	0.63	128.72	ST290を切る			11
SE566	A・B-2	石組井戸	2.07	0.91	0.95	128.51	ST563・SE266を切る			11
SE266	A・B-2	石組井戸	2.05	0.92			ST563を切る、SE566に切られる	223		11
SE119	A-7	石組井戸	2.87	0.92	1.43	128.68		786・1169	23	11
SE175	A-7	石組井戸	1.80	0.80	1.05	129.08	SD116に切られる		23	11
SE116	A-7	石組井戸	2.60	0.70	1.55	128.58	SE175を切る、SD103に切られる	938・948	23	11
SE19	A-9	石組井戸	2.18	0.90	1.44	128.69			23	12
SE220	B-4	石組井戸	4.37	0.68	1.27	128.48	SD234に切られる	920		12
SE55	B-8	石組井戸	2.35	1.04	1.82	128.31	SK37・SK56を切る	1184・1208		12
SE387	C-4	石組井戸	3.05	1.00	1.57	128.62			24	12
SE319	C-5	石組井戸	2.61	0.80	1.06	129.10	SD338を切る			12
SE390	D・E-1・2	石組井戸	2.20	0.75	1.20	128.71		313・683・882		12
SE358	D-2	石組井戸	2.33	1.05	1.00	128.99	SE359に切られる	964	24	12
SE359	D-2	素掘井戸	1.64		1.26	128.78	SE358を切る	550・569・822・965・966	24	12
SE392	D・E-2	石組井戸	2.24	0.85			SE393を切る	314・750		13
SE393	D・E-2	石組井戸	2.25	1.00	1.36	128.75	SE392に切られる	911		13
SE403	D-3	石組井戸	2.27	1.10	1.37	128.58		620・749		13
SE523	D-3	石組井戸	2.92	0.70	1.48	128.77		548		13
SE394	D・E-3	石組井戸	2.40	0.73	0.89	129.34	SE467に切られる			13
SE467	D・E-3	石組井戸	3.44	1.00	1.47	128.97	SE394を切る			13
SE385	D-3・4	石組井戸	2.65	0.90						13
SE370	D-4	石組井戸	2.51	1.15	1.71	128.61		682・743		13
SE435	D-5	石組井戸	3.58	1.00	1.60	128.84		668・924・935・970・1218		13
SE212	D-7	石組井戸	3.22	1.25	2.35	128.18		729・890		14
SE52	D-8	石組井戸	2.10	0.90			SK53に切られる			14
SE29	E-7	石組井戸	2.86	1.00	1.44	129.112	SD9を切る	616・943	24	14
SE624	G・H-3	素掘井戸	2.25		2.26	128.34	鉄管埋設	902		14
SE860	F-6・7	石組井戸	2.45	0.85	2.09	128.45		655		14
SE1266	G-9	石組井戸	1.79	0.74	1.64	129.08				14
SE693	H-1	石組井戸	2.65	1.05	1.87	128.77		763・764	24	14
SE719	H-2	石組井戸	2.15	0.90	1.76	128.85				
SE804	H-2	石組井戸	2.10	0.45	0.77	129.80		1105		15
SE654	H-2	石組井戸	2.41	1.08	1.63	129.18		988		15
SE692	H-2	石組井戸	2.06	0.77	1.99	128.82		635		15
SE613	H・I-2・3	石組井戸	2.02	0.88	1.26	129.52		872・934・1109・1141		15
SE536	H-4	石組井戸	3.45	1.08	2.17	128.69		900・1133		15
SE1225	H・I-8	石組井戸	3.26	1.10	1.88	129.34		271・931・932		15
SE587	I-5	石組井戸	1.58	0.80	2.11	128.94	SK576を切る			15
SE999	L-1	石組井戸	2.72	0.73	1.76	129.76	SD1000を切る。近世瓦一括廃棄	840・843・857・1289・1290		15

※単位 m 掘方径、内径ともに最大径。深さは確認面からの深さを表す。



- SE116
- |             |           |                                    |
|-------------|-----------|------------------------------------|
| 1. 10YR 2/1 | 黒色土       | 均質。                                |
| 2. 10YR 2/1 | 黒色土       | 暗オリーブ褐色細砂を帯状に20%含む。炭化物を少量含む。       |
| 3. 10YR 2/1 | 黒色土       | 暗オリーブ褐色砂質土をブロック状に10%含む。小さな礫を多量に含む。 |
| 4. 10YR 3/2 | 黒褐色粘質土    | 黒色土をブロック状に20%含む。                   |
| 5. 10YR 2/2 | 黒褐色土      | 暗オリーブ褐色細砂を小粒状に5%含む。                |
| 6. 2.5Y 3/3 | 暗オリーブ褐色細砂 | 黒色土をブロック状に10%含む。                   |
| 7. 10YR 3/2 | 黒褐色土      | 黒色土及び暗オリーブ褐色細砂をブロック状に20%含む。        |
| 8. 2.5Y 3/3 | 暗オリーブ褐色細砂 | 黒色土をブロック状に20%含む。                   |
| 9. 2.5Y 3/3 | 暗オリーブ褐色細砂 | グライ化土。                             |

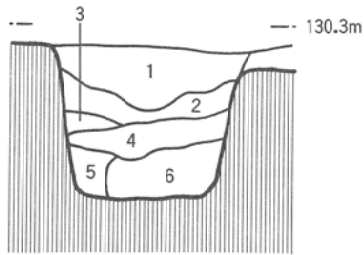
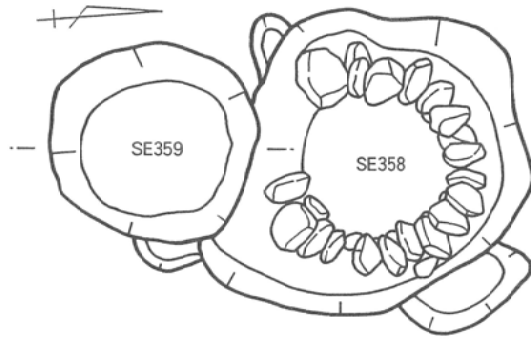
- SE19
- |             |           |                         |
|-------------|-----------|-------------------------|
| 1. 10YR 2/1 | 黒色土       | 炭化物をブロック状に5%含む。礫を多量に含む。 |
| 2. 10YR 2/2 | 黒褐色土      | 均質。礫を多量に含む。             |
| 3. 10YR 3/1 | 黒褐色砂質土    | 炭化物を小粒状に3%含む。礫を多量に含む。   |
| 4. 10YR 4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | 褐色土をブロック状に20%含む。        |



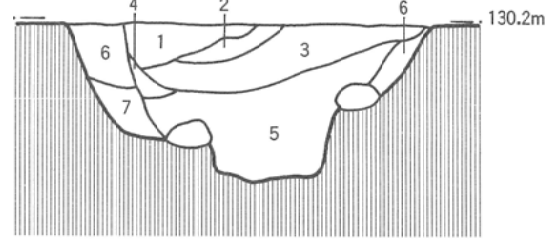
0 (1:60) 2m

第23図 SE116・SE175・SE19

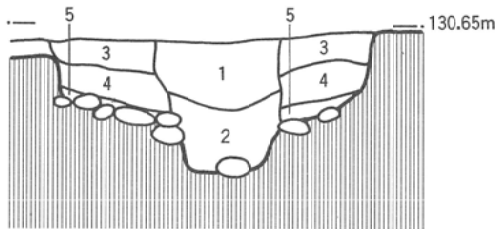
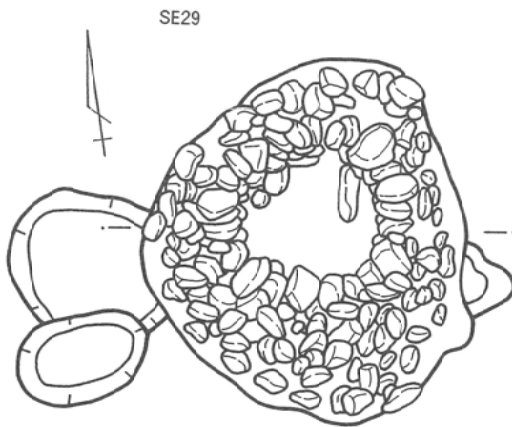
検出された遺構



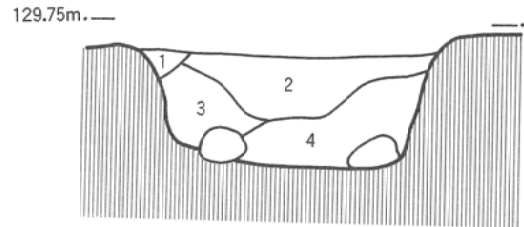
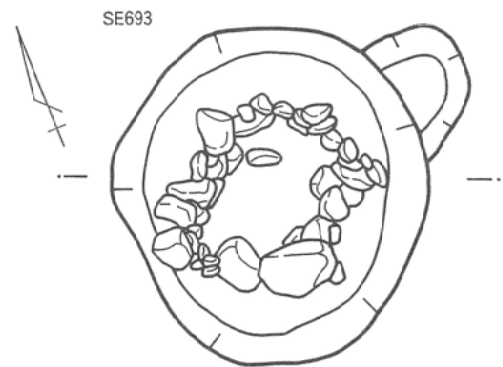
- SE359
1. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物を小粒状に3%含む。礫を多量に含む。
  2. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色土を小粒状に5%含む。炭化物を粒状に3%含む。砂礫を多量に含む。
  3. 10YR 3/1 黒褐色砂質土 炭化物をブロック状に5%含む。
  4. 10YR 2/3 黒褐色砂質土 褐色土を小粒状に5%含む。
  5. 10YR 4/3 におい黄褐色土 均質。砂礫を多量に含む。
  6. 10YR 3/1 黒褐色砂質土 均質。砂礫を多量に含む。



- SE387
1. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 均質。砂礫を多量に含む。
  2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 暗褐色粘質土をブロック状に10%含む。におい黄褐色砂質土をブロック状に10%含む。
  3. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 におい黄褐色砂質土をブロック状に10%含む。
  4. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 褐色砂質土をブロック状に20%含む。
  5. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 暗褐色砂質土を小粒状に10%含む。砂礫を多量に含む。
  6. 10YR 2/3 黒褐色砂質土 暗褐色細砂を小粒状に10%含む。
  7. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 におい黄褐色細砂をブロック状に20%含む。



- SE29
1. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 礫を多量に含む。
  2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 褐色砂質土をブロック状に20%含む。
  3. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色砂質土を小粒状に5%含む。
  4. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 褐色土をブロック状に10%含む。
  5. 10YR 2/2 黒褐色土 均質。



- SE693
1. 10YR 3/2 黒褐色土 やや粘性あり、礫を多量に含む。
  2. 10YR 3/3 黒褐色土 黒色土及び明褐色土をブロック状に30%含む。
  3. 10YR 3/1 黒褐色土 下位に砂礫を多量に含む。
  4. 10YR1.7/1 黒色土 明褐色土をブロック状に20%含む。炭化物をブロック状に5%含む。

0 (1:60) 2m

第24図 SE359・SE387・SE29・SE693

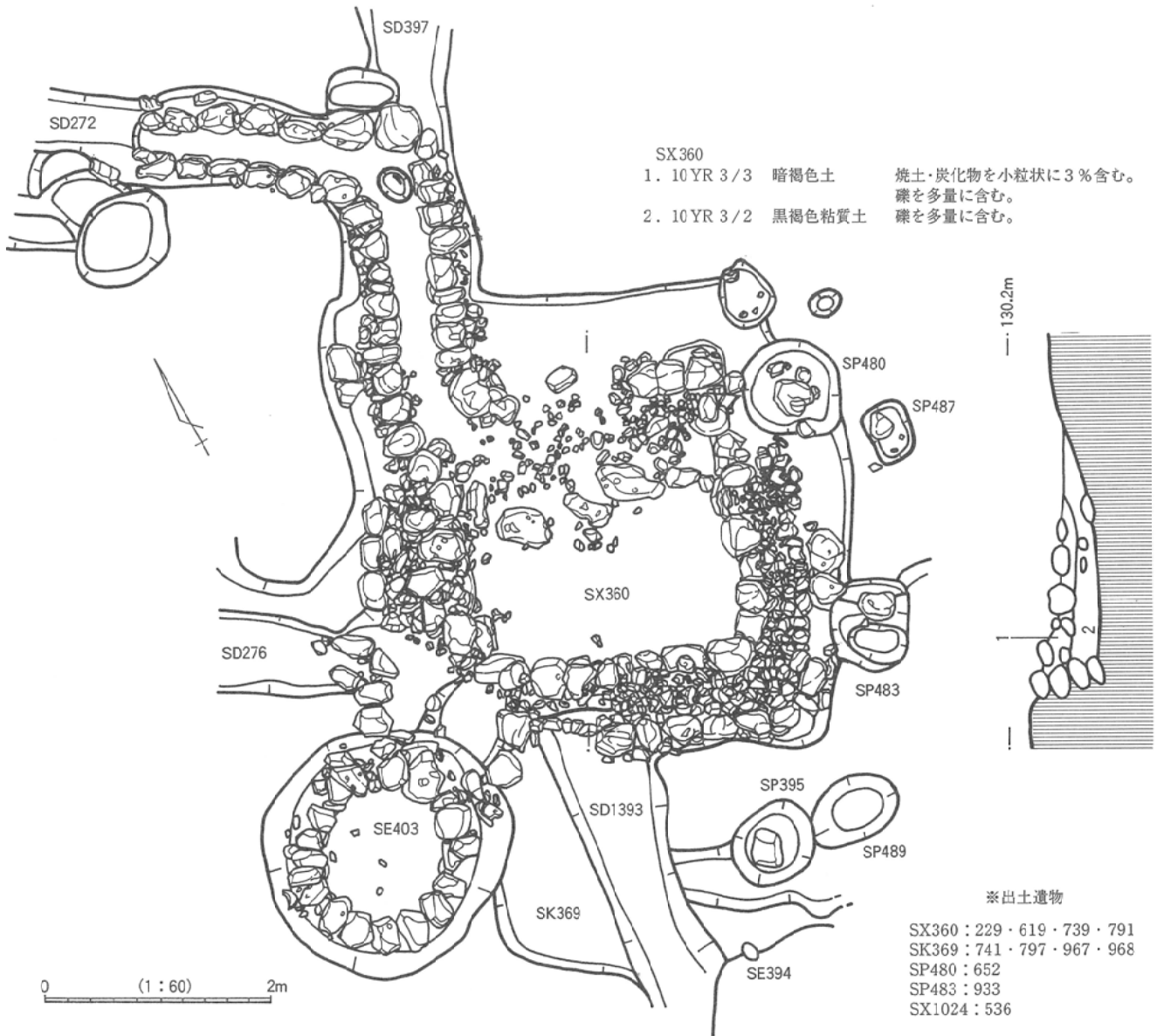
5 石組遺構

SX360 (第25図 図版16)

D-2・3区で検出された。東西4.4m、南北3.6mの「口」字形の石組である。石組は内外に計30cm前後の礫を積み重ね、その間に計10cm前後の礫を敷き詰める。北辺が破壊を受けるが、石組内側の規模は東西2.4m、南北1.5mと推測される。底面は北から南に傾斜し南縁部分で確認面からの深さ60cmをはかる。北西角でSD272と、南西角でSE403と石組を介して接合する。出土遺物から近世の水場に関連する遺構と考えられるが詳細は不明である。

SX1024 (第54図 図版16)

L-2区で検出された。東西1.35m、南北1.7mの「口」字形を呈する石組である。長径20~30cmの楕円形の礫を4段に組み、石組内側の規模は東西0.75m南北1m、確認面からの深さ50cmをはかる。機能、時期等詳細は不明である。



第25図 SX360

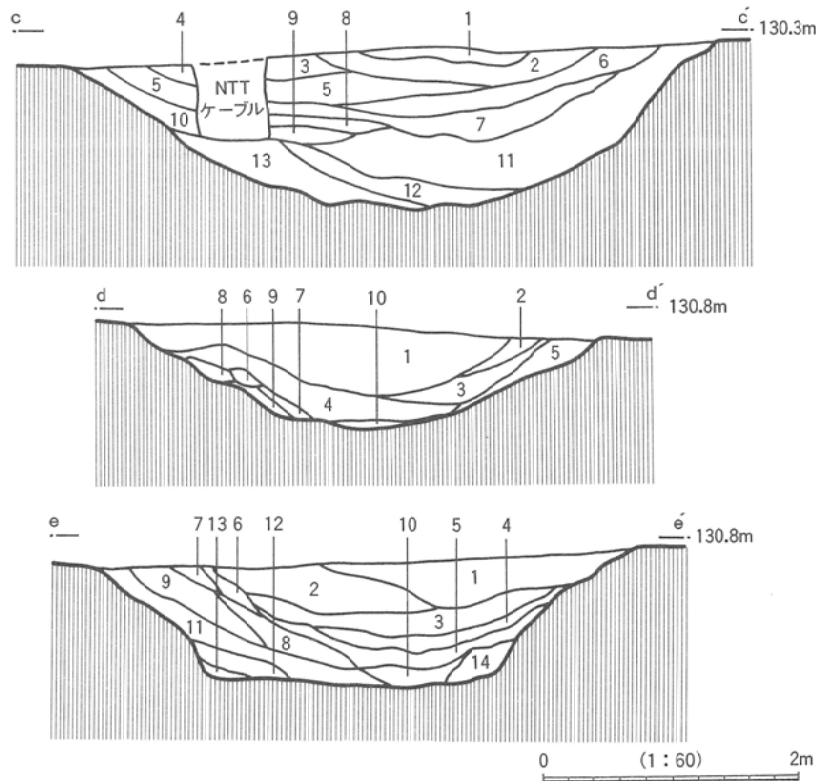
## 6 溝 跡

### SD555・SD 9 (第26・27図 図版17)

SD555はE～G-1～7区、SD 9はC～G-8・9区で検出された。これらは、調査当初それぞれ独立した溝跡として登録されたが、駐輪場および地下ケーブル埋設部分(G-7・8区)の調査区拡張によって、調査区中央をクランク状に分断する1条の溝跡であることが確認された。SD555は磁北にほぼ平行に直行し、北端は調査区外となる。G-7区で直角に曲がりSD 9として約43m直行し、C-9区でさらに直角に曲がって調査区外に続く。溝の幅はSD555で6.5～7m、SD 9で3～4mで、確認面からの深さは1.3m前後をはかり、底面は緩やかではあるが南から北に向かって低くなっている。出土遺物から近世の水路跡と考えられるが、構築時期および存続期間等、機能の詳細については今後の検討課題である。



第26図 SD555・SD 9(1)



SD555 (a - a')

- |               |        |                                     |
|---------------|--------|-------------------------------------|
| 1. 10 YR 3/2  | 黒褐色土   | 明黄褐色土を帯状に15%含む。礫を多量に含む。             |
| 2. 2.5 Y 4/2  | 暗灰黄色砂  | 暗オリーブ褐色土をブロック状に5%含む。                |
| 3. 10 YR 3/3  | 暗褐色土   | 黒褐色土及び褐色砂質土を斑状に30%含む。小さな礫を含む。       |
| 4. 10 YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 地山の細砂～砂を混入する。褐色砂質土を斑状に10%含む。        |
| 5. 10 YR 3/2  | 黒褐色粘質土 | ほぼ均質。                               |
| 6. 10 YR 2/2  | 黒褐色粘土  | 礫を多量に含む。                            |
| 7. 10 YR 3/1  | 黒褐色粘土  | ほぼ純粋。礫を含む。                          |
| 8. 10 YR 2/2  | 黒褐色土   | 暗褐色粘質土及び褐色細砂を斑状に40%含む。炭化物を粒状に含む。    |
| 9. 10 YR 3/2  | 黒褐色粘質土 | 暗褐色粘質土及び灰黄褐色細砂をブロック状に10%含む。         |
| 10. 2.5 Y 3/2 | 黒褐色砂   | 黒褐色土を斑状に3%含む。礫を多量に含む。               |
| 11. 10 YR 3/1 | 黒褐色粘土  | 地山の砂～粗砂を混入する。酸化鉄を含む。                |
| 12. 10 YR 2/1 | 黒色土    | 均質。                                 |
| 13. 10 YR 3/1 | 黒褐色土   | 黒褐色粘質土及び褐色細砂をブロック状に20%含む。炭化物を粒状に含む。 |
| 14. 10 YR 3/2 | 黒褐色細砂  | 小さな礫を多量に含む。                         |

SD555 (b - b')

- |               |           |                                     |
|---------------|-----------|-------------------------------------|
| 1. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | 褐色砂質土を斑状に5%含む。炭化物を含む。礫を少量含む。        |
| 2. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | 暗オリーブ褐色細砂を斑状に10%含む。酸化鉄を含む。          |
| 3. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | 暗オリーブ褐色細砂及びにぶい黄褐色砂質土をブロック状に10%含む。   |
| 4. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | 黒褐色粘土をブロック状に30%含む。                  |
| 5. 2.5 Y 3/3  | 暗オリーブ褐色粗砂 | 黒褐色土を帯状に40%含む。酸化鉄を含む。               |
| 6. 10 YR 3/2  | 黒褐色粘土     | 純粋。                                 |
| 7. 10 YR 3/3  | 暗褐色土      | 黒色土及び黒褐色土を斑状に20%含む。固くしめる。           |
| 8. 10 YR 5/4  | にぶい黄褐色細砂  | 酸化鉄を含む。                             |
| 9. 10 YR 2/2  | 黒褐色粘土     | 暗オリーブ褐色砂をブロック状に10%含む。酸化鉄を含む。        |
| 10. 10 YR 3/2 | 黒褐色粘土     | 黒褐色砂質土を全体に混入する。                     |
| 11. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土    | 暗オリーブ褐色砂を全体に混入する。酸化鉄を含む。            |
| 12. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土    | 褐色砂質土をブロック状に20%含む。暗オリーブ褐色砂を全体に混入する。 |
| 13. 10 YR 2/2 | 黒褐色粘土     | 純粋。                                 |
| 14. 2.5 Y 3/3 | 暗オリーブ褐色粗砂 | 酸化鉄を含む。                             |
| 15. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土    | 黒褐色粘土及び酸化鉄砂ブロックを斑状に40%含む。           |
| 16. 10 YR 4/3 | にぶい黄褐色細砂  | 均質。                                 |
| 17. 10 YR 4/3 | にぶい黄褐色細砂  | 黒褐色砂質土及び黒褐色粘土ブロックを斑状に30%含む。         |
| 18. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土    | 黒褐色粘土をブロック状に20%含む。                  |

※出土遺物

SD555 : 272・286・318・319・886・913・927・980・1188  
 SD9 : 245・289・295・572・769・863・869・907・909・914・942・1187・1196・1210

SD9 (c - c')

- |                 |        |                                                        |
|-----------------|--------|--------------------------------------------------------|
| 1. 10 YR 3/2    | 黒褐色土   | オリーブ褐色細砂を多量に含む。                                        |
| 2. 10 YR 3/2    | 黒褐色土   | 黒褐色砂質土を斑状に10%含む。褐色砂質土を斑状に20%含む。炭化物を含む。                 |
| 3. 10 YR 2/2    | 黒褐色土   | オリーブ褐色細砂及び褐色砂質土を斑状に10%含む。炭化物を粒状に含む。                    |
| 4. 10 YR 2/2    | 黒褐色土   | ほぼ均質。                                                  |
| 5. 10 YR 2/2    | 黒褐色土   | 黒色土をブロック状に10%含む。褐色砂質土を斑状に10%含む。                        |
| 6. 10 YR 2/1    | 黒色土    | オリーブ褐色細砂を含む。炭化物を含む。                                    |
| 7. 10 YR 2/2    | 黒褐色粘土  | オリーブ褐色粘土ブロックを含む。炭化物を含む。                                |
| 8. 10 YR 2/2    | 黒褐色粘質土 | 暗オリーブ褐色細砂を含む。                                          |
| 9. 10 YR 2/2    | 黒褐色粘土  | 7層より褐色を呈す。                                             |
| 10. 10 YR 2/2   | 黒褐色土   | 暗オリーブ褐色細砂を含む。黒色土をブロック状に5%含む。                           |
| 11. 10 YR 2/2   | 黒褐色砂質土 | 暗オリーブ褐色細砂をブロック状又は帯状に10%含む。にぶい黄褐色粘質土をブロック状に3%含む。酸化鉄を含む。 |
| 12. 10 YR 1.7/1 | 黒色粘質土  | 未分解有機物を含む。暗オリーブ褐色細砂及び黄褐色細砂を帯状に20%含む。                   |
| 13. 10 YR 2/2   | 黒褐色土   | 黒褐色粘土ブロックを含む。暗オリーブ褐色細砂及び黄褐色細砂を斑状に30%含む。酸化鉄を含む。         |

SD9 (d - d')

- |               |           |                            |
|---------------|-----------|----------------------------|
| 1. 10 YR 2/2  | 黒褐色土      | 黒色土を斑状に含む。炭化物を含む。          |
| 2. 10 YR 3/2  | 黒褐色土      | にぶい黄褐色細砂を全体に含む。炭化物を含む。     |
| 3. 10 YR 2/2  | 黒褐色粘土     | 炭化物を粒状に含む。                 |
| 4. 10 YR 2/2  | 黒褐色粘土     | 3層に焼土・灰を含む炭化層。             |
| 5. 10 YR 2/2  | 黒褐色土      | 褐色細砂を斑状に含む。                |
| 6. 10 YR 2/1  | 黒色粘土      | 暗オリーブ褐色細砂を全体に含む。           |
| 7. 10 YR 2/1  | 黒色粘土      | 灰黄褐色粘土をブロック状に含む。           |
| 8. 10 YR 2/2  | 黒褐色土      | 暗オリーブ褐色細砂を斑状に含む。炭化物を粒状に含む。 |
| 9. 10 YR 2/1  | 黒色粘土      | 灰黄褐色粘土を帯状に挟む。暗オリーブ褐色砂を含む。  |
| 10. 2.5 Y 3/3 | 暗オリーブ褐色細砂 | 黒褐色粘土及び褐色砂質土を斑状に含む。        |

SD9 (e - e')

- |               |        |                                      |
|---------------|--------|--------------------------------------|
| 1. 10 YR 2/2  | 黒褐色土   | にぶい黄褐色砂質土を斑状に3%含む。炭化物を含む。小さな礫を少量含む。  |
| 2. 10 YR 3/2  | 黒褐色土   | 部分的に黒褐色細砂を混入する。褐色砂質土を斑状に5%含む。炭化物を含む。 |
| 3. 10 YR 2/2  | 黒褐色粘質土 | 黒褐色細砂をブロック状に10%含む。炭化物を含む。            |
| 4. 10 YR 2/1  | 黒色粘土   | ほぼ純粋だが炭化物を若干含む。                      |
| 5. 10 YR 4/2  | 灰黄褐色粘土 | 黒色粘土及び黒褐色粘土を斑状に含む。                   |
| 6. 10 YR 3/2  | 黒褐色土   | 下位に黒褐色細砂を帯状に含む。                      |
| 7. 10 YR 2/2  | 黒褐色土   | 褐色砂質土を斑状に5%含む。                       |
| 8. 10 YR 2/2  | 黒褐色土   | 黒褐色細砂及び黒色粘土をブロック状に5%含む。              |
| 9. 10 YR 2/2  | 黒褐色土   | 褐色砂質土をブロック状に20%含む。炭化物を粒状に含む。         |
| 10. 10 YR 2/1 | 黒色粘土   | 灰黄褐色粘土をブロック状に20%含む。炭化物を含む。           |
| 11. 10 YR 2/2 | 黒褐色土   | 暗オリーブ褐色細砂を帯状に20%含む。褐色砂質土を斑状に3%含む。    |
| 12. 10 YR 2/1 | 黒色土    | 黒色粘土をブロック状に5%含む。暗オリーブ褐色細砂を帯状に10%含む。  |
| 13. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 暗オリーブ褐色細砂をブロック状に30%含む。               |
| 14. 10 YR 2/1 | 黒色粘質土  | 暗褐色細砂を含む。暗オリーブ褐色細砂をブロック状に20%含む。      |

第27図 SD555・SD9(2)

#### SD76 (第28図)

B-6~9区で南西から北東方向に直線的に31mにわたって検出された。幅30~70cm、確認面からの深さ15~20cmをはかり、立上がりの急な壁面と平坦な底面をもつ。重複するすべての遺構に切られる。遺物は須恵器、土師器、かわらけの破片が若干出土している。

#### SD82 (第28図 図版18)

C-6~9区で南西から北東方向に直線的に33mにわたって検出された。SD76と約7mの間隔をもって並走する。幅80~130cm、確認面からの深さ50~80cmをはかり、北端部分では幅2m、深さ1.05mに規模が拡大する。壁の立上がりは比較的急で、底面は平坦である。本溝跡も重複するすべての遺構に切られる。遺物は古代の土器類が多いが、かわらけも出土しており、構築は判然としないものの、埋没は近世でも比較的古い時期と考えられる。

#### SD185・191・118・25・33・81 (第29図~第31図 図版18)

A~C-4~9区で検出された。南南西から北北東方向に直線的に並走する溝跡群である。削平を受けるSD81をのぞき、溝跡の幅はいずれも60~100cm、確認面からの深さは45~85cmをはかる。SD185は、A・B-5~7区で検出、B-7~9区で検出されたSD33と一直線状となる。SD118はB-4~7区で検出、SD185と4.5~5mの間隔で並走し、B-7区で西にほぼ直角に曲がる。SD191はSD185とSD118のほぼ中間を並走する。SD25はA-7~9区で検出、SD33と6mの間隔で並走する。SD81はB・C-7・8区で検出、SD33と6m前後の間隔で並走する。遺物はSD185とSD33において近世の陶磁器を主体に出土している。

#### SD1000・1010 (第32図)

L-1~4区でほぼ磁北に沿って30mにわたり直線的に検出された。SD1000は、幅約60cm、確認面からの深さ30cm前後、SD1010は、幅約60cm、深さ15cm前後をはかる。両者ともに壁の立上がりは緩やかであり、底面は丸みをもつ。両溝跡はL-2区で交差するほかは、ほぼ接する状況で並走する。重複関係はSD1000がSD1010を切る。堆積土内からは、かわらけを主体とした近世の遺物が出土している。

#### SD397・276・272 (第33図)

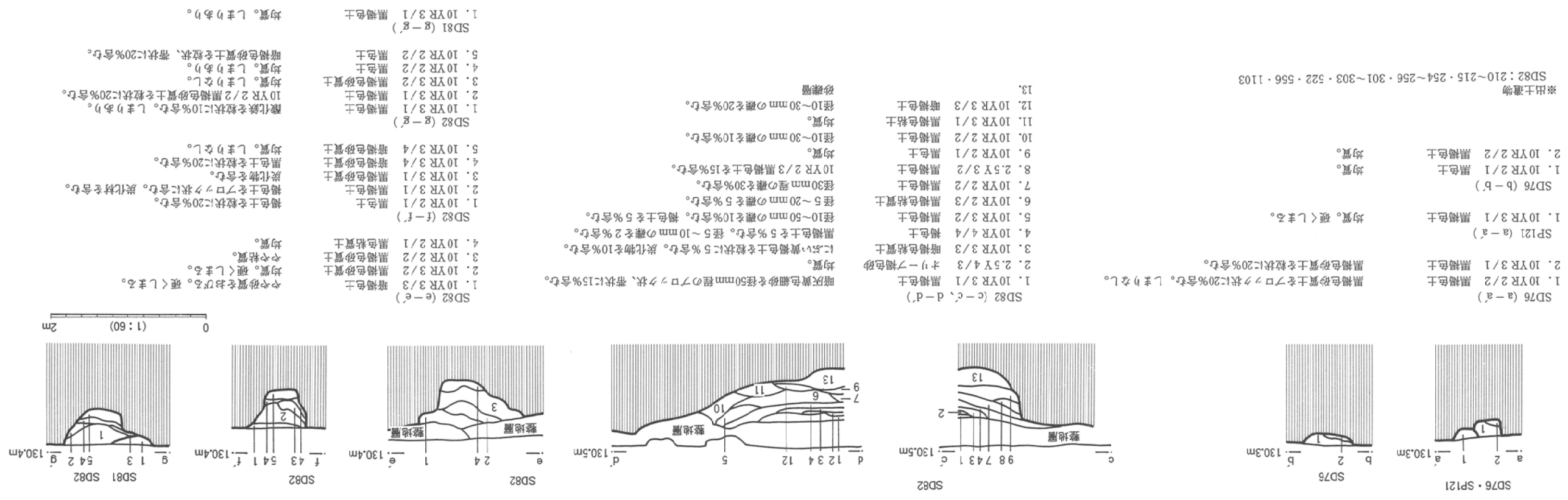
SD397は、D-2区でほぼ磁北に沿って直線的に検出、幅70~80cm、深さ約45cmをはかる。SD272に切られる。SD276は、A~D-2~4区で検出、D-3区中央付近から西ではクランク状となる。幅80~90cm、確認面からの深さ30~40cmで、SX360を切っている。SD272は、A~D-2区で東南東から西北西方向に直線的に検出された。幅70~100cm、確認面からの深さ20~30cmをはかり、D-2区でSX360から伸びる配石に接続する。遺物はSD272・276から近世の陶磁器が出土したが、SD276は重複の状況等から近現代の所産と考えられる。

#### SD41 (第34図 図版18)

B~D-3~9区で65mにわたって複雑に屈折しながら南南西から北北東方向に検出された。溝跡の幅は60~100cm、確認面からの深さは40~80cmと地点によりばらつきがある。C-3区でSD276に切られるが、その先は所在不明となる。本溝跡の所属時期は底面付近から得られた1銭硬貨および銃の実包により近現代と認められる。

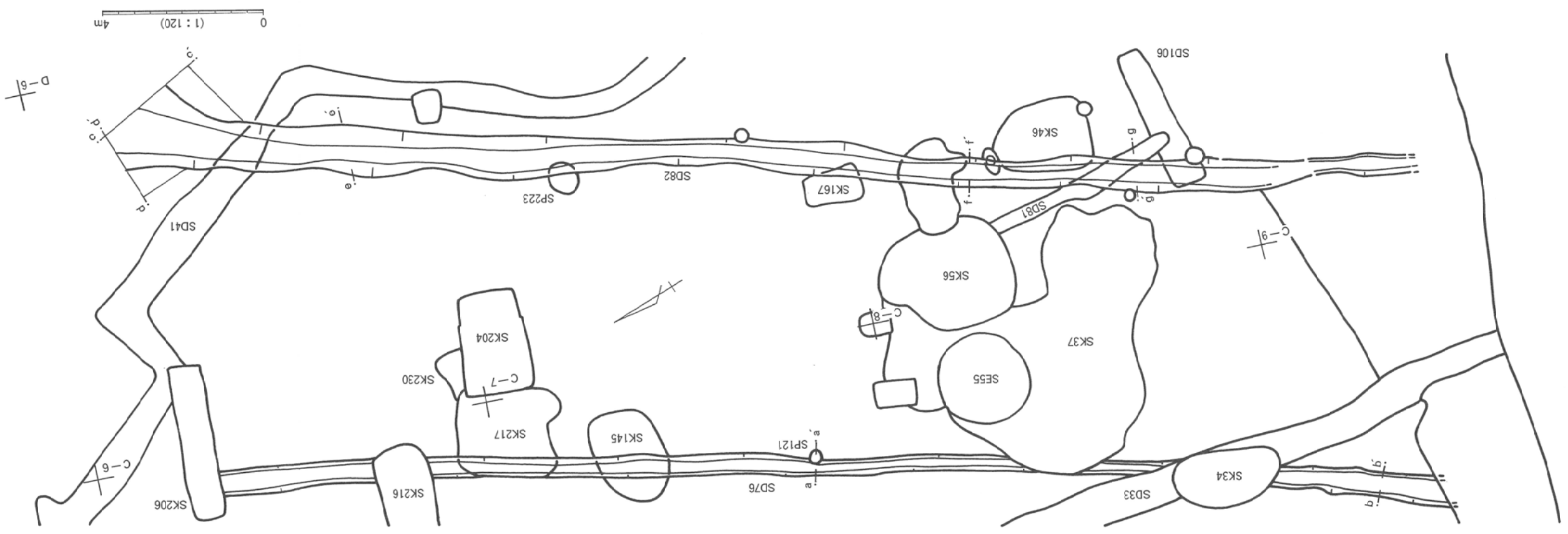


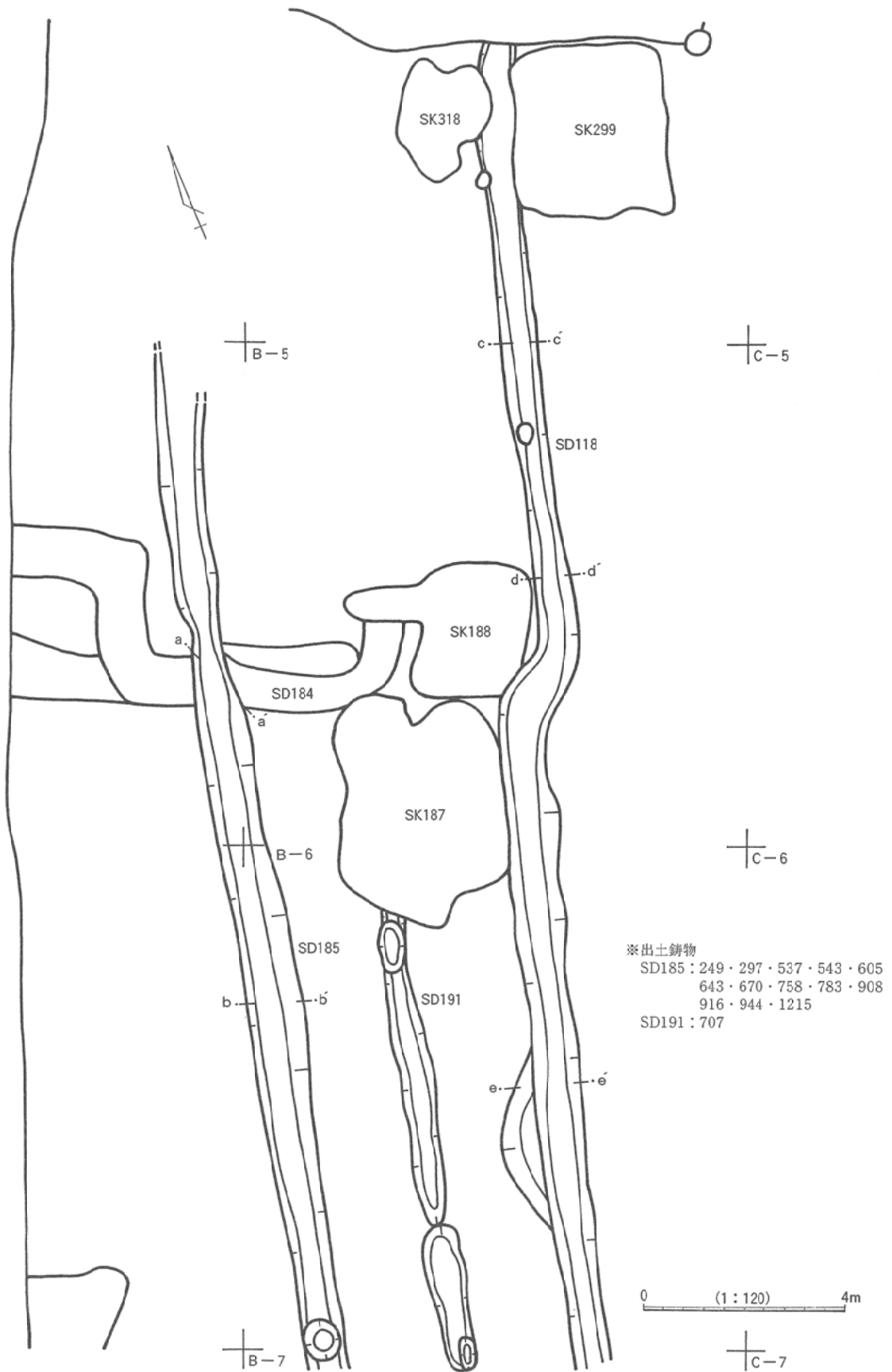
第28図 SD76・SD82



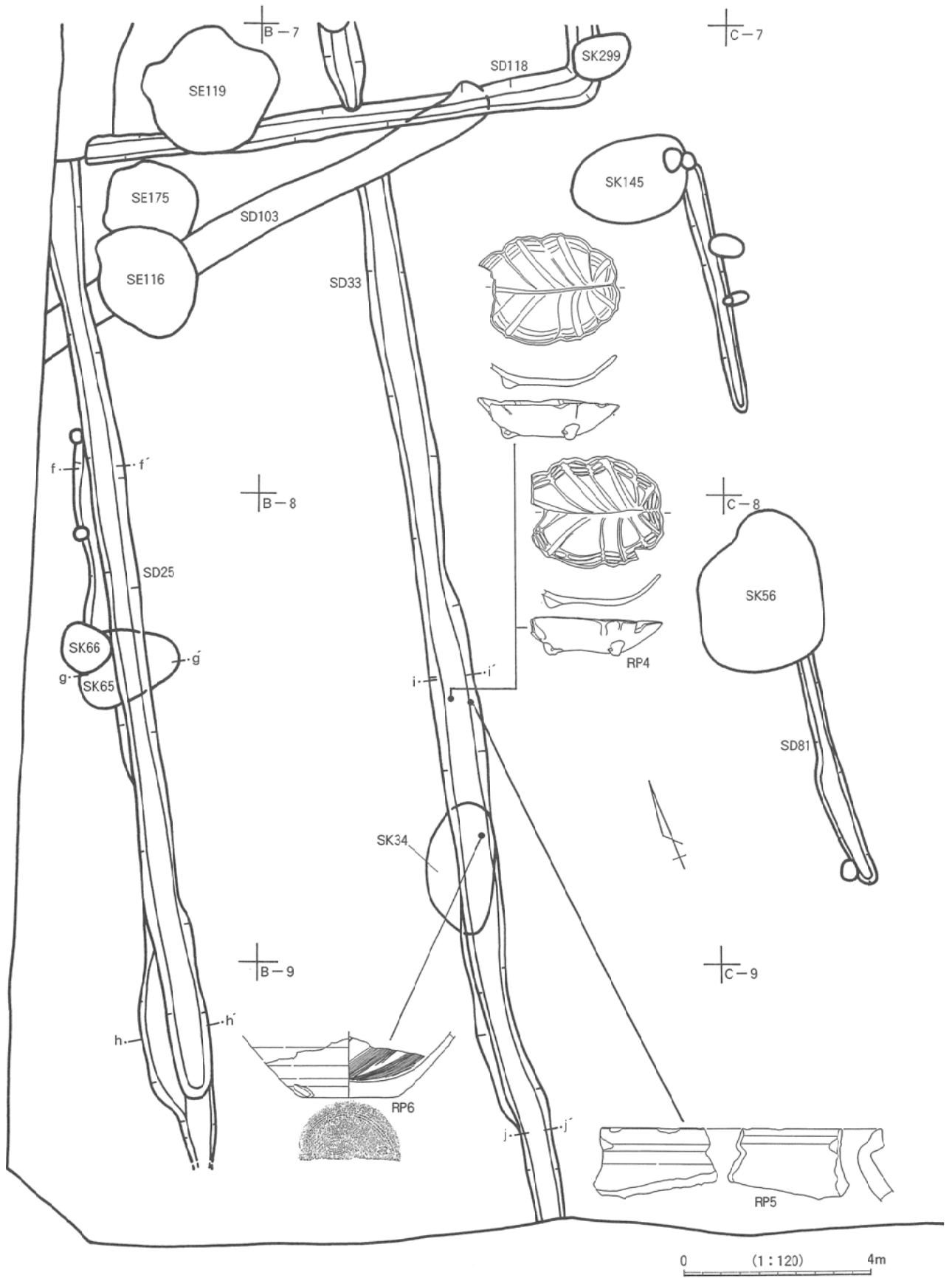
- SD76 (a-a')  
 1. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 2. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 黒褐色砂質土をプロック状に20%含む。しまりなし。  
 均質。硬くしまる。  
 黒褐色砂質土を粒状に20%含む。
- SD76 (b-b')  
 1. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 2. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 均質。硬くしまる。
- SD82 (c-c', d-d')  
 1. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 2. 2.5 Y 4/3 オリーブ褐色砂  
 3. 10 YR 3/3 暗褐色粘質土  
 4. 10 YR 4/4 褐色土  
 5. 10 YR 3/2 黒褐色土  
 6. 10 YR 2/3 黒褐色粘質土  
 7. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 8. 2.5 Y 3/2 黒褐色土  
 9. 10 YR 2/1 黒褐色土  
 10. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 11. 10 YR 3/1 黒褐色粘土  
 12. 10 YR 3/3 暗褐色土  
 13. 砂礫層
- SD82 (e-e')  
 1. 10 YR 3/3 暗褐色土  
 2. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土  
 3. 10 YR 2/2 黒褐色砂質土  
 4. 10 YR 2/1 黒色粘質土  
 均質。
- SD82 (f-f')  
 1. 10 YR 2/1 黒褐色土  
 2. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 3. 10 YR 3/1 黒褐色砂質土  
 4. 10 YR 3/4 暗褐色砂質土  
 5. 10 YR 3/4 暗褐色砂質土  
 均質。しまりなし。  
 褐色土を粒状に20%含む。炭化材を含む。  
 褐色土をプロック状を含む。炭化材を含む。  
 均質。硬くしまる。  
 やや粘質。  
 均質。
- SD81 (g-g')  
 1. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 2. 10 YR 3/1 黒褐色土  
 3. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土  
 4. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 5. 10 YR 2/2 黒褐色土  
 均質。しまりなし。  
 暗褐色砂質土を粒状に20%含む。  
 均質。しまりあり。

※出土遺物  
 SD82 : 210~215・254~256・301~303・522・556・1103

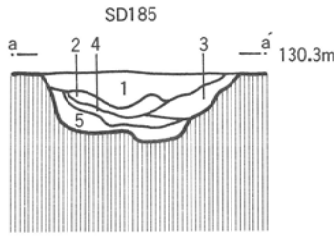




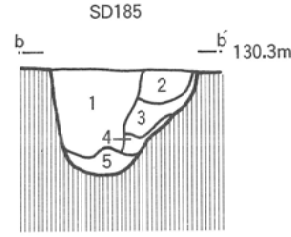
第29図 SD185・SD118



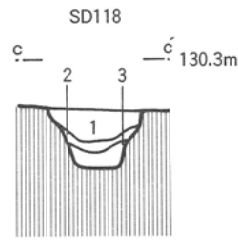
第30図 SD25・SD33



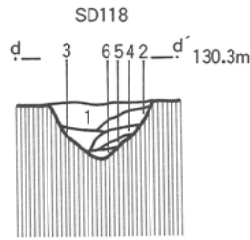
- SD185 (a-a')
- 10YR 4/3 におい黄褐色粘質土 砂混じり。黄褐色粘質土を粒状に5%含む。径5~10mmの礫を5%含む。
  - 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 1、2層間に砂層を挟む。径5~15mmの礫を5%含む。
  - 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 均質。
  - 10YR 3/2 黒褐色土 砂混じり。径5~10mmの礫を7%含む。
  - 10YR 2/2 黒褐色粘質土 炭化物を粒状に5%含む。橙色砂を粒状に1%含む。



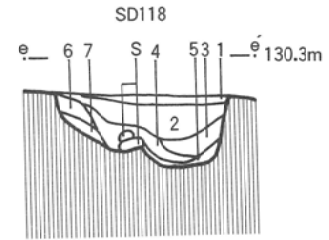
- SD185 (b-b')
- 10YR 2/2 黒褐色土 東半で径5~15mmの礫を10%含む。黄褐色砂質土を5%含む。径8~10mmの礫を含む。しまりあり。
  - 10YR 3/3 暗褐色砂 均質。
  - 10YR 5/4 におい黄褐色粘質土 均質。
  - 10YR 5/4 におい黄褐色粘質土 均質。
  - 2.5Y 4/2 暗灰黄色砂質土 1層を5%含む。



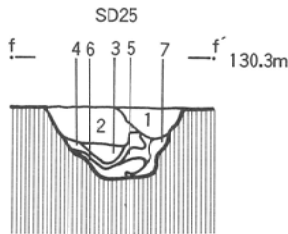
- SD118 (c-c')
- 10YR 3/1 黒褐色土 灰オリブ土をブロック状に10%含む。均質。しまりなし。
  - 10YR 3/1 黒褐色土 均質。しまりなし。
  - 2.5Y 4/3 オリブ褐色砂質土 均質。しまりなし。



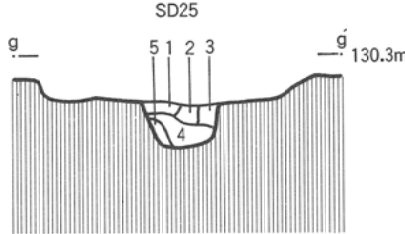
- SD118 (d-d')
- 10YR 3/1 黒褐色砂質土 灰オリブ砂質土をブロック状に40%含む。
  - 5Y 4/2 灰オリブ砂質土 黒褐色土をブロック状に20%含む。
  - 10YR 3/1 黒褐色砂質土 下に灰オリブ砂質土をブロック状に20%含む。均質。しまりなし。
  - 5Y 4/2 灰オリブ砂質土 均質。しまりなし。
  - 10YR 3/1 黒褐色砂質土 均質。しまりなし。
  - 10YR 3/3 暗褐色砂質土 均質。しまりなし。



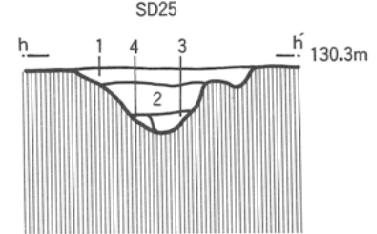
- SD118 (e-e')
- 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 酸化鉄を5%含む。下位でにおい黄褐色砂を30%含む。
  - 10YR 3/1 黒褐色粘質土 酸化鉄を含む。
  - 10YR 3/2 黒褐色砂質土 黒褐色粘質土を5%含む。しまりあり。
  - 10YR 3/1 黒褐色粘質土 黒褐色粘質土を5%含む。しまりあり。
  - 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 酸化鉄を含む。しまりあり。
  - 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 酸化鉄を含む。5層を5%含む。
  - 10YR 4/4 褐色砂質土 酸化鉄を含む。5層を5%含む。



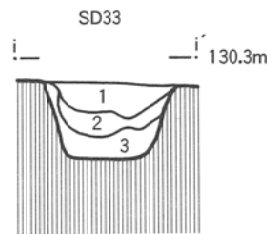
- SD25 (f-f')
- 10YR 2/1 黒色土 酸化鉄を含む。しまりあり。
  - 10YR 1.7/1 黒色砂質土 炭化物を粒状に含む。径5~20mmの礫を含む。しまりあり。1層を30%含む。
  - 10YR 4/2 灰黄褐色砂 均質。
  - 10YR 3/4 暗褐色砂 均質。
  - 10YR 2/2 黒褐色粘質土 均質。
  - 2.5Y 3/3 暗オリブ褐色砂 6層を10%含む。
  - 10YR 2/1 黒褐色砂質土 砂を10%含む。



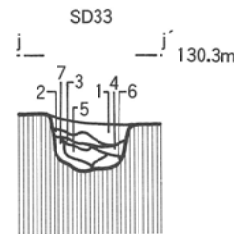
- SD25 (g-g')
- 10YR 3/1 黒褐色砂質土 10YR 3/2 黒褐色砂質土を帯状に20%含む。
  - 10YR 3/2 黒褐色土 暗褐色砂質土を粒状に20%含む。
  - 10YR 4/1 褐灰色土 均質。
  - 10YR 3/2 黒褐色砂質土 均質。
  - 10YR 3/1 黒褐色砂質土 暗褐色砂質土を帯状に20%含む。



- SD25 (h-h')
- 10YR 3/1 黒褐色砂質土 礫を含む。しまりなし。
  - 10YR 3/1 黒褐色砂 均質。硬くしまる。
  - 10YR 3/2 黒褐色砂質土 10YR 3/1 黒褐色砂質土を粒状に20%含む。
  - 10YR 3/1 黒褐色砂質土 10YR 3/2 黒褐色砂質土を粒状に20%含む。



- SD33 (i-i')
- 10YR 3/2 黒褐色粘質土 炭化物を粒状に含む。しまりあり。
  - 10YR 3/1 黒褐色粘質土 しまりあり。
  - 10YR 2/1 黒色粘質土 砂混じり。褐色粘質土を40%含む。

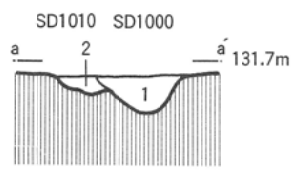
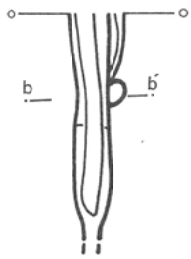
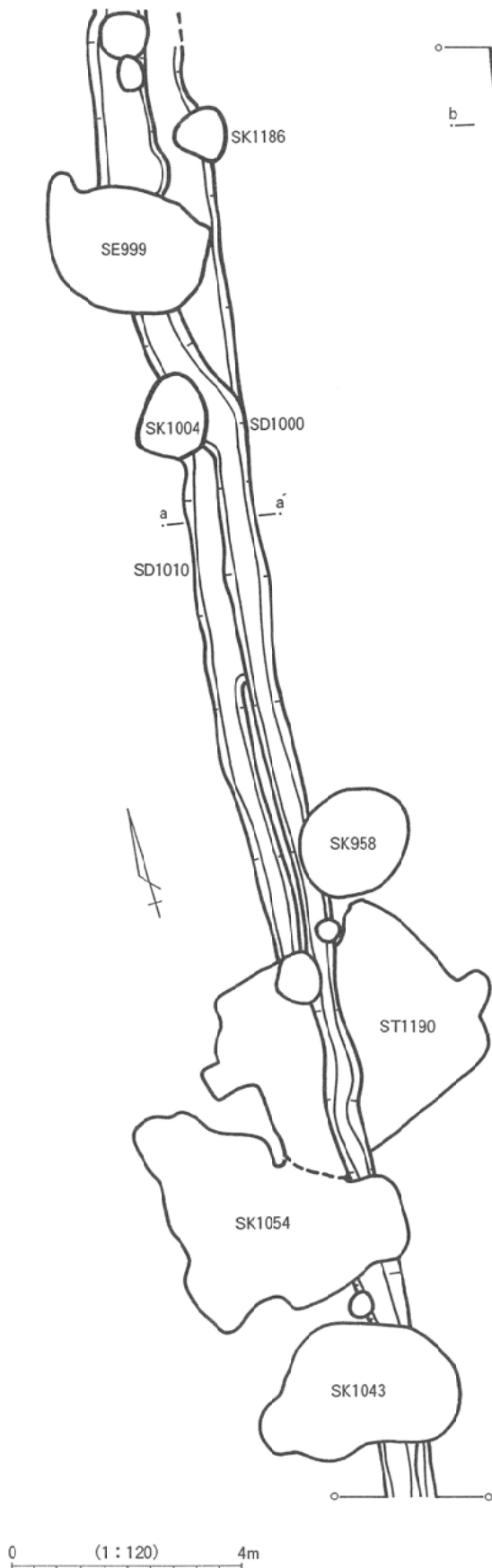


- SD33 (j-j')
- 10YR 3/2 黒褐色土 褐灰色土をブロック状に7%含む。10YR 2/2 黒褐色土を粒状に2%含む。
  - 7.5YR 3/1 黒褐色細砂 均質。
  - 10YR 3/4 暗褐色細砂 均質。
  - 10YR 3/3 暗褐色土 均質。
  - 7.5YR 3/3 暗褐色土 黒褐色土をブロック状に7%含む。
  - 10YR 2/2 黒褐色土 均質。
  - 10YR 3/1 黒褐色土 均質。

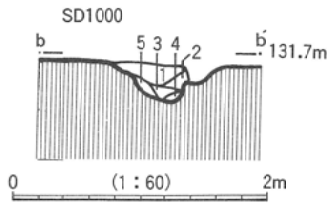
※出土遺物  
SD33: 296・298・573・594・644・645・731・738・742・746・753・771・784  
837・917・1168・1183・1211

0 (1:60) 2m

第31図 SD185・SD118・SD25・SD33土層断面



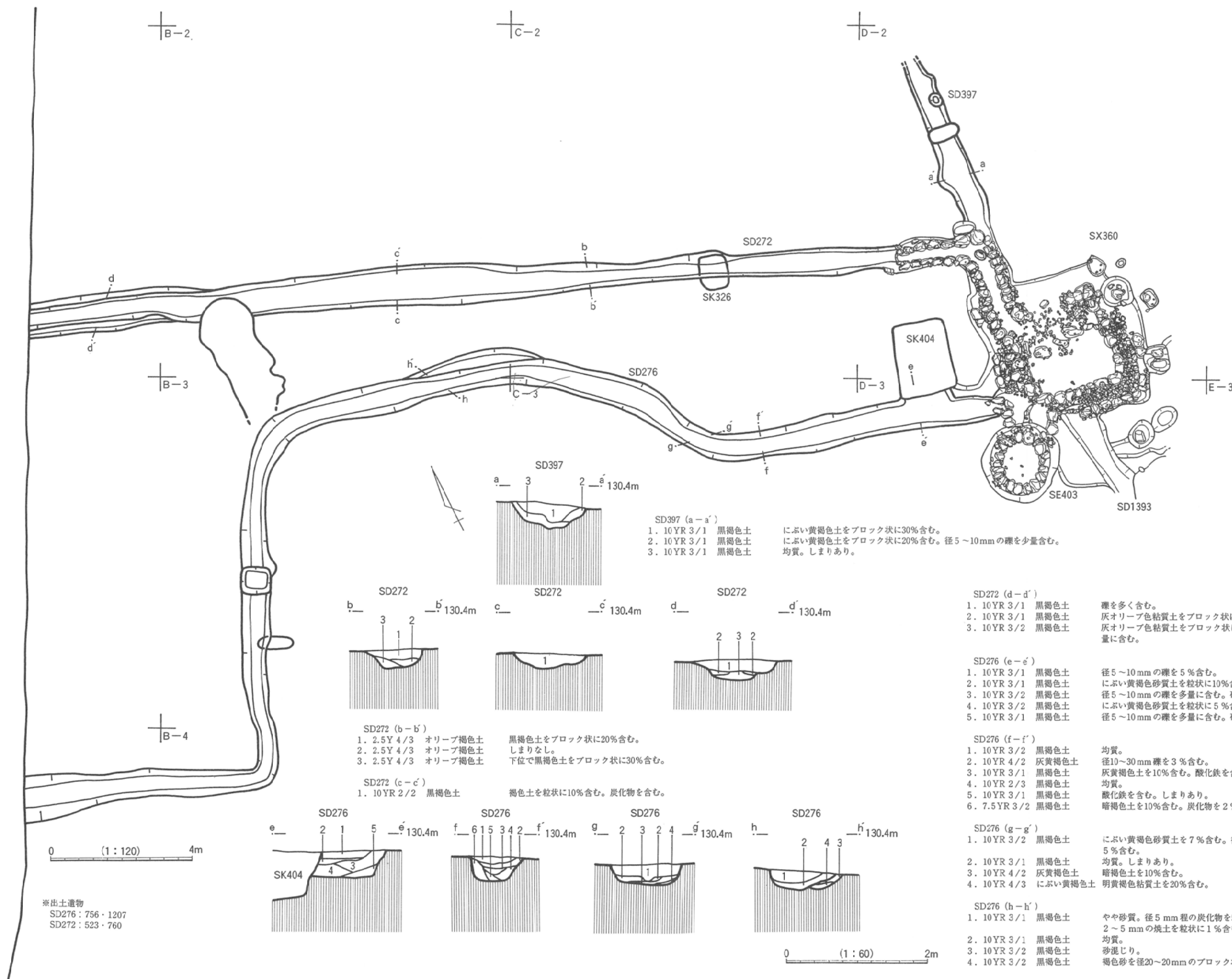
- SD1000・1010
1. 10 YR 3 / 3 暗褐色土 におい黄褐色細砂を小斑状に30%全体に含む。
  2. 10 YR 3 / 3 暗褐色土 下位に暗褐色砂質土をブロック状に20%含む。



- SD1000
1. 10 YR 3 / 1 黒褐色土 均質。
  2. 10 YR 3 / 3 暗褐色土 褐色砂質土をブロック状に20%含む。
  3. 10 YR 3 / 3 暗褐色土 ほぼ均質だが炭化物を粒状に若干含む。
  4. 10 YR 4 / 4 褐色細砂 均質。
  5. 10 YR 3 / 3 暗褐色土 均質。

※出土遺物  
 SD1000 : 503・504・813・1137・1197・1216  
 SD1010 : 499・500~502

第32図 SD1000・SD1010



※出土遺物  
SD276 : 756・1207  
SD272 : 523・760

SD397 (a-a')  
1. 10YR 3/1 黒褐色土  
2. 10YR 3/1 黒褐色土  
3. 10YR 3/1 黒褐色土  
にふい黄褐色土をブロック状に30%含む。  
にふい黄褐色土をブロック状に20%含む。径5~10mmの礫を少量含む。  
均質。しまりあり。

SD272 (d-d')  
1. 10YR 3/1 黒褐色土  
2. 10YR 3/1 黒褐色土  
3. 10YR 3/2 黒褐色土  
礫を多く含む。  
灰オリーブ色粘質土をブロック状に20%含む。  
灰オリーブ色粘質土をブロック状に40%含む。礫を多量に含む。

SD276 (e-e')  
1. 10YR 3/1 黒褐色土  
2. 10YR 3/1 黒褐色土  
3. 10YR 3/2 黒褐色土  
4. 10YR 3/2 黒褐色土  
5. 10YR 3/1 黒褐色土  
径5~10mmの礫を5%含む。  
にふい黄褐色砂質土を粒状に10%含む。  
径5~10mmの礫を多量に含む。硬くしまる。  
にふい黄褐色砂質土を粒状に5%含む。硬くしまる。  
径5~10mmの礫を多量に含む。硬くしまる。

SD272 (b-b')  
1. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色土  
2. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色土  
3. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色土  
黒褐色土をブロック状に20%含む。  
しまりなし。  
下位で黒褐色土をブロック状に30%含む。

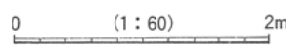
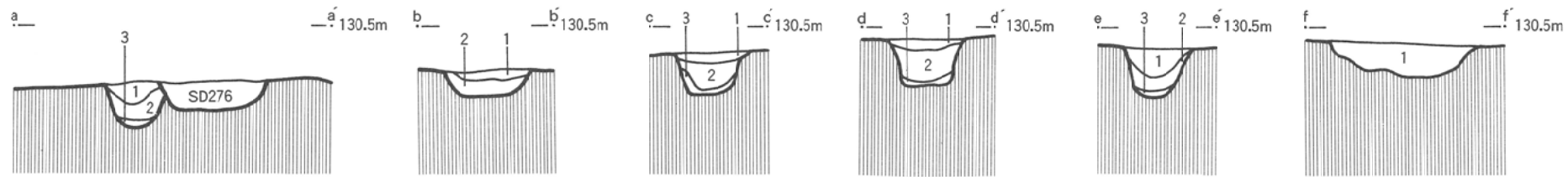
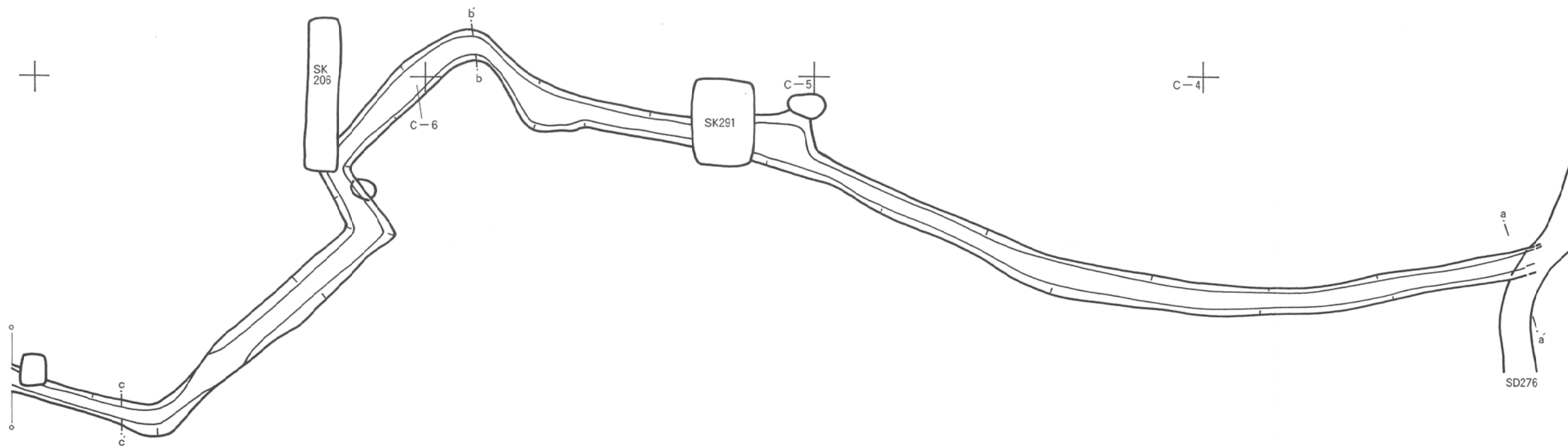
SD272 (c-c')  
1. 10YR 2/2 黒褐色土  
褐色土を粒状に10%含む。炭化物を含む。

SD276 (f-f')  
1. 10YR 3/2 黒褐色土  
2. 10YR 4/2 灰黄褐色土  
3. 10YR 3/1 黒褐色土  
4. 10YR 2/3 黒褐色土  
5. 10YR 3/1 黒褐色土  
6. 7.5YR 3/2 黒褐色土  
均質。  
径10~30mm礫を3%含む。  
灰黄褐色土を10%含む。酸化鉄を含む。しまりあり。  
均質。  
酸化鉄を含む。しまりあり。  
暗褐色土を10%含む。炭化物を2%含む。

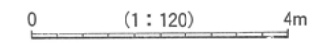
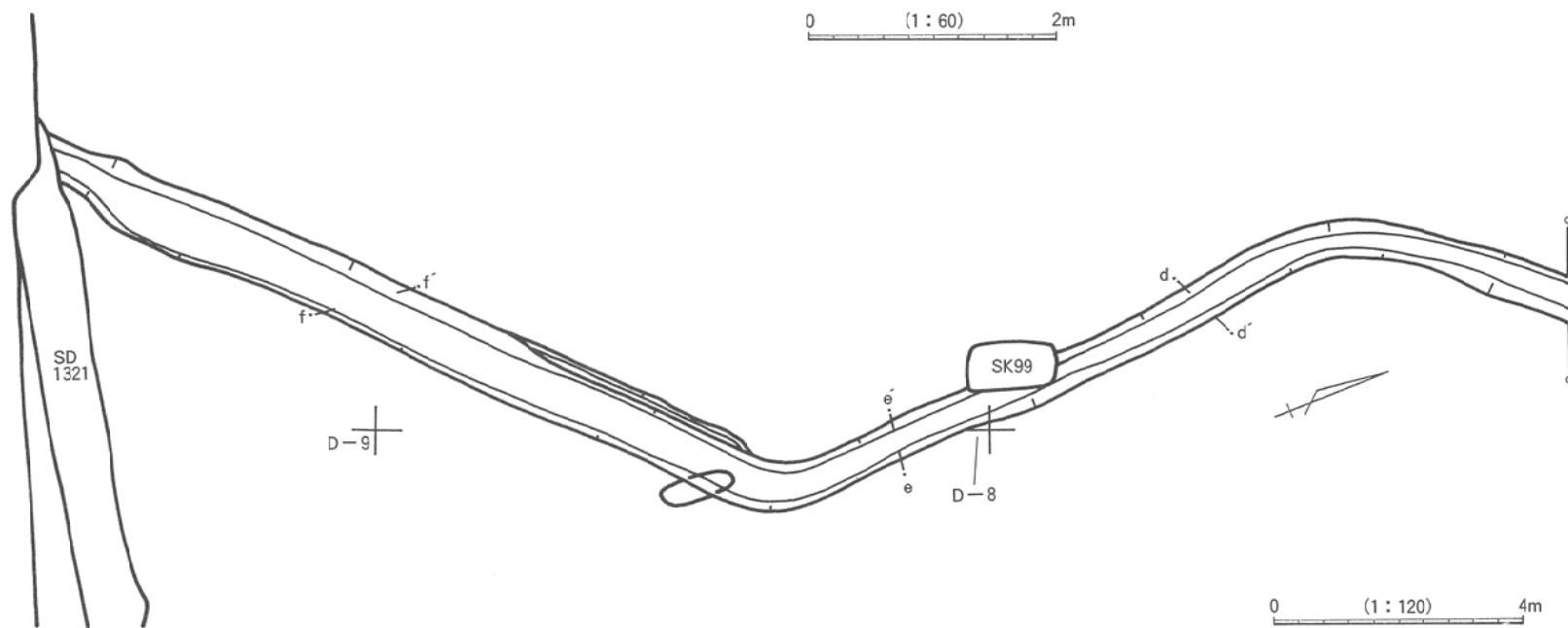
SD276 (g-g')  
1. 10YR 3/2 黒褐色土  
2. 10YR 3/1 黒褐色土  
3. 10YR 4/2 灰黄褐色土  
4. 10YR 4/3 にふい黄褐色土  
にふい黄褐色砂質土を7%含む。径5~20mmの礫を5%含む。  
均質。しまりあり。  
暗褐色土を10%含む。  
明黄褐色粘質土を20%含む。

SD276 (h-h')  
1. 10YR 3/1 黒褐色土  
2. 10YR 3/1 黒褐色土  
3. 10YR 3/2 黒褐色土  
4. 10YR 3/2 黒褐色土  
やや砂質。径5mm程の炭化物を粒状に1%含む。径2~5mmの焼土を粒状に1%含む。  
均質。  
砂混じり。  
褐色砂を径20~20mmのブロック状に5%含む。

第33図 SD397・SD276・SD272

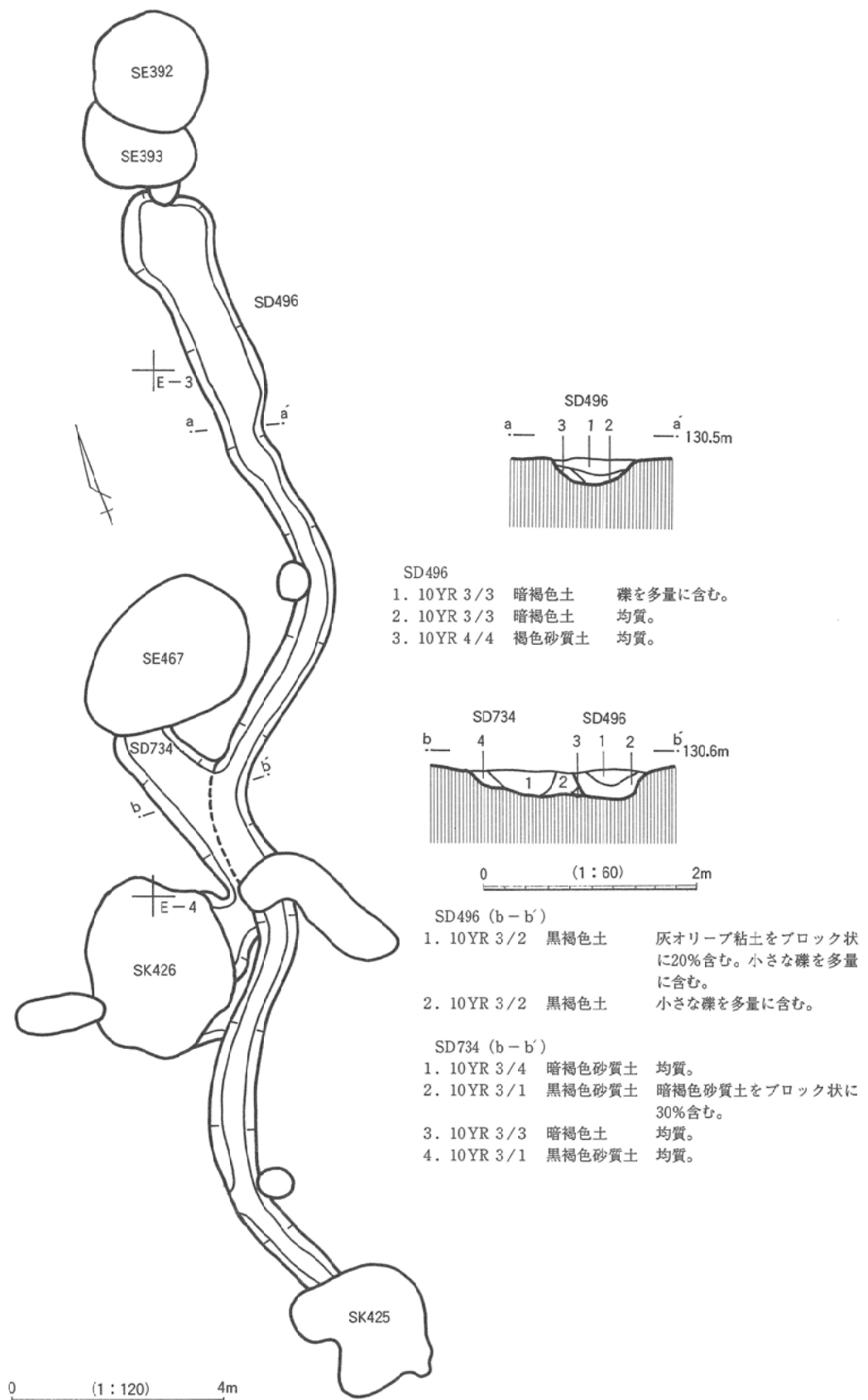


- SD41 (a-a')
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 におい黄褐色土を10%含む。
  - 10YR 3/3 暗褐色土 褐色土を5%含む。明黄褐色砂質土を10%含む。
  - 10YR 2/2 黒褐色粘質土 黄褐色土を5%含む。
- SD41 (b-b')
- 10YR 3/2 黒褐色土 地山土をブロック状に含む。
  - 10YR 3/2 黒褐色土 地山土を斑状に含む。暗オリーブ褐色細砂を筋状に含む。
- SD41 (c-c')
- 10YR 3/2 黒褐色土 径2~4mmの砂礫を含む。
  - 10YR 3/1 黒褐色土 若干粘質。炭化物を径1~5mmの粒状に5%含む。焼土を径1mmの粒状に2%含む。
  - 10YR 4/3 におい黄褐色細砂 2層を斑状に30%含む。
- SD41 (d-d')
- 10YR 3/3 暗褐色土 炭化物を含む。褐色砂質土をブロック状に含む。
  - 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物を含む。硬くしまる。
  - 10YR 2/2 黒褐色土 褐色砂質土を斑状に含む。
- SD41 (f-f')
- 10YR 3/2 黒褐色土 炭化物、礫を含む。



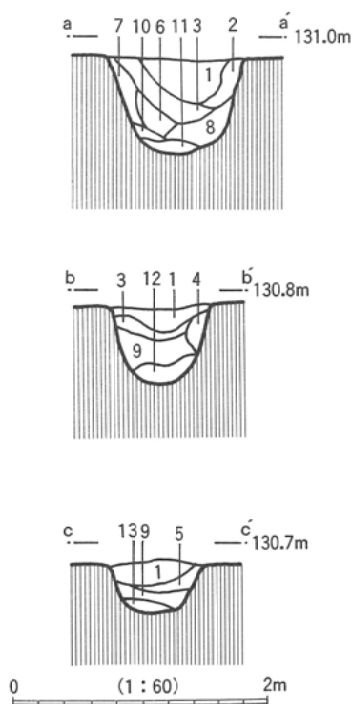
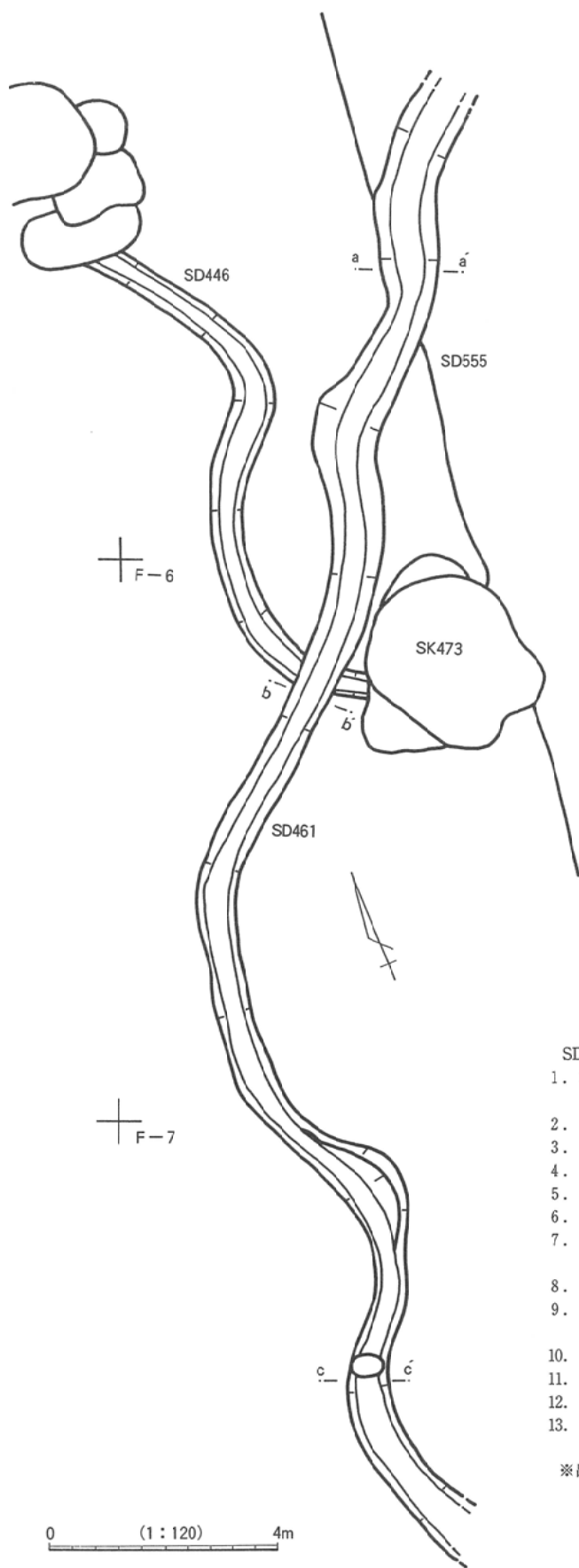
※出土遺物：252・770・785・833・836・945・946・1204

第34図 SD41



第35図 SD496

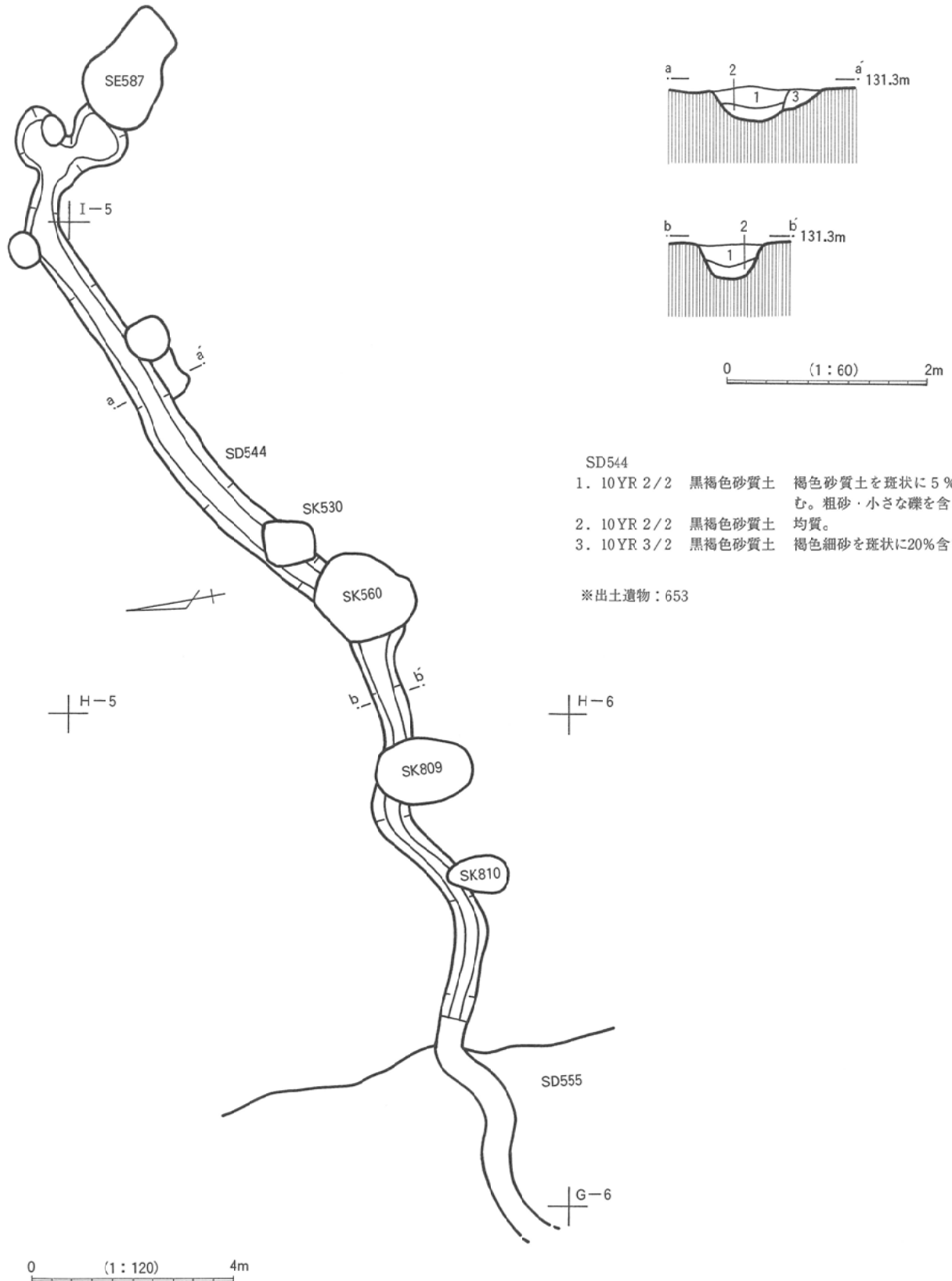




SD461

- |              |        |                              |
|--------------|--------|------------------------------|
| 1. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 褐色砂質土を粒状に5%含む。炭化物を粒状に少量含む。   |
| 2. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 褐色細砂を斑状に10%含む。               |
| 3. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 炭化物を帯状に含む。小さな礫を少量含む。         |
| 4. 10YR 3/3  | 暗褐色土   | 褐色砂質土を小粒状に3%含む。              |
| 5. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 黒色粘質土を斑状に10%含む。              |
| 6. 10YR 3/3  | 暗褐色砂質土 | 黒褐色砂質土及褐色細砂を粒状に5%含む。         |
| 7. 10YR 3/3  | 暗褐色砂質土 | 炭化物・焼土を粒状に含む。小さな礫を含む。        |
| 8. 10YR 3/3  | 暗褐色砂質土 | 褐色細砂を斑状に10%含む。               |
| 9. 10YR 2/1  | 黒色土    | 褐色砂質土を斑状に20%含む。炭化物・焼土を粒状に含む。 |
| 10. 10YR 2/3 | 黒褐色粘質土 | 暗褐色細砂をブロック状に30%含む。           |
| 11. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 小さな礫を含む。固くしまる。               |
| 12. 10YR 2/2 | 黒褐色粘質土 | 褐色土をブロック状に10%含む。             |
| 13. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 均質。                          |

※出土遺物：648・912・1203



第37図 SD544

SD496 (第35図)

E-2~4区で21mにわたって屈折しながら南南西から北北東方向に検出された。溝跡の幅は60~100cm、深さは25~30cmをはかる。近世の陶磁器類が若干出土したが、形態の特徴がSD41に類似することから、所属時期は近現代に下るものと考えられる。

SD461 (第36図)

F-5~7区で約27mにわたって屈折しながら南南西から北北東方向に検出された。SD555を切っており、幅は60~120cm、深さは45~70cmをはかる。堆積土内からは銃の空薬莖が出土しており、また形態の特徴から所属時期は近現代と考えられる。

SD544 (第37図)

G~I-4・5区で約25mにわたって屈折しながら西南西から東北東方向に検出された。SD555を切っており、幅は60~90cm、深さは35cm前後をはかる。近世の陶磁器が若干出土しているが、形態の特徴から所属時期は近現代と考えられる。

## 7 土 坑

SK21 (第38図 図版19)

A・B-8区で検出された。規模および平面形は、東西5.9m、南北3.2mの隅丸長方形を呈する。深さは55cmをはかり、平坦な底面と立上がりの急な壁面をもつ。SD25と重複しこれに切られる。かわらけの破片が若干出土しており、近世の竪穴状遺構と考えられる。

SK20 (第38図 図版19)

A・B-8・9区で検出された。SD25に切られるが、残存部分の規模および平面形は、東西4.2m、南北2.2mの隅丸長方形を呈する。深さは23cmをはかり、底面は若干の起伏があり、壁の立上がりは急である。出土遺物から近世の竪穴状遺構と考えられる。

SK1239 (第39図 図版19)

G-9区で検出された。規模および平面形は南北4.3m、東西2.5mの隅丸長方形を呈する。深さは45cmをはかり、平坦な床面壁に沿って12基の柱穴が巡る。近現代の鉄製品、ガラス片がややまとまって出土した。近現代の地下施設とみられるが詳細は不明である。

SK122 (第40図 図版19)

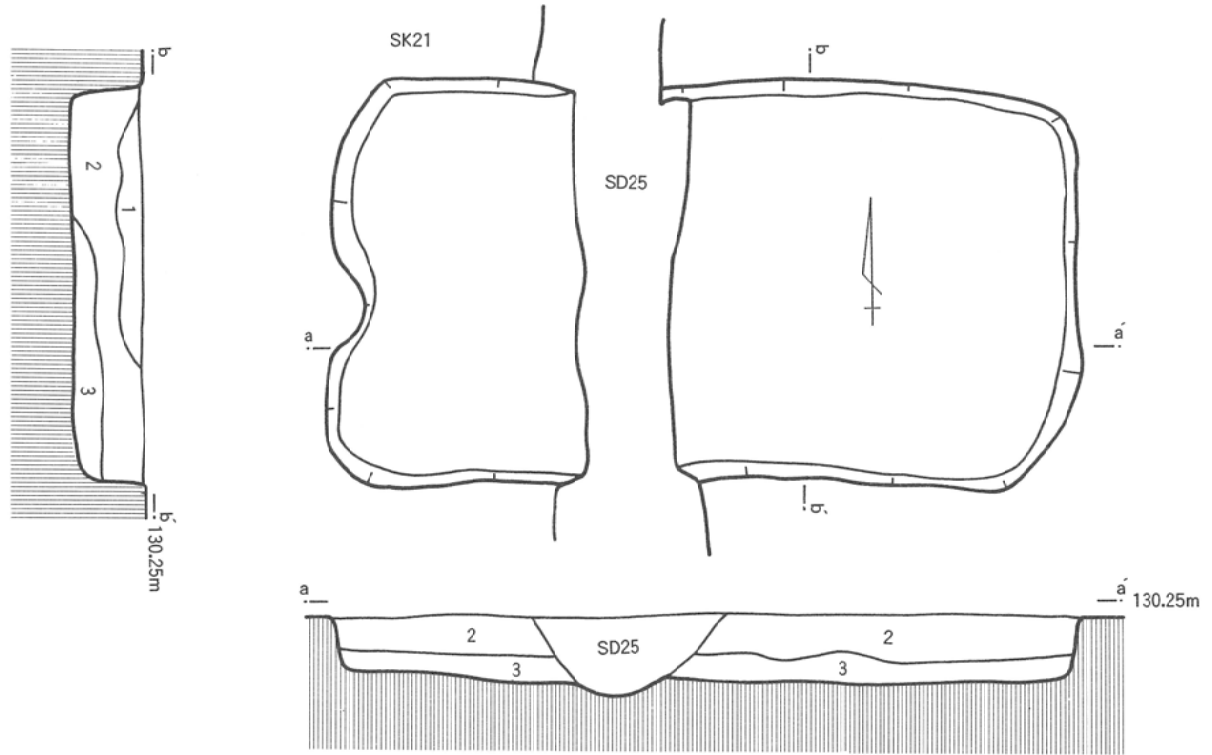
A-6区で検出された。西端をSP148に切られる。規模および平面形は、長軸2m、短軸1.45mの楕円形を呈する。確認面からの深さは71cmをはかる。近世初期の陶器を主体とした出土遺物から、近世の土坑と考えられる。

SK186 (第40図 図版19)

C・D-6・7区で検出された。西辺をSD41に切られる。残存部分の規模および平面形は、長軸3.7m、短軸2.45mの楕円形を呈する。確認面からの深さは59cmをはかる。近世初期の陶器を主体とした出土遺物から、近世の土坑と考えられる。

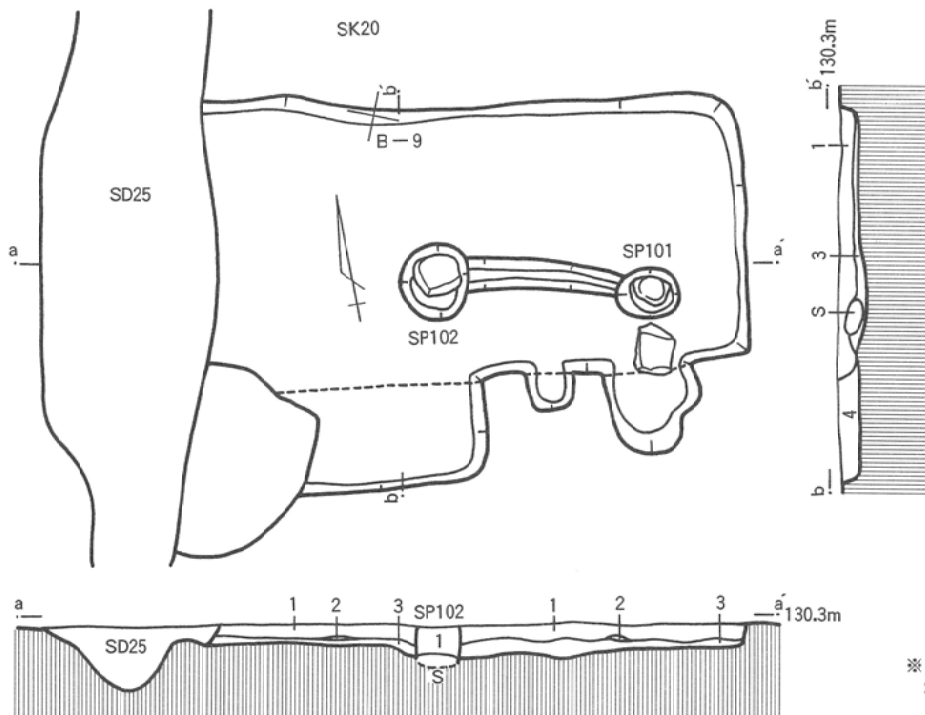
SK295 (第40図 図版19)

C-1区で検出された。規模および平面形は、長軸4.2m、短軸2.23mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは48cmをはかり、底面には若干の起伏があり、壁の立上がりは急である。



SK21

- |              |        |                                |
|--------------|--------|--------------------------------|
| 1. 10 YR 3/3 | 暗褐色砂質土 | 礫を多量に含む。                       |
| 2. 10 YR 2/1 | 黒色砂質土  | 黒褐色砂質土をブロック状に30%含む。            |
| 3. 10 YR 2/2 | 黒褐色砂質土 | 黒色土を斑状に20%含む。暗褐色土をブロック状に10%含む。 |



※出土遺物  
SK20 : 6

SK20

- |              |        |                        |
|--------------|--------|------------------------|
| 1. 10 YR 3/3 | 暗褐色砂質土 | 礫を含む。黒褐色土を粒状に20%含む。    |
| 2. 10 YR 3/4 | 黒褐色砂   | 均質。                    |
| 3. 10 YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 均質。地山か？                |
| 4. 10 YR 2/2 | 黒褐色砂質土 | 黒色土を粒状に20%含む。          |
| SP102        |        |                        |
| 1. 10 YR 2/1 | 黒色土    | 暗褐色砂質土、暗褐色砂を粒状に各20%含む。 |

0 (1:60) 2m

第38図 SK20・SK21

遺物は近世初期の所産とみられる陶磁器がまとまって出土した。

SK187 (第41図)

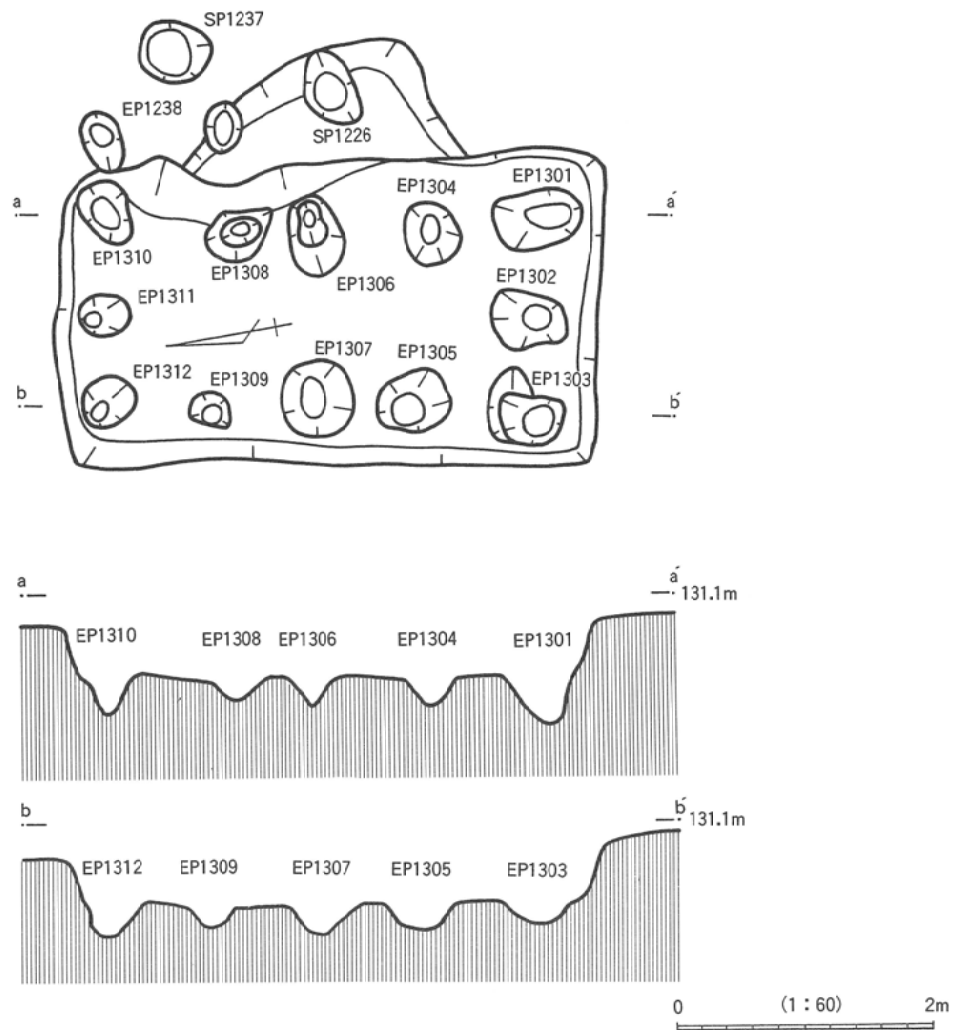
B-5・6区で検出された。SK188とSD118を切っている。規模および平面形は長辺4.85m、短辺3.5mの不整隅丸長方形を呈する。底面は南半で一段低くなり、壁の立上がりは比較的緩やかである。深さは70cmをはかる。出土遺物から近世の土坑と考えられる。

SK188 (第41図)

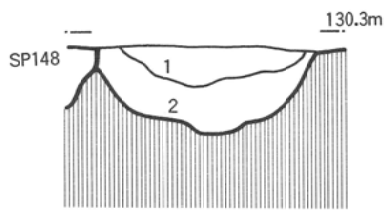
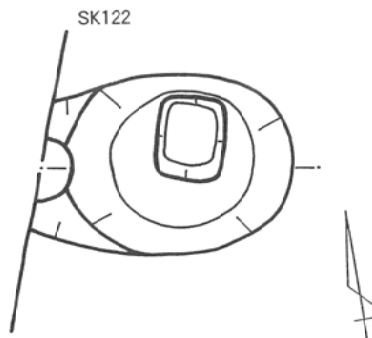
B-5区で検出された。SK188とSD118に切られている。規模および平面形は長辺2.7m、短辺2.15mの不整隅丸長方形を呈し、西辺北半に長さ1.6m、幅0.7mの溝状の張り出しをもつ。底面は平坦であるが、北東角で楕円形に落ち込む。壁の立上がりは比較的緩やかで、深さは45~60cmをはかる。出土遺物から近世の土坑と考えられる。

SK56 (第42図 図版20)

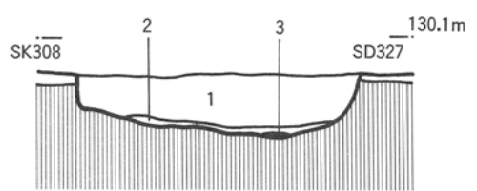
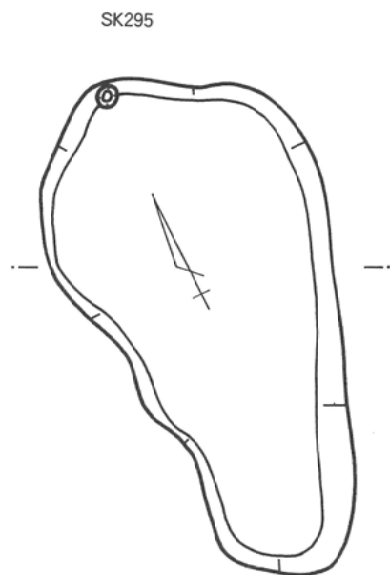
B・C-8区で検出された。SK37を切っている。規模および平面形は長軸3.4m、短軸2.7mの不整楕円形を呈する。底面には起伏があり、壁の立上がりは比較的急である。深さは50cmをはかる。出土遺物から近世の土坑と考えられる。



第39図 SK1239

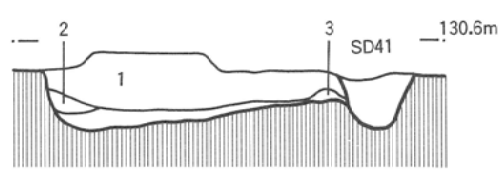
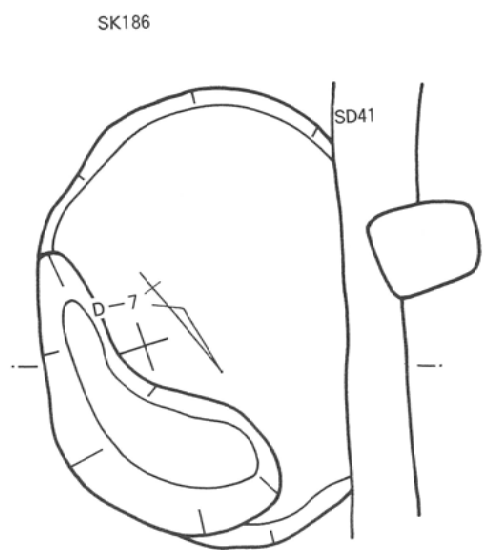


SK122  
 1. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色土を粒状に20%含む。炭化材を含む。  
 2. 10YR 3/1 黒褐色土 均質で硬くしまる。炭化材を含む。



SK295  
 1. 10YR 2/1 黒色土 炭化物、礫を多量に含む。  
 2. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色砂質土をブロック状に20%含む。  
 3. 10YR 4/6 褐色砂質土 均質。しまりなし。

※出土遺物  
 SK122: 612・672・673・891・1173  
 SK186: 650・736・787・892・953・1199  
 SK295: 595・599・721・722・723・793・794・1129



SK186  
 1. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 炭化材を5%含む。焼土を粒状に2%含む。径5~10mmの礫を5%含む。  
 2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 粗砂を20%含む。  
 3. 10YR 3/1 黒褐色粘質土 炭化材を1%含む。

0 (1:60) 2m

第40図 SK122・SK186・SK295



SK 37 (第42図 図版20)

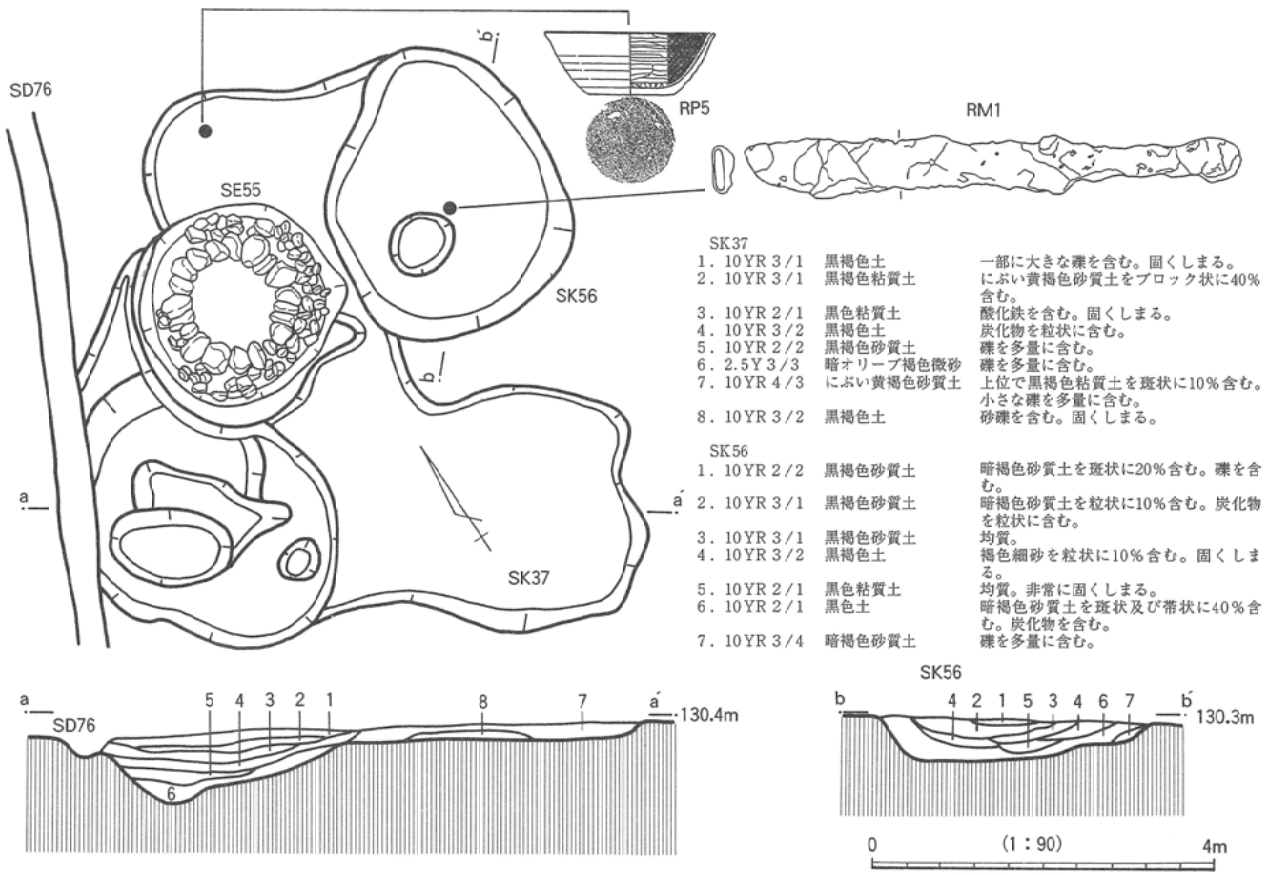
B・C-7・8区で検出された。SK56、SE55、SD76に切られている。規模および平面形は東西6.5m、南北6.4mの不整形を呈する。当初ひとつの土坑として調査をすすめたが、断面観察から南西角部分が本体を切る独立した土坑であることが確認された。SK37本体は深さ20cmで平坦な底面をもち、その出土遺物から古代にまで遡る可能性がある。

SK502・1390・522 (第43図 図版19)

F-4・5区で重複して検出された。各土坑の新旧関係はSK502、1390、522の順で新しくなる。またいずれの土坑もSD555を切っている。残存部分の規模、平面形はSK502が長軸2.3m、短軸1.5m、深さ55cmの楕円形、SK1390が長軸1.7m、短軸1.3m、深さ35cmのおそらく楕円形、SK522が長軸3.5m、短軸2.4mの不整形長方形と考えられる。出土遺物は、SK502並びにSK522から近世初期の陶磁器がややまとまって出土した。

SK787~790 (第44図 図版20)

H-5区で重複して検出された。新旧関係は、SK787・789が788・790より新しい。平面形は不整な楕円形となり、規模は最大のSK790で長軸3.1m、短軸2m、最小のSK787で長軸1.3m、短軸1.1m、深さは、40~70cmをはかる。遺物では、各土坑とも近世の陶磁器のほか、寛永通宝以前の銭貨の出土が目立つ。出土遺物に時期差がほとんどみられず、土層の堆積状況も類似することから、これらの土坑群は、比較的時間をおかず形成されたとみられる。



第42図 SK 37・SK 56



SK535 (第44図)

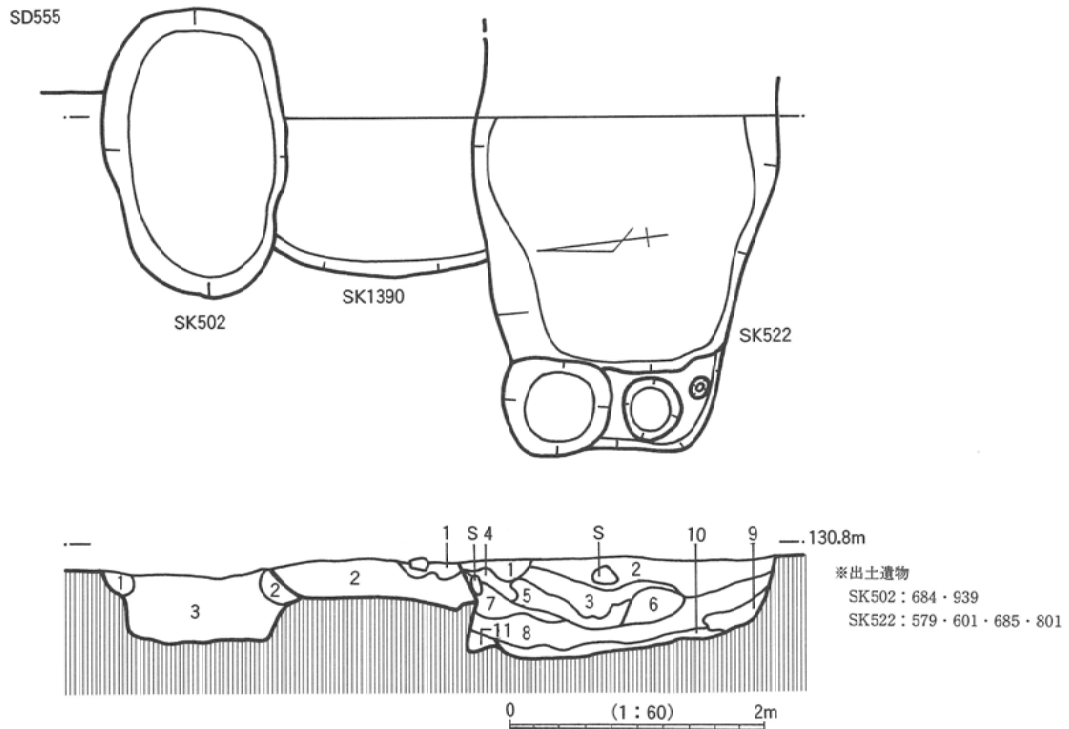
H-4区で検出された。規模および平面形は東西0.93m、南北1.05mの不整隅丸方形を呈する。底面は不安定であり、壁の立上がりは北壁を除き急である。深さは42cmをはかる。堆積土内より永楽通宝が4枚出土しており、近世の土坑と考えられる。

SK1296 (第45図 図版20)

F・G-9区で検出された。西壁をSD1289に切られる。規模および平面形は長軸2.3m、短軸1.3mの楕円形を呈する。底面は起伏があり、壁の立上がりは緩やかである。深さは24cmをはかる。堆積土内よりかわらけがまとまって出土しており、近世の土坑と考えられる。

SK1228 (第45図 図版20)

I-9区で検出された。東半をSD1227に切られる。規模および平面形は長軸2.1m、短軸0.55mの長楕円形を呈する。底面は不安定であり、壁の立上がりは急である。深さは37cmをはかる。



※出土遺物  
SK502: 684・939  
SK522: 579・601・685・801

- |              |        |                                              |
|--------------|--------|----------------------------------------------|
| SK502        |        |                                              |
| 1. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 暗褐色砂質土を斑状に40%含む。                             |
| 2. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 暗褐色砂質土、黒色土を斑状に含む。                            |
| 3. N 2/0     | 黒色土    | 炭化物を多量に含む。灰黄褐色細砂、暗褐色砂質土をブロック状に含む。焼土粒を含む。     |
| SK1390       |        |                                              |
| 1. 10YR 2/2  | 黒褐色土   | 粗砂、小礫を含む。硬くしまる。                              |
| 2. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 暗褐色砂質土、褐色粘質土をブロック状に20%含む。                    |
| SK522        |        |                                              |
| 1. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 礫を含む。炭化物、にぶい黄橙色粘土をブロック状に5%含む。                |
| 2. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 粗砂、礫、炭化物を含む。褐色細砂を斑状に10%含む。                   |
| 3. 10YR 3/2  | 黒褐色砂質土 | 黒褐色、灰黄褐色、にぶい黄橙色粘土を斑状に含む。層上位に粗砂、小礫を含む。炭化物を含む。 |
| 4. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | にぶい黄褐色粘質土をブロック状に5%含む。                        |
| 5. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 灰黄褐色、にぶい黄橙色粘土をブロック状に50%含む。                   |
| 6. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | やや粘質。にぶい黄褐色粘土を斑状に10%含む。                      |
| 7. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 炭化物を含む。                                      |
| 8. 10YR 2/2  | 黒褐色土   | やや砂質。褐色砂質土を斑状に10%含む。小礫を含む。                   |
| 9. 10YR 3/3  | 暗褐色土   | にぶい黄褐色粘質土、同砂質土をブロック状に50%含む。                  |
| 10. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 褐色細砂をブロック状に30%含む。                            |
| 11. 10YR 2/2 | 黒褐色土   | 暗褐色砂質土を斑状に10%含む。                             |

第43図 SK502・SK1390・SK522

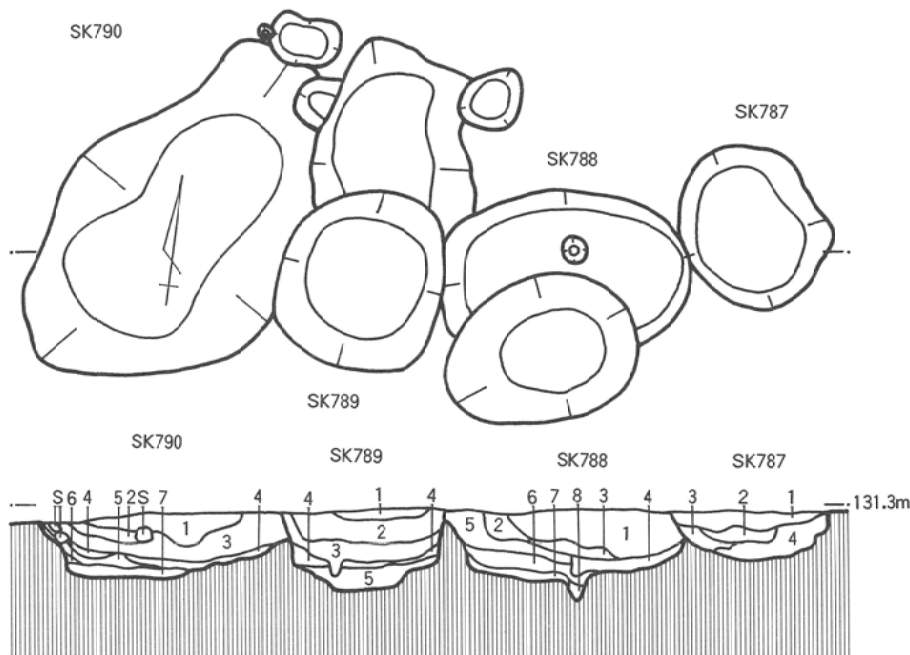
堆積土内より永楽通宝が6枚まとまって出土しており、近世の土坑と考えられる。

SK604 (第45図 図版22)

I・J-3区で検出された。規模および平面形は長軸3.75m、短軸2.3mで中央がくびれる瓢形を呈する。底面は起伏があり、壁の立上がりは急である。深さは58cmをはかる。堆積土内から出土した陶器、銭貨から近世の土坑と考えられる。

SK602 (第45図 図版22)

J-4区で検出された。規模および平面形は長軸2.4m、短軸1.6mの不整楕円形を呈する。底



- SK787
1. 10YR 2/2 黒褐色土
  2. 10YR 3/2 黒褐色土
  3. 10YR 3/2 黒褐色土
  4. 10YR 2/2 黒褐色土

黒色土をブロック状に30%含む。炭化物を含む。  
 におい黄褐色砂質土を斑状に10%含む。細砂含む。硬くしまる。  
 炭化物を含む。焼土を斑状に含む。褐色細砂を斑状に5%含む。  
 焼土を粒状に含む。褐色細砂を斑状に3%含む。

- ※出土遺物  
 SK787 : 1006  
 SK788 : 563・631・651・691・873・1007・1181  
 SK789 : 734・1008  
 SK790 : 1009・1010・1011  
 SK535 : 972~975

- SK788
1. 10YR 2/2 黒褐色土
  2. 10YR 2/2 黒褐色土
  3. 10YR 4/4 褐色細砂
  4. 10YR 2/3 黒褐色土
  5. 10YR 2/2 黒褐色土
  6. 10YR 2/1 黒色土
  7. 10YR 2/3 黒褐色砂質土
  8. 10YR 3/4 暗褐色細砂

炭化物を含む。焼土を斑状に含む。褐色砂質土を斑状に5%含む。  
 炭化物を含む。  
 黒褐色土をブロック状に30%含む。  
 暗褐色粘質土をブロック状に5%含む。褐色細砂を斑状に10%含む。  
 炭化物を含む。焼土を斑状に含む。褐色細砂を斑状に10%含む。  
 暗褐色粘質土を斑状に5%含む。褐色細砂をブロック状に20%含む。  
 暗褐色粘質土を斑状に10%含む。褐色細砂を斑状に10%含む。  
 黒褐色土を粒状に5%含む。

- SK789
1. 10YR 2/1 黒色土
  2. 10YR 2/1 黒色土
  3. 10YR 2/1 黒色土
  4. 10YR 2/2 黒褐色土
  5. 10YR 3/2 黒褐色砂質土

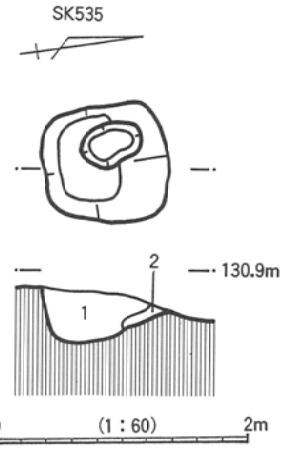
炭化物、焼土粒を斑状に含む。黒褐色土をブロック状に50%含む。  
 炭化物、焼土粒を20%含む。におい黄褐色砂質土、黒褐色土をブロック状に5%含む。  
 炭化物を多量に含む。  
 炭化物を含む。暗褐色土を点状に3%含む。  
 黒褐色土、におい黄褐色砂を斑状に10%含む。

- SK790
1. 10YR 3/2 黒褐色砂質土
  2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土
  3. 10YR 3/2 黒褐色砂質土
  4. 10YR 2/2 黒褐色土
  5. 10YR 3/3 暗褐色粘質土
  6. 10YR 3/3 暗褐色粘質土
  7. 10YR 3/3 暗褐色砂質土

炭化物、小礫を含む。におい黄褐色砂を斑状に5%含む。  
 砂、粗砂を層上位を中心に含む。礫を含む。  
 炭化物、小礫を含む。黒褐色土、におい黄褐色砂をブロック状に5%含む。酸化鉄を含む。  
 炭化物を含む。暗褐色砂を斑状に10%含む。  
 黒褐色土、におい黄褐色砂をブロック状に30%含む。  
 細砂を含む。褐色砂質土を斑状に5%含む。

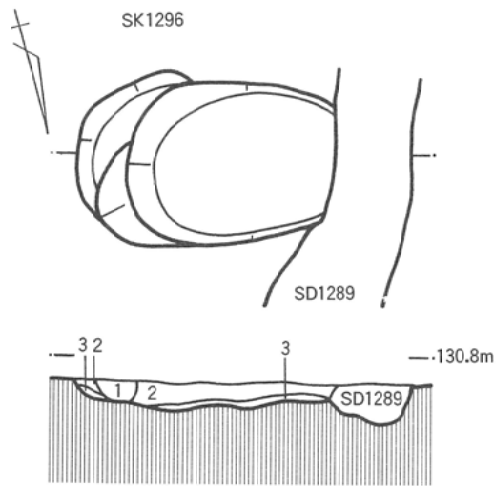
- SK535
1. 10YR 2/2 黒褐色砂質土
  2. 10YR 3/3 暗褐色土

暗褐色土をブロック状に30%含む。炭化物を小粒状に含む。  
 1層を斑状に10%含む。炭化物を含む。

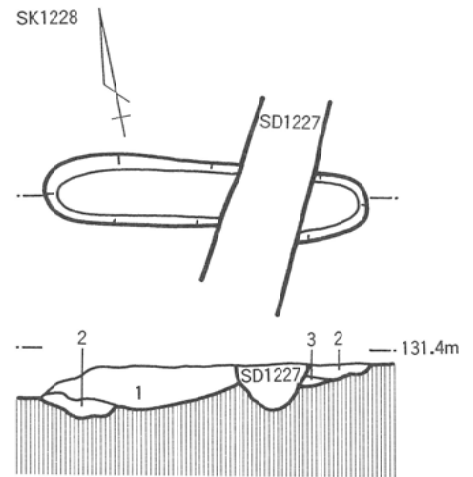


第44図 SK787・SK788・SK789・SK790・SK535

検出された遺構

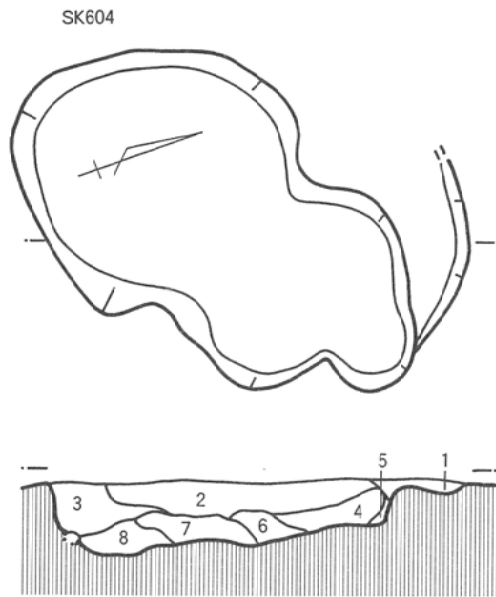


※出土遺物  
SK1296 : 512~516  
SK1228 : 1028~1033

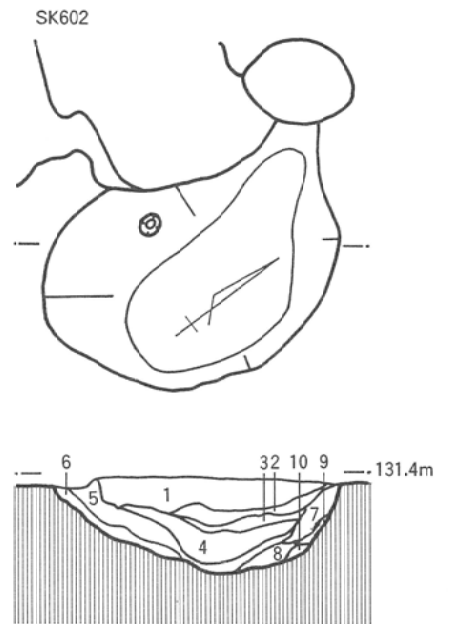


- SK1296
- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 10 YR 2/2 黒褐色土 | ほぼ均質。            |
| 2. 10 YR 2/3 黒褐色土 | 径10~20mmの礫を含む。   |
| 3. 10 YR 2/3 黒褐色土 | 褐色土をブロック状に20%含む。 |

- SK1228
- |                   |                                  |
|-------------------|----------------------------------|
| 1. 10 YR 2/1 黒色土  | ほぼ均質。炭化物をブロック状に含む。               |
| 2. 10 YR 3/1 黒褐色土 | 径10~30mmの礫を多量に含む。褐色砂をブロック状に5%含む。 |
| 3. 10 YR 4/4 褐色砂  | 黒色土をブロック状に3%含む。                  |



※出土遺物  
SK604 : 608・983・984  
SK602 : 539・613・982



- SK604
- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| 1. 10 YR 2/2 黒褐色粘質土 | 均質。                              |
| 2. 10 YR 3/1 黒褐色土   | 灰色細砂をブロック状に10%含む。非常にもろい。         |
| 3. 10 YR 3/4 暗褐色土   | 黒褐色土をブロック状に10%含む。径5~10mmの礫を多く含む。 |
| 4. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土 | 径10~20mmの礫を多く含む。                 |
| 5. 5 Y 5/1 灰色細砂     | 黒褐色土をブロック状に10%含む。                |
| 6. 10 YR 4/6 褐色細砂   | ほぼ均質。                            |
| 7. 10 YR 3/4 暗褐色粘質土 | 径5~10mmの礫を多く含む。                  |
| 8. 10 YR 4/4 褐色砂    | 均質。                              |

- SK602
- |                      |                                                    |
|----------------------|----------------------------------------------------|
| 1. 10 YR 2/2 黒褐色粘質土  | 焼土を径2mm程の粒状に2%含む。炭化物を径1~3mmの粒状に5%含む。灰黄褐色粘質土を斑状に含む。 |
| 2. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土  | 10 YR 2/2 黒褐色土を斑状に含む。                              |
| 3. 10 YR 2/2 黒褐色粘質土  | 砂を含む。硬くしまる。                                        |
| 4. 10 YR 2/2 黒褐色粘質土  | 径2~5mmの礫を含む。暗褐色粘土をブロック状に5%含む。                      |
| 5. 10 YR 3/1 黒褐色粘質土  | 径5~15mmの炭化物を含む。                                    |
| 6. 10 YR 3/1 黒褐色粘質土  | 地山細砂を含む。                                           |
| 7. 10 YR 2/2 黒褐色粘質土  | 10 YR 3/2 黒褐色粘質土をブロック状に20%含む。                      |
| 8. 10 YR 2/1 黒褐色粘質土  | 砂を含む。                                              |
| 9. 10 YR 4/4 褐色細砂    | 地山崩落土。                                             |
| 10. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土 | 地山細砂、黒褐色粘質土を含む。                                    |

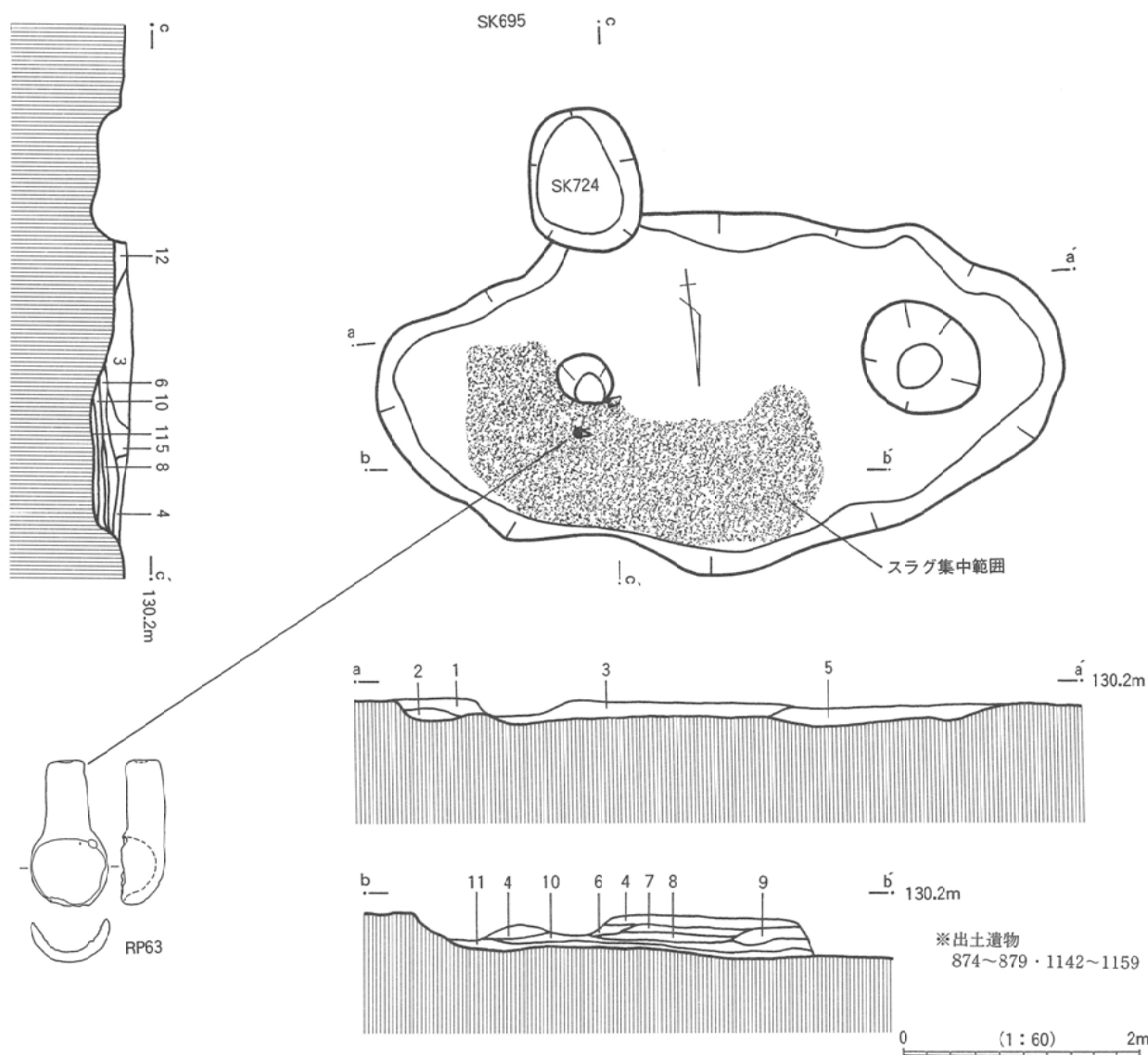
0 (1:60) 2m

第45図 SK1296・SK1228・SK604・SK602

面は丸底状となり、壁の立上がりは南西部分で緩やかとなる。深さは75cmをはかる。堆積土内から出土した陶器、銭貨から近世の土坑と考えられる。

SK695 (第46図 図版21)

J-2・3区で検出された。平面形および規模は長軸5.87m、短軸3.14mの不整楕円形を呈する。底面は起伏があり、壁の立上がりは緩やかである。確認面からの深さは35cmをはかる。堆積土の上部では、土坑北東部分を中心として、大量のスラグとともに鋳型、とりべなどの金属精錬をうかがわせる遺物が出土した。土坑内壁や底面では被熱が確認されず、これらの遺物は一括廃棄とみられる。所属時期の把握には更に検討を要する。



- |              |         |                                     |              |         |                                    |
|--------------|---------|-------------------------------------|--------------|---------|------------------------------------|
| SK695        |         |                                     |              |         |                                    |
| 1. 10YR 3/1  | 黒褐色土    | 均質。                                 | 7. 10YR 3/1  | 黒褐色土    | オリブ褐色細砂をブロック状に10%含む。炭化物を小粒状に10%含む。 |
| 2. 10YR 4/4  | 褐色土     | 均質。                                 | 8. 2.5Y 4/4  | オリブ褐色細砂 | 焼土・炭化物を小粒状に10%含む。                  |
| 3. 10YR 3/2  | 黒褐色土    | 赤褐色物質を多量に含む。鉄滓を多量に含む。               | 9. 2.5Y 4/4  | オリブ褐色細砂 | 黒褐色土をブロック状に20%含む。                  |
| 4. 2.5YR 2/1 | 赤黒色砂質土  | 炭化物を小粒状に20%含む。赤褐色物質を多量に含む。鉄滓を多量に含む。 | 10. 10YR 3/1 | 黒褐色砂質土  | オリブ褐色細砂をブロック状に10%含む。炭化物を小粒状に5%含む。  |
| 5. 10YR 3/2  | 黒褐色土    | 礫を多量に含む。                            | 11. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土  | 均質。                                |
| 6. 2.5Y 4/4  | オリブ褐色細砂 | 均質。                                 | 12. 10YR 3/3 | 暗褐色土    | 褐色土を小粒状に10%含む。                     |

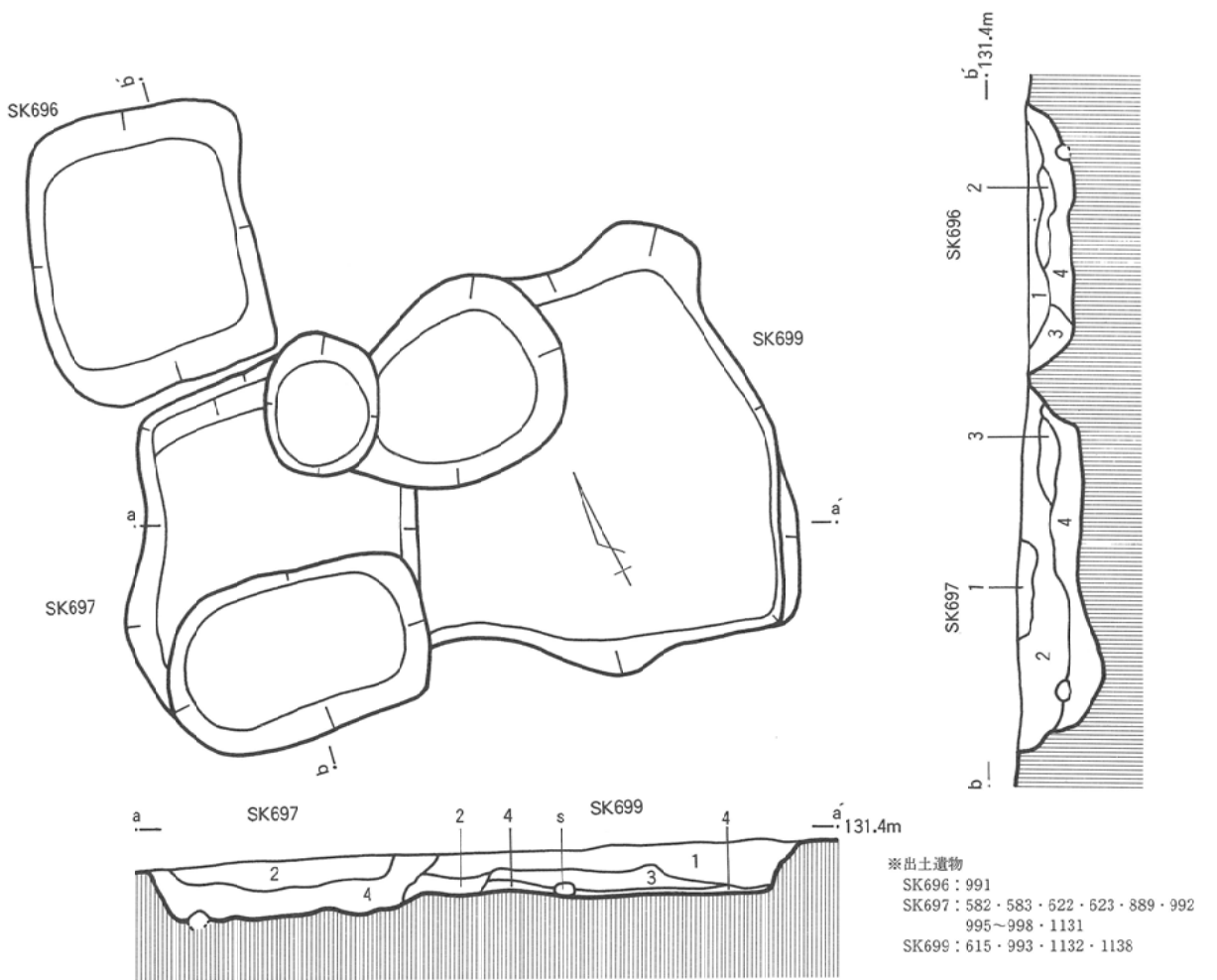
第46図 SK695

SK696・697・699 (第47図 図版22)

J・K-3区で検出された竪穴状の土坑群である。平面形はいずれも不整隅丸方形を呈し、規模は、SK696が長辺2.35m、短辺1.83m、深さ36cm。SK697が長辺3m、短辺2.4m、深さ65cm。SK699が長辺3.6m、短辺3.1m、深さ41cmをはかる。重複関係ではSK699がSK697に切られる。堆積土内から出土した陶器、銭貨から近世の所産と考えられるが、特に、SK697からは永楽通宝他の銭貨が14枚出土している。

SK1028 (第48図)

K・L-2区で検出された。規模および平面形は長辺3.2m、短辺1.4mの隅丸長方形を呈し、北西角に張り出しをもつ。底面はほぼ平坦であり、壁の立上がりは西辺で緩やかである。深さは50cmをはかる。堆積土内から出土した陶器から近世の土坑と考えられる。



※出土遺物  
 SK696 : 991  
 SK697 : 582・583・622・623・889・992  
 995~998・1131  
 SK699 : 615・993・1132・1138

SK696

- |             |        |                              |
|-------------|--------|------------------------------|
| 1. 10YR 3/3 | 暗褐色砂質土 | 黒色土を粒状に10%含む。                |
| 2. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | ほぼ均質。しまりなく軟らかい。              |
| 3. 10YR 3/1 | 黒褐色土   | 炭化物を粒状に3%含む。                 |
| 4. 10YR 3/2 | 黒褐色砂質土 | 径5~10cmの礫を多量に含む。炭化物を粒状に3%含む。 |

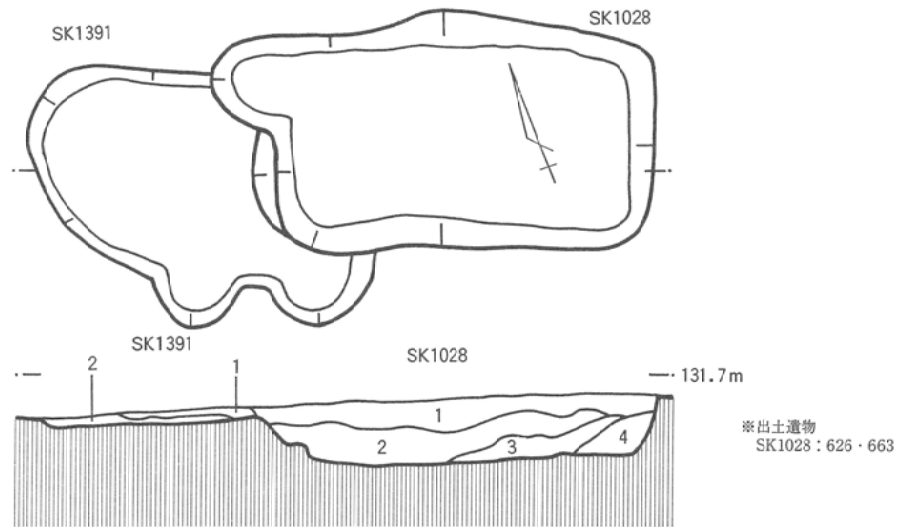
SK697

- |             |      |                                 |
|-------------|------|---------------------------------|
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色土 | 炭化物をブロック状に3%含む。硬くしまる。           |
| 2. 10YR 3/1 | 黒褐色土 | 径5~10cmの礫を多量に含む。炭化物をブロック状に5%含む。 |
| 3. 10YR 3/2 | 黒褐色土 | ほぼ均質。                           |
| 4. 10YR 3/2 | 黒褐色土 | 炭化物をブロック状に5%含む。硬くしまる。           |

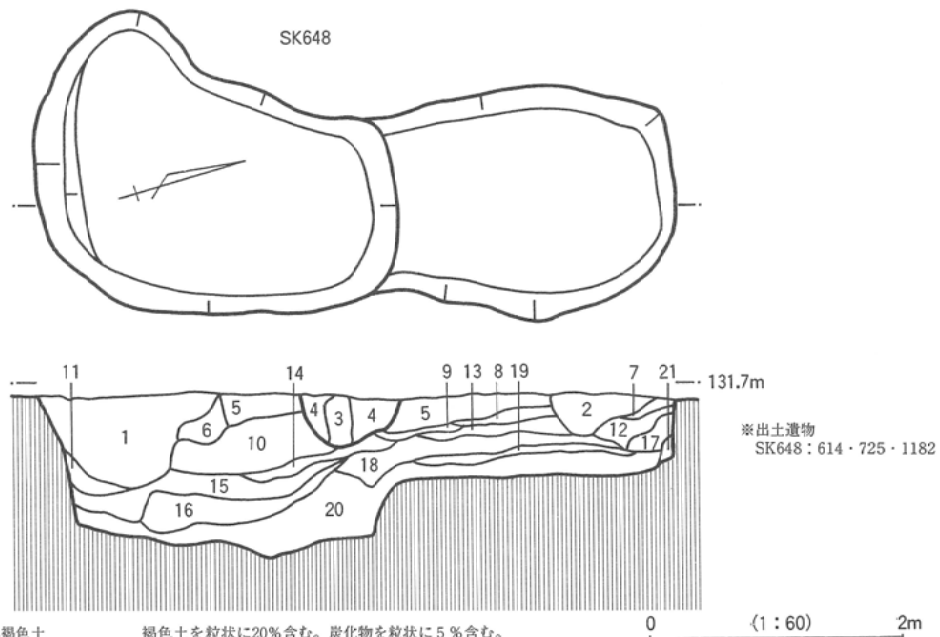
SK699

- |             |        |                                   |
|-------------|--------|-----------------------------------|
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色粘質土 | 径5~10cmの礫を含む。炭化物を粒状に5%含む。         |
| 2. 10YR 3/2 | 黒褐色土   | 径5~10cmの礫を含む。褐色土を粒状に20%含む。        |
| 3. 10YR 3/1 | 黒褐色土   | 褐色土を粒状に20%含む。                     |
| 4. 10YR 4/4 | 褐色土    | 径5~10mmの礫を多量に含む。黒褐色土をブロック状に20%含む。 |

第47図 SK696・SK697・SK699

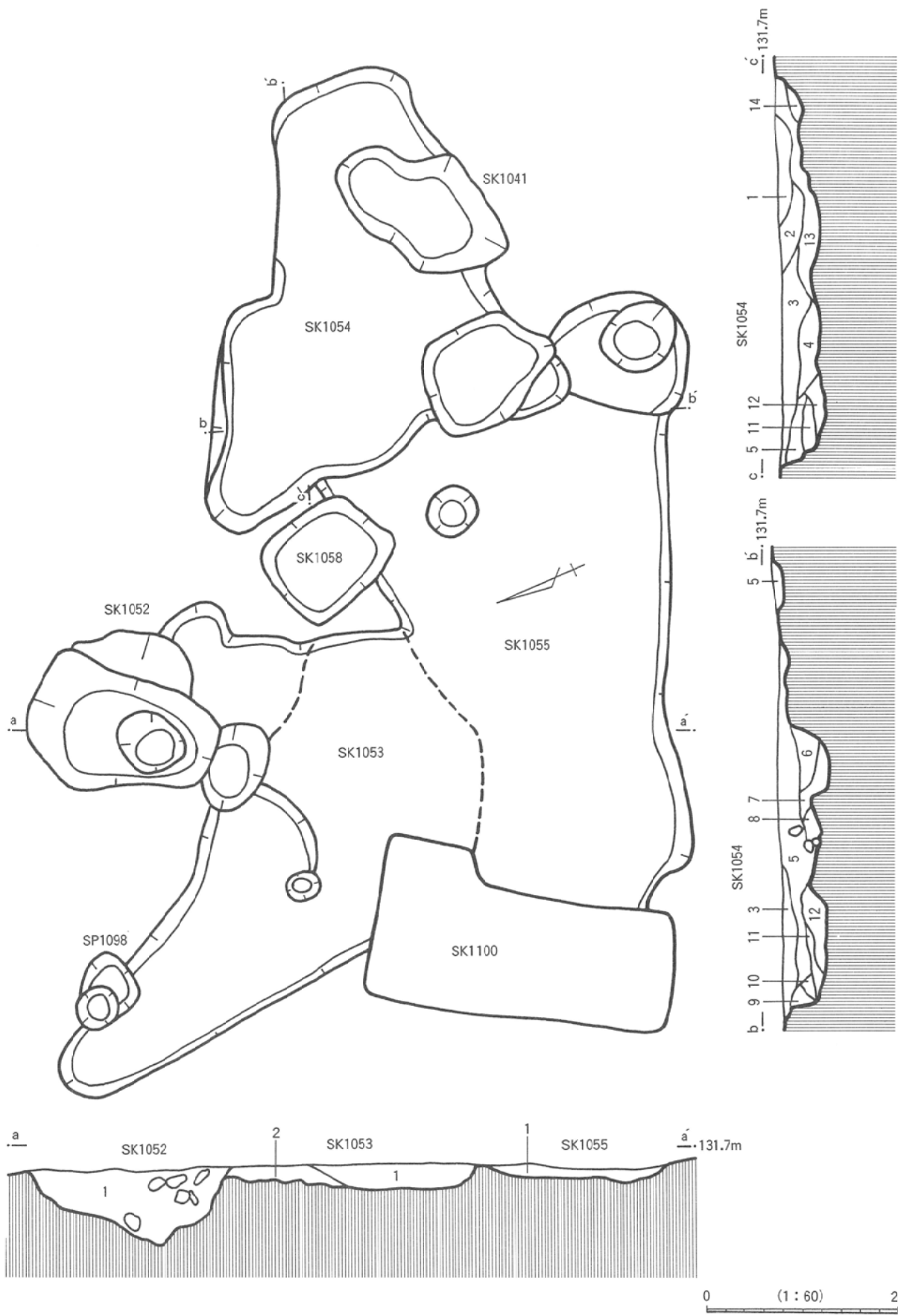


- |             |      |                                        |
|-------------|------|----------------------------------------|
| SK1028      |      |                                        |
| 1. 10YR 2/2 | 黒褐色土 | 礫を含む。炭化物を粒状に5%含む。赤褐色の煉瓦状物質をブロック状に5%含む。 |
| 2. 10YR 2/2 | 黒褐色土 | 赤褐色の煉瓦状物質をブロック状に5%含む。                  |
| 3. 10YR 3/3 | 暗褐色土 | 礫を含む。                                  |
| 4. 10YR 3/4 | 暗褐色砂 | 礫を含む。褐色細砂をブロック状に3%含む。                  |
| SK1391      |      |                                        |
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色土 | 暗褐色砂をブロック状に20%含む。炭化物を粒状に3%含む。          |
| 2. 10YR 4/6 | 褐色細砂 | 黒褐色土をブロック状に10%含む。                      |



- |              |           |                                                 |
|--------------|-----------|-------------------------------------------------|
| SK648        |           |                                                 |
| 1. 10YR 3/2  | 黒褐色土      | 褐色土を粒状に20%含む。炭化物を粒状に5%含む。                       |
| 2. 10YR 2/3  | 黒褐色土      | 赤褐色土を粒状に5%含む。炭化物を粒状に3%含む                        |
| 3. 10YR 3/2  | 黒褐色土      | 径5~10mmの礫を多く含む。しまりなし。                           |
| 4. 10YR 3/2  | 黒褐色土      | 赤褐色土を粒状に10%含む。炭化物をブロック状に5%含む。                   |
| 5. 10YR 3/4  | 暗褐色土      | 径5~10mmの礫を3%含む。炭化物を粒状に5%含む。灰黄褐色砂質土をブロック状に10%含む。 |
| 6. 10YR 3/4  | 暗褐色土      | 褐色土、赤褐色土を塊状に20%含む。径5~10mmの礫を多く含む。               |
| 7. 10YR 3/1  | 黒褐色土      | 褐色細砂をブロック状に5%含む。                                |
| 8. 10YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 炭化物を粒状に3%含む。                                    |
| 9. 10YR 3/1  | 黒褐色土      | 炭化物をブロック状に5%含む。軟らかい。                            |
| 10. 10YR 3/4 | 暗褐色土      | 均質。硬くしまる。                                       |
| 11. 10YR 4/6 | 褐色砂       | 径10~50mmの礫を多く含む。鉄分を含む。                          |
| 12. 10YR 3/1 | 黒褐色土      | 褐灰色土をブロック状に5%含む。硬くしまる。                          |
| 13. 10YR 3/2 | 黒褐色土      | 暗褐色土をブロック状に5%含む。炭化物を粒状に3%含む。                    |
| 14. 10YR 3/4 | 暗褐色土      | 炭化物を粒状に5%含む。                                    |
| 15. 10YR 2/3 | 黒褐色土      | 褐色砂質土をブロック状に20%含む。炭化物をブロック状に10%含む               |
| 16. 10YR 4/6 | 褐色砂質土     | 黒褐色土をブロック状に20%含む。                               |
| 17. 10YR 3/1 | 黒褐色粘質土    | 均質。硬くしまる。                                       |
| 18. 10YR 3/1 | 黒褐色土      | 炭化物を粒状に3%含む。灰色土をブロック状に5%含む。                     |
| 19. 5Y 6/1   | 灰色土       | 黒褐色土をブロック状に5%含む。軟らかい。                           |
| 20. 10YR 3/2 | 黒褐色土      | 均質。                                             |
| 21. 10YR 3/1 | 黒褐色土      | 褐色土をブロック状に40%含む。地山崩落土。                          |

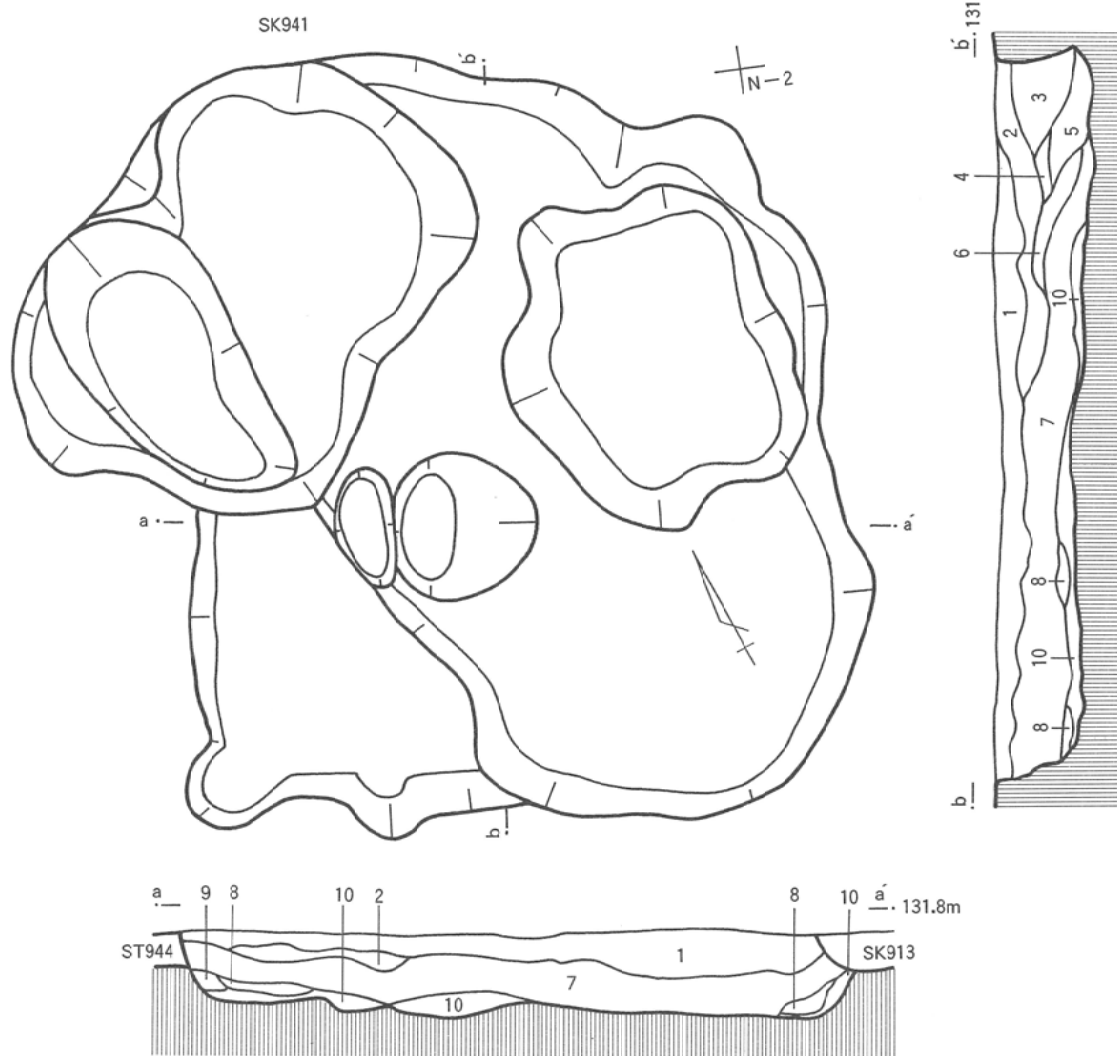
第48図 SK1028・SK1391・SK648



第49図 SK1052・SK1053・SK1054・SK1055

- SK1052  
1. 10YR 3/2 黒褐色土 礫を多量に含む。
- SK1053  
1. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 径3mm程の焼土を粒状に2%含む。径5mm程の炭化物を粒状に1%含む。  
2. 10YR 3/2 黒褐色土 褐色細砂混じる。
- ※出土遺物  
SK1053 : 765  
SK1054 : 505・506・609・664・814  
SK1055 : 237・545・665・740  
SK1058 : 238・270  
SK941 : 268・278・487・534・586・602・624・718・805・823・841・895・896・1121・1177

- SX1054  
1. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 径3mm程の焼土を粒状に2%含む。  
2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 炭化物を粒状に1%含む。褐色細砂若干混じる。  
3. 10YR 3/3 暗褐色粘質土 均質。  
4. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 褐色細砂斑状に混じる。  
5. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物を粒状に2%含む。焼土を粒状に1%含む。  
6. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 径5~10mmの礫を含む。  
7. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 径5mm程の褐色細砂を粒状に5%含む。  
8. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 均質。しまる。  
9. 10YR 3/4 暗褐色細砂 地山の崩落土。  
10. 10YR 2/2 黒褐色粘質土 暗褐色細砂混じる。  
11. 10YR 4/4 褐色細砂 黒褐色土斑状に混じる。  
12. 10YR 2/2 黒褐色粘質土 焼土を粒状に2%含む。径5~30mmの礫を10%含む。  
13. 10YR 4/4 褐色細砂 黒褐色土斑状に混じる。  
14. 10YR 3/2 黒褐色砂質土 均質。
- SX1055  
1. 10YR 3/2 黒褐色粘質土 径2mm程の焼土を粒状に2%含む。

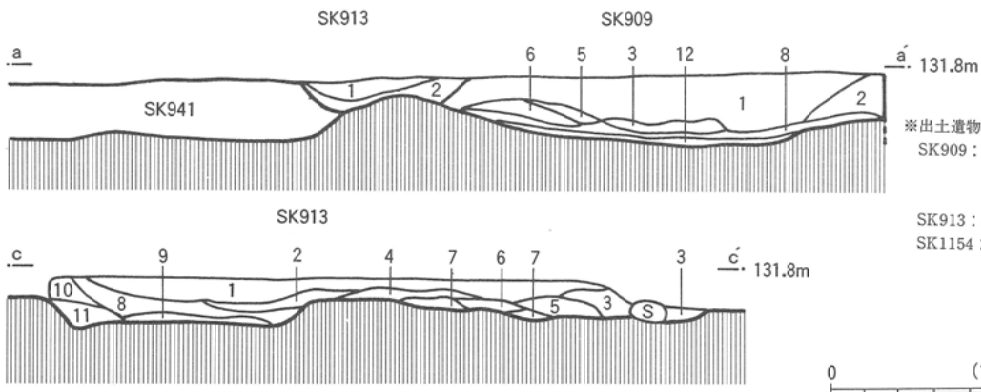
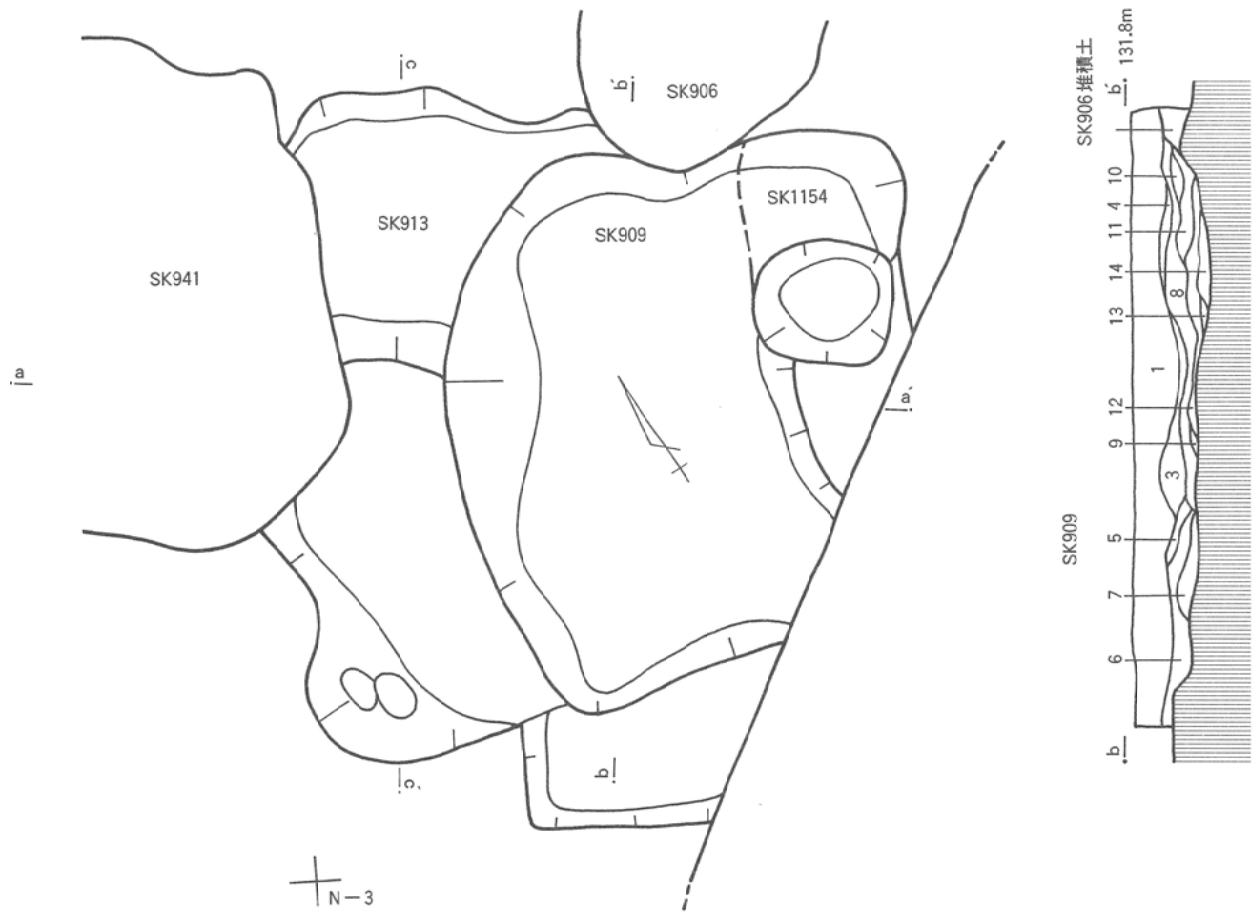


- SK941  
1. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物をブロック状に5%含む。径3~5mmの礫を多量に含む。  
2. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色土を粒状に5%含む。オリーブ褐色の煉瓦状物質をブロック状に3%含む。  
3. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物、オリーブ褐色の煉瓦状物質をブロック状に各5%含む。  
4. 10YR 4/3 黄褐色土 均質。  
5. 10YR 4/4 褐色土 褐色砂質土を斑状に20%含む。  
6. 10YR 4/6 褐色砂質土 均質。  
7. 10YR 2/3 黒褐色土 炭化物をブロック状に5%含む。  
8. 10YR 4/4 褐色土 酸化鉄を含む。  
9. 10YR 3/3 暗褐色砂質土 均質。  
10. 10YR 4/6 褐色砂質土 酸化鉄を含む。

第50図 SK941



検出された遺構



※出土遺物  
 SK909: 329・439・544・585・596・713・732・  
 754・776・838・861・885・1017・1102・  
 1124  
 SK913: 440・441・639・752・1018・1019  
 SK1154: 627

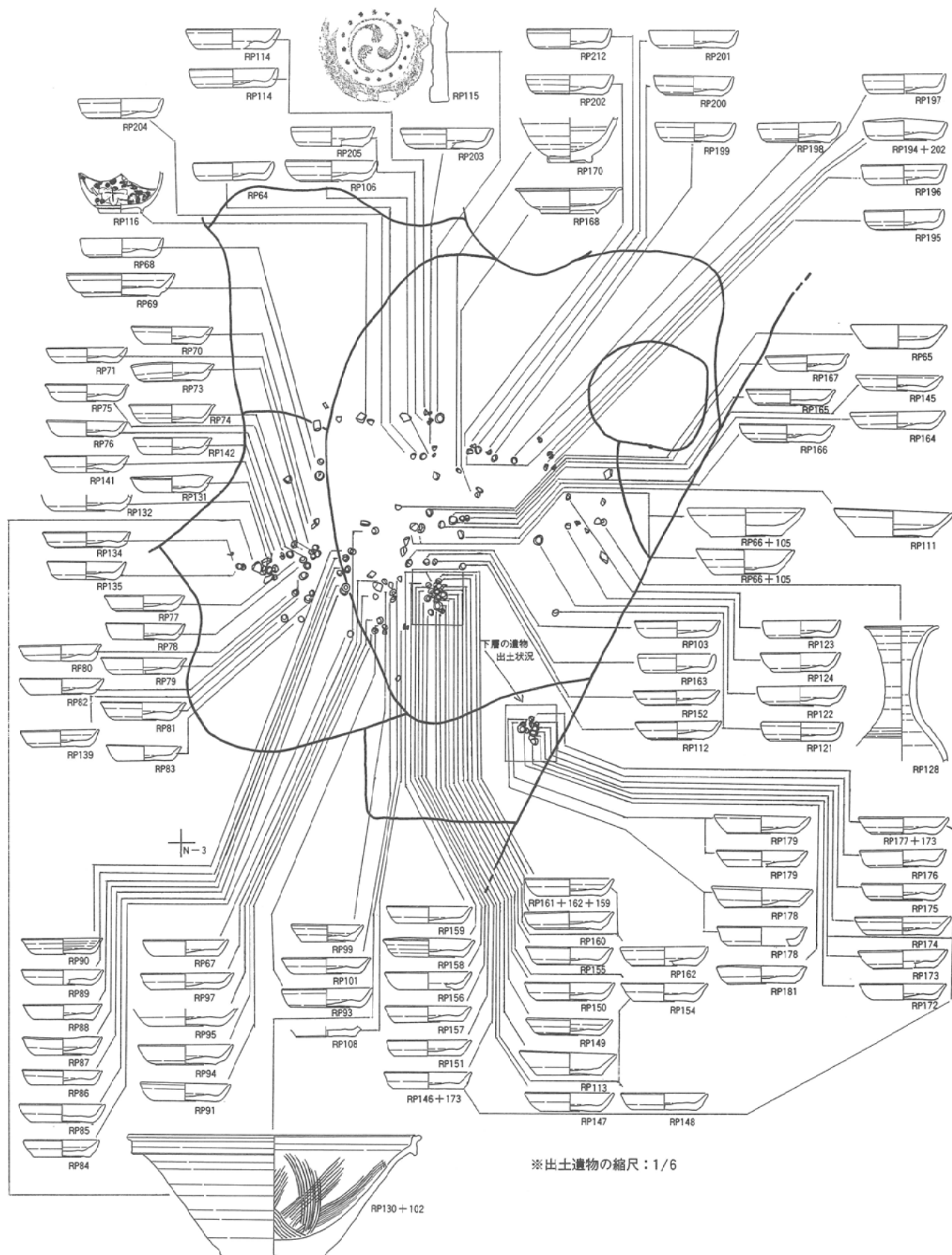
SK909

- |              |        |                            |
|--------------|--------|----------------------------|
| 1. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 炭化物を粒状に5%含む。礫を多量に含む。       |
| 2. 10YR 2/3  | 黒褐色土   | 礫を多量に含む。                   |
| 3. 10YR 3/1  | 黒褐色粘質土 | 炭化物を粒状に3%含む。               |
| 4. 10YR 3/1  | 黒褐色土   | にぶい黄褐色土をブロック状に10%含む。       |
| 5. 10YR 3/1  | 黒褐色粘質土 | 黄灰色土をブロック状に20%含む。          |
| 6. 10YR 4/4  | 褐色砂質土  | 黒褐色土をブロック状に20%含む。礫を多量に含む。  |
| 7. 10YR 3/1  | 黒褐色砂質土 | 黒色土をブロック状に5%含む。            |
| 8. 10YR 3/2  | 黒褐色土   | 褐色土を斑状に10%含む。炭化物を小粒状に3%含む。 |
| 9. 10YR 4/6  | 褐色砂質土  | 均質。                        |
| 10. 10YR 2/3 | 黒褐色土   | 褐色土をブロック状に20%含む。           |
| 11. 10YR 4/4 | 褐色土    | 黒褐色土をブロック状に10%含む。          |
| 12. 10YR 3/1 | 黒褐色土   | 均質。                        |
| 13. 10YR 4/6 | 褐色砂質土  | 均質。                        |
| 14. 10YR 4/6 | 褐色砂質土  | 黒褐色土をブロック状に5%含む。           |

SK913

- |              |           |                               |
|--------------|-----------|-------------------------------|
| 1. 10YR 2/2  | 黒褐色土      | 炭化物を粒状に5%含む。径3~5mmの礫を多く含む。    |
| 2. 10YR 3/3  | 暗褐色土      | 黒褐色土をブロック状に20%含む。             |
| 3. 10YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 黒褐色土を粒状に10%含む。                |
| 4. 10YR 3/2  | 黒褐色土      | 炭化物をブロック状に3%含む。褐色砂質土を粒状に5%含む。 |
| 5. 10YR 4/3  | にぶい黄褐色砂質土 | 均質。                           |
| 6. 10YR 3/1  | 黒褐色土      | 褐色土をブロック状に10%含む。              |
| 7. 10YR 4/6  | 褐色砂質土     | 黒褐色土をブロック状に10%含む。酸化鉄を含む。      |
| 8. 10YR 3/2  | 黒褐色土      | 炭化物をブロック状に5%含む。               |
| 9. 10YR 3/3  | 暗褐色砂質土    | 炭化物を粒状に3%含む。                  |
| 10. 10YR 4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | 黒褐色土を粒状に10%含む。                |
| 11. 10YR 4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | 均質。                           |

第51図 SK909・SK913



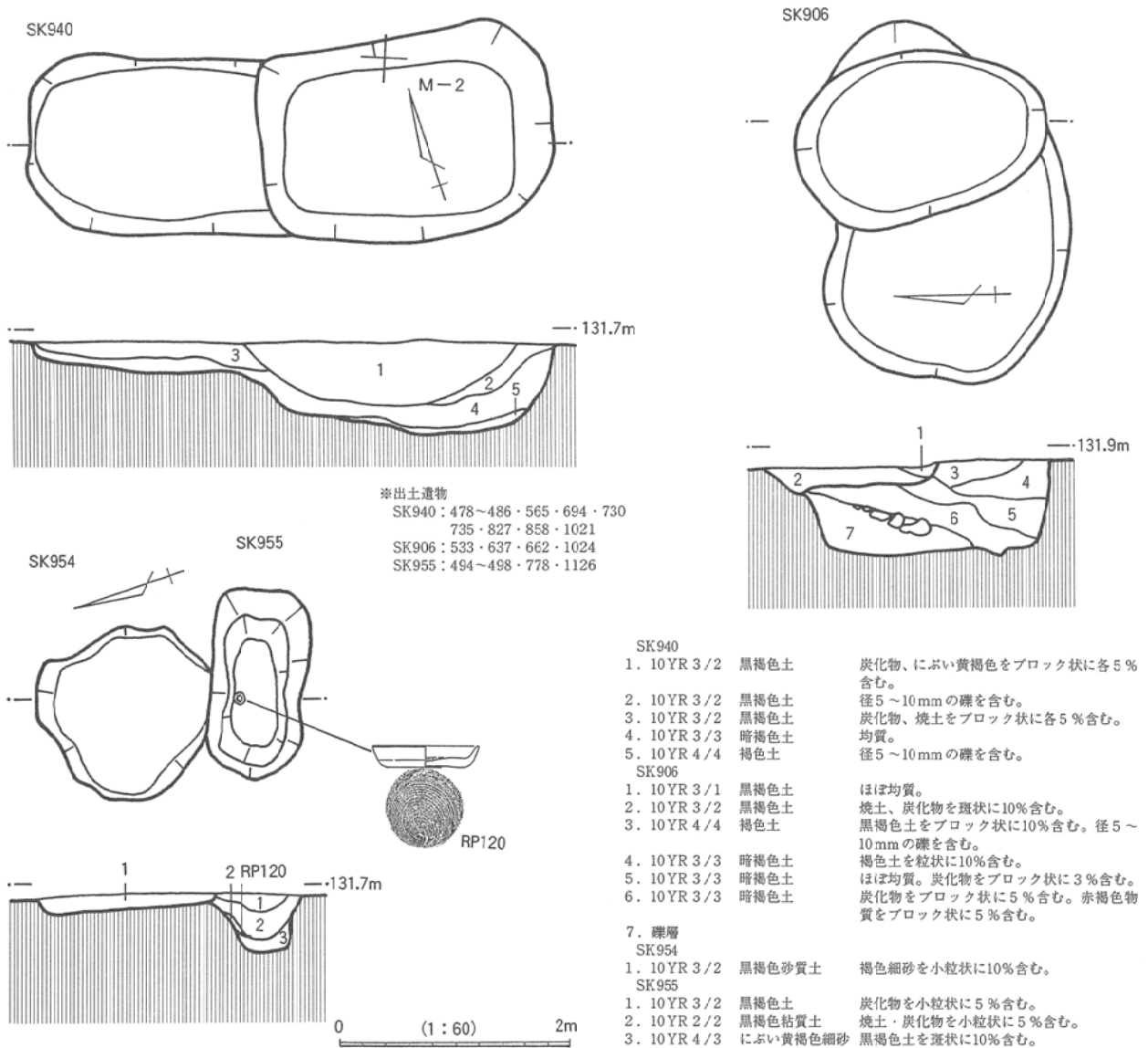
第52図 SK909 遺物分布

SK648 (第48図 図版22)

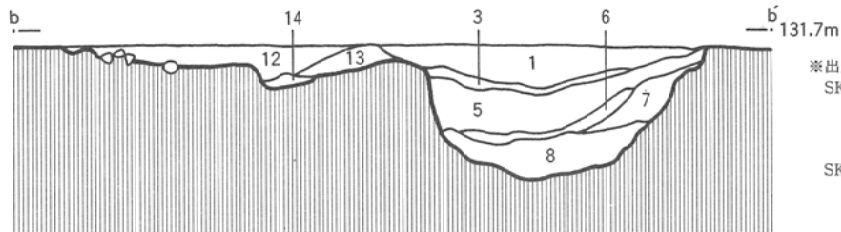
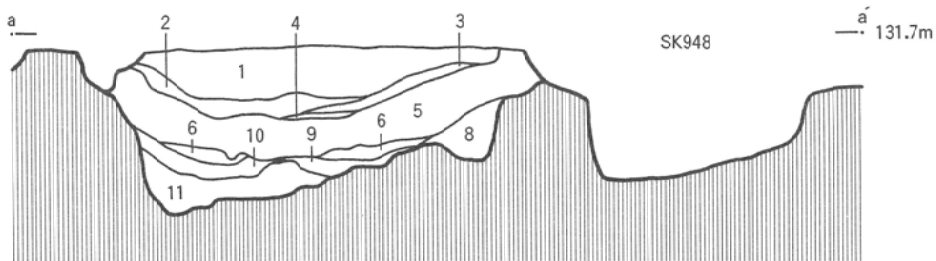
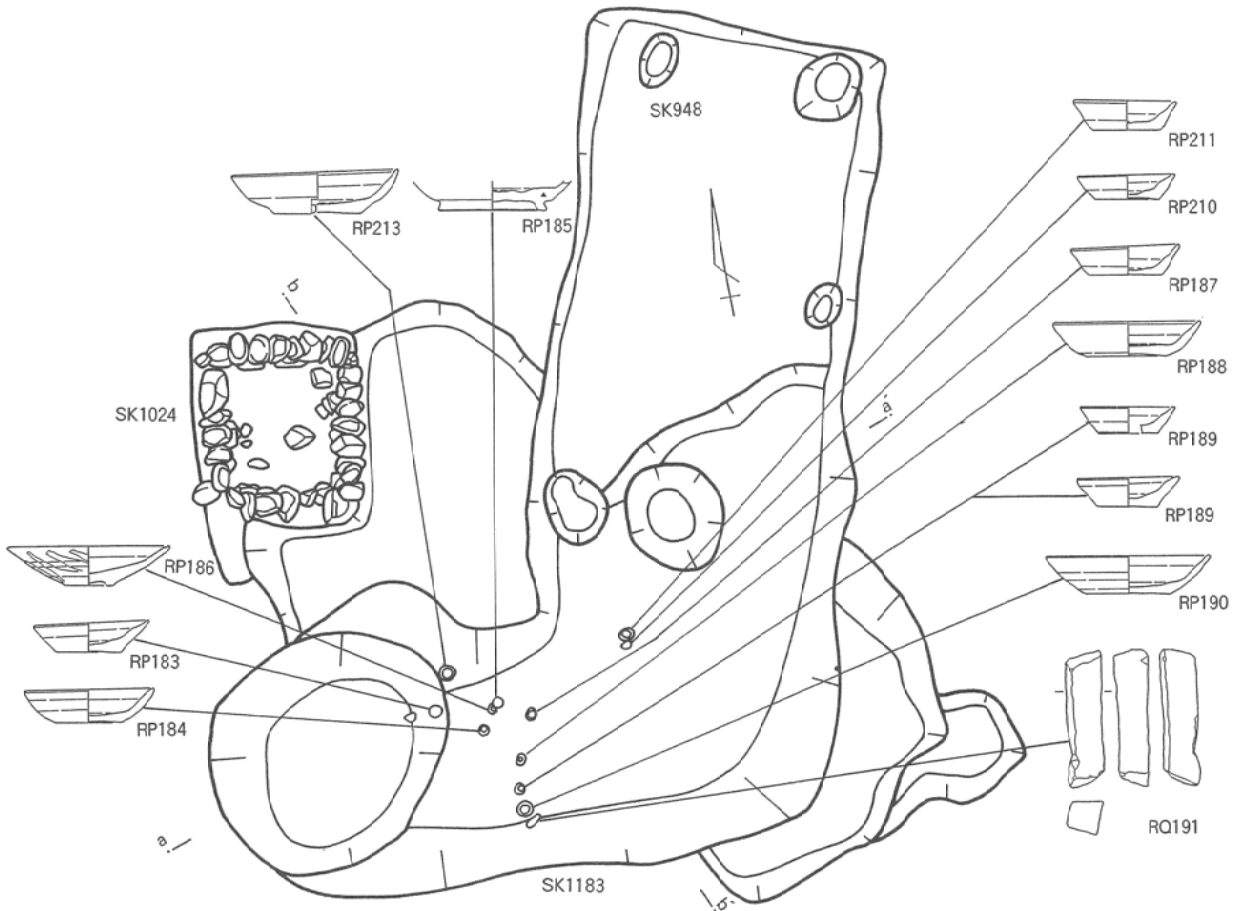
L-5区で検出された。規模および平面形は長辺5.1m、短辺2.4mの不整長方形を呈する。底面は2段となり、壁の立上がりは急である。深さは北半で65cm、南半で130cmをはかる。堆積土内から出土した陶器から近世の土坑と考えられる。

SK1053~1055 (第49図 図版22)

K・L-3区で検出された不整形プランの土坑群である。それぞれの規模は、SK1053が長軸5.8m、短軸3.1m、深さ27cm。SK1054が長軸4.1m、短軸3.7m、深さ46cm。SK1055が長軸5.5m、短軸3.7m、深さ14cmをはかる。底面はいずれも起伏があり、壁の立上がりは急である。3者間の重複関係は判然とせず、同時存在の可能性もある。他遺構間では、SK1054はSD1000・



第53図 SK940・SK906・SK954・SK955



※出土遺物  
 SK1183 : 240・243・269・280  
 442・477・603・696・697  
 780・781・888・1025・1026  
 1165・1185・1198  
 SK948 : 488・493・728・744・777・  
 839・1234

0 (1:60) 2m

SK1183

- |                     |                               |                        |                       |
|---------------------|-------------------------------|------------------------|-----------------------|
| 1. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土 | 炭化物を粒状に5%含む。                  | 8. 10 YR 3/2 黒褐色土      | 褐色細砂を斑状に20%含む。        |
| 2. 10 YR 4/1 褐灰色土   | 均質。                           | 9. 10 YR 3/2 黒褐色土      | 黄褐色砂を斑状に含む。           |
| 3. 10 YR 2/1 黒色土    | 褐色砂質土をブロック状に10%含む。            | 10. 10 YR 4/1 褐灰色粘質土   | 褐色細砂をブロック状に20%含む。     |
| 4. 10 YR 5/6 黄褐色細砂  | 均質。                           | 11. 10 YR 4/3 におい黄褐色細砂 | 黒褐色土を斑状に20%含む。        |
| 5. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土 | 褐色細砂をブロック状に10%含む。炭化物を粒状に3%含む。 | 12. 10 YR 3/2 黒褐色土     | 炭化物を小粒状に3%含む。         |
| 6. 10 YR 4/1 褐灰色粘質土 | 均質。                           | 13. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土   | におい黄褐色細砂をブロック状に10%含む。 |
| 7. 10 YR 3/2 黒褐色砂質土 | 褐色細砂をブロック状に10%含む。礫を多量に含む。     | 14. 10 YR 4/4 褐色細砂     | 均質。                   |

第54図 SK1183

1010に切られ、ST1190を切る。またSK1053・1055はSK1100に切られる。堆積土内から出土した陶磁器から近世の所産と考えられる。

SK941 (第50図 図版24)

M・N-1・2区で検出された。ST944を切り、SK913に切られている。規模および平面形は東西6.4m、南北6.25m、深さ77cmの不整形を呈する。底面は起伏があり、壁の立上りは急である。堆積土内から出土したかわらけ、陶磁器、瓦、瓦器などの遺物から、近世の土坑と考えられる。

SK909 (第51・52図 図版23)

M・N-2区で検出された。規模および平面形は東西7.5m、南北7.9mの不整形を呈する。確認面からの深さは84cmをはかる。底面は起伏があり、壁の立上りは急である。堆積土内からは、近世の一括廃棄とみられる多量のかわらけ、瓦、陶磁器が出土した。第52図にその平面分布を示した。遺物はかわらけを主体に土坑の南半に多く分布する傾向が看取される。また、垂直面では1層上面に最も多く、ついで1層の下面に分布し、中間部分は希薄となる(図版23)。なお、断面観察の結果から西半部分の落ち込みはSK913として分離して調査をすすめたが、遺物の出土状況は、SK913南部分とSK909との間に連続性が認められたため、遺物の取り上げはSK909として一括でおこなっている。SK909とSK913との関係についてはさらに検討が必要と考えられる。

SK940 (第53図)

L・M-1・2区で検出された。規模および平面形は長辺4.5m、短辺1.9mの隅丸長方形を呈する。底面は2段となり起伏がある。深さは西半で26cm、東半で83cmをはかる。壁の立上りは急である。堆積土内からは、近世の陶磁器、銭貨のほか、かわらけが一括出土した。

SK906 (第53図 図版24)

N-1・2区で検出された。規模および平面形は長軸3.1m、短軸2.2mの不整楕円形を呈する。最下層は礫層となるが、底面は比較的平坦である。深さは80cmをはかる。壁の立上りは急である。堆積土内から出土した銭貨、陶器などから近世の土坑と考えられる。

SK954 (第53図 図版25)

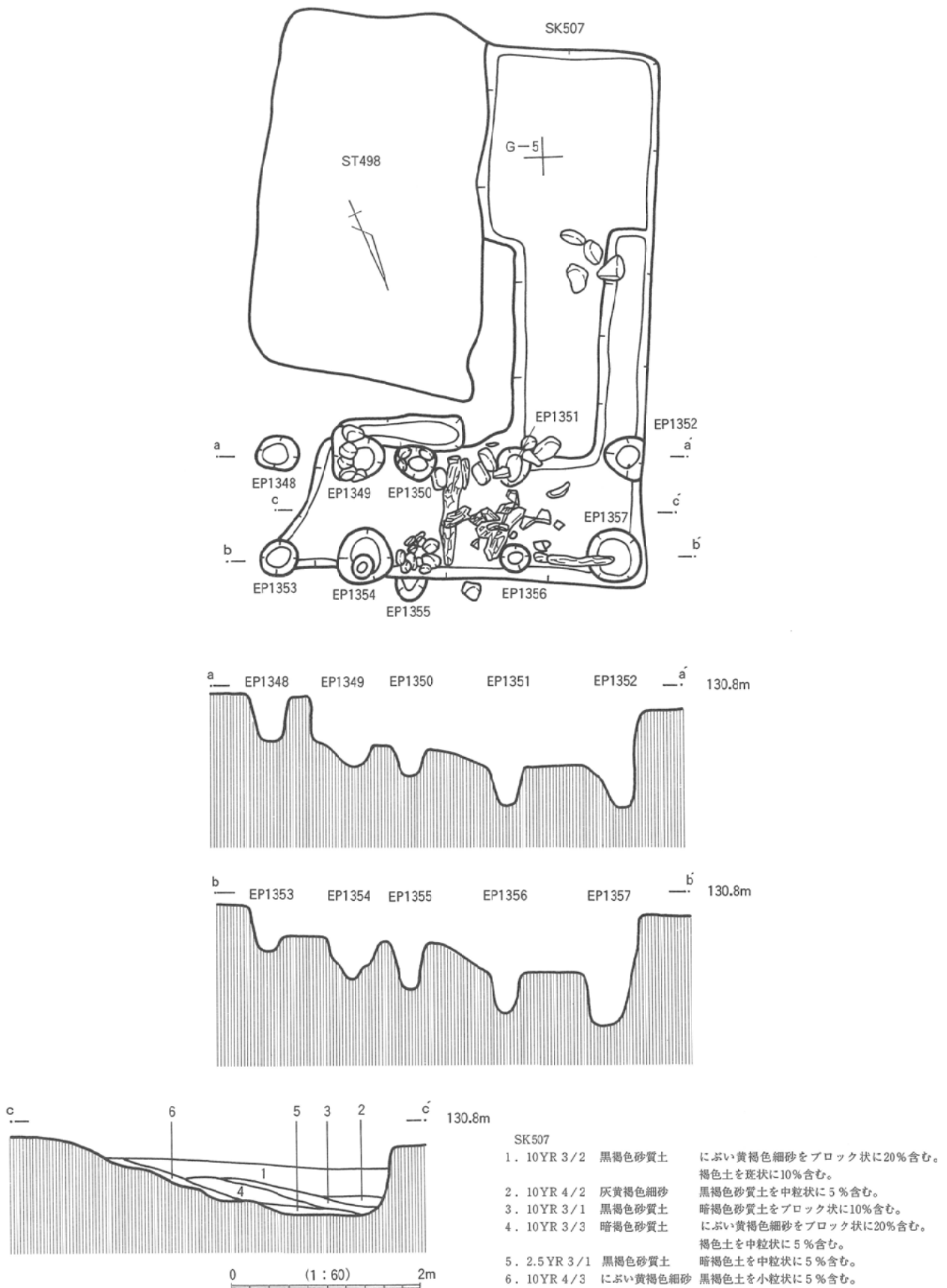
M-2区で検出された。規模および平面形は直系1.5mの不整円形を呈する。SK955を切っている。底面は平坦であり、深さは16cmをはかる。壁の立上りは急である。堆積土内からは、近世の瓦破片等が若干出土している。

SK955 (第53図 図版25)

M-2区で検出された。規模および平面形は長軸1.66m、短軸0.85mの隅丸長方形を呈する。SK954に切られる。底面は平坦であり、深さは52cmをはかる。壁の立上りは急である。堆積土内からは、近世の陶磁器、瓦のほか、かわらけが一括出土した。

SK1183 (第54図 図版24)

L・M-2区で検出された。規模および平面形は長軸5.8m、短軸4.7mの不整形を呈する。北をSK948に、西をSX1024に切られる。底面は礫層まで掘込まれているため不安定であり、確

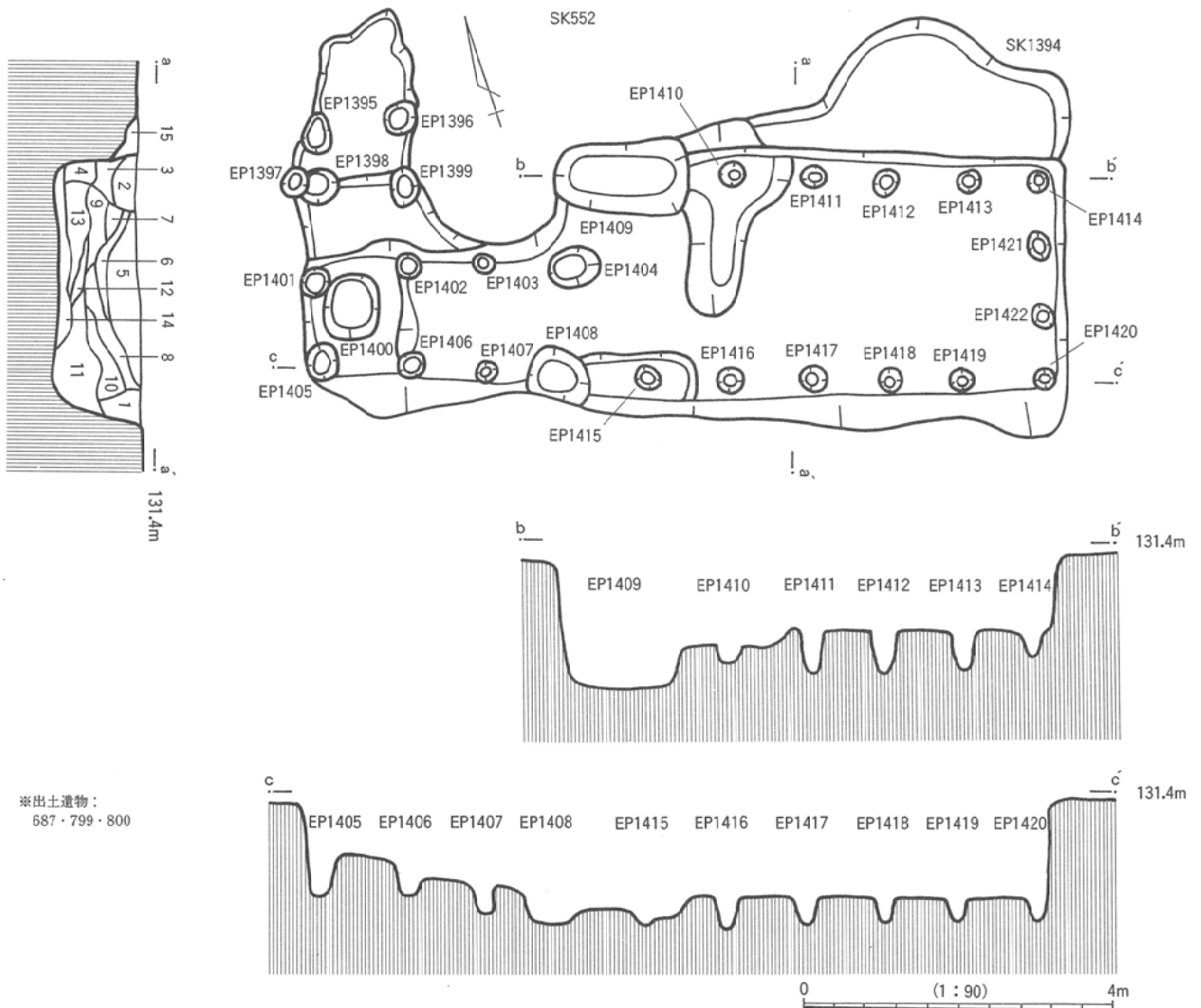


第55図 SK507

認面からの深さは130cmをはかる。堆積土内からは、一括廃棄とみられるかわらけ、陶磁器をはじめ、近世の遺物が多量に出土した。平面での遺物分布は、特に南西部分に集中する傾向がみられる。また、垂直面では5層および8層を中心に多く分布する傾向がみられた。

SK507 (第55図 図版25)

F・G-4・5区で検出された。規模および平面形は、東西4.1m、南北5.7mのL字型を呈する。ST498およびSD555を切る。東西方向に伸びる北半部分には10基の柱穴が検出された。東端部が出入り口とみられ、スロープ状に傾斜する。土坑内部には板壁および柱の木質部が残存



※出土遺物：  
687・799・800

- |                       |                                           |                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SK552                 |                                           |                                                                                                                                                                                 |
| 1. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土   | 褐色砂質土をブロック状に20%含む。<br>暗褐色砂質土をブロック状に10%含む。 | 8. 10 YR 3/2 黒褐色土                                                                                                                                                               |
| 2. 10 YR 4/4 褐色砂質土    | 黒褐色土を斑状に20%含む。                            | 9. 10 YR 3/4 暗褐色砂質土                                                                                                                                                             |
| 3. 10 YR 3/2 黒褐色土     | 均質。                                       | 10. 10 YR 3/4 暗褐色砂質土                                                                                                                                                            |
| 4. 10 YR 3/3 暗褐色土     | 褐色細砂を斑状に20%含む。焼土・炭化物をブロック状に10%含む。         | 11. 10 YR 3/2 黒褐色土                                                                                                                                                              |
| 5. 10 YR 3/2 黒褐色土     | 黒褐色土を斑状に20%含む。                            | 12. 10 YR 3/2 黒褐色土                                                                                                                                                              |
| 6. 10 YR 3/4 暗褐色砂質土   | 均質。                                       | 13. 10 YR 3/4 暗褐色細砂                                                                                                                                                             |
| 7. 10 YR 4/3 におい黄褐色細砂 |                                           | 14. 10 YR 4/3 におい黄褐色砂質土                                                                                                                                                         |
|                       |                                           | 15. 10 YR 3/2 黒褐色粘質土                                                                                                                                                            |
|                       |                                           | 褐色土を小粒状に10%含む。<br>黒褐色土を斑状に20%含む。褐色細砂を小粒状に5%含む。<br>黒褐色土をブロック状に20%含む。褐色土をブロック状に20%含む。<br>暗褐色土をブロック状に10%含む。<br>暗褐色細砂を小粒状に5%含む。<br>褐色土を小粒状に3%含む。<br>黒褐色土を斑状に10%含む。<br>均質。SK1394堆積土。 |

第56図 SK552

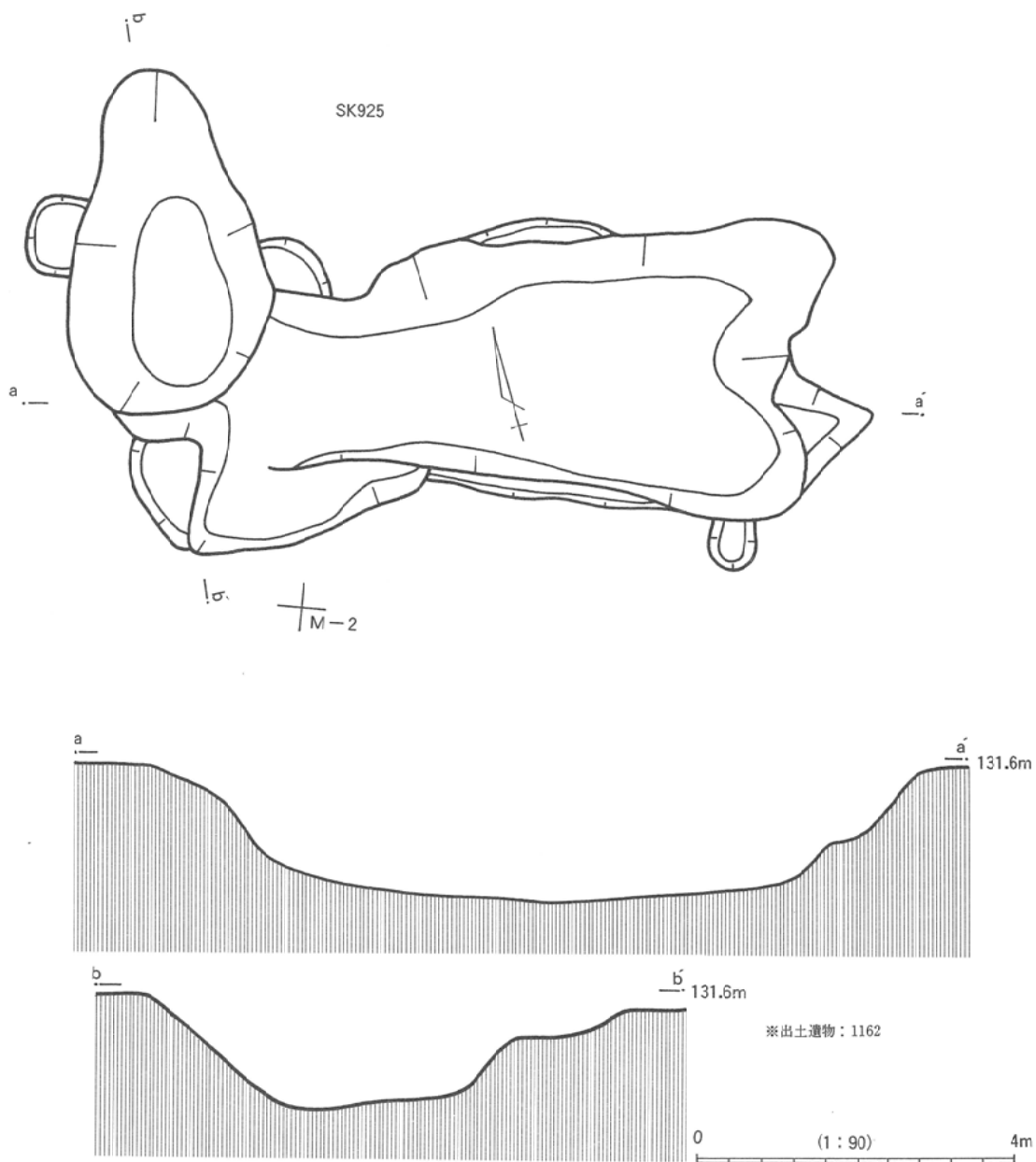
する。出土遺物から近現代の地下施設跡と考えられる。

SK552 (第56図 図版25)

I・J-5区で検出された。規模および平面形は、長辺6.7m、短辺3.5mの長方形プランに、幅1.5~2mのL字型の入り口部分が接続する。全体では東西9.8m、南北5.35mの規模となる。底面は平坦であり、壁の立上がりは急である。確認面からの深さは108cmをはかる。壁柱穴と壁の間に板材の痕跡が残る。出土遺物から近現代の地下施設跡と考えられる。

SK925 (第57図 図版25)

L・M-1区で検出された。規模および平面形は、東西10.3m、南北6mのL字型を呈する。確認面からの深さは158cmをはかる。底面は不安定であり、壁の立上がりは急である。出土遺物から近現代の地下施設跡と考えられる。



第57図 SK925



## VI 出土した遺物

### 1 縄文時代の遺物

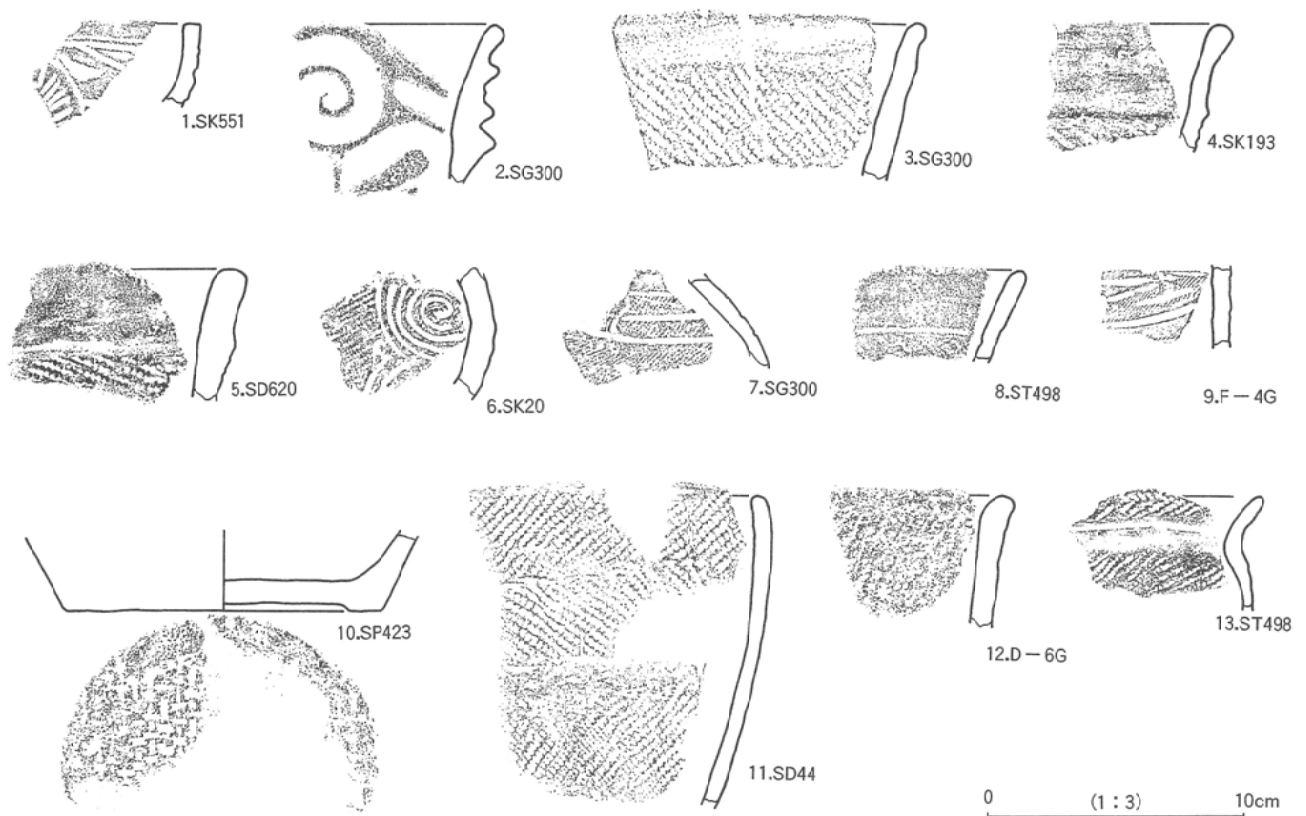
縄文時代の遺物は、縄文土器片、石器、剥片などが整理箱に1箱分出土した。遺物の分布は調査区全域に散見され、特にSG300堆積土からは比較的まとまって出土している。調査区内からは縄文時代に所属する遺構は検出されず、いずれも後世の遺構堆積土または面整理段階での出土であったため、当該期遺物の存在は他からの流れ込みによる結果と判断された。

#### a 縄文土器 (第58図 図版27 第3表)

出土した縄文土器はすべて破片であり、大半は器面に縄文のみが施文されたものであった。したがって施文要素、器形の特徴から、所属時期がある程度把握できるものは少ない。第58図に掲載した資料を従来の型式学的な編年に当てはめた場合では、中期前葉(1)、中期後葉(2)、中期末葉(3~5)、後期前葉(6)、晩期中葉(9)の存在が知られ、断続的にかなりの時期幅が認められる。

#### b 石 器 (図版27 第4表)

剥片石器では石匙1点(1101)、刃部を折損した石篋1点(1102)、完形の石篋1点(1103)、礫石器では2面に凹面をもつ凹石1点(1104)、磨製石器では基部を折損した石斧1点(1105)が出土した。



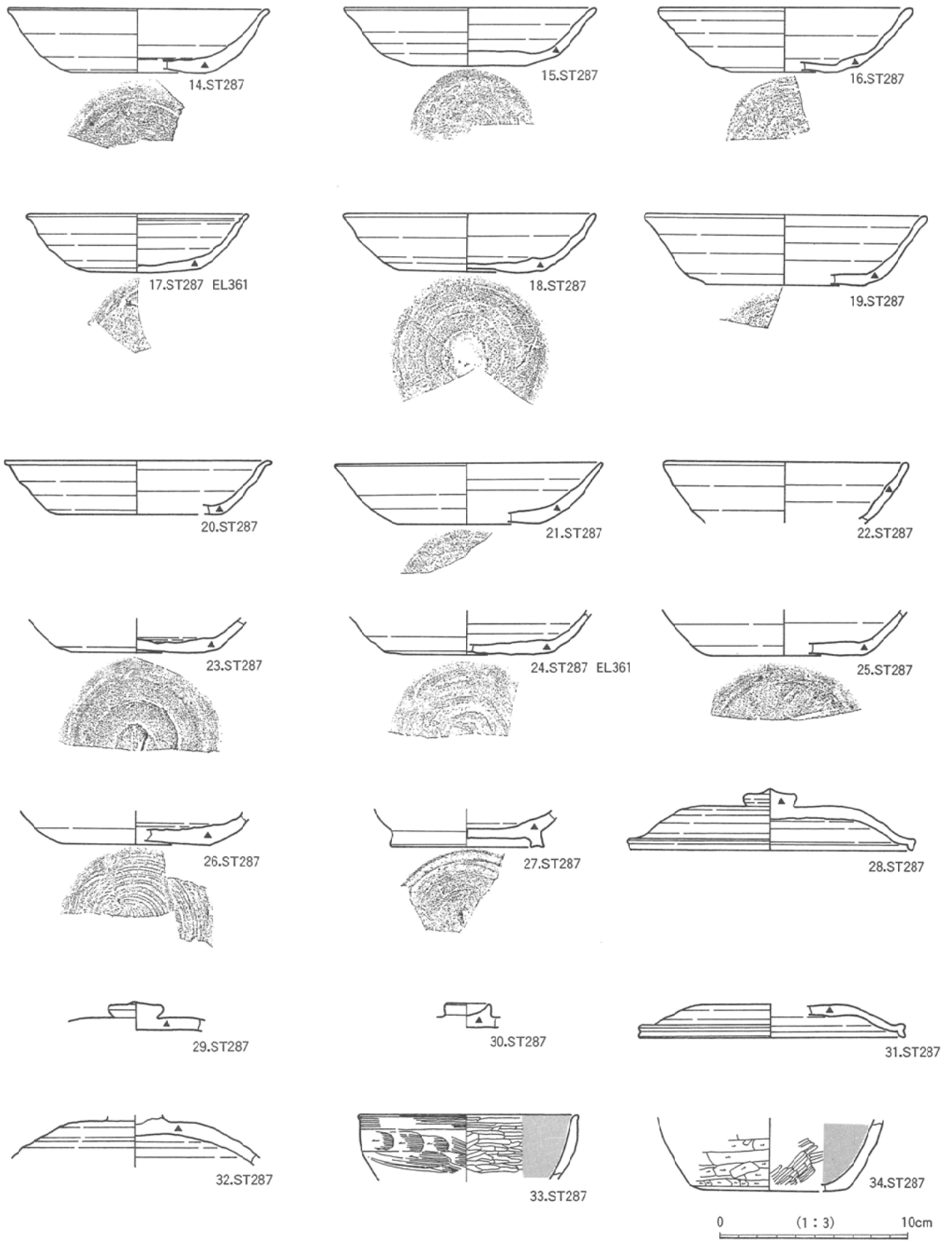
第58図 縄文土器

## 2 古代の土器（第59図～76図・118図 図版28～36 第3表～10表）

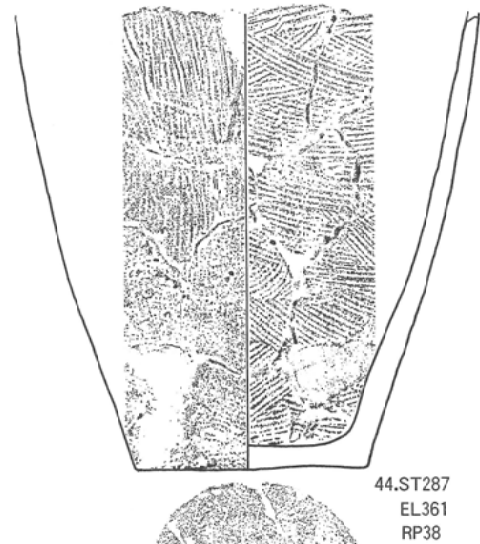
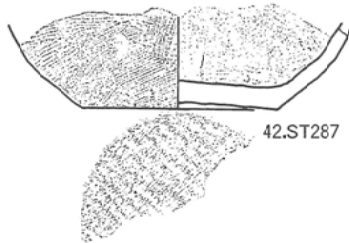
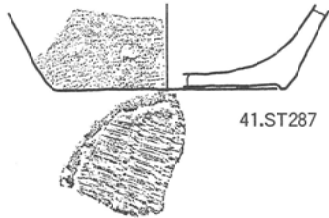
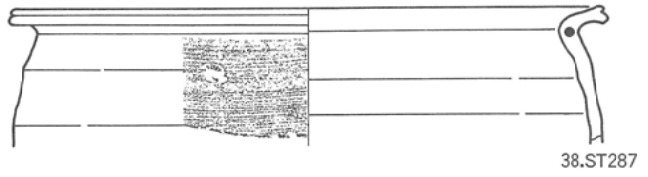
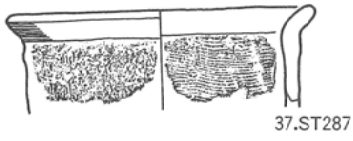
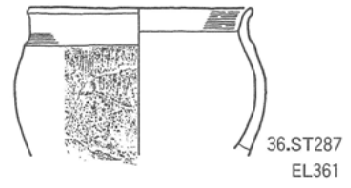
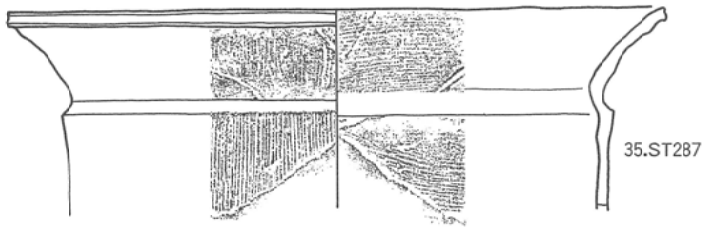
古代の土器は須恵器、土師器、赤焼土器が出土しており、その主体は奈良時代・平安時代の遺物である。以下のように分類される。

- I 須恵器 還元焰により焼成された土器を須恵器とした。
- A 坏 坏は底部切り離しの相違によって以下の3類に分けられる。
- 1類 小型の器形で、底部が回転ヘラ切りによる切り離し後、回転ヘラケズリにより丸底に近く整形されるもの。つまみのない蓋となる可能性もある。
  - 2類 底部が回転ヘラ切りによって切り離されたもの。底部は切り離し後無調整となるが、縁辺部に若干のナデ、ケズリを伴うものがある。
  - 3類 底部切り離しが静止糸切りによるもの。
  - 4類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が65mm以上となる比較的大きなもの。切り離し後の底部が無調整のaと縁辺部にケズリが施されるbに細分される。
  - 5類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が65mm未満となるもの。
- B 高台付坏 出土したものは、すべて回転ヘラ切りによる切り離し後、付高台されたものである。法量の差によって以下の2類に分けられる。
- 1類 法量が坏Aに近似するもの。
  - 2類 坏身の深さが深く、法量の大きなもの。
- C 双耳坏 出土点数は少ないが、いずれも法量的には小型である。底部の形状により以下の2類に分けられる。
- 1類 底部に低い高台がつくもの。回転ヘラ切りによる切り離し後に付高台される。
  - 2類 底部に高台をもたないもの。切り離し痕が丁寧にナデ整形される。
- D 蓋 器形およびロクロからの切り離し技法により以下のように分類される。
- 1類 胴部に稜をもつ深身の器形となり、回転ヘラ切りによる切り離し後、粗いヘラミガキを施し、つまみをもたないもの。
  - 2類 天井部径と口縁部径の差が大きな浅身の器形となり、切り離しが回転ヘラ切りによるもの。つまみが残るものは擬宝珠様となる。天井部が無調整または浅いナデ整形されるaと回転ヘラケズリが施されるbに細分される。
  - 3類 2類と同様の器形となり、切り離しが回転糸切りのもの。
  - 4類 中央が窪んだつまみ部。切り離しは不明である。
- E 甕 法量の大小により以下の2類に分けられる。
- 1類 胴部最大径が40cm未満になると思われる比較的小型のもの。
  - 2類 胴部最大径が50cm以上の大型のもの。
- F 壺 法量および器形により以下のように分類される。
- 1類 胴部最大径15cm、器高20cm未満となる小型のもの。短頸壺のaと長頸壺になると考えられるbに細分される。
  - 2類 胴部最大径15cm、器高20cm以上となるもの。器形の全体が把握できるものは出土していない。

- G 鉢 頸部径と同部最大径がほぼ等しく、口径より器高の数値が大きくなるものを鉢として区別した。法量および成・整形技法により2類に分けられる。
- 1 類 胴部最大径が25cm未満のもの。内外面ロクロ成形痕を残す。
  - 2 類 胴部最大径が25cm以上のもの。外面タタキ、内面カキ目整形がなされる。
- H 器 種の区別の困難な貯蔵形態の破片資料を一括する。
- II 土師器 酸化焰により焼成されたものの内、Ⅲ類に該当しないものを土師器とした。
- A 坏 成・整形技法・器形および法量により以下のように分類される。
- 1 類 非ロクロ成形で内面黒色処理を伴わないもの。
  - 2 類 非ロクロ成形で内面黒色処理が施され、丸底の器形となるもの。
  - 3 類 非ロクロ成形で内面黒色処理が施され、平底の器形となるもの。法量により、口径8cm、器高3cm未満の小型のa、口径12cm前後で器高5cm前後となる中型のb、口径14cm前後、器高6cm以上となる大型のcに細分される。aは外面にも黒色処理が施され、bにも外面に精緻なミガキが施されたものがある。
  - 4 類 ロクロ成形で内面黒色処理が施され、平底の器形となるもの。口径14cm、器高5cm未満のaと口径15cm、器高7cmを超える大型のbがある。
- B 高台付坏 ロクロ成形で内面黒色処理が施される。1点が出土したが(175)、176も同様の器形になると思われる。
- C 鉢 非ロクロ成形で内面黒色処理が施されたものが1点出土している。
- D 高坏 内面黒色処理が施された脚部の破片が1点出土している。
- E 甕 非ロクロ成形で口縁部ヨコナデ、胴部外面にハケメ、内面にハケメまたはヘラナデが施される。底部は平底となり木葉痕または筵痕を残すものが多い。法量の大小によって以下の3類に分けられる。
- 1 類 胴部最大径が15cm未満となる小型のもの。丸胴のaと長胴のbに細分される。
  - 2 類 胴部最大径が15~20cmの中型のもの。丸胴のaと長胴のbに細分される。
  - 3 類 胴部最大径が20cmを超える大型のもの。すべて長胴となるが、口縁部が外傾するaと直立するbがある。
- III 赤焼土器 酸化焰焼成の土器のうち、供膳形態ではロクロ成形で内面黒色処理を伴わないもの、煮沸形態ではロクロ成形でハケメ整形を伴わないものを赤焼土器として区別した。
- A 坏 図化できたものは4点である。底部切り離し等の特徴はIA5類に共通するが、器高が高く法量がより大きくなる傾向がみられる。なお、50と260については、酸化焰焼成、ロクロ成形は共通するが、内外面の調整、器形の特徴から50は中世の山茶碗、260は近世初期のかわらけとなる可能性があり、今回の分類対象から除外した。
- B 甕 図化できたものは3点と少ないが、法量の大小により2分される。
- 1 類 胴部最大径が15cm未満の小型のもの。
  - 2 類 胴部最大径が20cmを超える大型のもの。

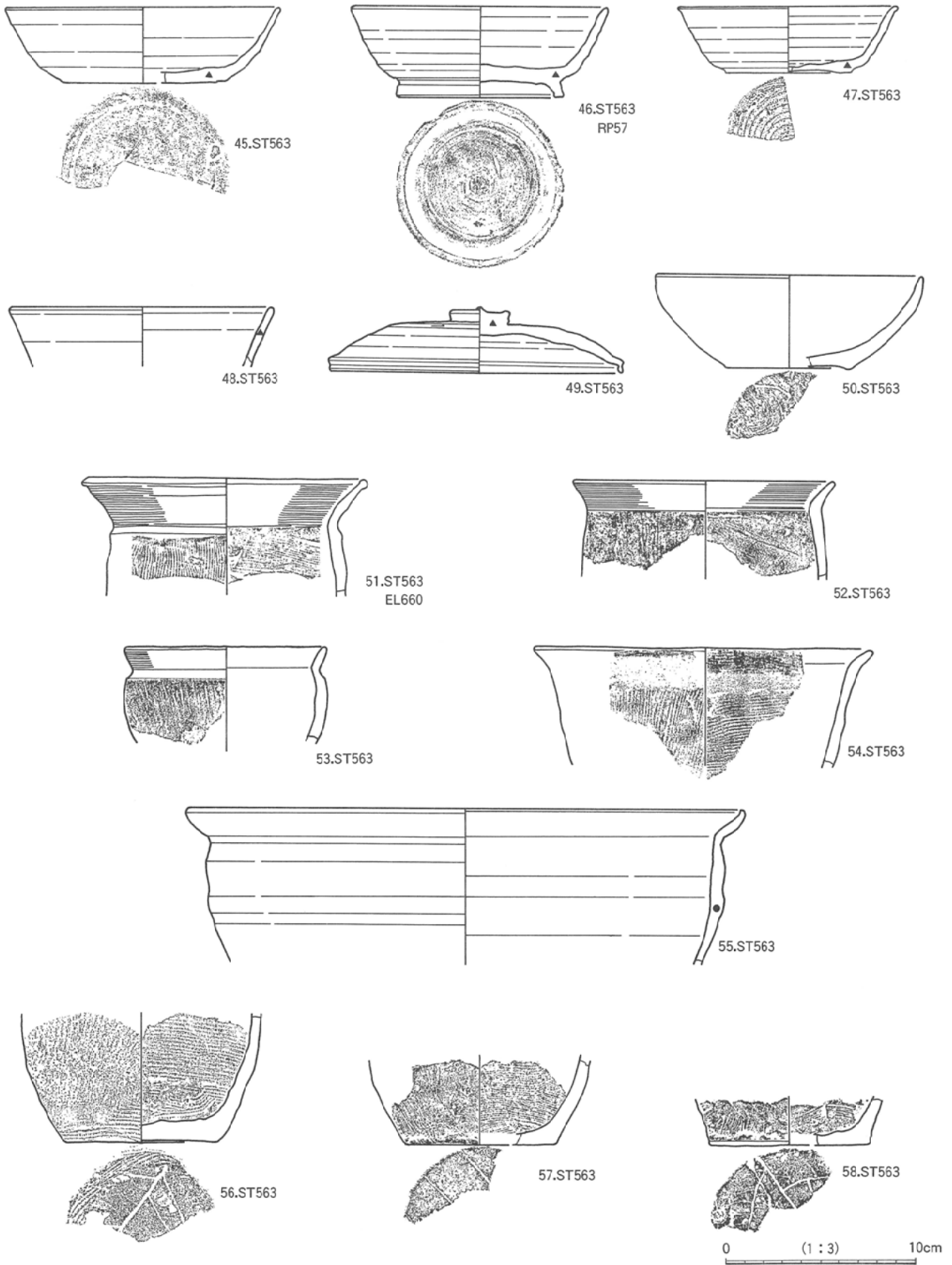


第59図 ST287出土須恵器・土師器

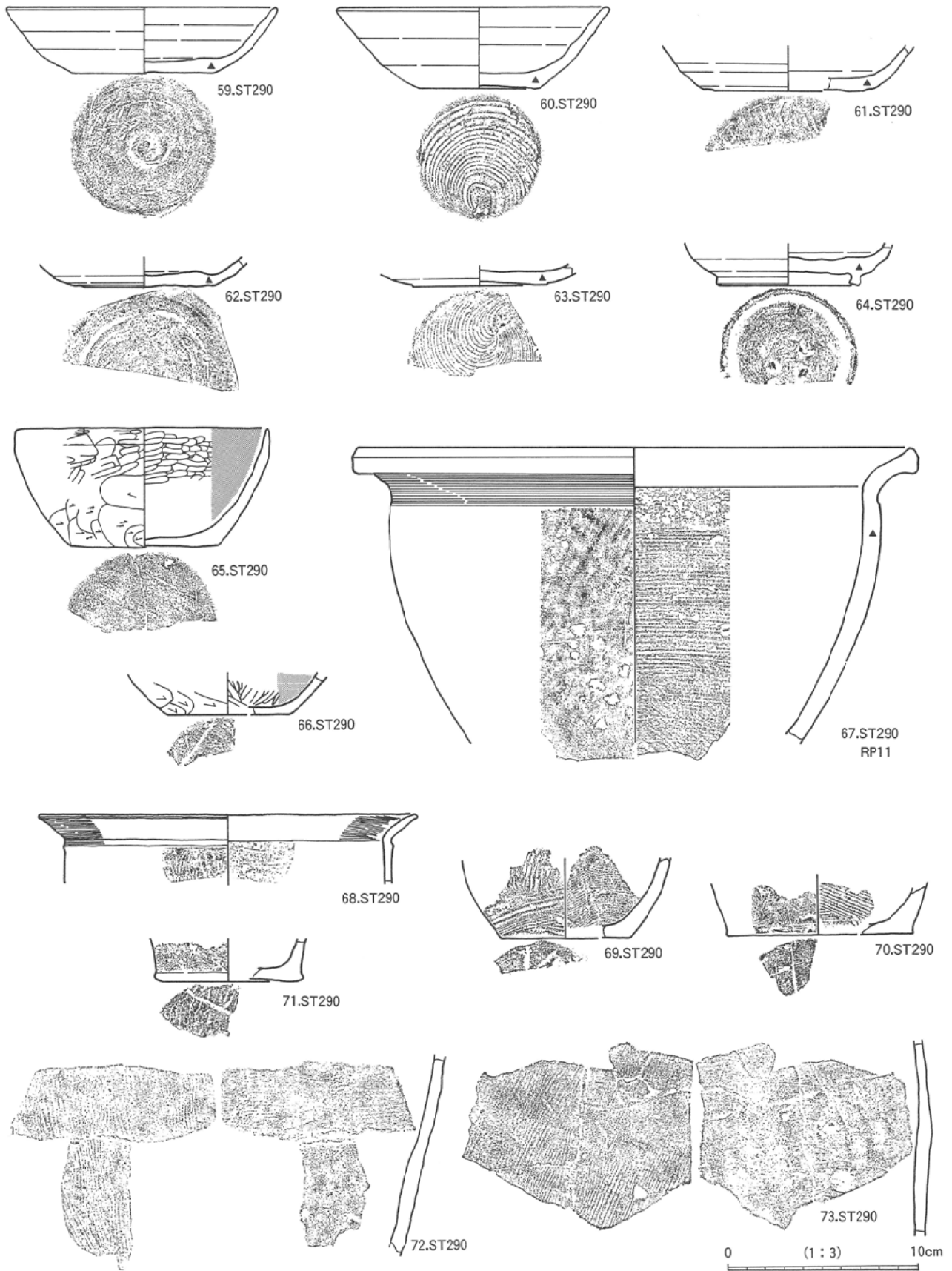


0 (1 : 3) 10cm

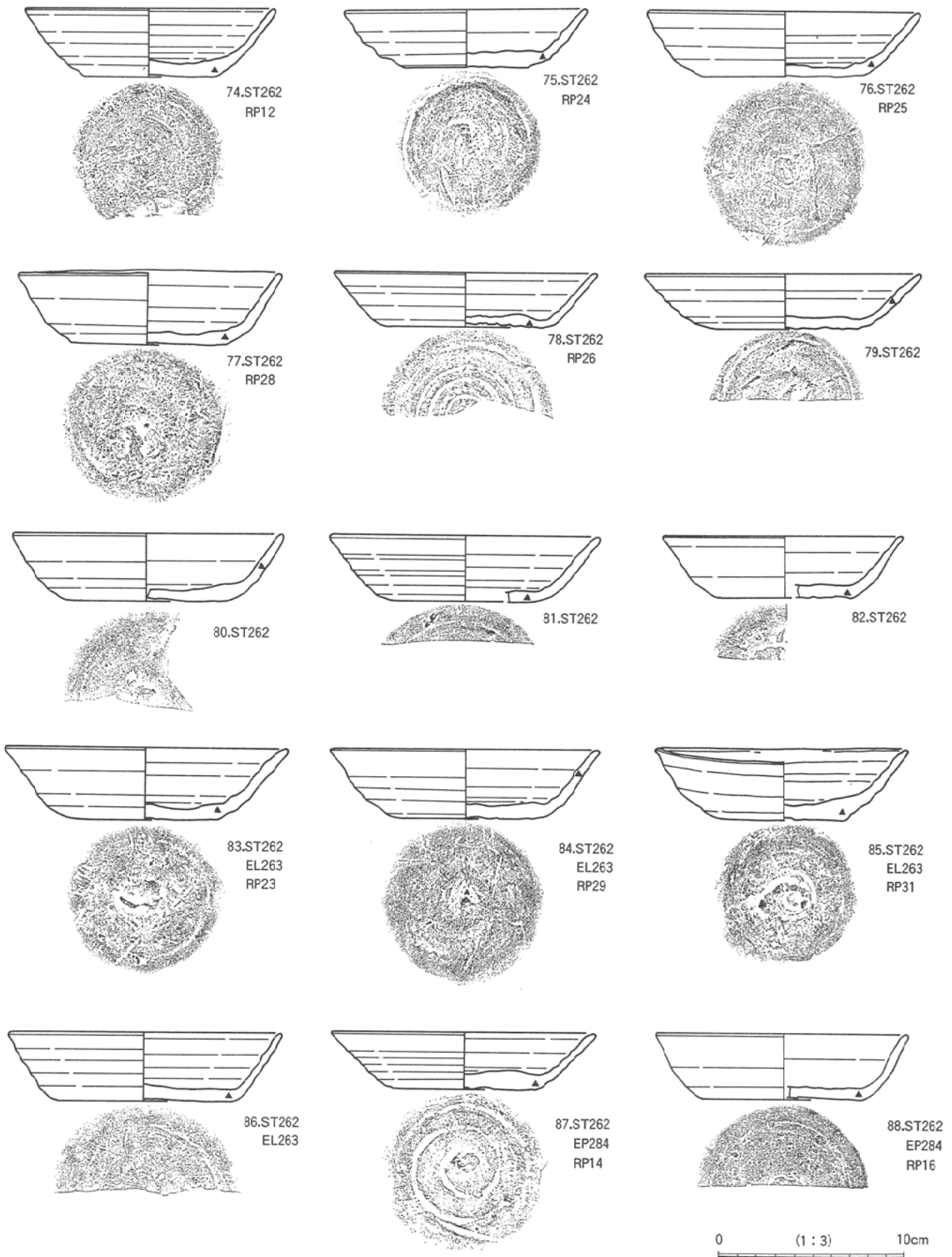
第60図 ST287出土土師器・赤焼土器



第61図 ST563出土須恵器・土師器・赤焼土器

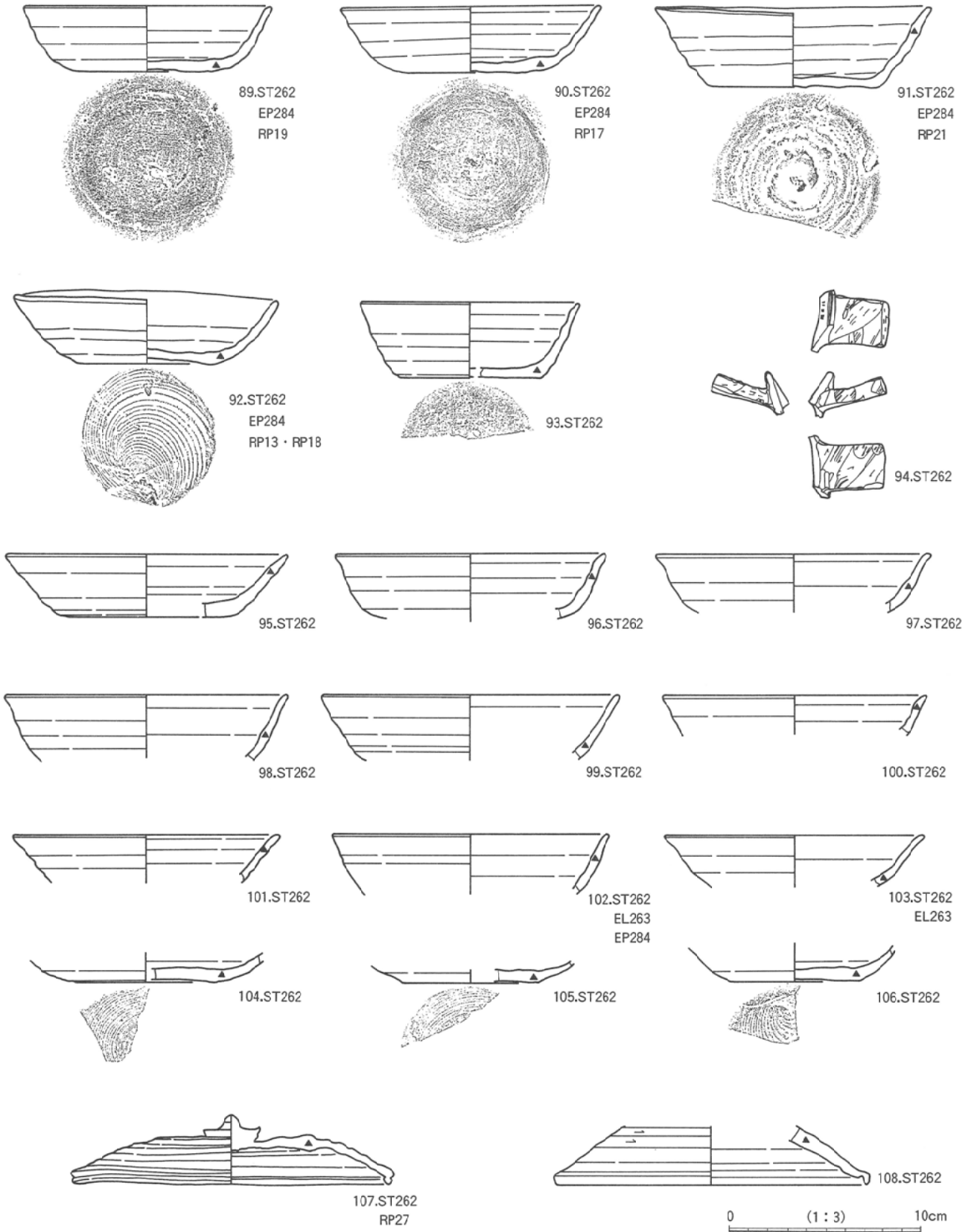


第62図 ST290出土須恵器・土師器

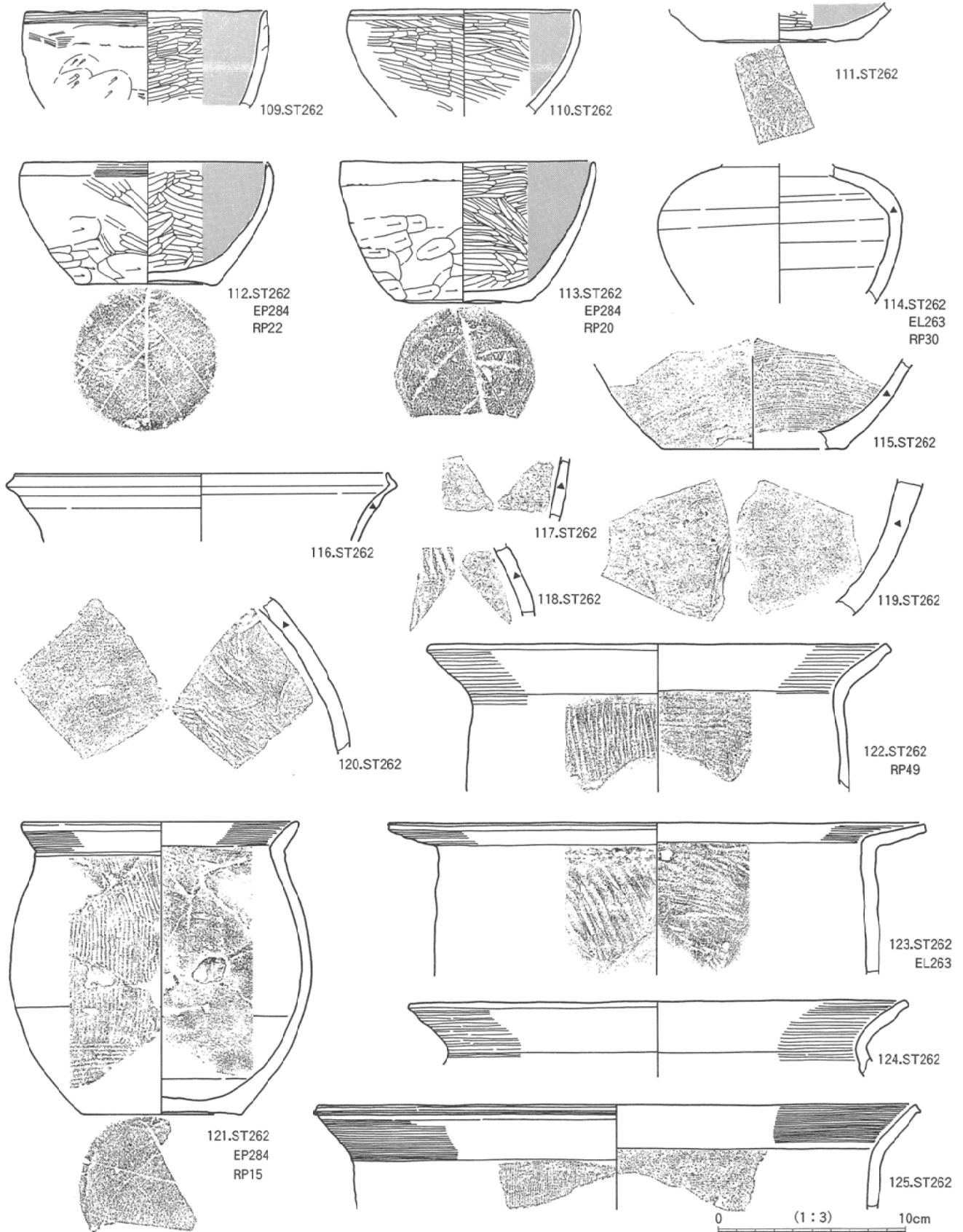


第63図 ST262出土須恵器(1)

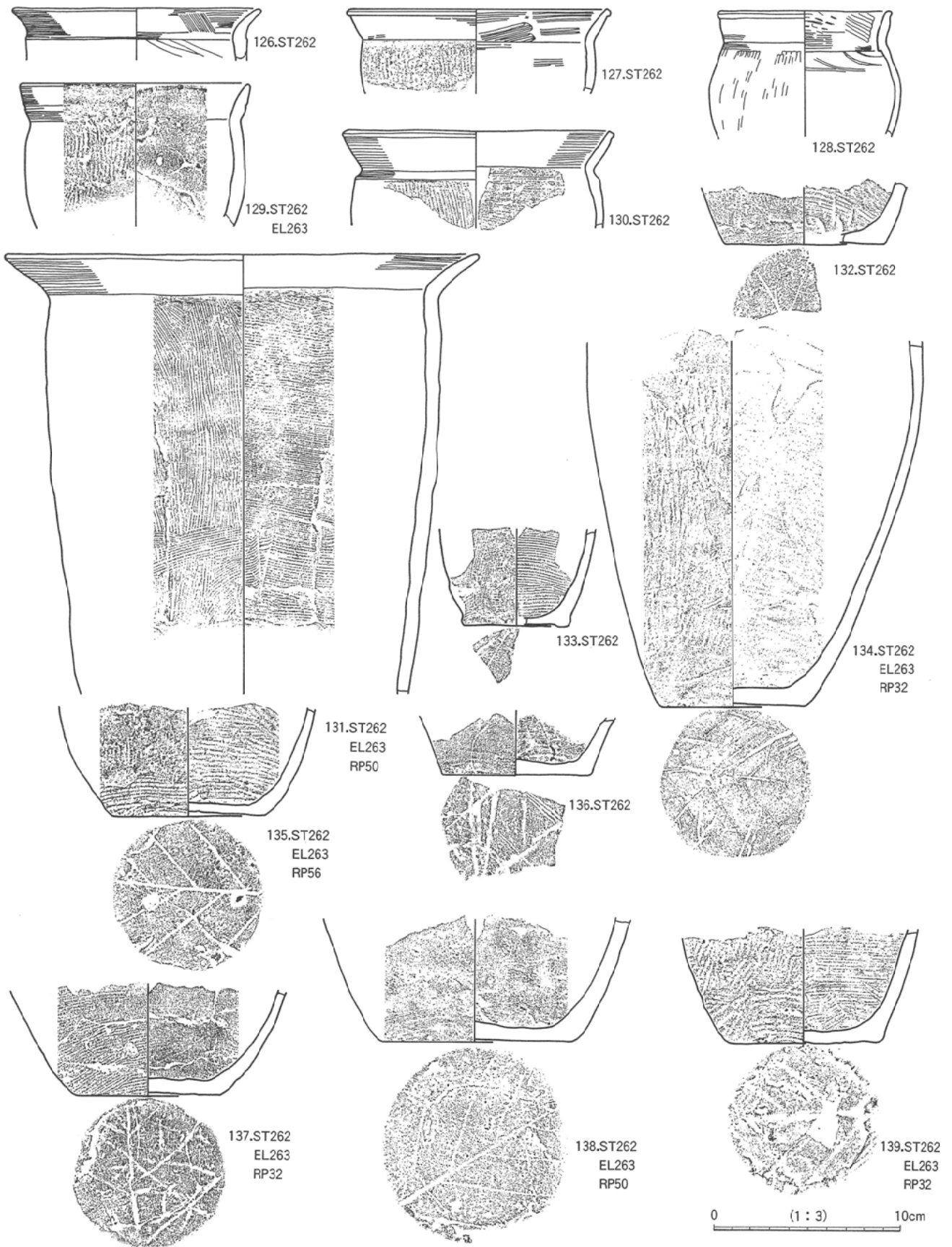




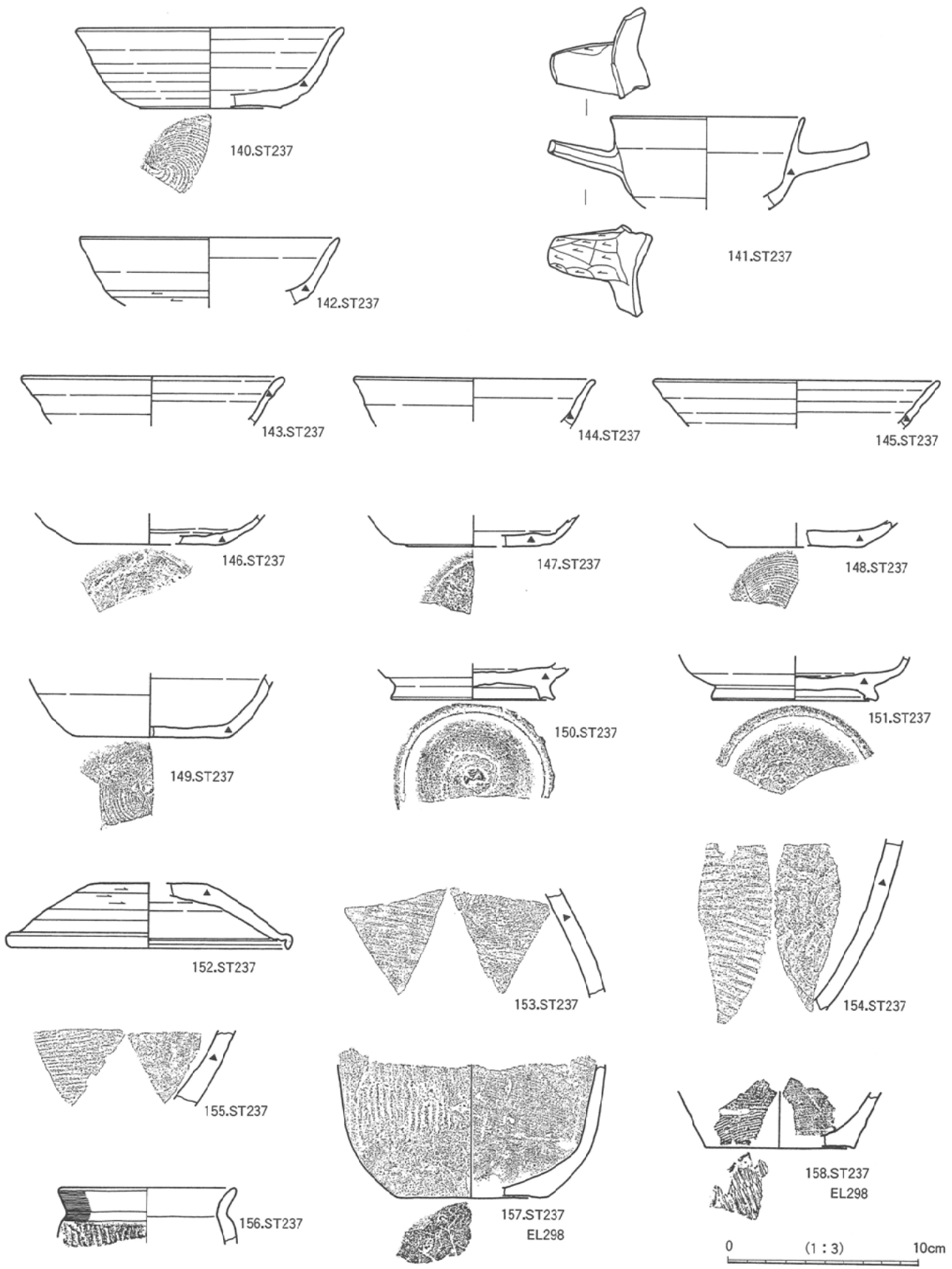
第64図 ST262出土須恵器(2)



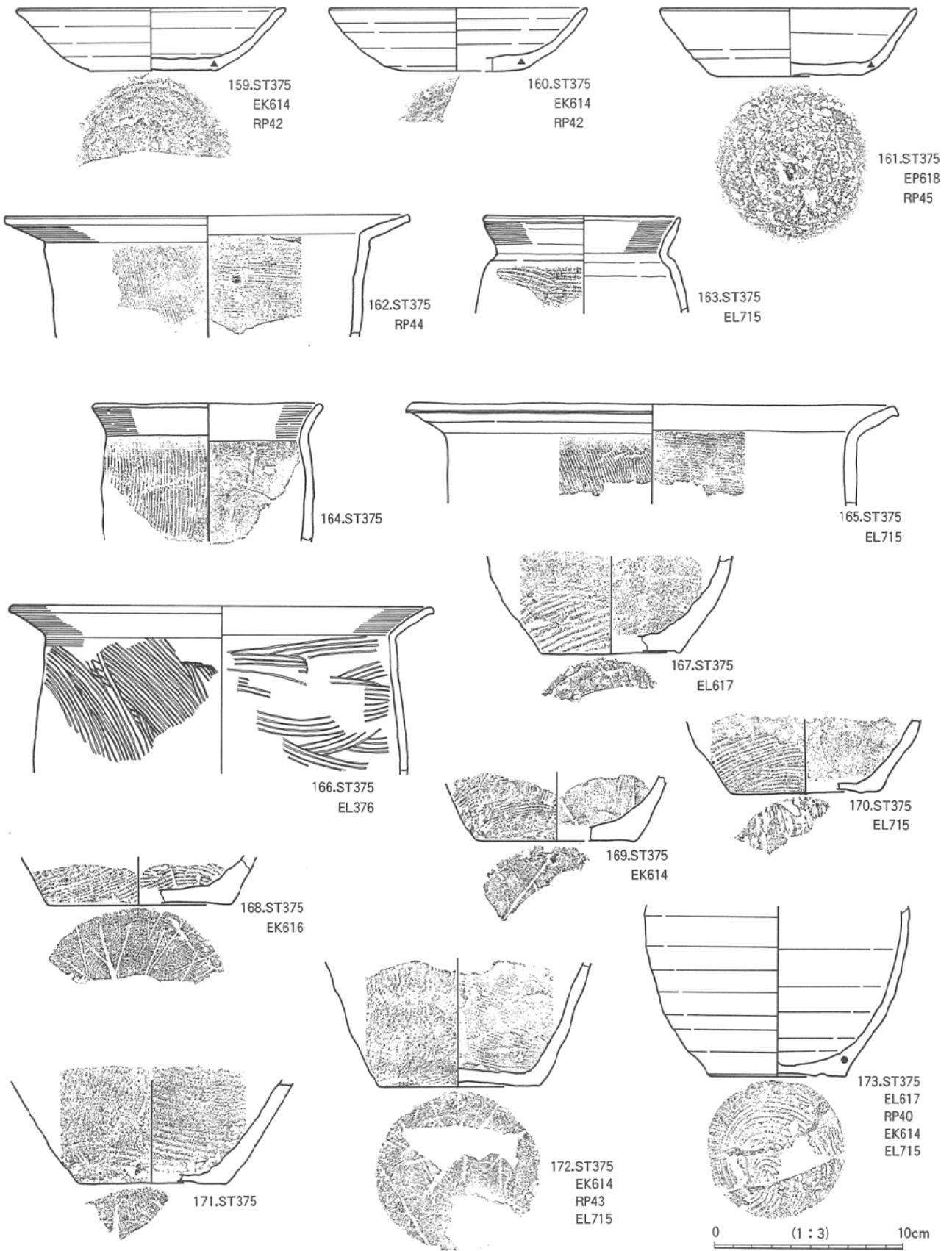
第65図 ST262出土須恵器・土師器



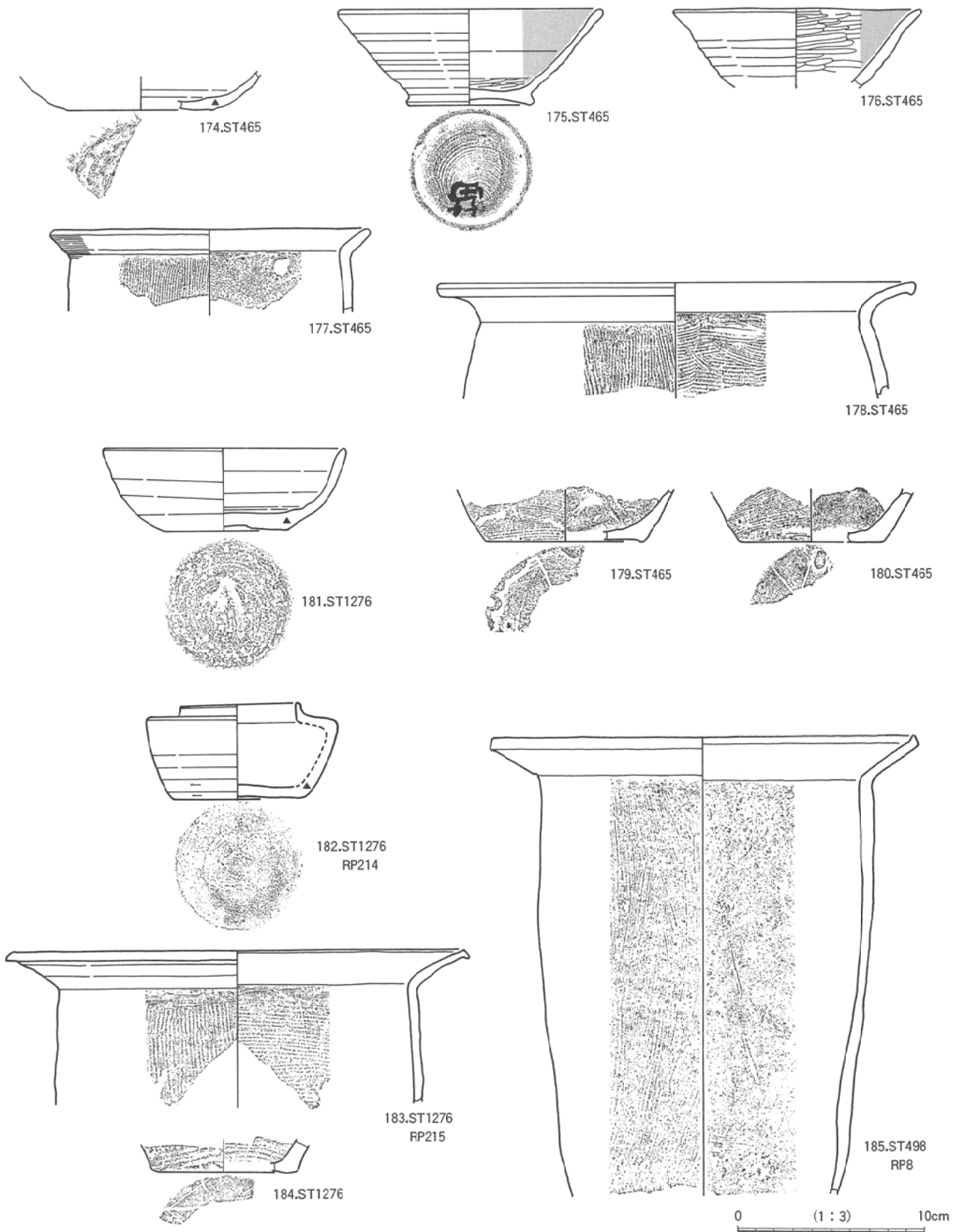
第66図 ST262出土土師器



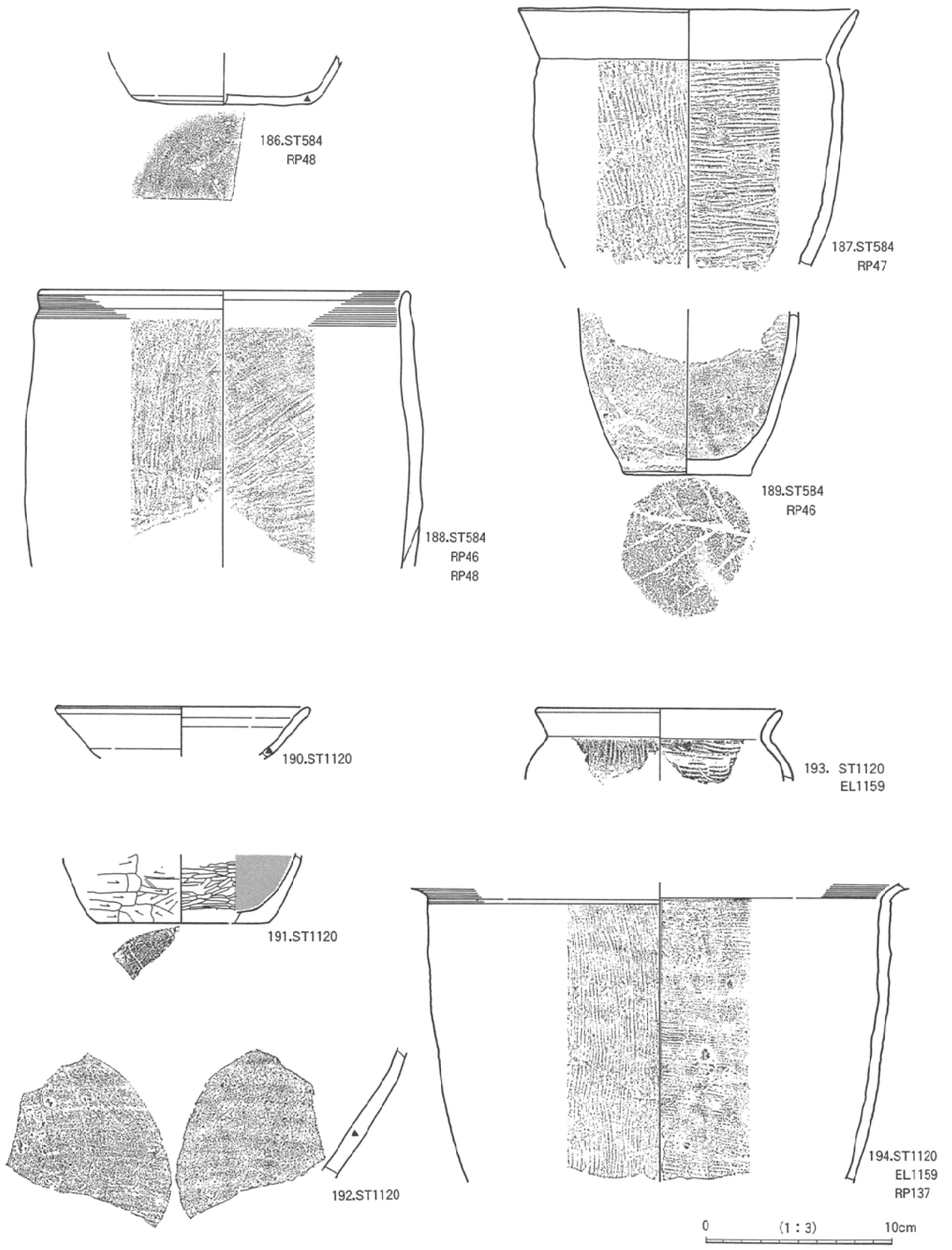
第67図 ST237出土須恵器・土師器



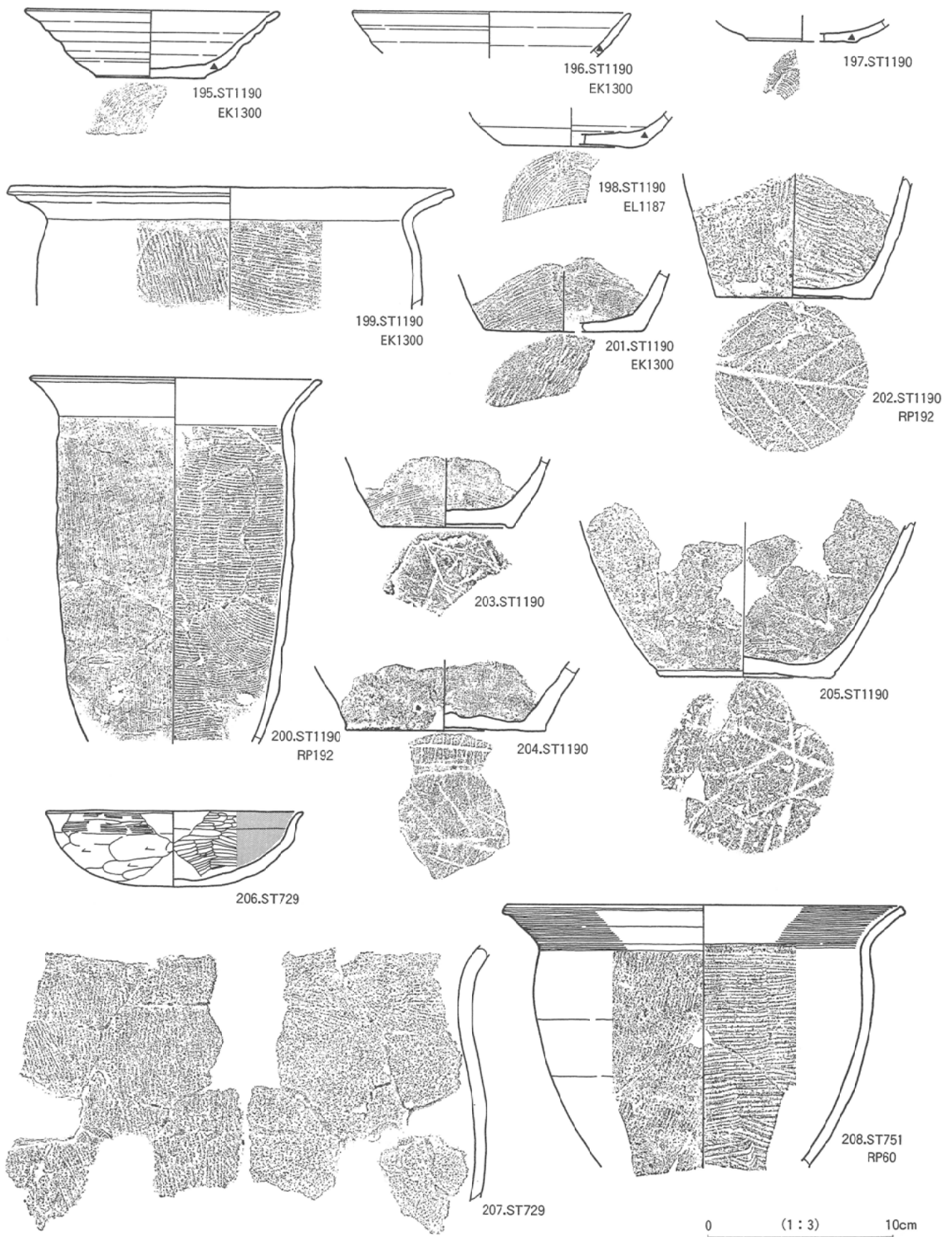
第68図 ST375出土須恵器・土師器・赤焼土器



第69図 ST465・ST1276・ST498出土須恵器・土師器

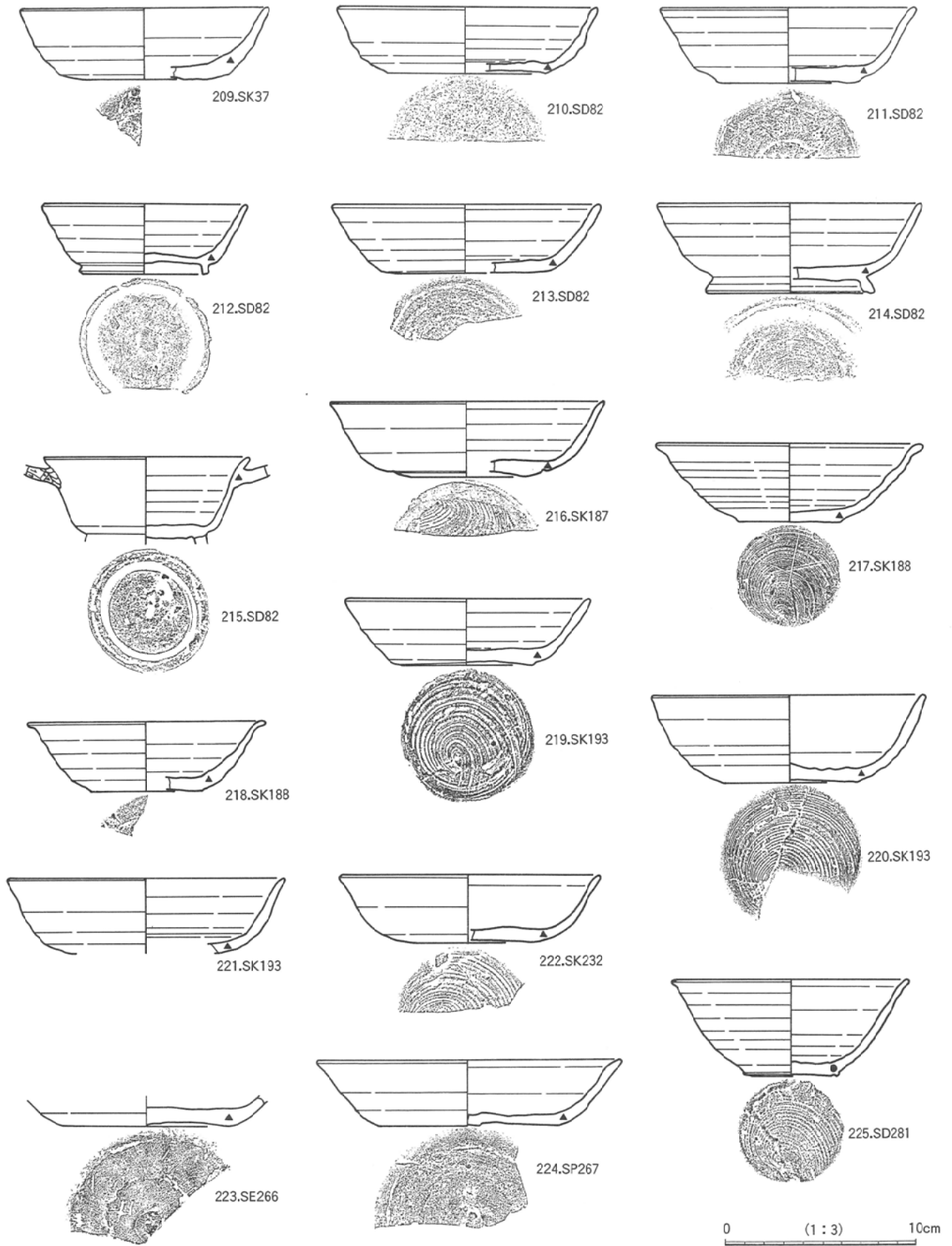


第70図 ST584・ST1120出土須恵器・土師器

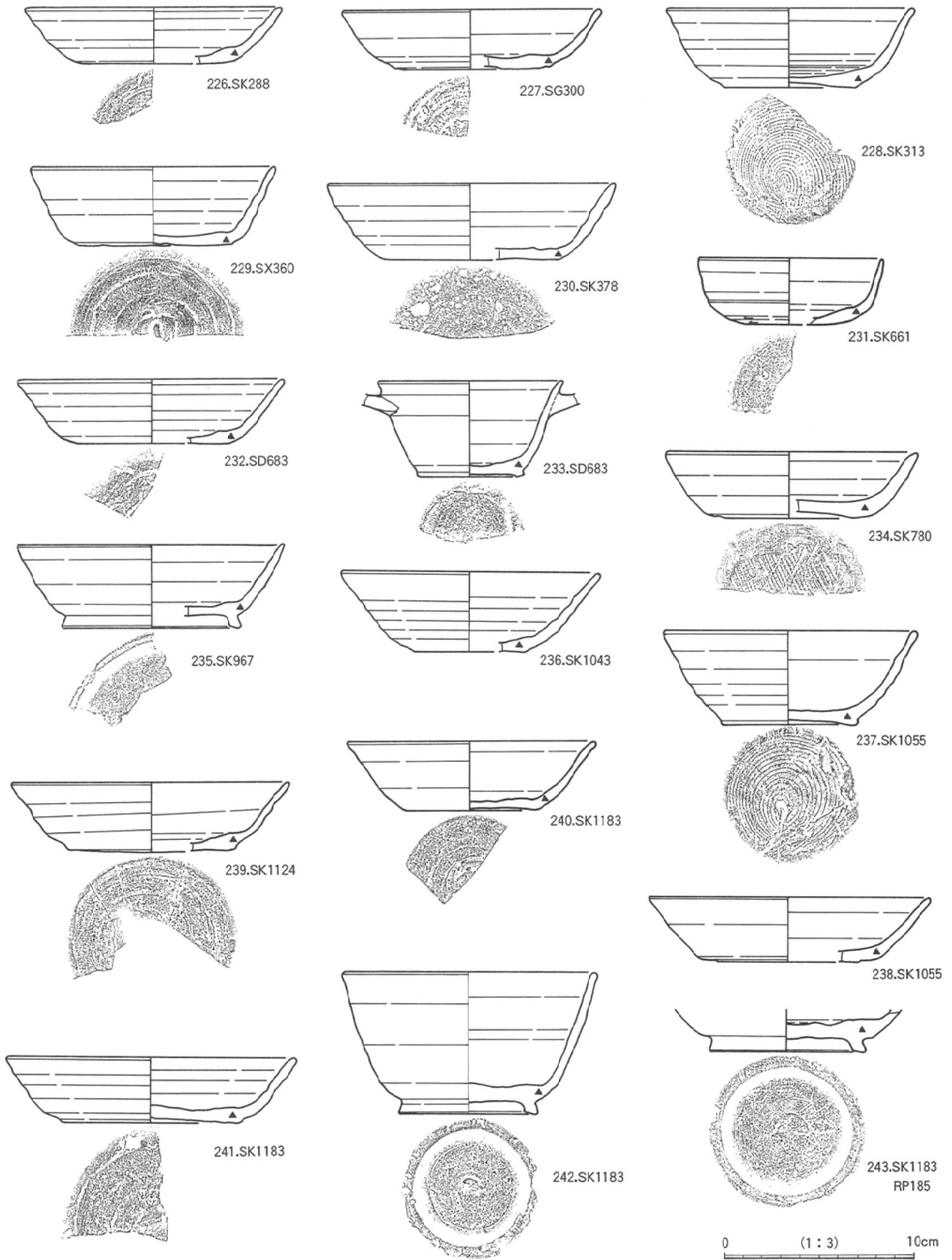


第71図 ST1190・ST729・ST751出土須恵器・土師器

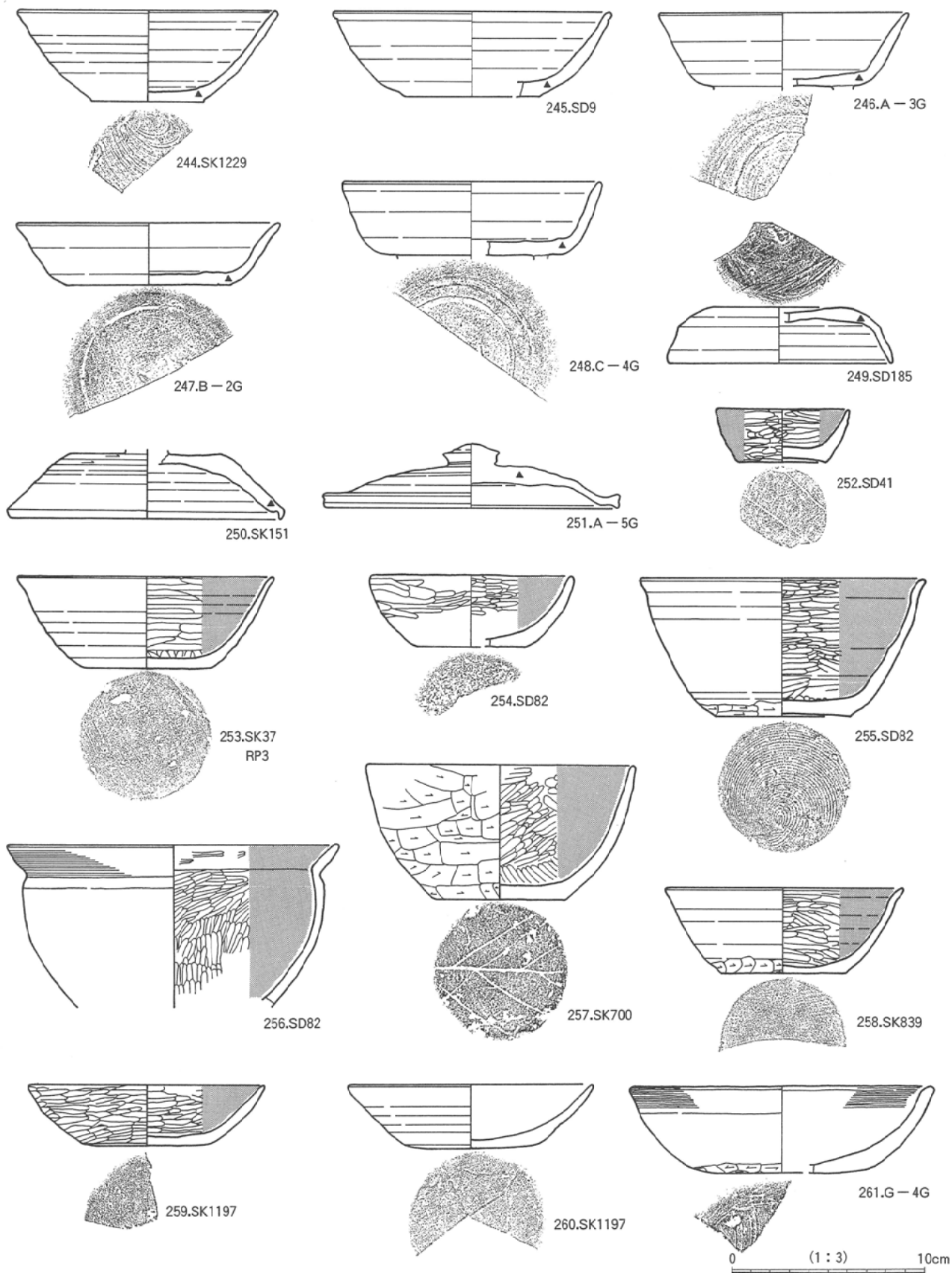




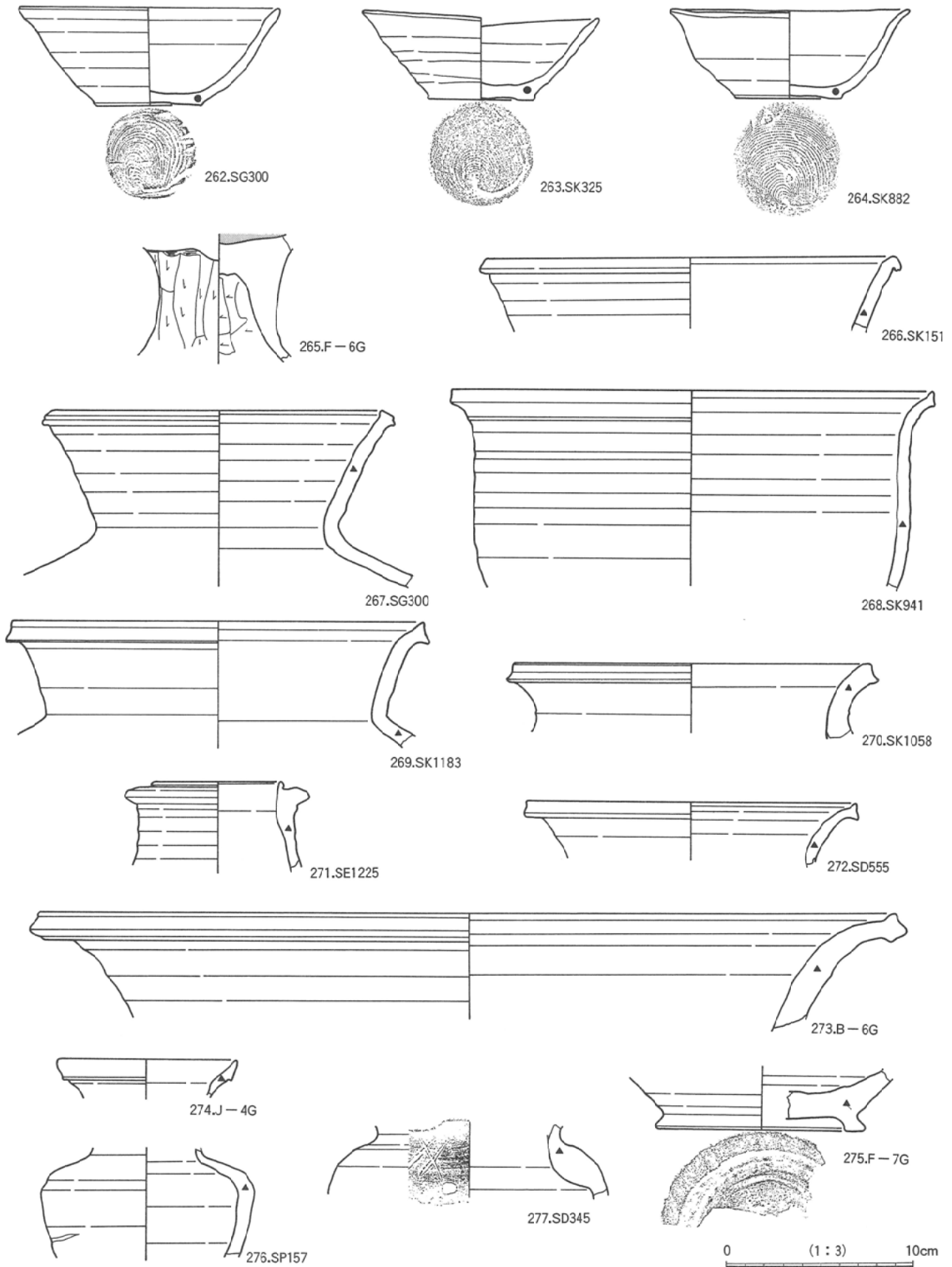
第72図 土坑・溝跡・井戸跡出土の須恵器・赤焼土器



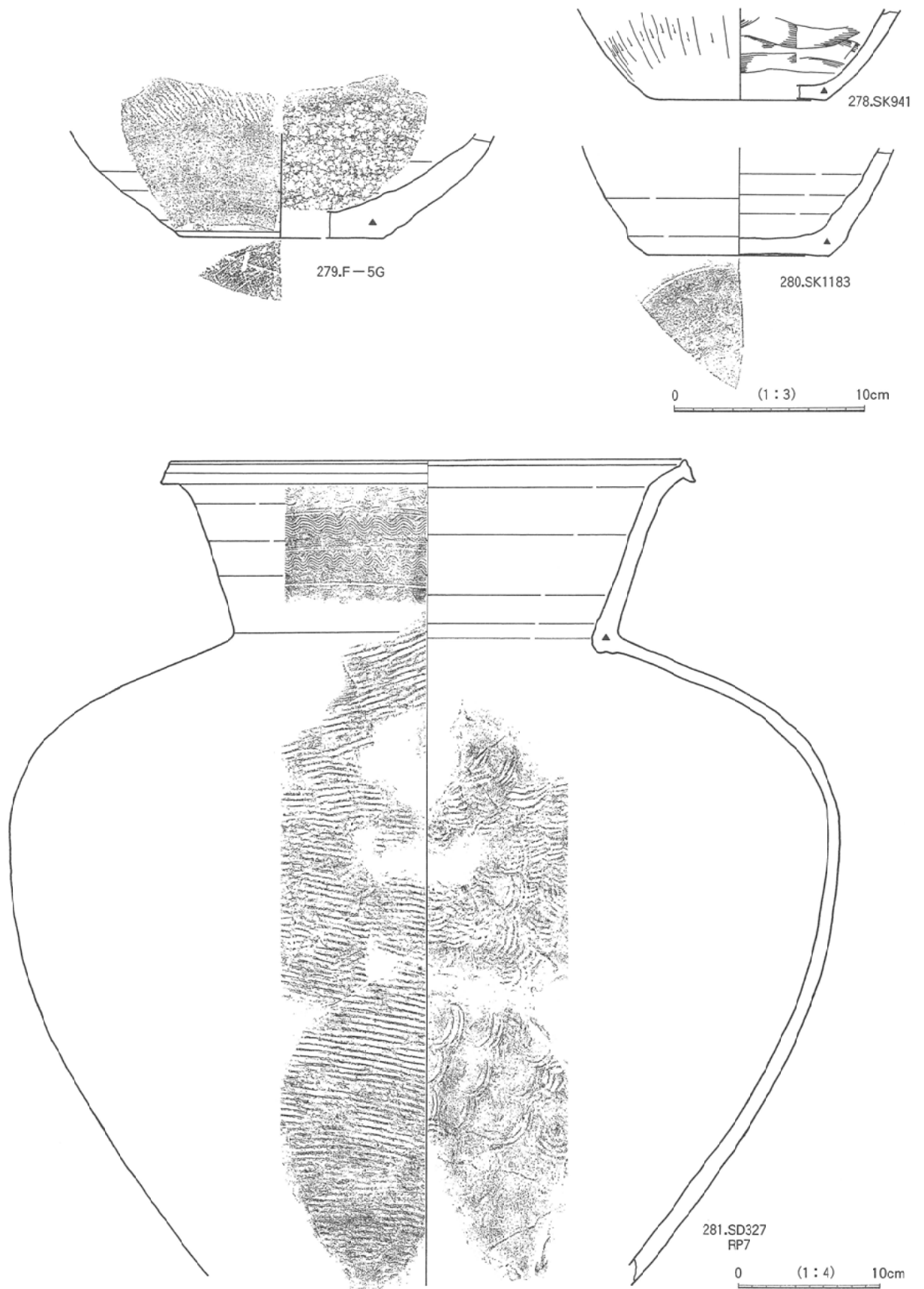
第73図 土坑・溝跡・河川跡出土の須恵器



第74図 土坑・溝跡・遺構外出土須恵器・土師器



第75図 土坑・河川跡・井戸跡・溝跡・遺構外出土須恵器・土師器・赤焼土器



第76図 土坑・河川跡・溝跡・遺構外出土須恵器

第3表 縄文土器観察表

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種	文様	備考
1	58	27	SK551	I-5	深鉢	隆起線文+沈線文	
2	58	27	SG300	A-4	深鉢	渦状隆起線文・地文縄文LR	
3	58	27	SG300	A-4	深鉢	口縁部擦消・地文縄文RL	
4	58	27	SK193	A-5	深鉢	隆起線文・地文縄文LR縦	
5	58	27	SD620	E・F-4	深鉢	隆起線文・地文縄文LR	
6	58	27	SK20	A・B-9	深鉢	渦状沈線文・地文縄文LR	海綿状骨針
7	58	27	SG300	A-4	壺	沈線文・地文縄文LR	
8	58	27	ST498	G-4・5	深鉢	沈線文・地文縄文LR縦	
9	58	27		F-4	鉢	沈線文+擦消・地文縄文LR縦	
10	58	27	SP423	E-4	深鉢	底部網代痕	
11	58	27	SD44	B-9	深鉢	地文羽状縄文	
12	58	27		D-6	深鉢	地文縄文RL縦	
13	58	27	ST498	G-4・5	鉢	地文縄文LR	海綿状骨針

第4表 石器計測表

番号	図版	遺構	地区	器種	長さ	幅	厚さ	素材
1101	27		D-4	石匙	71	47	15	頁岩
1102	27	SK909	N-2	石筥	[68]	60	23	頁岩
1103	27	SD82	C-8	石筥	80	44	14	頁岩
1104	27		E-4	凹石	109	91	59	安山岩
1105	27	SE804	H-2	磨製石斧	[104]	63	30	安山岩

第5表 古代土器計測表(1)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外寸				内寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
14	59		ST287	B-1	須恵器	坏	(141)	(74)		34	(138)	(75)		(28)	回転斡切		IA2
15	59	28	ST287	B-1	須恵器	坏	(136)	(63)		31	(133)	(76)		25	回転斡切		IA2
16	59	28	ST287	B-1	須恵器	坏	(138)	(58)		35	(132)	(55)		(31)	回転斡切		IA2
17	59		ST287 EL361	B-1	須恵器	坏	(120)	(70)		32	(117)	(69)		28	回転斡切		IA2
18	59	28	ST287	B-1	須恵器	坏	136	80		32	133	80		28	回転斡切		IA2
19	59		ST287	B-1	須恵器	坏	(154)	(85)		38	(149)	(89)		(33)	回転斡切		IA2
20	59		ST287	B-1	須恵器	坏	(144)	(89)		29	(140)	(86)		(24)			IA
21	59		ST287	B-1	須恵器	坏	(145)	(78)		33	(143)	(68)		(27)	回転斡切		IA2
22	59		ST287	B-1	須恵器	坏	(133)	-		[32]	(129)	-		-			IA
23	59		ST287	B-1	須恵器	坏	-	(73)		[18]	-	(84)		-	回転斡切		IA2
24	59		ST287 EL361	B-1	須恵器	坏	-	(92)		[22]	-	(92)		-	回転斡切		IA2
25	59		ST287	B-1	須恵器	坏	-	(86)		[23]	-	(89)		-	回転斡切、ナデ		IA2
26	59		ST287	B-1	須恵器	坏	-	(80)		[16]	-	(90)		-	回転斡切		IA4a
27	59		ST287	B-1	須恵器	高台付坏	-	(84)		[19]	-	(84)		-	回転斡切、付高台		IB1
28	59		ST287	B-1	須恵器	蓋	(157)			33	(152)			18	回転斡切		ID2a
29	59		ST287	B-1	須恵器	蓋	-			[15]	-			-	回転斡切		ID2b
30	59		ST287	B-1	須恵器	蓋	-			[13]	-			-			ID4
31	59		ST287	B-1	須恵器	蓋	(144)			[18]	(141)			(12)	回転斡切、ナデ		ID2a
32	59		ST287	B-1	須恵器	蓋	-			[25]	-			-			ID2a
33	59		ST287	B-1	土師器	坏	(120)	-		[32]	(116)			-			IIA3b
34	59		ST287	B-1	土師器	坏	-	(85)		[37]	-	-		-	ケズリ		IIA3c
35	60	32	ST287	B-1	土師器	甕	(261)	-	(218)	[78]	(258)	-	(207)	-			III3a
36	60	32	ST287 EL361	B-1	土師器	甕	(89)	-	(99)	[56]	(87)	-	(91)	-			III1a
37	60		ST287	B-1	土師器	甕	(122)	-	(110)	[37]	(115)	-	(97)	-			III1b
38	60		ST287	B-1	赤焼土器	甕	(236)	-	(232)	[52]	(226)	-	(222)	-			III2
39	60		ST287	B-1	土師器	甕	-	(82)	-	[30]	-	(54)	-	-	木葉痕、ハケメ		III1b
40	60		ST287	B-1	土師器	甕	-	82	-	[43]	-	(59)	-	-	木葉痕		III1
41	60		ST287	B-1	土師器	甕	-	(92)	-	[31]	-	(70)	-	-	筵痕		III2

第6表 古代土器計測表(2)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外寸				内寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
42	60		ST287	B-1	土師器	甕	-	(78)	-	[32]	-	(80)	-	-	筵痕		II E2a
43	60		ST287	B-1	土師器	甕	-	(80)	-	[28]	-	(60)	-	-	ナデ		II E1
44	60	32	ST287 EL361	B-1	土師器	甕	-	(90)	-	[178]	-	(64)	-	-	木葉痕	RP38	II E2b
45	61	28	ST563	A・B-1・2	須恵器	坏	(146)	(86)		40	(144)	(85)		(34)	回転窓切、ケズリ		IA2
46	61	28	ST563	A-1・2	須恵器	高台付坏	(136)	90		48	(134)	95		33	回転窓切、付高台	RP57	IB1
47	61		ST563	A・B-1・2	須恵器	坏	(118)	(68)		35	(115)	(76)		(32)	回転窓切		II A4a
48	61		ST563	A・B-1・2	須恵器	坏	(141)	-		[29]	(137)	-		-		被熱	IA
49	61	31	ST563	A・B-1・2	須恵器	蓋	157			35	154			21	回転窓切、ナデ		ID2b
50	61		ST563	A・B-1・2	?	坏	(142)	(68)		49	(139)	(69)		(43)	回転窓切	中世?	
51	61		ST563 EL660	B-1	土師器	甕	(151)	-	(127)	[60]	(145)	-	(117)	-			II E1b
52	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	(140)	-	(131)	[50]	(135)	-	(120)	-			II E1b
53	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	(107)	-	(108)	[49]	(105)	-	(96)	-			II E1a
54	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	(180)	-		[61]	(177)	-		-			II E2b
55	61		ST563	A・B-1・2	赤焼土器	甕	(296)	-	(274)	[80]	(290)	-	(261)	-			III B2
56	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	-	(80)	-	[66]	-	(75)	-	-	木葉痕		II E1a
57	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	-	(80)	-	[45]	-	(64)	-	-	木葉痕		II E1a
58	61		ST563	A・B-1・2	土師器	甕	-	(86)	-	[24]	-	(61)	-	-	木葉痕		II E1
59	62	28	ST290	A-2	須恵器	坏	(145)	75		35	(142)	82		29	回転窓切		IA2
60	62	28	ST290	A-2	須恵器	坏	146	66		44	142	70		35	回転窓切、ケズリ		IA4b
61	62	30	ST290	A-2	須恵器	坏	-	(90)		[23]	-	(92)		-	回転窓切、ナデ		IA2
62	62		ST290	A-2	須恵器	坏	-	(73)		[14]	-	(80)		-	回転窓切		IA2
63	62		ST290	A-2	須恵器	坏	-	(72)		[9]	-	(80)		-	回転窓切		IA4a
64	62		ST290	A-2	須恵器	高台付坏	-	78		[20]	-	(86)		-	回転窓切、付高台		IB1
65	62	31	ST290	A-2	土師器	坏	(134)	(79)	(136)	(63)	(132)	(56)		(59)	ケズリ		II A3c
66	62		ST290	A-2	土師器	坏	-	(66)		[20]	-	(54)		-	木葉痕		II A3c
67	62	35	ST290	A-2	須恵器	鉢	(300)	-	(263)	[156]	(292)	-	(244)	-		RP11	I G2
68	62		ST290	A-2	土師器	甕	(200)	-	(175)	[35]	(195)		(165)	-			II E2b
69	62		ST290	A-2	土師器	甕	-	(70)	-	[42]	-	(60)	-	-	木葉痕		II E1a
70	62		ST290	A-2	土師器	甕	-	(100)	-	[25]	-	(74)	-	-	木葉痕		II E1b
71	62		ST290	A-2	土師器	甕	-	(80)	-	[21]	-	(60)	-	-	木葉痕		II E3
72	62		ST290	A-2	土師器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-		73同一固体?	II E3
73	62		ST290	A-2	土師器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-			IA2
74	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	(136)	70		37	(134)	78		30	回転窓切	RP12	IA2
75	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	132	66		31	129	83		24	回転窓切	RP24	IA2
76	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	148	88		35	145	87		30	回転窓切	RP25	IA2
77	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	142	83		40	140	86		34	回転窓切、ナデ	RP28	IA2
78	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	(142)	(85)		30	(140)	(88)		25	回転窓切	RP26	IA2
79	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	(150)	(80)		30	(147)	(82)		24	回転窓切		IA2
80	63	28	ST262	B-2	須恵器	坏	(146)	(86)		37	(143)	(100)		31	回転窓切、ナデ		IA2
81	63		ST262	B-2	須恵器	坏	(146)	(76)		36	(142)	(82)		(30)	回転窓切		IA2
82	63		ST262	B-2	須恵器	坏	(130)	(73)		34	(126)	(72)		27	回転窓切		IA2
83	63	28	ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	153	75		39	148	81		33	回転窓切、ナデ	RP23	IA2
84	63	28	ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	145	76		37	142	85		30	回転窓切、ナデ	RP29	IA2
85	63	28	ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	136	71		38	133	73		30	回転窓切	RP31	IA2
86	63	28	ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	(147)	(93)		37	(145)	(97)		31	回転窓切、ナデ		IA2
87	63	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	(143)	76		31	(139)	82		23	回転窓切	RP14	IA2
88	63	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	(136)	(86)		36	(133)	(84)		29	回転窓切	RP16	IA2
89	64	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	131	70		35	129	89		29	回転窓切、ナデ	RP19	IA2

第7表 古代土器計測表(3)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外寸				内寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
90	64	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	137	78		35	135	96		30	回転篋切	RP17	IA2
91	64	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	146	88		42	144	86		37	回転篋切	RP21	IA2
92	64	29	ST262 EP284	B-2	須恵器	坏	140	71		39	137	77		32	回転糸切	RP18	IA4a
93	64	29	ST262	B-2	須恵器	双耳坏	(116)	(75)		40	(114)	(70)		35	ナデ		IC2
94	64		ST262	B-2	須恵器	双耳坏	-	-		-	-	-		-			IC
95	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(150)	(83)		33	(146)	(90)		(26)	回転篋切		IA2
96	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(143)	-		[34]	(140)	-		-			IA
97	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(146)	-		[30]	(143)	-		-			IA
98	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(150)	-		[34]	(147)	-		-			IA
99	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(158)	-		[34]	(155)	-		-			IA
100	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(140)	-		[20]	(139)	-		-			IA
101	64		ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	(141)	-		[25]	(138)	-		-			IA
102	64		ST262 EL263	B-2	須恵器	坏	(146)	-		[30]	(143)	-		-			IA
103	64		ST262	B-2	須恵器	坏	(138)	-		[27]	(135)	-		-			IA
104	64		ST262	B-2	須恵器	坏	-	(76)		[14]	-	(106)		-	回転糸切		IA4a
105	64		ST262	B-2	須恵器	坏	-	(71)		[11]	-	-		-	回転糸切		IA4a
106	64		ST262	B-2	須恵器	坏	-	(68)		[17]	-	(80)		-	回転糸切		IA4a
107	64	31	ST262	B-2	須恵器	蓋	171			37	165			20	回転篋切	RP27	ID2a
108	64		ST262	B-2	須恵器	蓋	(167)			[30]	(164)			-			ID
109	65		ST262	B-2	土師器	坏	(131)	-	(135)	[51]	(130)	-		-			IIA3c
110	65		ST262	B-2	土師器	坏	(124)	-	(126)	[55]	(121)	-		-			IIA3b
111	65		ST262	B-2	土師器	坏	-	(86)	-	[20]	-	(65)		-	木葉痕、ナデ		IIA3c
112	65	31	ST262 EP284	B-2	土師器	坏	(133)	77	(138)	(66)	(130)	65		(60)	木葉痕	RP22	IIA3c
113	65	31	ST262 EP284	B-2	土師器	坏	(138)	75	(139)	76	(136)	64		70	木葉痕、ナデ	RP20	IIA3c
114	65	34	ST262 EL263	B-2	須恵器	壺	-	-	132	[72]	-	-	(118)	-		RP30	IF1b
115	65	35	ST262	B-2	須恵器	壺?	-	(99)	-	[47]	-	(78)	-	-			IH
116	65	34	ST262	B-2	須恵器	壺?	(210)	-	-	[33]	(200)	-	-	-			I
117	65		ST262	B-2	須恵器	壺?	-	-	-	-	-	-	-	-			IH
118	65		ST262	B-2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-	-	-			IH
119	65		ST262	B-2	須恵器	壺?	-	-	-	-	-	-	-	-			IH
120	65		ST262	B-2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-	-	-			IH
121	65	32	ST262 EP284	B-2	土師器	甕	(150)	(86)	(162)	158	(148)	(70)	(152)	151	木葉痕	RP15	IE2a
122	65	32	ST262	B-2	土師器	甕	(250)	-	(207)	[79]	(245)	-	(196)	-		RP49	IE3a
123	65	33	ST262 EL263	B-2	土師器	甕	(290)	-	(240)	[80]	(289)	-	(226)	-			IE3a
124	65		ST262	B-2	土師器	甕	(270)	-	-	[39]	(265)	-	-	-			IE3a
125	65		ST262	B-2	土師器	甕	(326)	-	-	[55]	(320)	-	-	-			IE3a
126	66		ST262	B-2	土師器	甕	(136)	-	(121)	[27]	(133)	-	(109)	-			IE1b
127	66		ST262	B-2	土師器	甕	(144)	-	(128)	[44]	(140)	-	(118)	-			IE1a
128	66	33	ST262	B-2	土師器	甕	(94)	-	(104)	[68]	(89)	-	(98)	-			IE1a
129	66	33	ST262 EL263	B-2	土師器	甕	126	-	120	[77]	123	-	108	-			IE1a
130	66		ST262	B-2	土師器	甕	(148)	-	(138)	[51]	(143)	-	(129)	-			IE1a
131	66	33	ST262 EL263	B-2	土師器	甕	(260)	-	216	[238]	(258)	-	200	-		RP50	IE3a
132	66		ST262	B-2	土師器	甕	-	(85)	-	[33]	-	(60)	[98]	-	木葉痕		IE1
133	66		ST262	B-2	土師器	甕	-	(56)	-	[51]	-	(30)	[74]	-	木葉痕		IE1b
134	66	33	ST262 EL263	B-2	土師器	甕	-	77	(183)	[198]	-	55	(173)	-	木葉痕	RP32	IE2b
135	66		ST262 EL263	B-2	土師器	甕	-	83	-	[58]	-	66	-	-	木葉痕	RP56	IE1a
136	66		ST262	B-2	土師器	甕	-	(80)	-	[30]	-	(62)	-	-	籠目痕		IE1
137	66		ST262 EL263	B-2	土師器	甕	-	79	-	[56]	-	67	-	-	木葉痕	RP32	IE2a



第8表 古代土器計測表(4)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外 寸				内 寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
138	66		ST262 EL263	B-2	土師器	甕	-	102	-	[66]	-	80	-	-	木葉痕	RP50	ⅡE3
139	66		ST262 EL263	B-2	土師器	甕	-	80	-	[61]	-	56	-	-	木葉痕	RP32	ⅡE2b
140	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	(143)	(75)		43	(139)	(73)		(36)	回転糸切		ⅠA4a
141	67	29	ST237	A・B-2	須恵器	双耳坏	(104)	-		[47]	(103)	-		-			ⅠC
142	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	(139)	-		[35]	(137)	-		-			ⅠA
143	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	(140)	-		[24]	(137)	-		-			ⅠA
144	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	(128)	-		[24]	(126)	-		-			ⅠA
145	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	(152)	-		[25]	(150)	-		-			ⅠA
146	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	-	(78)		[14]	-	(93)		-	回転笠切		ⅠA2
147	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	-	(68)		[15]	-	(80)		-	回転笠切		ⅠA2
148	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	-	(72)		[13]	-	(80)		-	回転糸切		ⅠA4a
149	67		ST237	A・B-2	須恵器	坏	-	(83)		[32]	-	(80)		-	回転糸切		ⅠA4a
150	67		ST237	A・B-2	須恵器	高台付坏	-	85		[18]	-	(82)		-	回転笠切・付高台		ⅠB
151	67		ST237	A・B-2	須恵器	高台付坏	-	(87)		[22]	-	(107)		-	回転笠切・付高台		ⅠB
152	67		ST237	A・B-2	須恵器	蓋	(152)	(63)		[35]	(147)	(58)		(28)	回転笠切		ⅠD2b
153	67		ST237	A・B-2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-		-			ⅠH
154	67		ST237	A・B-2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-		-			ⅠH
155	67		ST237	A・B-2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-		-			ⅠH
156	67		ST237	A・B-2	土師器	甕	(94)	-	-	[28]	(91)	-	-	-			ⅡE1a
157	67		ST237 EL298	A-2	土師器	甕	-	(78)	-	[70]	-	(83)	-	-	木葉痕		ⅡE1a
158	67		ST237 EL298	A-2	土師器	甕	-	(78)	-	[28]	-	(49)	-	-	筵痕		ⅡE1
159	68	29	ST375 EK614	E-8	須恵器	坏	(146)	(67)		34	(142)	(70)		27	回転笠切	RP42、+EL617	ⅠA2
160	68		ST375 EK614	E-8	須恵器	坏	(140)	(78)		34	(137)	(70)		(27)	回転笠切	RP42	ⅠA2
161	68	29	ST375 EP618	F-8	須恵器	坏	139	79		37	136	81		30	回転笠切	RP45、被熱	ⅠA2
162	68		ST375	E-8	土師器	甕	(218)	-	(175)	[63]	(217)	-	(164)	-		RP44	ⅡE2b
163	68		ST375 EL715	E-8	土師器	甕	(106)	-	(114)	[50]	(104)	-	(107)	-			ⅡE1a
164	68		ST375 EL715	E-8	土師器	甕	(124)	-	(114)	[73]	(120)	-	(104)	-			ⅡE1b
165	68		ST375 EL715	E-8	土師器	甕	(264)	-	(220)	[52]	(257)	-	(205)	-			ⅡE3a
166	68	33	ST375 EL376	F-8	土師器	甕	(229)	-	(202)	[88]	(225)	-	(213)	-			ⅡE3a
167	68		ST375 EL617	F-8	土師器	甕	-	(77)	-	[50]	-	(51)	-	-	木葉痕	+EL376	ⅡE1a
168	68		ST375 EK616	F-8	土師器	甕	-	(98)	-	[24]	-	(73)	-	-	木葉痕		ⅡE2
169	68		ST375 EK614	F-8	土師器	甕	-	(84)	-	[34]	-	(58)	-	-	木葉痕		ⅡE1
170	68		ST375 EL715	E-8	土師器	甕	-	(80)	-	[38]	-	(54)	-	-	筵痕		ⅡE1a
171	68		ST375 EL617	F-8	土師器	甕	-	(80)	-	[53]	-	(55)	-	-	木葉痕	RP40	ⅡE2
172	68		ST375 EK614	E-8	土師器	甕	-	86	-	[65]	-	75	-	-	木葉痕	RP43	ⅡE2
173	68	33	ST375 EL617	F-8	赤焼土器	甕	-	74	(142)	[91]	-	52	(133)	-	回転糸切	RP40、+EL715	ⅢB1
174	69		ST465	F-8	須恵器	坏	-	(80)		[20]	-	(90)		-	回転笠切		ⅠA2
175	69	32	ST465	F-8	土師器	高台付坏	(144)	70		52	(138)	54		45	回転糸切、ナデ	内黒、墨書「笛」	ⅡB
176	69		ST465	F-8	土師器	坏	(136)	-		[41]	(133)	-		-		内黒、ロクロ	ⅡB?
177	69		ST465	F-8	土師器	甕	(174)	-	(154)	[44]	(170)	-	(144)	-			ⅡE2b
178	69		ST465	F-8	土師器	甕	(260)	-	-	[61]	(257)	-	-	-			ⅡE3a
179	69		ST465	F-8	土師器	甕	-	(85)	-	[27]	-	(67)	-	-	木葉痕		ⅡE
180	69		ST465	F-8	土師器	甕	-	(77)	-	[27]	-	(58)	-	-	木葉痕		ⅡE1
181	69	29	ST1276	G-8・9	須恵器	坏	132	67		46	130	85		35	回転糸切	被熱	ⅠA4a
182	69	34	ST1276	G-9	須恵器	短頸壺	66	72	105	52	63	(67)	(96)	46	回転糸切、ケズリ	RP214、自然釉	ⅠF1a
183	69		ST1276	G-9	土師器	甕	(251)	-	(199)	[82]	(244)	-	(189)	-		RP215	ⅡE2b
184	69		ST1276	G-8・9	土師器	甕	-	(80)	-	[17]	-	(57)	-	-	木葉痕		ⅡE2
185	69	34	ST498	G-5	土師器	甕	232	-	184	[249]	226	-	171	-		RP 8	ⅡE2b

第9表 古代土器計測表(5)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外寸				内寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
186	70		ST584	I-5	須恵器	坏	-	(95)		[27]	-	(94)		-	回転窓切、ナデ	RP48	IA2
187	70		ST584	I-5	土師器	甕	(186)	-	(168)	[139]	(183)	-	(158)	-		RP47,海線状骨針	IE2a
188	70	34	ST584	I-5	土師器	甕	(204)	-	(218)	[148]	(199)	-	(203)	-		RP46	IE3b
189	70		ST584	I-5	土師器	甕	-	72	-	[88]	-	(50)	-	-	木葉痕	RP46	IE1b
190	70		ST1120	K-1・2	須恵器	坏	(140)	-		[27]	(136)	-		-			IA
191	70		ST1120	K-1・2	土師器	坏	-	(95)		[37]	-	(84)		-	木葉痕		IIA3c
192	70		ST1120	K-1・2	須恵器	甕?	-	-	-	-	-	-	-	-			IH
193	70		ST1120 EL1159	K-1	土師器	甕	(136)	-	(146)	[37]	(133)	-	(137)	-			IE1a
194	70		ST1120 EL1159	K-1	土師器	甕	-	-	(252)	[161]	-	-	(237)	-		RP137	IE3a
195	71		ST1190 EK1300	L-2・3	須恵器	坏	(140)	(60)		37	(136)	(60)		32	回転糸切	転用硯	IA5
196	71		ST1190 EK1300	L-2・3	須恵器	坏	(152)	-		[23]	(150)	-		-			IA
197	71		ST1190 EL1187	L-3	須恵器	坏	-	(60)		[12]	-	(60)		-	回転糸切		IA5
198	71		ST1190 EL1187	L-3	須恵器	坏	-	(71)		[19]	-	(70)		-	回転糸切		IA4a
199	71	33	ST1190 EK1300	L-2・3	土師器	甕	(246)	-	(212)	[64]	(243)	-	(202)	-			IE3a
200	71	34	ST1190	L-2	土師器	甕	(160)	-	(131)	[200]	(154)		(122)	-		RP192	IE1b
201	71		ST1190 EK1300	L-2・3	土師器	甕	-	(86)	-	[32]	-	(75)	-	-	筵痕		IE1
202	71		ST1190	L-2	土師器	甕	-	84	-	[66]	-	70	-	-	木葉痕	RP192	IE1b
203	71		ST1190	L・M-2・3	土師器	甕	-	(74)	-	[37]	-	(63)	-	-	木葉痕		IE1
204	71		ST1190	L・M-2・3	土師器	甕	-	(110)	-	[35]	-	(86)	-	-	木葉痕		IE2
205	71		ST1190	L・M-2・3	土師器	甕	-	93	-	[86]	-	76	-	-	木葉痕		IE3
206	71		ST729	K・L-4・5	土師器	坏	(140)			41	(137)			38	ケズリ		IIA2
207	71		ST729	K・L-4・5	土師器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-			2E3
208	71		ST751	K-5	土師器	甕	(220)	-	(186)	[143]	(215)	-	(173)	-		RP60	IE2a
209	72		SK37	B・C-8	須恵器	坏	(134)	(90)		38	(132)	(67)		(32)	回転窓切		IA2
210	72	29	SD82	C-6	須恵器	坏	(139)	(84)		35	(136)	(85)		(30)	回転窓切		IA2
211	72	29	SD82	C-6	須恵器	坏	137	(76)		40	134	(81)		(32)	回転窓切		IA2
212	72	29	SD82	C-7	須恵器	双耳坏	(110)	70		37	(82)	56		28	回転窓切、付高台		IC1
213	72		SD82	C-7	須恵器	坏	(142)	(90)		36	(139)	(83)		(30)	回転窓切		IA2
214	72	29	SD82	C-6	須恵器	高台付坏	140	(89)		48	137	(81)		(32)	回転糸切、付高台		IB1
215	72	29	SD82	C-6	須恵器	双耳坏	(110)	[64]		[43]	(109)	64		37	回転窓切、付高台		IC1
216	72	30	SK187	B-5・6	須恵器	坏	(146)	(60)		40	(143)	(90)		(32)	回転糸切、ケズリ		IA4b
217	72	30	SK188	B-5	須恵器	坏	(142)	54		42	(138)	(60)		37	回転糸切		IA5
218	72		SK188	B-5	須恵器	坏	(127)	(60)		37	(124)	(58)		(30)	回転糸切		IA5
219	72	29	SK193	A-5	須恵器	坏	(130)	70		36	(127)	82		28	回転糸切		IA4a
220	72	29	SK193	A-5	須恵器	坏	(146)	71		47	(141)	84		40	回転糸切		IA4a
221	72		SK193	A-5	須恵器	坏	(148)	(82)		40	(146)	(107)		(35)	回転糸切		IA4a
222	72	30	SK232	B-5・6	須恵器	坏	(139)	(65)		37	(137)	(79)		(30)	回転糸切		IA4a
223	72	30	SE266	A・B-2	須恵器	坏	-	(90)		[15]	-	(100)		-	回転窓切		IA2
224	72		SP267	A-1	須恵器	坏	(162)	(94)		35	(160)	(87)		30	回転窓切		IA2
225	72	31	SD281	B-4	赤焼土器	坏	126	49		51	123	42		45	回転糸切		IIA
226	73		SK288	B-1	須恵器	坏	(139)	(86)		30	(135)	(91)		(26)	回転窓切		IA2
227	73		SG300	A-4	須恵器	坏	(140)	(85)		32	(136)	(88)		(26)	回転窓切		IA2
228	73	30	SK313	C-3	須恵器	坏	(134)	72		43	(131)	88		37	回転糸切		IA4a
229	73	30	SX360	D-2・3	須恵器	坏	(132)	(86)		43	(130)	(84)		37	回転窓切		IA2
230	73	30	SK378	B-6	須恵器	坏	(155)	(94)		41	(153)	(92)		(35)	回転窓切	被熱	IA2
231	73		SK661	K・L-4	須恵器	坏	(100)	(45)		36	(98)	(70)		(32)	回転窓ケズリ		IA1
232	73		SD683	L-4	須恵器	坏	(144)	(82)		35	(141)	(94)		(32)	回転窓切		IA2
233	73	30	SD683	L-4	須恵器	双耳坏	(100)	(58)		[52]	(98)	(54)		(46)	回転糸切、付高台		IC1

第10表 古代土器計測表(6)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外寸				内寸				底部・切離	備考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ			
234	73	30	SK780	I-5	須恵器	坏	(137)	(90)		36	(135)	(80)	(27)	静止糸切、ケズリ		IA3	
235	73		SK967	M-3	須恵器	高台付坏	(144)	(97)		45	(141)	(92)	(34)	回転糸切、付高台		IB1	
236	73		SK1043	L-3	須恵器	坏	(140)	(60)		43	(136)	(79)	(38)	回転糸切		IA5	
237	73	30	SK1055	L-3	須恵器	坏	(136)	73		51	(133)	65	44	回転糸切		IA4a	
238	73		SK1058	L-3	須恵器	坏	(152)	(78)		35	(148)	(88)	(29)	回転糸切		IA2	
239	73	30	SK1124	K-2	須恵器	坏	148	90		38	146	98	33	回転糸切		IA2	
240	73		SK1183	L・M-2	須恵器	坏	(134)	(70)		37	(132)	(72)	(33)	回転糸切		IA2	
241	73		SK1183	L・M-2	須恵器	坏	(156)	(94)		36	(153)	(96)	30	回転糸切		IA2	
242	73	30	SK1183	L・M-2	須恵器	高台付坏	(138)	76		76	(134)	80	62	回転糸切、付高台		IB2	
243	73	30	SK1183	L-2	須恵器	高台付坏	-	84	[22]	-	98	-	-	回転糸切、付高台	RP185	IB	
244	74		SK1229	H・I-8・9	須恵器	坏	(138)	(61)		49	(134)	(55)	(43)	回転糸切		IA5	
245	74		SD9	C-9	須恵器	坏	(148)	(73)		45	(144)	(74)	(37)	回転糸切		IA4a	
246	74			A-3	須恵器	高台付坏	(132)	[74]		[39]	(130)	(88)	(35)	回転糸切、付高台		IB1	
247	74	30		B-2	須恵器	坏	(139)	(88)		33	(136)	(88)	27	回転糸切		IA2	
248	74			C-4	須恵器	高台付坏	(137)	[80]		[40]	(135)	(99)	(32)	回転糸切、付高台		IB1	
249	74		SD185	A-5	須恵器	蓋	(120)			30	(118)		(24)	回転糸切、ミガキ		ID1	
250	74		SK151	A-5・6	須恵器	蓋	(146)			[34]	(141)		(29)	回転糸切、ナデ		ID3	
251	74	31		A-5	須恵器	蓋	(156)			34	(153)		(13)	回転糸切、ナデ		ID2a	
252	74	31	SD41	C-6	土師器	坏	(72)	47		28	(70)	40	20	木葉痕		IIA3a	
253	74	31	SK37	B-8	土師器	坏	135	68		48	133	66	43	ケズリ	RP3	IIA4a	
254	74		SD82	C-6	土師器	坏	(109)	(58)		(38)	(106)	(42)	(34)		被熱	IIA3b	
255	74	32	SD82	C-7	土師器	坏	(150)	72		73	(147)	70	65	回転糸切		IIA4b	
256	74	31	SD82	C-6	土師器	鉢	(174)	-	(158)	[84]	(170)	-	(149)	-	被熱	IIC	
257	74	31	SK700	K-3	土師器	坏	(142)	70		71	(139)	60	64	木葉痕		IIA3c	
258	74	31	SK839	E-6	土師器	坏	(125)	(66)		45	(123)	(50)	42	ケズリ		IIA4a	
259	74		SK1197	K-9	土師器	坏	(125)	(70)		32	(123)	(54)	27	ミガキ		IIA3b	
260	74		SK1197	K-9	?	坏	(129)	70		34	(127)		29	ケズリ			
261	74			G-4	土師器	坏	(160)	(90)		46	(154)		(42)	ケズリ		IIA1	
262	75	31	SG300	A-4	赤焼土器	坏	(140)	55		54	(136)	48	46	回転糸切		IIIA	
263	75	31	SK325	B-4	赤焼土器	坏	128	57		47	125	40	36	回転糸切		IIIA	
264	75	31	SK882	D-6	赤焼土器	坏	129	58		48	125	52	41	回転糸切		IIIA	
265	75	31		F-6	土師器	高坏	-	-		[66]	-		-			IID	
266	75		SK151	A-5・6	須恵器	甕	(227)	-	-	[38]	(219)	-	-	-		IE1	
267	75	35	SG300	A-4	須恵器	甕	(188)	-	-	[94]	(175)	-	-	-		IE1	
268	75	35	SK941	M・N-1・2	須恵器	鉢	(260)	-	(235)	[105]	(257)	-	(222)	-		IG1	
269	75		SK1183	L・M-2	須恵器	甕	(227)	-	-	[66]	(220)	-	-	-		IE1	
270	75		SK1058	L-3	須恵器	甕	(200)	-	-	[40]	(184)	-	-	-		IE1	
271	75		SE1225	I-8	須恵器	壺	(70)	-	-	[46]	(67)	-	-	-		IF2?	
272	75		SD555	F・G-6	須恵器	甕?	(179)	-	-	[33]	(176)	-	-	-		IH	
273	75			B-6	須恵器	甕	(470)	-	-	[61]	(455)	-	-	-		IE2	
274	75			J-4	須恵器	壺	(95)	-	-	[19]	(93)	-	-	-		IF1	
275	75			F-7	須恵器	台付壺?	-	(112)	-	[32]	-	-	-	-	回転糸切	IH	
276	75		SP157	C-7	須恵器	壺	-	-	(114)	[55]	-	-	(96)	-		IF1	
277	75	35	SD345	C-5	須恵器	壺	-	-	(150)	[38]	-	-	(134)	-		IF1	
278	76		SK941	M・N-1・2	須恵器	甕	-	(90)	-	[47]	-	(95)	-	-		IH	
279	76			F-5	須恵器	甕	-	(108)	-	[54]	-	(90)	-	-		IH	
280	76		SK1183	L・M-2	須恵器	壺	-	(97)	-	[55]	-	(80)	-	-		IH	
281	76	36	SD327	C-2	須恵器	甕	376	-	584	[580]	362	-	567	-	RP7	IE2	

## 3 中世・近世の土器・陶磁器

## a 瓦器（第77図 図版37・38 第11表）

燻焼によって焼成された土器を瓦器とした。小破片の場合は近現代のものとの区別がつけ難いが、当該期に所属にすると考えられる資料は25点あり、このうち20点を掲載した。器種は、鉢、火鉢、鍋、播鉢、焙烙、壺がある。被熱および破碎後に磨滅したものが多い。胎土は一般にきめが細かく、砂粒の混入が目立つものは少ない。

鉢 1122は口縁部の破片で黒色処理がなされる。口縁部は外に引き出される。

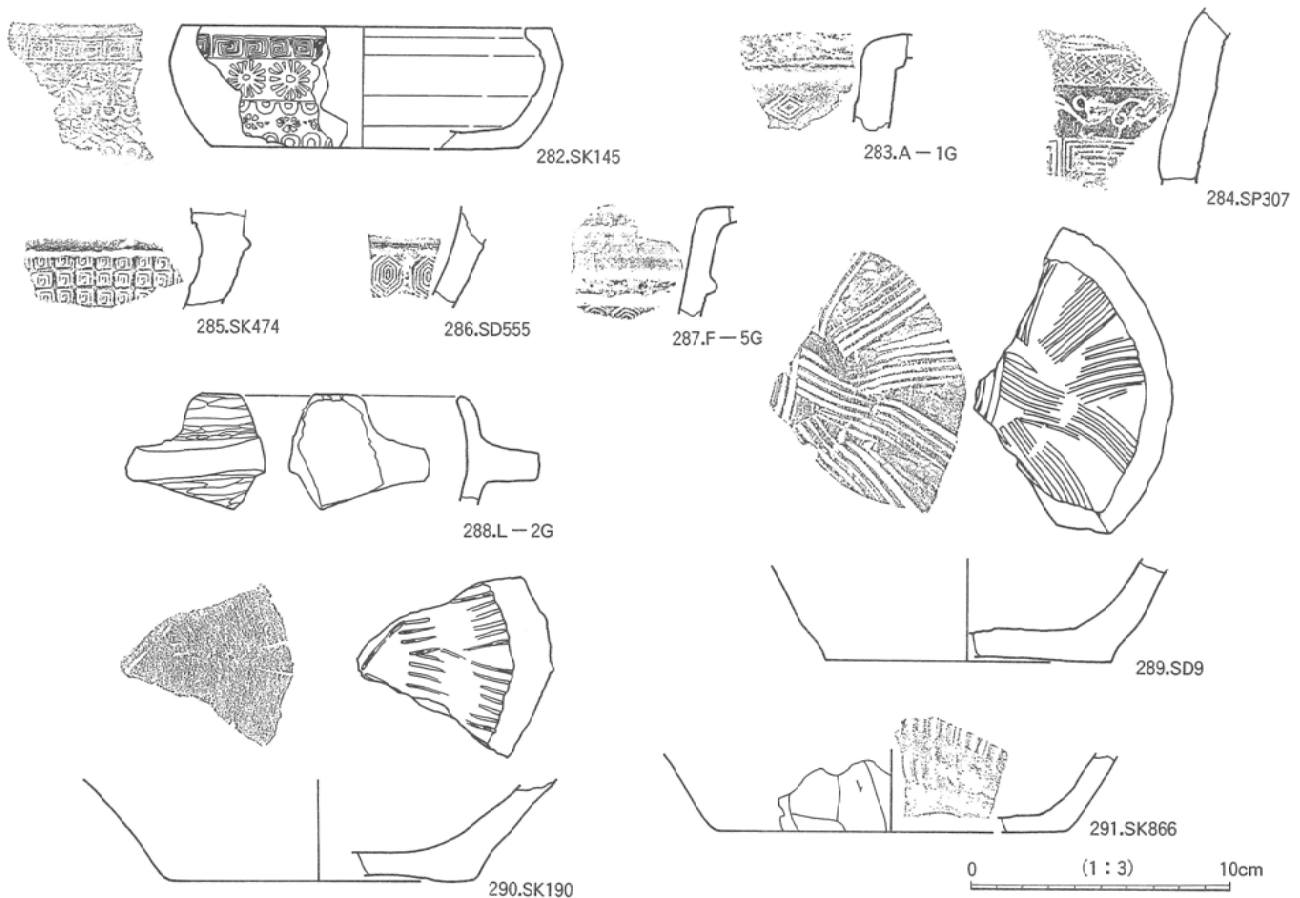
火鉢 未掲載を含め11点が出土した。282～287は器面にスタンプの連続押捺が施されたものである。1108は脚部の破片で指頭によるナデ整形痕が残る。1123は黒色処理された肩部の破片である。

鍋 288は耳付鍋の口縁部である。内面はナデ整形で輪積み痕を残すが外面は全面にミガキが施される。

播鉢 未掲載を含め7点が出土した。290～291は底部、1106は体部、1107は口縁部の資料である。290は使用による磨滅が著しい。

焙烙 1124は2脚をもつ底部破片、1127は黒色処理が施された口縁部資料である。

壺 大型（1125）、中型（1109）、小型（1121）の体部破片が出土した。



第77図 瓦器

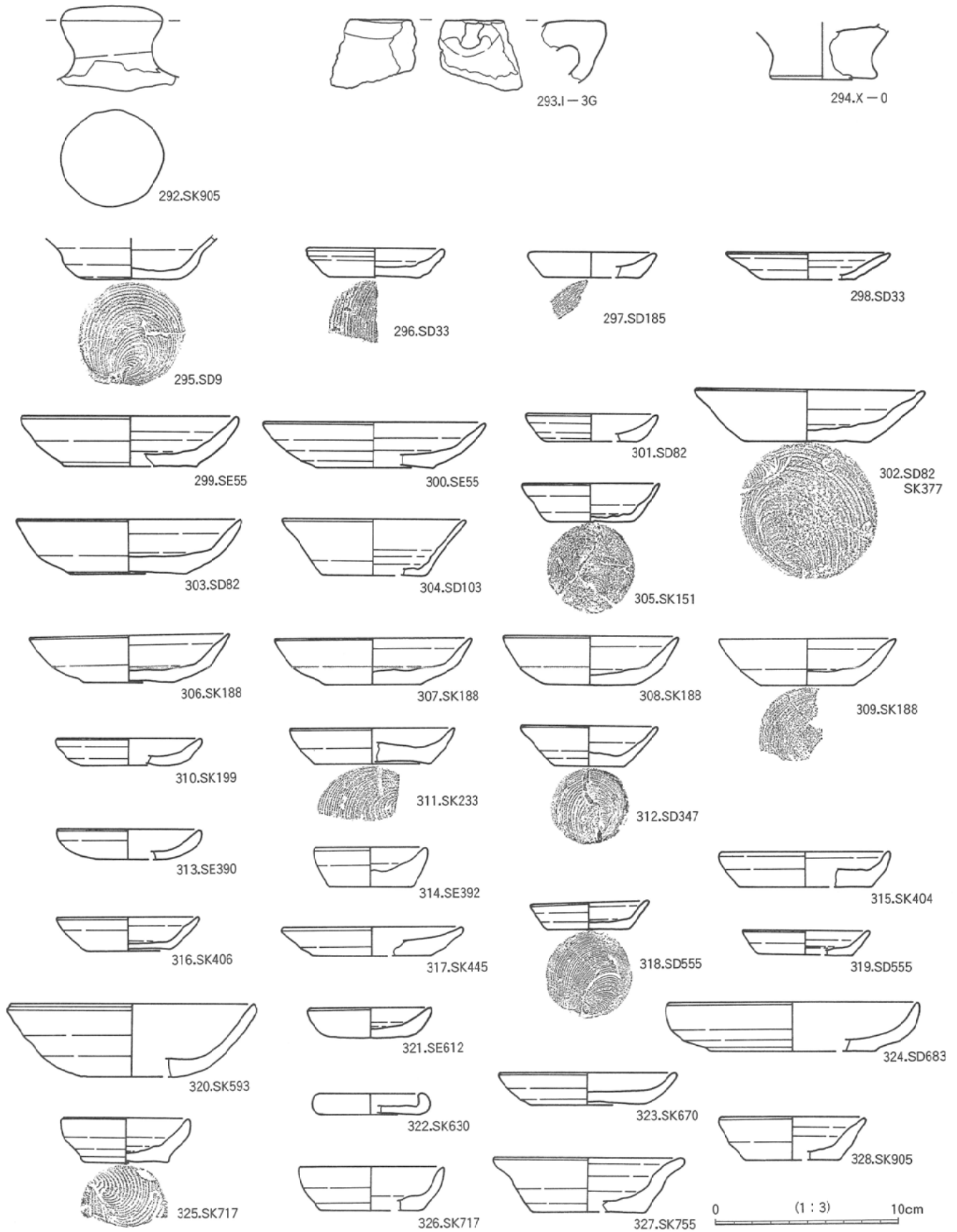
b 土師質土器（第78図～83図 図版38～46 第11表～14表）

酸化焰で低温焼成された素焼きの土器のうち、瓦器を除いたものを一括した。数量的に最も多いのは、かわらけであり、整理箱に10箱が出土している。その他の器種については、近現代の七厘や焜炉の破片と区別がつかない小破片が多く全体量の把握には至っていない。以下に掲載資料の概略を述べ、かわらけについては簡単な分類を試みる。

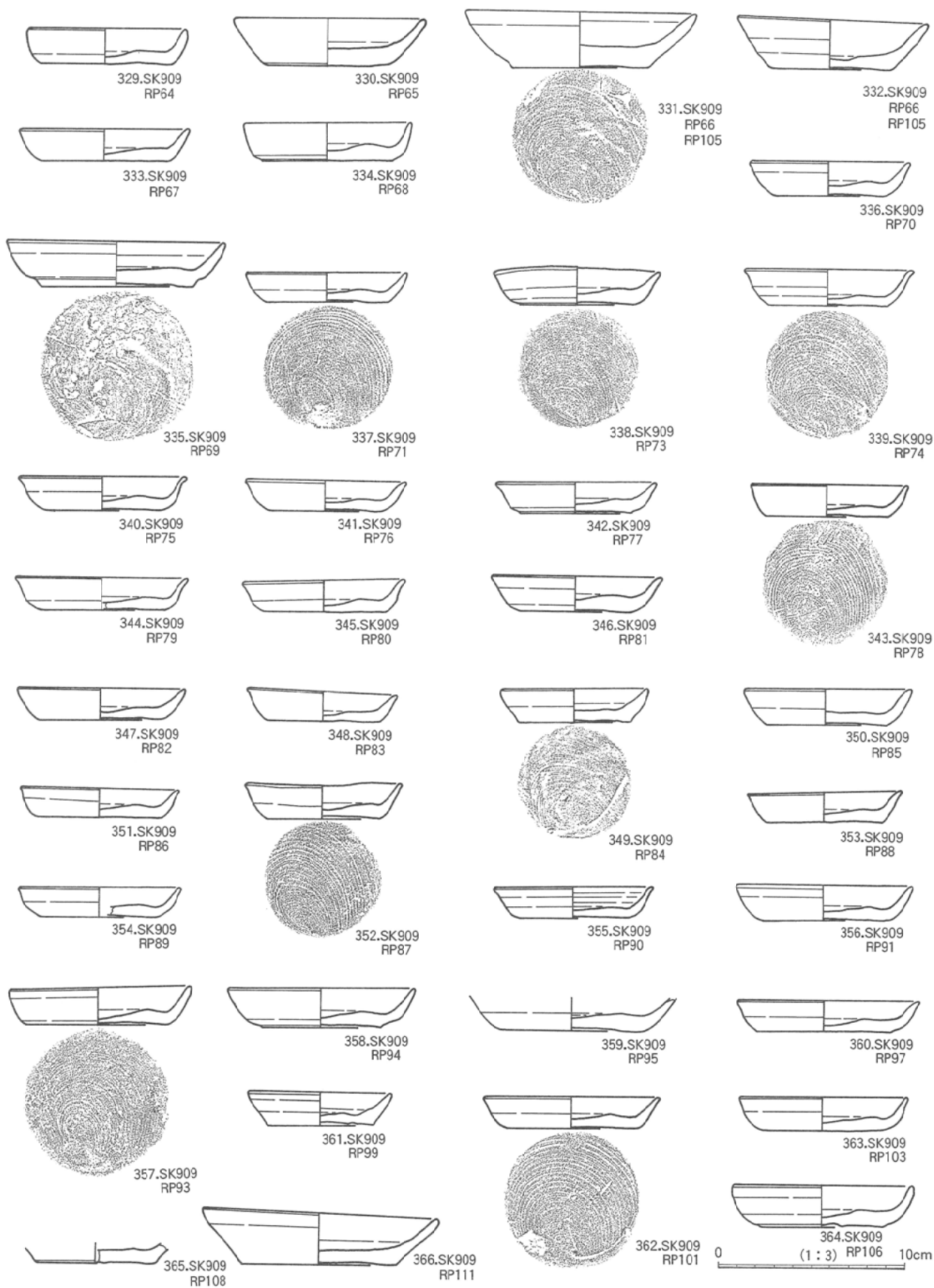
292は、甕等の大型の器のものと思われる蓋のつまみ部である。指頭によるナデ整形痕が明瞭に残る。293は、内耳朧の口縁部である。調整は粗いナデが施され、焼成は良好である。胎土に砂粒を多く含む。294は柱状高台をもつ坏の底部である。ロクロ成形で底部の切り離しは回転糸切りである。焼成はやや甘いが胎土は均質である。1126は、焙烙の口縁部である。直立ぎみに内彎する器形となり、内外面ともにナデが施されるが、調整は粗雑である。胎土中に小石を多く含む。

かわらけは、製作技法、形態、法量により以下のように分類される。

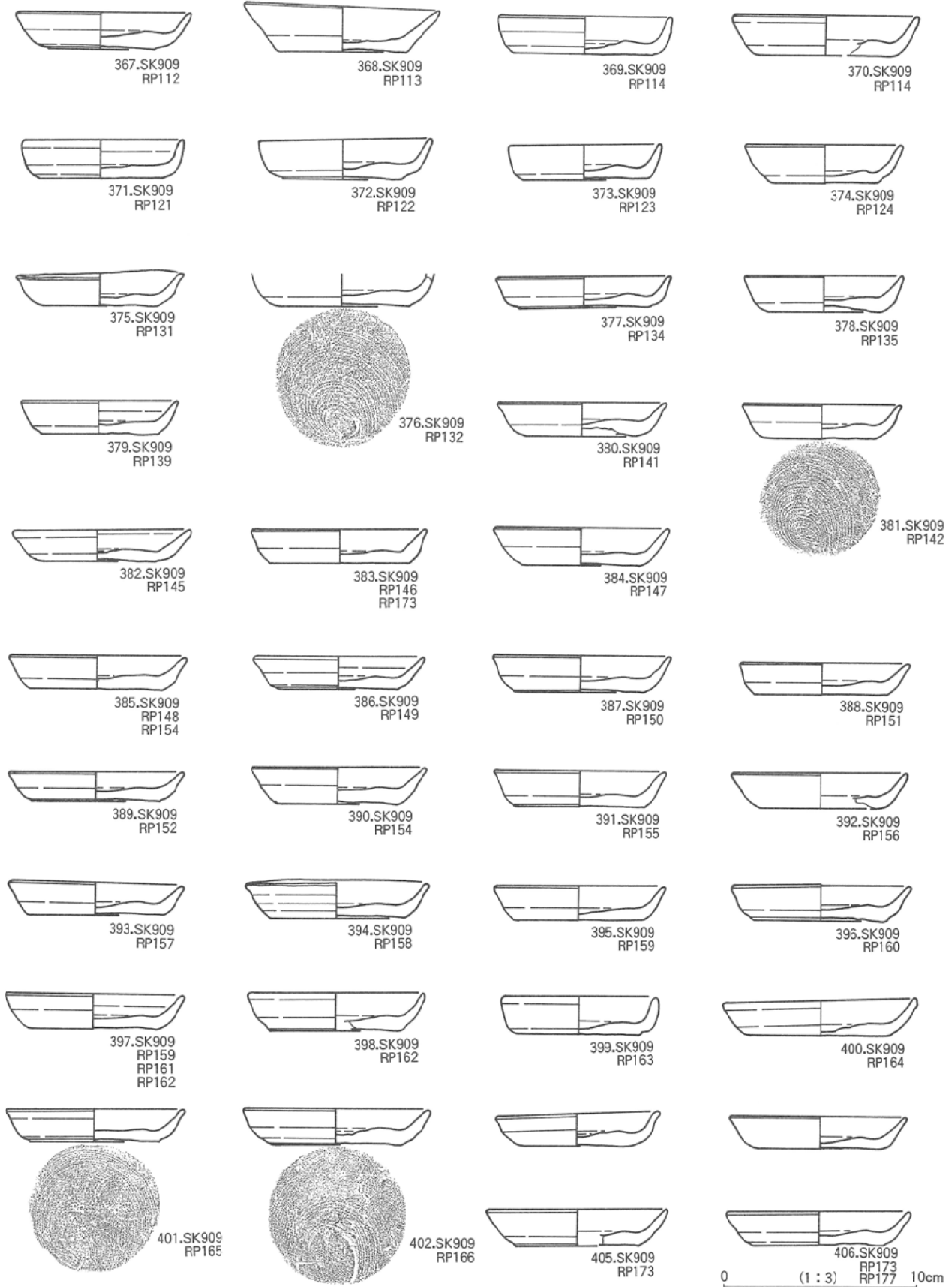
- I ロクロを使用せず、手捏ねにより製作されたもの。量的には非常に少ない。
    - A 平底を呈し、底部から口縁部にかけて内彎しながら直立する器形をもつもの。小型で浅く、法量的には今回出土した中ではもっとも小さい部類にはいる。
    - B 平底で底部から口縁部にかけて若干内彎ぎみに緩く外傾する器形をもつもの。外面は底部を含めてヘラケズリ、内面はナデが施される。小型であるが深身である。底面および口唇の一部に煤の付着がみられる。
    - C 丸底で浅身の器形となり、体部から口縁部にかけて内彎ぎみに立上がるもの。内外面ともに丁寧なナデ整形が施される。
  - II ロクロ成形により製作されたもの。
    - A ロクロからの切り離し後にヘラケズリによって底部を丸底に整形したもの。器形の特徴から以下の2類に分けられる。
      - 1類 口縁部が直立して立上がる浅身の器形となるもの。
      - 2類 緩やかに外傾して立上がるやや深身の器形となるもの。
    - B 平底となるが、粗いヘラケズリによって底部の回転糸切り痕を消しているもの。底部の資料が1点出土しているが、法量的には大型となる。
    - C 底部の切り離しが回転糸切り無調整のもの。器形の特徴から以下の3類に分けられる。
      - 1類 底部から内彎して立上がり口縁部に至る器形となるもの。
      - 2類 底部から内彎して立上がり口縁部で外反する器形となるもの。
      - 3類 底部から直線的または外反して立上がり口縁部に至る器形となるもの。
      - 4類 底部から外反して立上がり体部が内彎して口縁部に至る器形となるもの。
- 1～3類は法量の違いから、口径85mm未満で器高17mm未満のa、口径85mm未満で器高17mm以上のb、口径85～120mmで器高17mm未満のc、口径85～120mmで器高15～24mmのd、口径85～120mmで器高25mm以上のe、口径120mmを超え器高30mm未満のf、口径120mmを超え器高30mm以上のgに細分される。



第78図 土師質土器・かわらけ(1)

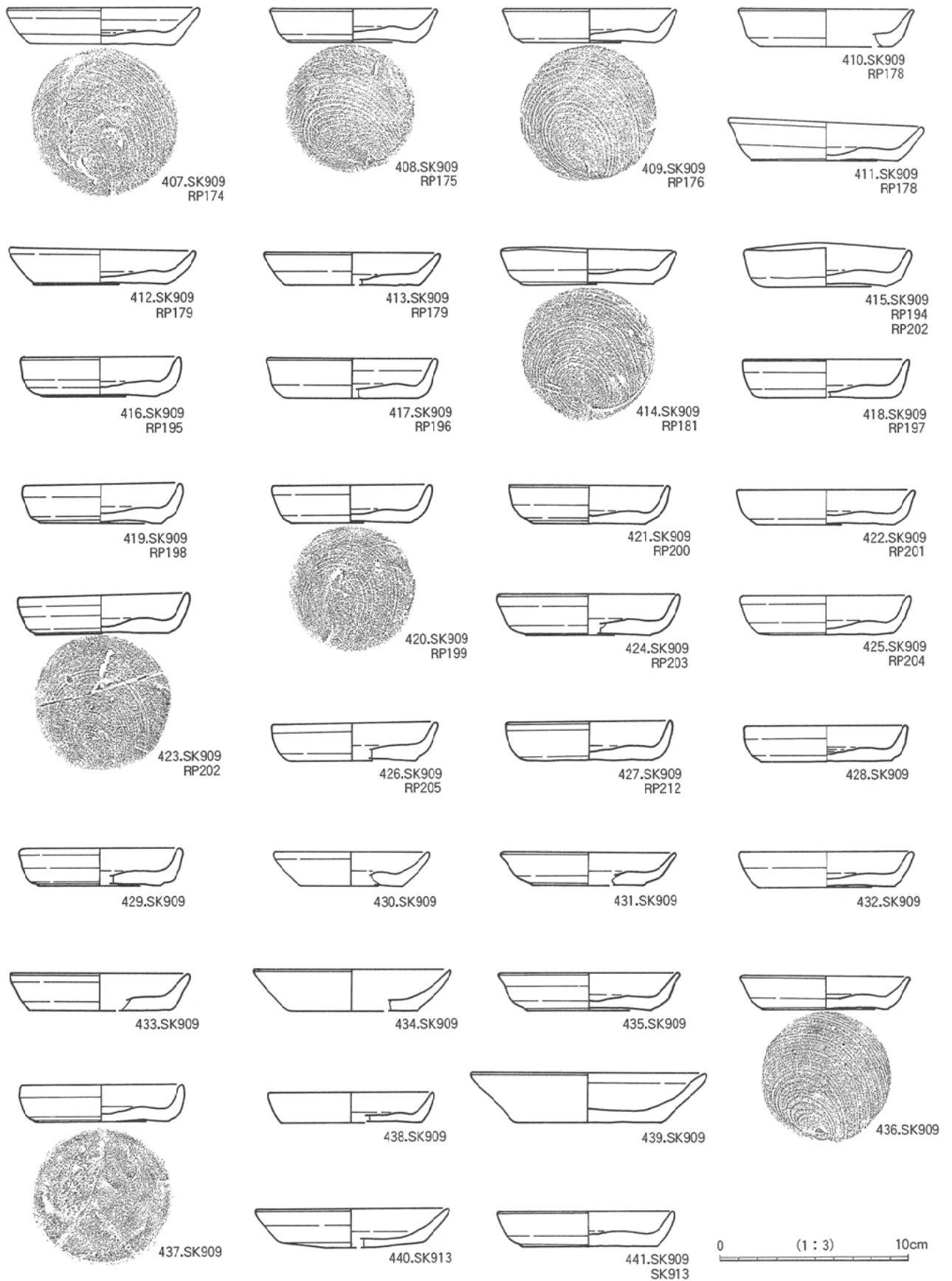


第79図 土師質土器・かわらけ(2)

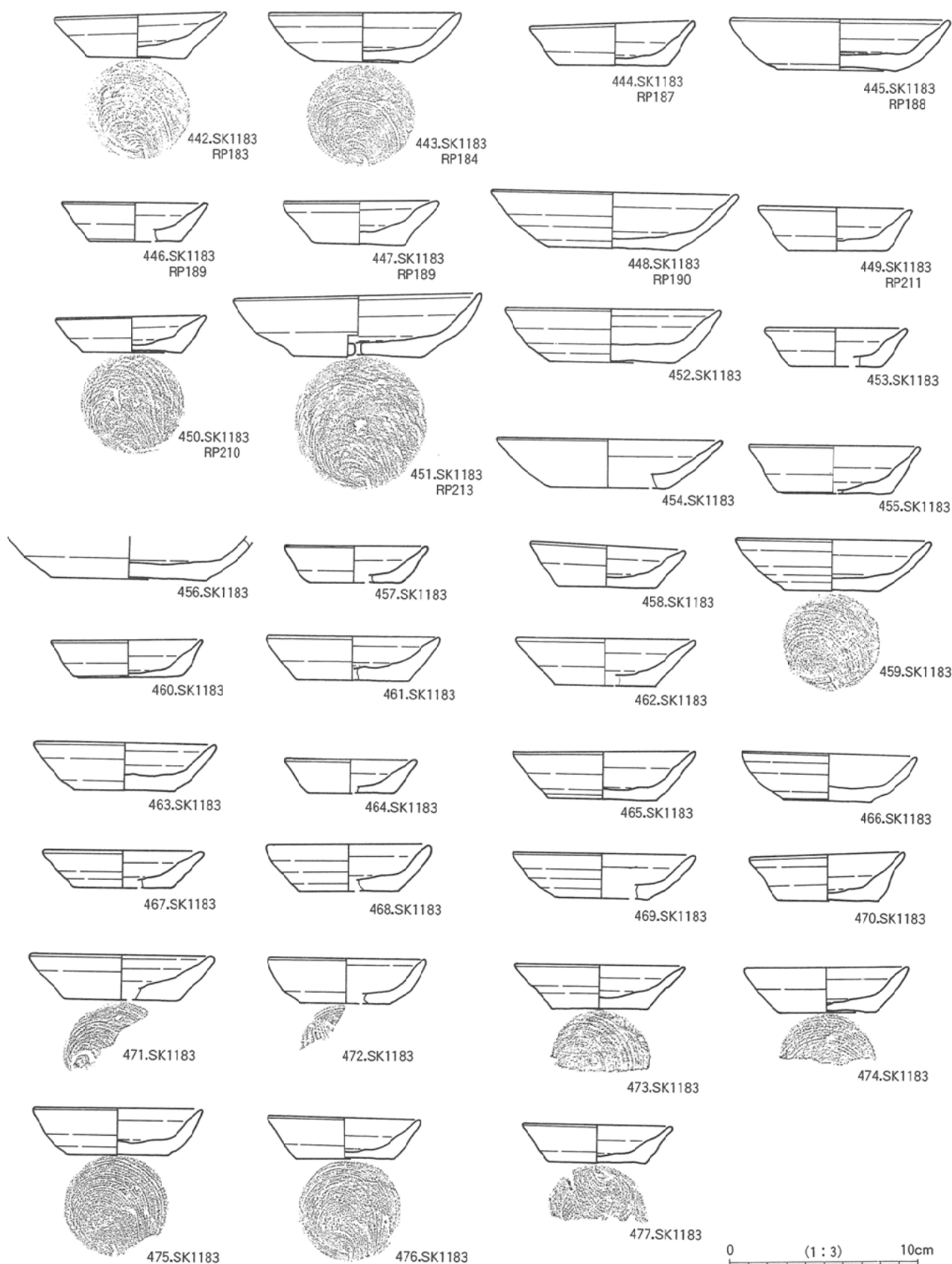


第80図 土師質土器・かわらけ(3)

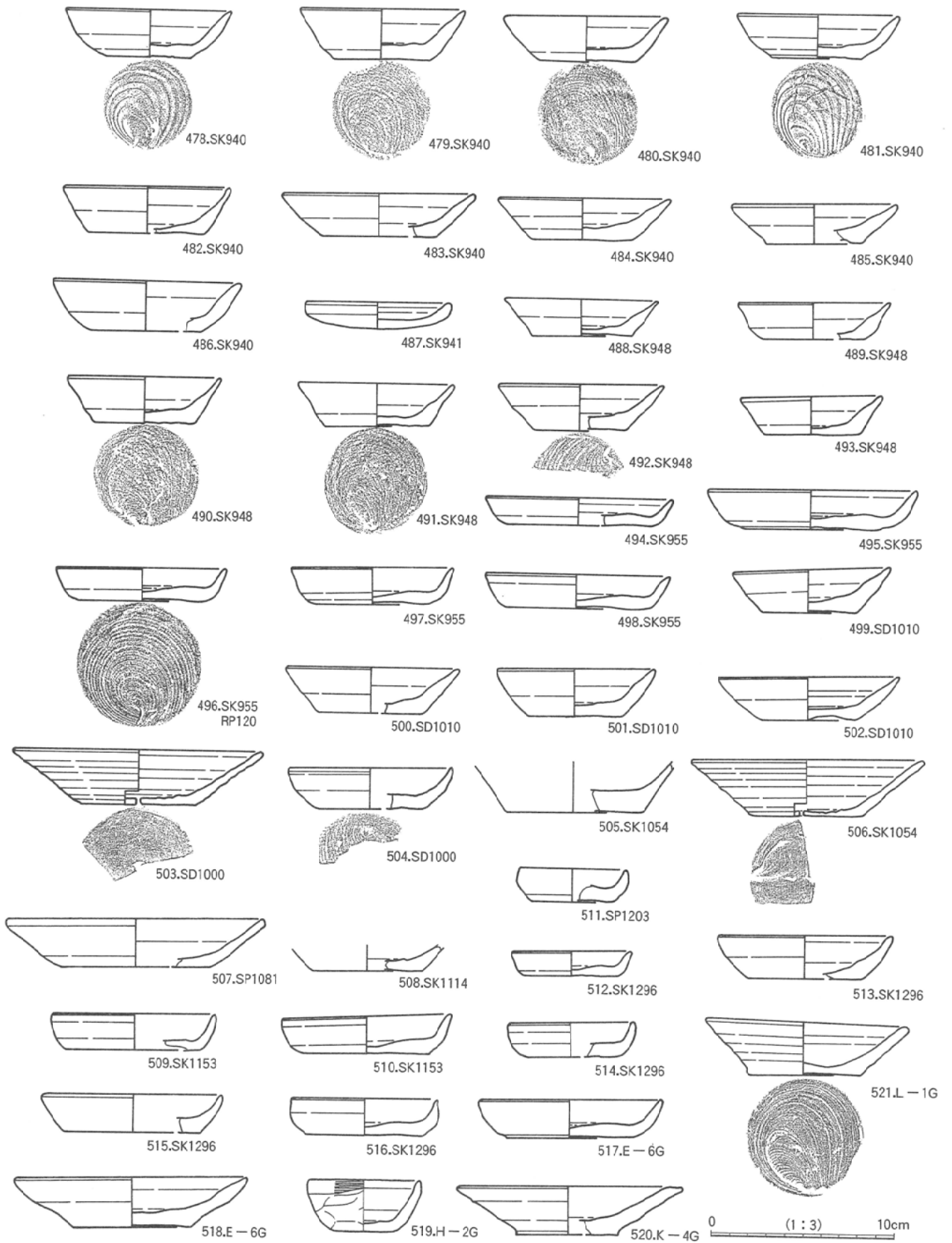




第81図 土師質土器・かわらけ(4)



第82図 土師質土器・かわらけ(5)



第83図 かわらけ(6)

## c 珠洲系陶器（第84図・85図・97図 図版47・48・62 第15表・18表）

珠洲系陶器は23点が出土した。器種には甕・壺・鉢・播鉢がある。

522～527は甕の口縁部である。頸部は短く外反するが、口縁端部の断面形には丸く引き出されたもの（522）、短く丸く仕上げられたもの（524・526）、短く嘴状に引き出されたもの（525・527）の3タイプが認められる。527は体部の一部が遺存し、外面に横方向のタタキ目、内面に円形の押圧痕が確認できる。

528～536は甕または壺の体部破片である。外面には、530が3cmで8本のやや粗いタタキ目、529・532・535・536が3cmで10本のタタキ目、528・531・533・534が3cmで12本以上の細かいタタキ目が施される。内面はカキナラシ、ナデツケによる調整がはいるが、円形の押圧痕をとどめる。537・741は壺の底部である。537はロクロ成形で底部にはナデがみられる。741は底部に静止糸切痕を残す。

538は鉢の底部である。底部には砂が密に付着している。破片資料のため卸し目は確認されないが、播鉢となる可能性もある。

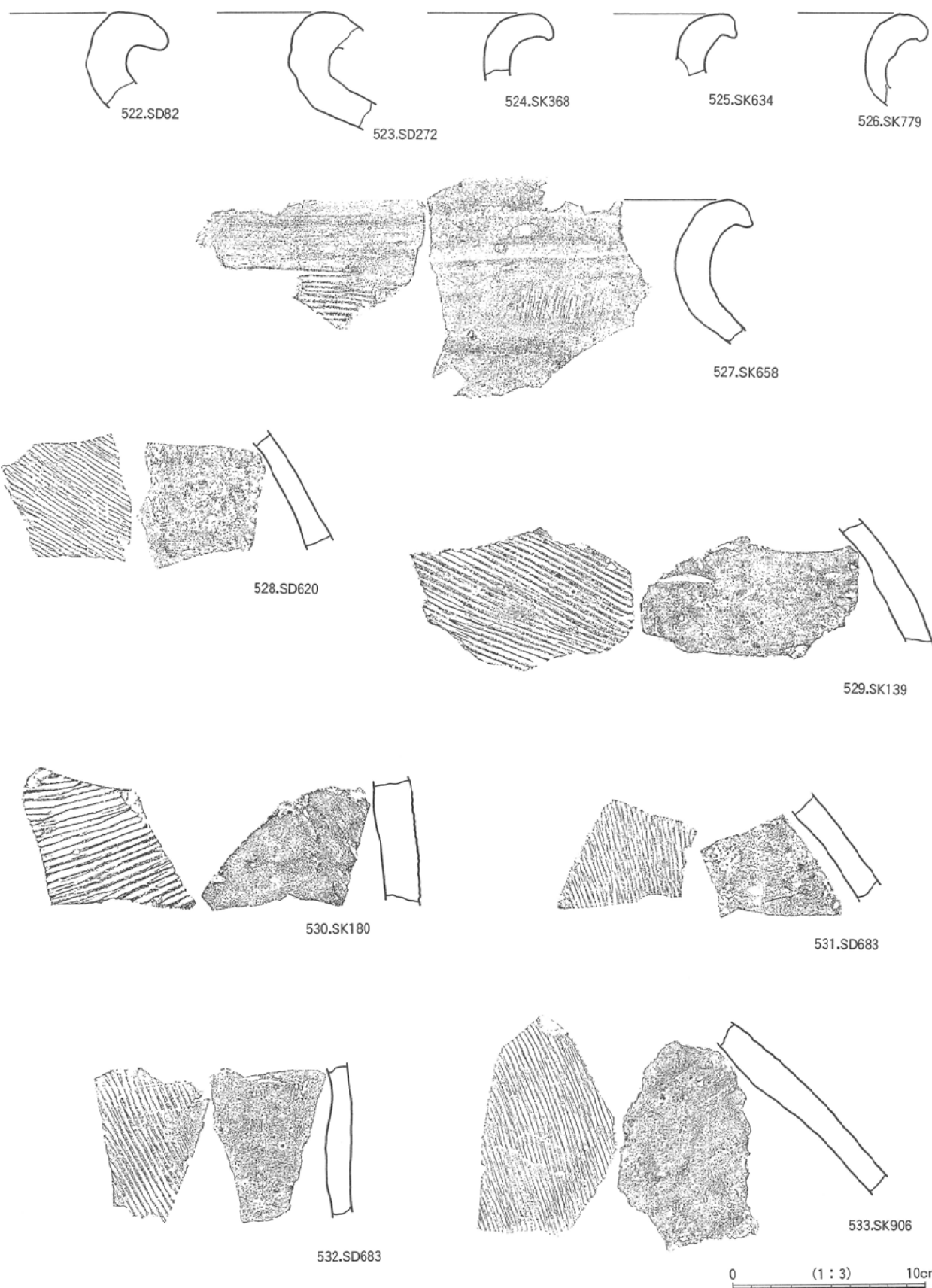
539～542は播鉢である。539は外面に縦方向のナデがはいる、口縁部と底面にも丁寧なナデが施される。内面には2cmで6本の卸し目がはいる。調整や卸し目の特徴から540と同一個体の可能性がある。541はロクロ成形無調整で2cmで7本の卸し目がはいる。内面は使用による磨滅が顕著である。542もロクロ成形無調整で、1cmで5本の繊細な卸し目がはいる。

## d 白磁・青磁（第86図・87図 図版49・50 第15表・16表）

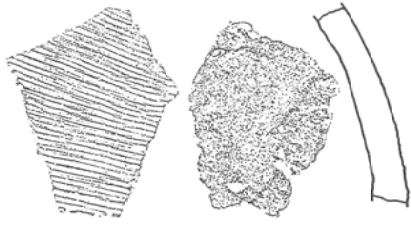
白磁は55点が出土した。器種には碗、皿のほか、鉢、小杯、茶入、壺が出土した。碗はいずれも口縁部の破片資料である。口縁部を肥厚させ、その直下を削って玉縁状に仕上げたもの（546・548）、口縁部に二重の沈線を巡らしたもの（547）、内面の口縁直下に浅い沈線を巡らしたもの（550）、口禿となるもの（552）がある。表面には若干緑がかった透明釉が施される。胎土は明灰色を呈し、焼成は良好である。皿は大半が端反となる。底部は畳付のみ露胎となるものと高台内も露胎となるものがある。碗に比べ、釉の透明度が低く、胎土は白みが強いものが多い。545は高台内に呉須によるマーキングがみられる。また、549は白濁した釉が厚くかけられ、胎土は口縁部を中心に赤みを帯びる。554は小杯である。緑がかった透明釉が施され、内面の布目痕が明瞭に認められる。高台内は釉が掻き取られる。

551は青白磁の皿または碗の底部である。外面の体部下半は露胎となり、内面には円形に沈線で区画された見込に弧線による花文が描かれる。若干青みのあるガラス質の透明釉が厚くかけられ、不規則な貫入がはいる。

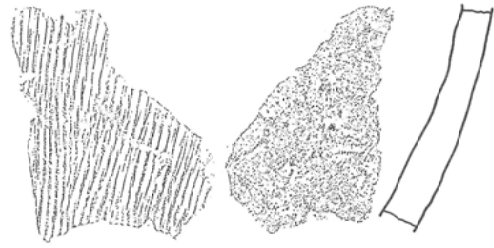
青磁は91点が出土した。器種には碗、皿、蓋、香炉、鉢、瓶子が確認される。557～569および1216、1218は碗である。内外面に陰刻による文様が施された中国産とみられるものが主体となるが、559、565および568は器形、胎土、釉調から、それらよりも時期的に新しい国産の青磁と考えられる。570、571および1219、1220は皿である。1570は内面に雷光文が施された皿、571は無文、碁笥底の皿である。214、1215は瓶子の体部破片と考えられる。いずれも片彫りによる文様が施される。573～575は胎土、釉調から肥前産の可能性が高い。



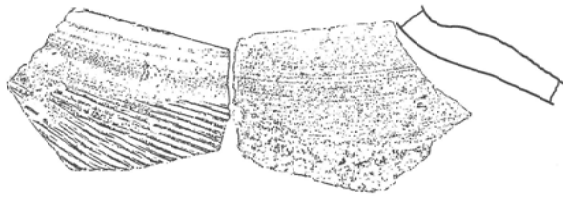
第84図 陶磁器(1)



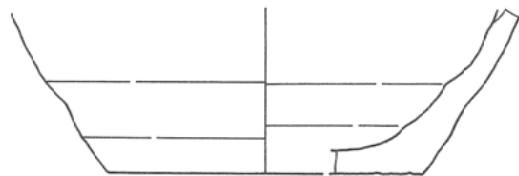
534.SK941



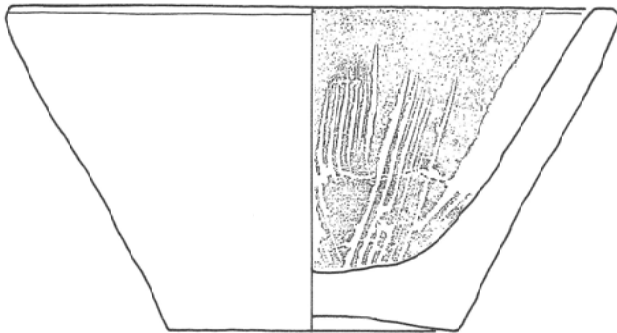
535.SK1043



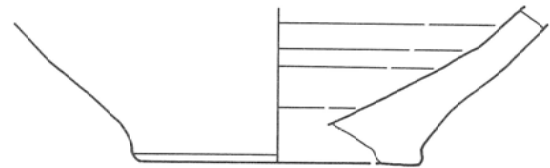
536.SK1024



537.SD33



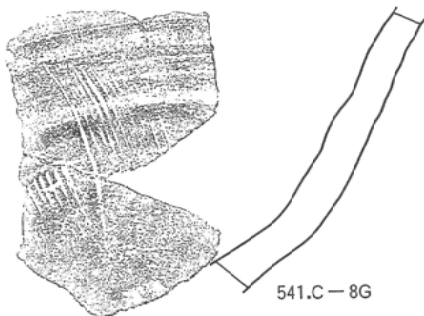
539.SD544  
SK602



538.SD683



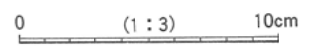
540.SK560



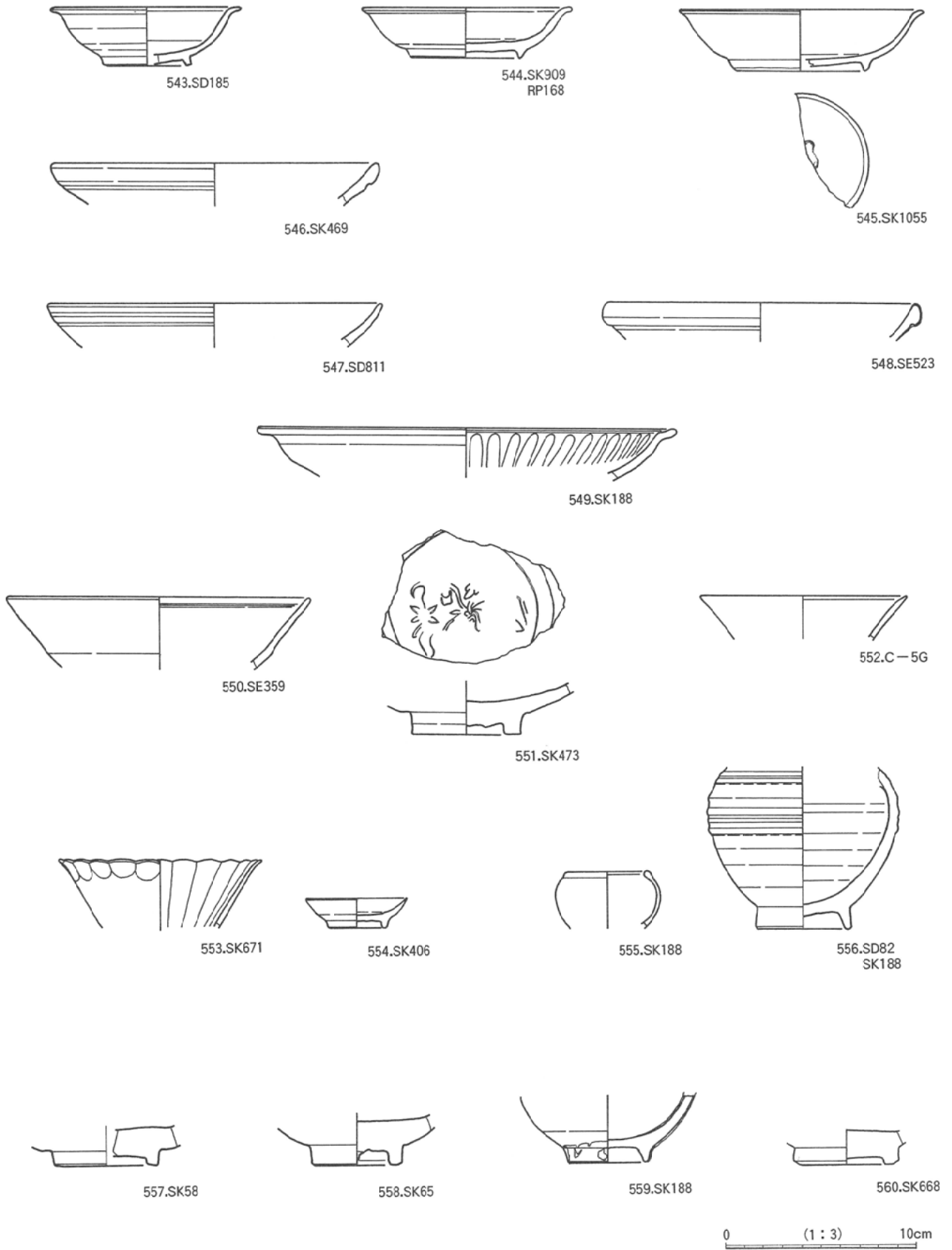
541.C-8G



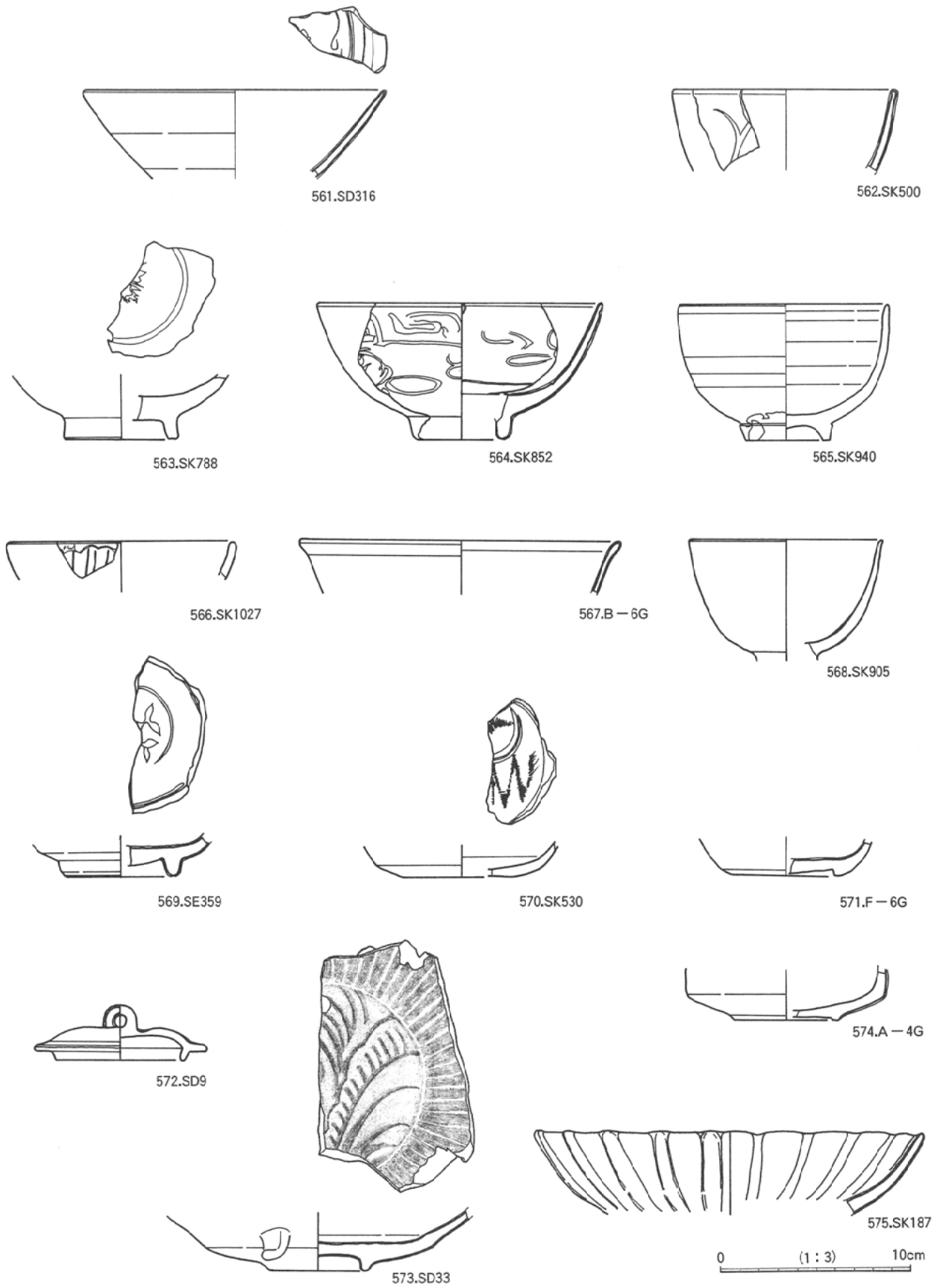
542.L-3G



第85図 陶磁器(2)



第86図 陶磁器(3)



第87図 陶磁器(4)



## e 瀬戸・美濃系陶器（第88図～92図 図版51～54・65 第16表・17表）

瀬戸・美濃系陶器は後述する肥前系陶器とともにまとまった数量が出土した。器種は碗・皿・鉢・向付などを主体とする。器面には灰釉、長石釉、鉄釉、緑釉などが施され、胎土は粗めで黄色みのある淡灰褐色を呈する。

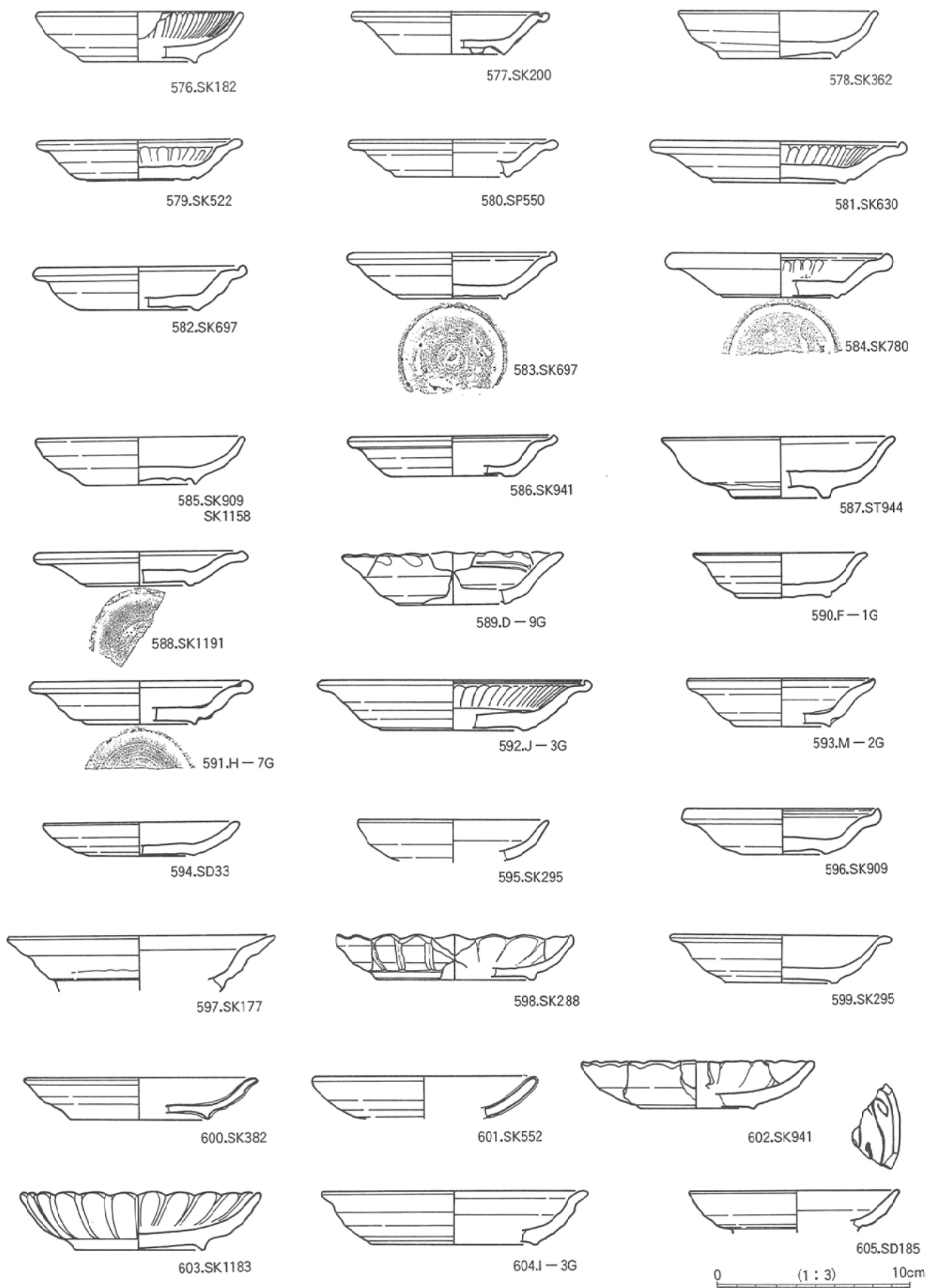
576～586・588～593は灰釉皿である。器形、装飾から丸皿（578・585）、ソギ中皿（576）、折縁皿（577・580・582・583・586・588・591・593）、折縁ソギ中皿（579・581・584・592）、端反皿（590）、輪花皿（589）に分類できる。釉薬は比較的厚めにかけてられ、釉調は半透明の緑褐色を呈し、貫入が顕著にみられるが、579・582・583および590は白濁した釉調となる。594～596は鉄釉皿である。丸皿（594・595）と折縁皿（596）が出土している。釉薬は薄めにかけてられ、釉調は赤みの強い暗褐色を呈する。胎土も595を除き赤みが強い。597～604は志野皿である。器形、装飾から丸皿（601）、端反皿（597・599・600・604）、菊皿（598・602・603）に分類される。器面には長石釉が厚くかけられ不規則な貫入がはいる。釉調は淡灰色を呈する。605は志野織部丸皿である。内面に鉄絵を描いた器面には、長石釉が薄くかけられ淡灰褐色に発色し細かな貫入がはいる。

606は体部が内彎ぎみに立上がり、口縁部が外に引き出される器形の鉢である。黄色みを帯びた釉薬が薄く器面にかけてられ、内面に緑釉を流し装飾する。607・608は灰釉鉢である。釉調は緑灰色を呈し、貫入が顕著にみられる。609・610は鉄釉鉢である。釉調は黒褐色を呈し、全面梨地となる。底部の残る資料では高台の作出に前掲の皿と同様の技法が看取される。611・613～615は内面に鉄絵が描かれた志野鉢である。釉調は淡灰色を呈し、細かな貫入がはいる。いずれも小破片のため確証を得ないが同一個体または揃いの可能性がある。

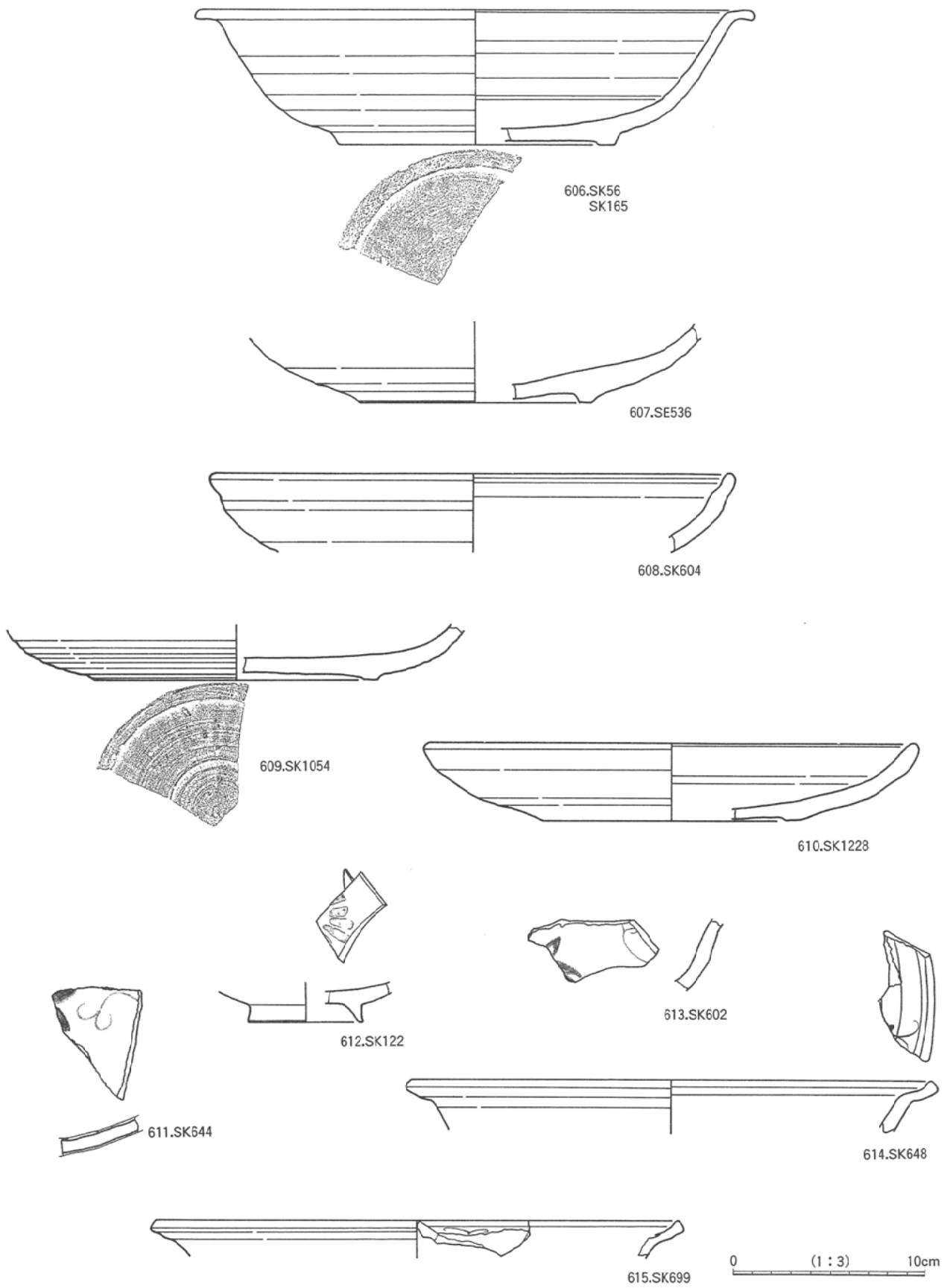
616～629は天目茶碗である。体部下半が露胎となるほかは鉄釉が厚めにかけてられるが、618はいわゆる白天目の破片、620には淡緑色の釉が施される。630～632は口縁部まで屈曲せずに立上がる器形の茶碗である。630が袖膚のほかは鉄釉が施される。633・634・636～639は半筒茶碗および杳茶碗である。636は黒織部杳茶碗である。底部は不整楕円形の付高台となり、ロク口成形痕は認められない。体部下半を除いて光沢のある黒釉が施される。637も付高台で光沢のない黒釉が施される。638は鉄釉の施された大振りな器形となるが底部の作出は天目茶碗に類似した削り高台となる。640～642は灰釉の碗である。640は緑灰色、641・642は透明の明褐色に発色し、貫入が顕著である。畳付のみ露胎となる。

612・635・643～649・652・655～665は向付である。志野、織部、灰釉または御深井釉のものがあり、器形は変化に富む。635は黄瀬戸とみられる向付または半筒茶碗である。体部外面と見込に草花文の陰刻が施され、花卉付近が緑釉で装飾される。650は天目茶碗をまねて作られた鉄釉の小杯、651・654は志野の小杯である。666は織部の水注である。体部上半から口縁部にかけて褐色の釉がかけられ、体部には鉄絵が描かれる。653は底部が露胎となる御深井釉の脚付香炉、667は外面鉄釉、内面御深井釉の掛け分けの香炉とみられる。

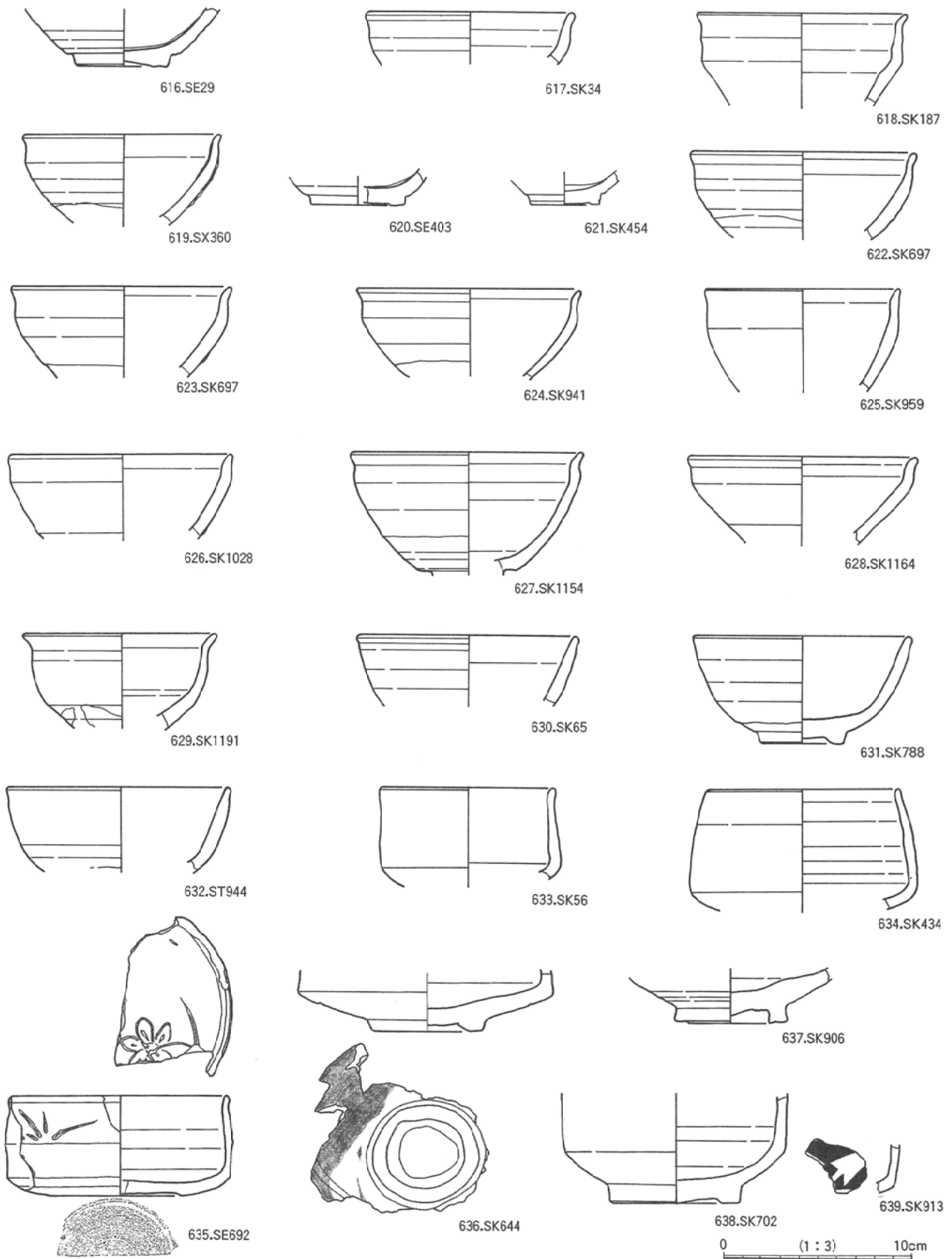
668・669は古瀬戸の瓶子とみられる底部破片である。内面は露胎となり、外面には薄く灰釉が施される。焼成は良好で胎土は堅緻である。



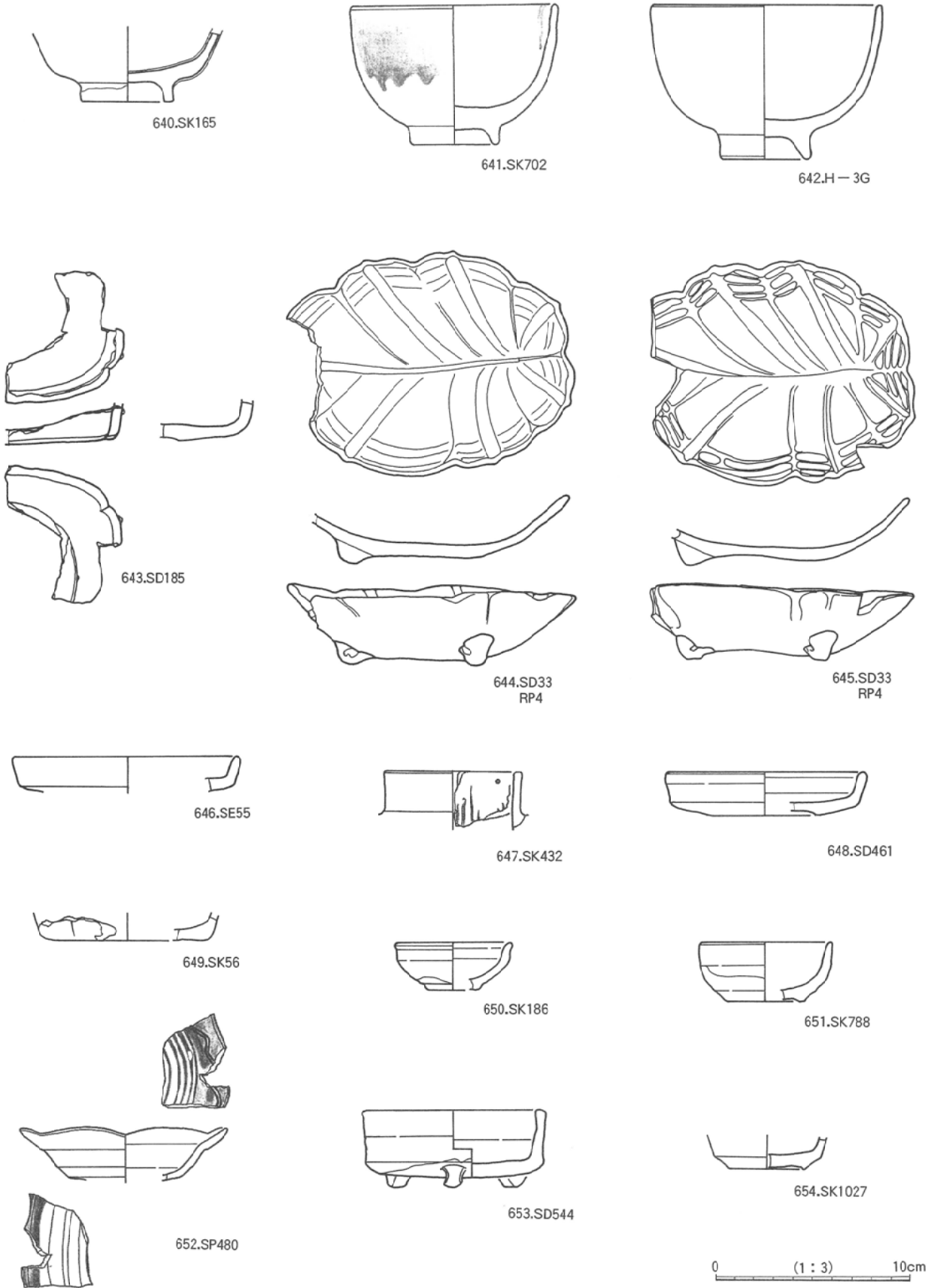
第88図 陶磁器(5)



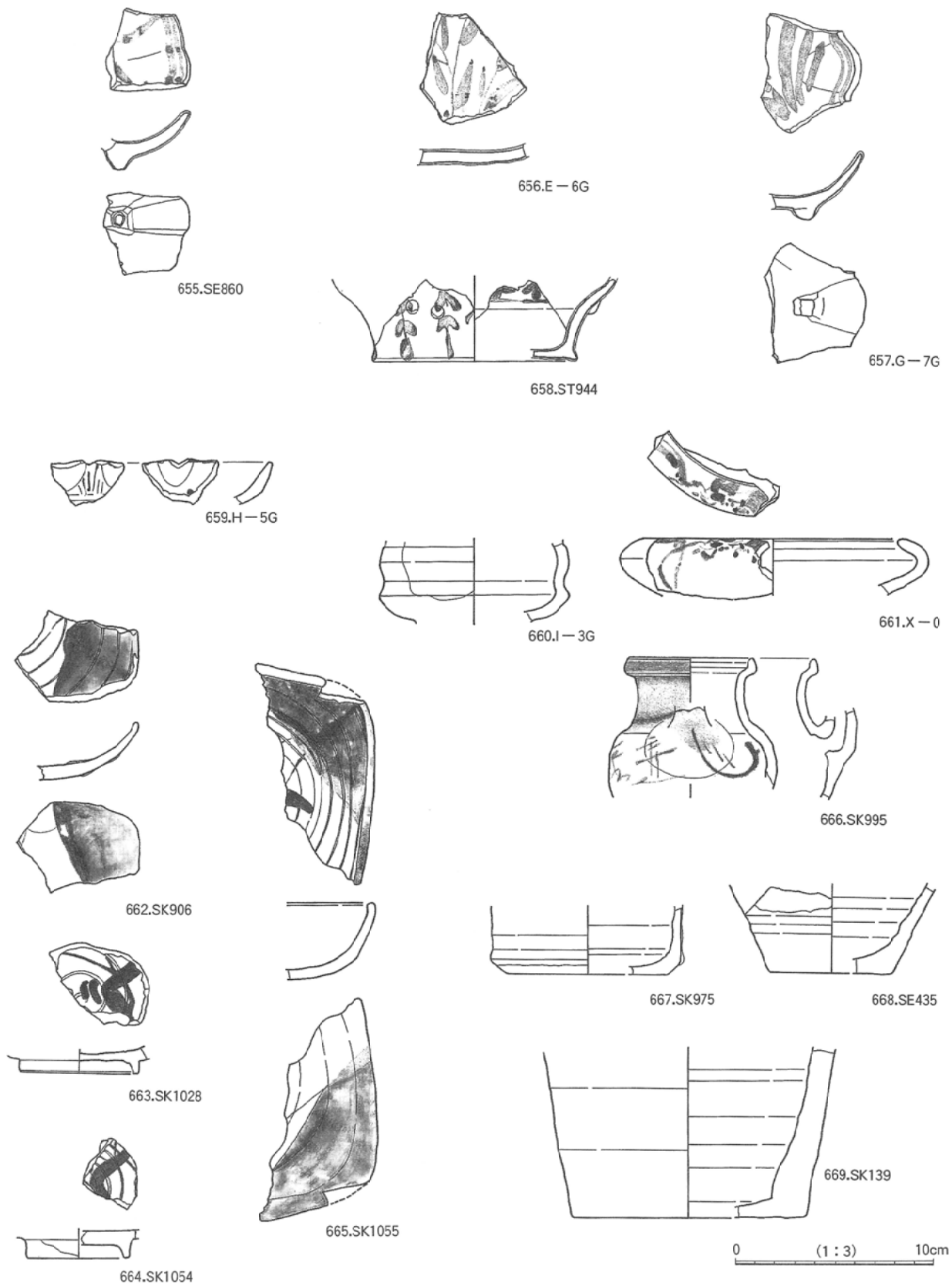
第89図 陶磁器(6)



第90図 陶磁器(7)



第91図 陶磁器(8)



第92図 陶磁器(9)

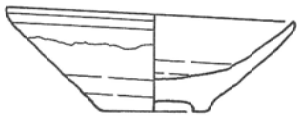
## f 肥前系陶器（第88図・93～96図 図版55～57・66 第16表～18表）

いわゆる唐津焼とその周辺の窯で焼成されたと考えられる陶器を一括する。施釉は灰釉および鉄釉が用いられるが、瀬戸・美濃系陶器に比べて薄くかけられる場合が多い。胎土は暗赤褐色から黒色または暗灰色を呈しやや粗いが、焼成は一般に堅緻である。器種は皿、碗、鉢、水指、水注、徳利などが出土した。

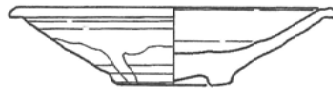
587・670～703は皿である。底部は削り高台となるが、高台を作出せずに回転糸切痕をそのまま残したのも3点出土した（676・694・696）。器形は、平縁で底部から内彎ぎみに立上がり口縁に至るもの（670・674・677・678・680～682・684・686・687・690・692・703）、平縁で内面に明瞭な段差をもつもの（683・699・700）、平縁で溝縁となるもの（694・696・697）、口縁部が外に引き出され溝縁となるもの（671・675・676・688・693・698）、口縁部が端反となるもの（691）、口縁部が輪花となるもの（672・673・685・701）がある。釉薬は灰釉が用いられ、内面は全面にかかるが、外面の施釉は口縁部から高台脇の間で一定せず個体によりばらつきが認められる。また、674は内面に刷毛目による装飾があり、679・680・687・689・700・702・703は鉄絵が描かれたいわゆる絵唐津である。

707～715は碗である。器形は、底部から内彎しながら直立ぎみに口縁部に至るものが多い。口縁部は軽く外反するもの（707・709・711）と直立するもの（710）がある。底部はいずれも削り高台となるが、712・715は高台の作出が弱く、底径は法量に比べて極端に小さい。釉薬は灰釉（708・711・712・714・715）、鉄釉（707・709・710・713）がある。外面は体部下半から高台脇の間で露胎となる。また714は絵唐津である。釉のかかり具合は見込でも概して薄い、707は見込で釉の厚さ1.5mmを測り、外面にも高台脇付近に厚い溜りがみられる。716・718は絵唐津の沓茶碗である。716は口縁部破片である。器形はほぼ直立する体部にねじりが加えられ、口縁部は玉縁状となる。外面の体部中程は突帯状に作出される。内外面に薄くかけられた白濁した不透明の釉には細かな貫入がはいる。体部外面には鉄絵が描かれる。胎土は暗赤褐色を呈し、やや脆弱である。718は器形の特徴が716に共通するが、二重に削り出された高台が残存する。口唇部に口紅状に鉄釉がのせられるほか、見込に鉄絵が描かれ（菖蒲か）、その上に薄く半透明の白濁した釉薬が内面および外面の高台脇までかけられる。全体の色調は、胎土の焼色が透過して赤みのある褐色を呈する。

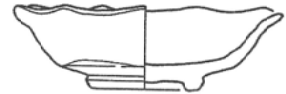
704～706・719・720は鉢である。704・705は大型の鉢の底部である。高台の作出、施釉の特徴などは皿の場合と同様である。706は鉢または向付とみられる。口縁部に鉄釉を巻いた後に体部外面下半を除く全面に灰釉がかけられる。胎土は黄色みが強く、美濃唐津の可能性もある。731は時期的には降るが呉須絵による山水文が描かれた向付である。719・720は同一個体または揃いとみられる三島手唐津の鉢である。器形は、高く作出された高台から内彎して外傾する体部をもち、口縁部は一旦くびれた後に外に大きく引き出される。内面には象嵌による装飾が施される。釉薬は畳付を除く全面にかかる。部分的にガラス質で透明となるが、大半は不透明に白濁し、象嵌の効果が不明瞭となる。胎土は暗赤褐色を呈するが720のほうで暗い色調となる。焼成は良好である。



670.SD185



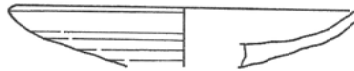
671.SK56



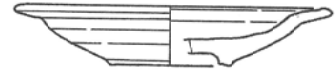
672.SK122



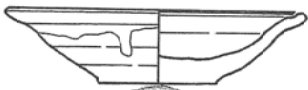
673.SK122



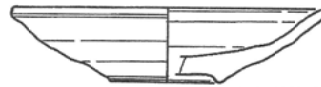
674.SK165



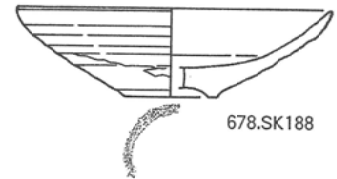
675.SK187



676.SK187



677.SK188



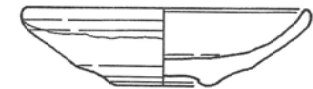
678.SK188



679.SK208



680.SK288



681.SK333



683.SE390



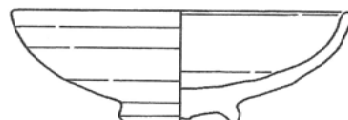
684.SK502



685.SK522



686.SK547



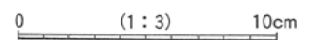
687.SK552



389.SK780

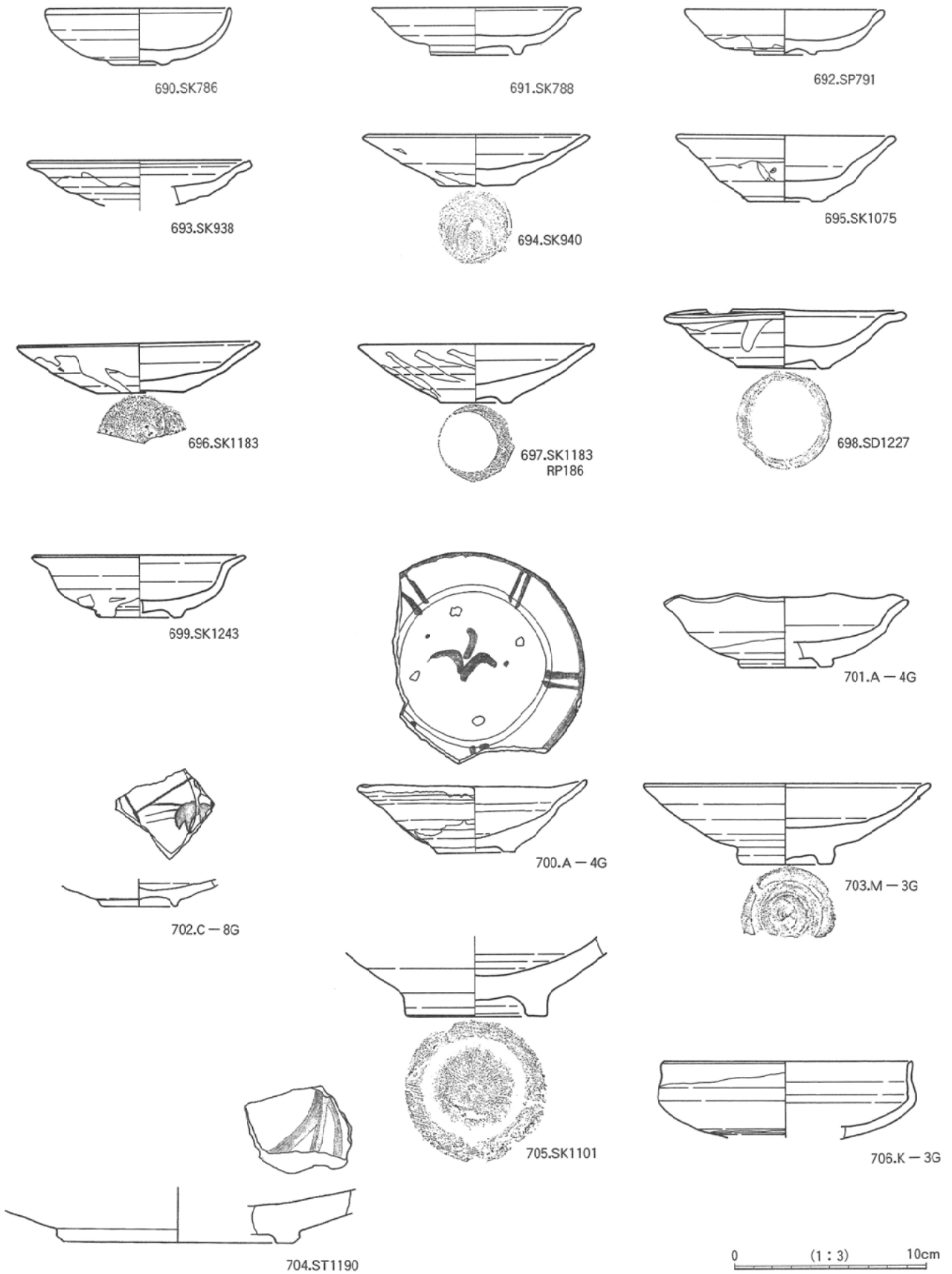


688.SK611

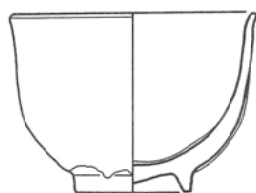


第93図 陶磁器(10)





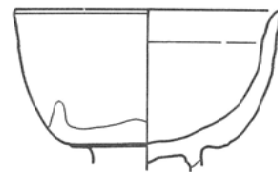
第94図 陶磁器(1)



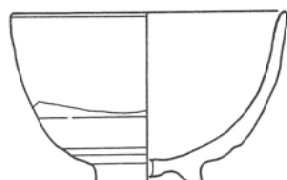
707.SD191



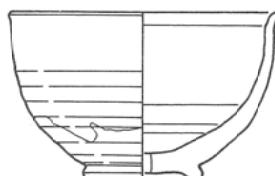
708.SK137



709.SK463



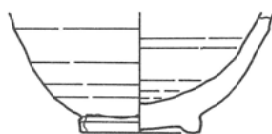
710.SK677



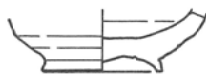
711.SK774



712.SK1191



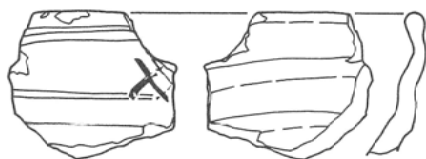
713.SK909  
RP170



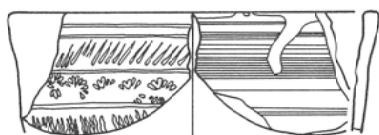
714.SK1026



715.G-6G



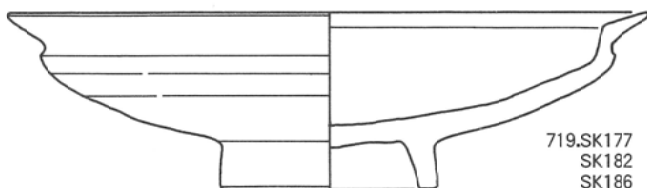
716.SK1197



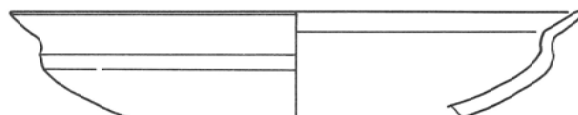
717.SK187  
SK188



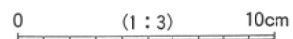
718.SK941



719.SK177  
SK182  
SK186  
SK204



720.SK177



717は三島手唐津の水指と考えられる口縁部破片である。やや外反ぎみに直立し、口縁部が内側に肥厚する器形となる。外面は横方向の沈線の区画内にスタンプによる菊花文や連続する鋸歯文、斜方向の短沈線を充填する。釉薬は全面にかけられるが、不透明に白濁した部分が多く、象嵌の効果が不明瞭である。また口唇部の施釉は厚く内面に垂れがみられる。胎土はごく暗い赤褐色で焼成は堅緻である。

727は水注の口縁部破片である。施釉は残存部分の全体におよび、釉調は暗緑褐色を呈する。胎土は若干赤みがかかった暗灰色で焼成は良好である。

721～726は徳利または壺の底部および口縁部と考えられる。725は最大径が体部下半にくる舟徳利と考えられる。体部と頸部の境界には2本の沈線が巡り、頸部は短く口縁部は大きく外に引き出される。部分的に緑がかかった暗褐色の釉が内面まで施される。胎土は灰褐色を呈し堅緻に焼成される。721・723は内面に青海波のアテ痕が観察される。

#### g その他の陶器（第96図～100図 図版62～64・66 第18表）

728は大振りな皿の底部である。見込には木葉が陰刻され、畳付を除いて明灰色の釉がかかる。胎土は赤みを帯びるが焼成は良好である。

729は相馬焼の碗である。器形は高台から内彎して立上がり体部中央で外反ぎみに直立して口縁部に至る。体部外面中央の傾斜が変わる部分には沈線が一条巡る。畳付、高台内を除いて灰釉が施される。釉調は透明な緑褐色を呈する。胎土は明灰色で堅緻に焼成される。

730は香炉または仏花瓶と考えられる。胎土は磁胎であるが脆弱である。器面には薄緑色の透明釉が施される。

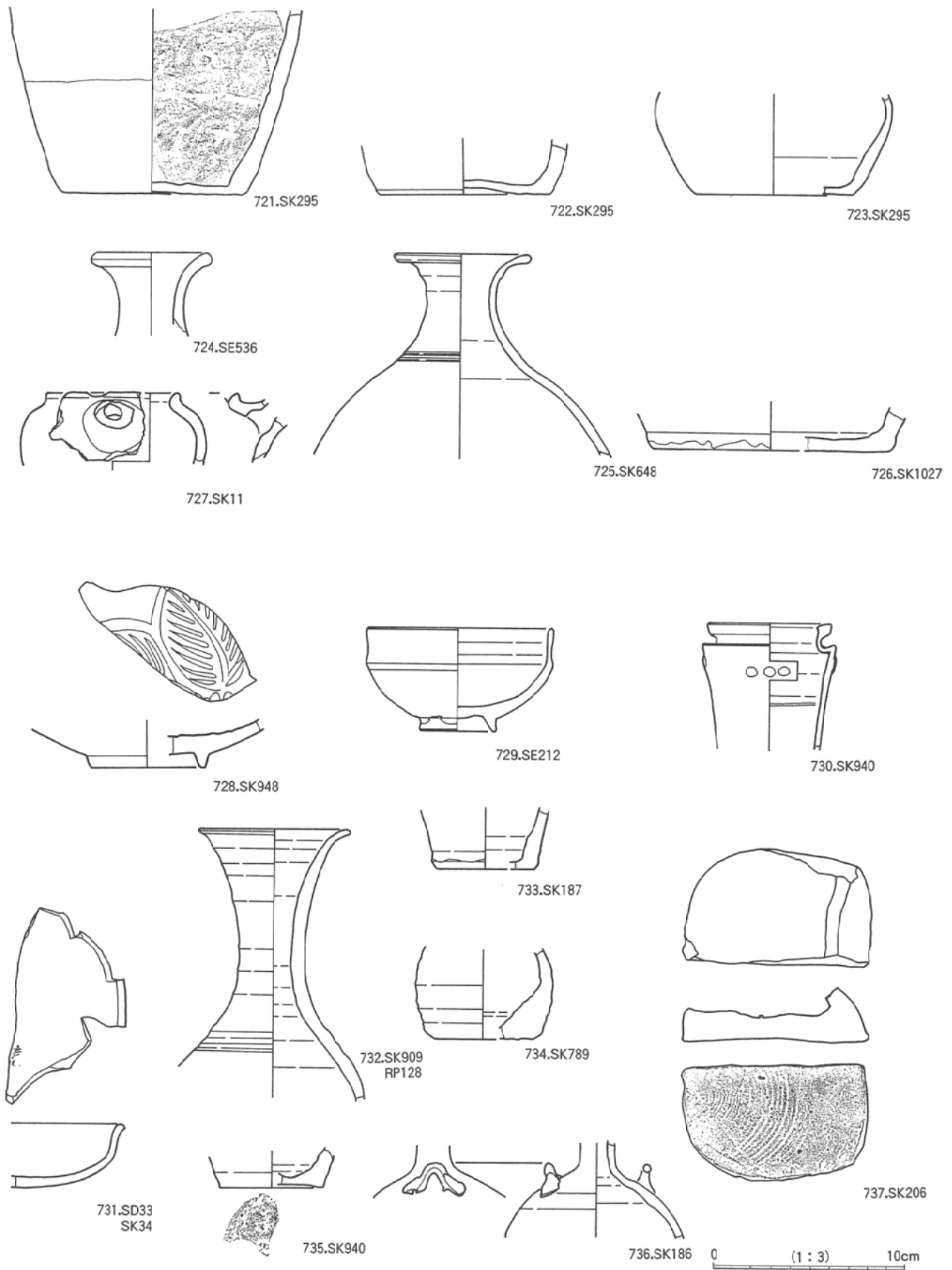
732は壺または水瓶である。器形は、体部と頸部の境界には2条の沈線が巡り、頸部が長く外反し、口縁部が外に引き出される。鉄釉の地に緑褐色の釉を流し装飾を加えている。胎土は部分的に赤みのある灰色で堅緻に焼成され、唐津焼のそれに似る。

733～735は小型の茶入または水注とみられる底部資料である。733・734は外面に鉄釉が施される。胎土は暗灰色を呈し、黒色のガラス状微粒が混じる。焼成は良好である。

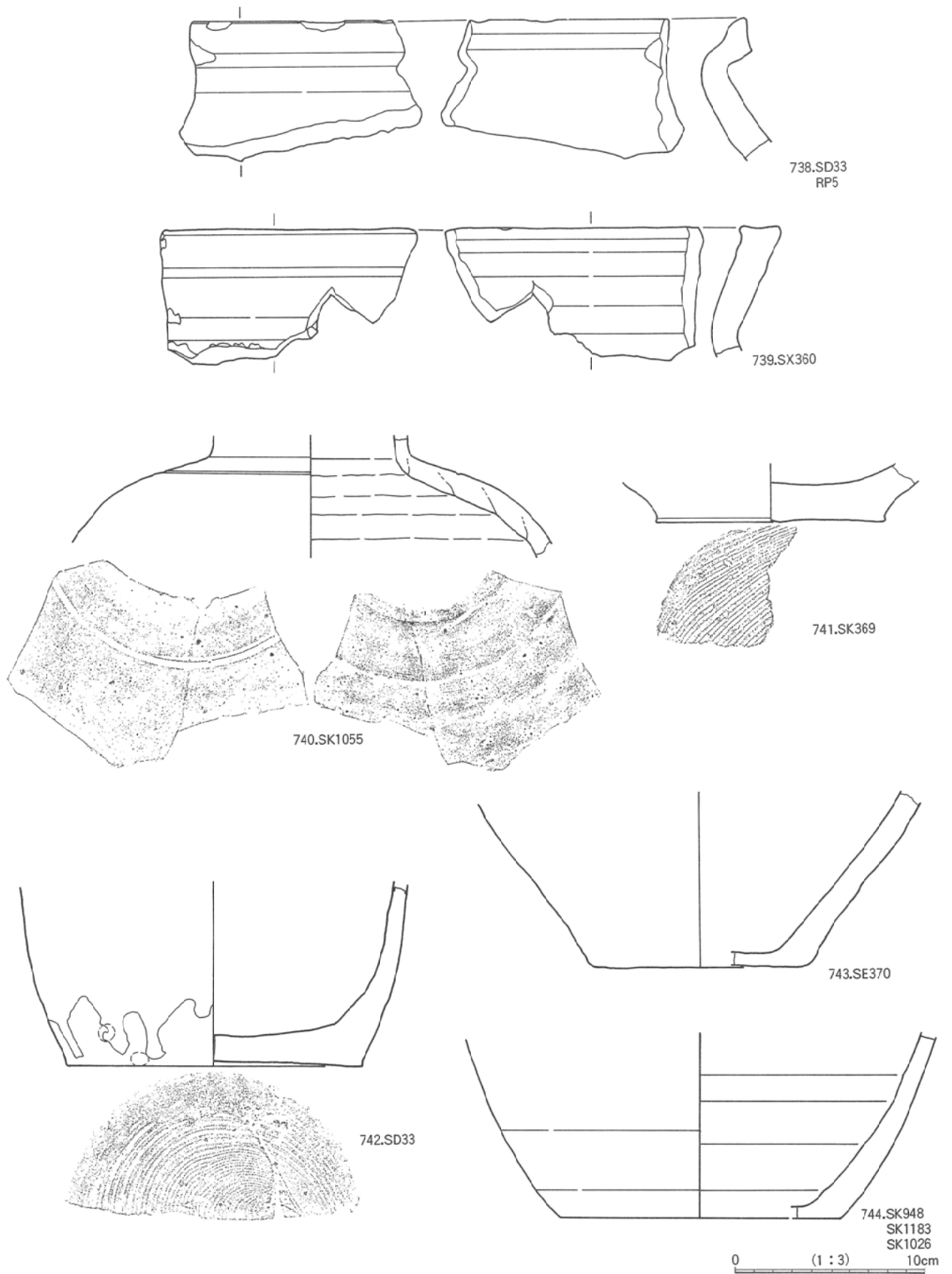
737は伊賀焼の水指の底部と考えられる。器形は不明であるが、底部からかなり歪んで立上がることが観察される。底部には回転糸切痕が残るが、円盤状の粘土を切り離し後にそれを核として体部を立ち上げていく工程が看取される。内外面には灰が被る。胎土は灰褐色を呈し堅緻に焼成される。器面には長石砂の溶融による吹出しが多数みられる。

738～749は大型の甕または壺である。740は信楽焼の茶壺である。肩部に沈線が1条巡り表面は自然釉がかかり光沢がある。内面には輪積み痕が残る。器面には長石砂の吹出しが顕著である。胎土は灰色を呈し、割れ面には光沢がある。744はこの個体の底部の可能性ある。745～747は、同一個体または同じ窯で焼かれた可能性ある甕の底部資料である。内外面には窯滓の付着が著しく粗雑な仕上がりとなるが、胎土は灰色を呈し、焼成は良好である。

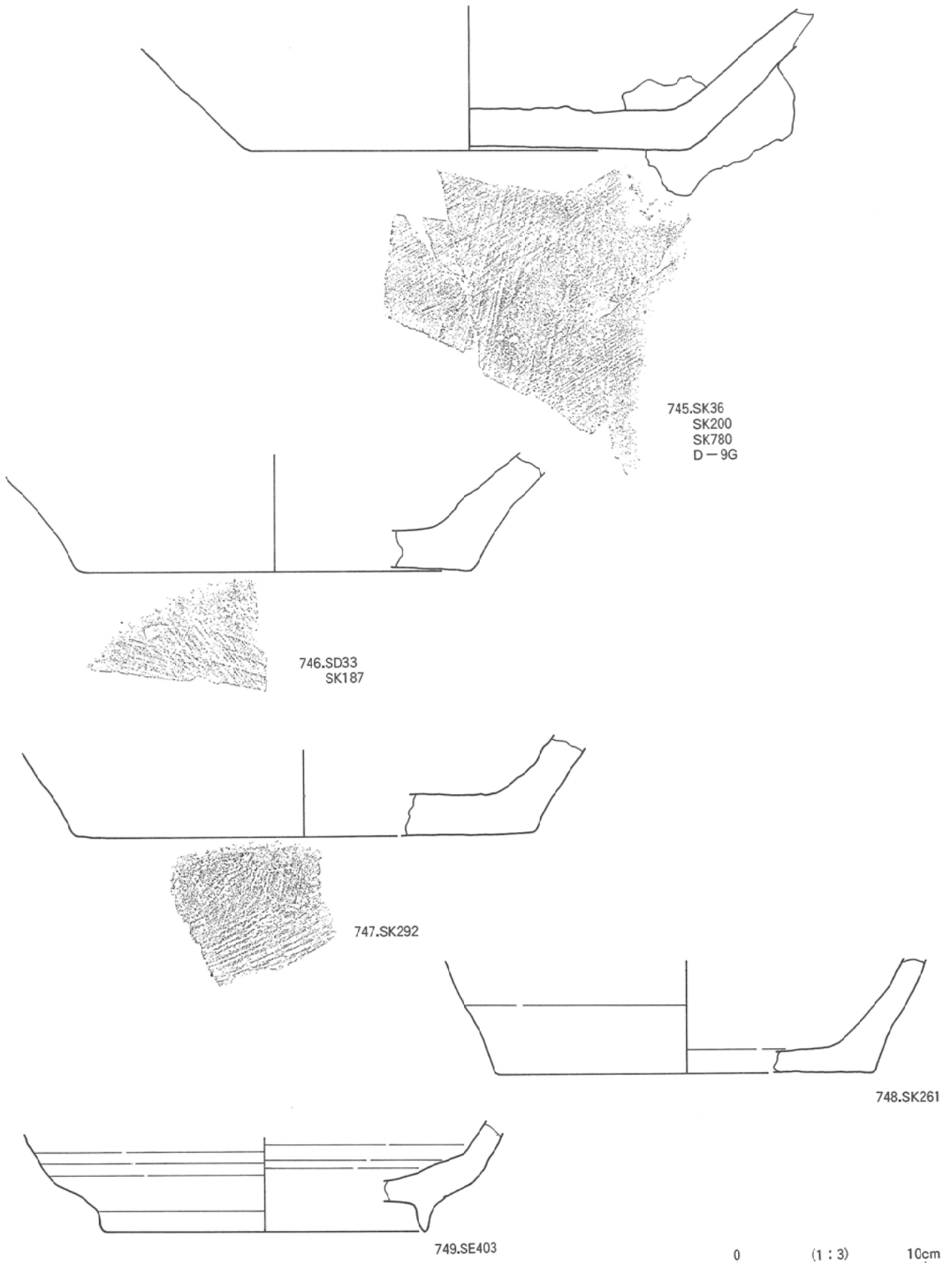
750～757は播鉢である。750は器面に鉄釉が施されたもの、751・752は素焼の播鉢で各々瀬戸焼、備前焼、越前焼と推定される。753～757は胎土は赤褐色を呈し、素焼または口縁部にのみ施釉がみられる。底部には回転糸切痕が残る。産地は不明である。



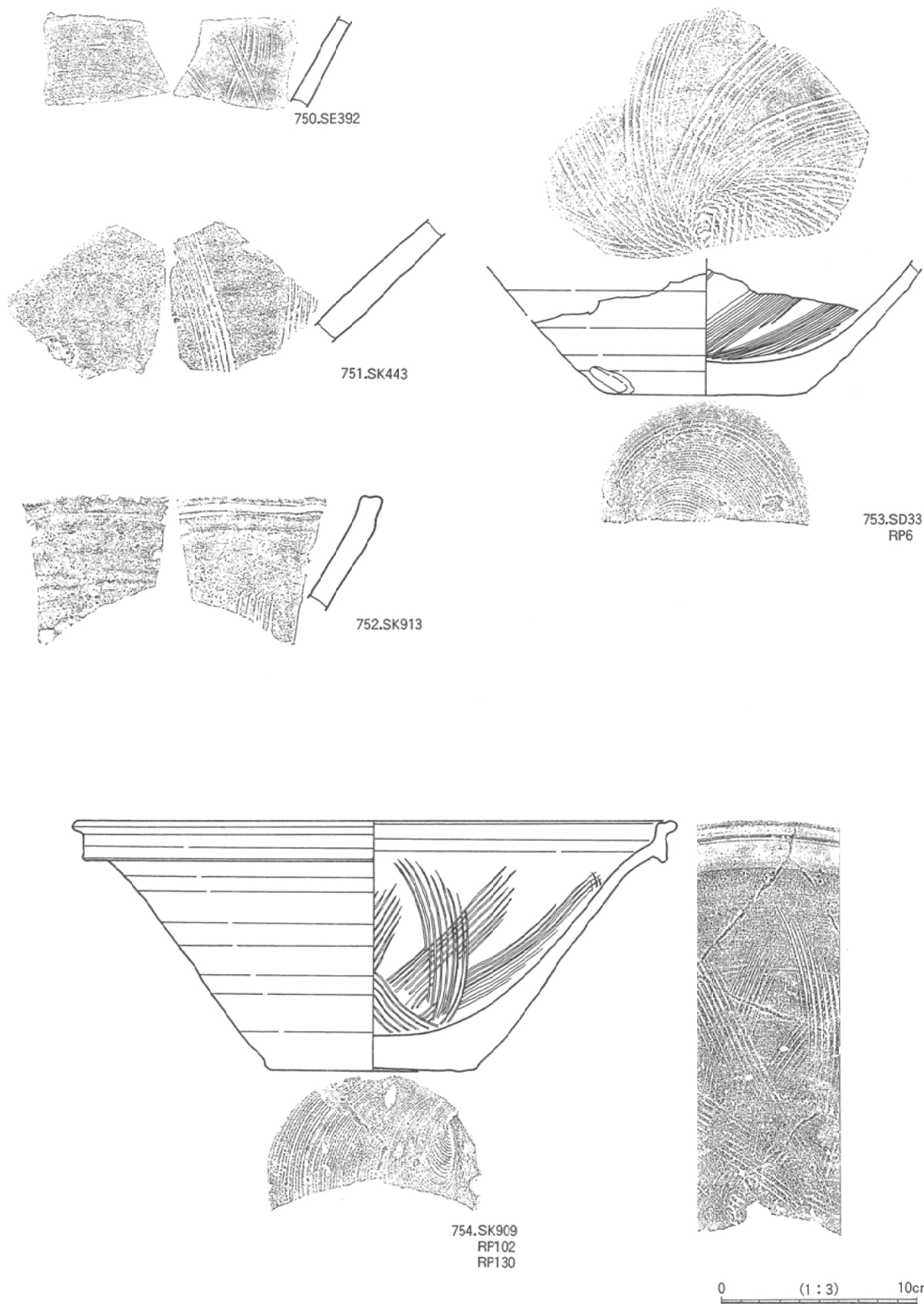
第96図 陶磁器(13)



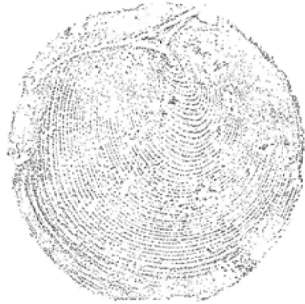
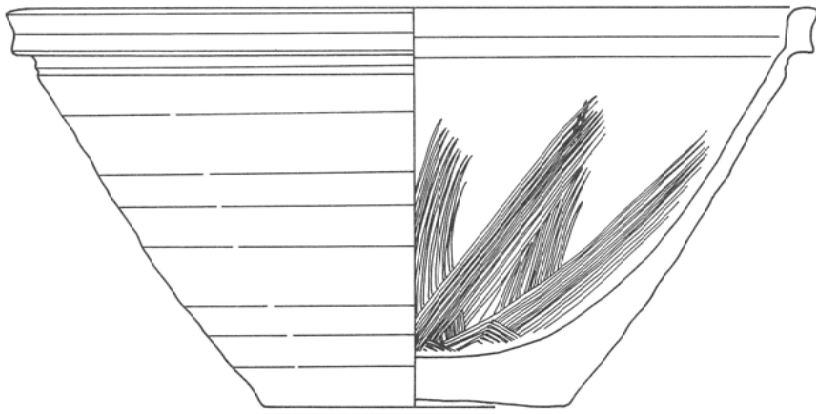
第97図 陶磁器(14)



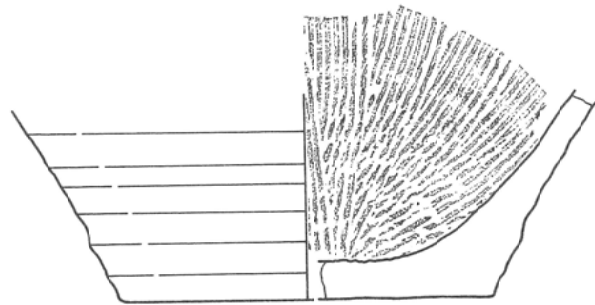
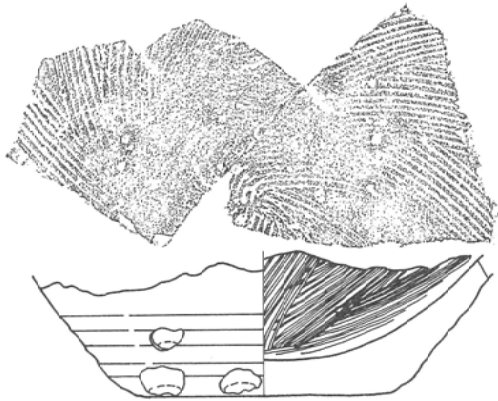
第98図 陶磁器(15)



第99図 陶磁器(16)



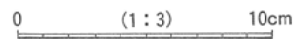
755.H-3G



756.SD234  
SK340



757.D-8G



第100図 陶磁器(17)



h 染付・色絵磁器（第101図～105図 図版58～61・67 第19表・20表）

染付・色絵磁器はほとんどが小破片で出土しており、近現代の磁器との識別が困難なものが多い。産地は中国産のいわゆる青花と国産では肥前系のものが主体となる。特に破片資料の場合は、両者の明確な区分ができないものが多く存在するため、以下では器形および絵付けの特徴から国産と認識できるもののほかは青花として扱った。器種は碗・皿が多く、小杯・鉢・徳利、壺などが若干出土している。今回青花の出土は碗、皿、小杯に限られた。

(1) 青 花

758～766は碗である。口縁部は体部からそのまま単純に立上がるもの（758・760・762・765）と、端反となるもの（763・764・766）がある。底部は低めの高台が作出され、畳付が露胎となる。また、761は饅頭心となる。胎土は概ね白色を呈し、焼成は良好で器厚は薄手となる。絵付けは、外面を主体に施すもの（758・759・762～764）と内面を主体に施すもの（760・761・765）がある。また766は口縁部の内外面に文様が描かれる。

767は小杯である。胎土は白色を呈し薄く堅緻に焼成される。高台内および体部外面には放射状の鉋痕が観察される。高台および見込周辺に二重の界線、見込の中央に文字（4文字か）が描かれる。釉薬は淡青色である。

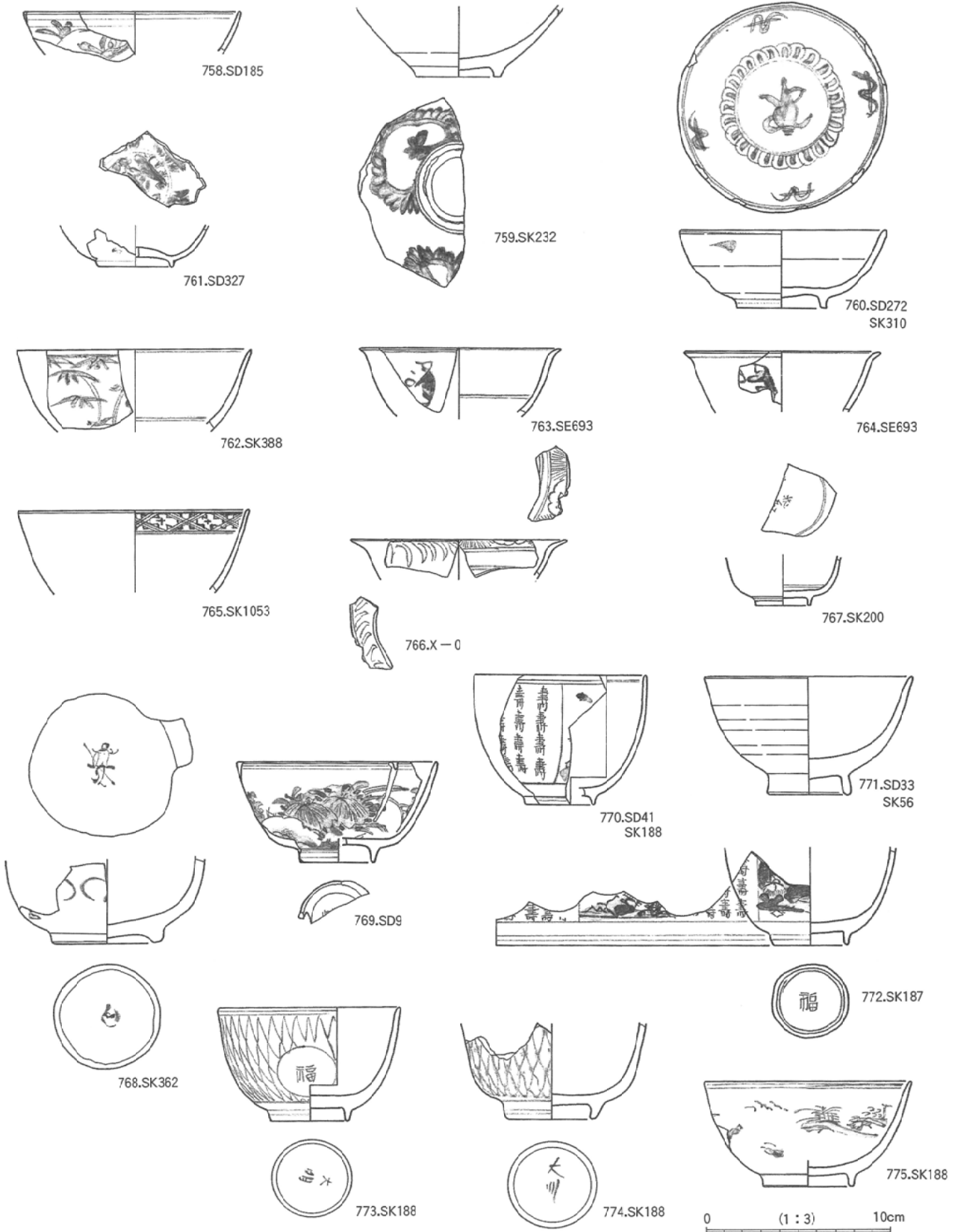
783～798・800～823は皿である。法量、器形は変化に富むが、概して薄手で堅緻に焼成される。口縁部は783・786・788・811が端反となる。793～795の輪花皿は揃いと考えられる。高台は802・817を除いて一般に低い。また797・814・820・821は碁笥底となる。784・789・792・795・800・807・810・815・817～819は高台内に放射条の鉋痕が観察される。絵付けは見込および口縁部を中心に内面を主体として施され、外面は無文あるいは口縁部と高台（脇）に界線を巡らす程度の装飾となるものが多いが、785・790・800・808・809・813は外面にも文様が描かれる。

(2) 国産染付・色絵磁器

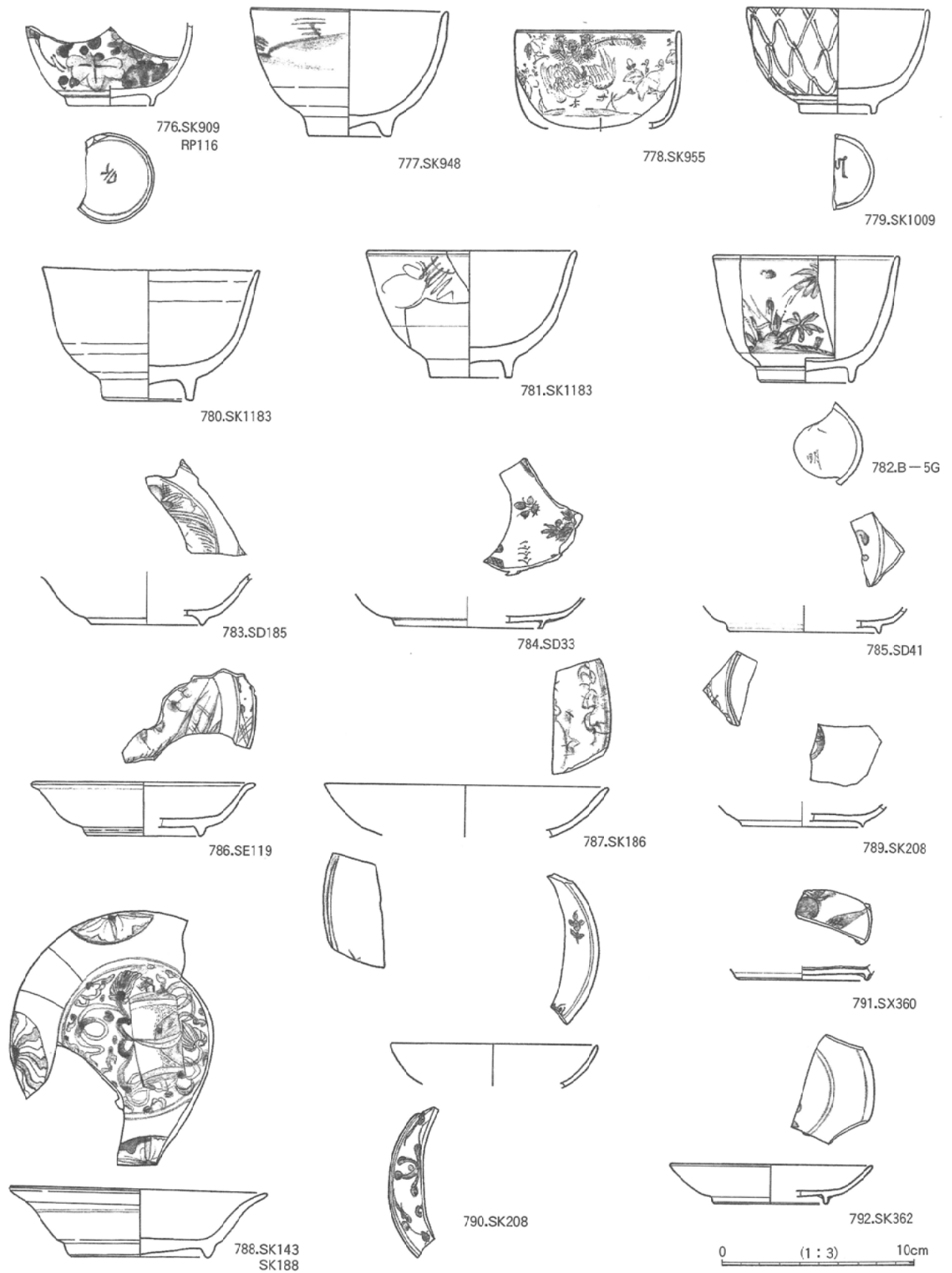
768～782は碗である。すべて肥前系と考えられる。器形は内彎しながら直立ぎみに立上がるものが多い、器厚は一般に厚手である。高台内は777と781が露胎となるほかは施釉され「大明」（773・774・782）、「福」（772）などの銘がはいるものがある。絵付けは外面を主体になされ、釉薬は淡青色に発色するものが多い。778は上絵付けの施された碗である。腰が張って体部が直立する器形となる。胎土は白色で薄手である。絵柄は剥落が著しくかろうじて孔雀の輪郭が看取される。着色は緑、黄、薄紫が残る。

799・824～826は肥前系の皿である。器厚は厚手であり、胎土は825が明灰色、他は白色を呈する。焼成は良好である。絵付けは体部内面を主体に施され、824・826の見込中央には五弁花のコンニャク印判が押される。また799の見込には蛇の目釉剥ぎがみられる。

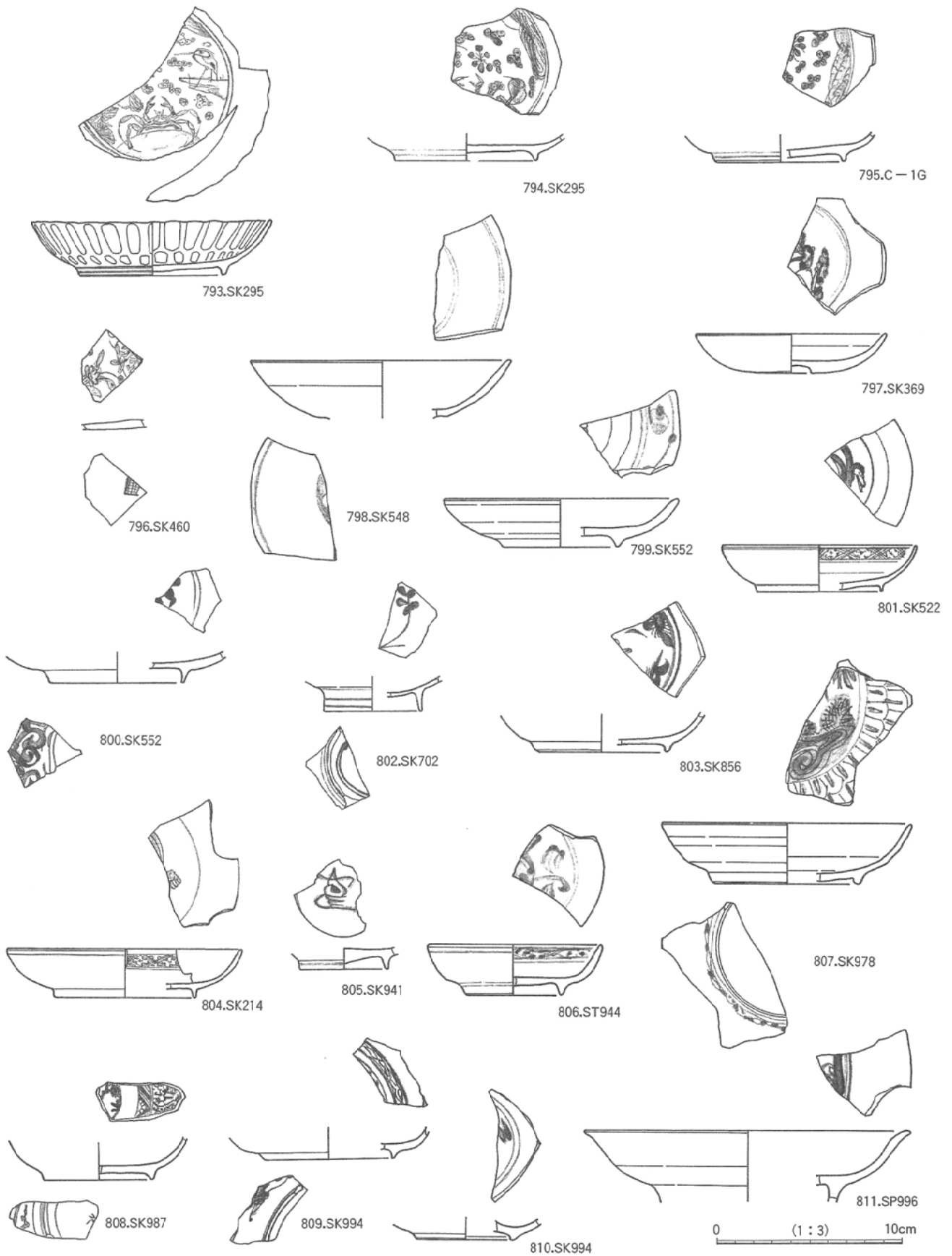
827～829は内外面に施釉された鉢である。絵付けは内面を主体に施されるもの（827・828）と、外面に施されるもの（829）がある。832・834は内面が露胎となる鉢である。832は小型の火鉢、834は植木鉢と推定される。833は向付と考えられる。絵付けは内外面に施され、釉薬は淡青色で畳付が露胎となる。



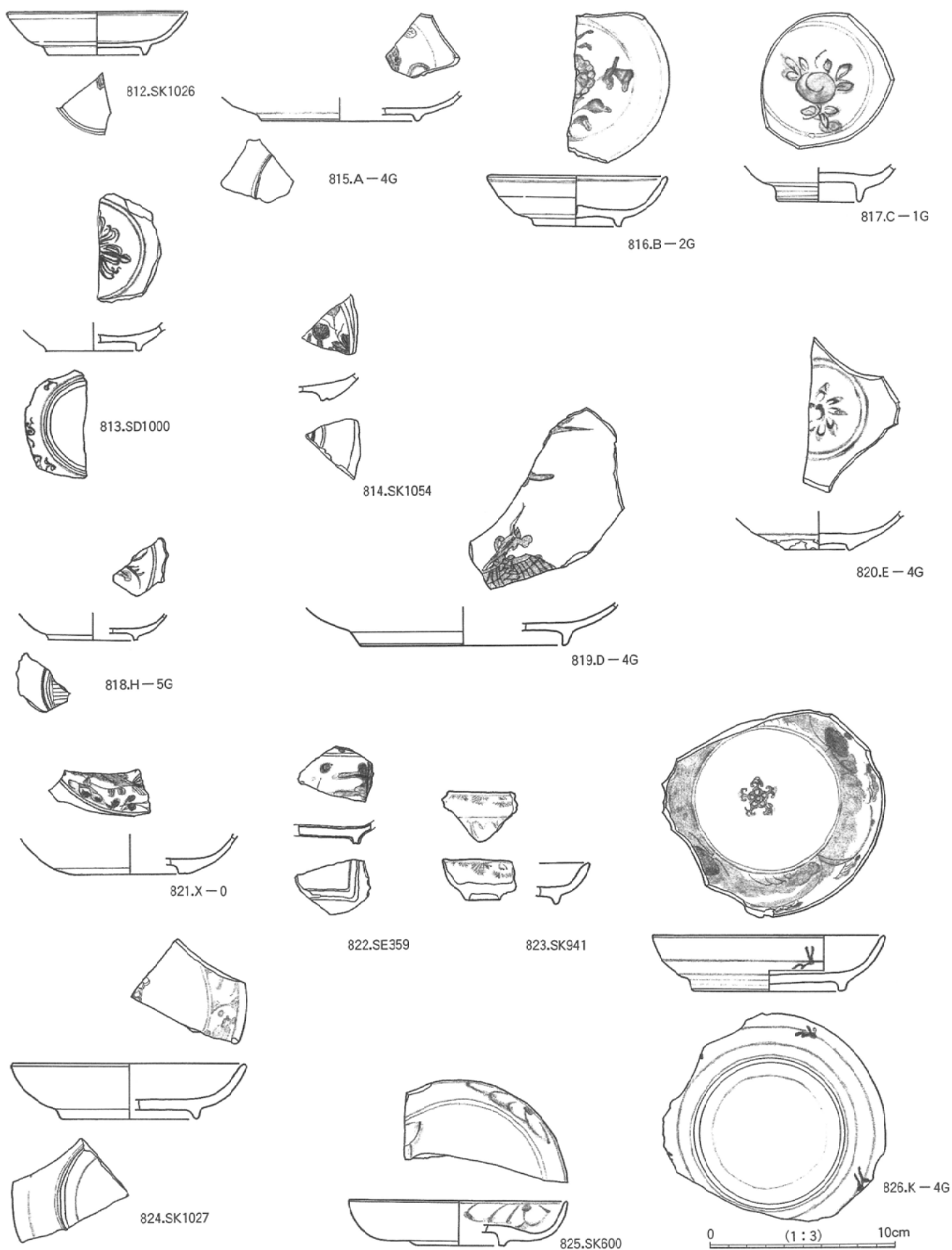
第101図 陶磁器(18)



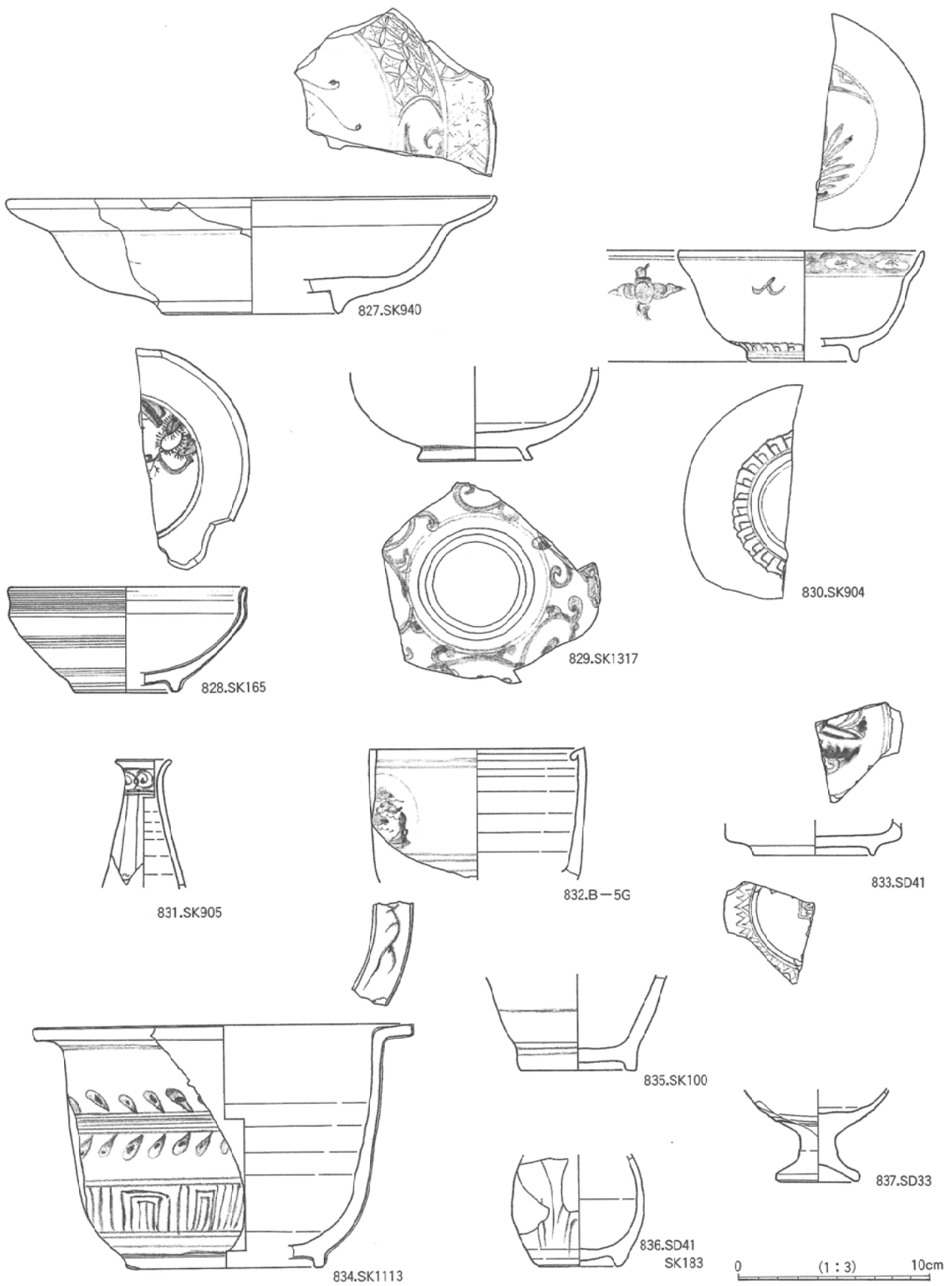
第102図 陶磁器(19)



第103図 陶磁器(20)



第104図 陶磁器(2)



第105図 陶磁器(2)

第11表 瓦器・土師質土器計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種	外 寸				内 寸				備 考	分類
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
282	77	37	SK145	B-7	瓦器	火鉢	(147)	(122)	(157)	48	(126)	(114)	(142)	(41)		
283	77	37		A-1	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-		
284	77	37	SP307	B-3	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-		
285	77	37	SK474	F-6	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-		
286	77	37	SD555	-	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-		
287	77	37		F-5	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-		
288	77	37		L-2	瓦器	鍋	-	-	-	-	-	-	-	-		
289	77	37	SD 9	D-8	瓦器	播鉢	-	(113)	-	[39]	-	(84)	-	-		
290	77	37	SK190	F-7・8	瓦器	播鉢	-	(82)	-	[39]	-	(83)	-	-		
291	77	37	SK866	F-7	瓦器	播鉢	-	(140)	-	[30]	-	(119)	-	-		
1106		37	SK51	D-8	瓦器	播鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	被熱	
1107		37	SK1178	K・L-1	瓦器	播鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	口縁部破片	
1108		37	SK214	D・E-6・7	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	脚破片	
1109		37	SE613	H・I-2・3	瓦器	壺	-	-	-	-	-	-	-	-	肩破片	
292	78	39	SK905	N-1	土師質土器	蓋	-	-	-	[47]	-	-	-	-		
293	78	38		I-3	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	-	-	-	-		
1120		38		H-5	土師質土器	かわらけ	-	68	-	[16]	-	-	-	-		II B
1121		38	SK941	M・N-1・2	瓦器	壺	-	-	-	-	-	-	-	-	胴破片	
1122		38	SK115	A・B-7	瓦器	鉢	(278)	-	-	[34]	(249)	-	-	-		
1123		38	SK38	A-8	瓦器	火鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	肩破片	
1124		38	SK909	N-2	瓦器	焙烙	-	122	(138)	[72]	-	105	-	-	2脚	
1125		38	SK115	A・B-7	瓦器	壺	-	-	-	-	-	-	-	-	肩破片	
1126		38	SK955	M-2	土師質土器	焙烙	(250)	-	-	[51]	(236)	-	-	-	被熱	
1127		38	SK37	B・C-8	瓦器	焙烙	-	-	-	-	-	-	-	-	口縁部破片、被熱	
294	78	39		X-0	土師質土器	高台付坏	-	(60)	-	[29]	-	-	-	-	柱状高台	
295	78		SD 9	E-8	土師質土器	かわらけ	-	56	-	[24]	-	50	-	-	灯明皿	II C2e
296	78		SD33	B-8	土師質土器	かわらけ	(76)	(50)	-	16	(73)	(44)	-	10		II C4a
297	78		SD185	A-5	土師質土器	かわらけ	(71)	(54)	-	14	(69)	(44)	-	(8)		II C1a
298	78		SD33	B-8	土師質土器	かわらけ	(92)	(52)	-	15	(89)	(40)	-	(12)	灯明皿	II C3c
299	78	39	SE55	B-8	土師質土器	かわらけ	(120)	(72)	-	28	(117)	(70)	-	(21)	灯明皿	II C4e
300	78		SE55	B-8	土師質土器	かわらけ	(123)	(64)	-	25	(121)	(81)	-	(18)	灯明皿	II C4f
301	78		SD82	C-8	土師質土器	かわらけ	(73)	(52)	-	15	(72)	(33)	-	(11)	灯明皿	II C1a
302	78	39	SD82	C-7	土師質土器	かわらけ	127	70	-	29	123	74	-	23	+ SK377、灯明皿	II C1f
303	78	39	SD82	C-7	土師質土器	かわらけ	124	64	-	30	123	88	-	21		II C4g
304	78		SD103	B-7	土師質土器	かわらけ	(101)	(56)	-	31	(99)	(51)	-	(27)		II C3e
305	78	39	SK151	A-5・6	土師質土器	かわらけ	(76)	48	-	21	(75)	45	-	19	灯明皿	II C3b
306	78	39	SK188	B-5	土師質土器	かわらけ	110	50	-	27	109	70	-	20	灯明皿	II C4e
307	78		SK188	B-5	土師質土器	かわらけ	(108)	(54)	-	26	(106)	70	-	18	灯明皿	II C4e
308	78	39	SK188	B-5	土師質土器	かわらけ	(98)	52	-	27	(97)	(54)	-	21	灯明皿	II C1e
309	78		SK188	B-5	土師質土器	かわらけ	(99)	(52)	-	26	(97)	(54)	-	18	灯明皿	II C1e
310	78		SK199	B-4	土師質土器	かわらけ	(80)	(48)	-	15	(77)	(48)	-	(10)	灯明皿、轆轤整形丸底	II A2
311	78		SK233	B-6	土師質土器	かわらけ	(90)	(64)	-	20	(88)	(56)	-	(11)	灯明皿	II C1d
312	78	39	SD347	D-5	土師質土器	かわらけ	(76)	40	-	22	(73)	32	-	16	灯明皿	II C3b
313	78		SE390	D・E-1・2	土師質土器	かわらけ	(79)	(36)	-	17	(76)	(45)	-	(12)	手捏ね	I C
314	78	39	SE392	D・E-2	土師質土器	かわらけ	62	46	-	22	59	18	-	14	灯明皿	II C1b
315	78		SK404	D-2・3	土師質土器	かわらけ	(96)	(74)	-	19	(93)	(70)	-	(11)	灯明皿	II C1d
316	78	39	SK406	F-2	土師質土器	かわらけ	78	46	-	19	75	42	-	15	灯明皿	II C1d
317	78		SK445	E-5	土師質土器	かわらけ	(100)	(66)	-	16	(97)	-	-	(8)		II C3c
318	78	39	SD555	G-5	土師質土器	かわらけ	66	46	-	16	64	45	-	12	灯明皿	II C3a
319	78		SD555	E-1	土師質土器	かわらけ	(70)	(52)	-	14	(68)	(46)	-	(10)		II C3a
320	78		SK593	J・K-4・5	土師質土器	かわらけ	(138)	(50)	-	40	(133)	(65)	-	(31)		II C1g
321	78	39	SK612	H-2・3	土師質土器	かわらけ	68	50	-	17	66	32	-	12	灯明皿	II C1b
322	78		SK630	I-3	土師質土器	かわらけ	(64)	(54)	-	12	(45)	(42)	-	(7)	手捏ね	I A
323	78		SK670	G-2	土師質土器	かわらけ	(100)	(65)	-	18	(96)	(66)	-	(11)	灯明皿	II C1d
324	78		SD683	L-4	土師質土器	かわらけ	(140)	(93)	-	27	(136)	(81)	-	(21)	灯明皿	II C4f
325	78	39	SK717	G-2	土師質土器	かわらけ	(71)	46	-	25	(68)	37	-	20	灯明皿	II C4b
326	78		SK717	G-2	土師質土器	かわらけ	(80)	(56)	-	24	(78)	(51)	-	(19)	灯明皿	II C4b
327	78		SK755	L-6	土師質土器	かわらけ	(106)	(62)	-	31	(100)	(45)	-	(24)		II C3e
328	78		SK905	N-1	土師質土器	かわらけ	(82)	(54)	-	24	(80)	(48)	-	(19)	灯明皿	II C3b
329	79	39	SK909	N-2	土師質土器	かわらけ	87	70	-	19	84	66	-	15	RP64、灯明皿	II C1d
330	79	39	SK909	N-2	土師質土器	かわらけ	(103)	(65)	-	25	(100)	(62)	-	16	RP65、灯明皿	II C3e
331	79	39	SK909	N-2	土師質土器	かわらけ	124	73	-	31	122	79	-	18	RP105、灯明皿	II C4g
332	79	39	SK909	N-2	土師質土器	かわらけ	103	66	-	28	102	64	-	22	RP66・RP105、灯明皿	II C3e
333	79	40	SK909	N-2	土師質土器	かわらけ	90	67	-	17	88	68	-	18	RP67、灯明皿	II C1d

第12表 土師質土器計測表(1)

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種	外 寸				内 寸				備 考	分類
						口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
334	79	40	SK909	N-2	かわらけ	90	70		20	88	70		15	RP68、灯明皿	IIc1d
335	79	40	SK909	N-2	かわらけ	117	80		25	114	80		15	RP69、灯明皿	IIc4e
336	79	40	SK909	N-2	かわらけ	87	61		18	85	62		13	RP70、灯明皿	IIc2d
337	79	40	SK909	N-2	かわらけ	86	65		16	84	58		11	RP71、灯明皿	IIc1c
338	79	40	SK909	N-2	かわらけ	89	62		20	87	60		14	RP73	IIc2d
339	79	40	SK909	N-2	かわらけ	92	65		19	88	62		16	RP74、灯明皿	IIc2d
340	79	40	SK909	N-2	かわらけ	89	60		18	86	64		13	RP75	IIc2d
341	79	40	SK909	N-2	かわらけ	86	60		17	84	60		12	RP76、灯明皿	IIc2d
342	79	40	SK909	N-2	かわらけ	86	60		17	84	59		12	RP77、灯明皿	IIc2d
343	79	40	SK909	N-2	かわらけ	86	69		17	84	60		13	RP78、灯明皿	IIc2d
344	79	40	SK909	N-2	かわらけ	92	66		18	90	70		14	RP79、灯明皿	IIc2d
345	79	40	SK909	N-2	かわらけ	87	65		18	85	61		14	RP80、灯明皿	IIc2d
346	79	40	SK909	N-2	かわらけ	91	60		19	89	60		13	RP81、灯明皿	IIc2d
347	79	40	SK909	N-2	かわらけ	89	67		18	88	59		13	RP82、灯明皿	IIc1d
348	79	40	SK909	N-2	かわらけ	80	60		17	78	55		14	RP83、灯明皿	IIc2b
349	79	40	SK909	N-2	かわらけ	80	60		18	78	44		12	RP84、灯明皿	IIc4b
350	79	40	SK909	N-2	かわらけ	91	65		20	90	60		14	RP85、灯明皿	IIc1d
351	79	41	SK909	N-2	かわらけ	84	65		16	82	58		12	RP86、灯明皿	IIc2a
352	79	41	SK909	N-2	かわらけ	84	60		19	82	62		14	RP87、灯明皿	IIc2b
353	79	41	SK909	N-2	かわらけ	84	63		17	81	58		12	RP88、灯明皿	IIc2b
354	79	41	SK909	N-2	かわらけ	(86)	62		16	(84)	62		(11)	RP89、灯明皿	IIc2c
355	79	41	SK909	N-2	かわらけ	85	62		17	84	61		13	RP90、灯明皿	IIc2d
356	79	41	SK909	N-2	かわらけ	96	66		20	95	68		14	RP91	IIc1d
357	79	41	SK909	N-2	かわらけ	97	74		21	94	72		18	RP93、灯明皿	IIc1d
358	79	41	SK909	N-2	かわらけ	100	64		21	98	69		16	RP94、灯明皿	IIc1d
359	79		SK909	N-2	かわらけ	—	76		[17]	—	(77)		—	RP95	IIc
360	79	41	SK909	N-2	かわらけ	98	73		17	97	76		14	RP97	IIc2d
361	79	41	SK909	N-2	かわらけ	77	57		19	75	42		14	RP99、灯明皿	IIc4b
362	79	41	SK909	N-2	かわらけ	95	71		17	92	68		12	RP101、灯明皿	IIc2d
363	79	41	SK909	N-2	かわらけ	92	60		18	90	69		14	RP103、灯明皿	IIc2d
364	79	41	SK909	N-2	かわらけ	(99)	68		23	(96)	75		18	RP106、灯明皿	IIc1d
365	79		SK909	N-2	かわらけ	—	(63)		[10]	—	(58)		—	RP108	IIc
366	79	41	SK909	N-2	かわらけ	127	83		30	124	82		23	RP111、灯明皿	IIc4g
367	80	41	SK909	N-2	かわらけ	92	56		19	90	72		13	RP112、灯明皿	IIc1d
368	80	41	SK909	N-2	かわらけ	104	68		26	102	58		21	RP113、灯明皿	IIc3e
369	80	41	SK909	N-2	かわらけ	93	73		20	89	70		17	RP114、灯明皿	IIc1d
370	80		SK909	N-2	かわらけ	(98)	(72)		21	(96)	(69)		(15)	RP114	IIc1d
371	80	41	SK909	N-2	かわらけ	85	65		20	83	68		15	RP121、灯明皿	IIc1d
372	80	42	SK909	N-2	かわらけ	92	63		22	90	68		16	RP122、灯明皿	IIc4d
373	80	42	SK909	N-2	かわらけ	(82)	(66)		18	(80)	(60)		13	RP123、灯明皿	IIc1b
374	80	42	SK909	N-2	かわらけ	(83)	56		20	(80)	52		16	RP124、灯明皿	IIc4b
375	80	42	SK909	N-2	かわらけ	88	60		19	86	57		14	RP131、灯明皿	IIc2d
376	80		SK909	N-2	かわらけ	—	71		[15]	—	72		—	RP132、灯明皿	IIc
377	80	42	SK909	N-2	かわらけ	(94)	70		16	(91)	71		12	RP134	IIc2c
378	80		SK909	N-2	かわらけ	(84)	(60)		19	(81)	(58)		(13)	RP135、灯明皿	IIc1b
379	80	42	SK909	N-2	かわらけ	83	61		18	81	58		13	RP139、灯明皿	IIc4b
380	80	42	SK909	N-2	かわらけ	90	60		18	88	64		12	RP141	IIc2d
381	80	42	SK909	N-2	かわらけ	85	59		19	83	58		13	RP142、灯明皿	IIc2d
382	80	42	SK909	N-2	かわらけ	94	63		17	92	64		13	RP145、灯明皿	IIc2d
383	80	42	SK909	N-2	かわらけ	93	74		18	90	65		13	RP146・RP173、灯明皿	IIc2d
384	80	42	SK909	N-2	かわらけ	94	64		20	92	68		14	RP147、灯明皿	IIc2d
385	80	42	SK909	N-2	かわらけ	93	70		17	91	66		12	RP148・RP154、灯明皿	IIc2d
386	80	42	SK909	N-2	かわらけ	91	63		17	89	61		13	RP149、灯明皿	IIc2d
387	80	42	SK909	N-2	かわらけ	95	70		19	93	68		14	RP150、灯明皿	IIc2d
388	80	42	SK909	N-2	かわらけ	89	70		17	86	65		12	RP151、灯明皿	IIc2d
389	80	42	SK909	N-2	かわらけ	(92)	68		16	(90)	64		11	RP152、灯明皿	IIc2c
390	80	42	SK909	N-2	かわらけ	93	65		20	91	68		12	RP154、灯明皿	IIc2d
391	80	42	SK909	N-2	かわらけ	92	69		19	90	60		14	RP155、灯明皿	IIc2d
392	80		SK909	N-2	かわらけ	(92)	(65)		19	(90)	(62)		(13)	RP156、灯明皿	IIc1d
393	80	43	SK909	N-2	かわらけ	92	72		18	90	65		13	RP157、灯明皿	IIc2d
394	80	43	SK909	N-2	かわらけ	97	71		20	94	67		14	RP158、灯明皿	IIc2d
395	80	43	SK909	N-2	かわらけ	92	(69)		18	90	65		15	RP159、灯明皿	IIc2d
396	80	43	SK909	N-2	かわらけ	94	70		19	92	67		13	RP160、灯明皿	IIc2d
397	80	43	SK909	N-2	かわらけ	94	68		18	92	63		12	RP161・RP159・RP162、灯明皿	IIc1d



第13表 土師質土器計測表(2)

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種	外 寸				内 寸				備 考	分類
						口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
398	80	43	SK909	N-2	かわらけ	(94)	70		20	(92)	71		15	RP162、灯明皿	IIc4d
399	80	43	SK909	N-2	かわらけ	84	64		20	81	63		17	RP163、灯明皿	IIc1b
400	80	43	SK909	N-2	かわらけ	102	74		20	100	72		18	RP164、灯明皿	IIc2d
401	80	43	SK909	N-2	かわらけ	93	67		17	91	64		12	RP165、灯明皿	IIc2d
402	80	43	SK909	N-2	かわらけ	100	70		19	98	70		14	RP166	IIc1d
403	80	43	SK909	N-2	かわらけ	88	60		19	85	61		14	RP167	IIc2d
404	80	43	SK909	N-2	かわらけ	93	66		17	91	62		14	RP172、灯明皿	IIc2d
405	80		SK909	N-2	かわらけ	(96)	(65)		19	(94)	(65)		(14)	RP173、灯明皿	IIc1d
406	80		SK909	N-2	かわらけ	(98)	(70)		18	(95)	(68)		13	RP173・RP177、灯明皿	IIc2d
407	81	43	SK909	N-2	かわらけ	103	77		20	101	69		15	RP174、灯明皿	IIc1d
408	81	43	SK909	N-2	かわらけ	91	68		18	89	64		13	RP175、灯明皿	IIc1d
409	81	43	SK909	N-2	かわらけ	93	72		18	91	68		14	RP176、灯明皿	IIc1d
410	81		SK909	N-2	かわらけ	(94)	(72)		20	(92)	(70)		(14)	RP178、灯明皿	IIc2d
411	81	43	SK909	N-2	かわらけ	105	78		23	103	75		20	RP178	IIc2d
412	81	43	SK909	N-2	かわらけ	100	72		20	98	73		16	RP179、灯明皿	IIc1d
413	81		SK909	N-2	かわらけ	(96)	(73)		17	(94)	(70)		(14)	RP179	IIc1d
414	81	43	SK909	N-2	かわらけ	94	70		20	92	67		14	RP181	IIc4d
415	81	44	SK909	N-2	かわらけ	90	65		23	88	68		17	RP194・RP202、灯明皿	IIc1d
416	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(86)	62		21	(84)	63		16	RP195、灯明皿	IIc1d
417	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(92)	72		21	(89)	70		(17)	RP196、灯明皿	IIc2d
418	81		SK909	N-2	かわらけ	(89)	71		21	(88)	65		(18)	RP197、灯明皿	IIc1d
419	81	44	SK909	N-2	かわらけ	86	67		22	83	64		17	RP198、灯明皿	IIc4d
420	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(86)	65		20	(84)	64		15	RP199、灯明皿	IIc1d
421	81		SK909	N-2	かわらけ	(86)	(60)		21	(83)	(64)		16	RP200、灯明皿	IIc1d
422	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(96)	74		19	(93)	72		14	RP201	IIc1d
423	81	44	SK909	N-2	かわらけ	92	72		21	89	72		17	RP202、灯明皿	IIc1d
424	81		SK909	N-2	かわらけ	(98)	(66)		22	(96)	(76)		(16)	RP203	IIc1d
425	81		SK909	N-2	かわらけ	(92)	(72)		21	(90)	(65)		18	RP204、灯明皿	IIc1d
426	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(90)	(68)		21	(88)	(70)		(15)	RP205、灯明皿	IIc1d
427	81	44	SK909	N-2	かわらけ	89	67		21	86	68		16	RP212、灯明皿	IIc1d
428	81	44	SK909	N-2	かわらけ	88	70		19	85	65		15	灯明皿	IIc1d
429	81	44	SK909	N-2	かわらけ	(88)	64		20	(85)	66		(15)	灯明皿	IIc4d
430	81		SK909	N-2	かわらけ	(84)	(56)		18	(80)	(50)		(13)	灯明皿	IIc1d
431	81		SK909	N-2	かわらけ	(94)	(60)		18	(92)	(68)		(13)		IIc2d
432	81	44	SK909	N-2	かわらけ	94	74		19	91	70		15	灯明皿	IIc1d
433	81		SK909	N-2	かわらけ	(96)	(74)		20	(94)	(69)		(15)		IIc1d
434	81		SK909	N-2	かわらけ	(106)	(70)		22	(104)	(57)		(17)	灯明皿	IIc1d
435	81		SK909	N-2	かわらけ	(97)	67		20	(94)	69		15		IIc2d
436	81	44	SK909	N-2	かわらけ	91	68		19	88	65		13	灯明皿	IIc2d
437	81	44	SK909	N-2	かわらけ	88	72		20	85	68		16	灯明皿	IIc1d
438	81		SK909	N-2	かわらけ	(90)	(76)		16	(87)	(67)		(12)	灯明皿	IIc1c
439	81		SK909	N-2	かわらけ	(126)	(79)		27	(123)	(67)		21		IIc3f
440	81		SK913	N-2	かわらけ	(104)	(77)		21	(102)	(64)		(16)		IIc1d
441	81		SK913	N-2	かわらけ	94	73		19	92	70		12		IIc1d
442	82	45	SK1183	L-2	かわらけ	90	50		25	87	49		19	RP183、灯明皿	IIc3e
443	82	44	SK1183	L-2	かわらけ	102	52		27	101	58		21	RP184、灯明皿	IIc1e
444	82	44	SK1183	L-2	かわらけ	88	58		25	86	44		21	RP187、灯明皿	IIc3e
445	82	44	SK1183	L-2	かわらけ	119	64		27	116	75		19	RP188、灯明皿	IIc1e
446	82		SK1183	L-2	かわらけ	(76)	(48)		20	(70)	(41)		(14)	RP189	IIc3b
447	82	45	SK1183	L-2	かわらけ	82	48		24	78	40		17	RP189、灯明皿	IIc4b
448	82	45	SK1183	L-2	かわらけ	132	69		30	128	78		24	RP190、灯明皿	IIc1g
449	82	45	SK1183	M-2	かわらけ	83	54		24	81	37		18	RP211、灯明皿	IIc3b
450	82	45	SK1183	M-2	かわらけ	79	52		20	76	41		16	RP210、灯明皿	IIc3b
451	82	45	SK1183	L-2	かわらけ	132	70		35	130	78		28	RP213、灯明皿	IIc4g
452	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	(114)	66		28	(112)	70		19	灯明皿	IIc1e
453	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	(78)	(50)		21	(75)	(40)		(16)	灯明皿	IIc3b
454	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(120)	(64)		26	(117)	(68)		(19)	灯明皿	IIc3e
455	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(92)	(62)		25	(89)	(46)		(23)	灯明皿	IIc3e
456	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	-	81		22	-	95		-	灯明皿	IIc
457	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(76)	(48)		19	(74)	(39)		(15)	灯明皿	IIc3b
458	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	82	53		24	80	40		19	灯明皿	IIc3b
459	82	44	SK1183	L・M-2	かわらけ	(105)	52		27	(102)	61		20	灯明皿	IIc1e
460	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	79	56		20	77	41		18	灯明皿	IIc3b
461	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(92)	(60)		24	(89)	(49)		(17)		IIc3d

第14表 土師質土器計測表(3)

番号	押図	図版	遺構	地区	器種	外 寸				内 寸				備 考	分類
						口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
462	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(96)	(54)		25	(93)	(50)		(19)	灯明皿	II C3e
463	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(96)	(53)		25	(93)	(51)		(17)	灯明皿	II C1e
464	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(70)	(46)		18	(67)	(30)		(14)	灯明皿	II C3b
465	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	97	58		26	96	49		21	灯明皿	II C3e
466	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(94)	48		25	(92)	56		18	灯明皿	II C4e
467	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	(84)	51		20	(82)	41		(17)	灯明皿	II C3b
468	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(88)	(54)		25	(85)	(51)		(19)	灯明皿	II C4e
469	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	(97)	(50)		23	(95)	(56)		(16)	灯明皿	II C1d
470	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	84	56		26	82	40		22	灯明皿	II C3b
471	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(96)	(60)		24	(92)	(56)		(19)	灯明皿	II C4d
472	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(84)	(48)		24	(82)	(48)		(19)		II C4b
473	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(90)	(52)		23	(88)	(47)		17	灯明皿	II C3d
474	82		SK1183	L・M-2	かわらけ	(88)	(53)		24	(86)	(50)		20	灯明皿	II C1d
475	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	89	53		25	87	55		19	灯明皿	II C1e
476	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	81	52		23	79	38		19	灯明皿	II C3b
477	82	45	SK1183	L・M-2	かわらけ	80	52		20	77	34		17	灯明皿	II C3b
478	83	46	SK940	L・M-1・2	かわらけ	91	46		26	89	49		20		II C4e
479	83	46	SK940	L・M-1・2	かわらけ	(90)	52		28	(88)	46		20	灯明皿	II C3e
480	83	46	SK940	L・M-1・2	かわらけ	(91)	54		26	(88)	46		19	灯明皿	II C3e
481	83	46	SK940	L・M-1・2	かわらけ	(90)	50		24	(88)	51		18		II C4d
482	83		SK940	L・M-1・2	かわらけ	(91)	(64)		26	(89)	(50)		(24)	灯明皿	II C3e
483	83		SK940	L・M-1・2	かわらけ	(106)	(62)		24	(103)	(69)		(19)		II C3d
484	83		SK940	L・M-1・2	かわらけ	(94)	(56)		23	(91)	(52)		16		II C3d
485	83		SK940	L・M-1・2	かわらけ	(93)	(54)		22	(89)	(50)		(15)		II C3d
486	83	46	SK940	L・M-1・2	かわらけ	103	60		28	100	57		(21)	灯明皿	II C1e
487	83	46	SK941	M・N-1・2	かわらけ	(80)			15	(76)			10	灯明皿	II A1
488	83	46	SK948	L・M-2	かわらけ	85	56		21	83	42		17	灯明皿	II C3d
489	83		SK948	L・M-2	かわらけ	(85)	(58)		20	(83)	(43)		(17)	灯明皿	II C2d
490	83	46	SK948	L・M-2	かわらけ	(84)	55		25	(81)	41		19	灯明皿	II C3b
491	83	46	SK948	L・M-2	かわらけ	85	56		24	82	38		19		II C3d
492	83		SK948	L・M-2	かわらけ	(92)	(52)		25	(89)	(48)		(18)		II C3e
493	83	46	SK948	L・M-2	かわらけ	80	54		21	77	35		17	灯明皿	II C3b
494	83		SK955	M-2	かわらけ	(103)	(79)		15	(101)	(80)		(10)	灯明皿	II C2c
495	83	46	SK955	M-2	かわらけ	115	76		22	113	83		16	灯明皿	II C4d
496	83	46	SK955	M-2	かわらけ	93	68		18	91	72		13	RP120、灯明皿	II C1d
497	83	46	SK955	M-2	かわらけ	88	62		20	86	65		16	灯明皿	II C2d
498	83	46	SK955	M-2	かわらけ	101	80		19	99	77		14	灯明皿	II C1d
499	83	46	SD1010	L-2	かわらけ	(88)	54		25	(85)	42		20	灯明皿	II C3e
500	83		SD1010	L-2	かわらけ	(94)	(56)		25	(91)	(45)		(20)		II C3e
501	83		SD1010	L-2	かわらけ	(87)	(53)		26	(85)	(48)		20		II C1e
502	83		SD1010	L-2	かわらけ	(100)	(52)		24	(98)	(52)		18	灯明皿	II C1d
503	83		SD1000	L-3	かわらけ	(136)	(62)		30	(133)	(50)		27	灯明皿	II C3g
504	83		SD1000	L-3	かわらけ	(89)	(60)		22	(87)	(50)		(15)	灯明皿	II C1d
505	83		SK1054	L-3	かわらけ	-	(75)		[26]	-	(70)		-		II C
506	83		SK1054	L-3	かわらけ	(128)	(63)		31	(125)	(50)		29	灯明皿	II C3g
507	83		SP1081	L-4	かわらけ	(143)	(80)		26	(141)	(80)		(22)	灯明皿	II C3f
508	83		SK1114	M-3	かわらけ	-	(60)		[13]	-	(42)		-		II C
509	83		SK1153	N-2	かわらけ	(90)	(72)		20	(87)	(65)		(15)	灯明皿	II C1d
510	83	46	SK1153	N-2	かわらけ	92	69		22	89	72		18	灯明皿	II C1d
511	83		SP1203	J-8	かわらけ	(62)	(44)		18	(58)	(39)		(10)	灯明皿	II C4b
512	83	46	SK1296	F・G-9	かわらけ	66	53		14	63	48		10	灯明皿	II C2a
513	83		SK1296	F・G-9	かわらけ	(97)	(64)		24	(95)	(52)		(21)		II C1d
514	83		SK1296	F・G-9	かわらけ	(70)	(54)		19	(68)	(54)		(11)	灯明皿	II C1b
515	83		SK1296	F・G-9	かわらけ	(98)	(74)		21	(96)	(62)		(13)	灯明皿	II C1d
516	83		SK1296	F・G-9	かわらけ	(80)	(64)		20	(78)	(58)		16	灯明皿	II C1b
517	83			E-6	かわらけ	(101)	(70)		21	(98)	(67)		16	灯明皿	II C1d
518	83			E-6	かわらけ	(128)	(64)		28	(125)	(55)		28	灯明皿	II C4f
519	83			H-2	かわらけ	(62)	(36)		28	(59)	(24)		23	灯明皿、手握ね	I B
520	83			K-4	かわらけ	(124)	(56)		27	(108)	(46)		(19)	灯明皿	II C3f
521	83	46		L-1	かわらけ	112	63		32	108	26		27	灯明皿	II C3e
1233		68	SK1100	K・L-3	七 厘	252	167	195	220	180	95	142	186		
1234		68	SK948	M-2	七 厘	(256)	210	(245)	197	(195)	195	(195)	182		

第15表 陶磁器計測表(1)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸				備 考	産地等
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
522	84	47	SD82	C-7	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
523	84	47	SD272	B-2	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
524	84	47	SK368	B-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
525	84	47	SK634	J-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
526	84	47	SK779	I-1	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
527	84	47	SK658	K-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
528	84	47	SD620	E・F-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
529	84	47	SK139	C-7・8	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
530	84	47	SK180	D-7	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
531	84	47	SD683	K・L-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
532	84	47	SD683	K-4	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
533	84	47	SK906	N-1・2	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
534	85	48	SK941	M・N-1・2	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
535	85	48	SK1043	L-3	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	初痕	珠洲
536	85	48	SK1024	L-2	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
537	85	48	SD185	B-6	陶器	壺	-	(125)	-	[65]	-	(80)	-	-	内面灰被	珠洲
538	85	48	SD683	L-4	陶器	鉢	-	-	(116)	[61]	-	-	-	-	摩滅	珠洲
539	85	48	SK602	J-4	陶器	播 鉢	(240)	(115)	127	(219)	-	-	105	SD544接合	珠洲	
540	85	48	SK560	H-5	陶器	播 鉢	(250)	-	[61]	(233)	-	-	-	-	-	珠洲
541	85	48		C-8	陶器	播 鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
542	85	48		L-3	陶器	播 鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	珠洲
543	86	49	SD185	B-6	磁器	白磁端反皿	(102)	(48)	31	(96)	(65)	(25)	-	畳付・高台内露胎		
544	86	49	SK909	N-2	磁器	白磁端反皿	(113)	(59)	27	(107)	(64)	19	-	RP168、畳付砂目		
545	86	49	SK1055	L-3	磁器	白磁端反皿	(130)	(72)	33	(126)	(69)	27	-	畳付露胎、高台内具須のマーキング		
546	86	49	SK469	E-4	磁器	白磁碗	(176)	-	[21]	(171)	-	-	-	-	-	
547	86	49	SD811	F-8	磁器	白磁碗	(179)	-	[22]	(177)	-	-	-	-	-	
548	86	49	SE523	D-3	磁器	白磁碗	(170)	-	[19]	(162)	-	-	-	-	-	
549	86	49	SK188	B-5	磁器	白磁折縁ソギ中皿	(222)	-	[26]	(219)	-	-	-	-	-	
550	86	49	SE359	D-2	磁器	白磁碗	(162)	-	[37]	(159)	-	-	-	-	-	
551	86	49	SK473	F-6	磁器	青白磁皿	-	(58)	[26]	-	(78)	-	-	-	高台脇露胎、見込画花文	
552	86	49		C-5	磁器	白磁口禿碗	(110)	-	[23]	(109)	-	-	-	-	-	
553	86	49	SK671	G・H-2・3	磁器	白磁向付	(110)	-	[36]	(109)	-	-	-	-	-	
554	86	49	SK406	F-2	磁器	白磁小杯	(54)	(32)	16	(54)	(30)	9	-	畳付・高台内露胎、内面布目		
555	86	49	SK188	B-5	磁器	白磁茶入	(47)	-	(56)	[30]	(41)	-	(52)	-	-	
1205		49	SK474	F-6	磁器	青白磁皿	-	(94)	[13]	-	-	-	-	-	畳付露胎	
1206		49	SK702	K-3	磁器	白磁小杯	-	(30)	[8]	-	-	-	-	-	畳付砂目	
1207		49	SD276	C-3	磁器	白磁端反皿	(149)	-	[20]	(145)	-	-	-	-	-	
1208		49	SE55	B-8	磁器	白磁鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1209		49	SK114	B-7	磁器	白磁端反皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1210		49	SD9	D-8	磁器	白磁皿	(109)	-	[15]	-	-	-	-	-	-	
1211		49	SD33	B-8	磁器	白磁皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1212		49	SE19	A-9	磁器	白磁端反皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1213		49	SK426	D・E-3・4	磁器	白磁皿	-	-	-	-	-	-	-	-	灯明皿転用、畳付露胎	
556	86	67	SD82	C-7	磁器	白磁壺	-	51	(102)	[85]	-	(92)	-	-	SK188、畳付露胎、畳付・高台内砂目、内面輪切れ	
557	86	50	SK58	D-7・8	磁器	青磁碗	-	(56)	[21]	-	-	-	-	-	畳付・高台内露胎	龍泉
558	86	50	SK65	A-8	磁器	青磁碗	-	48	[26]	-	-	-	-	-	畳付・高台内露胎	
559	86	50	SK188	B-5	磁器	青磁碗	-	42	[36]	-	-	-	-	-	高台際軸切れ、畳付・高台内露胎	肥前
560	86	50	SK668	E-3・4	磁器	青磁碗	-	56	[19]	-	-	-	-	-	畳付・高台内露胎	龍泉
561	87	50	SD316	A-1	磁器	青磁碗	(160)	-	[45]	(158)	-	-	-	-	-	龍泉
562	87	50	SK500	F-4	磁器	青磁碗	(120)	-	[43]	(116)	-	-	-	-	-	龍泉
563	87	50	SK788	H-5	磁器	青磁碗	-	(60)	[32]	-	(47)	-	-	-	高台内露胎	龍泉
564	87	50	SK852	E-7	磁器	青磁碗	(152)	(52)	72	(149)	(70)	(48)	-	-	-	龍泉
565	87		SK940	L・M-1・2	磁器	青磁碗	(112)	45	72	(109)	-	-	59	-	高台際軸切れ、畳付・高台内露胎	肥前
566	87	50	SK1027	L-2	磁器	青磁碗	(121)	-	[19]	(117)	-	-	-	-	-	
567	87	50		B-6	磁器	青磁端反碗	(170)	-	[27]	(166)	-	-	-	-	-	龍泉
568	87		SK905	N-1	磁器	青磁碗	(103)	-	[62]	(102)	-	(56)	-	-	-	肥前
569	87	50	SE359	D-2	磁器	青磁碗	-	(66)	[21]	-	(77)	-	-	-	高台内露胎、漆継ぎ痕	龍泉
570	87	50	SK530	H-5	磁器	青磁皿	-	(70)	[17]	-	(88)	-	-	-	底部露胎	同安
571	87	50		F-6	磁器	青磁皿	-	(56)	[18]	-	(65)	-	-	-	萐筋底、畳付砂目、高台内軸切れ	龍泉
572	87	50	SD9	-	磁器	青白磁合子蓋	(91)	-	29	(64)	-	14	-	-	内面露胎	
573	87	50	SD33	B-8	磁器	青磁皿	-	(54)	[32]	-	(110)	-	-	-	畳付露胎、畳付・高台内砂目	肥前(波佐)
574	87	50		A-4	磁器	青磁香炉	-	(56)	(106)	[26]	-	(93)	(98)	-	畳付・高台内・内面露胎	肥前
575	87	50	SK187	B-5・6	磁器	青磁輪花鉢	(206)	-	[43]	(204)	-	-	-	-	口紅	肥前

第16表 陶磁器計測表(2)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸				備 考	産地等
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
1214		50	SK183	D-7	磁器	青磁瓶子	-	-	-	-	-	-	-			
1215		50	SD185	B-6	磁器	青磁瓶子	-	-	-	-	-	-	-	内面露胎		
1216		50	SD1000	L-3	磁器	青磁碗	-	-	-	-	-	-	-			
1217		50	SK187	B-5・6	磁器	青磁輪花小鉢	-	-	-	-	-	-	-	+ SK216		
1218		50	SE435	D・E-5	磁器	青磁碗	-	-	-	-	-	-	-			
1219		50	SK123	A-6	磁器	青磁皿	-	-	-	-	-	-	-		同安	
1220		50	SK 2	F-8	磁器	青磁輪花皿	-	-	-	-	-	-	-			
576	88	51	SK182	D-7	陶器	灰釉ソギ中皿	(110)	(61)		26	(104)	(60)	(18)	灯明皿転用	瀬戸・美濃	
577	88	51	SK200	B-6	陶器	灰釉折縁皿	(104)	(58)		22	(98)	(61)	(15)	見込軸剥ぎ、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
578	88	65	SK362	D-6	陶器	灰釉丸皿	105	62		25	101	59	16	灯明皿転用、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
579	88	51	SK522	F-5	陶器	灰釉折縁ソギ中皿	108	54		21	100	58	14	灯明皿転用、見込軸剥ぎ、見込・高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
580	88	51	SP550	H-5	陶器	灰釉折縁皿	(110)	(60)		20	(104)	(63)	(12)	見込軸剥ぎ	瀬戸・美濃	
581	88	51	SK630	I-3	陶器	灰釉折縁ソギ中皿	(134)	(70)		22	(128)	(74)	14	灯明皿転用、見込軸剥ぎ、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
582	88	65	SK697	J・K-3	陶器	灰釉折縁皿	112	64		22	108	62	17	見込軸剥ぎ	瀬戸・美濃	
583	88	51	SK697	J・K-3	陶器	灰釉折縁皿	(110)	58		24	(103)	(62)	17	見込軸剥ぎ	瀬戸・美濃	
584	88	51	SK780	I-5	陶器	灰釉折縁ソギ中皿	(119)	(62)		23	(113)	(66)	14		瀬戸・美濃	
585	88	51	SK909	N-2	陶器	灰釉丸皿	110	59		25	107	61	16	+ SK1158、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
586	88	51	SK941	M・N-1・2	陶器	灰釉折縁皿	(110)	(66)		21	(105)	(65)	(16)	灯明皿転用、見込軸剥ぎ、	瀬戸・美濃	
587	88	55	ST944	M-1・2	陶器	唐津灰釉皿	(122)	(52)		32	(109)	(86)	18	灯明皿転用、高台露胎	唐津	
588	88	51	SK1191	J-8	陶器	灰釉折縁皿	(112)	(56)		18	(105)	(56)	11	灯明皿転用、見込軸剥ぎ、見込輪トチ痕	瀬戸・美濃	
589	88	51		D-9	陶器	灰釉輪花皿	(116)	(60)		27	(111)	(66)	(20)		瀬戸・美濃	
590	88	51		F-1	陶器	灰釉端反皿	(90)	49		24	(86)	52	17	灯明皿転用、見込印花文	瀬戸・美濃	
591	88	51		H-7	陶器	灰釉折縁皿	(116)	(58)		23	(108)	(64)	14	見込・高台内露胎	瀬戸・美濃	
592	88	51		J-3	陶器	灰釉折縁ソギ中皿	(144)	(78)		26	(138)	(90)	(18)	見込軸剥ぎ、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
593	88	51		M-2	陶器	灰釉折縁皿	(98)	(52)		25	(96)	(50)	(18)		瀬戸・美濃	
594	88	51	SD33	-	陶器	鉄釉丸皿	(103)	(55)		18	(100)	(56)	12	見込・高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
595	88	51	SK295	C-1・2	陶器	鉄釉丸皿	(100)	-		[21]	(98)	-	-		瀬戸・美濃	
596	88	51	SK909	N-2	陶器	鉄釉折縁皿	(104)	(46)		24	(101)	(58)	16	見込軸剥ぎ、高台内輪トチ痕	瀬戸・美濃	
597	88	51	SK177	C・D-7	陶器	志野皿	(140)	-		[28]	(138)	-	-	高台露胎	瀬戸・美濃	
598	88	51	SK288	B-1	陶器	志野菊皿	(124)	(84)		24	(121)	(81)	(17)		瀬戸・美濃	
599	88	51	SK295	C-1・2	陶器	志野端反皿	(116)	(58)		25	(106)	(62)	17	灯明皿転用	瀬戸・美濃	
600	88	51	SK382	D-2	陶器	志野端反皿	(122)	(72)		22	(116)	(73)	(14)		瀬戸・美濃	
601	88	51	SK522	F-5	陶器	志野丸皿	(118)	-		[22]	(114)	(67)	-		瀬戸・美濃	
602	88	52	SK941	M・N-1・2	陶器	志野菊皿	(122)	(60)		25	(119)		(18)		瀬戸・美濃	
603	88	65	SK1183	L・M-2	陶器	志野菊皿	126	68		31	123		22	灯明皿転用	瀬戸・美濃	
604	88	52		I-3	陶器	志野端反皿	(140)	(86)		28	(134)	(82)	(21)		瀬戸・美濃	
605	88	52	SD185	A-5	陶器	志野織部鉄絵丸皿	(110)	-		[20]	(108)	-	-		瀬戸・美濃	
606	89	52	SK56	B・C-8	陶器	灰釉緑釉流鉢	(295)	(145)		72	(265)		(63)	+ SK165	瀬戸・美濃	
607	89	52	SE536	H-4	陶器	灰釉鉢	-	(122)		[40]	-		[30]		瀬戸・美濃	
608	89	52	SK604	J-3	陶器	灰釉鉢	-	-		[41]	(270)		-		瀬戸・美濃	
609	89	52	SK1054	L-3	陶器	鉄釉鉢	-	(150)		[28]	-		[16]		瀬戸・美濃	
610	89	52	SK1228	I-8	陶器	鉄釉鉢	(260)	(136)		41	(252)		[35]		瀬戸・美濃	
611	89	54	SK644	K-5	陶器	絵志野鉢	-	-		-	-		-		瀬戸・美濃	
612	89	54	SK122	A-6	陶器	志野向付	-	(62)		[20]	-		[4]	見込に輪トチ痕	瀬戸・美濃	
613	89	54	SK602	J-4	陶器	絵志野鉢	-	-		-	-		-	611同一又は揃	瀬戸・美濃	
614	89	54	SK648	L-5	陶器	絵志野鉢	(279)	-		(27)	(272)		-	611・613同一又は揃	瀬戸・美濃	
615	89	54	SK699	K-3	陶器	絵志野鉢	(280)	-		(19)	(273)		-	611・613・614同一又は揃	瀬戸・美濃	
616	90	53	SE29	E-7	陶器	天目茶碗	-	(49)		[32]	-		[20]		瀬戸・美濃	
617	90	53	SK34	B-8	陶器	天目茶碗	(113)	-	(109)	[27]	(109)		(94)	-	瀬戸・美濃	
618	90	53	SK187	B-5・6	陶器	白天目茶碗	(114)	-	(108)	[48]	(111)		(102)	-	瀬戸・美濃	
619	90	53	SK360	D-2	陶器	天目茶碗	(106)	-	(104)	[50]	(103)		(93)	-	瀬戸・美濃	
620	90	53	SE403	D-3	陶器	灰釉天目茶碗	-	(50)		[18]	-		-	[8]	瀬戸・美濃	
621	90	53	SK454	E-5	陶器	天目茶碗	-	37		[17]	-		-	[6]	瀬戸・美濃	
622	90	53	SK697	J・K-3	陶器	天目茶碗	(122)	-	(118)	[46]	(119)		(110)	-	瀬戸・美濃	
623	90	53	SK697	J・K-3	陶器	天目茶碗	(118)	-	(114)	[47]	(116)		(105)	-	瀬戸・美濃	
624	90	53	SK941	M・N-1・2	陶器	天目茶碗	(121)	-	(117)	[46]	(119)		(110)	-	瀬戸・美濃	
625	90	53	SK959	M-3	陶器	天目茶碗	(106)	-	(104)	[53]	(104)		(94)	-	瀬戸・美濃	
626	90	53	SK1028	L-2	陶器	天目茶碗	(120)	-	(118)	[44]	(117)		(107)	-	瀬戸・美濃	
627	90	53	SK1154	N-2	陶器	天目茶碗	(125)	-	(122)	[64]	(123)		(110)	-	瀬戸・美濃	
628	90	53	SK1164	F・G-8	陶器	天目茶碗	(124)	-	(120)	[46]	(121)		(109)	-	瀬戸・美濃	
629	90	53	SK1191	J-8	陶器	天目茶碗	(104)	-		[51]	(100)		-		瀬戸・美濃	
630	90	53	SK65	A-8	陶器	釉膚碗	(120)	-		[36]	(115)		-		瀬戸・美濃	
631	90	53	SK788	H-5	陶器	鉄釉碗	(118)	45		58	(114)		45		瀬戸・美濃	

第17表 陶磁器計測表(3)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸			備 考	産地等	
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径			深さ
632	90	53	ST944	M-1・2	陶器	鉄 釉 碗	(120)	-	-	[44]	(115)	-	-		瀬戸・美濃	
633	90	65	SK56	C-7・8	陶器	志野半筒茶碗	95	-	97	[48]	92	(89)	-		瀬戸・美濃	
634	90	53	SK434	C-5	陶器	鉄 釉 茶 碗	(104)	-	(122)	[64]	(102)	(113)	-		瀬戸・美濃	
635	90	53	SE692	H-2	陶器	黄瀬戸向付	(119)	(72)	(122)	54	(115)	(112)	(115)	47	被熱	瀬戸・美濃
636	90	53	SK644	K-5	陶器	黒織部沓茶碗	-	(60)	(138)	[32]	-	(122)	(124)	[19]		瀬戸・美濃
637	90	53	SK906	N-1・2	陶器	黒織部沓茶碗	-	62	-	[29]	-	-	-	[12]		瀬戸・美濃
638	90	65	SK702	K-3	陶器	鉄釉半筒茶碗	-	70	(121)	[58]	-	-	-	[45]	+ SK552・SK750・SK780	瀬戸・美濃
639	90	53	SK913	N-2	陶器	黒織部沓茶碗	-	-	-	-	-	-	-	-		瀬戸・美濃
640	91		SK165	C-7	陶器	灰 釉 碗	-	(49)	-	[36]	-	(71)	-	-	畳付露胎	瀬戸・美濃
641	91	65	SK702	K-3	陶器	灰釉緑釉流碗	(110)	48	-	73	(106)	67	-	53	畳付露胎	瀬戸・美濃
642	91	65		H-3	陶器	灰 釉 碗	(122)	48	-	81	(118)	66	-	60	畳付露胎	瀬戸・美濃
643	91	54	SD185	B-6	陶器	志 野 向 付	-	-	-	[19]	-	-	-	-		瀬戸・美濃
644	91	65	SD33	B-8	陶器	御深井釉向付	[150]	-	-	42	[148]	-	-	26	RP 4、外内面3ヶ所に円錐ピン跡、内面布目	瀬戸・美濃
645	91	65	SD33	B-8	陶器	御深井釉向付	[138]	-	-	40	[136]	-	-	26	RP 4、644揃、外面3ヶ所に円錐ピン跡	瀬戸・美濃
646	91	54	SE55	B-8	陶器	志 野 向 付	(120)	-	-	[18]	(115)	(104)	-	-		瀬戸・美濃
647	91	54	SK432	C・D-5	陶器	織 部 向 付	(73)	-	-	[29]	(65)	-	-	-	外面布目	瀬戸・美濃
648	91	54	SD461	F-5	陶器	志 野 向 付	(106)	(55)	-	23	(102)	(90)	-	(16)		瀬戸・美濃
649	91	54	SK56	C-7・8	陶器	志野織部向付	-	-	-	[12]	-	(85)	-	-		瀬戸・美濃
650	91	54	SK186	C・D-6・7	陶器	鉄 釉 小 杯	(62)	(27)	(60)	25	(60)	(51)	(20)	-	高台脇露胎	瀬戸・美濃
651	91	54	SK788	H-5	陶器	志 野 小 杯	(70)	(41)	-	31	(67)	-	(25)	-	腰以下露胎	瀬戸・美濃
652	91	54	SP480	D-2	陶器	青織部向付	(109)	-	-	[27]	(107)	(58)	-	(26)	口縁以下露胎	瀬戸・美濃
653	91	54	SD544	H・I-5	陶器	御深井釉香炉	(96)	(94)	-	41	(86)	(80)	(87)	28	底径本体、底部露胎	瀬戸・美濃
654	91	54	SK1027	L-2	陶器	志 野 小 杯	-	(40)	-	[16]	-	(49)	-	-		瀬戸・美濃
655	92	54	SE860	F・G-7	陶器	絵志野向付	-	-	-	30	-	-	-	(17)		瀬戸・美濃
656	92	54		E-6	陶器	絵志野向付	-	-	-	-	-	-	-	-		瀬戸・美濃
657	92	54		G-7	陶器	絵志野向付	-	-	-	35	-	-	-	(23)		瀬戸・美濃
658	92	54	ST944	M-1・2	陶器	絵志野向付	-	(106)	-	[42]	-	(90)	-	-		瀬戸・美濃
659	92	54		H-5	陶器	織 部 向 付	-	-	-	-	-	-	-	-		瀬戸・美濃
660	92	54		I-3	陶器	青織部向付	-	-	(98)	[39]	-	(84)	-	-		瀬戸・美濃
661	92	65		X-0	陶器	絵志野向付	(138)	-	(160)	[28]	(128)	(149)	-	-		瀬戸・美濃
662	92	54	SK906	N-1・2	陶器	青織部向付	-	-	-	[30]	-	-	-	-	662~665同一又は揃	瀬戸・美濃
663	92	54	SK1028	L-2	陶器	青織部向付	-	(62)	-	[14]	-	-	-	-	高台脇露胎	瀬戸・美濃
664	92	54	SK1054	L-3	陶器	青織部向付	-	(54)	-	[15]	-	-	-	-	高台脇露胎	瀬戸・美濃
665	92	54	SK1055	L-3	陶器	青織部向付	-	-	-	[39]	-	-	-	(35)		瀬戸・美濃
666	92	65	SK995	L-1	陶器	青織部水注	69	-	87	[71]	64	-	77	-		瀬戸・美濃
667	92	54	SK975	M-3	陶器	掛け分け香炉	-	(82)	(100)	[34]	-	(80)	-	-	外面鉄釉内面御深井釉掛け分け、底部露胎	瀬戸・美濃
668	92	54	SE435	D・E-5	陶器	灰 釉 瓶	-	(62)	-	[45]	-	(53)	-	-	底部・内面露胎	瀬戸・美濃
669	92	54	SK139	C-7・8	陶器	古瀬戸灰釉瓶子	-	(122)	-	[87]	-	(86)	-	-	底部・内面露胎	瀬戸・美濃
670	93	66	SD185	B-6	陶器	唐津灰釉皿	116	46	-	41	114	56	-	25	灯明皿転用、口縁以下露胎、胎土目	唐津
671	93	66	SK56	C-7・8	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(132)	47	-	31	(126)	68	-	18	灯明皿転用、外面下半露胎、砂目	唐津
672	93	55	SK122	A-6	陶器	唐津灰釉輪花皿	(108)	(45)	-	33	(105)	(63)	-	23	灯明皿転用、高台脇露胎、胎土目	唐津
673	93	66	SK122	A-6	陶器	唐津灰釉輪花皿	(128)	56	-	36	(125)	60	-	26	高台脇露胎、胎土目	唐津
674	93	55	SK165	C-7	陶器	唐津刷毛目皿	(140)	-	-	[23]	(136)	-	-	-		唐津
675	93	55	SK187	B-5・6	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(126)	(49)	-	24	(120)	(82)	-	(14)	口縁以下露胎、砂目	唐津
676	93	66	SK187	B-5・6	陶器	唐津灰釉溝縁皿	121	47	-	30	116	84	-	19	口縁以下露胎、砂目	唐津
677	93	55	SK188	B-5	陶器	唐津灰釉皿	(124)	(46)	-	29	(122)	(80)	-	(19)	被熱?、外面下半露胎	唐津
678	93	55	SK188	B-5	陶器	唐津灰釉皿	(126)	(39)	-	35	(124)	(76)	-	(23)	高台脇露胎、高台被熱、砂目	唐津
679	93	55	SK208	C-6	陶器	絵 唐 津 皿	-	40	-	[21]	-	-	-	-	高台脇露胎	唐津
680	93	55	SK288	B-1	陶器	絵 唐 津 皿	(132)	(43)	-	36	(130)	-	-	(21)	高台脇露胎	唐津
681	93	55	SK333	D-4	陶器	唐津灰釉皿	(116)	(44)	-	31	(113)	(70)	-	20	口縁以下露胎、胎土目	唐津
682	93	66	SE370	D-4	陶器	唐津灰釉皿	(120)	45	-	31	(118)	67	-	19	灯明皿転用、口縁以下露胎、胎土目	唐津
683	93	55	SE390	D・E-1・2	陶器	唐津灰釉皿	(126)	42	-	37	(122)	73	-	27	外面下半露胎、見込釉切れ、胎土目	唐津
684	93	66	SK502	F-4	陶器	唐津灰釉皿	(110)	45	-	30	(107)	48	-	18	高台脇露胎	唐津
685	93	66	SK522	F-5	陶器	唐津灰釉輪花皿	(120)	48	-	33	(114)	51	-	24	高台脇露胎、胎土目	唐津
686	93	66	SK547	H・I-5	陶器	唐津灰釉皿	(118)	41	-	33	(116)	-	-	17	外面下半露胎	唐津
687	93	55	SK552	I-5	陶器	絵 唐 津 皿	(135)	50	-	45	(132)	-	-	31	高台脇露胎	唐津
688	93	55	SK611	J-3	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(128)	(49)	-	34	(126)	(78)	-	(20)	高台脇露胎、砂目	唐津
689	93	55	SK780	I-5	陶器	絵 唐 津 皿	-	49	-	[17]	-	-	-	-	高台脇露胎	唐津
690	94	56	SK786	H・I-5	陶器	唐津灰釉皿	(100)	(31)	-	30	(97)	(66)	-	22	高台脇露胎	唐津
691	94	56	SK788	H-5	陶器	唐津灰釉皿	(112)	50	-	25	(105)	(71)	-	15	高台脇露胎、胎土目	唐津
692	94	56	SP791	H-5	陶器	唐津灰釉皿	(107)	34	-	24	(104)	(65)	-	17	被熱?、外面下半露胎	唐津
693	94	56	SK938	L・M-1	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(120)	-	-	[23]	(117)	(77)	-	(14)	外面下半露胎、砂目	唐津
694	94	66	SK940	L・M-1・2	陶器	唐津灰釉溝縁皿	122	41	-	28	117	-	-	17	被熱?、外面下半露胎、砂目	唐津

第18表 陶磁器計測表(4)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸				備 考	産地等
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
695	94	66	SK1075	L-3・4	陶器	唐津灰釉皿	(118)	42		35	(114)	62		24	外面下半露胎、見込袖切れ、胎土	唐津
696	94	56	SK1183	L・M-2	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(130)	(46)		26	(125)	(88)		20	被熱?、外面下半露胎	唐津
697	94	56	SK1183	L-2	陶器	唐津灰釉溝縁皿	(126)	39		31	(122)	(88)		21	RP186、被熱?、外面下半露胎	唐津
698	94	66	SD1227	I-8	陶器	唐津灰釉溝縁皿	129	50		31	123			19	口縁以下露胎、砂目	唐津
699	94	56	SK1243	H-8	陶器	唐津灰釉皿	(114)	(45)		33	(111)	(76)		24	高台胎露胎	唐津
700	94	66		A-4	陶器	絵唐津皿	(123)	43		38	(121)	82		27	高台胎露胎、胎土目	唐津
701	94	56		A-4	陶器	唐津灰釉輪花皿	(130)	(51)		39	(127)	(100)		(26)	高台胎露胎、胎土目	唐津
702	94	56		C-8	陶器	絵唐津皿	-	(41)		[14]	-	-		-	高台胎露胎	唐津
703	94	56		M-3	陶器	絵唐津皿	(152)	50		43	(149)	(86)		24	畳付・高台内露胎、胎土目	唐津
704	94	56	ST1190	L・M-2・3	陶器	絵唐津大皿	-	(123)		[29]	-	-		-	高台胎露胎、胎土目	唐津
705	94	56	SK1101	K-3	陶器	唐津灰釉鉢	-	(76)		[41]	-	-		-	高台胎露胎、胎土目	唐津
706	94	56		K-3	陶器	唐津鉢	(134)	-	(137)	[41]	(132)		(129)	-	高台胎露胎	唐津
707	95	57	SD191	B-6	陶器	唐津鉄釉碗	(96)	(46)		71	(94)			59	高台胎露胎	唐津
708	95	57	SK137	D-7	陶器	唐津灰釉碗	-	(56)	(120)	[60]	-		112	-	腰以下露胎	唐津
709	95	57	SK463	F-5	陶器	唐津鉄釉碗	(106)	[43]		[62]	(103)			53	高台胎露胎	唐津
710	95	57	SK677	J-3	陶器	唐津鉄釉碗	(109)	(42)		68	(106)			58	外面下半露胎	唐津
711	95	57	SK774	K・L-6	陶器	唐津灰釉碗	(106)	(46)		66	(103)			55	被熱、腰以下露胎	唐津
712	95		SK191	J-8	陶器	唐津灰釉碗	-	(38)		[56]	-			-	外面下半露胎	唐津
713	95	57	SK909	N-2	陶器	唐津鉄釉碗	-	(47)		[45]	-			-	RP170、高台胎露胎	唐津
714	95		SK1026	L-2	陶器	絵唐津碗	-	47		[23]	-			-	高台胎露胎	唐津
715	95			G-6	陶器	唐津灰釉碗	-	35		[32]	-			-	腰以下露胎	唐津
716	95	57	SK1197	K-9	陶器	絵唐津沓茶碗	-	-		-	-			-		唐津
717	95	57	SK187	B-5・6	陶器	三島唐津水指	(146)	-		[48]	(136)			-	+ SK188	唐津
718	95	57	SK941	M・N-1・2	陶器	絵唐津沓茶碗	(184)	(57)	(171)	62	(176)	(93)	(160)	49	高台内露胎	唐津
719	95	57	SK177	C・D-7	陶器	三島唐津鉢	(250)	84	(224)	70	(246)		(216)	45	+ SK182・186・204、畳付露胎	唐津
720	95	57	SK177	C・D-7	陶器	三島唐津鉢	(226)	-	(203)	[42]	(222)	-	(194)	-	719揃	唐津
721	96		SK295	C-1・2	陶器	唐津灰釉壺	-	(95)	-	[96]	-	(80)	-	-	袖子溝、腰以下・内面露胎、内面輪轍み痕・青海波7テ	唐津
722	96		SK295	C-1・2	陶器	唐津徳利	-	(90)	-	[26]	-	(76)	-	-	朝鮮系?、内外面露胎	唐津
723	96	57	SK295	C-1・2	陶器	唐津鉄釉徳利	-	(82)	(125)	[51]	-	(100)	(99)	-	全面施釉、内面青海波アテ	唐津
724	96	57	SE536	H-4	陶器	唐津灰釉徳利	(54)	-	-	[42]	(58)	-	-	-		唐津
725	96	66	SK648	L-5	陶器	唐津鉄釉徳利	(71)	-	-	[105]	(66)	-	-	-	全面施釉	唐津
726	96		SK1027	L-2	陶器	唐津鉄釉徳利	-	124	-	[22]	-	(106)	-	-	底部露胎	唐津
727	96	57	SK11	E-7・8	陶器	唐津鉄釉水注	(72)	-	(99)	[36]	(69)	-	(88)	-		唐津
728	96		SK948	L・M-2	陶器	長石釉皿	-	(61)		[24]	-	-		-	畳付露胎	瀬戸・美濃?
729	96	66	SE212	D-7	陶器	灰釉碗	(98)	41	(98)	54	(96)		(91)	41	高台際露胎	相馬
730	96		SK940	L・M-1・2	陶器	青磁釉香炉	(66)	-	70	[65]	(60)		(62)	-		
731	96		SD33	B-8	陶器	唐津呉須絵皿	-	-	-	[34]	-	-	-	-	+ SK34、底部付近露胎	唐津
732	96	66	SK909	N-2	陶器	鉄釉花瓶	80	-	(98)	[143]	72		(88)	-	RP128、内面頸部以下露胎	
733	96		SK187	B-5・6	陶器	鉄釉茶入	-	(52)	-	[31]	-	(38)	-	-	底部露胎、内面露胎	
734	96		SK789	H-5	陶器	鉄釉茶入	-	(54)	(72)	[47]	-	-	(60)	-	内面露胎	
735	96		SK940	L・M-1・2	陶器	茶入	-	(53)	-	[20]	-	(35)	-	-	残存部露胎	
736	96		SK186	C・D-6・7	陶器	鉄釉双耳壺	-	-	(98)	[49]	-	-	(89)	-	内面袖切れ	
737	96	62	SK206	B・C-6	陶器	水指	-	-	-	[29]	-	-	-	-		伊賀
738	97	62	SD33	B-8	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	RP 5	
739	97	62	SX360	D-2	陶器	甕	-	-	-	-	-	-	-	-	内外面自然釉	
740	97	62	SK1055	L-3	陶器	茶壺	-	-	-	-	-	-	-	-	外面自然釉	信楽
741	97	62	SK369	D-3	陶器	壺	-	(122)	-	[30]	-	(94)	-	-	底部静止糸切、内面灰被	珠洲
742	97	62	SD33	B-9	陶器	灰釉甕	-	(158)	-	[96]	-	(128)	-	-	釉擦指痕、底部回転糸切	信楽
743	97	62	SE370	D-4	陶器	甕	-	(116)	-	[93]	-	(80)	-	-	底部砂目、内面刷毛目	
744	97	63	SK948	L・M-2	陶器	茶壺	-	(148)	-	[98]	-	(110)	-	-	+ SK1026・1183	信楽
745	98	63	SK36	B-8	陶器	甕	-	(233)	-	[73]	-	(216)	-	-	+ SK200・780、内外面自然釉	
746	98	63	SD33	B-8	陶器	甕	-	(206)	-	[61]	-	(165)	-	-	+ SK187、内面自然釉	
747	98	63	SK292	C-6	陶器	甕	-	(244)	-	[51]	-	(203)	-	-	内面自然釉	
748	98	63	SK261	D-6	陶器	甕	-	(204)	-	[60]	-	(160)	-	-	内面灰被	
749	98	63	SE403	D-3	陶器	壺	-	(170)	-	[57]	-	(166)	-	-		
750	99		SE392	D・E-2	陶器	鉄釉播鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	7mmで3本の卸目	瀬戸?
751	99		SK443	E-5	陶器	無釉播鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	17mmで6本の卸目	備前
752	99		SK913	N-2	陶器	無釉播鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	19mmで5本の卸目、口唇沈線	越前
753	99		SD33	B-8	陶器	播鉢	-	(106)		[68]	-	-	-	-	RP 6、34mmで10本の卸目、底部胎指痕	
754	99	64	SK909	N-2	陶器	播鉢	312	107	128	294			110		RP102・130、口縁外面鉄釉、底部胎指痕	
755	100	64		H-3	陶器	無釉播鉢	320	110	157	300			138		底部胎指痕	
756	100		SD276	A・B-4	陶器	播鉢	-	100		[53]	-	-	-	-	+ SK340、22mmで9本の卸目、底部胎指痕	
757	100			D-8	陶器	播鉢	-	(148)		[79]	-	-	-	-	25mmで8本の卸目、底部胎指痕	

第19表 陶磁器計測表(5)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸				備 考	産地等
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
758	101	59	SD185	B-6	磁器	青花碗	(121)	-		[22]	(119)					中国
759	101	59	SK232	B-5・6	磁器	青花碗	-	48		[38]	-			-	畳付露胎	中国
760	101	58	SD272	C-2	磁器	青花碗	116	50	43	114	52		32	+ SK310、畳付露胎		中国
761	101	59	SD327	C-4	磁器	青花碗	-	(43)		[21]	-	(42)		-	畳付露胎・砂目	中国
762	101	59	SK388	D-3	磁器	青花碗	(130)	-		[44]	(129)			-		中国
763	101	59	SE693	H-1	磁器	青花端反碗	(112)	-		[35]	(109)			-		中国
764	101	59	SE693	H-1	磁器	青花端反碗	(110)	-		[32]	(105)			-		中国
765	101	59	SK1053	K・L-3	磁器	青花碗	(128)	-		[44]	(127)			-		中国
766	101	59		X-0	磁器	青花鉢	(120)	-		[20]	(116)			-		中国
767	101	59	SK200	B-6	磁器	青花小杯	-	(30)		[26]	-			-	畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国
768	101	67	SK362	D-6	磁器	染付鉢	-	60		[46]	-	77		-	+ SD 9 E-8、畳付露胎・砂目	肥前
769	101	58	SD 9	-	磁器	染付碗	(110)	(40)		56	(109)	(60)		43	畳付露胎	肥前
770	101	59	SD41	C-7	磁器	染付碗	(95)	(38)		72	(93)		(62)		+ SK188、畳付露胎	肥前
771	101	67	SD33	B-8	磁器	白磁碗	114	(46)		65	112			45	+ SK56、畳付露胎	肥前
772	101	58	SK187	B-5・6	磁器	染付碗	-	41		[53]	-	(52)		-	畳付露胎	肥前
773	101	67	SK188	B-5	磁器	染付碗	100	43		63	98	52		49	畳付露胎	肥前
774	101	67	SK188	B-5	磁器	染付碗	-	50		[53]	-	65		-	畳付露胎	肥前
775	101	67	SK188	B-5	磁器	染付碗	(114)	50		59	(113)			48	畳付露胎・砂目	肥前
776	102	67	SK909	N-2	磁器	染付碗	-	48		[43]	-			-	RP116、畳付露胎	肥前
777	102	67	SK948	L・M-2	磁器	染付碗	107	45		68	104			56	高台軸切れ、畳付・高台内露胎	肥前
778	102	67	SK955	M-2	磁器	古九谷碗	89	-		[52]	86	(66)		-		肥前
779	102	58	SK009	L-2	磁器	染付碗	(98)	(41)		56	(96)			42	畳付露胎・砂目	肥前
780	102	67	SK1183	L・M-2	磁器	白磁碗	116	49		71	115	64		51	口紅、畳付露胎・砂目	肥前
781	102	67	SK1183	L・M-2	磁器	染付碗	(112)	44		68	(110)			51	高台軸切れ、畳付・高台内露胎	肥前
782	102	58	SK143	B-5	磁器	染付碗	(98)	(50)		68	(96)	(60)		56	畳付露胎・砂目	肥前
783	102	59	SD185	B-6	磁器	青花端反皿	-	(61)		[26]	-	(89)		-		中国
784	102	59	SD33	B-7	磁器	青花皿	-	(79)		[15]	-	-		-	畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国
785	102	59	SD41	C-8	磁器	青花皿	-	(82)		[12]	-	(90)		-	畳付露胎	中国
786	102	59	SE119	A・B-7	磁器	青花端反皿	(121)	(61)		29	(116)	(84)		19	被熱	中国
787	102	59	SK186	C・D-6・7	磁器	青花丸皿	(152)	-		[27]	(150)	-		-		中国
788	102	58	SK143	C-7	磁器	青花端反皿	137	76		37	135	76		27	+ SK188、畳付露胎、高台内砂目	中国
789	102	59	SK208	C-6	磁器	青花皿	-	(64)		[11]	-	(68)		-	畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国
790	102	59	SK208	C-6	磁器	青花丸皿	(110)	-		[22]	(108)	-		-		中国
791	102	59	SX360	D-2	磁器	青花皿	-	(70)		[7]	-	-		-	畳付露胎、高台内砂目	中国
792	102	59	SK362	D-6	磁器	青花丸皿	(108)	(61)		21	(107)	(72)		(14)	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
793	103	61	SK295	C-1・2	磁器	青花輪花皿	(132)	82		30	(130)	90		24	793=795同一又は揃、畳付露胎・砂目	中国
794	103	60	SK295	C-1・2	磁器	青花輪花皿	-	(80)		[13]	-	(90)		-	畳付露胎・砂目	中国
795	103	60		C-1	磁器	青花輪花皿	-	(73)		[15]	-	(80)		-	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
796	103	60	SK460	C-4	磁器	青花皿	-	-		-	-	-		-		中国
797	103	60	SK369	D-3	磁器	青花丸皿	(106)	(40)		22	(104)	(70)		15	碁笥底、畳付露胎	中国
798	103	60	SK548	H-4	磁器	青花丸皿	(144)	-		[31]	(141)	(82)		(28)		中国
799	103	60	SK552	I-5	磁器	染付丸皿	(130)	(64)		27	(127)	(86)		(12)	畳付露胎、見込蛇の目軸剥ぎ	肥前
800	103	60	SK552	I-5	磁器	青花皿	-	(74)		[16]	-	-		-	高台際軸切れ、畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国
801	103	60	SK522	F-5	磁器	青花丸皿	(108)	(69)		26	(107)	(80)		(21)	畳付露胎	中国
802	103	60	SK702	K-3	磁器	青花皿	-	(54)		[18]	-	-		-	畳付露胎、高台内軸切れ	中国
803	103	60	SK856	F-6	磁器	青花皿	-	(73)		[20]	-	(80)		-	畳付露胎	中国
804	103	60	SK214	D-6・7	磁器	青花丸皿	(130)	(79)		27	(128)	(98)		(19)	畳付露胎、高台内軸切れ	中国
805	103	60	SK941	M・N-1・2	磁器	青花皿	-	(48)		[12]	-	-		-	畳付露胎・砂目	中国
806	103	60	ST944	M-1・2	磁器	青花丸皿	(98)	(55)		28	(96)	(90)		18	畳付・高台内露胎、	中国
807	103	60	SK978	L・M-3	磁器	青花丸皿	(138)	(82)		34	(137)	(108)		(28)	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
808	103	60	SK987	M-4	磁器	青花皿	-	(60)		[22]	-	(60)		-	畳付露胎	中国
809	103	60	SK994	L-1	磁器	青花皿	-	(72)		[16]	-	(92)		-	畳付露胎・砂目	中国
810	103	60	SK994	L-1	磁器	青花皿	-	(55)		[11]	-	(60)		-	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
811	103	60	SP996	L-1	磁器	青花端反皿	(160)	-		[37]	-	(131)		-		中国
812	104	60	SK1026	L-2	磁器	青花丸皿	(100)	(55)		24	(98)	(61)		16	高台際軸切れ、畳付露胎	中国
813	104	60	SD1000	L-3	磁器	青花皿	-	(52)		[14]	-	(61)		-	畳付露胎、漆継ぎ痕	中国
814	104	60	SK1054	L-3	磁器	青花皿	-	-		-	-	-		-	碁笥底、畳付露胎	中国
815	104	60		A-4	磁器	青花皿	-	(87)		[15]	-	(106)		-	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
816	104	60		B-2	磁器	青花丸皿	(100)	(49)		28	(98)	(64)		18	陶胎?、高台軸切れ、畳付・高台内露胎	中国
817	104	60		C-1	磁器	青花皿	-	48		[20]	-	55		-	畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国
818	104	60		H-5	磁器	青花皿	-	(49)		[13]	-	(61)		-	畳付露胎・砂目、高台内放射状鈹痕	中国
819	104	60		D-4	磁器	青花皿	-	(111)		[22]	-	(130)		-	畳付露胎、高台内放射状鈹痕	中国

第20表 陶磁器計測表(6)

番号	挿図	図版	遺構	地区	種別	器種・名称等	外 寸				内 寸				備 考	産地等
							口径	底径	胴径	器高	口径	底径	胴径	深さ		
820	104	60		E-4	磁器	青花皿	-	(36)		[19]	-	-	-	碁笥底、底部露胎	中国	
821	104	60		X-0	磁器	青花皿	-	(65)		[20]	-	(90)	-	碁笥底、疊付露胎	中国	
822	104	60	SE359	D-2	磁器	青花角皿	-	-		[12]	-	-	-	疊付露胎	中国	
823	104	60	SK941	M・N-1・2	磁器	青花角皿	-	-		[23]	-	-	-	疊付露胎	中国	
824	104		SK1027	L-2	磁器	染付皿	(128)	(75)		31	(126)	(90)	(20)	疊付露胎	肥前	
825	104		SK600	J・K-4	磁器	染付丸皿	(120)	(50)		25	(118)	(89)	(17)	疊付露胎・砂目	肥前	
826	104	58		K-4	磁器	染付丸皿	(127)	84		31	(126)	(87)	22	疊付露胎・砂目	肥前(波佐見)	
827	105		SK940	L・M-1・2	磁器	染付鉢	(260)	(95)		62	(256)	(160)	(44)	疊付露胎	肥前	
828	105		SK165	C-7	磁器	染付鉢	(127)	(57)	(126)	56	(123)		(118)	(46)	疊付露胎・砂目	肥前
829	105	58	SK1317	H-9	磁器	染付鉢	-	60	(132)	[48]	-		(124)	-	疊付露胎・砂目	肥前
830	105		SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	(132)	(60)		59	(130)	(80)	(47)	疊付露胎	肥前	
831	105	58	SK905	N-1	磁器	染付徳利	(30)	-	-	[66]	(26)	-	-	-	内面頸部以下露胎	肥前
832	105	58		B-5	磁器	染付鉢	(114)	-	(115)	[68]	(114)	(94)	(106)	-	内面露胎	
833	105		SD41	C-8	磁器	染付向付	-	(64)	(94)	[18]	-	(80)	-	-	疊付露胎	肥前
834	105	58	SK1113	N-1	磁器	染付鉢	(202)	(105)		129	(196)			(117)	疊付・高台内・内面露胎	
835	105	58	SK100	C-7・8	磁器	染付花瓶	-	63		[49]	-	50	-	-	疊付露胎・砂目、内面露胎	
836	105	67	SD41	C-7	磁器	染付徳利	-	45	(71)	[58]	-		(63)	-	+SK183、疊付露胎・砂目、高台内砂目	
837	105	67	SD33	B-8	磁器	白磁仏飯器	-	44		[48]	-	47	-	-	器台露胎	
1221		68	SK904	M・N-1	陶器	湯呑	61	37		70	51	44	60		疊付釉剥ぎ	相馬
1222		68	SK904	M・N-1	陶器	鉄釉小杯	67	30		43	64		34		高台胎露胎	
1223		68	SK904	M・N-1	陶器	小杯	59	38		40	58	43	33		疊付釉剥ぎ	瀬戸美濃
1224		68	SK904	M・N-1	陶器	急須	72	53	75	64	59	68	71	58	本体の計測値	萬古
1225		61	SK904	M・N-1	陶器	汽車土瓶	40	57	68	81	33		78		本体の計測値、「鉄道局指定、金五銭」あいつ山	会津
1225		61	SK904	M・N-1	陶器	同湯呑	53	31		32	48	27	29		内面白釉	会津
1226		68	SK904	M・N-1	陶器	白釉片口鉢	173	78		99	156			82		平清水
1227		61	SK904	M・N-1	陶器	山水土瓶	(105)	-	(169)	[117]	(95)		(163)			益子
1228		61	SK904	M・N-1	陶器	山水土瓶	(102)	-	(164)	[107]	(91)		(158)		1227同一又は揃	益子
1229		68	SK905	N-1	陶器	井	162	76		78	158		64		高台胎露胎、蛇の目底	瀬戸美濃
1230		68	SK904	M・N-1	陶器	灰皿	(83)	142		56	82	136	53		長軸側を計測	相馬
1231		68	SK1009	L-2	陶器	呉須絵蓋付壺	165	113	196	172	155		182	163	疊付露胎	平清水
1232		68	SK904	M・N-1	陶器	海鼠釉火鉢	-	(268)	[376]	[214]	-		[363]	[155]	内面露胎	信楽
1239		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	113	38		62	112		46		印刷併用、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1240		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	117	37		56	116		46		印刷併用、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1241		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	104	36		53	102		39		型絵、下絵彩色、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1242		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	103	37		56	102		44		型絵併用、下絵彩色、高台内釉剥ぎ、蛇の目底	瀬戸
1243		69	SK904	M・N-1	磁器	上絵付碗	101	34		46	97		34		印刷併用、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1244		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	110	39		59	109		44		疊付釉剥ぎ	有田
1245		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	112	39		60	111		44		疊付釉剥ぎ	瀬戸
1246		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	113	39		62	112		46		1239と揃	瀬戸
1247		69	SK904	M・N-1	磁器	墨絵碗	108	46		59	107		43		印刷併用、疊付釉剥ぎ	有田
1248		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	102	30		55	101		43		上絵彩色、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1249		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	110	33		59	109		45		上絵彩色、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1250		69	SK904	M・N-1	磁器	染付碗	91	36		45	89		33		下絵彩色、疊付釉剥ぎ	有田
1251		69	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	116	49		54	114		43		疊付釉剥ぎ	瀬戸
1252		69	SK904	M・N-1	磁器	上絵付碗	98	32		46	95		38		型絵併用、高台内釉剥ぎ	瀬戸
1253		69	SK904	M・N-1	磁器	ティーカップ	78	36		61	77	38	56		上絵彩色、印刷併用、「東海硬質磁器」	
1254		69	SK904	M・N-1	磁器	上絵付茶碗	69	36		69	67	50	60		印刷併用、銘「九谷」	
1255		69	SK904	M・N-1	磁器	上絵付茶碗	63	32		64	62	40	54		印刷、疊付釉剥ぎ、「山形ミルケプラント 電八八五」	
1256		69	SK904	M・N-1	磁器	上絵付茶碗	64	35		53	62	34	49		印刷、「郡山市本三 松川屋菓子店 電七〇七番」	
1257		69	SK904	M・N-1	磁器	仏飯器	52	37		64	50	27	19		底部露胎	
1258		70	SK904	M・N-1	陶器	洋皿	182	99		21	180	120	18		下絵印刷、貫入、「NIPPON KOSHITSU TOKI Co」	
1259		70	SK904	M・N-1	磁器	ソーサー	133	87		21	130	43	16		上絵印刷、疊付無釉	
1260		70	SK904	M・N-1	磁器	染付皿	129	64		29	126		18		印刷併用、疊付釉剥ぎ	
1261		70	SK904	M・N-1	磁器	染付皿	93	44		25	91		15		疊付釉剥ぎ	
1262		70	SK904	M・N-1	磁器	染付蓋	102	38		26	100		13		印刷併用、疊付釉剥ぎ	
1263		70	SK904	M・N-1	磁器	下絵付皿	111	62		22	107		14		印刷、疊付釉剥ぎ	
1264		71	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	142	60		59	139		40		疊付釉剥ぎ	有田
1265		71	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	124	57	136	43	124		131	32	印刷併用、疊付釉剥ぎ、銘「喜祥」	瀬戸?
1266		71	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	153	61	154	165	151		147	50	印刷併用、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1267		71	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	139	53	141	73	135		133	50	疊付釉剥ぎ	瀬戸
1268		71	SK904	M・N-1	磁器	染付鉢	122	59		51	119		43		下絵彩色、疊付釉剥ぎ	瀬戸
1269		71	SK904	M・N-1	磁器	染付角皿		(164)		[45]				[24]	疊付釉剥ぎ	瀬戸



#### 4 土製品

##### a 瓦 (第106図 図版73 第21表)

瓦は酸化焰焼成で暗褐色の施釉がなされるものと燻焼されたものが出土している。前者は近現代、後者は三の丸にかかわる時期の所産と推定された。以下では燻焼の瓦を取り扱う。

瓦は調査区の全域に分布するが、特に北西部分のSE999を中心にまとまって出土している。胎土はきめが細かく灰白色を呈し、焼成はやや甘く割れ面が磨滅しているものが多い。表面の色調は明灰色から暗灰色で褐色みを帯びるものがある。種別には鐙瓦(838~840)、軒瓦(841~843)、女瓦(1289・1290)、男瓦(1291)がある。鐙瓦は三つ巴、軒瓦は唐草文の装飾がはいる。女瓦は表面に横方向のミガキ調整、裏面に縦方向のケズリ調整が観察される。また側面もミガキ調整される。男瓦は、タタキ整形痕を残す表面と側面および裏面の側縁部に縦方向のミガキ調整がはいる。裏面は布目痕を残すとともに、斜方向の粗いケズリ調整痕がみられる。844~857はSE999出土の女瓦の木口に打たれた刻印である。丸に点(844・846・852・853)、丸に十字形(845・851)、8弁の菊花形(847・848・854・856)、四角形(849)、分銅形(850)、3列3段の角点(855・857)の6種類の意匠が確認される。

##### b 金属生産関連遺物 (第107図 図版75・76 第22表~24表)

金属の生産に関連した土製品は坩堝、とりべ、鋳型、羽口が出土している。

坩堝は52点が出土した。この中には高温で被熱した痕跡があり、坩堝に転用された可能性をもつ器の破片が868をはじめ5点含まれる。ほかは砂を多く含む粗い粘土を用いて製作され、丸底の形態をもつもので、法量は個体によりまちまちである。内面および外面の側縁部は被熱し、スラグが付着するが、底部は被熱の痕跡が顕著ではなく、遺存状態は比較的良好である。

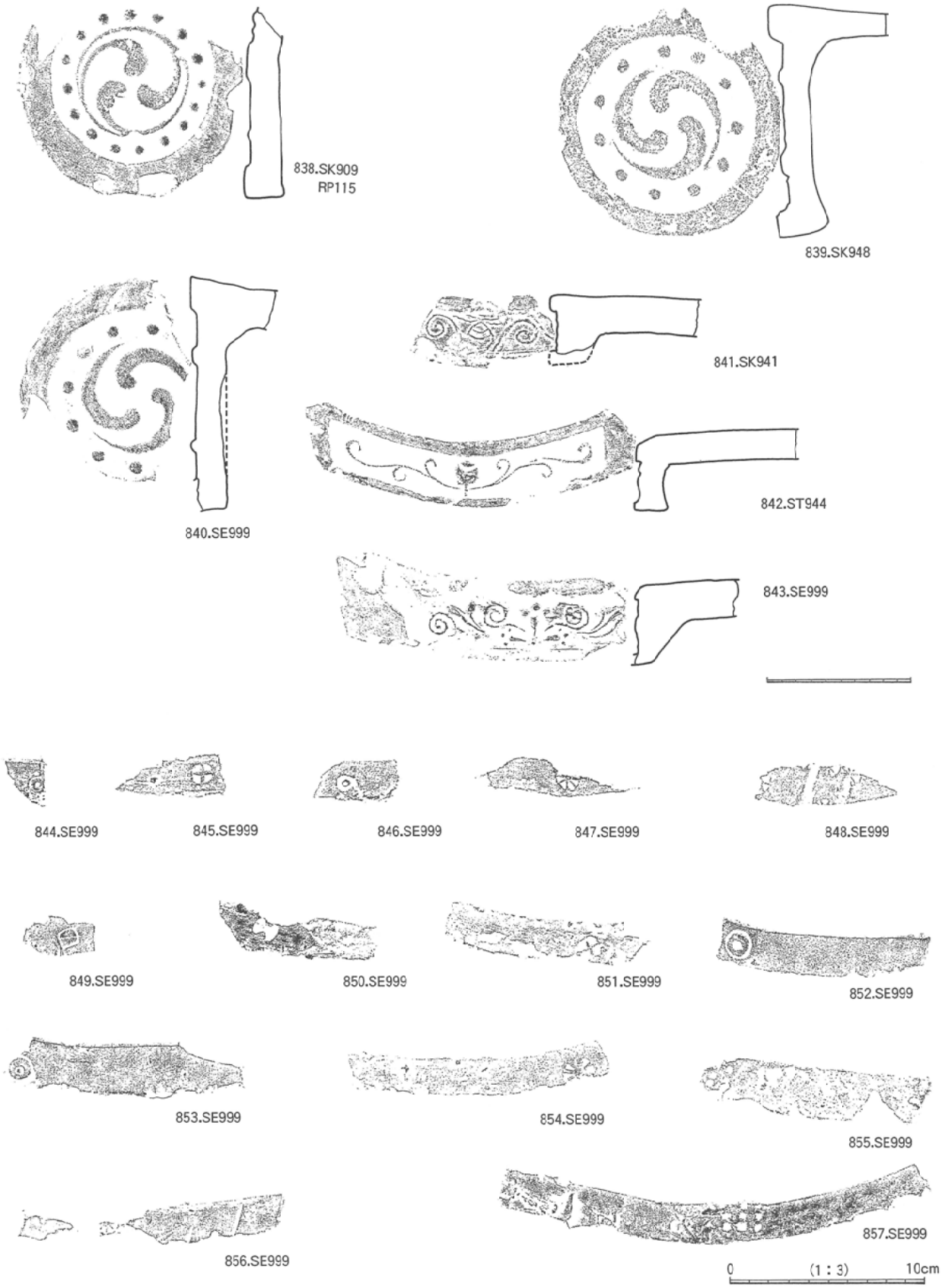
とりべはSK695から1点が出土した。半球形に作出された機能部に把手をつけた形態をもつ。砂粒をやや多く含む粘土を酸化焰焼成して製作されている。機能部の内面全体と外面の先端から約2/3には鉄とみられる金属が付着している。

鋳型としたものは、砂粒の多い粘土を酸化焰焼成して製作された平面形が半楕円形または一辺が長い六角形を呈する扁平な土製品である。平面形で直線となる部分以外に土手をまわし型とするが、1160は三つ葉様の型となる。何の鋳型となるかは不明である。被熱の痕跡が顕著にみられる。SK695から196点が出土したほか、分布調査でもやや大型のものが出土した。

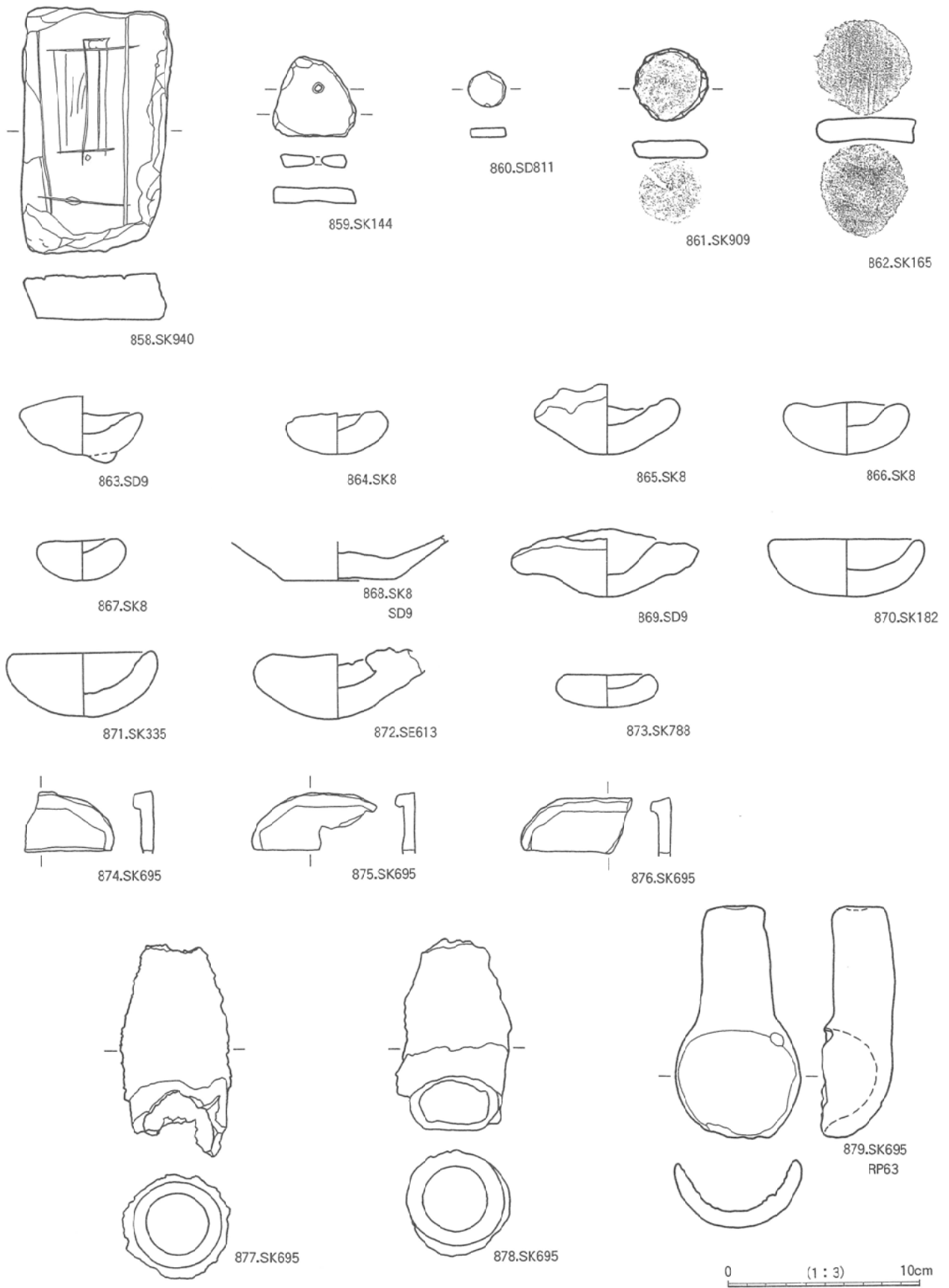
羽口は、砂粒のやや多い粘土を酸化焰焼成して製作された円筒形の土製品である。体部に比べて先端部がやや細い形態となる。SK695から主に出土している。完形となるものはなく、長さは不明であるが比較的良好な状態の877・878では外径50mm、厚さ8mm前後を測る。炉内にあった先端部分にはスラグの付着が顕著である。

##### c 転用土製品 (第107図 図版74 第25表)

858は女瓦の破片に線刻を施したものである。855は土師質土器の破片を三角形に打ち欠き角寄りの一か所を穿孔した土製品である。860~862・1128~1138は土器または陶磁器の破片の縁辺を円盤状に加工した土製品である。16点が出土した。大きさは個体によりまちまちで、縁辺部は打ち欠いたままのものと、一部あるいは全体を研磨するものがある。



第106図 瓦



第107図 土製品

## 5 石製品

### a 砥石（第108図 図版78・79 第26表）

砥石は44点が出土した。もとの形態は直方体と推定されるものがほとんどであるが、882は使用前から直方体とはならない。砥面は、1面（882・1193）、2面（884・885・1189・1191）、4面（880・881・883・886・887・1186・1188・1190・1192・1194）、5面（888・1187・1195・1196）、全面（889・890・1197）を使用するものがある。素材は凝灰岩が多く、粘板岩が若干用いられる。

### b 円盤状石製品（第109図 図版77 第26表）

扁平な石の縁辺部を打ち欠き、円盤状に加工した石製品である。33点が出土した。加工は縁辺部のみ研磨されるものと全面研磨されるものがある。また898・1178の加工は縁辺部を打ち欠いただけである。896・897・1180～1184は中央部が穿孔される。1179は白の基石と推定される。素材は主に凝灰岩が用いられる。

### c 温石（第109図 図版77 第26表）

899の1点が出土した。素材は粘板岩で被熱の痕跡が明瞭に残り、表面は磨滅が顕著である。

### d 硯（第109図 図版80 第26表）

硯は近現代のものも含めて16点が出土した。形態はいずれも長方形で、素材は粘板岩製である。色調は暗灰色と灰褐色を呈するものがある。

### e 石鉢（第110図～113図 図版81～85 第27表）

素材となる岩石に加工を施し、鉢状の機能面を作出した石製品を石鉢とした。26点が出土している。素材はいずれも安山岩である。法量は個体による差が大きいが、加工の状況により以下のように分類できる。

1類 素材となる岩石の全面を加工し、鉢形に成形したもの（907～913）。体部は直線的あるいは内彎ぎみに外傾し、口縁部および底部は平坦に加工される。法量的に大型となるものが多い。908・910には鑿による調整痕が明瞭に残る。また909には片口が作出される。907・911～913の内面は使用による磨滅が観察される。

2類 素材となる岩石の全面を加工するが、外面の体部中央が最大径となる、いわゆる玉形に成形されるもの（915・920・924・931）。本類も法量的に大型となる。924には内面に使用による磨滅が認められる。

3類 加工は機能面と底面に限られ、外面は自然面を大きく残しているもの。底部に敲打痕をもつa（914・917・921）と、底部にも抉り込みをもつb（918・922・927）がある。

4類 加工が機能面の作出に限られ、外面全体を自然面とするもの（916・919・923・925・926・928～930）。法量的には小型となる。

### f その他の石製品（第109図・114図・115図 図版81・85・86 第26表・27表）

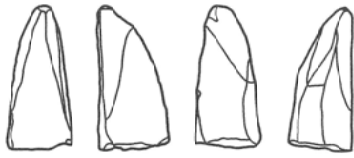
aからeの各石製品のほかに、薬研（909）、礎石（932）、石臼（933・934）、石塔笠（935・936）が出土している。932は上下面を平坦に、側面を算盤玉形に加工しており石鉢2類未成品転用の可能性がある。石臼はいずれも機能面に磨滅が観察される。



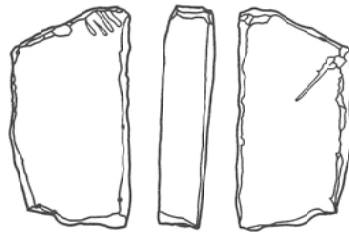
881.SK216



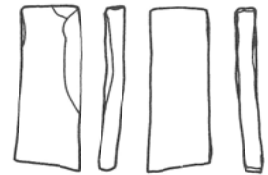
882.SE390



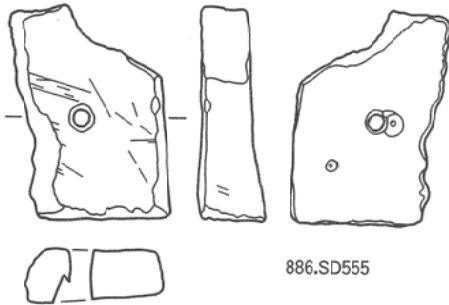
883.SK400



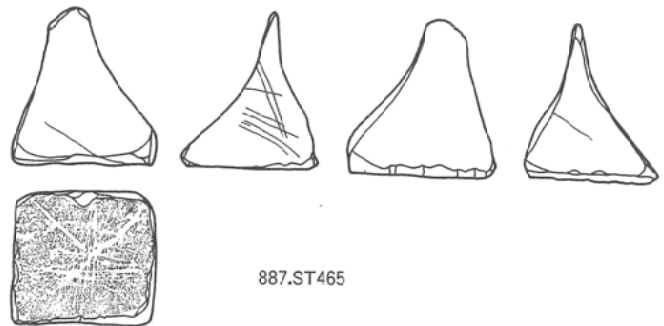
884.SK549



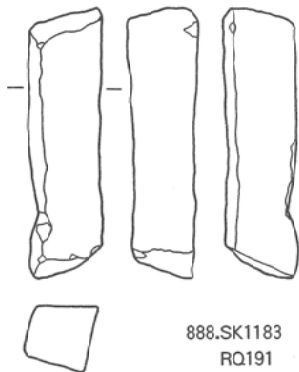
885.SK909



886.SD555



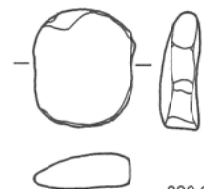
887.ST465



888.SK1183  
RQ191



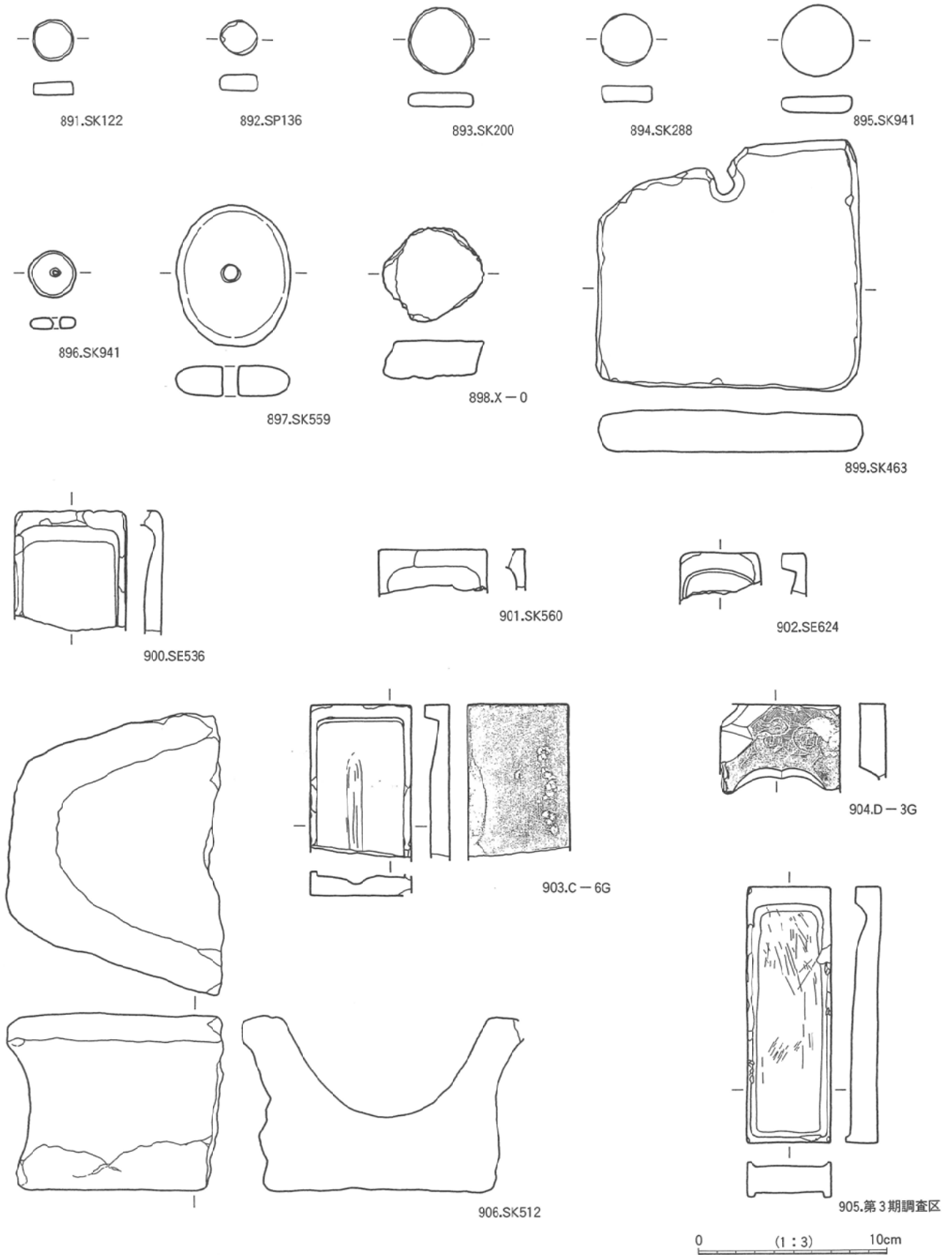
889.SK697



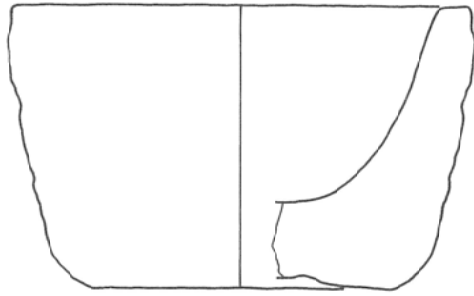
890.SE212

0 (1:3) 10cm

第108図 石製品(1)



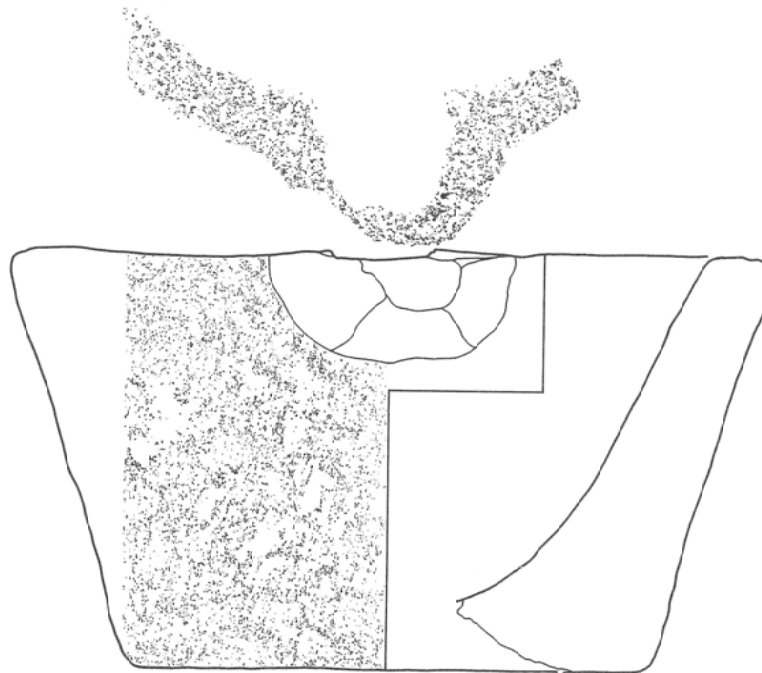
第109図 石製品(2)



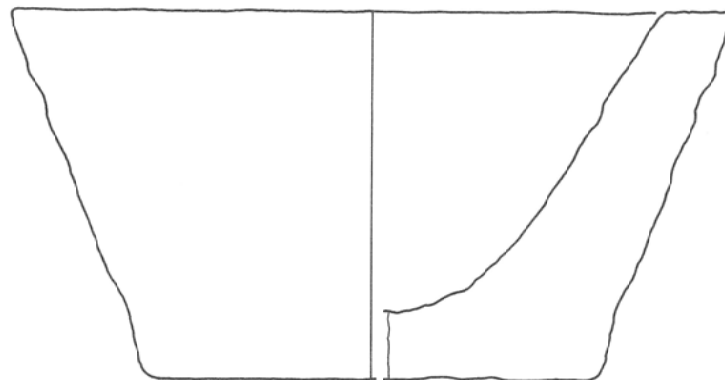
907.SD9



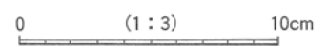
908.SD185



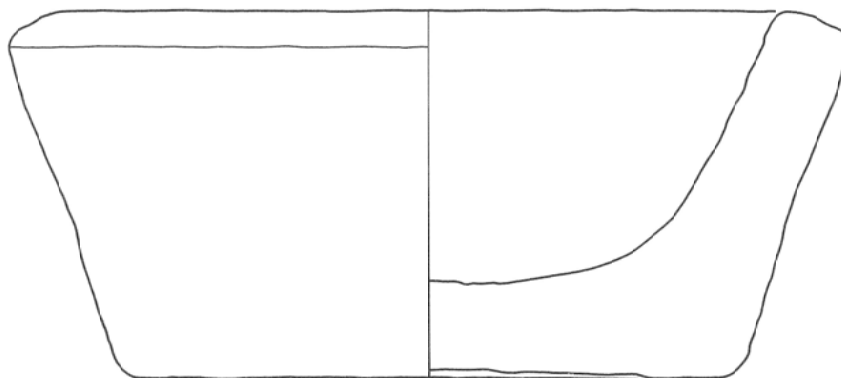
909.SD9



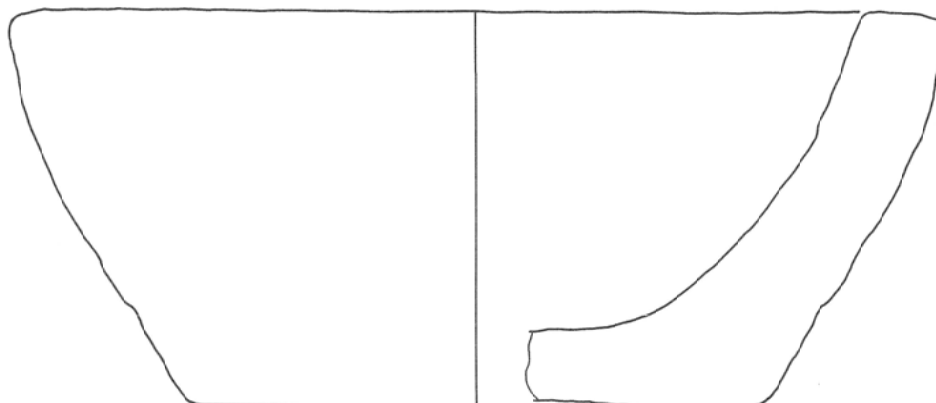
910.SK84



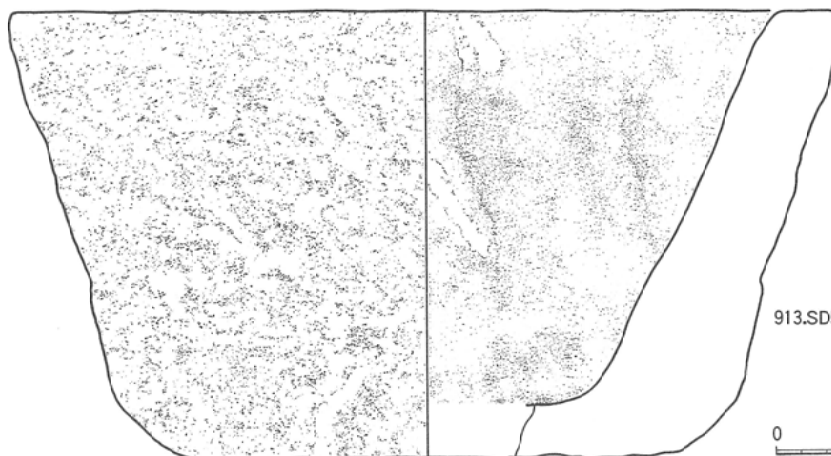
第110図 石製品(3)



911.SE393



912.SD461



913.SD555

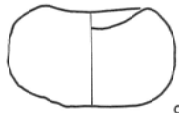
0 (1:3) 10cm

第111図 石製品(4)

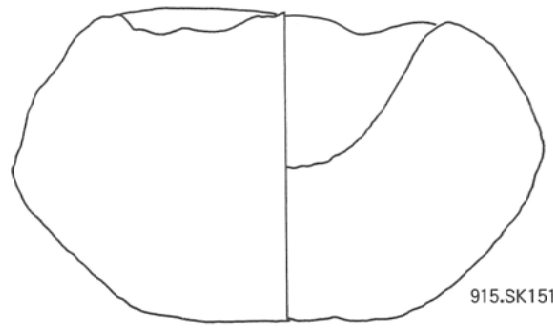




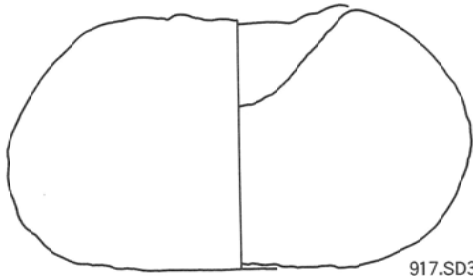
914.SD9



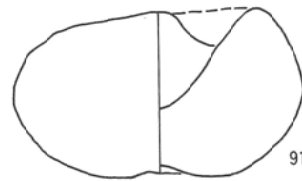
916.SD185



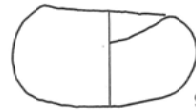
915.SK151



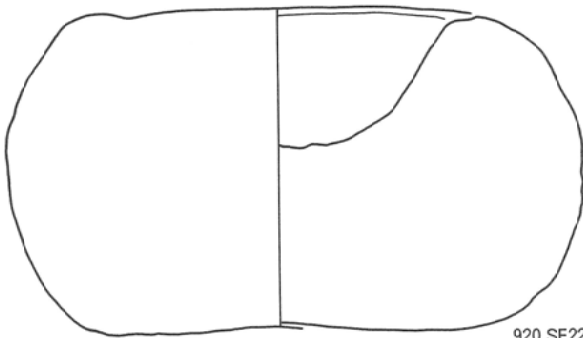
917.SD33



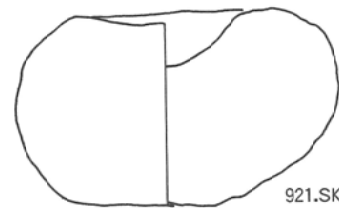
918.SE55



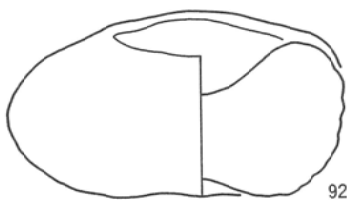
919.SK137



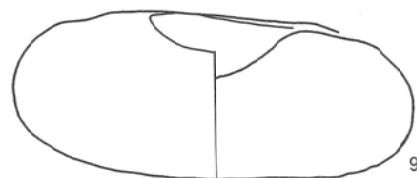
920.SE220



921.SK188



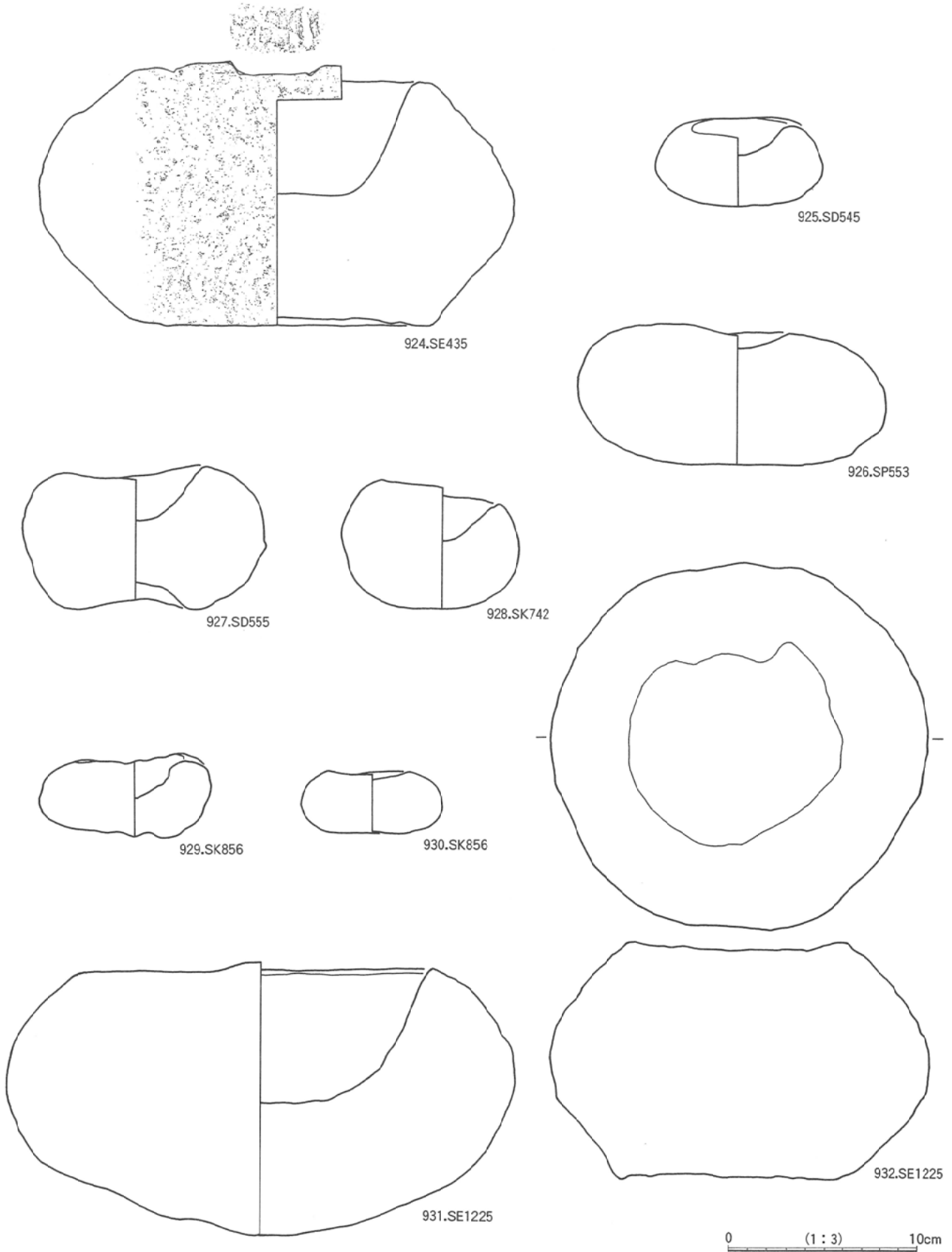
922.SD327



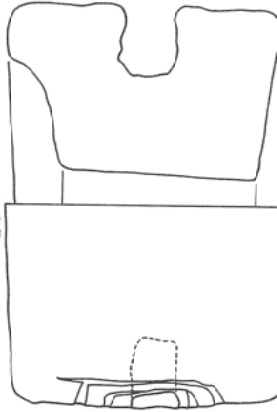
923.SK399

0 (1:3) 10cm

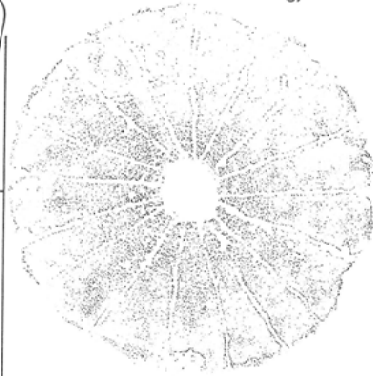
第112図 石製品(5)



第113図 石製品(6)

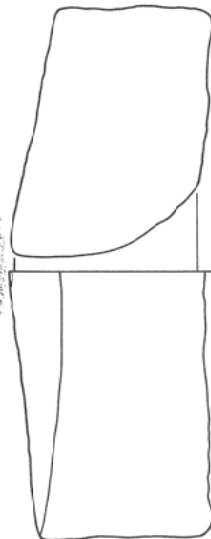


934.SE613

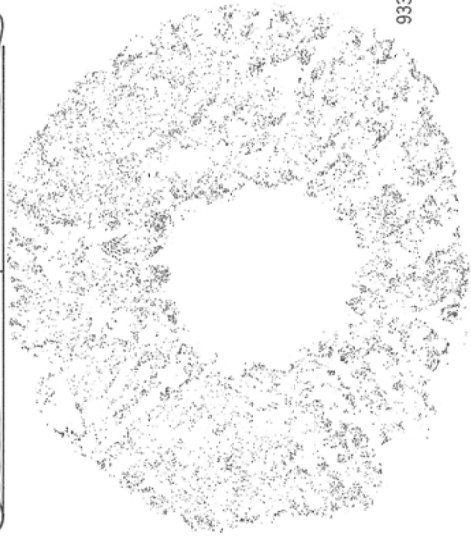


0 (1:4) 10cm

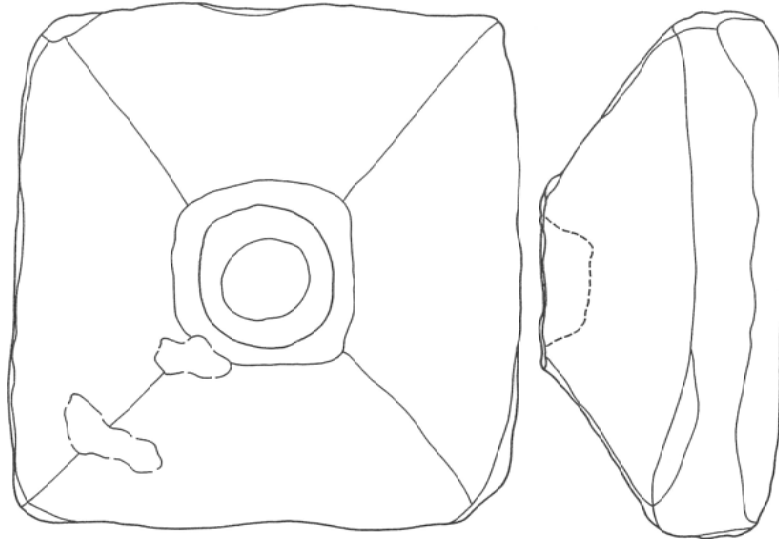
第114図 石製品(7)



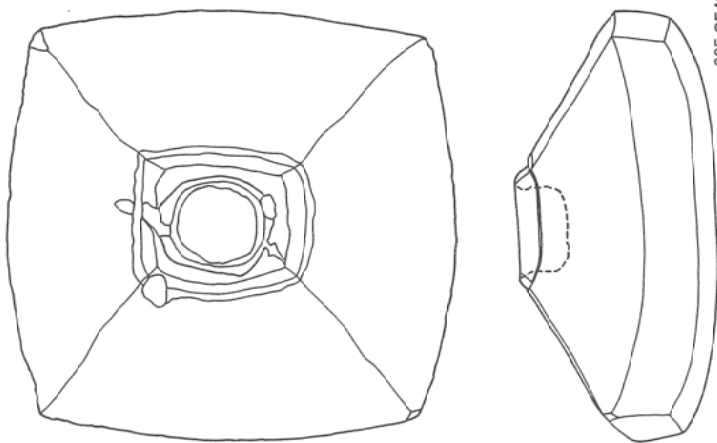
933.SP483



第115図 石製品(8)



0 (1:4) 10cm



6 金属製品 (第116図・117図 図版86~88 第29表)

中世・近世の所産と推定される金属製品は、銭貨類を除けば僅少である。

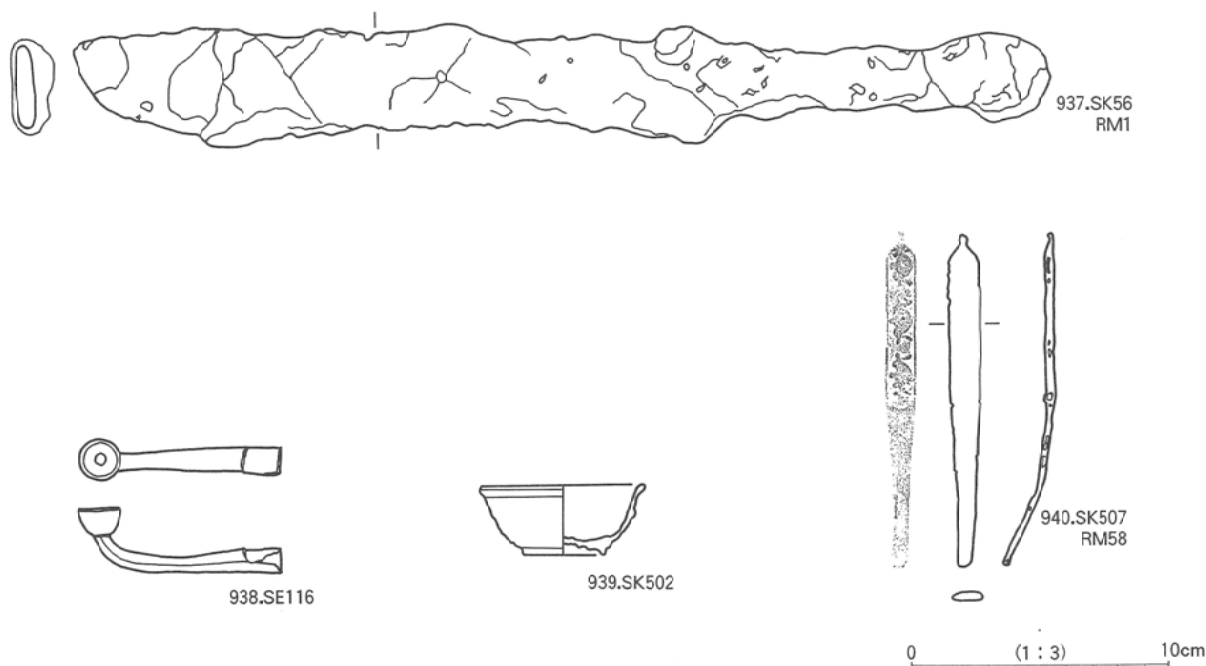
937は鉄製の短刀と考えられるが、錆の付着が著しく原形の推定は困難である。現存の長さ383mm、刃渡り推定298mm、折れ面部分で観察した本体の幅33mm、厚さ7mmを測る。

938は銅製の煙管の雁首である。付け根部分を破損するがほぼ完形となる。長さ79mm、管の最大径10mm、火口の径17mmを測る。

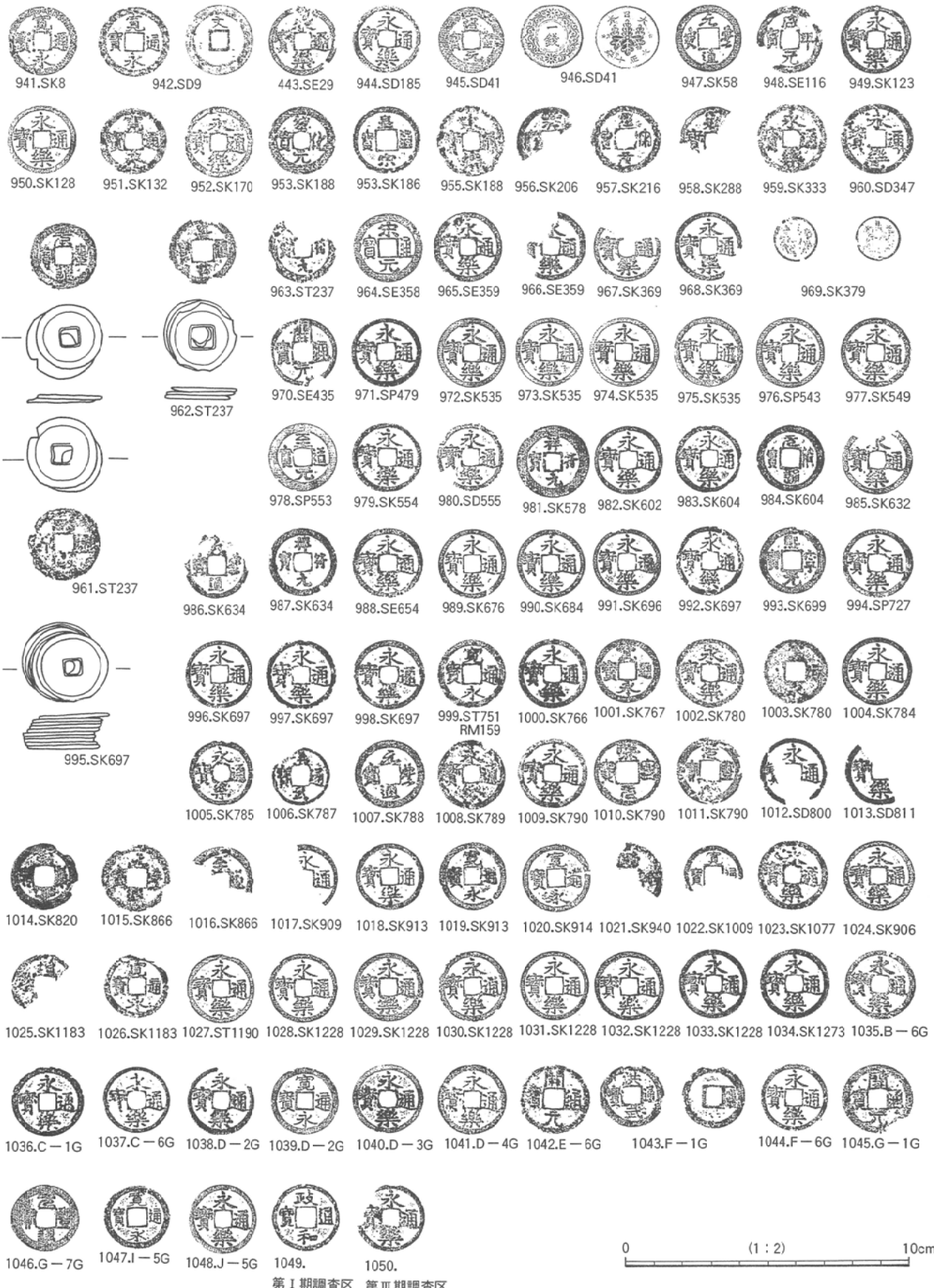
939は銅製の小杯である。仏飯器としての機能が考えられる。直立する高台をもち、体部は高台から内彎して外傾しながら立上がり、軽く外反して口縁部に至る器形となる。底部は上げ底ぎみとなる。法量は口径65mm、底径31mm、器高28mmを測る。器厚は体部で1mm、底部で1.5mmと薄い。全面緑青に覆われるが遺存状態は比較的良好である。

940は銅製の簪である。先端部を欠損し、表にむかって曲がっているほかは良好な遺存状態である。柄の末端に耳搔きが付き、柄には浮き彫り（兔か）が施される。残存部分の長さ132mm、最大幅12mm、厚さ3mmを測る。

941~1050は銭貨である。中世・近世に所属するものの出土点数は946・969の1銭硬貨を除いて120枚である。このうち癒着、磨滅などで文字が読めないものが16枚ある。出土した銭貨の種類と枚数は次のとおりである。開元通宝4、宋通元宝1、淳化元宝1、至道元宝2、咸平元宝1、祥符元宝3、皇宋通宝1、熙寧元宝3、元豊通宝7、紹聖元宝1、元符通宝1、聖宋元宝1、政和通宝1、洪武通宝2、永楽通宝63、寛永通宝12（古寛永7、新寛永4、不明1）。不明な銭貨を除いた場合の比率は、明銭の洪武通宝・永楽通宝が全体の62%で最も高く、次いで北宋銭が22%、寛永通宝が11%となる。



第116図 金属製品(1)



第117図 金属製品(2)

第21表 瓦計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	名称	長さ	幅	厚さ	高さ	備考
838	106	73	SK909	N-2	鍍瓦	[55]	153	28	(153)	RP115
839	106	73	SK948	L・M-2	鍍瓦	[81]	161	35	161	
840	106	73	SE999	L-1	鍍瓦	[58]	160	28	162	
841	106	73	SK941	M・N-1・2	軒瓦	[104]	[152]	25	-	
842	106	73	ST944	M-1・2	軒瓦	[119]	232	22	74	
843	106	73	SE999	L-1	軒瓦	[140]	[206]	25	-	
844	106		SE999	L-1	女瓦	[42]	[42]	23	-	
845	106		SE999	L-1	女瓦	[64]	[94]	24	-	
846	106		SE999	L-1	女瓦	[53]	[72]	23	-	
847	106		SE999	L-1	女瓦	[108]	[106]	23	-	
848	106		SE999	L-1	女瓦	[80]	[112]	24	-	
849	106		SE999	L-1	女瓦	[86]	[54]	24	-	
850	106		SE999	L-1	女瓦	[111]	[102]	23	-	
851	106		SE999	L-1	女瓦	[81]	[112]	24	-	
852	106		SE999	L-1	女瓦	[157]	[143]	25	-	
853	106		SE999	L-1	女瓦	[227]	[146]	27	-	
854	106		SE999	L-1	女瓦	[116]	[139]	20	-	
855	106		SE999	L-1	女瓦	[146]	[123]	29	-	
856	106		SE999	L-1	女瓦	[145]	[164]	22	-	
857	106		SE999	L-1	女瓦	[226]	217	20	54	
1289		73	SE999	L-1	女瓦	277	(245)	23	59	
1290		73	SE999	L-1	女瓦	285	(253)	24	52	
1291		73	SK915	N-2	男瓦	[219]	[138]	20	[71]	

第23表 鑄型計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	長さ	幅	厚さ
874	107	76	SK695	J-2・3	31	[47]	11
875	107	76	SK695	J-2・3	30	[65]	10
876	107	76	SK695	J-2・3	29	[58]	11
1142		76	SK695	J-2・3	[30]	[29]	9
1143		76	SK695	J-2・3	[24]	[34]	9
1144		76	SK695	J-2・3	[27]	[32]	9
1145		76	SK695	J-2・3	[36]	[32]	12
1146		76	SK695	J-2・3	31	[33]	9
1147		76	SK695	J-2・3	[27]	[34]	9
1148		76	SK695	J-2・3	[29]	[40]	10
1149		76	SK695	J-2・3	[28]	[40]	11
1150		76	SK695	J-2・3	[27]	[43]	9
1151		76	SK695	J-2・3	[26]	[34]	11
1152		76	SK695	J-2・3	[24]	[37]	10
1153		76	SK695	J-2・3	32	[27]	9
1154		76	SK695	J-2・3	[25]	[27]	9
1155		76	SK695	J-2・3	[26]	[35]	10
1156		76	SK695	J-2・3	[27]	[31]	10
1157		76	SK695	J-2・3	[30]	[38]	11
1158		76	SK695	J-2・3	30	[38]	11
1159		76	SK695	J-2・3	30	[34]	9
1160		76		9年度分布	[46]	[54]	15
1161		76		分布T・T 8	44	[59]	15

第22表 埴塼計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	名称	外寸			内寸		備考
						最大径	底径	器高	口径	深さ	
863	107	75	SD 9	E-8	埴塼	65		31	58	14	
864	107	75	SK 8	F-7	埴塼	54		21	34	10	
865	107	75	SK 8	F-7	埴塼	78		30	55	15	
866	107	75	SK 8	F-7	埴塼	66		27	52	12	
867	107	75	SK 8	F-7	埴塼	47		22	31	7	
868	107	75	SK 8	F-7	埴塼	-	59	[22]	-	[12]	陶器転用、+SD 9
869	107	75	SD 9	E-8	埴塼	98		36	65	22	
870	107	75	SK182	D-7	埴塼	(82)		30	(75)	16	
871	107	75	SK335	D-4	埴塼	(79)		34	(71)	23	
872	107	75	SE613	H・I-2・3	埴塼	89		37	63	18	
873	107	75	SK788	H-5	埴塼	(54)		17	(42)	7	
1139		75	SK866	F-7	埴塼	(64)		[24]	(48)	[12]	
1140		75	SK335	D-4	埴塼	(85)		[24]	(78)	[10]	
1141		75	SE613	H・I-2・3	埴塼	(87)		[41]	(77)	[20]	
						長さ	幅	厚さ	口径	深さ	
879	107	76	SK695	J-2	とりべ	123	65	32	61	28	RP63

第24表 羽口計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	長さ	幅	厚さ
877	107	76	SK695	J-2・3	[113]	50	35
878	107	76	SK695	J-2・3	[101]	51	36
1162		76	SK925	L・M-1	-	-	-
1163		76	SK705	K-2	-	-	-
1164		76		C-5	-	-	-
1165		76	SK1183	L・M-2	-	-	-
1166		76	SK705	K-2	-	-	-
1167		76	SK1124	K-1・2	-	-	-

第25表 転用土製品計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種・名称等	長さ	幅	厚さ	最大径	調整	素材	備考
858	107	74	SK940	L・M-1・2	線刻ある瓦片	130	78	24		縁辺打欠き	女瓦	転用硯未成品か
859	107	74	SK144	D-7	穿孔ある三角形土製品	42	43	8		縁辺打欠き一部研磨	土師質土器	表裏面研磨
860	107	74	SD811	F-8	円盤状土製品			5	19	縁辺研磨	土師質土器	表裏面磨減
861	107	74	SK909	N-2	円盤状土製品			9	39	縁辺打欠き	須恵器甕	
862	107	74	SK165	C-7	円盤状土製品			12	50	縁辺打欠き	須恵器甕	
1128		74		A-2	円盤状土製品			13	39	縁辺打欠き	陶器甕	
1129		74	SK295	C-1	円盤状土製品			5	24	縁辺研磨	瀬戸美濃系陶器	
1130		74	SG300	A-4	円盤状土製品			5	24	縁辺研磨	瀬戸美濃系陶器	
1131		74	SK697	J・K-3	円盤状土製品			5	19	縁辺打欠き	瀬戸美濃系陶器	
1132		74	SK699	J・K-3	円盤状土製品			9	28	縁辺打欠き	唐津系陶器	
1133		74	SE536	H-4	四角形土製品	33	36	8		四隅研磨	陶器	
1134		74		X-0	円盤状土製品			7	22	縁辺研磨	土師器甕	
1135		74		X-0	円盤状土製品			7	24	縁辺研磨	陶器	
1136		74	SK56	B・C-8	円盤状土製品			18	48	縁辺打欠き一部研磨	瓦	
1137		74	SD1000	L-2	円盤状土製品			17	48	縁辺打欠き	瓦	
1138		74	SK699	J・K-3	円盤状土製品			9	30	縁辺打欠き一部研磨	陶器	

第26表 盤状石製品計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種・名称等	長さ	幅	厚さ	最大径	調整	素材	備考
880	108	78	SG300	A-5	砥石	[76]	43	20		砥面4面	凝灰岩	穿孔
881	108	78	SK216	B-6	砥石	[47]	29	15		砥面4面	粘板岩	
882	108	78	SE390	D・E-1・2	砥石	102	49	19		砥面1面、他面打欠き	粘板岩	
883	108	78	SK400	C-4	砥石	[56]	24	27		砥面4面	凝灰岩	
884	108	78	SK549	H-5	砥石	[87]	46	20		砥面2面、他面打欠き	凝灰岩	
885	108	78	SK909	N-2	砥石	65	26	7		砥面2面、他面擦切	粘板岩	
886	108	78	SD555	E-1	砥石	[84]	57	26		砥面4面、1面擦切	凝灰岩	穿孔
887	108	78	ST465	F-8	砥石	62	57	53		砥面4面	凝灰岩	
888	108	78	SK1183	L-2	砥石	107	28	26		砥面5面	粘板岩	RQ191、縦に半截
889	108	78	SK697	J・K-3	砥石	50	32	10		砥面全面	凝灰岩	
890	108	78	SE212	D-7	砥石	46	40	13		砥面全面	凝灰岩	
1186		79	SK904	M・N-1	砥石	[97]	61	26		砥面4面	凝灰岩	穿孔
1187		79	SD9		砥石	[51]	33	23		砥面5面	凝灰岩	
1188		79	SD555	G-7	砥石	57	23	13		砥面4面	凝灰岩	
1189		79	SK905	N-1	砥石	[56]	53	14		砥面2面	凝灰岩	
1190		79	SK631	I・J-4	砥石	54	35	14		砥面4面	粘板岩	
1191		79		H-5	砥石	[50]	[62]	18		砥面2面	凝灰岩	
1192		79	SK658	K-4	砥石	[54]	33	29		砥面4面	凝灰岩	
1193		79	SK698	K-3	砥石	[57]	46	30		砥面1面、他面打欠き	凝灰岩	
1194		79	SK179	A-6	砥石	[49]	36	20		砥面4面	凝灰岩	
1195		79	SK590	J・K-4	砥石	[70]	40	15		砥面5面	凝灰岩	
1196		79	SD9	C-9	砥石	[69]	25	22		砥面5面	粘板岩	
1197		79	SD1000	L-2	砥石	43	40	14		砥面6面	凝灰岩	
891	109	77	SK122	A-6	円盤状石製品			7	21	全面研磨	凝灰岩	
892	109	77	SK186	C・D-6・7	円盤状石製品			9	19	全面研磨	凝灰岩	
893	109	77	SK200	B-6	円盤状石製品			8	35	全面研磨	凝灰岩	
894	109	77	SK288	B-1	円盤状石製品			9	28	全面研磨	凝灰岩	
895	109	77	SK941	M・N-1・2	円盤状石製品			9	38	全面研磨	安山岩	
896	109	77	SK941	M・N-1・2	穿孔ある円盤状石製品			6	25	縁辺研磨	凝灰岩	
897	109	77	SK559	H-5	穿孔ある円盤状石製品	76	60	17			凝灰岩	
898	109	77		X-0	円盤状石製品	54	49	20		縁辺打欠き	安山岩	
899	109	77	SK463	F-5	温石	134	141	23		縁辺研磨	粘板岩	穿孔、被熱
1168		77	SD33	B-9	円盤状石製品			12	39	全面研磨	凝灰岩	
1169		77	SE119	A-7	円盤状石製品			7	27	全面研磨	凝灰岩	
1170		77	SK56	B・C-8	円盤状石製品			7	31	全面研磨	凝灰岩	
1171		77	SK420	G-2	円盤状石製品			9	25	全面研磨	凝灰岩	被熱
1172		77	SK821	K・L-4・5	円盤状石製品			12	37	全面研磨	凝灰岩	被熱
1173		77	SK122	A-6	円盤状石製品			8	23	縁辺研磨	凝灰岩	
1174		77	SK200	B-6	円盤状石製品			5	20	縁辺研磨	凝灰岩	全面磨減
1175		77	SK200	B-6	円盤状石製品			7	20	縁辺研磨	凝灰岩	
1176		77	SK560	H-5	円盤状石製品			7	20	縁辺研磨	凝灰岩	全面磨減
1177		77	SK941	M・N-1・2	円盤状石製品			9	25	全面研磨	凝灰岩	被熱
1178		77	SK754	L・M-6	円盤状石製品			9	32	縁辺打欠き	頁岩	
1179		77	SK187	B-5・6	碁石			7	22	全面研磨	玉髓	
1180		77	SK664	K・L-4	穿孔ある円盤状石製品			[6]	(35)	全面研磨	凝灰岩	
1181		77	SK788	H-5	穿孔ある円盤状石製品			[8]	(30)	全面研磨	凝灰岩	被熱
1182		77	SK648	L-5	穿孔ある円盤状石製品			[7]	(36)	縁辺研磨	凝灰岩	
1183		77	SD33	B-8	穿孔ある円盤状石製品			[15]	45	全面研磨	凝灰岩	
1184		77	SE55	B-8	穿孔ある円盤状石製品			[10]	(30)	全面研磨	凝灰岩	
1185		77	SK1183	L・M-2	円盤状石製品			36	76	全面研磨	軽石	
900	109	80	SE536	H-4	硯	[65]	60	9		全面研磨	粘板岩	
901	109	80	SK560	H-5	硯	[25]	58	[8]		全面研磨	粘板岩	1200同一個体
902	109	80	SE624	G・H-3	硯	[25]	44	13		全面研磨	粘板岩	
903	109	80		C-6	硯	[82]	55	13		全面研磨	粘板岩	
904	109	80		D-3	硯	[48]	64	14		全面研磨	粘板岩	
905	109	80		3期調査区	硯	138	45	17		全面研磨	粘板岩	
1198		80	SK1183	L・M-2	硯	[113]	[41]	[11]		全面研磨	粘板岩	
1199		80	SK186	C・D-6・7	硯	[55]	52	[14]		全面研磨	粘板岩	
1200		80	SK560	H-5	硯	[86]	58	[13]		全面研磨	粘板岩	SK790接合
1201		80	SK781	J・K-5	硯	139	62	[19]		全面研磨	粘板岩	裏に?市鉄砲町一年白組金子濱子
1202		80		X-0	硯	123	75	[21]		全面研磨	粘板岩	裏に三年赤組高石花子
932	113	85	SE1225	I-8	礎石			126	202	全面敲打	安山岩	石鉢未製品か
933	114	86	SP483	D-2	石臼			106	281	縁辺敲打	安山岩	機能面磨減
934	114	86	SE613	H・I-2・3	石臼			143	213	縁辺敲打	安山岩	機能面磨減
935	115	86	SE435	D・E-5	石塔笠	235	227	115		全面敲打	安山岩	
936	115	86		X-0	石塔笠	265	276	127		全面敲打	安山岩	



第27表 容器形石製品計測表

番号	挿図	図版	遺構	地区	器種	外 寸			内 寸			調整	素材	備 考	
						口径	底径	器高	口径	底径	深さ				
906	109	81	SK512	D-3	薬 研	[116]	[150]	95	[115]		[53]	全面敲打	安山岩		
907	110	81	SD 9	D-8	石 鉢	(180)	(119)	111	(156)	(58)	(78)	全面敲打	安山岩	機能面磨減、被熱	
908	110	82	SD185	B-5	石 鉢	(222)	(140)	102	(180)	(65)	(82)	鑿	安山岩		
909	110	81	SD 9	C-8	石 鉢	(298)	(200)	164	(252)		[136]	全面敲打	安山岩	片口付	
910	110	83	SK84	C-8	石 鉢	(282)	(178)	145	(229)	(48)	119	鑿	安山岩	被熱	
911	111	81	SE393	D・E-2	石 鉢	(330)	(233)	144	(282)	(140)	107	全面敲打	安山岩	機能面磨減	
912	111	82	SD461	F-5	石 鉢	(369)	(228)	155	(309)	(120)	(125)	全面敲打	安山岩	機能面磨減	
913	111	83	SD555	G-6	石 鉢	(328)	(200)	176	(277)	(114)	(156)	全面敲打	安山岩	機能面磨減	
						長径	短径	底径	器高	口径	底径	深さ			
914	112	84	SD 9	E-8	石 鉢	77	71	34	52	45	12	底部敲打	安山岩		
915	112	84	SK151	A-5・6	石 鉢	[205]	209	80	123	130	60	全面敲打	安山岩	被熱	
916	112	84	SD185	B-6	石 鉢	66	58		40	44	8		安山岩		
917	112	84	SD33	B-9	石 鉢	182	151	110	103	95	32	底部敲打	安山岩		
918	112	84	SE55	B-8	石 鉢	121	108	50	67	83 33	38 5	底部敲打	安山岩	被熱 918底部抉込値	
919	112	84	SK137	D-7	石 鉢	73	67		40	50	15		安山岩		
920	112	84	SE220	B-4	石 鉢	(226)		(150)	128	(140)	52	全面敲打	安山岩		
921	112	84	SK188	B-5	石 鉢	128	115	59	78	75	21	底部敲打	安山岩	機能面磨減	
922	112	84	SD327	C-3	石 鉢	132	128	65	74	69 42	30 7		安山岩	922底部抉込値	
923	112	84	SK399	D・E-4	石 鉢	156	117		66	70	23		安山岩		
924	113	85	SE435	D-5	石 鉢	303	253	158	141	165	93	全面敲打	安山岩	機能面磨減	
925	113	85	SD545	H-5	石 鉢	88	72		47	50	18		安山岩		
926	113	85	SP553	I-4	石 鉢	165	114		75	54	10		安山岩		
927	113	85	SD555	-	石 鉢	130	120	73	77	73 54	23 14		安山岩	927底部抉込値	
928	113	85	SK742	H・I-1	石 鉢	94	87		68	62	25		安山岩		
929	113	85	SK856	F-6	石 鉢	91	79		45	53	21		安山岩		
930	113	85	SK856	F-6	石 鉢	75	59		33	36	5		安山岩		
931	113	85	SE1225	I-8	石 鉢	(270)			146	(184)	71	全面敲打	安山岩		

第28表 ガラス製品計測表

番号	図版	遺構	地区	器種・名称	外 寸				内 寸		色 調	銘 等	備 考
					口径	底径	最大径	器高	口径	深さ			
1270	72	SK904	M・N-1	ビール壺	26	69	76	288	19	278	茶	キリンビール	
1271	72	SK904	M・N-1	ビール壺	26	67	77	287	18	276	茶	サクラビール	
1272	72	SK904	M・N-1	サイダー壺	26	51	65	235	19	225	薄緑	日本麦酒醸造株式会社	コルク栓付
1273	72	SK904	M・N-1	ラムネ壺	19	31	33	130	13	125	水色	カ ト ヤ	
1274	72	SK904	M・N-1	ソース壺	27	45	52	28	18	22	水色	太陽顔ソース	
1275	72	SK904	M・N-1	ソース壺	28	47	54	198	19	188	水色	白玉ソース	
1276	72	SK904	M・N-1	ソース壺	25	37×37	43×43	118	9	110	透明	西洋御料理	
1277	72	SK904	M・N-1	調味料壺	21	38×24	51×28	83	16	77	透明	AJINOMOTO	
1278	72	SK904	M・N-1	化粧クリーム壺	38	40	48	47	31	34	不透明白	アイデアル・クリーム PATENTNO.109425	同質蓋付
1279	72	SK904	M・N-1	化粧水壺	19	42×17	45×19	158	14	153	薄緑	M & C	
1280	72	SK904	M・N-1	化粧水壺	21	55×23	61×25	103	12	99	透明	P A R I S - I N P A T . N O . 4 8 4 9 5	コルク栓付
1281	72	SK904	M・N-1	目薬容器	6	16	19×14	75	3		薄青	EYE WATER ROHTO	
1282	72	SK904	M・N-1	試薬壺	37	42	50	115	27	111	茶		同質栓付
1283	72	SK904	M・N-1	薬 壺	30	39	49	118	23	110	薄茶	わ か も と	コルク栓付
1284	72	SK904	M・N-1	薬 壺	19	48×29	54×35	116	13	111	透明	鐵道治療所	コルク栓付
1285	72	SK904	M・N-1	薬 壺	21	59×42	65×47	142	15	139	透明	目 盛 付	コルク栓付
1286	72	SK904	M・N-1	薬 壺	23	56	71	175	17	164	水色	ア ー ス	
1287	72	SK904	M・N-1	インク消し容器	18	31×31	33×33	56	10	50	透明		ゴム栓棒付
1288	72	SK904	M・N-1	糊 容 器	46	45	50	44	40	35	薄緑	ヤ マ ト 糊	



## 7 近現代の遺物

近現代の遺物は、各時代の遺物中数量的に最も多く出土した。主な種別は陶磁器・陶磁製品、土器・土製品、石製品、ガラス製品、金属製品、樹脂製品、これらの複合製品などである。

### a 陶磁器・陶磁製品（第105図 図版58・61・68～71 第20表）

陶磁器には、碗（1239～1251・1252）、井（1229）、湯呑み（1221・1254～1256）、ティーカップ（1253）、皿（1258～1263・1269）、鉢（1226・1251・1264～1268）、急須（1224）、土瓶（1227・1228）、汽車土瓶（1225）、徳利（831）、盃（1222・1223）、仏飯器（1257）、播鉢、火鉢（1232）、植木鉢、灰皿（1230）、壺（1231）、湯たんぽ、衛生陶器（1237・1238）などがある。掲載遺物はSK904出土の一括遺物を主体としている。染付ではプリントが多用される。また産地は瀬戸産が目立ち、会津、益子、平清水産が加わる。1237・1238は平清水焼の衛生陶器である。胎土はやや粗く、色調は灰色を呈する。焼成は良好である。表面の装飾は白化粧土に呉須で草花文の絵付けを施す。寸法は1237が長さ510mm、幅260mm、高さ280mm、1238が高さ588mm、幅270mm、奥行240mmを測る。陶磁製品は瓦、土管、タイル、碇子、U字溝、表札が出土している。

### b 土器・土製品（図版68 第14表）

土器は七厘（1233・1234）が出土した。1233は酸化焰焼成、1234は燻焼により製作される。いずれも使用のためか全体に脆弱となる。1224は表面に縦方向のミガキが明瞭に残る。土製品には煉瓦、焜炉、行火がある。1235はSK987出土の焜炉である。酸化焰焼成された表面は底面を除いてミガキ調整され内部は二重構造となる。寸法は高さ222mm、幅238mm、奥行236mmを測る。1236はSK987出土の行火である。燻焼で表面はミガキ調整される。天井部は二重構造である。寸法は高さ245mm、幅245mm、奥行240mmを測る。

### c 石製品（図版80 第20表）

硯のうち1201・1202は裏面に持ち主とみられる名前が刻まれる。ほかの石製品にはスレート、石板、石墨などがある。

### d ガラス製品（図版72 第28表）

ガラス製品はコップ、鉢、液体容器（1270～1288）、照明笠、板ガラスなどが出土した。

### e 金属製品（第117図 図版86・88）

金属製品には鉄製の枕木留めの釘、銃の実砲、貨幣などが出土した。1203はSD461出土の銃の空薬莖、1204はSD41出土の実砲である。1204は、長さ75.7mmを測る。弾頭は先端が潰れたように平坦となる。最大径は6.7mmで、先端から12mmと17mmのところに幅2mmの溝が切られている。薬莖は長さ50.5mm、最大径12mmである。1203は1204と同じ規格であるが、1204の薬莖にみられる2条の刻みがない。素材は銅またはその合金と考えられる。

### f 樹脂製品

骨角製も含め歯ブラシ、箸、包装容器、財布などが出土している。

### g 複合製品

複数の素材で製作された遺物は電球、電池、電気製品などが出土している。

## Ⅶ 調査のまとめ

### 1 竪穴住居跡の土器組成と所属時期について

本項では、今回の調査で検出された竪穴住居跡の土器組成とその所属時期について、第Ⅳ章2項でおこなった分類に従って若干の検討を試みる。

- ST287 EL361からは須恵器坏IA2類、土師器甕ⅡE1a類、ⅡE2b類が出土した。全体では、供膳形態が須恵器坏IA2類を主体とし、IA4a類、高台付坏IB1類、土師器坏ⅡA3b類とⅡA3c類、蓋ID2a類、ID2b類、ID4類が伴う。煮沸形態では土師器甕ⅡE1a類、ⅡE1b類、ⅡE2a類、ⅡE2b類、ⅡE3a類、赤焼土器甕ⅢB2類がある。
- ST563 供膳形態には須恵器坏IA2類、IA4a類、高台付坏IB1類、蓋ID2b類がある。煮沸形態では土師器甕ⅡE1a類、ⅡE1b類、ⅡE2b類、赤焼土器甕ⅢB2類がある。
- ST290 供膳形態には須恵器坏IA2類、IA4a類、高台付坏IB1類、土師器坏ⅡA3c類がある。煮沸形態には土師器甕ⅡE1a類、ⅡE1b類、ⅡE2b類、ⅡE3類がある。貯蔵形態には須恵器鉢IG2類がある。
- ST262 EL263、EP284から一括性の高い資料が得られた。EL263：供膳形態では須恵器坏IA2類のみが出土しており、煮沸形態には土師器甕ⅡE1a類、ⅡE2a類、ⅡE2b類、ⅡE3a類がある。貯蔵形態には須恵器壺IF1b類がある。EP284：供膳形態では須恵器坏IA2類が主体となり、IA4a類、土師器坏ⅡA3c類が伴う。煮沸形態には土師器甕ⅡE2a類がある。住居跡全体では、供膳形態で須恵器双耳坏IC2類、蓋ID2a類、煮沸形態で土師器甕ⅡE1b類が加わる。
- ST237 供膳形態には須恵器坏IA2類、IA4a類、高台付坏IB類、耳坏IC類、蓋ID2b類がある。煮沸形態では土師器甕ⅡE1a類がある。
- ST375 供膳形態には須恵器坏IA2類、煮沸形態では土師器甕ⅡE1a類、ⅡE1b類、ⅡE2b類、ⅡE3a類、赤焼土器甕ⅢB1類がある。
- ST465 供膳形態には須恵器坏IA2類、土師器高台付坏ⅡB類がある。煮沸形態には土師器甕ⅡE1類、ⅡE2b類、ⅡE3a類がある。
- ST1276 供膳形態には須恵器坏IA4a類、煮沸形態には土師器甕ⅡE1類、ⅡE2b類、貯蔵形態には須恵器短頸壺IF1a類がある。
- ST498 土師器甕ⅡE2b類のみが出土している。
- ST584 供膳形態には須恵器坏IA2類、煮沸形態には土師器甕ⅡE1b類、ⅡE2a類、ⅡE3b類がある。
- ST1120 供膳形態には須恵器坏IA類、土師器坏ⅡA3c類がある。煮沸形態には土師器甕ⅡE1a類、ⅡE3a類がある。
- ST1190 EK1300では須恵器坏IA5類、土師器甕ⅡE1類、ⅡE3a類、EL1187では須恵器坏IA4a類、IA5類が出土した。住居全体では土師器甕ⅡE2類、ⅡE3類が加わる。
- ST729 ⅡA2類の土師器坏、ⅡE3類の土師器甕が出土している。

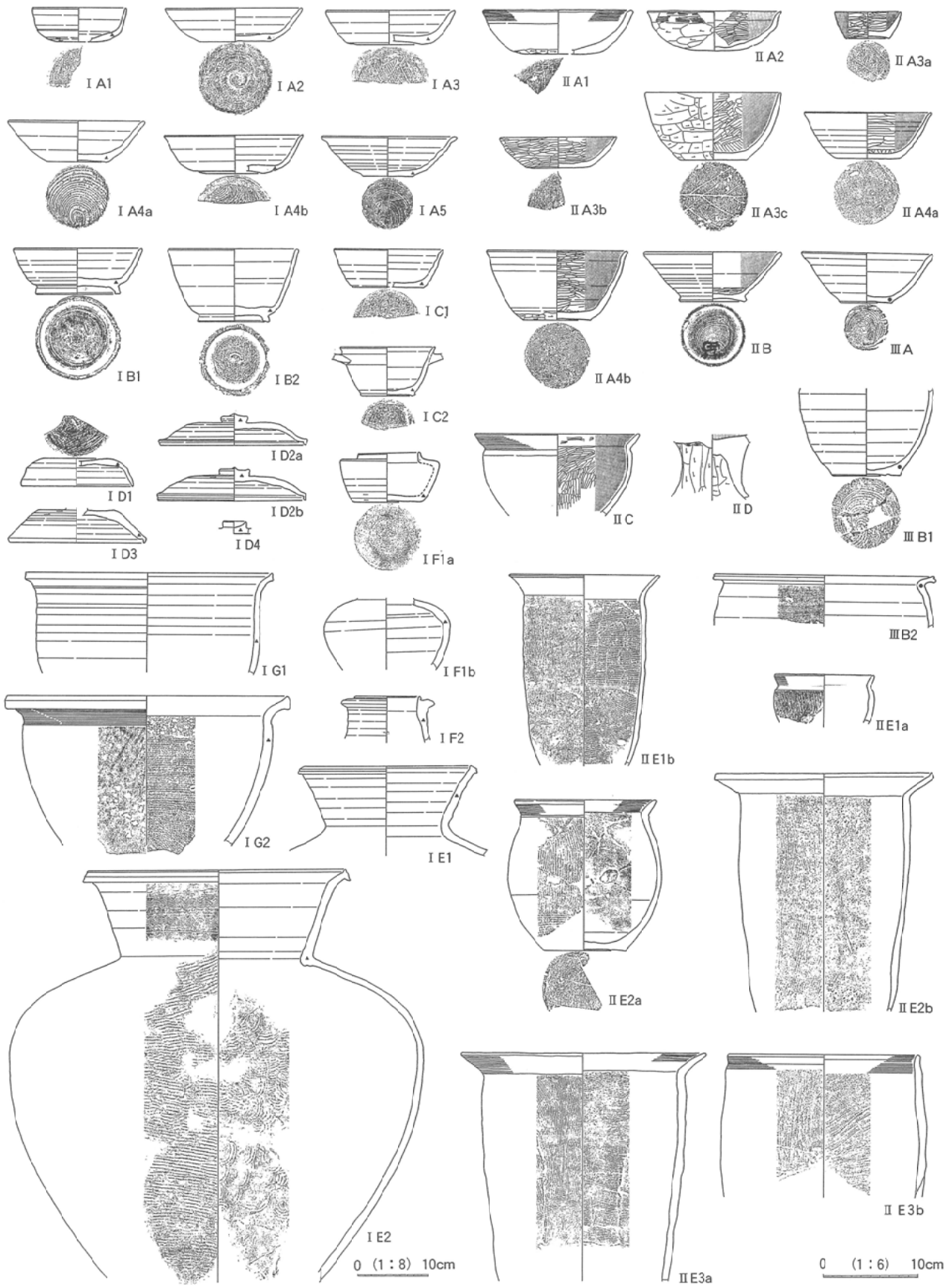
ST751 II E 2 a 類の土師器甕が出土している。

以上を概括すると、供膳形態では、遺物の出土数量にまとまりのあるST287およびST262において回転ヘラ切の須恵器坏IA 2 類が主体となり、これに回転糸切で底径の大きなIA 4 a 類、非ロクロ成形で内面黒色処理の土師器坏II A 3 c 類、蓋ID 2 a 類が少数伴う状況が看取される。またこれらと同じA・B-1・2区で検出されたST563・290・237は、遺物の数量が少なく、出土比率は比較できないものの、坏がIA 2 類、IA 4 a 類によって構成される点は共通する。これら5棟のうちST287を除く4棟が重複し、切り合いの観察からST563(旧)→ST262(新)、ST237(旧)→ST290(新)の関係が把握されたが、遺物についてはそれを実証するほどの時間差が認められない。したがってこれらの重複関係は短期間で成立したものと考えられる。ST375ではEP614およびEL618の煙道部からIA 2 類が得られているほか、IA 2 類、IA 4 a 類の坏はST1276・584でも散見される。ST1190ではEK1300を中心に回転糸切で底径の小さな坏IA 5 類を主体としてIA 4 a 類が伴う構成となり、前述の各竪穴住居跡とは傾向が異なる。またST465においても出土点数は少ないもののロクロ成形の土師器高台付坏II B 類が出土している。これらの各竪穴住居跡を従来の研究成果からみた所属時期は、ST287・262・563・290・237・375は8世紀末から9世紀前葉、ST1190は9世紀中葉、ST465は9世紀後葉と推定される。ほかの住居跡については概ね9世紀代の前葉から中葉の範疇で捉えられるが、ST729出土の土師器坏II A 2 類は古手の様相をもつ。小破片1点のみの出土であり遺構自体の遺存状態も良好とはいえないため、これを時期決定の判断材料とするにはなお検討を要する。

煮沸形態は、先に述べた時期幅の中でも一貫して非ロクロ成形の土師器甕が主体となる。これらは形態で2類型、法量で3類型に区分したが、底部は木葉痕または筵痕をもった平底となり、体部外面にハケメ調整、内面にハケメまたはヘラナデ調整、口縁部内外面にナデ調整が施される。また口縁部は直線的に外傾するものが多く、大型のものほどその傾向が顕著である。ST287およびST262、ST375では赤焼土器の甕を伴うが、いずれも客体的である。

貯蔵形態の出土数量は少なく、ST290で須恵器鉢IG 2 類、ST262で須恵器壺IF 1 b 類、ST1276で須恵器短頸壺IF 1 a 類が出土した他はすべて小破片である。

なお調査区全体の様相をみると、主体は竪穴住居跡出土遺物と同じと考えられるが、少数ながらより時期幅の広い資料が得られている。須恵器坏IA 1 類と蓋ID 1 類は、231と249の各1点ずつの出土であるが、高島町味噌根2号墳出土遺物中に類似例が求められ、7世紀第4四半期から8世紀第1四半期の年代が与えられている。また土師器高坏II D 類も265の脚部1点のみの出土であるが、8世紀代に遡りうる資料として注目される。赤焼土器坏III A 類は出土数量が少ないが、図化した4点は、須恵器坏IA 5 類に比較して底径がより小さく器高が高くなる傾向が顕著であり、時期的には10世紀前半に降る可能性がある。



第118図 古代土器分類図

## 2 近世の遺構と遺物について

調査区は山形城三の丸の一部にあたり、最上氏の支配期には武家屋敷として機能していたことが絵図などからうかがわれる。調査に際しては当該期の遺構の検出が期待されたが、特に明治時代以降の土地利用による破壊・削平を大きく受けたことによって、屋敷割りを考察する上で重要な手がかりとなる礎石建物跡の配置が不明確となり、井戸跡、溝跡および一部の土坑が近世の遺構として認識されたに過ぎない。しかし調査区内は遺構密度が極めて高いことから、個々の遺構に対する今後の詳細な分析による近世遺構の構造解明の可能性が期待される。以下では今回の調査で得られた近世の資料のうち、陶磁器の所属時期並びにその組成とかわらけの一括廃棄について若干の検討をおこなう。

### a 陶磁器について

近世の陶磁器は、数量的にかなりまとまって出土している。その出土状況をみると、遺構内出土のものでは、SD33や後述するSK909およびSK1183など、一部の土坑や溝跡において一括性が認められるものの、多くは小破片が堆積土中に流れ込み的に混入している。そのほか遺構に伴わずに出土したものも多い。また一括性が認められるものでも、個々の遺構内での出土数量が限られ、セット関係を明らかにできる資料は得られていない。したがって本項では調査区全体を対象に、これまでの研究成果にしたがって陶磁器の焼成時期と組成を概括し、遺跡の年代、性格を知る手がかりとしたい。

#### (1) 瀬戸・美濃系陶器

灰釉皿は折縁皿が数量的に主体となる。これらを含め見込が無釉となり高台内に輪トチ痕が残るなど重ね焼きをおこなったことをうかがわせるものが多い。これらの特徴は大窯Ⅲ期からみられるもので、見込に印花文が施された590をはじめ、より古手の様相を示すものもあるが、主体は概ね16世紀後葉に焼成されたと考えられる。なお、これらには灯明皿に転用されて使用された痕跡を残すものが多い。

志野は皿、鉢、向付が出土した。志野は16世紀末葉から17世紀初頭の大窯Ⅴ期を主体に焼成され、本遺跡出土の皿の形態の特徴からもほぼそれに合致すると考えられる。

織部は登窯Ⅰ期、17世紀前葉を中心に焼成される。本遺跡からは数量的には限られるが沓茶碗、向付、水注が出土している。また御深井釉はこれに後続するが、今回の調査での出土数量は向付、香炉など僅少である。また、天目茶碗は、焼成期間が長いいため個別の資料について焼成時期を比定するためには、より慎重な検討が必要であるが、概ね上記の各器種が焼成された時期に並行するものと考えられる。

#### (2) 肥前系陶器

皿は、見込および高台に残る重ね焼きの際の目積みの痕跡をみると、胎土目積みと砂目積みの両方が存在し、数量的にはほぼ拮抗するが、やや胎土目積みが多く出土している。唐津焼のこの器種では、胎土目積みは16世紀末葉、砂目積みは17世紀初頭以降に焼成され、また、今回6点の出土があった灰釉溝縁皿は17世紀前葉に特徴的な器種とされる（大橋1993）。以上のことから今回出土した唐津焼の皿の焼成時期は16世紀末葉から17世紀前葉を主体とするものと考えられる。

鉢および碗についても同様の時期の所産とみられるが、鉄釉の碗についてはやや時期が降る可能性がある。731は底部付近を無釉とし、見込に呉須による山水文を描く京焼風の皿であり、焼成時期は17世紀後半と推定される。

### (3) 染 付

青花はほぼ明代の後葉から清代の初頭、すなわち16世紀末葉から17世紀前半に焼成されたものが主体になると考えられる。また白磁の皿(543~545)についても、やや遡る可能性があるものの、これらに近い時期の所産と考えられる。

肥前系の染付は、京焼写しや、波佐見焼のくらわんか茶碗・皿を中心に出土した。これらは17世紀後半から18世紀にかけて焼成されたものとみられ、主体は18世紀以降と考えられる。また、国産の青磁も肥前系とみられ、時期的にもこれらと同時期の焼成になる可能性が高い。

そのほか、729の相馬焼の碗も17世紀後半以降18世紀代の資料と考えられる。

以上のことから、調査区内から出土した近世の陶磁器には、16世紀後葉から17世紀前葉と17世紀後半から18世紀代の2つのピークがあり、これらの出土比率をみると前者が圧倒的に多いことがわかる。焼成から搬入、使用および伝世の期間を考慮すれば、主体は16世紀末葉から17世紀前半に求められる。こうした状況は、最上義光が山形城の改築とともに三の丸の整備に着手したのが文禄元年(1592)ごろといわれ、元和8年(1622)に最上氏が改易された後にこの区域の衰退が始まったという年譜を概ね査証するものであろう。また、陶磁器の組成では、日用的に使用される碗、皿、鉢、甕類に加えて、茶碗、向付、水指などの茶の湯に関連するものが比較的豊富に出土している。この中には黒織部や唐津の沓茶碗など、当時としてもかなり高価と思われるものが含まれる。これらの遺物は近世初期の武家の生活習慣の一端が理解されるものとして注目される。

### b かわらけの一括廃棄について

かわらけは調査区全域からまとまった量が出土した。第4章3項bではこれらについて分類をおこなったが、数量的に主体となるのは、底部切り離しが回転糸切無調整のII C類である。II C類は器形の相違から1~4類に区分され、さらに法量の大小からa~gの7類型に細分をおこなった。このうち器形については、1類と2類では口縁部の形態に差があるほかは、基本的なプロポーションは同じである。したがって同一の水準で器形をみた場合は、内彎する器形の1・2類、直線もしくは外反する器形の3類、外面の断面形がS字形となる4類の3類型に集約される。胎土はいずれの類型でも概してやや粗めで、砂粒、特に雲母粒の混入が目立つものが多い。色調は浅黄橙色から橙色を呈し、焼成は不良ぎみで脆いものが多い。

今回の調査では、SK909・SK940・SK955・SK1183・SK1296でかわらけの一括廃棄が確認された。SK948でも6点のかわらけが出土したが、この土坑はSK1183を切る近現代の遺構である。これらはおそらくSK1183からの流れ込みと考えられる。これらはすべて底部切り離しが回転糸切無調整のII C類である。以下では、これら5基の土坑について、先の分類を軸に検討をおこなう。



### SK 909

掲載資料は113点ある。このうち主体となるものは1 d類と2 d類で、合計で80点、SK 909出土かわらけの約71%を占める。これに次いで4類が各法量全体で13点約12%出土し、3類は4点出土したに過ぎない。法量はd類を中心に、これより小型のa~c類が大型のe~g類よりも多く出土している。なおこれらの出土状況は、概ね上下に2枚に別れるが、かわらけの形態には差が認められない。これらに供伴する遺物には、544・585・596・713・732・754・776の陶磁器、838の鏡瓦、1017の永楽通宝などがあり、特に544の白磁端反皿、713の唐津鉄釉皿は遺構底面近くからの出土である。なお掲載したかわらけの中で、91点約81%は口縁部に煤の付着や内外面にシミ状の黒斑が観察され、灯明皿として使用された状況をうかがわせるものであった。数量的なまとめからみて祭祀後の一括廃棄の可能性もある。

### SK 1183

掲載資料は36点ある。このうち主体となるものは3 b類で、12点約33%、3類全体では20点約56%を占める。これに次いで3 e類、1 e類が各6点約17%ずつ出土している。4類は各法量全体で6点約17%あるが、2類は出土していない。法量はb類とe類が各14点ずつで2つのピークを示し、a・c・fの各類型はみられない。なおSK 948掲載資料は6点あるが、このうち5点は3類であり、これを含めても傾向に大きな変化は認められない。これらに供伴する遺物には、603・696・697・780・781の陶磁器、1026の寛永通宝などがある。掲載したかわらけ中34点が灯明皿としての使用の痕跡がある。

### SK 940

掲載資料は9点ある。このうち3 d、3 e類が3点ずつで、6点約67%を占める。法量はd類とe類に集中する。これらに供伴する遺物には、565・694・730・735・827の陶磁器などがある。掲載したかわらけ中4点が灯明皿としての使用の痕跡がある。

### SK 955

掲載資料は5点ある。このうち1類、2類で4点を占める。法量はd類に4点が集中する。また、5点すべてに灯明皿としての使用の痕跡が認められる。これらに供伴する遺物には、778の色絵磁器碗、1226の焙烙などがある。

### SK 1296

掲載資料は5点ある。これらはすべて1類・2類である。法量にはa・b・d類と小型のもので占められる。また4点が灯明皿としての使用の痕跡がある。供伴遺物は出土していない。

出土数量にまとまりのあるSK 909とSK 1183を比較した場合、かわらけの形態および法量の分布にはかなり差があることが確認された。供伴する陶磁器は双方ともに16世紀末葉から17世紀前葉のものを含むが、時期的に新しい肥前系の磁器も伴出している。したがってこれらの形成時期は17世紀後半以降となる可能性が高い。出土点数が少ないため大局的な比較となるが、SK 940はSK 1183に、SK 955・SK 1296はSK 909に近似する傾向が看取される。こうしたかわらけの形態、法量分布における組成の違いが何に起因するものか、今後の検討課題となるとともに、類例の増加が望まれる。

### 3 調査のまとめ

山形駅西口新都心ビル建設工事に伴う城南一丁目遺跡の平成10年度緊急発掘調査の結果を要約するとつぎのようになる。

- (1) 縄文時代の遺物は、若干量であるが縄文土器、石器が出土した。縄文土器は中期前葉から晩期中葉にかけて断続的にかなりの時期幅をもつものが出土している。これらに伴う遺構は検出されなかった。
- (2) 古代の遺構は竪穴住居跡が17棟、河川跡が1条検出された。竪穴住居跡は概ね平安時代前期の9世紀代に比定され、特に9世紀前葉を主体とする。竪穴住居跡以外からの出土遺物でも、底部回転篋切坏類が主体となり、赤焼土器坏の出土は希有であった。
- (3) 中世の遺構は検出されなかった。遺物は珠洲系陶器、青磁、白磁、瓦器、土師質土器などがいずれも小破片で出土した。時期的には12世紀末葉から15世紀代のものが含まれるが、報告書の作成にあたっては時間的な制約もあり、詳細な検討は今後の課題となる。
- (4) 近世では調査区内は山形城三ノ丸の一角となり、調査ではこの時期の様相解明が期待された。しかし、当該期の遺構は後世の土地利用による破壊を最もはげしく受けており、武家の屋敷地としての様相を具体的に把握するためには、なお時間を要する。出土した陶磁器からみた調査区内の様相は、17世紀前半をピークとして、その後衰退する状況がうかがわれ、最上氏の改易との直接的な関連が想定される。また、このことは永楽通宝を主体とした明銭と寛永通宝の出土比率からも看取される。
- (5) 近現代の遺構、遺物は、内容的には豊富であるが十分な検討をおこなえなかった。調査区からは、練兵場、国鉄の施設に関連する遺構、遺物が多く出土した。練兵場に関連するものでは、SD41をはじめとする不規則に曲折または蛇行する溝跡があり、訓練の際に掘られた塹壕と推定された。これらからは実包、空薬莖などが出土している。国鉄関連では、碇子、電球、枕木用の釘、汽車土瓶などが土坑内に一括廃棄された状況で出土した。なお調査区内には、保線区、電力区の各施設があったことが図面から確認されている。そのほか、多量のガラス製薬壺と病院で使用されると思われる食器類が一括廃棄された土坑も検出された。一般的な食器類の廃棄遺構も多く検出されており、時期的には明治以降昭和後期までの内容を含むものとみられるが、特に昭和初期と思われる遺物が多く出土している。

### 《参考文献》

- 【山形市史 通史編】  
 菅田慶信（1996）「山形城三ノ丸」『山形県中世城館遺跡調査報告書第2集』  
 佐藤庄一（1979）『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第17集  
 阿部明彦・水戸弘美（1999）「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討回資料』  
 井田秀和（1997）『町内遺跡発掘調査報告書(3)』山形県高島町埋蔵文化財調査報告書第5集  
 渋谷孝雄（1984）『境田C・D遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第76集  
 伊藤邦弘（1988）『大楯遺跡第1次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第121集  
 伊藤邦弘（1989）『大楯遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第139集  
 井上喜久男（1992）『尾張陶磁』ニュー・サイエンス社  
 田口昭二（1983）『美濃焼』考古学ライブラリー17 ニュー・サイエンス社  
 大橋康二（1993）『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社

## 報告書抄録

ふりがな	じょうなんいっちょうめいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	城南一丁目遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第69集							
編集者名	黒坂雅人 國井修 稲村圭一							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL023-672-5301							
発行年月日	1999年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じょうなんいっちょうめ 城南一丁目	やまがたけん 山形県 やまがたし 山形市 じょうなんいっちょうめ 城南一丁目	6201	平成9年度 登録	38度 14分 50秒	140度 19分 38秒	19980408 ～ 19980812	8,890	山形駅西口 新都心ビル 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
城南一丁目	集落跡 城館跡	奈良時代 平安時代  ----- 安土桃山時代 江戸時代	竪穴住居跡	17	土師器 (坏・甕等)	260箱	古代には河川を挟んで 集落が営まれ、その後 山形城築城に伴って三 の丸の一部となる。中 世から近世にかけての 遺構・遺物は17世紀前半 を主体とする。	
			井戸跡	39	須恵器 (坏・蓋・甕等)			
			河川跡	1	近世陶磁器 (瀬戸美濃・ 唐津・染付・青花等)			
			石組遺構	1	からわけ			
					瓦 銭貨			

版 圖



遺跡近景（南から）



調査区近景（西から）

図版 2



表土剥取・面整理事業状況（北東から）



調査区杭打ち作業状況（南から）



第1期調査区遺構検出作業（北西から）



SK648精査状況（北から）



第2期調査区遺構精査（南から）



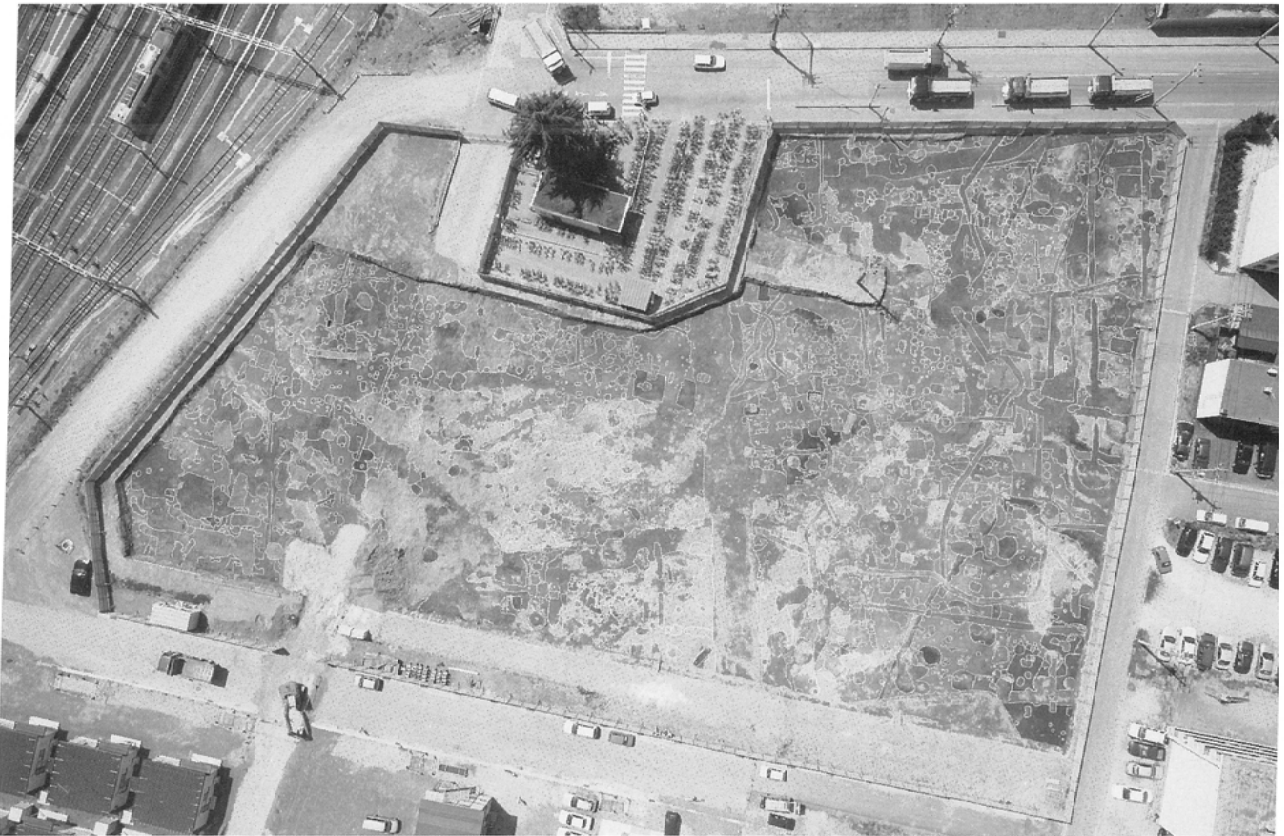
ST498・SK507精査・記録作業状況（北東から）



ST729平面図作成（北西から）



調査説明会



第1・2期調査区 遺構検出状況 (↑南)

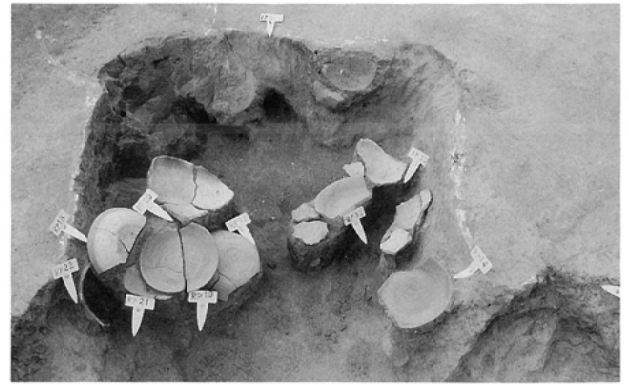


第3期調査区 (H~J-9 G) 遺構検出状況 (西から)

図版 4



ST262調査状況（北から）



ST262・EP284遺物出土状況（北から）



ST262・EL263遺物出土状況（北から）



ST262・EL263・RP50出土状況（北から）



ST262完掘状況（北から）





ST287調査状況（北から）



ST287・EP361・RP38出土状況（北から）



ST290調査状況（北から）

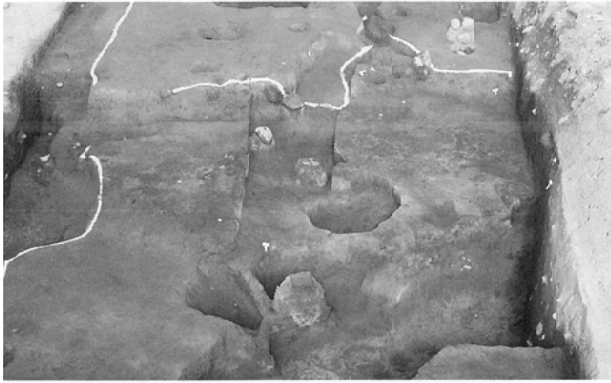


ST237調査状況（北から）



ST287・563・290・262・237完掘状況（↑東）

図版 6



ST375床面検出状況（西から）



ST375・EL617調査状況（西から）



ST375完掘状況（西から）



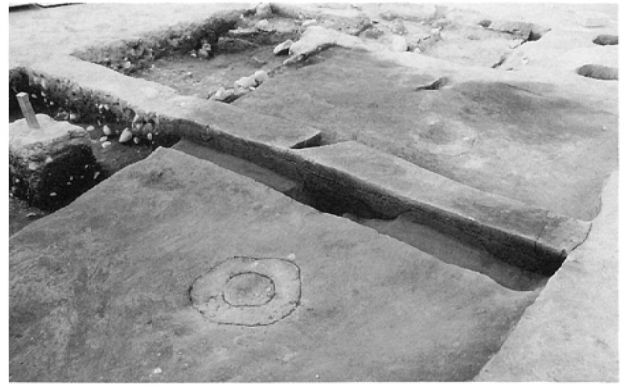
ST465完掘状況（南西から）



ST1276完掘状況（北西から）



ST498・RP 8 出土状況 (南西から)



ST498土層断面 (南東から)



ST498床面検出状況 (北から)



ST498完掘状況 (北から)



ST508検出状況 (北から)



ST508床面検出状況 (北から)



ST508完掘状況 (北から)

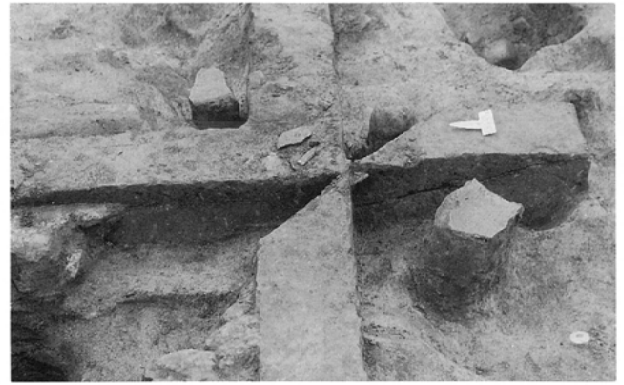


ST584完掘状況 (北から)

図版 8



ST1120調査状況（北から）



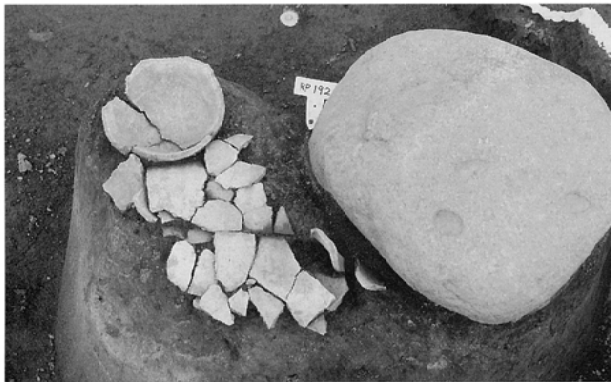
ST1120・EL1159土層断面（南東から）



ST1120完掘状況（北から）



ST944完掘状況（東から）



ST1190・RP192出土状況（南から）



ST1190完掘状況（南から）



ST970・EL1366土層断面（南西から）



ST970完掘状況（東から）



ST729検出状況（南から）



ST751検出状況（南から）



ST729床面検出状況（北から）



ST751床面検出状況（北から）



ST729・ST751完掘状況（北から）



SG300土層断面（南東から）



SB1347完掘状況（南から）



SE 265検出状況（西から）



SE 266・SE 566検出状況（南から）



SE 119検出状況（北東から）



SE 116・SE 175検出状況（東から）



SE 116・SE 175土層断面（東から）



SE19土層断面 (北から)



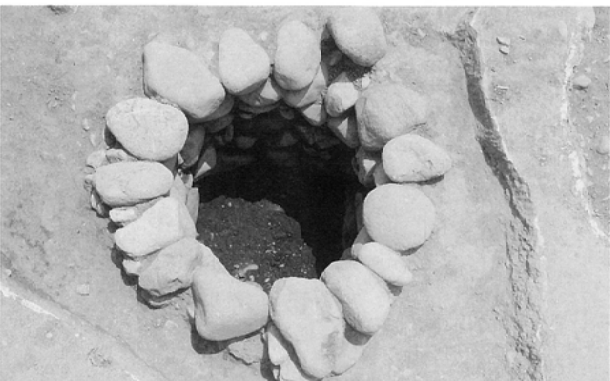
SE220検出状況 (東から)



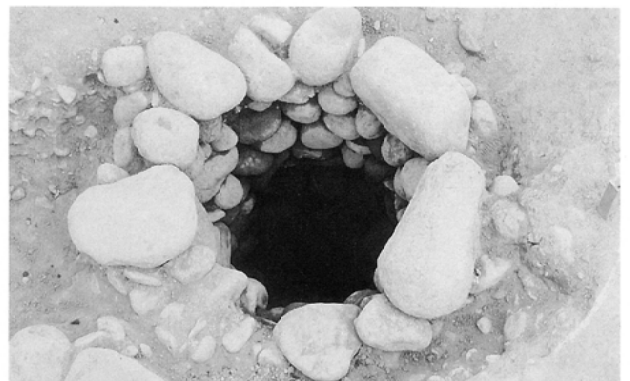
SE55完掘状況 (東から)



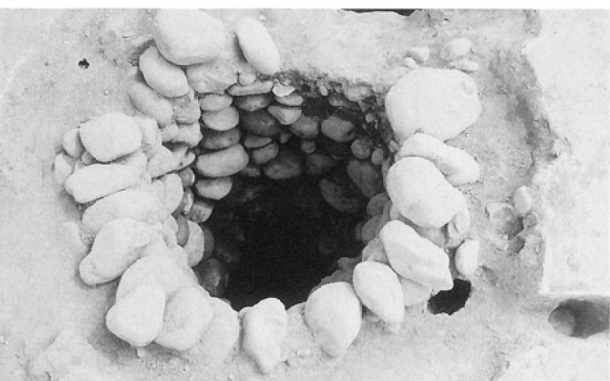
SE387完掘状況 (西から)



SE319完掘状況 (西から)



SE390完掘状況 (西から)



SE358完掘状況 (北から)

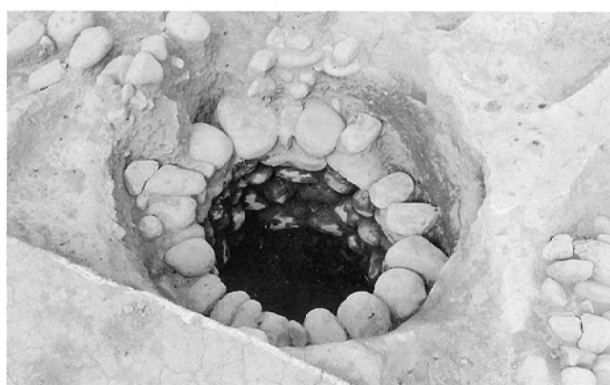


SE359完掘状況 (西から)

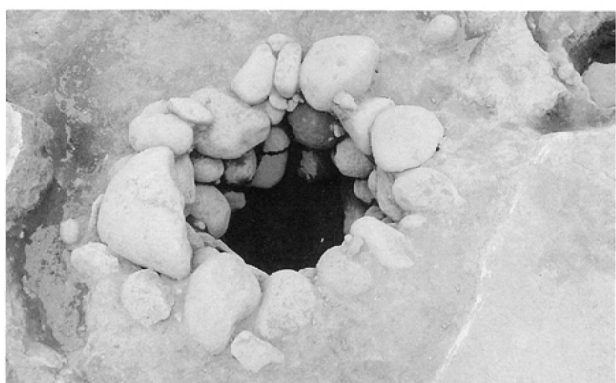




SE 392・SE 393完掘状況（西から）



SE 403完掘状況（南から）



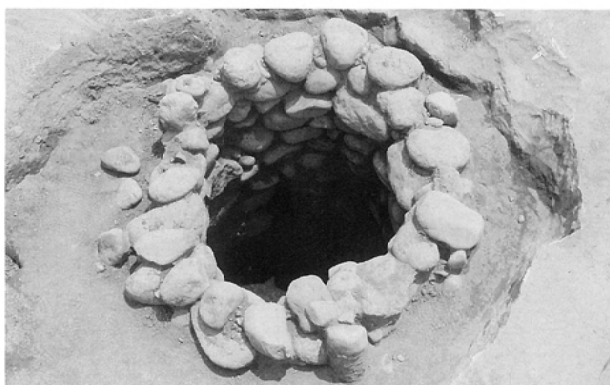
SE 394完掘状況（東から）



SE 467完掘状況（南から）



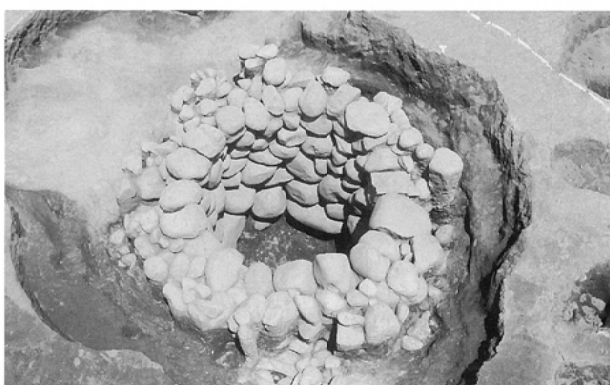
SE 523完掘状況（西から）



SE 385完掘状況（西から）



SE 370完掘状況（南から）



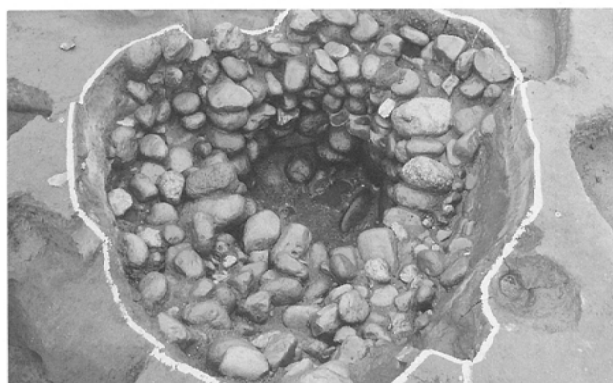
SE 435完掘状況（南から）



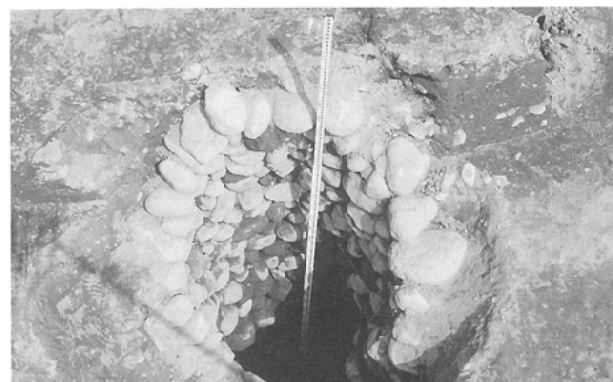
SE212検出状況 (南東から)



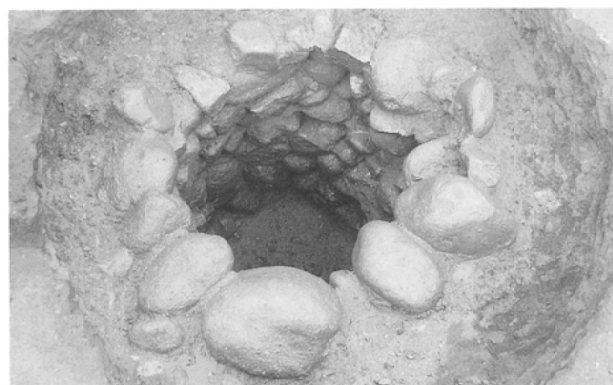
SE52検出状況 (南から)



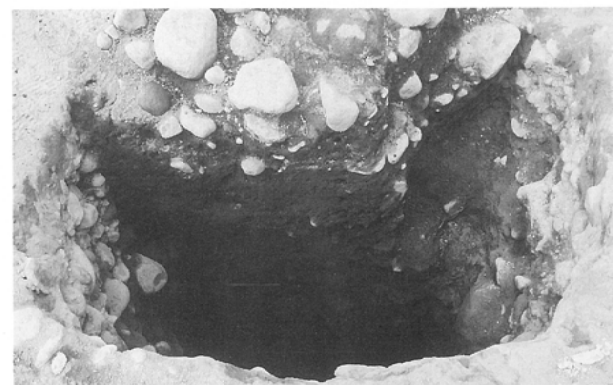
SE29完掘状況 (南から)



SE860完掘状況 (西から)



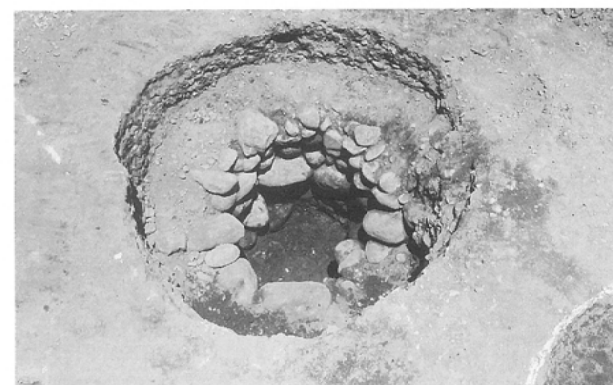
SE1266完掘状況 (南から)



SE624土層断面 (南から)



SE693上部土層断面 (南から)



SE693完掘状況 (南から)



SE654検出状況（西から）



SE804検出状況（北から）



SE692土層断面（西から）



SE613完掘状況（東から）



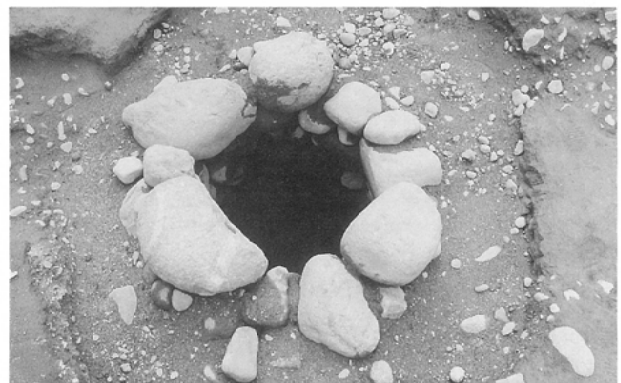
SE536検出状況（北から）



SE587完掘状況（南から）



SE1225完掘状況（南から）



SE999完掘状況（西から）

図版16



SX1024完掘状況（北から）



SX360検出状況（北西から）



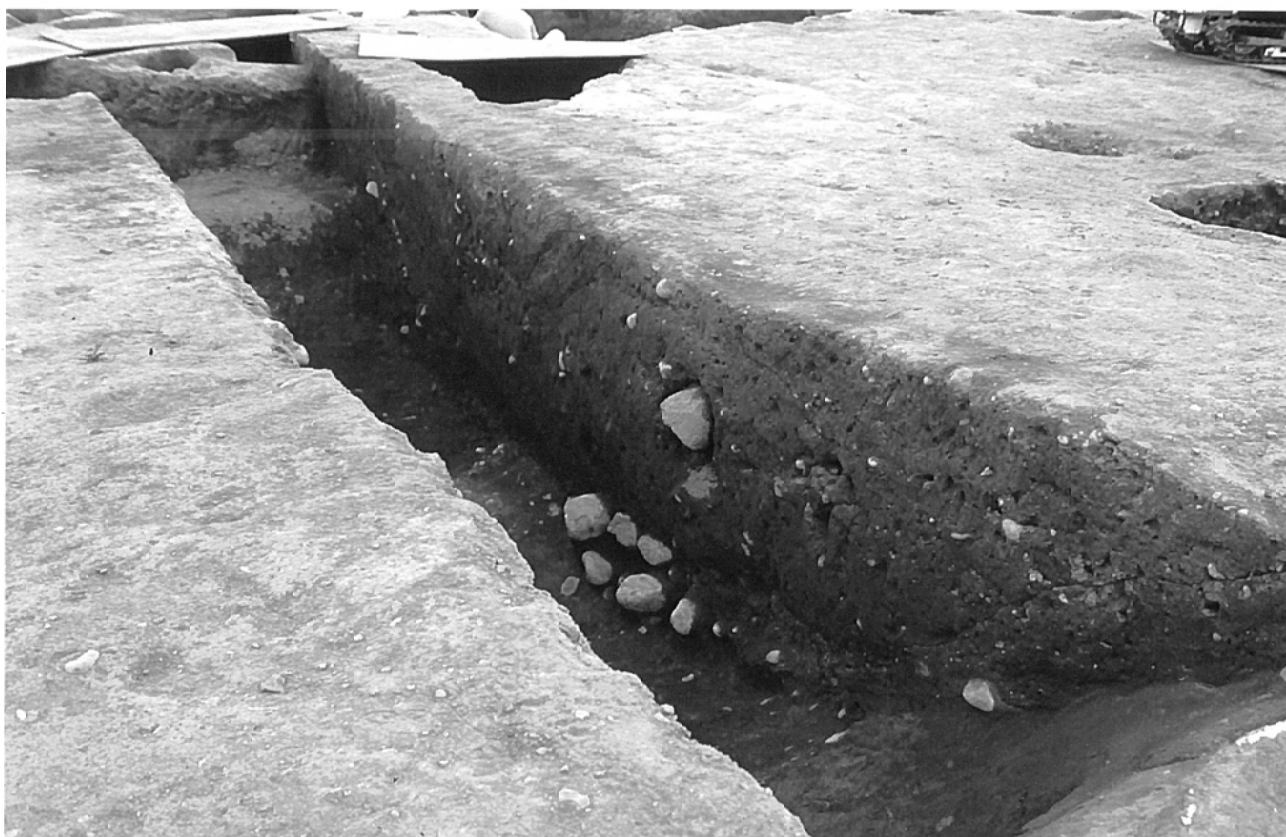
SX360調査状況（北から）



SX360完掘状況（北から）



SX360完掘状況（南東から）



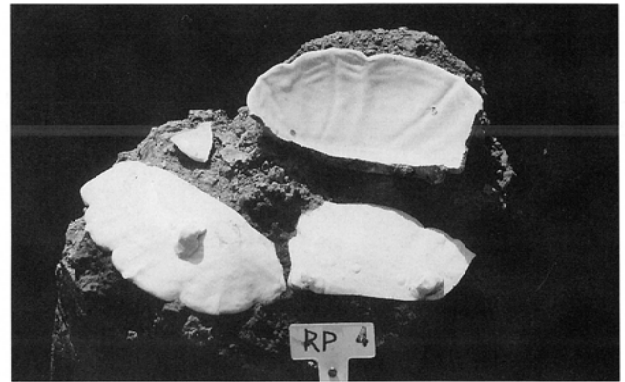
SD555土層断面（南東から）



SD 9 土層断面（南から）



SD33土層断面 (南から)



SD33・RP 4 出土状況 (東から)



SD33・RP 6 出土状況 (西から)



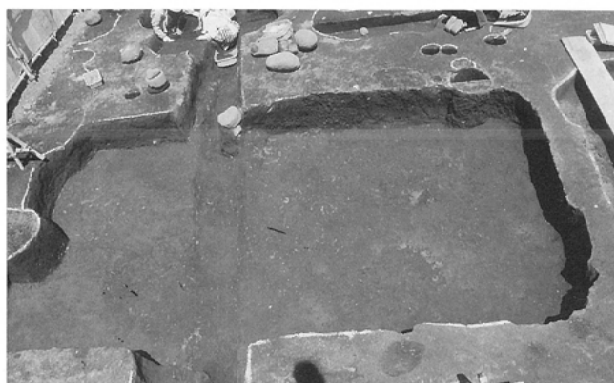
SD82土層断面 (南から)



SD82・SD41土層断面 (南から)



SK20土層断面（南西から）



SK21完掘状況（南から）



SK1239完掘状況（東から）



SK122土層断面（南から）



SK186土層断面（北から）



SK295土層断面（南から）



SK502・SK1390土層断面（西から）



SK522土層断面（西から）



SK 37土層断面 (南西から)



SK 56土層断面 (西から)



SK 37・RP 3 出土状況 (南東から)



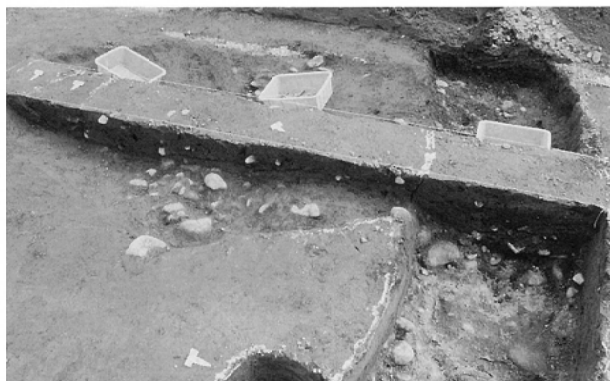
SK 56・RM 1 出土状況 (東から)



SK 787~SK 789調査状況 (南から)



SK 790調査状況 (西から)

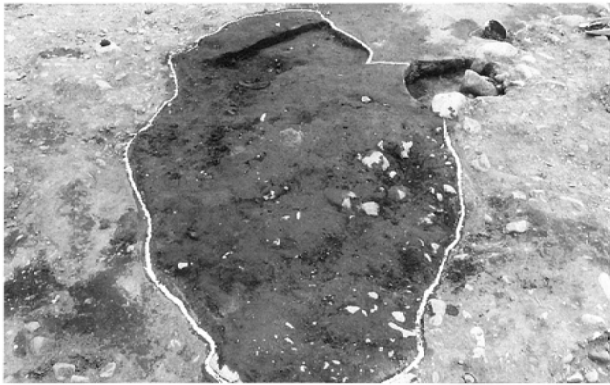


SK 1296土層断面 (北から)



SK 1228土層断面 (南から)





SK695検出状況（西から）



SK695スラグ出土状況（南から）



SK695・RP63出土状況（東から）



SK695土層断面（北東から）



SK695完掘状況（北から）



SK604土層断面（南東から）



SK602土層断面（東から）



SK696土層断面（東から）



SK697土層断面（東から）



SK699調査状況（南から）



SK648土層断面（北東から）



SK1053・SK1055土層断面（西から）



SK1054土層断面（南から）



SK909調査状況（東から）



SK909遺物出土状況（南東から）



SK909・RP130～133出土状況（西から）



SK909南北ベルト南半付近遺物出土状況（南東から）



SK909完掘状況（南東から）

図版24



SK941土層断面（南から）



SK906土層断面（西から）



SK1183遺物出土状況（東から）



SK1183調査状況（南から）



SK1183土層断面（北東から）



SK954・SK955土層断面（西から）



SK955土層断面（西から）



SK507完掘状況（北から）



SK552土層断面（東から）



SK552完掘状況（西から）



SK925調査状況（南から）



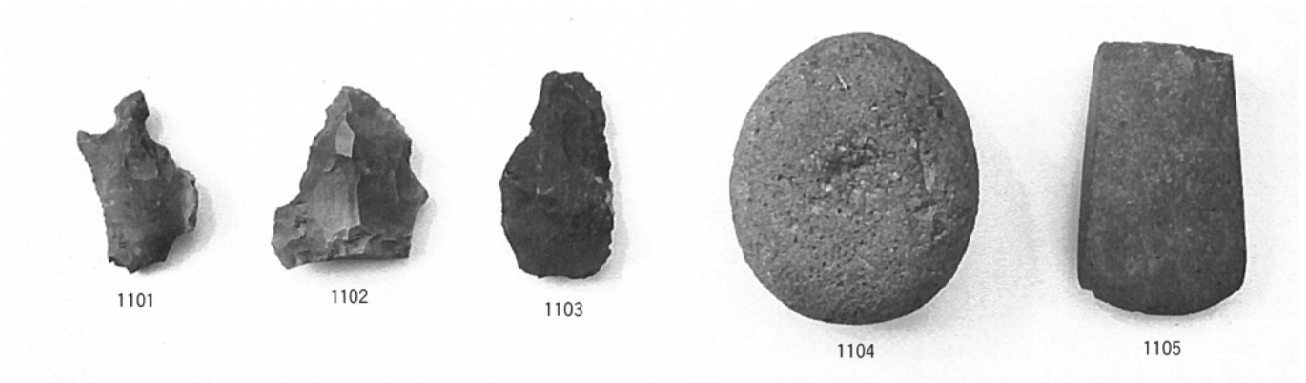
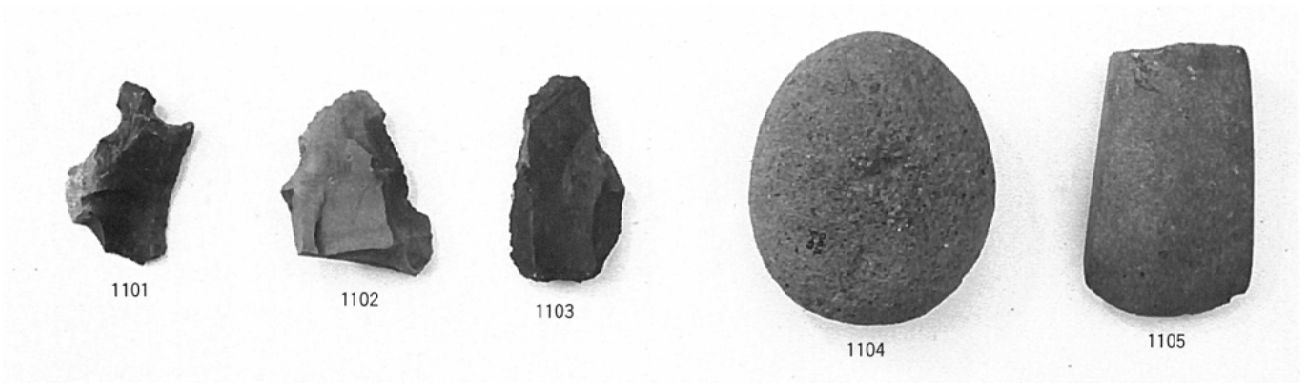
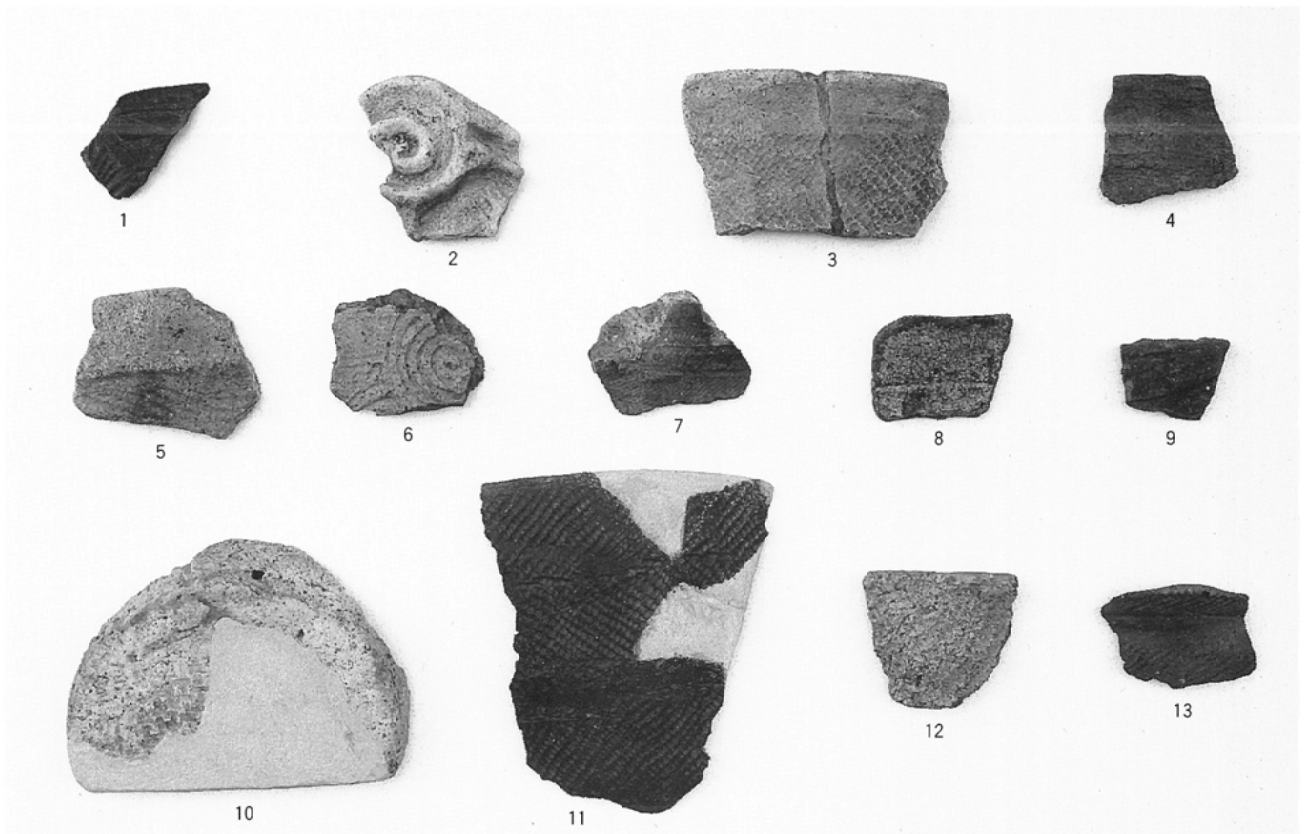
SK904土層断面（東から）



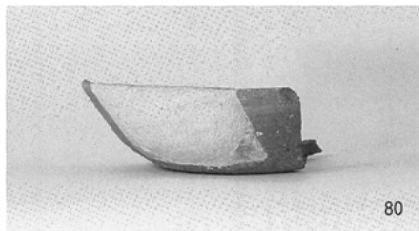
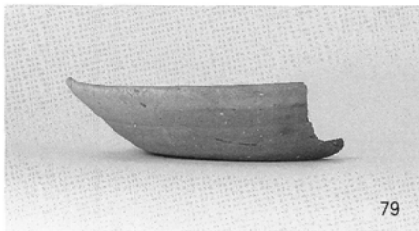
SK987土層断面（東から）



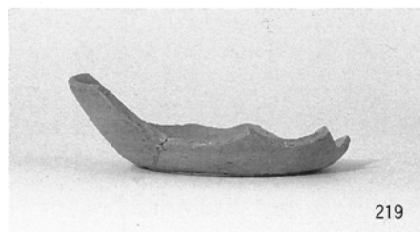
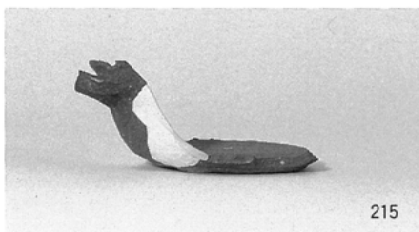
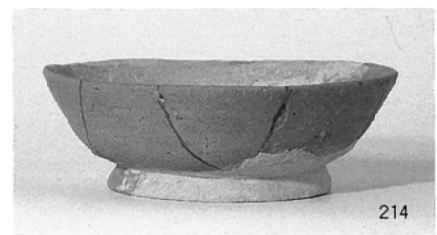
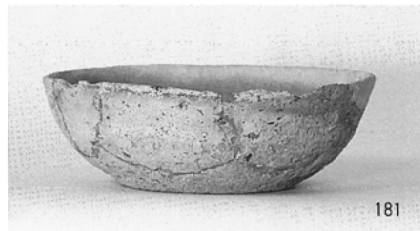
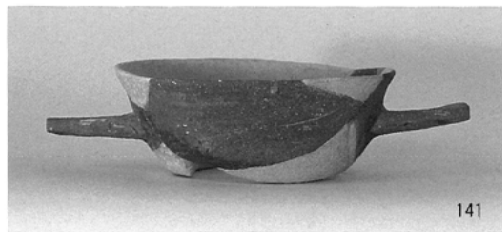
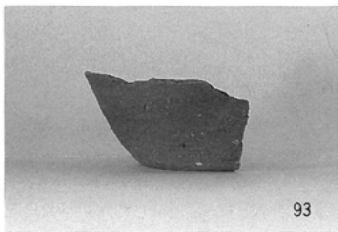
調査区完掘状況（↑西）



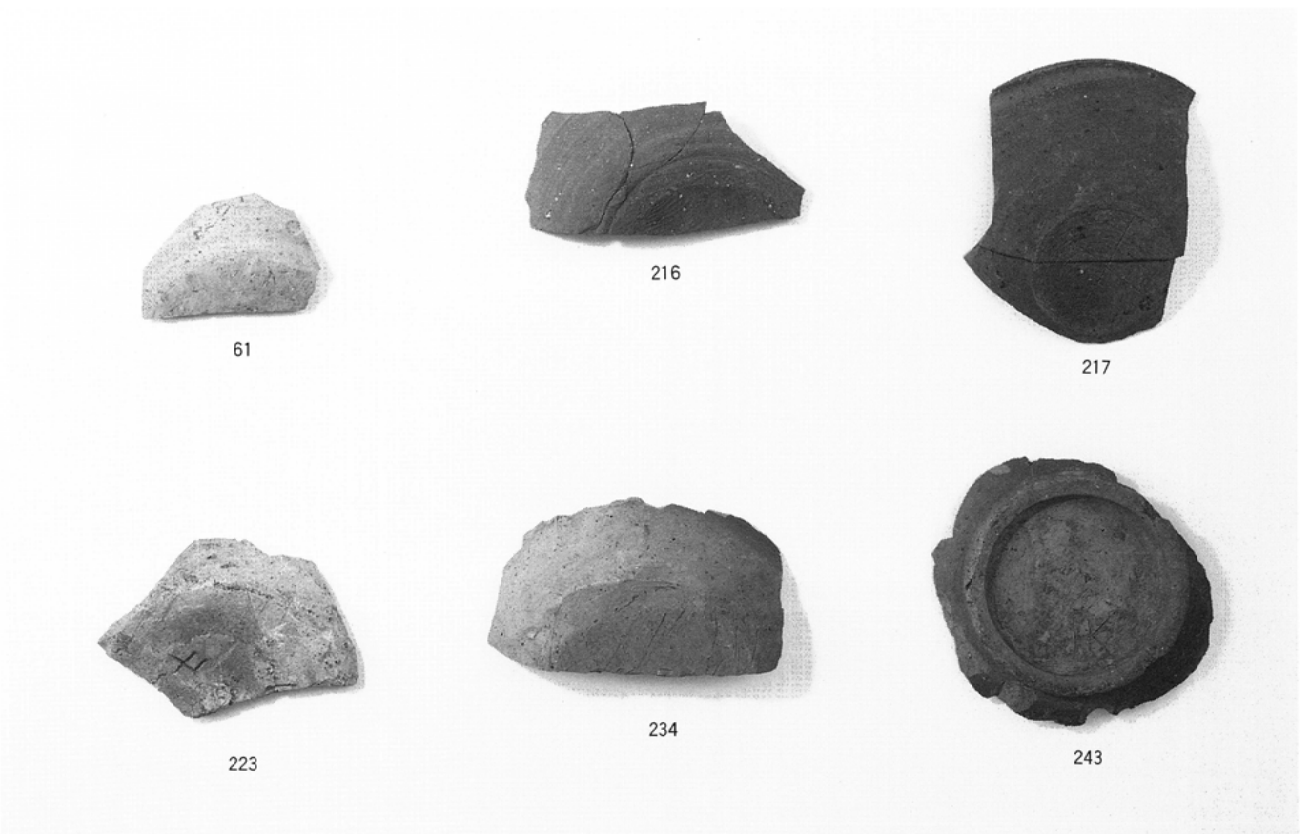
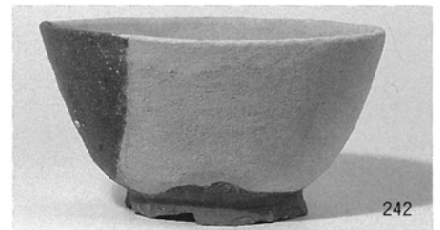
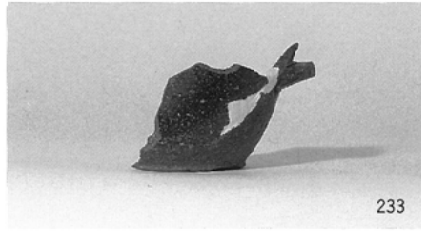
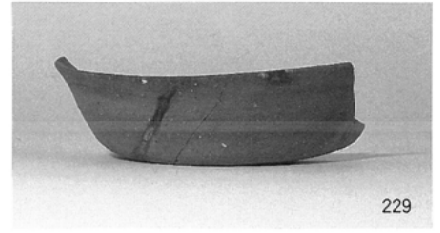
図版28

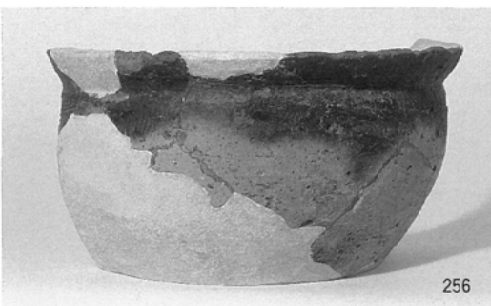
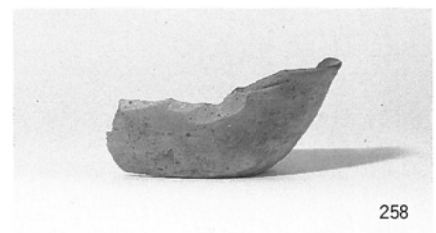
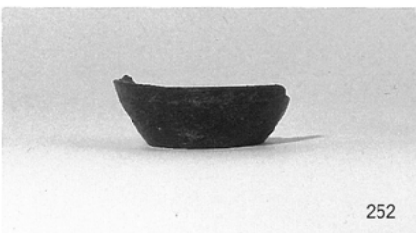
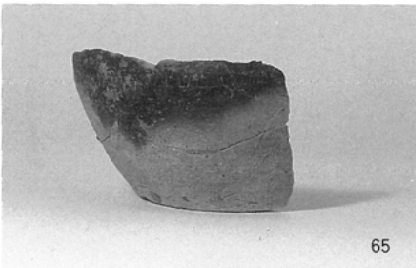
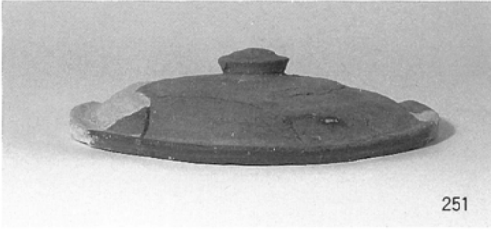
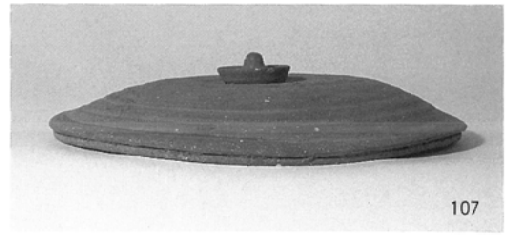




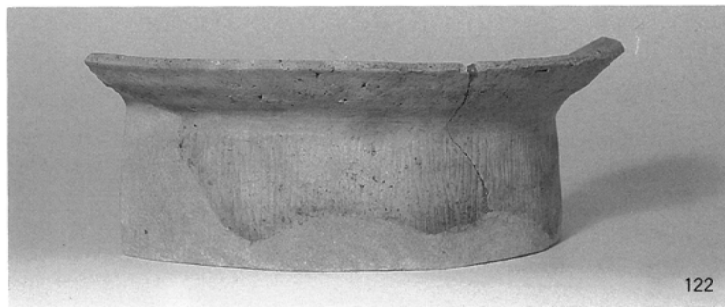
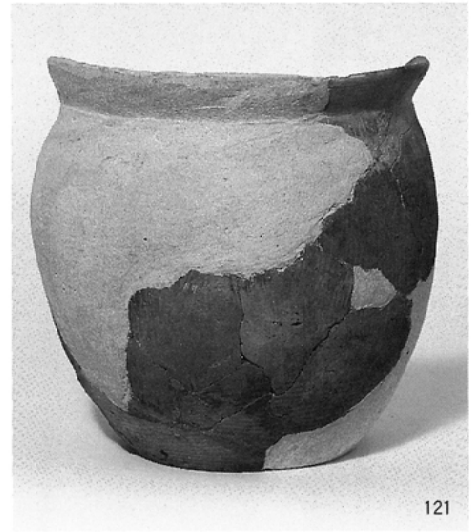
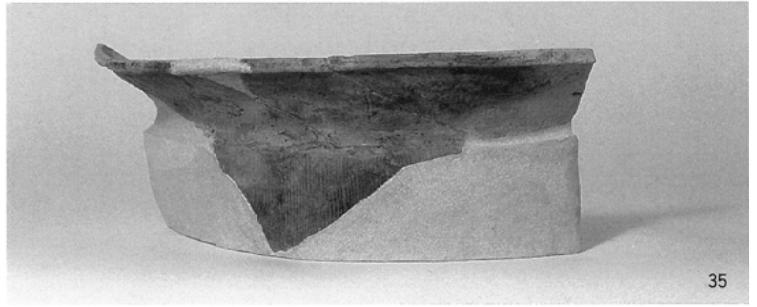
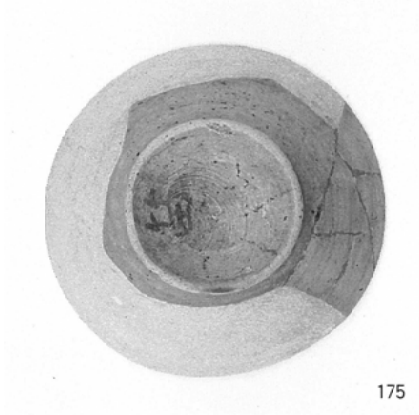
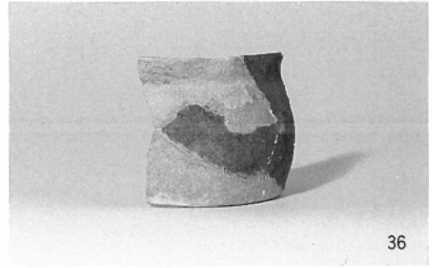


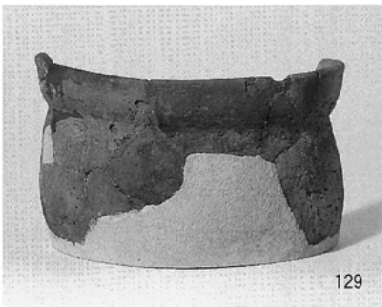
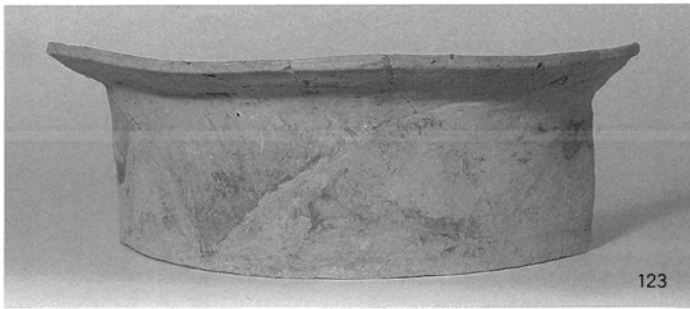
图版30

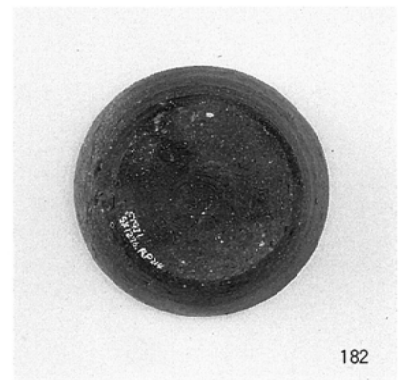
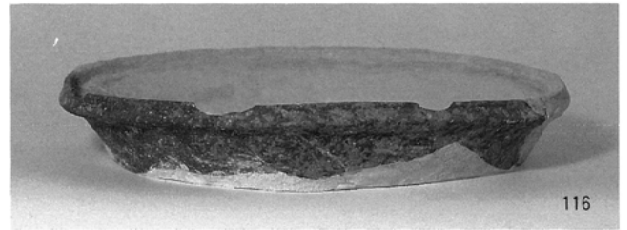


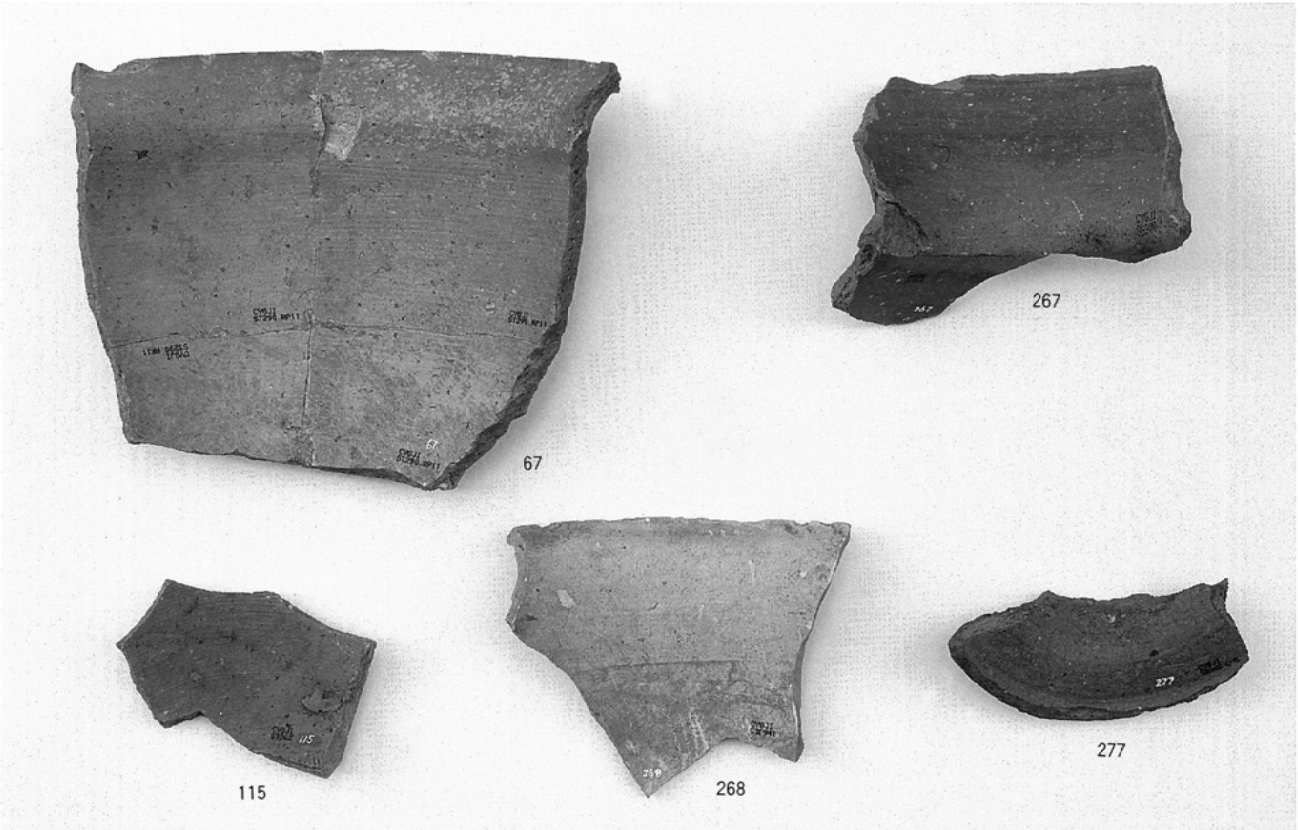


図版32

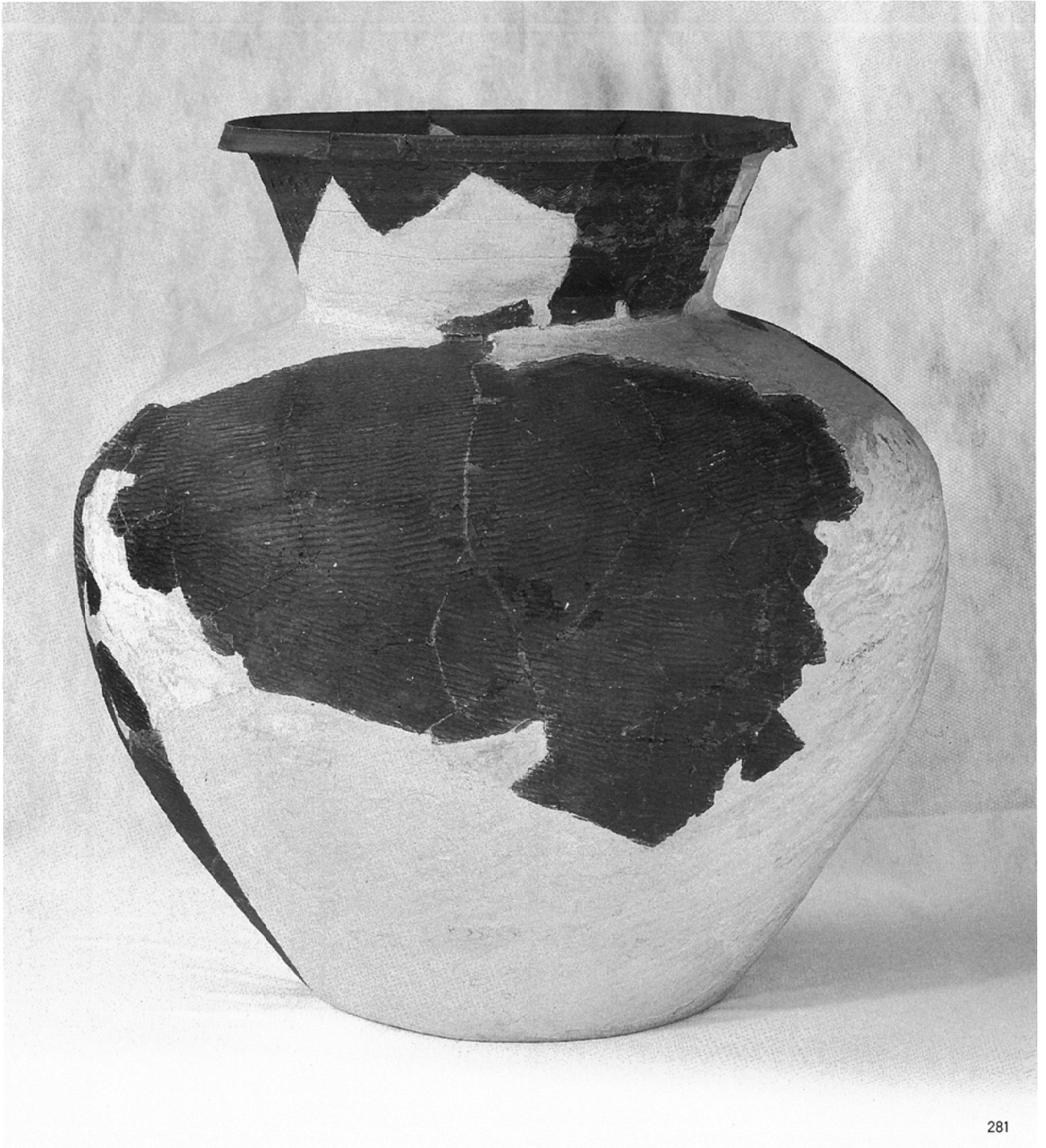








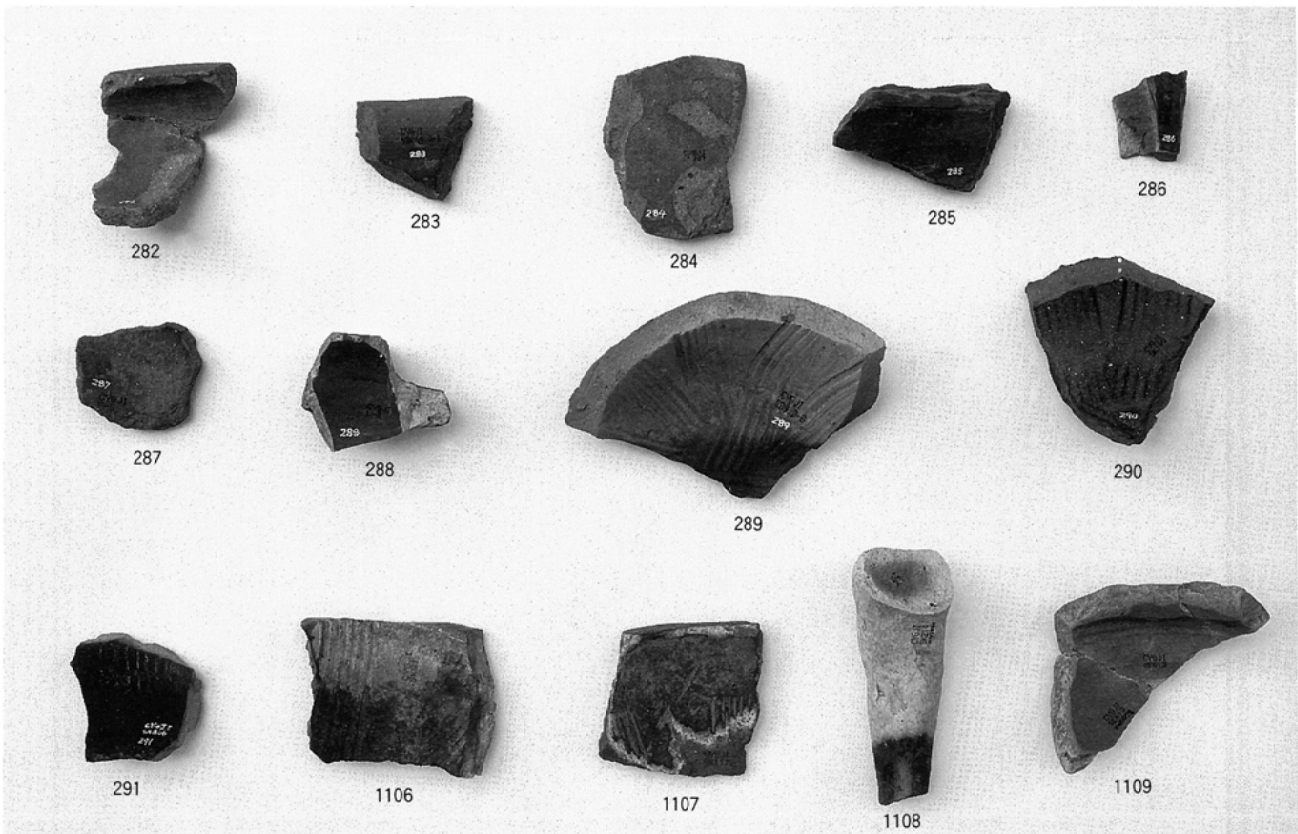
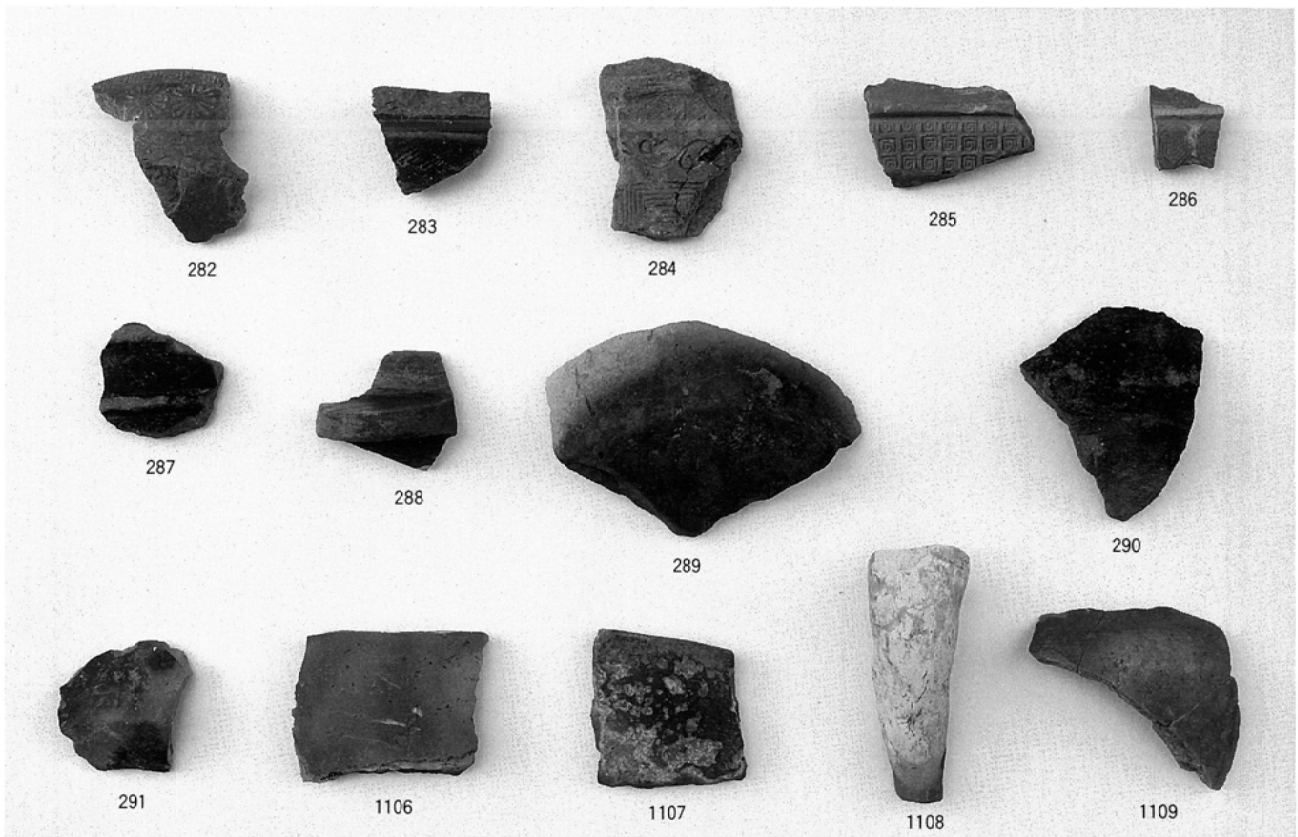
土器(8) S=1/3

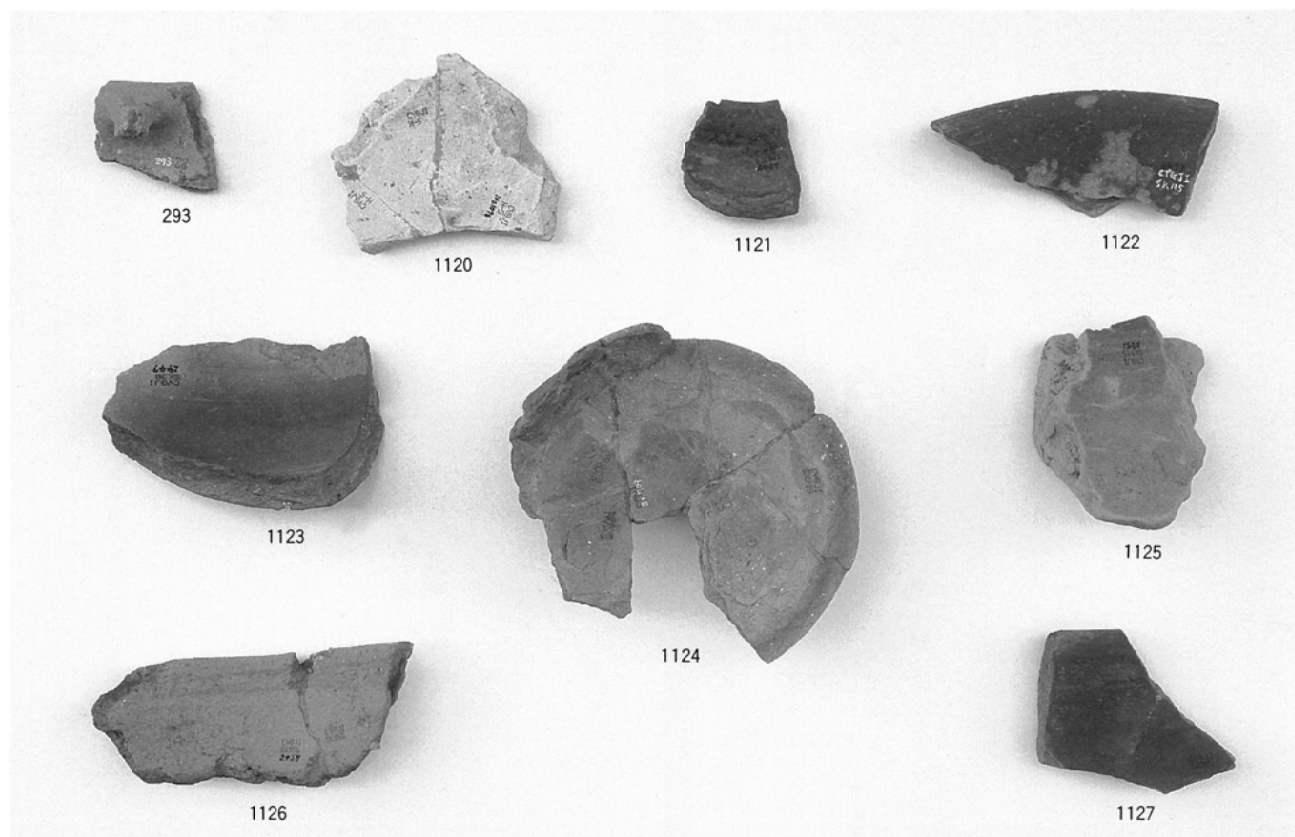
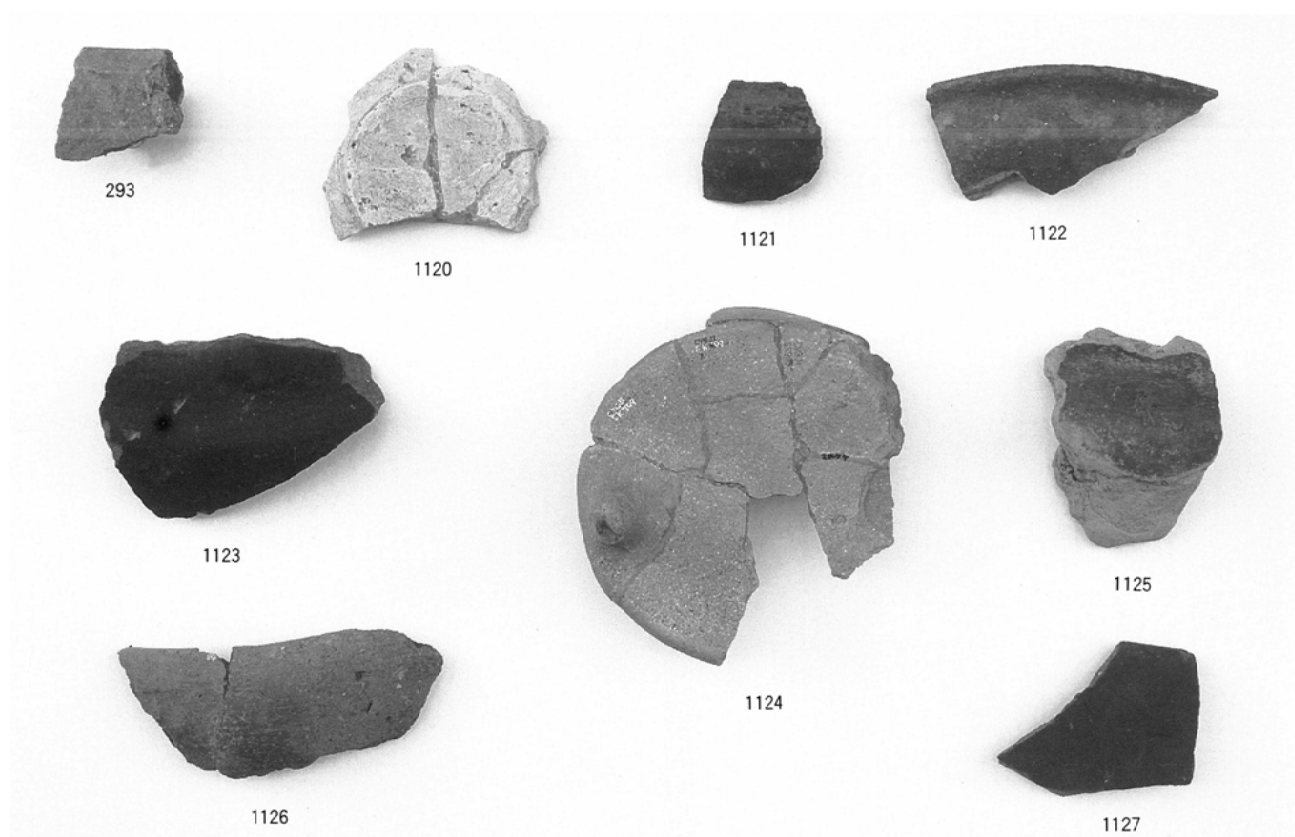


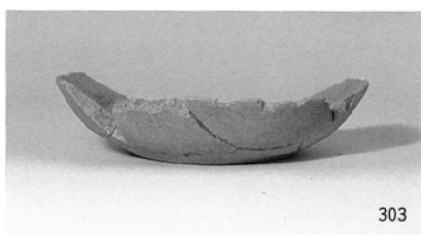
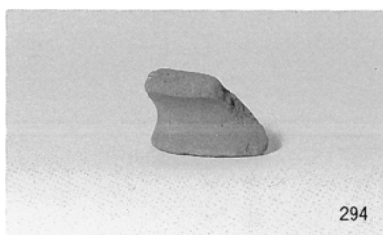
281

土器(9) S = 1/4

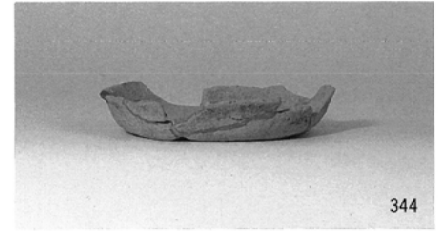
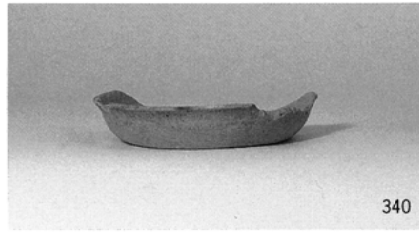


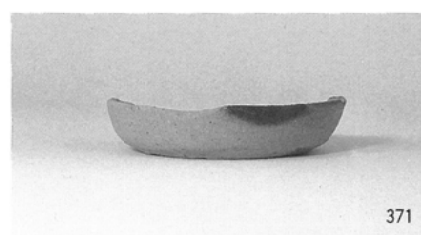
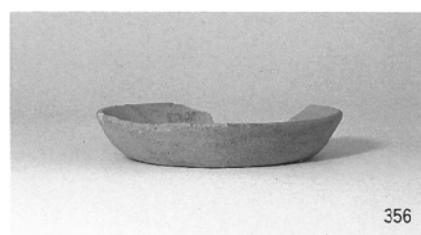




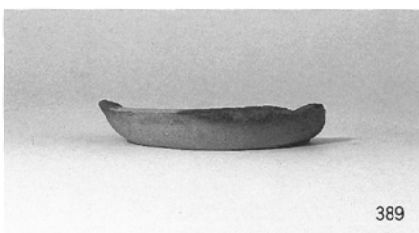
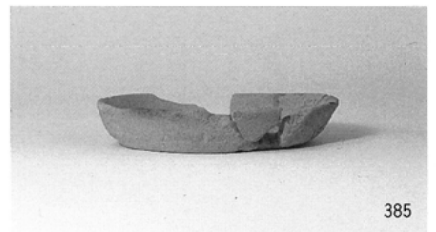


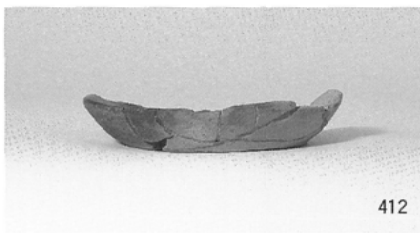
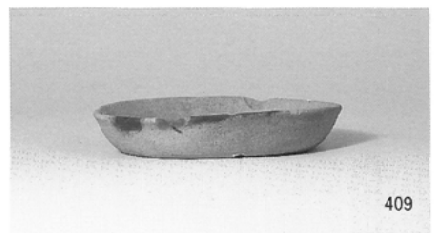
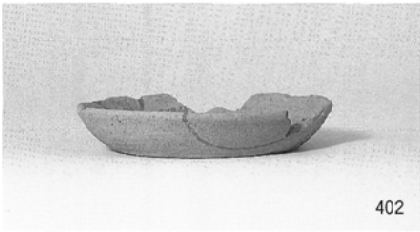
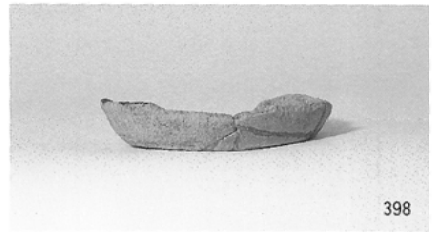
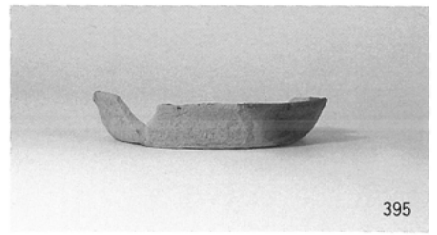
図版40



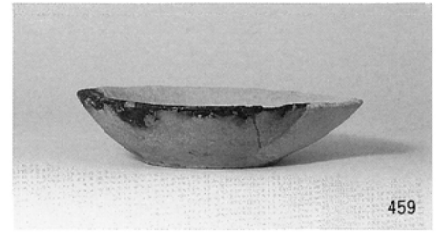
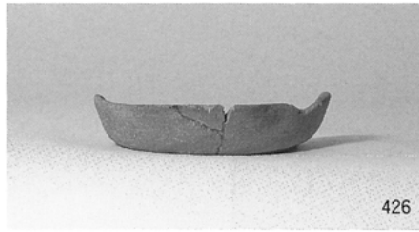
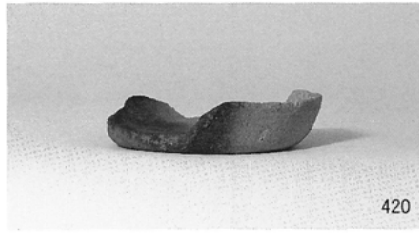
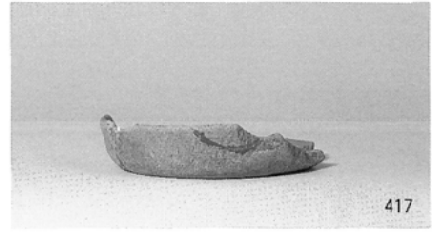
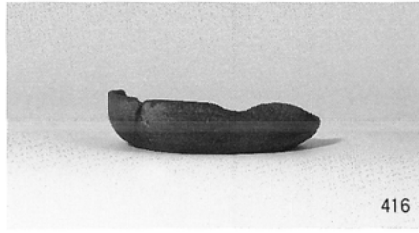


図版42

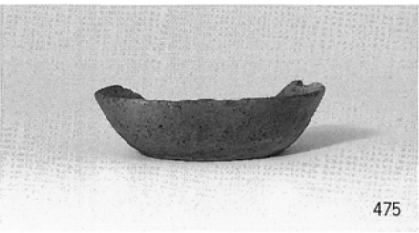
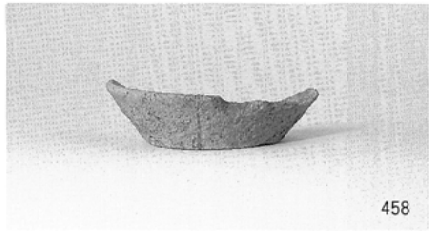
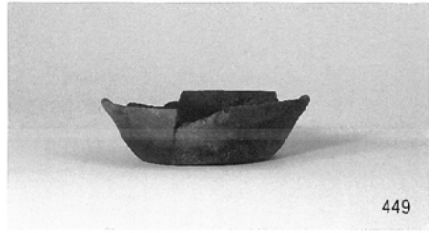




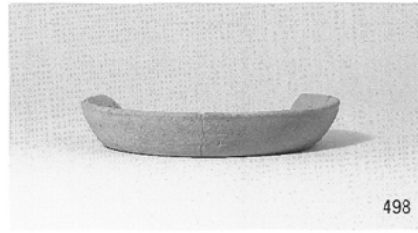
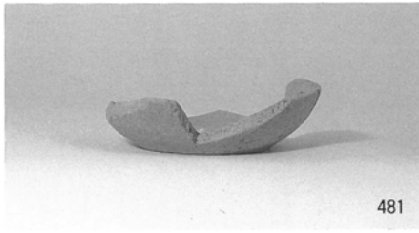
図版44

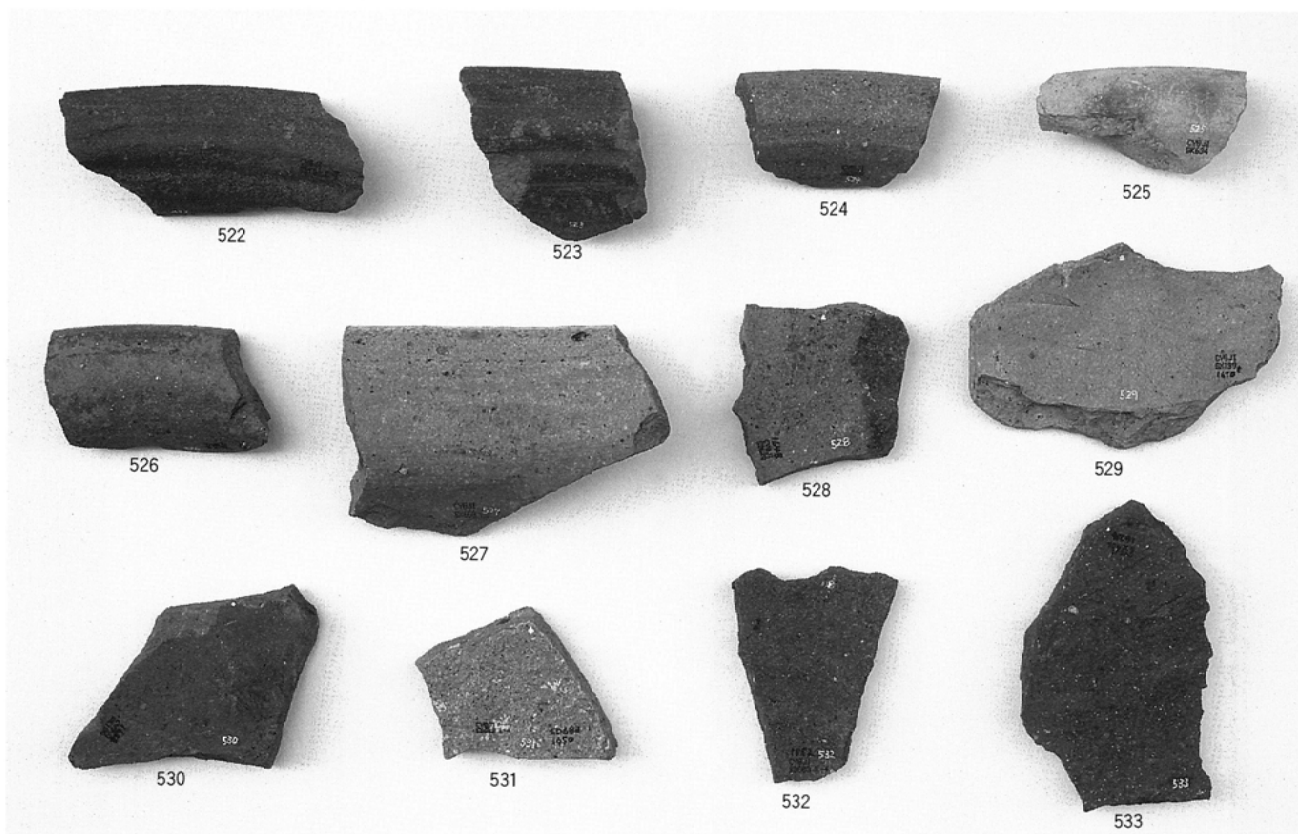
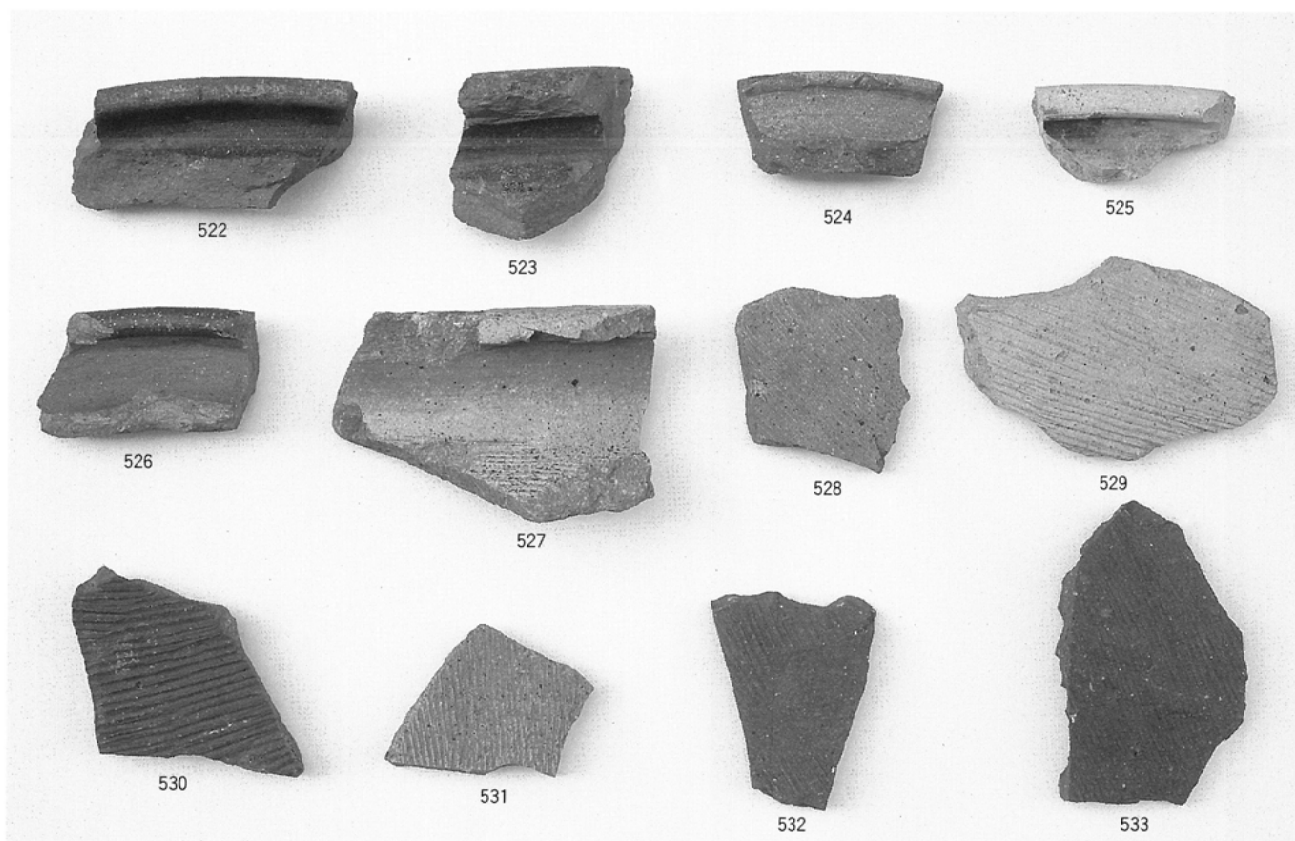


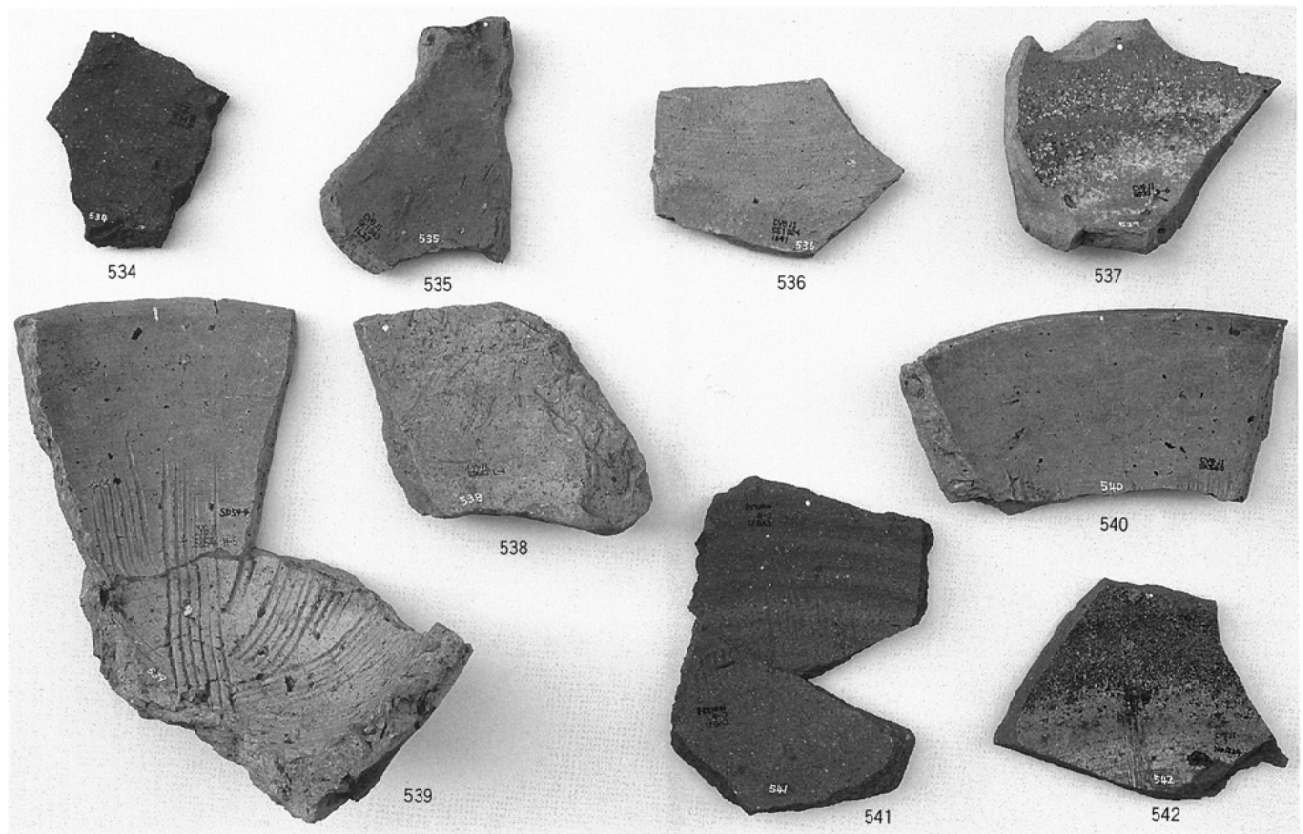
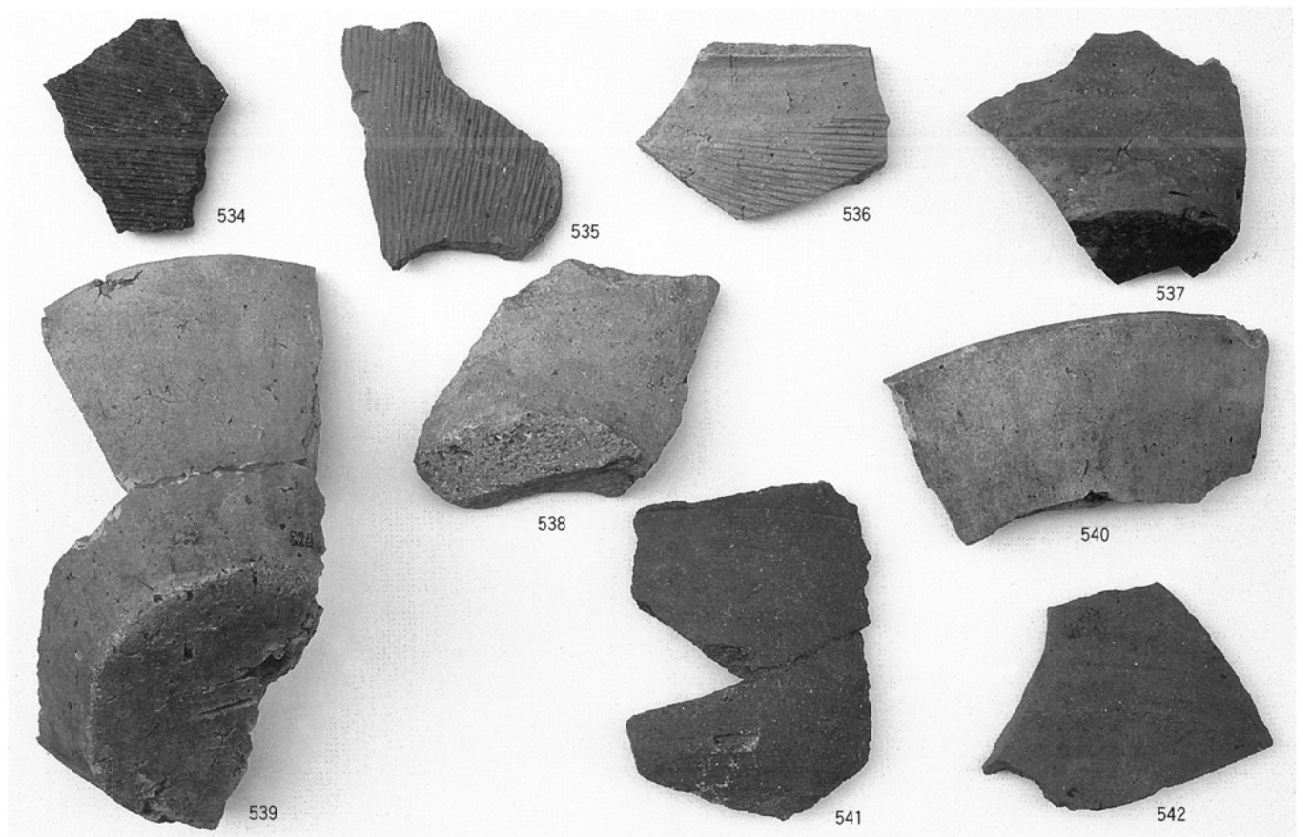


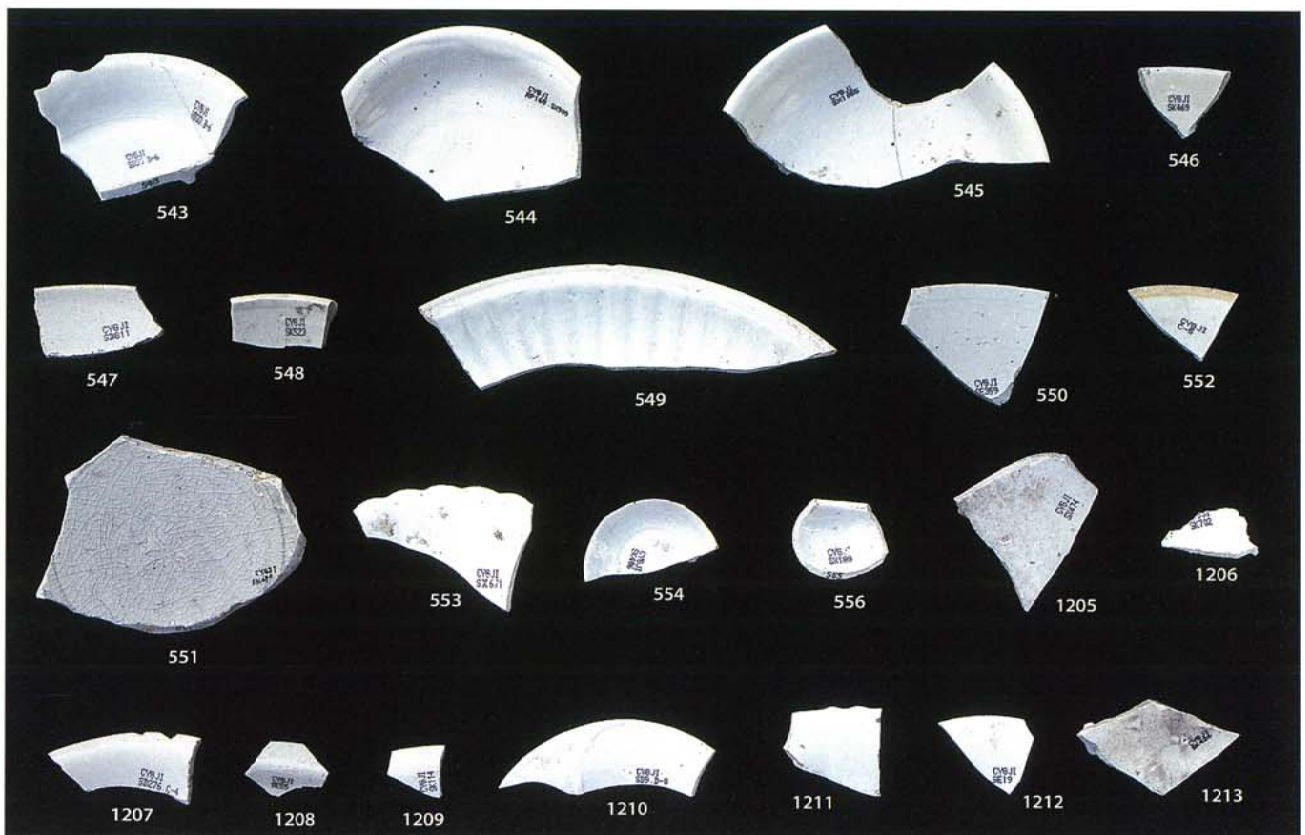
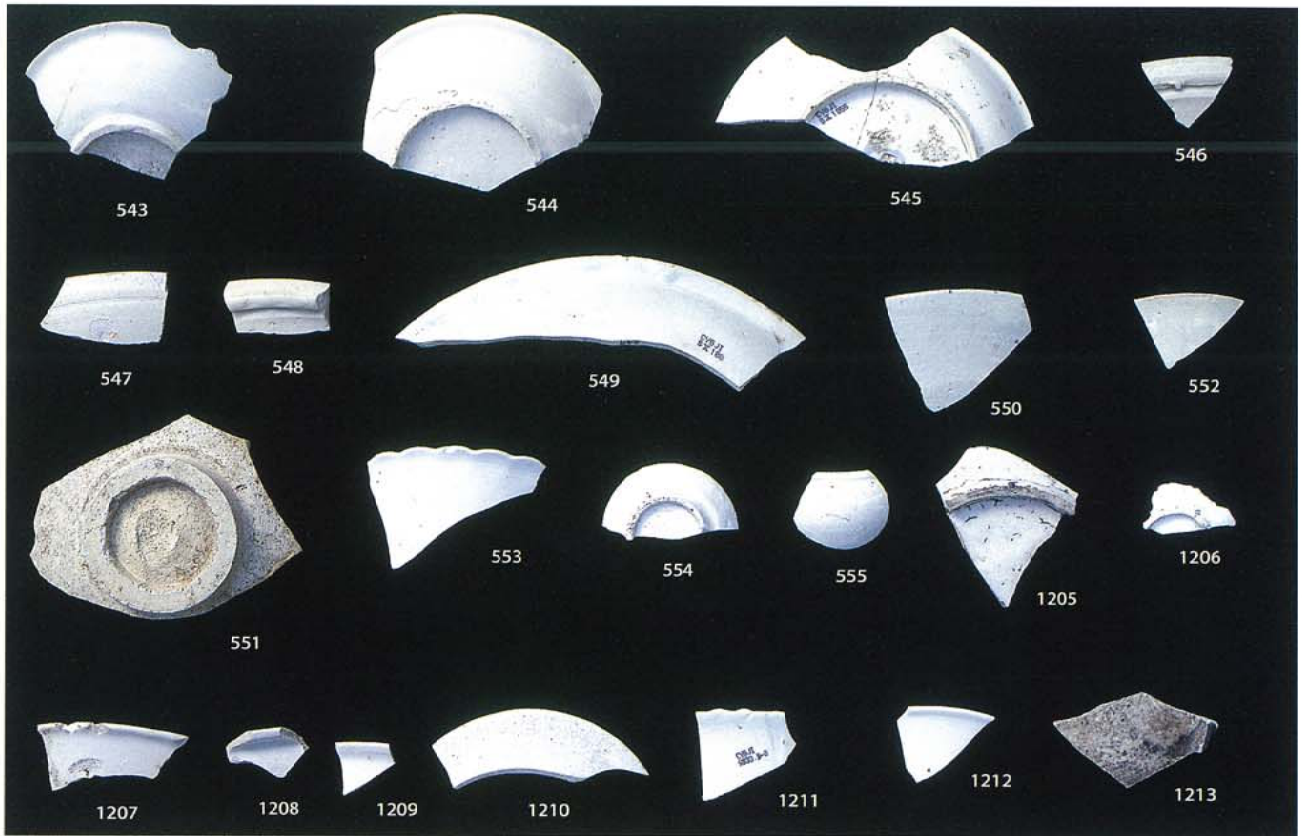


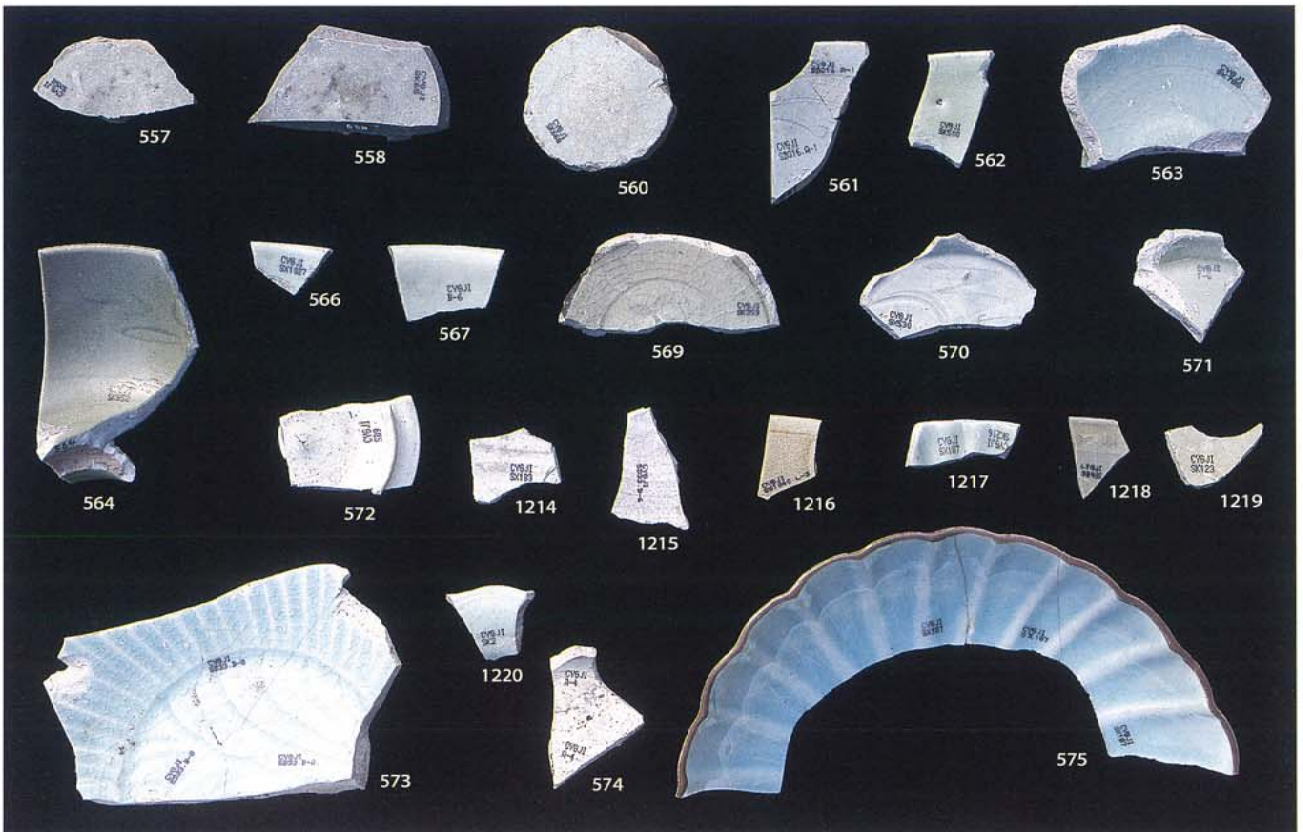
图版46

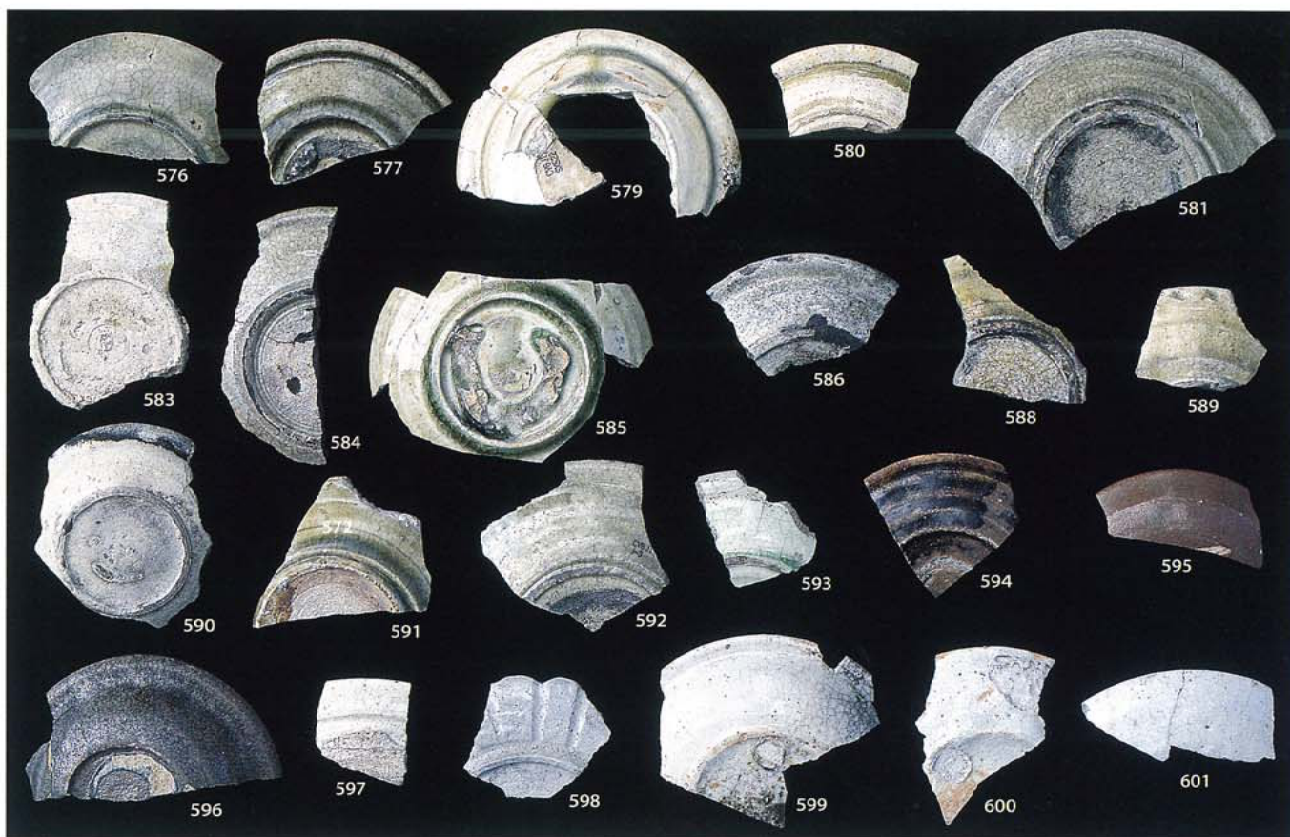
















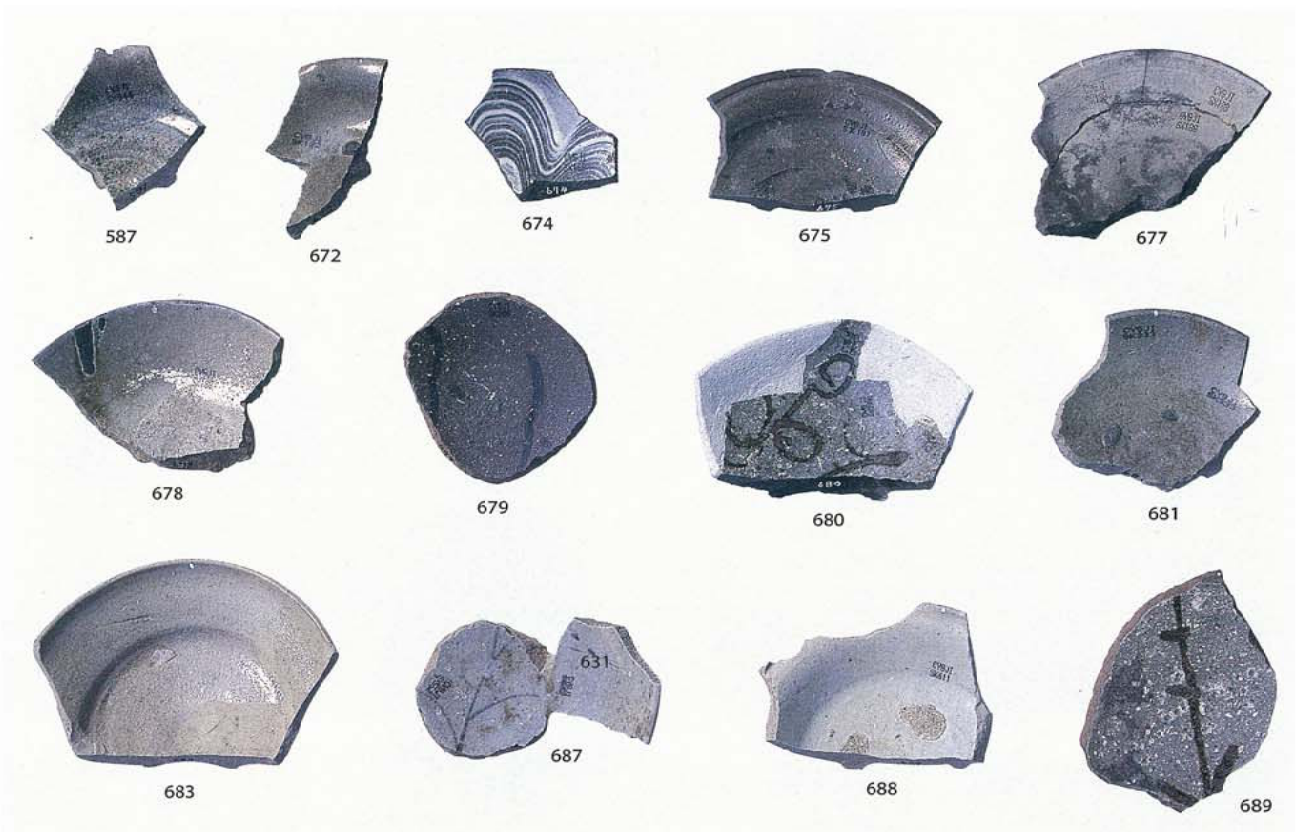
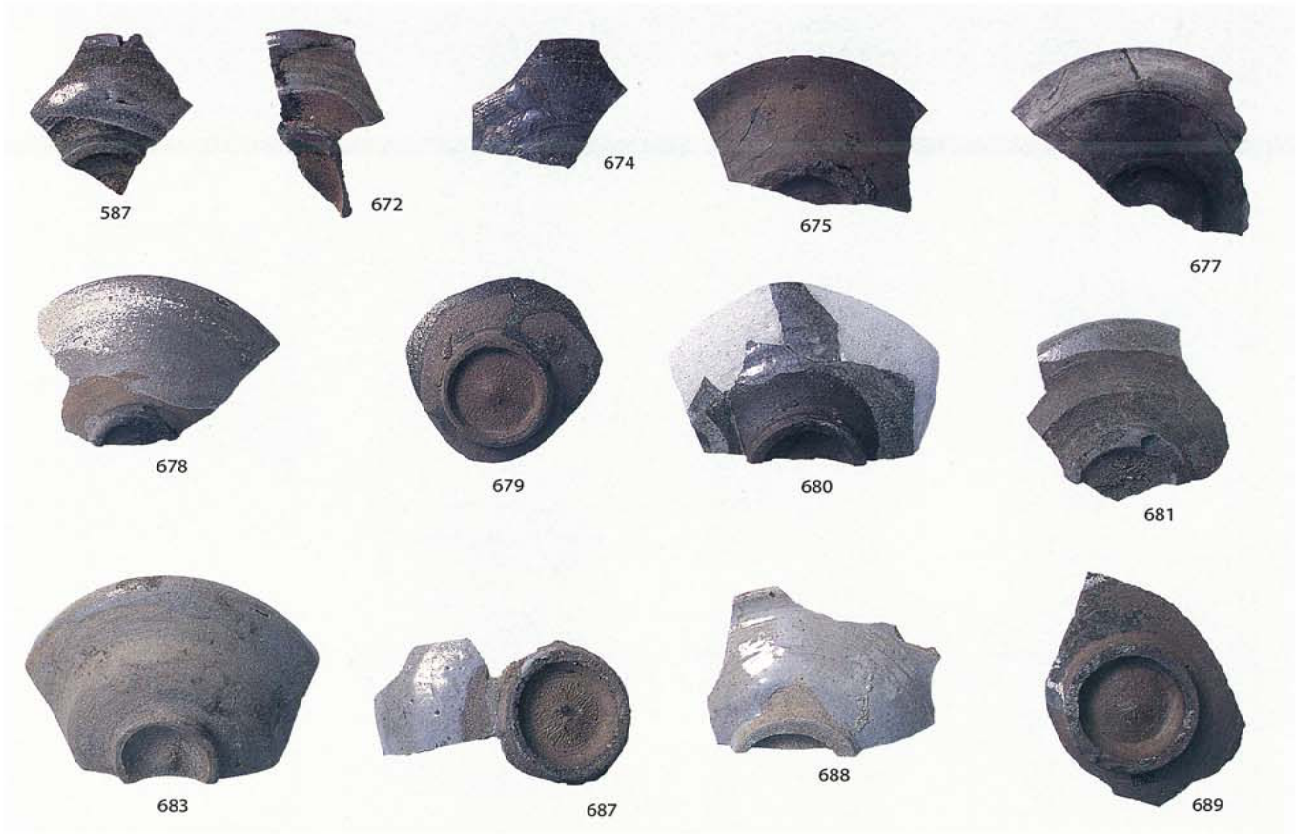


陶磁器 (7) S=1/3

图版54



陶磁器 (8) S=1/3

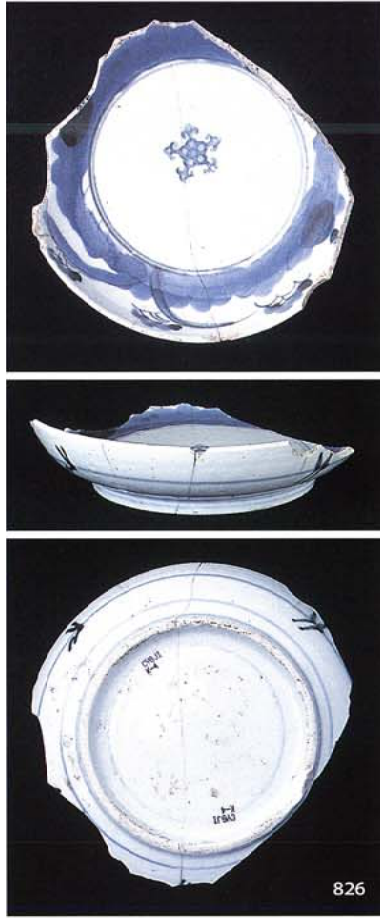
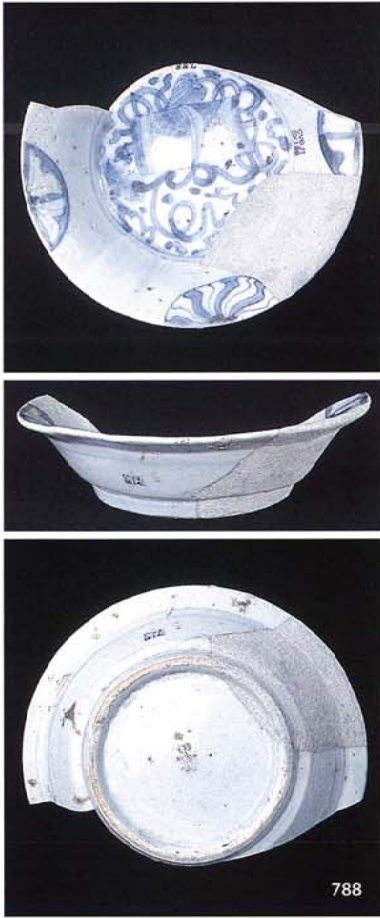


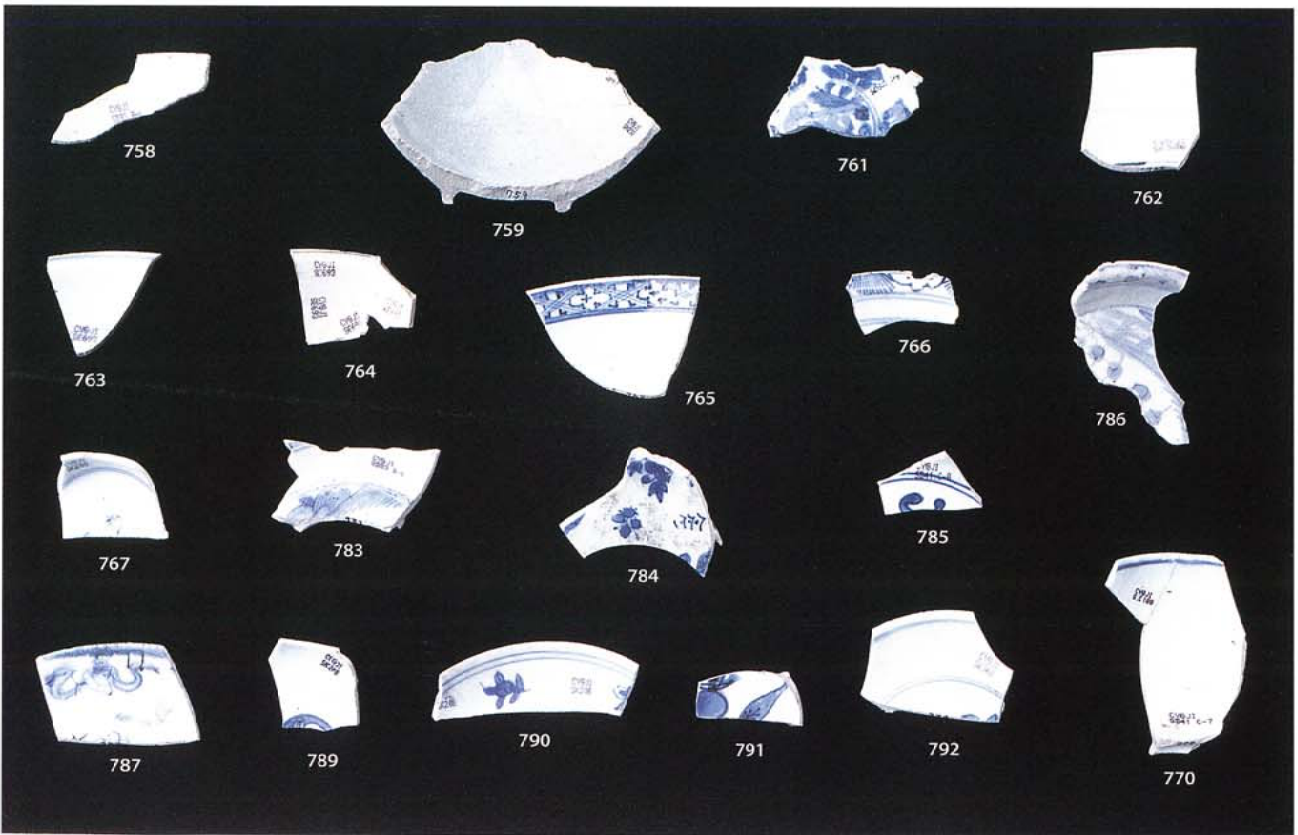
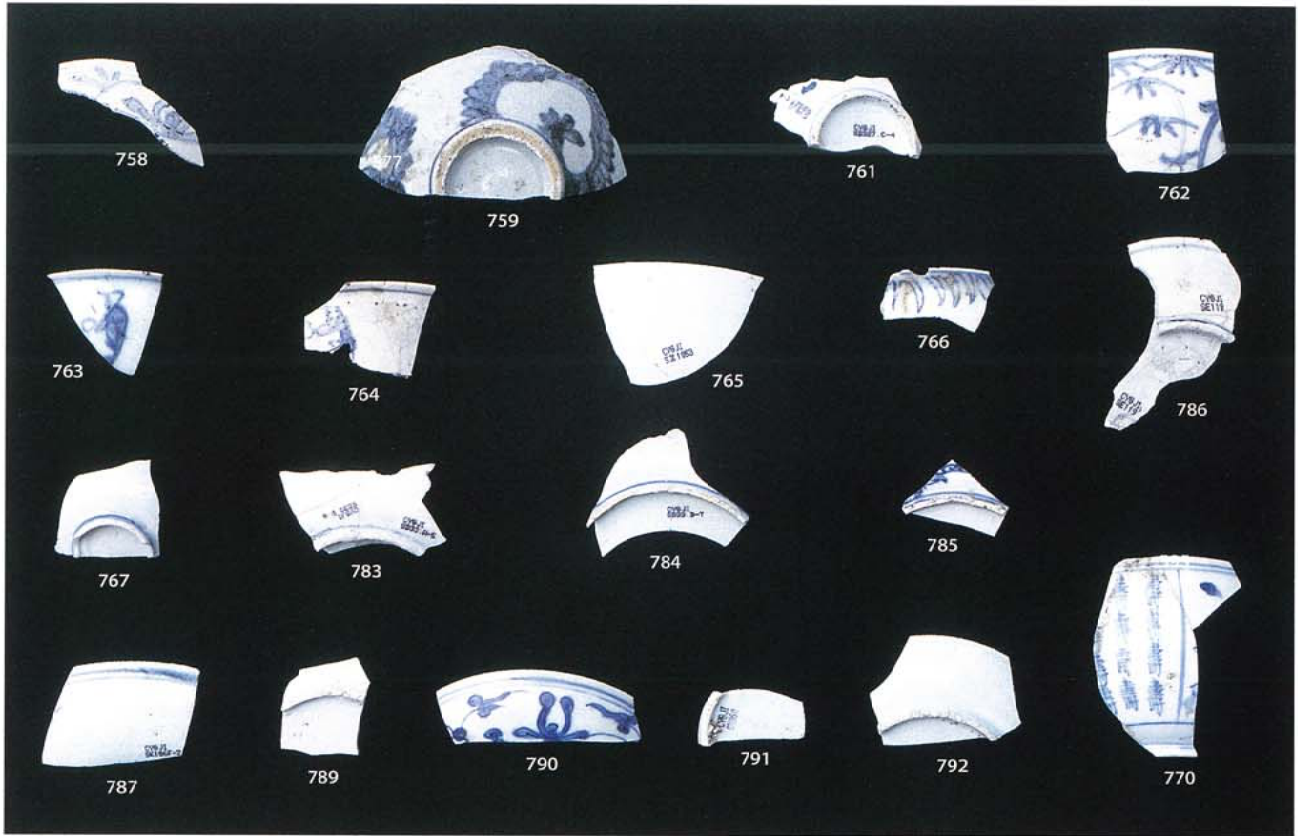
陶磁器 (9) S=1/3



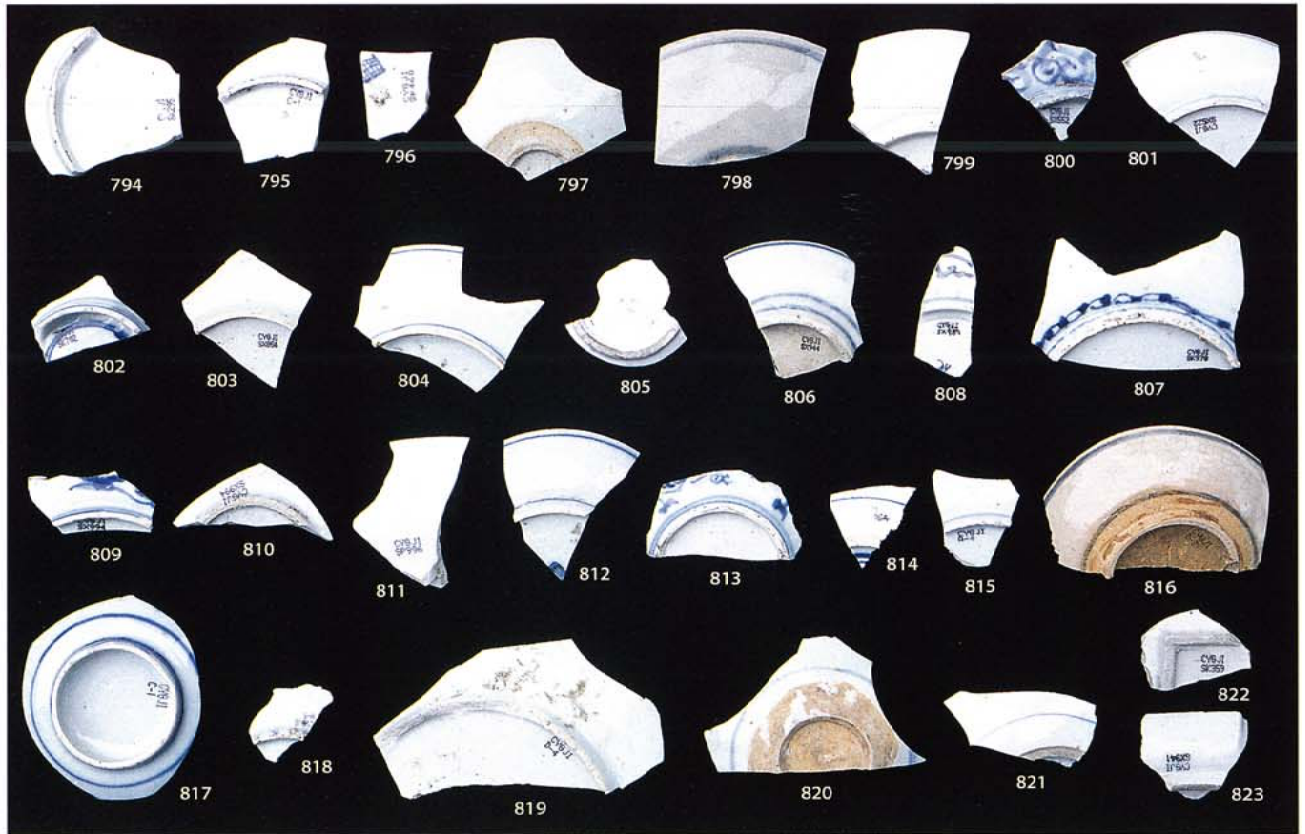


陶磁器 (11) S=1/3





陶磁器 (13) S=1/3







793

1/3



1227

1/3



1225

1/3



1228

1/3



1237

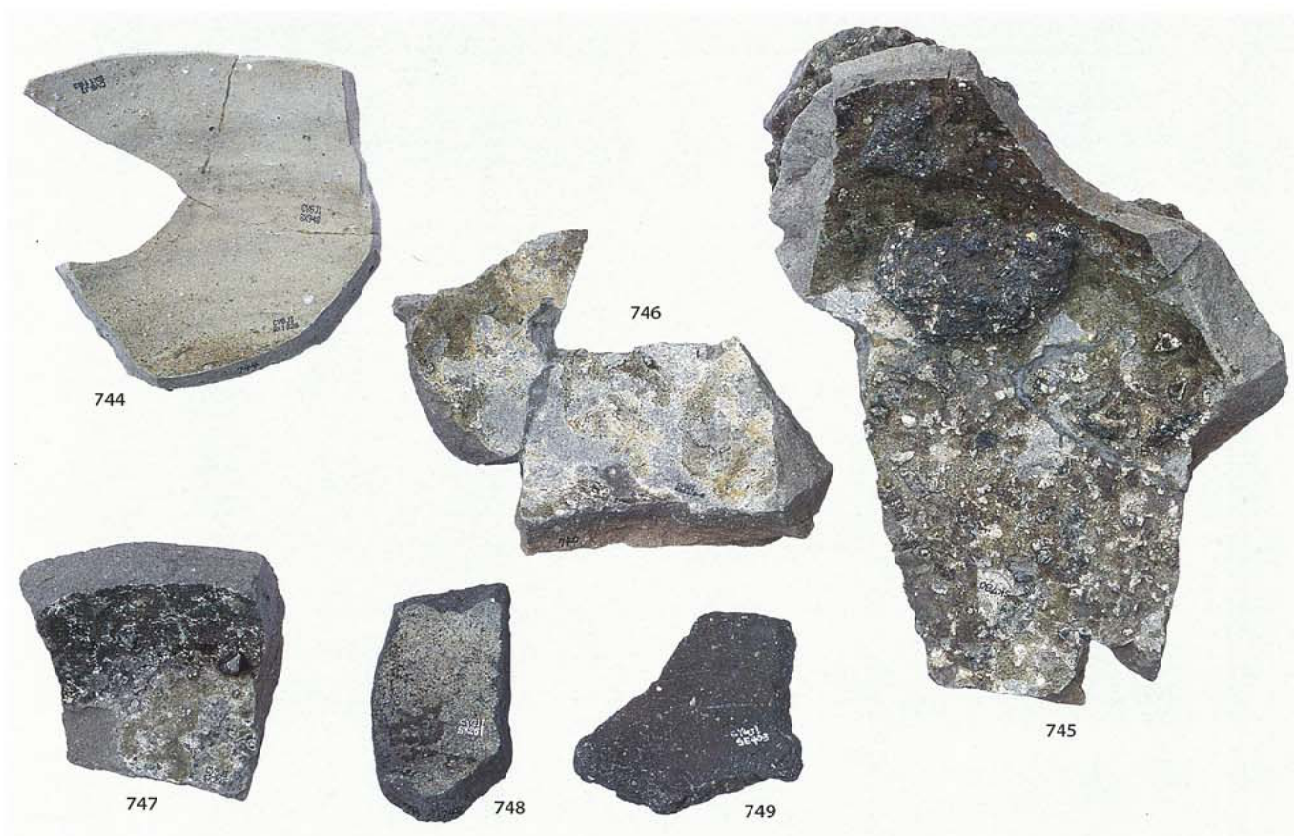
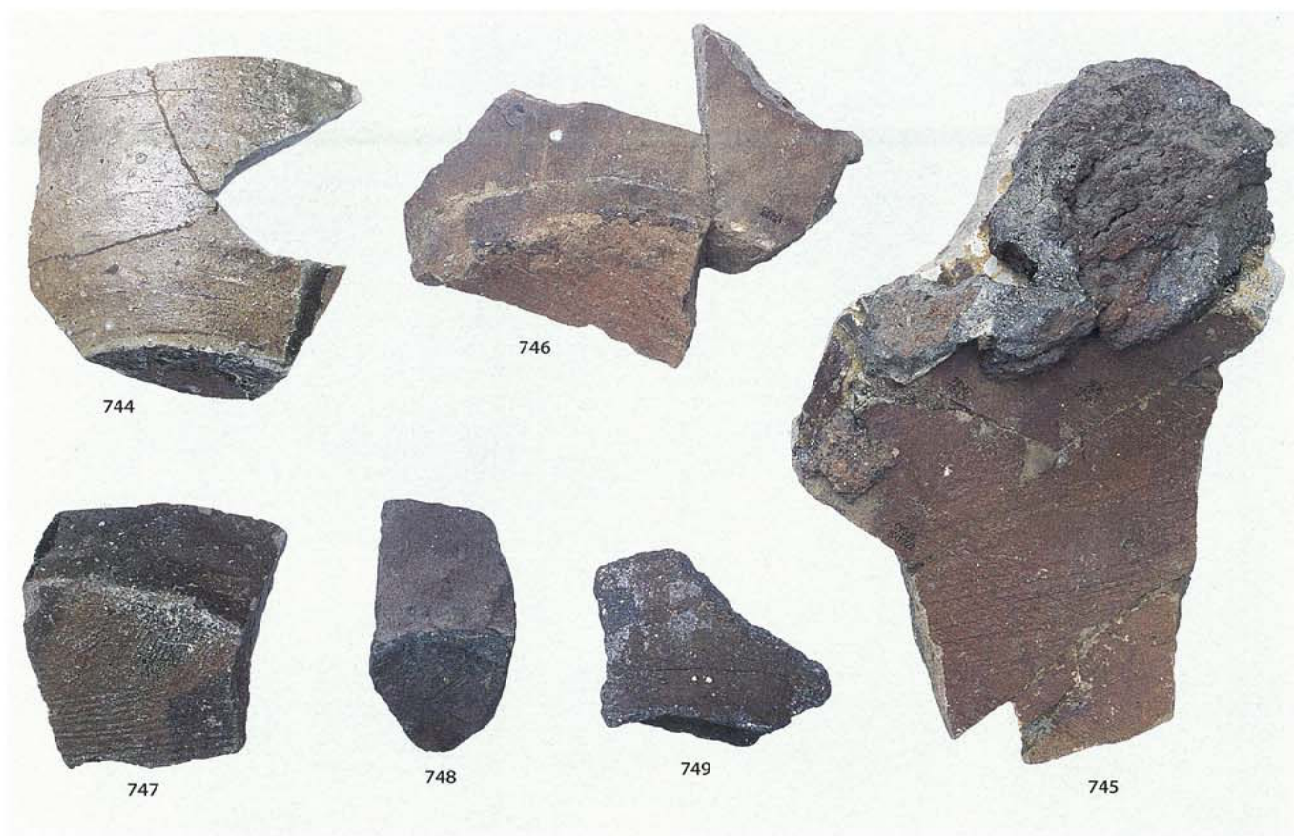


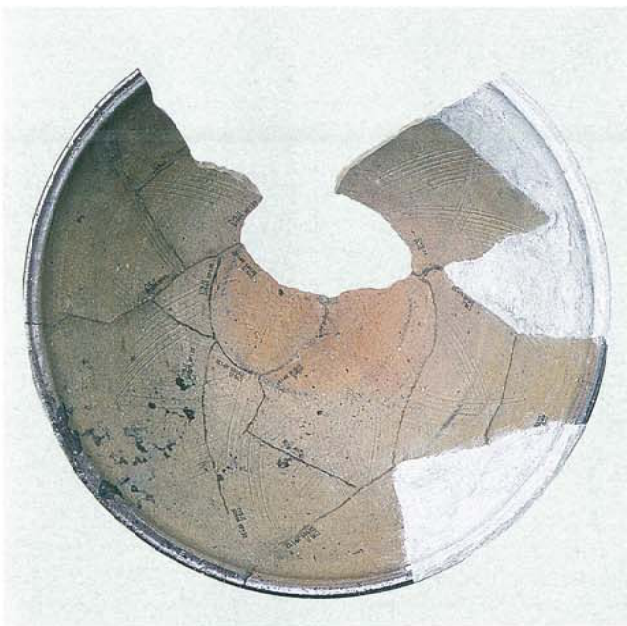
1237



1238







754



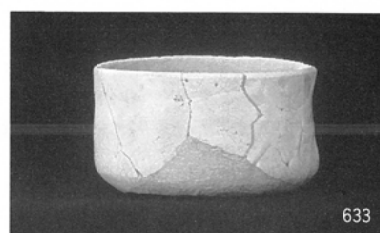
755



578



582



633



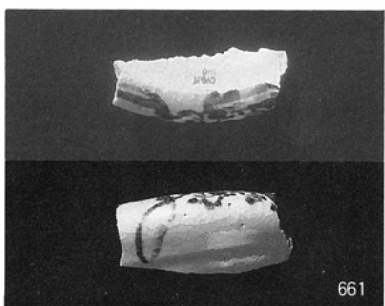
538



641



642



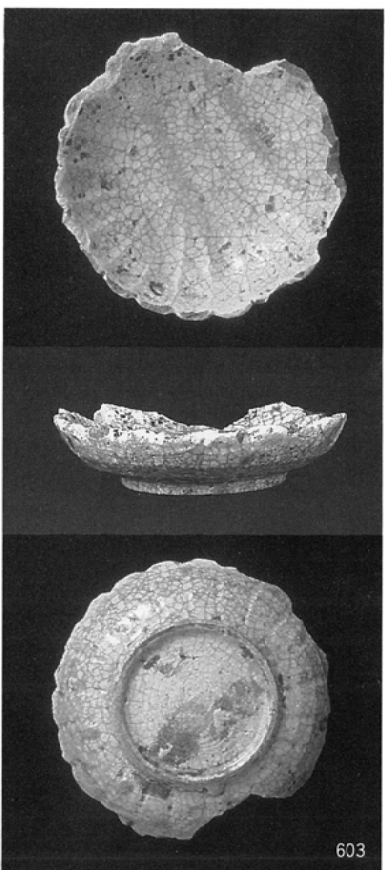
661



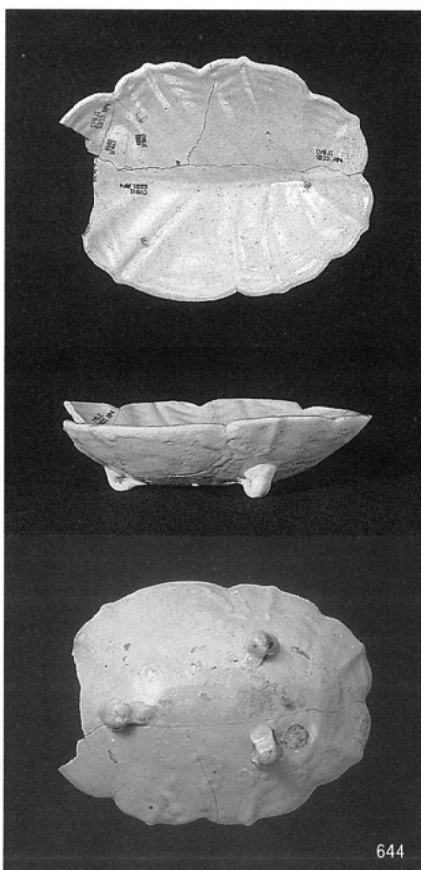
666



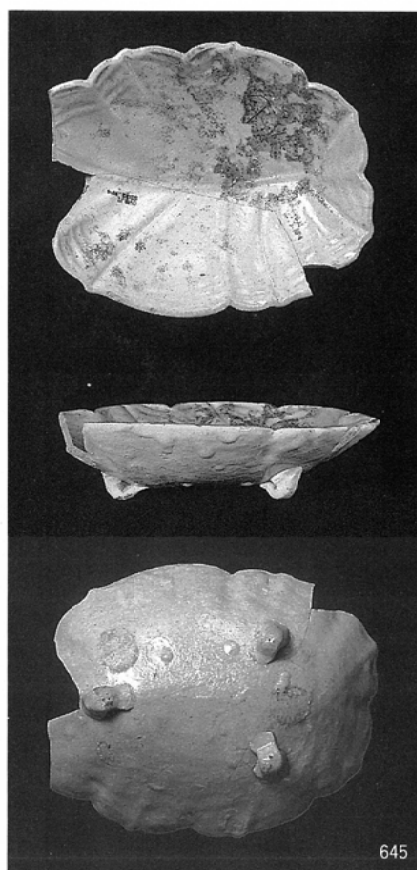
666



603

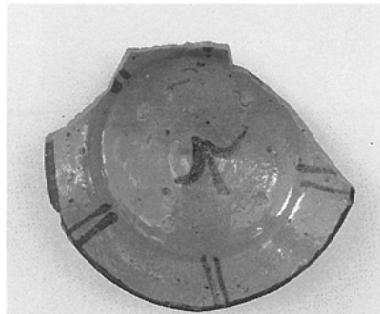
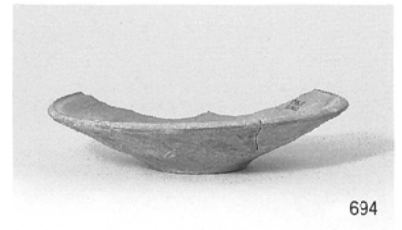
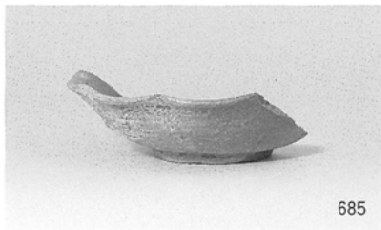
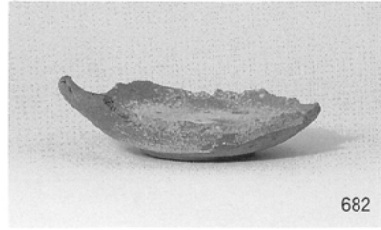
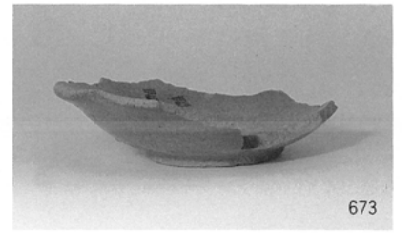


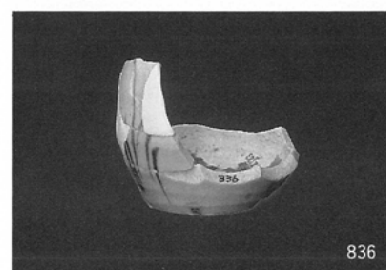
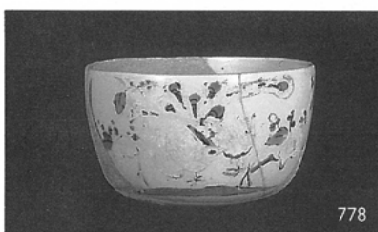
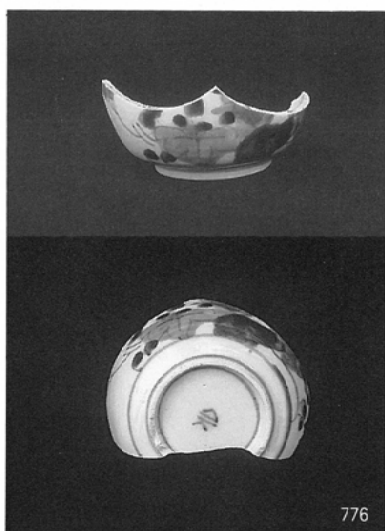
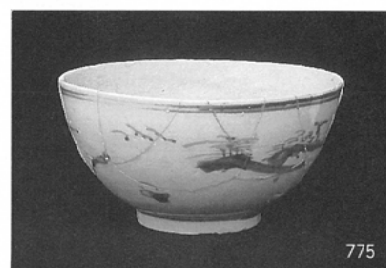
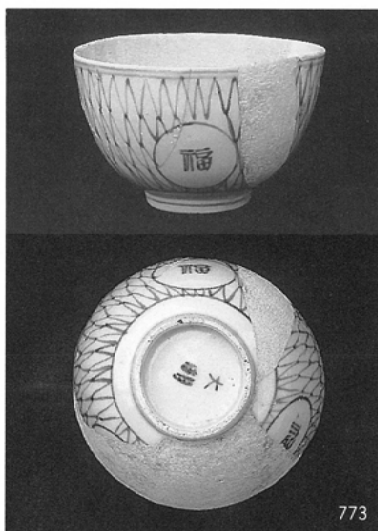
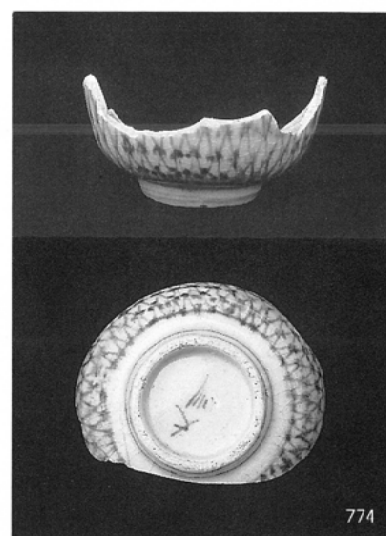
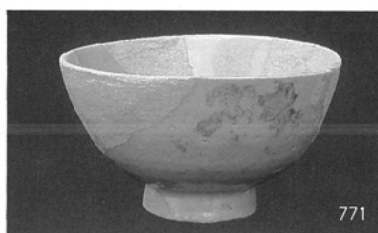
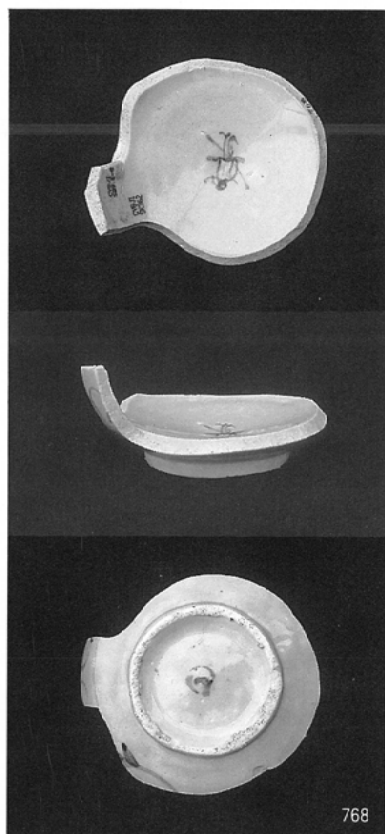
644

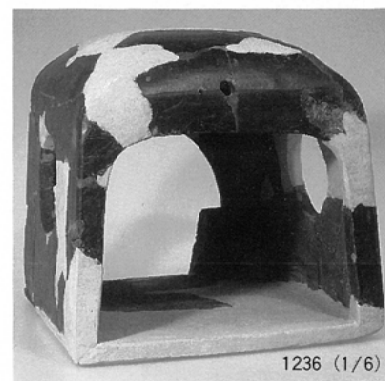
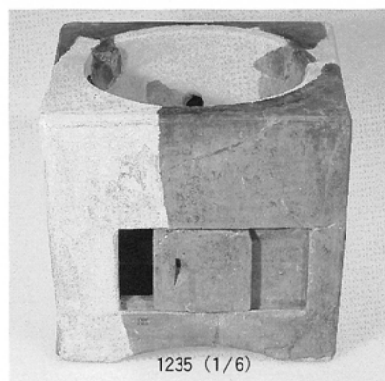
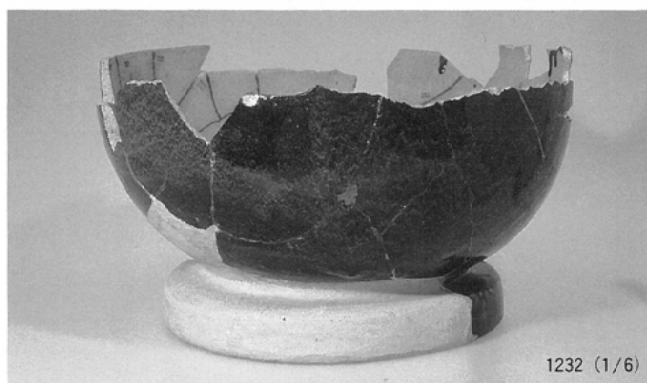
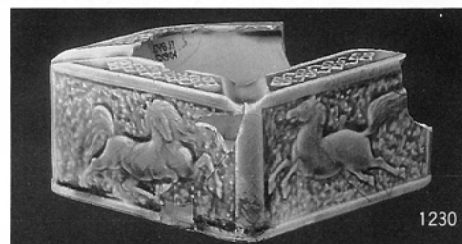
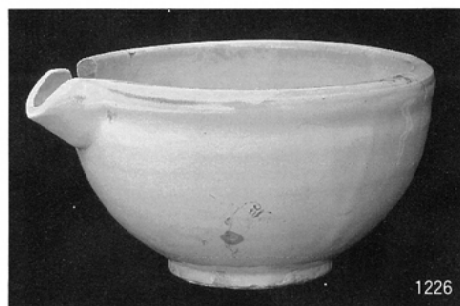
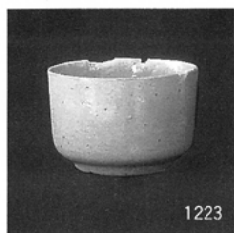
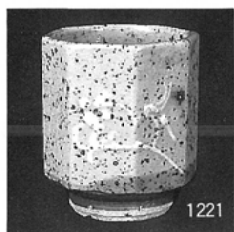


645

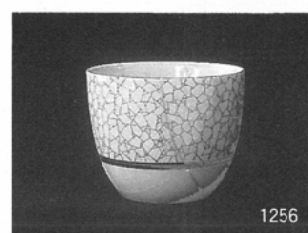
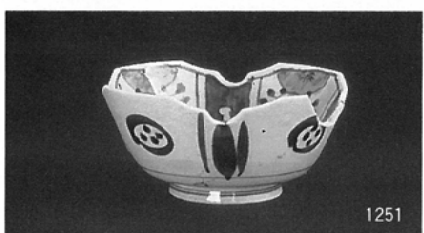
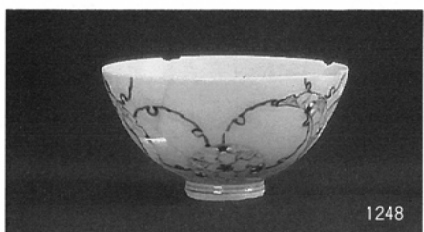
图版66

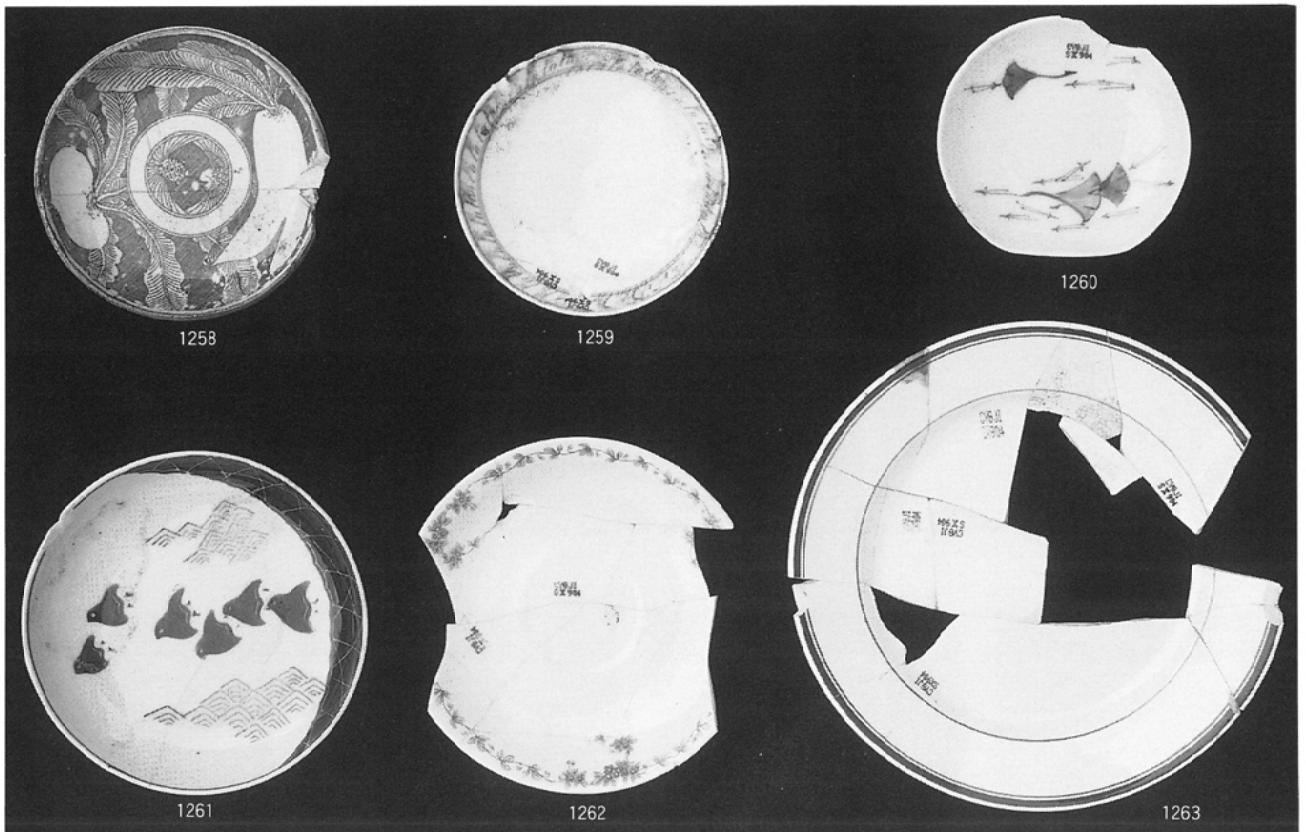
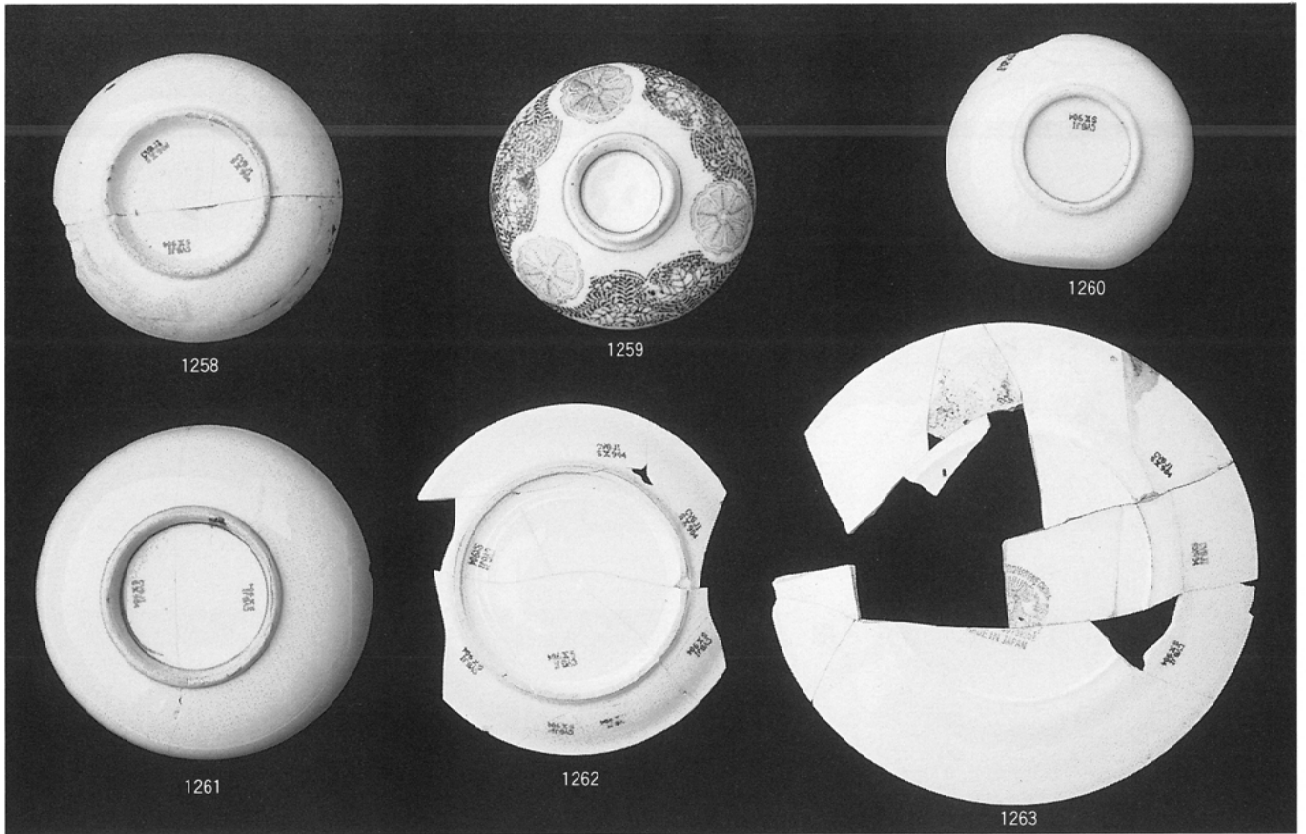


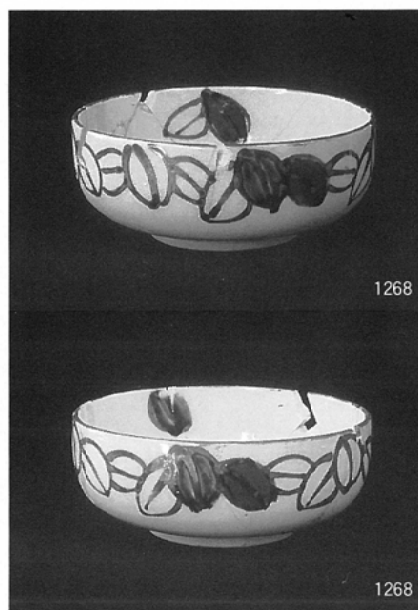
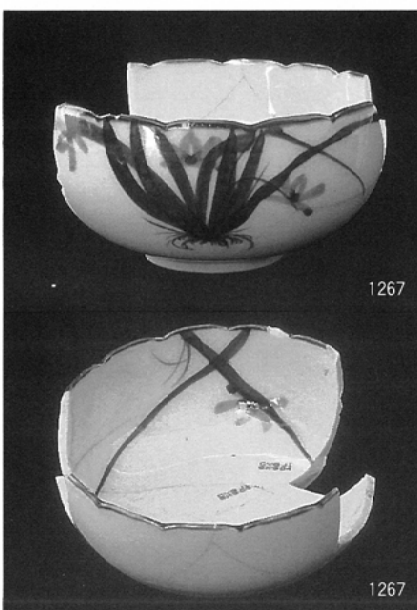
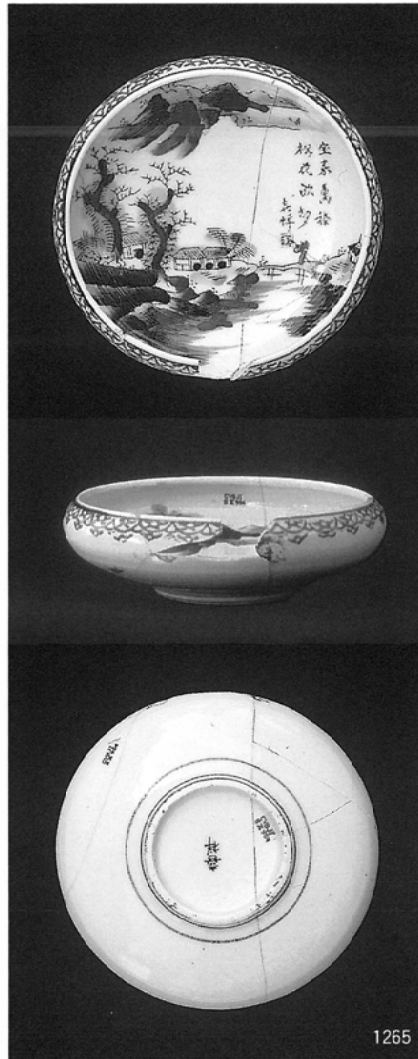
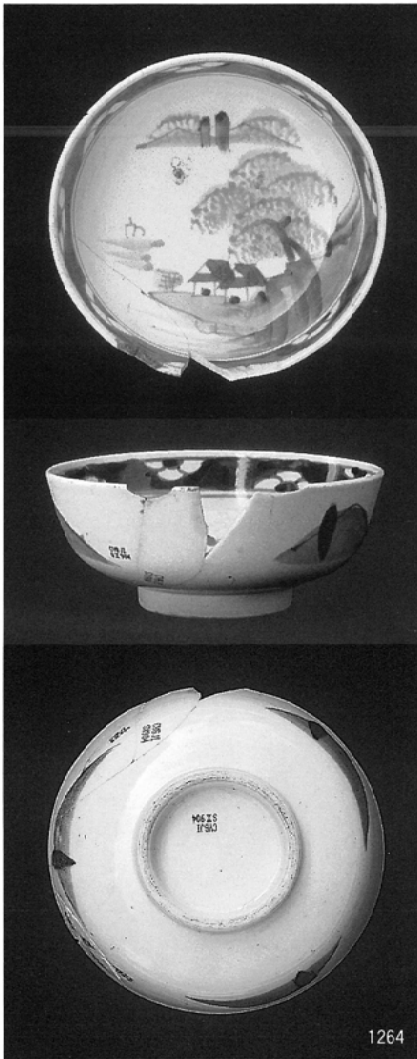


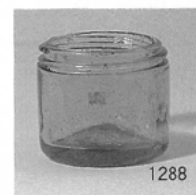
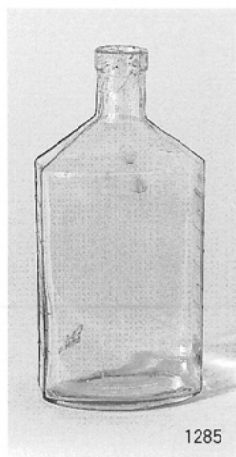
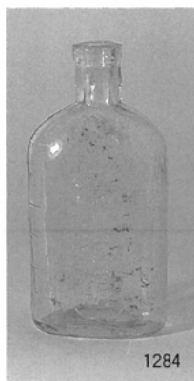
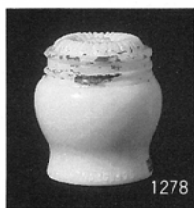


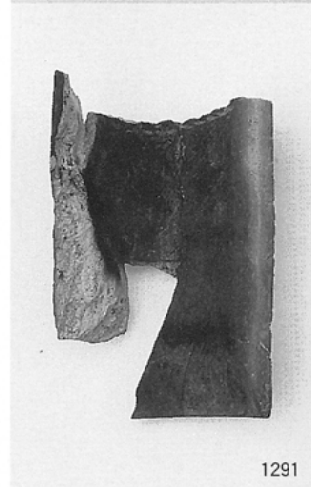
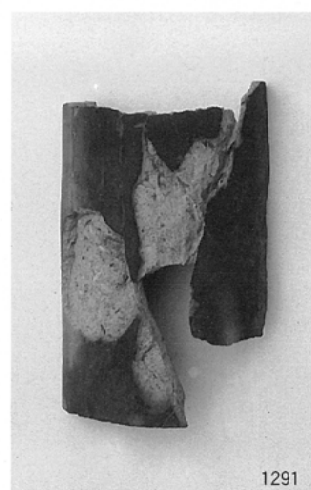
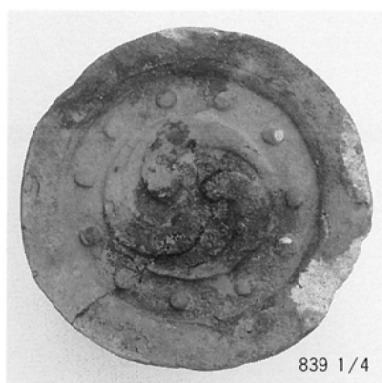


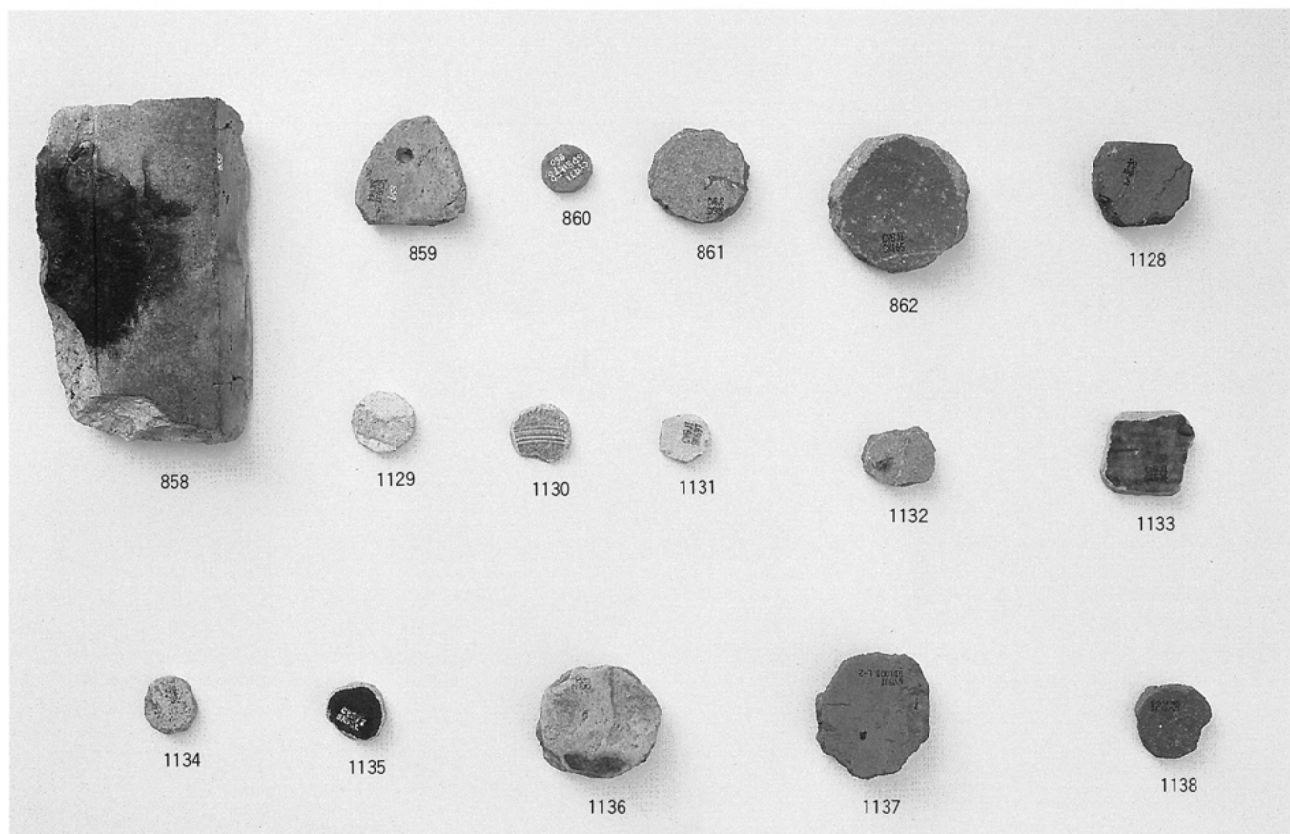
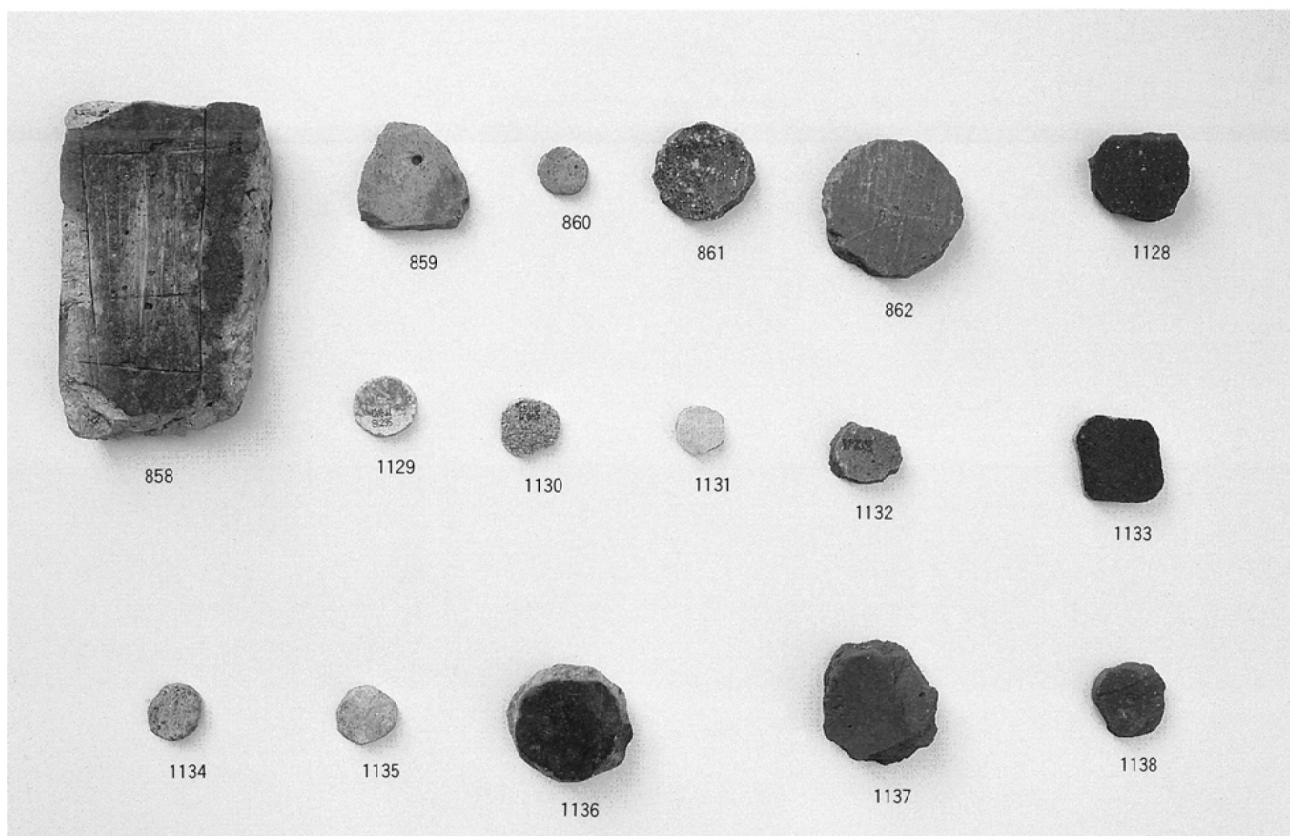


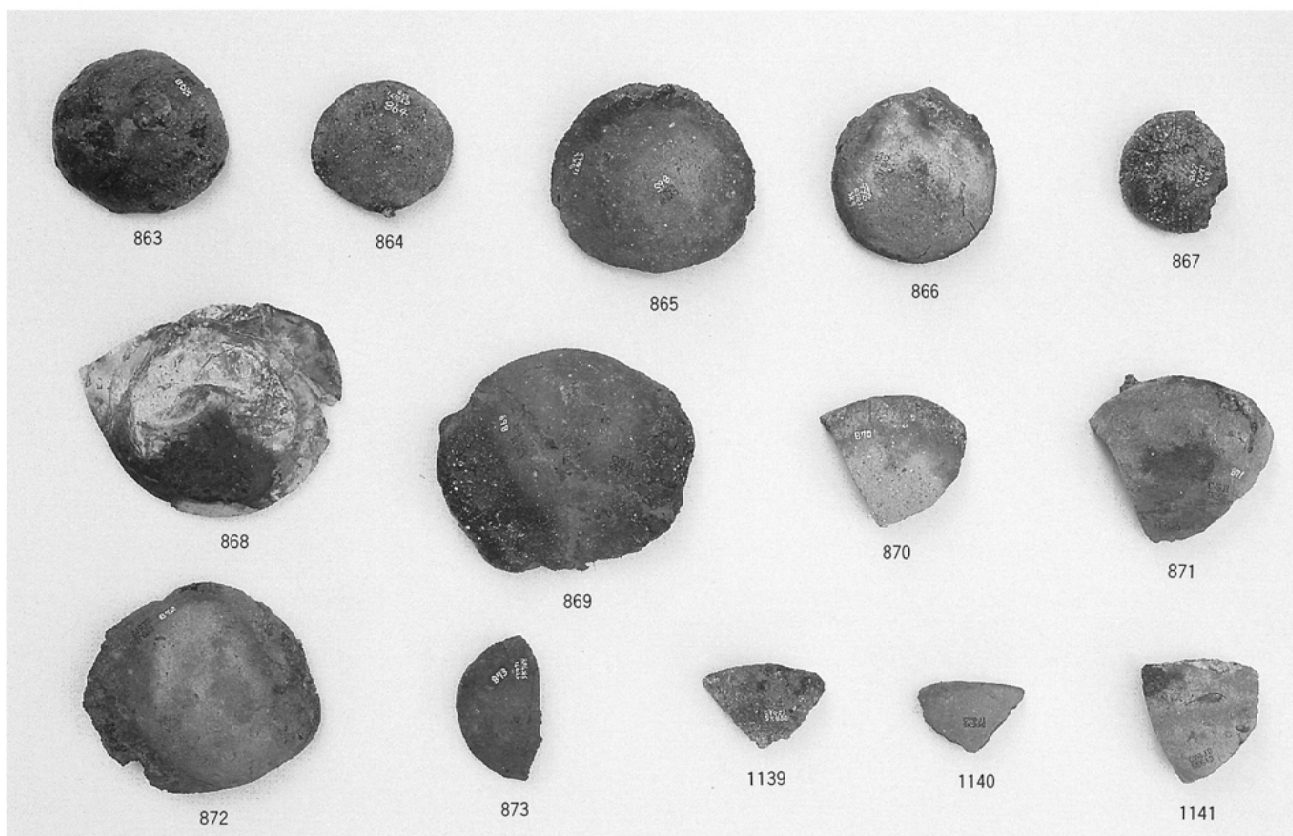
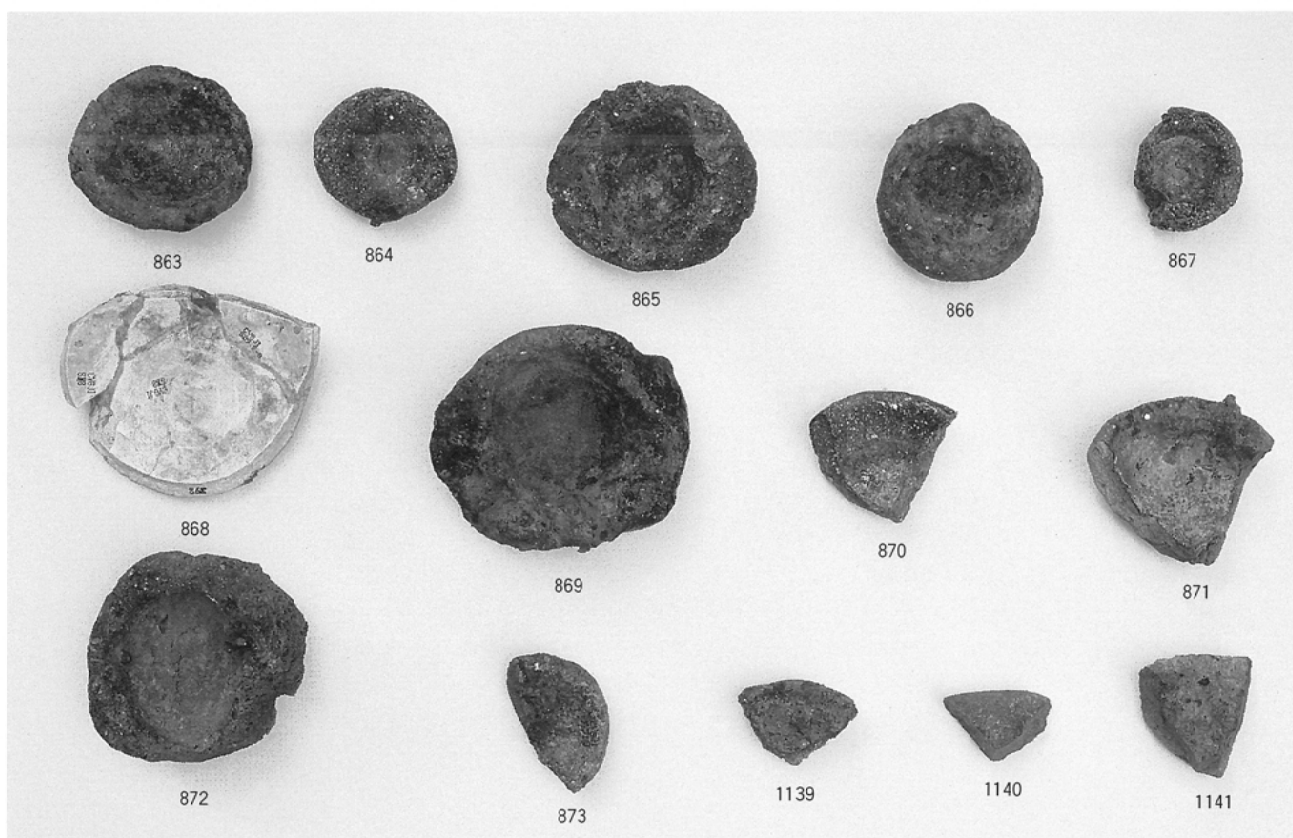


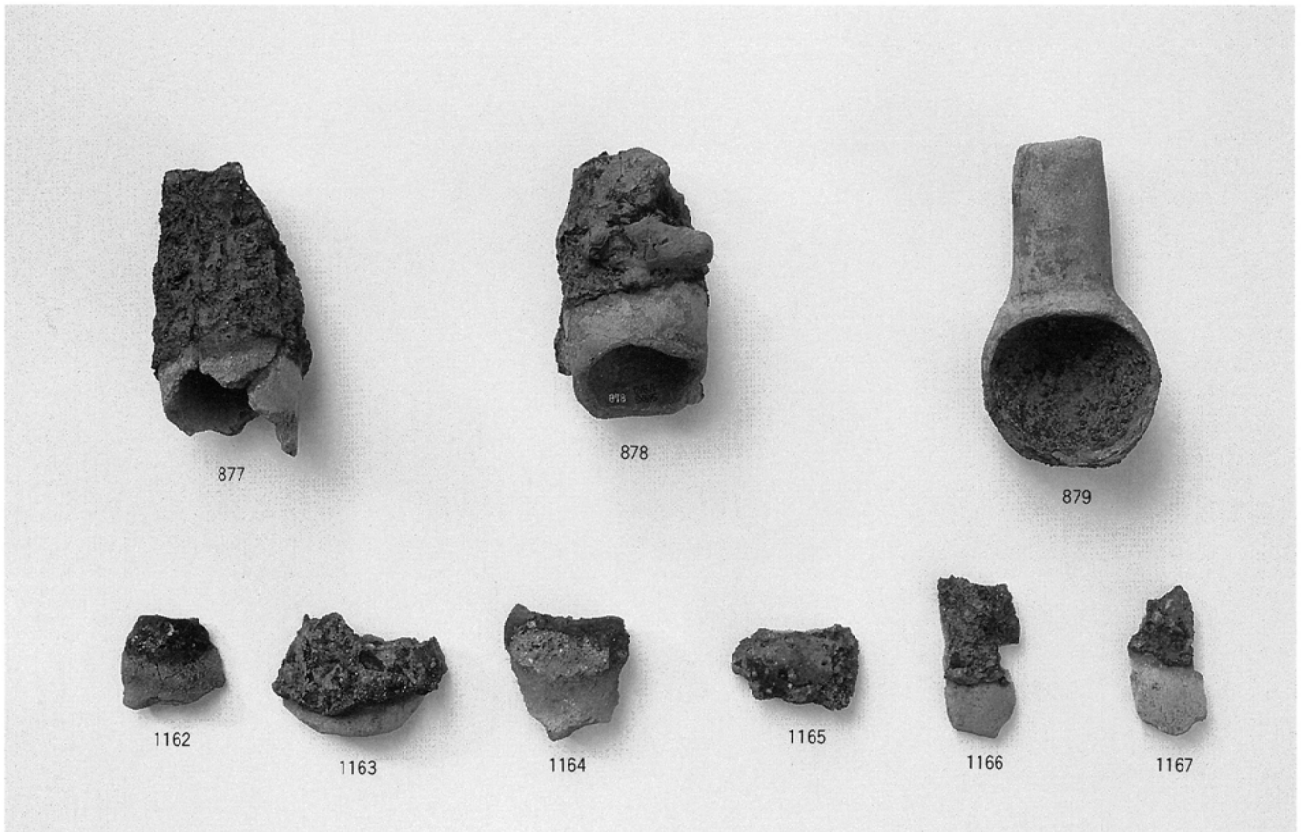
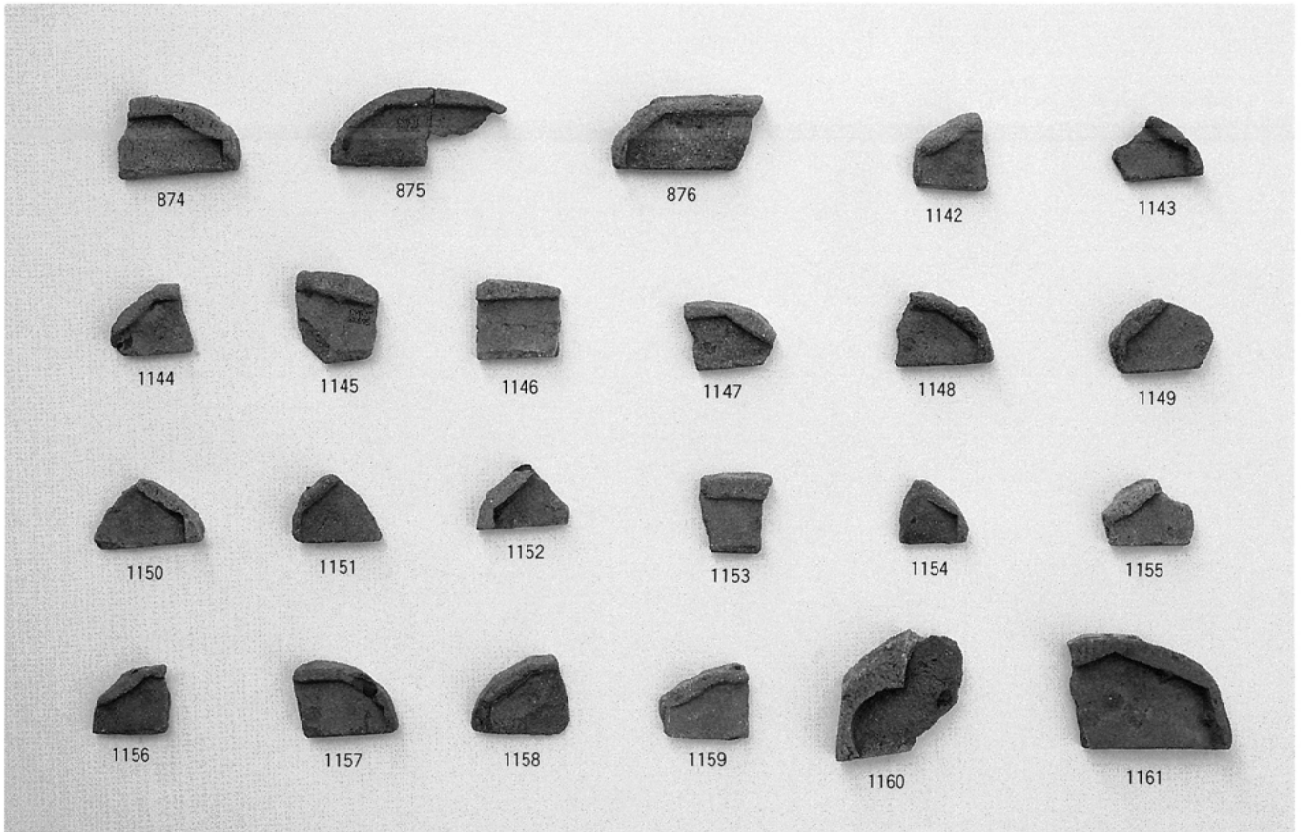




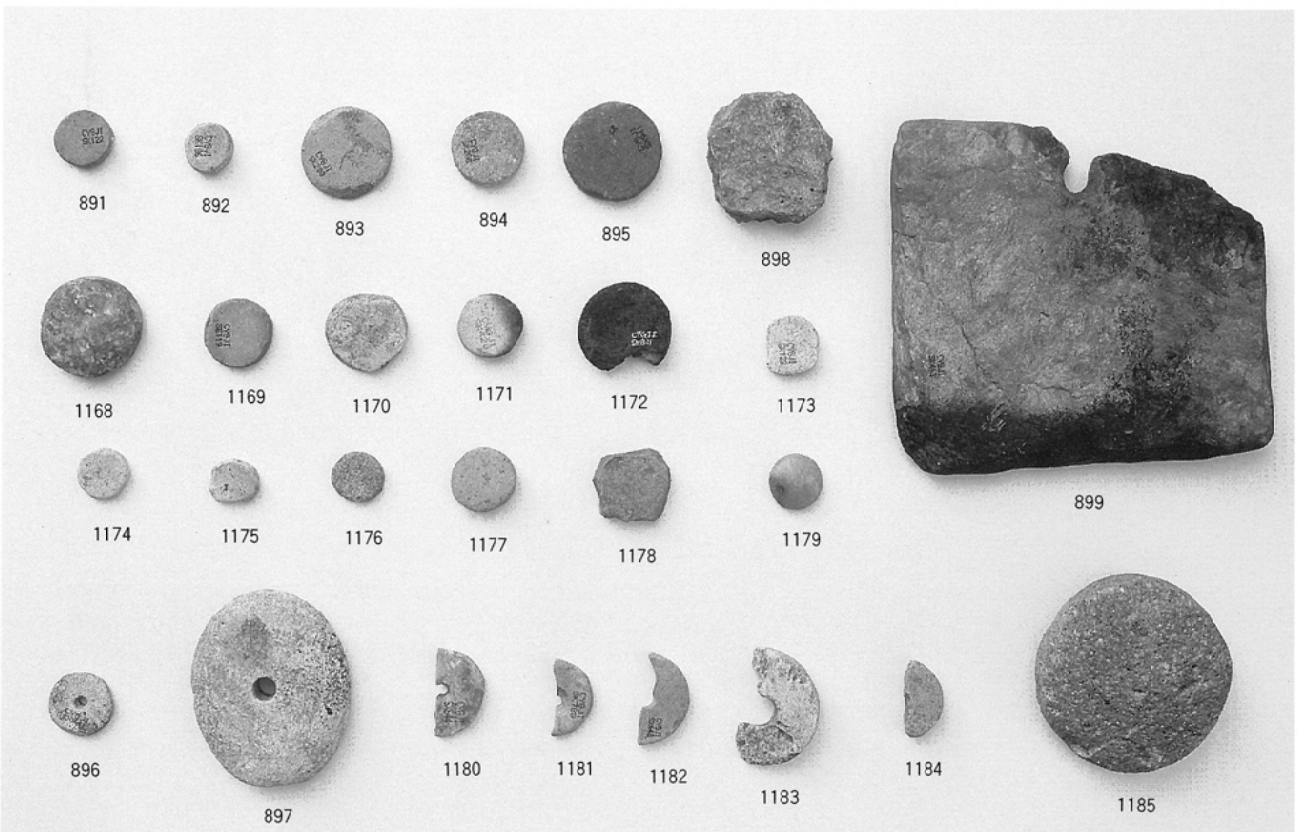
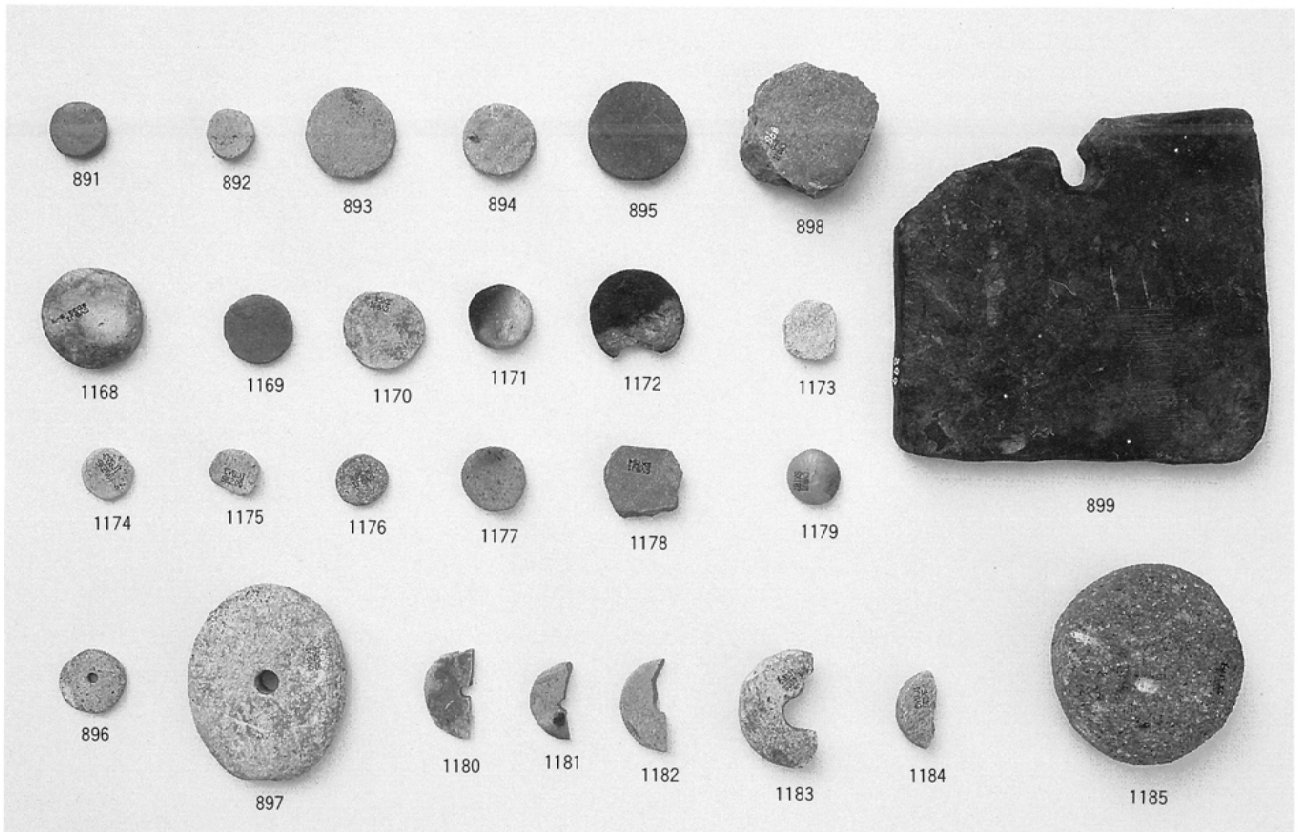


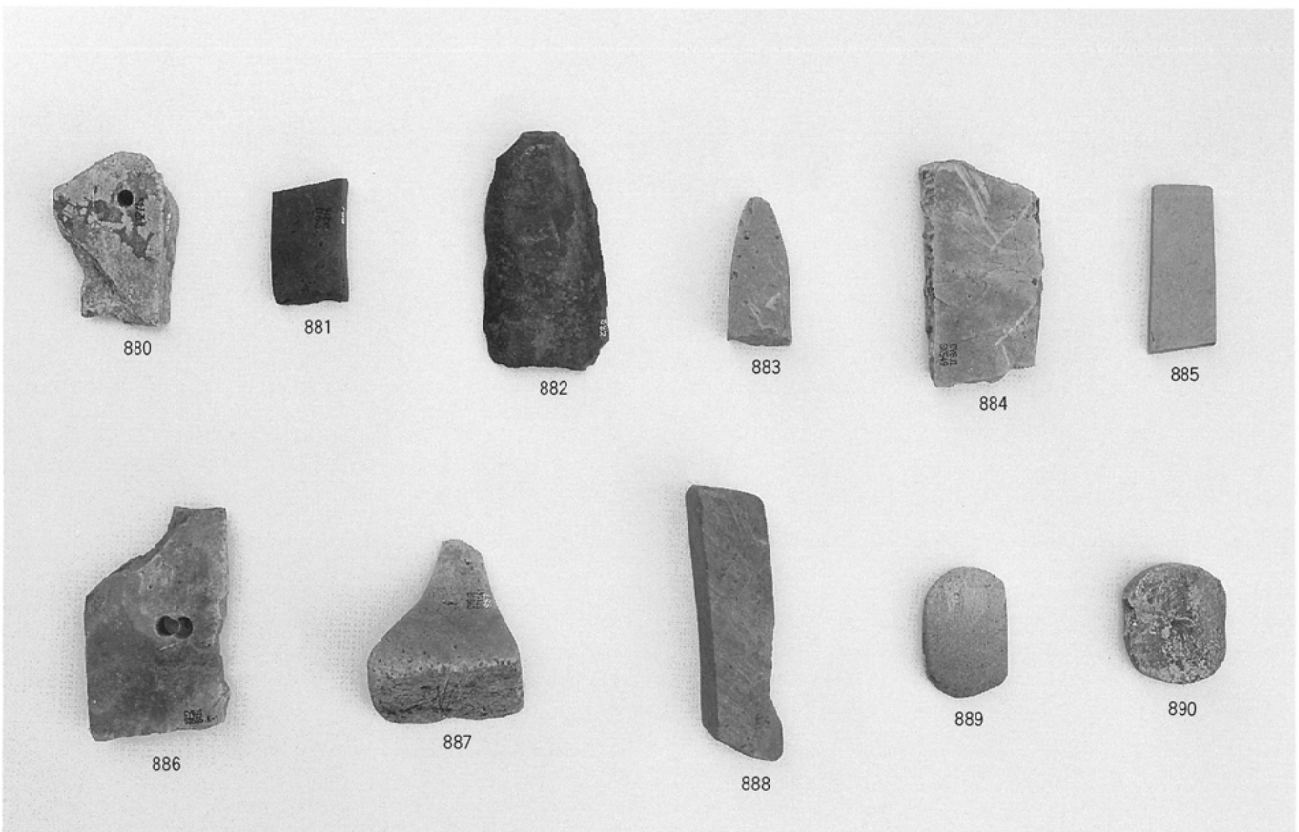
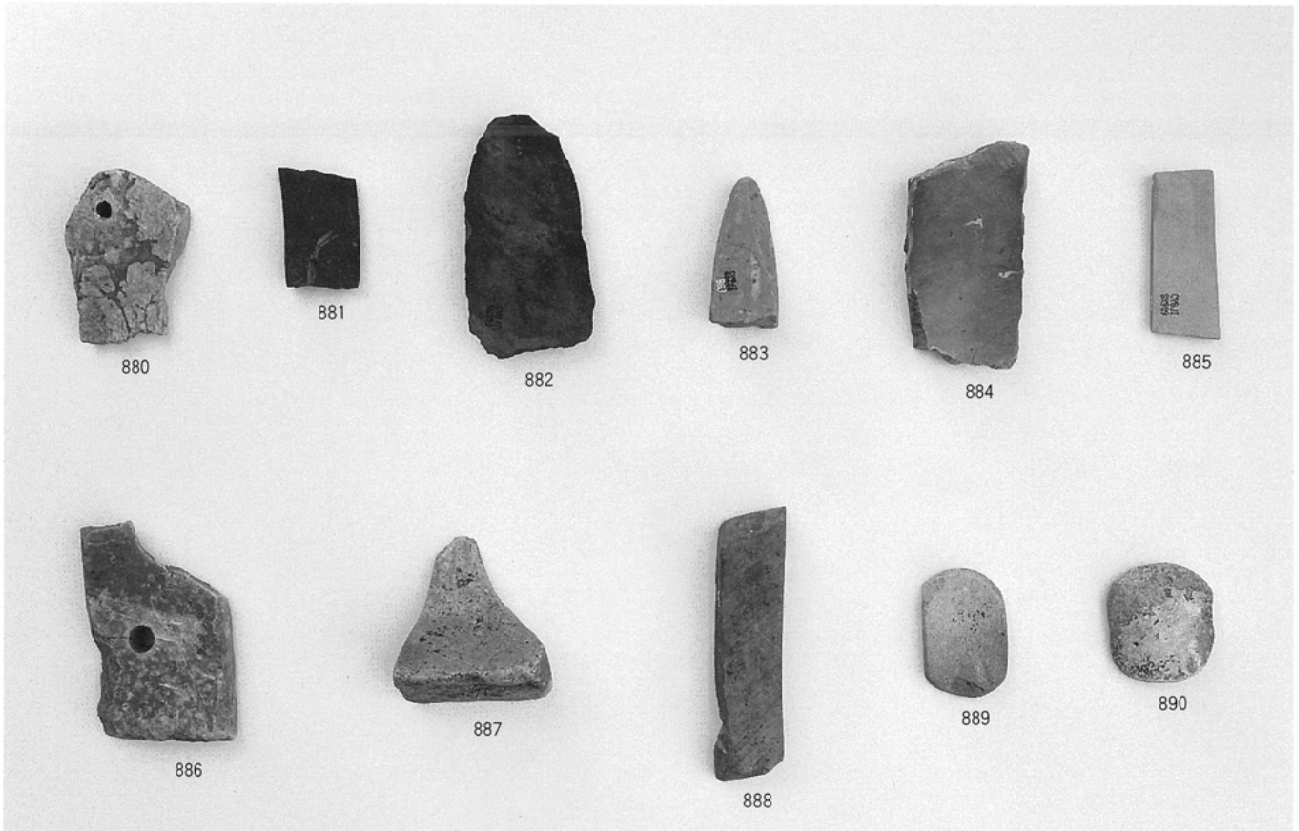


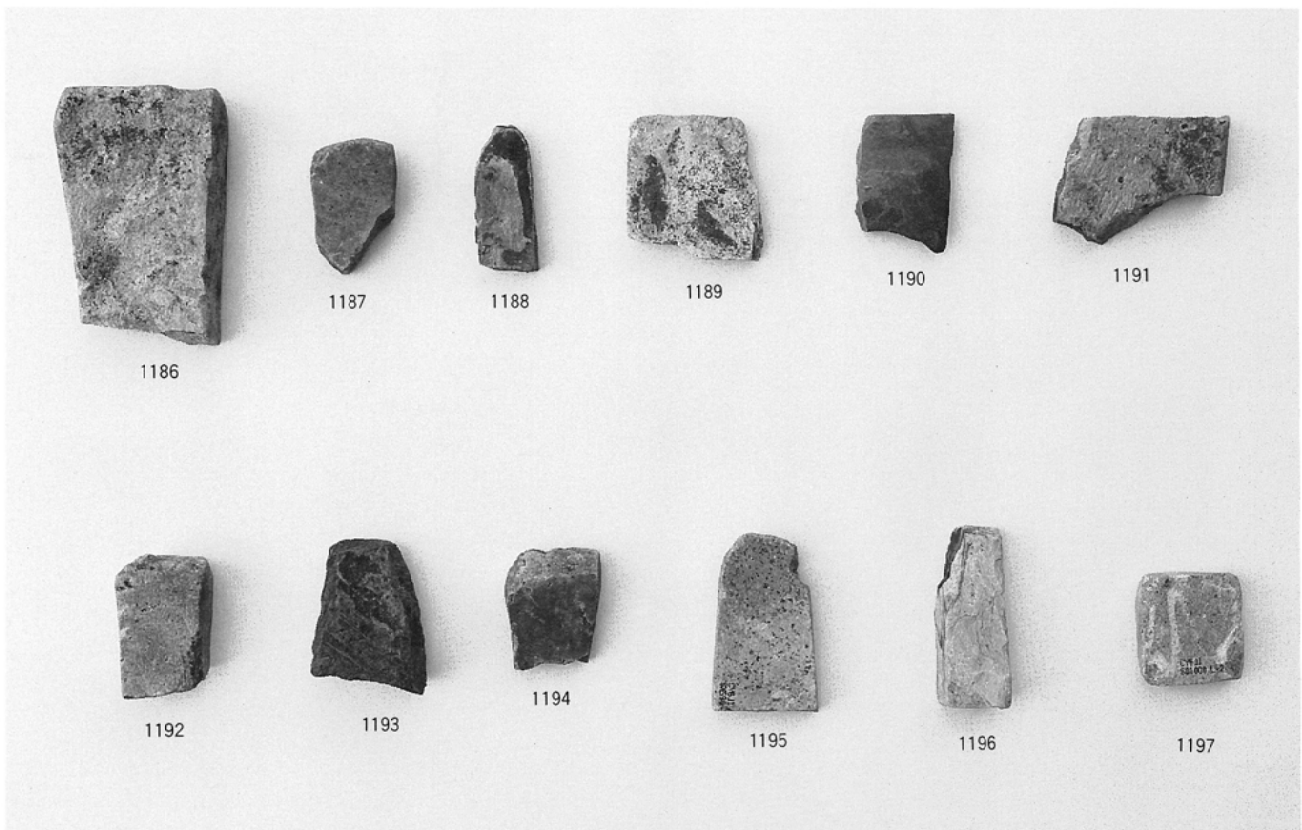
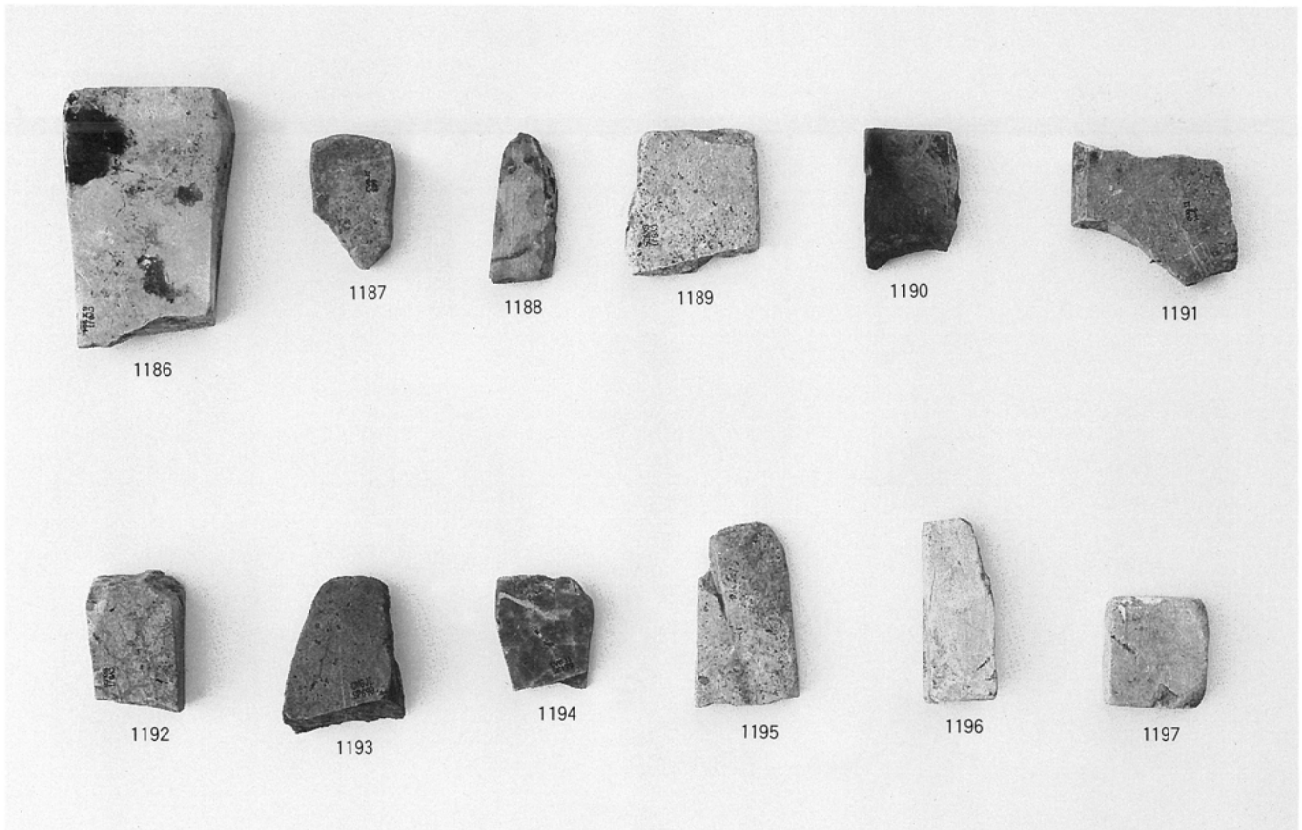


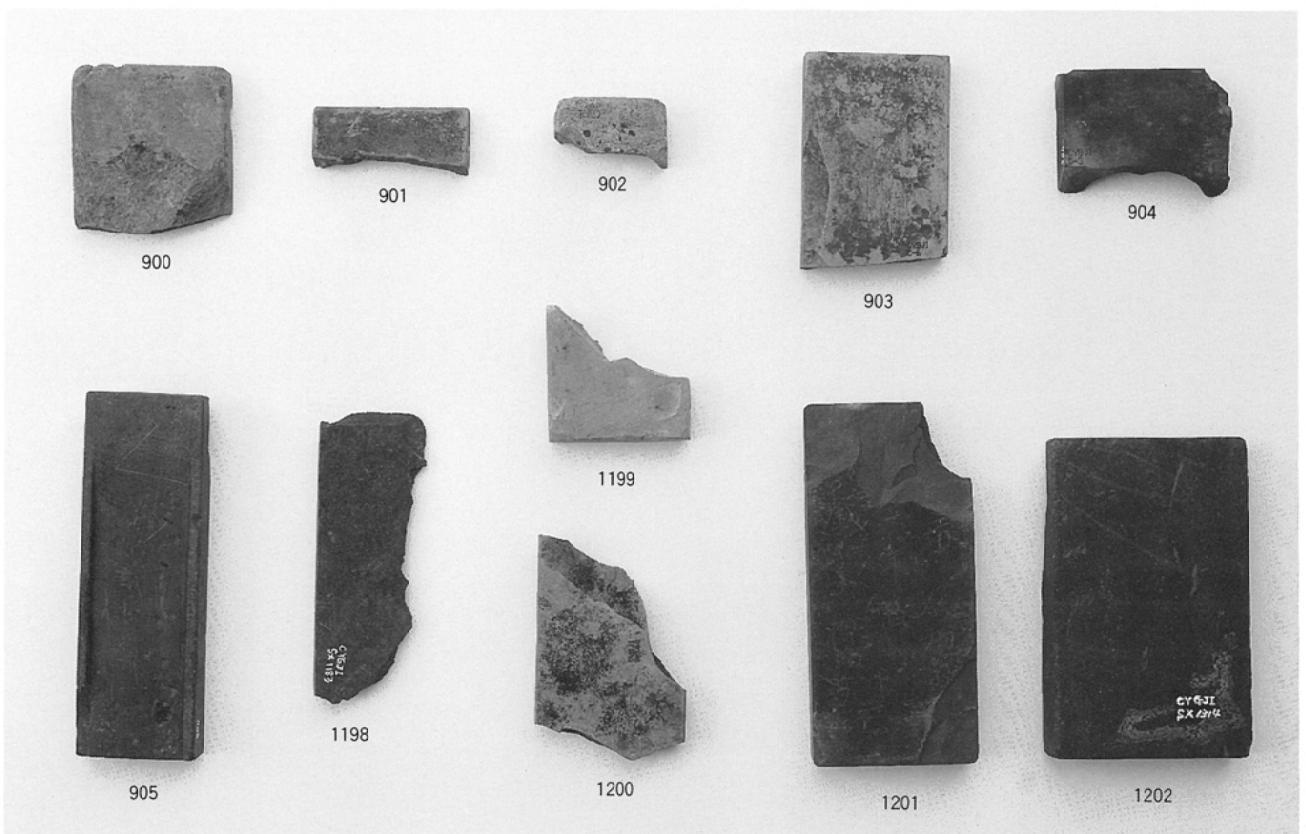




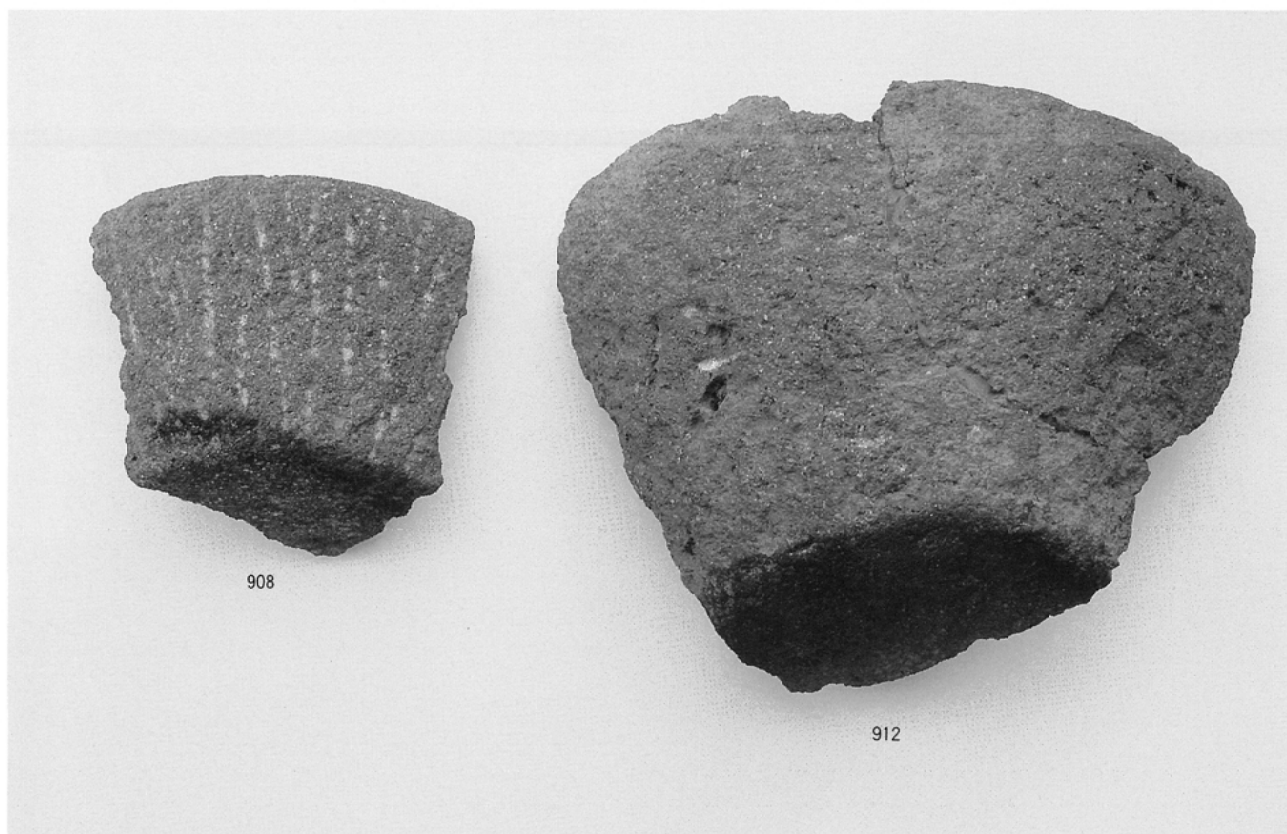


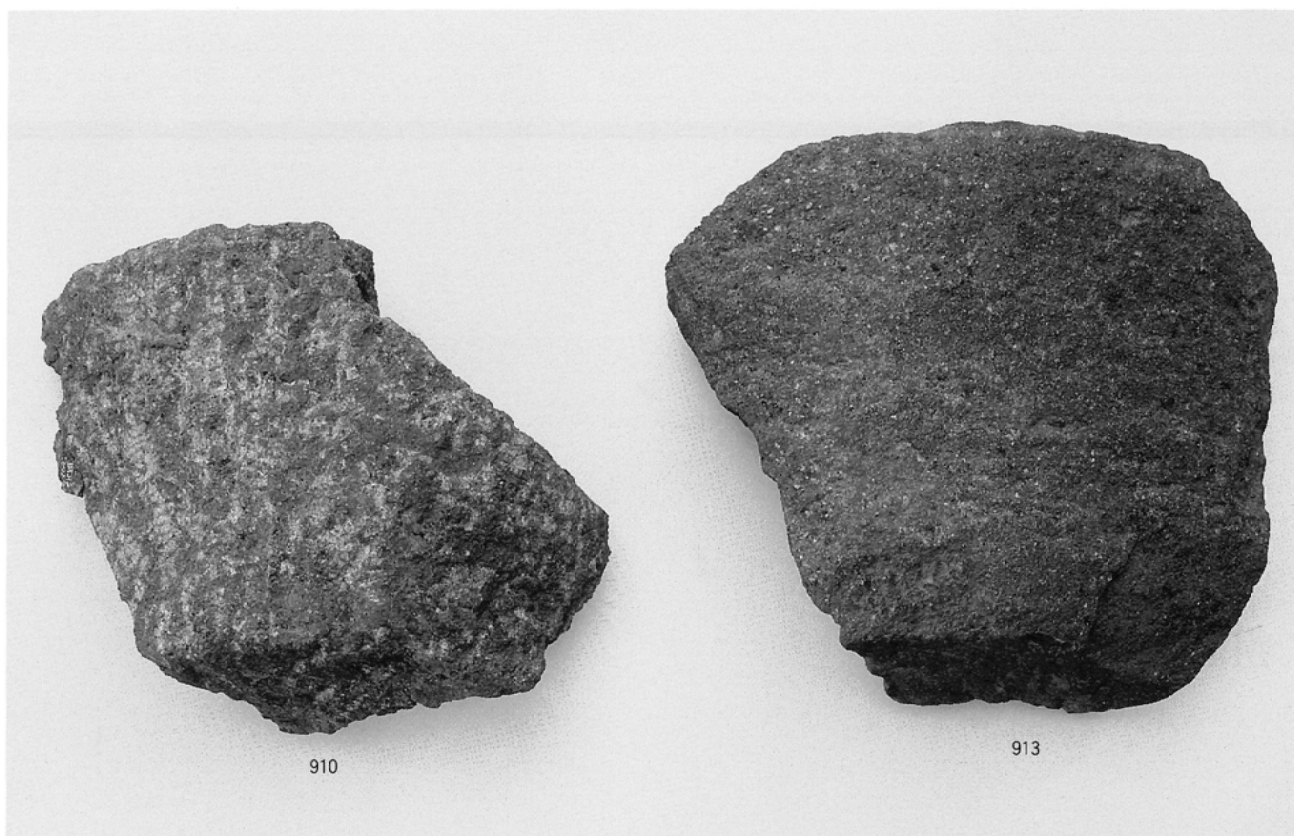




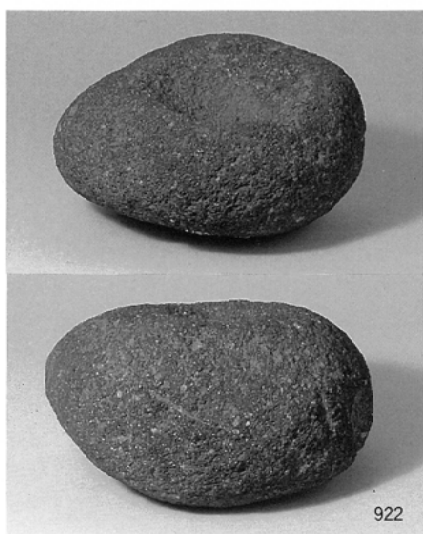
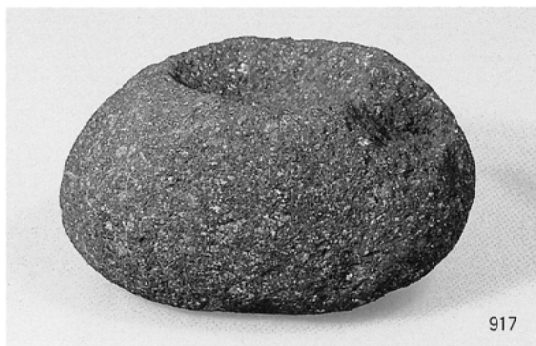
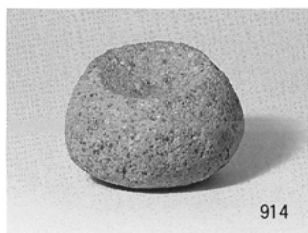




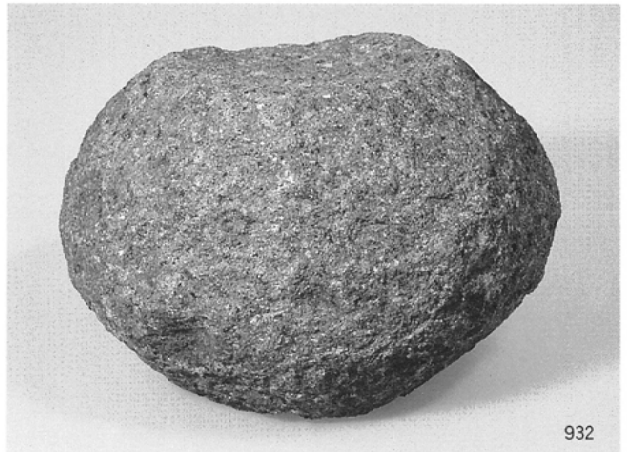


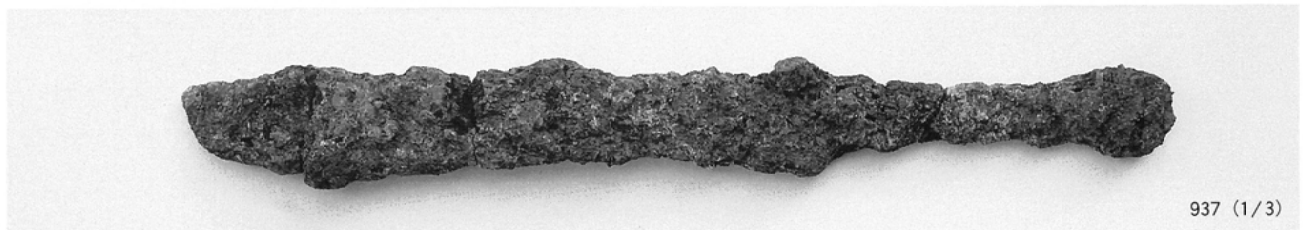


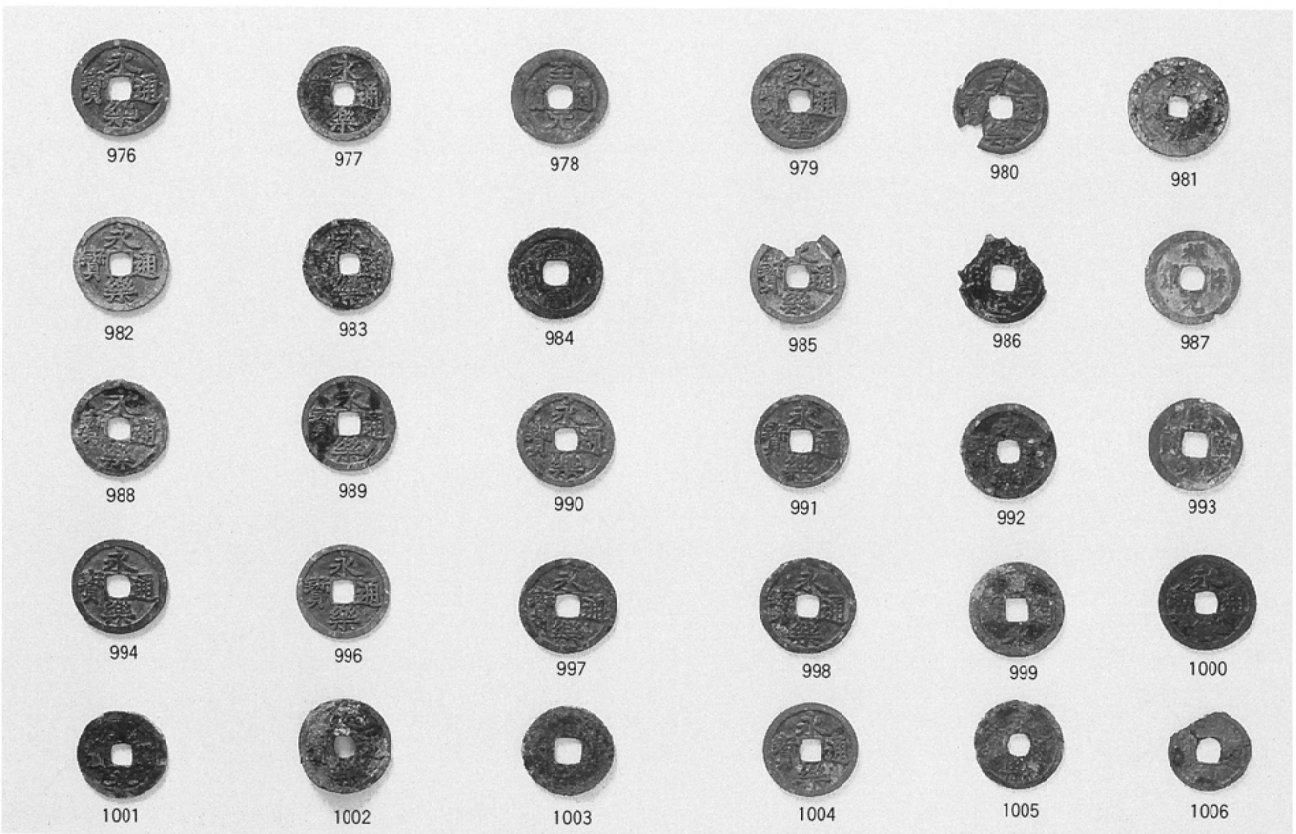
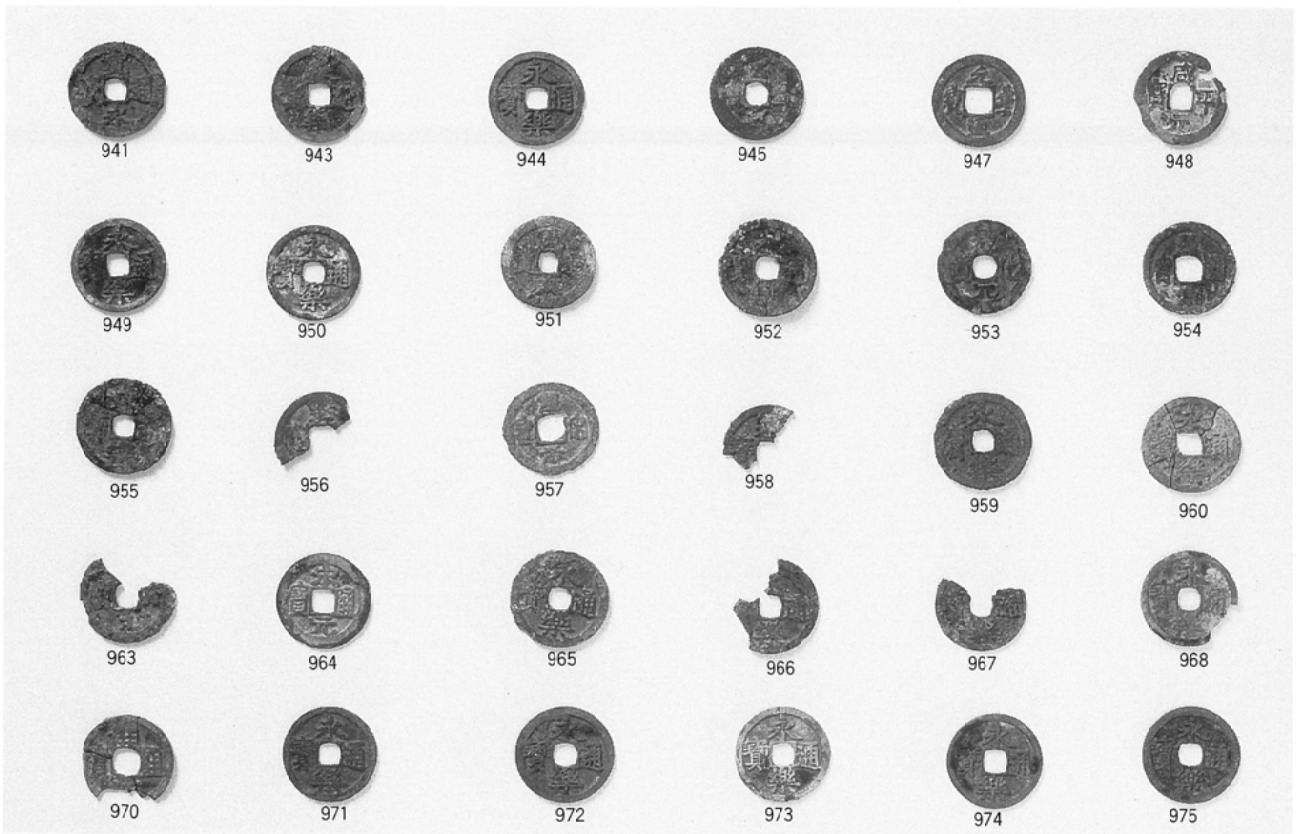
图版84

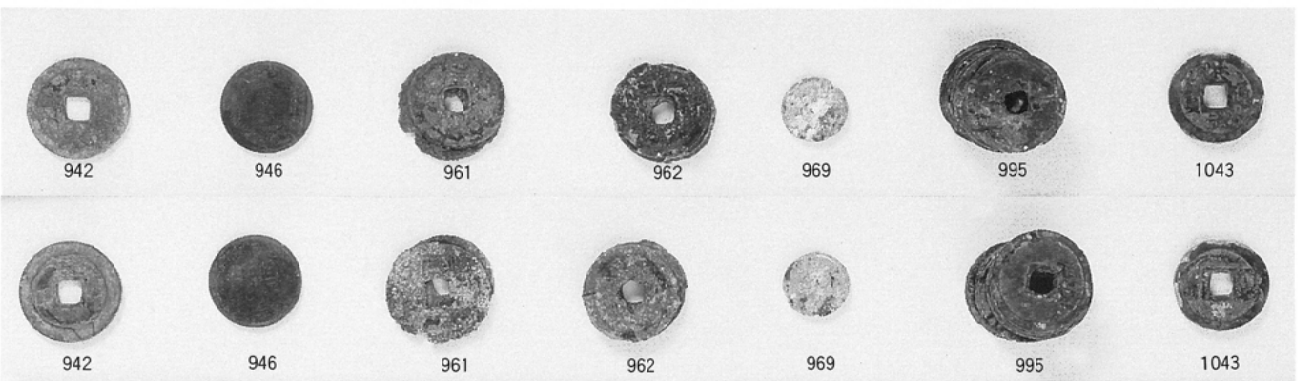
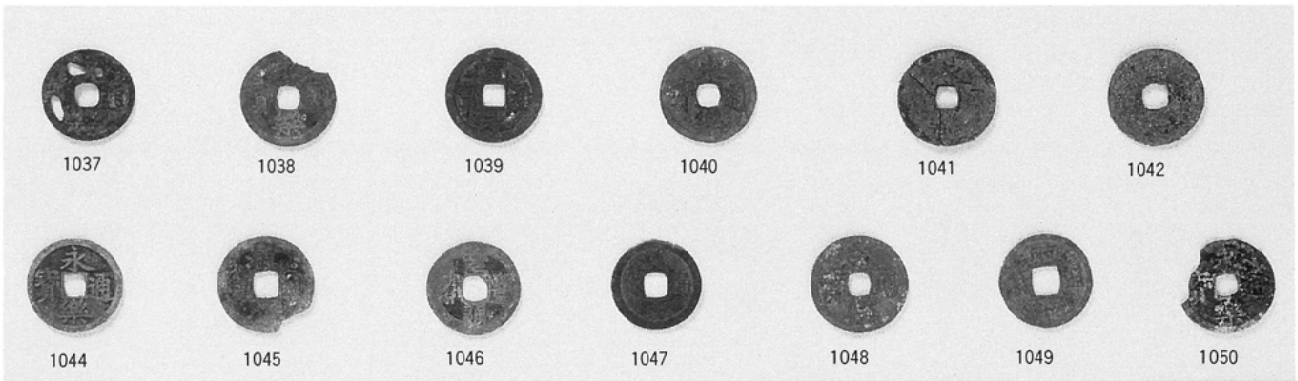
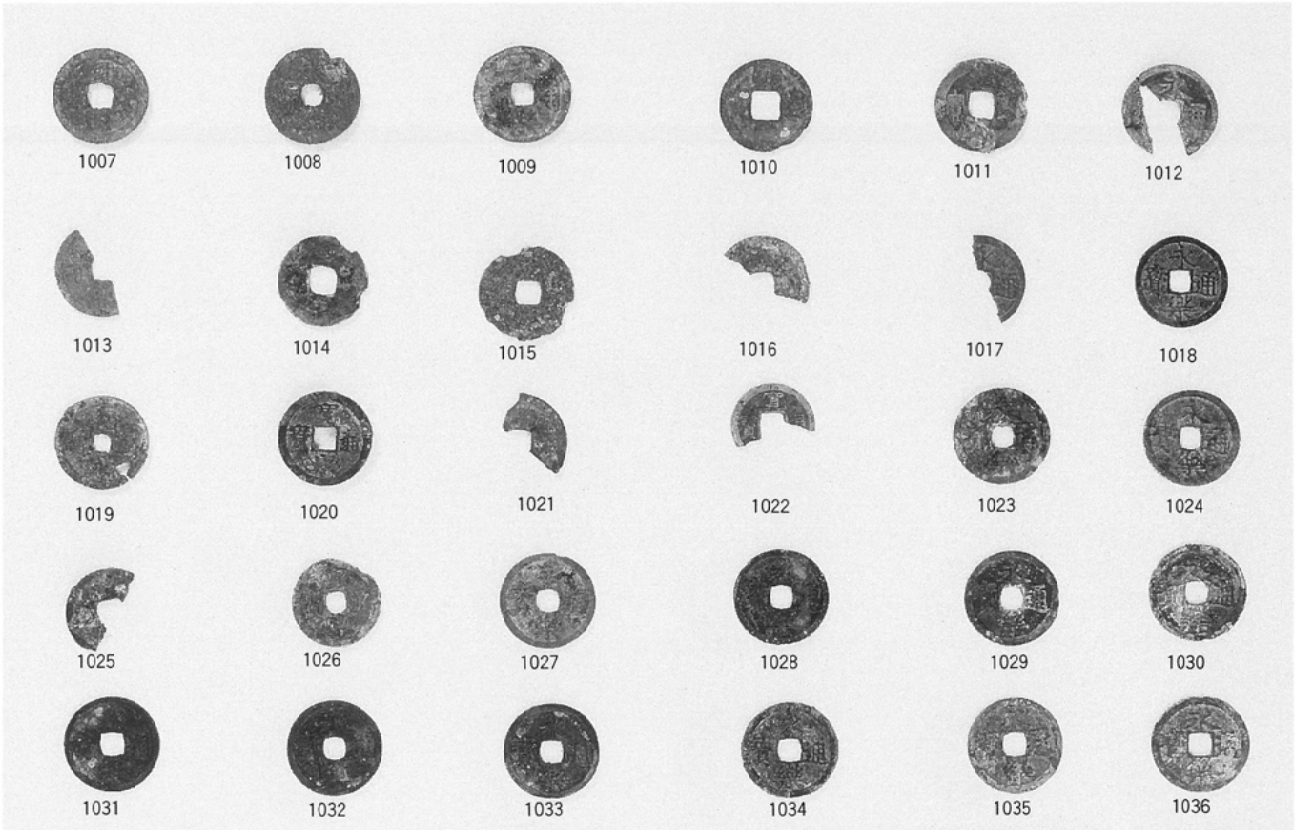












付 編



# 須恵器・瓦器・陶器・瓦・土管の胎土分析

藤根 久・Lomtatische Zauri・今村美智子（パレオ・ラボ）

## 1 はじめに

城南一丁目遺跡は、山形市街地中心部のJR山形駅西口に所在する。調査では、奈良・平安時代や中世～近世にかけての遺構・遺物が出土している。ここでは、須恵器や瓦器あるいは陶器などを対象として、薄片法を用いた材料の検討と蛍光X線分析による化学組成の特徴について検討した。なお、偏光顕微鏡による検討は今村、蛍光X線分析はLomtatischeがそれぞれ担当し、藤根がまとめた。

## 2 分析試料

検討した試料は、出土した須恵器10試料、珠洲系陶器5試料、瓦器3試料、陶器7試料、瓦3試料、土管2試料の合計30試料である。各試料の詳細は第1表の通りである。

## 3 偏光顕微鏡観察（薄片法）による検討

### a 方法

ここでは、焼き物胎土の特徴を最大限に引き出すために薄片を作成し、偏光顕微鏡による観察による方法を行った。各胎土は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片（プレパラート）を作成した。

- (1) 試料は、岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥させる。スライドガラスに接着し平面を作成した後、その平面をエポキシ系樹脂にて固化処理を行う。
- (2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着する。
- (3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作製する。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数する。同定・計数は、100 $\mu$ m格子目盛を用いて任意の位置における約50 $\mu$ m (0.5mm)以上の鉱物や複合鉱物類（岩石片）、微化石類（50 $\mu$ m前後）を対象とし、微化石以外の粒子が約100個以上になるまで同定・計数した。また、この計数とは別に、薄片全面について微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴も観察・記載した。

### b 分類群の記載

細礫～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石名を決定することが事実上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類する（菱田ほか、1993）。なお、胎土の特徴を

抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子（微化石類）も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記述を省略する。

#### [放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

#### [骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。[珪藻化石] 珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10~数百 $\mu\text{m}$ 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（海水種）珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

#### [植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 $\mu\text{m}$ 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

#### [孢子化石]

孢子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 $\mu\text{m}$ 程度の小型の無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

#### [石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

#### [長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO<sub>2</sub>の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これ



ら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

#### [雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO<sub>2</sub> %の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

#### [輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO<sub>2</sub> %が少ない深成岩、SiO<sub>2</sub> %が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO<sub>2</sub> %が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO<sub>2</sub> %の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

#### [角閃石]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO<sub>2</sub> %が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

#### [ガラス]

透明の非結晶の物質で、電球のガラスの破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

#### [複合鉱物類]

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

#### [斑晶質・完晶質]

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

#### [凝灰岩質]

非晶質でモザイクな文様構造を示し、石英・長石類やガラスなどが含まれるものをいう。

#### [複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのも

のを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

#### [片理複合鉱物類]

複合石英類で、個々の石英あるいは長石類が一定方向に伸びたように平行に配列しているものをいう。なお、これら石英などの粒子の隙間に黄色などの二次的な鉱物（主に雲母類）が見られるものを片理複合鉱物類（含雲母類）とする。

#### [砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

#### [リング・ガラス]

光学的に消失する鉱物類のうち、周辺に消光しないガラス質を伴うもので、須恵器のように高温焼成された土器類などで見られる。

#### [発泡ガラス]

全体的にはガラス質であるが、高温焼成された際に揮発成分が発泡した穴を伴う物である。なお、発泡が不明瞭なガラスは、無発泡ガラスに分類した。

#### [不透明・不明]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

#### c 各胎土の特徴および計数の結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した（第2表）。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No.1 : 100~600  $\mu\text{m}$  が多い（最大粒径1.0mm）。発泡粒子が多く、焼成温度高い。石英・長石類》  
発泡ガラス》複合石英類（微細）、植物珪酸体化石

No.2 : 140~350  $\mu\text{m}$  が多い（最大粒径850  $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類》発泡ガラス》リング・ガラス》  
複合石英類（微細）》ガラス、斜方輝石、放散虫化石(11個体)、珪藻化石(海水種 *Coscinodiscus*  
属/*Thalassiosira* 属)、骨針化石多産、植物珪酸体化石

No.3 : 100~800  $\mu\text{m}$  が多い（最大粒径1.7mm）。石英・長石類》複合石英類（微細）》斜長石（双晶）、  
複合鉱物類（含雲母類）、斑晶質、凝灰岩質、骨針化石、植物珪酸体化石

No.4 : 100~300  $\mu\text{m}$  が多い（最大粒径1.5mm）。石英・長石類》複合石英類（微細）》発泡ガラス》リ  
ング・ガラス、植物珪酸体化石

No.5 : 90~800  $\mu\text{m}$  が多い（最大粒径1.4mm）。石英・長石類》複合石英類（微細）》斜長石（双晶・  
累帯）、カリ長石（微斜長石）、斑晶質、ガラス、発泡ガラス、凝灰岩質、珪藻化石(海水  
種 *Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、不明種)、骨針化石、植物珪酸体化石

- No. 6 : 80~500  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径2.5mm)。発泡ガラス> 石英・長石類> リング・ガラス> 複合石英類 (微細)> 斑晶質、植物珪酸体化石
- No. 7 : 110~600  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径900  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類> 複合石英類 (微細)> 砂岩質、複合石英類、発泡ガラス、斑晶質、単斜輝石、骨針化石、植物珪酸体化石
- No. 8 : 90~700  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径2.0mm)。石英・長石類> 複合石英類 (微細)> 砂岩質、植物珪酸体化石
- No. 9 : 100~750  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.2mm)。石英・長石類> 複合石英類 (小型・微細)> 斜長石 (双晶)、凝灰岩質、骨針化石、植物珪酸体化石
- No.10 : 70~800  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径950  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類> 複合石英類 (微細)> 複合石英類> 斜長石 (双晶)、発泡ガラス、リング・ガラス、放散虫化石 (18個体)、珪藻化石 (海水種 *Archnoidiscus ehrenbergii*、*Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属多産、*Stephanopxis* 属、不明種)、骨針化石多産、植物珪酸体化石多産
- No.11 : 80~800  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.7mm)。石英・長石類> 発泡ガラス> 複合石英類 (微細)> ガラス、砂岩質、骨針化石、植物珪酸体化石
- No.12 : 120~700  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径2.5mm)。石英・長石類> 発泡ガラス> リング・ガラス、骨針化石、植物珪酸体化石
- No.13 : 130~700  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.5mm)。石英・長石類> 複合石英類 (微細)> 斜長石 (双晶)、斑晶質、ガラス、凝灰岩質、珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、淡水種 *Eunotia biareofera*、*Eunotia monodon*、*Pinnularia divergens*、*Eunotia* 属、*Pinnularia* 属多産、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石>>
- No.14 a : 100~750  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.3mm)。石英・長石類> 発泡ガラス> 複合石英類 (微細)> 凝灰岩質、斑晶質、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石
- No.14 b : 130~600  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.7mm)。石英・長石類> 複合石英類 (微細)> リング・ガラス> 発泡ガラス、斜長石 (双晶)、複合石英類、骨針化石、植物珪酸体化石
- No.15 : 110~500  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径2.1mm)。発泡ガラス> 石英・長石類、リング・ガラス、複合石英類 (微細)、植物珪酸体化石
- No.16 : 100~500  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.1mm)。石英・長石類> 雲母類> 斜長石 (双晶)> 石英・長石類 (含雲母類)、角閃石類、ガラス、複合石英類 (微細)、斑晶質、ジルコン、珪藻化石 (海水種 *Diploneis interrupta*、淡水種 *Epithemia turgida*、*Cocconeis placentula*、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Synedra* 属、不明種多い)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石
- No.17 : 60~600  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.4mm)。石英・長石類> 雲母類> 石英・長石類、斜長石 (双晶)、斜方輝石、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石
- No.18 : 120~500  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.9mm)。石英・長石類> 雲母類> 角閃石類、斜長石 (双晶)、複合鉱物類 (含雲母類・輝石類)、斑晶質、凝灰岩質、放散虫化石 (1個体)、珪藻化石 (沼沢湿地付着生指標種群 *Navicula elginensis*、*Cymbella aspera*、淡水種 *Eunotia*

biareofera、Diploneis 属、Cyclotella 属、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.19 : 110~700  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径2.7mm)。石英・長石類〉発泡ガラス〉リング・ガラス〉複合石英類、斜石 (双晶)、斜方輝石、斑晶質、珪藻化石 (淡水種 Pinnularia 属、不明種)、骨針化石、植物珪酸体化石

No.20 : 100~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径500  $\mu\text{m}$ )。発泡ガラス〉リング・ガラス〉石英・長石類〉雲母類

No.21 : 100~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径650  $\mu\text{m}$ )。発泡ガラス〉石英・長石類〉雲母類

No.22 : 80~350  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径500  $\mu\text{m}$ )。発泡ガラス〉石英・長石類〉複合石英類 (微細)、複合石英類、砂岩質

No.23 : 100~500  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.5mm)。発泡ガラス〉石英・長石類〉斑晶質、複合石英類

No.24 : 100~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径450  $\mu\text{m}$ )。発泡ガラス〉石英・長石類〉雲母類

No.25 : 50~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径900  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類〉発泡ガラス〉斑晶質、複合石英類 (微細)

No.26 : 70~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径500  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類〉複合石英類 (微細)、ガラス、斜方輝石、斑晶質、珪藻化石 (不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.27 : 100~300  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径4.7mm)。複合石英類 (微細)〉石英・長石類〉雲母類、砂岩質、ガラス、凝灰岩質、斜方輝石、斑晶質、植物珪酸体化石

No.28 : 150~600  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.9mm)。石英・長石類〉斑晶質〉複合石英類 (微細)、斜方輝石、斜長石 (双晶)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.29 : 80~400  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径600  $\mu\text{m}$ )。複合石英類 (微細)〉石英・長石類、発泡ガラス、珪藻化石 (淡水種 Pinnularia 属、不明種)、孢子化石、植物珪酸体化石

No.30 : ~400  $\mu\text{m}$  が多い (最大粒径1.6mm)。斑晶質〉複合石英類 (微細)、斜長石 (双晶)、複合石英類、砂岩質、単斜輝石、斜方輝石、珪藻化石 (淡水種 Pinnularia 属、不明種)、植物珪酸体化石

#### d 化石による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10~数100  $\mu\text{m}$  (実際観察される珪藻化石は大きいもので150  $\mu\text{m}$  程度)、放散虫化石が数百  $\mu\text{m}$ 、骨針化石が10~100  $\mu\text{m}$  前後である (植物珪酸体化石が10~50  $\mu\text{m}$  前後)。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9  $\mu\text{m}$  以下、シルトが約3.9~62.5  $\mu\text{m}$ 、砂が62.5  $\mu\text{m}$ ~2 mm である (地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981)。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は、焼き物胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、1)外洋性粘土を用いた胎土、2)海水成粘土を用いた胎土、

3)淡水成粘土を用いた胎土、4)水成粘土を用いた胎土、5)その他の粘土を用いた胎土、6)不明粘土に分類される。以下では、分類される胎土についてその特徴を述べる。

1) 外洋性粘土を用いた胎土 (No. 2, No.10)

これらの胎土中には、放散虫化石や海水種珪藻化石が見られた。また骨針化石も多く含まれていた。

2) 海水成粘土を用いた胎土 (No. 5)

この胎土中は、海水種珪藻化石の *Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属が含まれていた。また、骨針化石も含まれていた。

3) 淡水成粘土を用いた胎土 (No. 9, No.13, No.16, No.18, No.19, No.29)

これらの胎土中は、淡水種珪藻化石の *Eunotia* 属や *Pinnularia* 属が含まれていた。なお、No.16の胎土中には淡水種の *Epithemia turgida* が多く見られた。

4) 水成粘土を用いた胎土 (No. 3, No.14 a, No.14 b, No.17, No.26)

これらの胎土中には、骨針化石が含まれていた。また、No.26の胎土中には不明種珪藻化石が見られていた。ただし、含まれる珪藻化石は少なくその堆積環境は明きにかでない。

5) その他の粘土を用いた胎土 (No. 6, No. 7, No. 8, No.27, No.28, No.30)

これらの胎土中には、水成堆積を指標する微化石類は見られなかった。

6) 不明粘土 (No. 1, No. 4, No.11, No.12, No.15, No.20~25)

これらの胎土は、発砲ガラスやリング・ガラスなど高温焼成による熔融生成物が多く見られるため、微化石類は熔融したものと考えられる。

e 砂粒組成の特徴

須恵器や珠洲系陶器あるいは陶器などは、高温焼成により生成した発泡ガラスやリング・ガラスなどが多く見られるため、これら胎土中には本来含まれていた砂粒は少ない。このため、これら高温焼成された焼き物胎土中の起源岩石を推定することは困難である。一方、瓦器や瓦あるいは土管などは、こうした高温焼成により生成した発泡ガラスが少ないかまたは含まないため、少なくとも内部では高温に達していないことが推定される。瓦器胎土中には、雲母類がほぼ同程度に含まれるほか、推定される起源岩石として深成岩類や凝灰岩類が共通に含まれ、堆積岩類や火山岩類も含まれていた。瓦胎土中には、火山岩類が共通して含まれるほか、深成岩類や凝灰岩類などが含まれている。また、土管胎土中には、堆積岩類や火山岩類が共通に含まれ、深成岩類も含まれていた (第2図)。これら胎土中の粒子組成がどの程度類似しているかの評価は難しいが、複数の起源岩石がある程度共通して含まれることから、近い組成を示しているように思われる。

## 4 蛍光X線分析

### a 方法

試料は、自然釉が付着する焼き物は予め岩石カッターを用いて除去した後、それぞれ精製水にて超音波洗浄を行った。これらの試料は、約5g程度をセラミック乳鉢（成分、 $\text{Al}_2\text{O}_3$ ；93.4%， $\text{SiO}_2$ ；5%）で粉碎し粉末にした。乾燥試料1.8000g秤量し、同様に乾燥させた融剤（無水四ホウ酸リチウム（ $\text{Li}_2\text{B}_4\text{O}_7$ ）：リチウムメタボレイト（ $\text{LiBO}_2$ ）＝8：2）3.6000gと十分に混ぜ合わせた。これらは、白金ルツボに移した後、ビードサンプラー（㈱東京科学製NT-2000型）により、約1100℃で220秒間溶融・135秒間混合を行い、測定用ガラスビードを作成した。測定は、波長分散型蛍光X線分析装置（㈱リガク製System3080）を使用し、データ処理システムDATAFLEX-151B（検量線法）を用いて定量分析を行った。

測定元素は、主成分元素（ $\text{Na}_2\text{O}$ ， $\text{MgO}$ ， $\text{Al}_2\text{O}_3$ ， $\text{SiO}_2$ ， $\text{P}_2\text{O}_5$ ， $\text{K}_2\text{O}$ ， $\text{CaO}$ ， $\text{TiO}_2$ ， $\text{MnO}$ ， $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）、微量成分元素（Rb，Sr）の合計12成分である。測定条件は、Rh管球、50KV、50mAである。なお、検量線は、標準試料JA-1，JA-2，JB-1a，JB-2，JB-3，JG-1a，JG-2，JG-3，JGb-1，JR-1，JR-2，NBS688，NIST278により作成した。

### b 結果および考察

第3表は、蛍光X線分析による化学分析値（主成分10成分と微量元素2元素）である。

三辻（1983）は、全国の主要な窯跡出土須恵器の蛍光X線分析を行い、カリウム（K）とルビジウム（Rb）、カルシウム（Ca）とストロンチウム（Sr）がそれぞれ相関が高いこと（またはK-CaおよびRb-Srの関係も同等）、各相関直線の勾配が地域ごとに異なることなどから、これら元素が地域特性因子として有効であることを示している。なお、このRbとSrが地域特性因子である理由は、ルビジウムの放射性同位体（ $^{87}\text{Rb}$ ）が5.2x10<sup>10</sup>年の半減期でストロンチウムの同位体 $^{87}\text{Sr}$ に変わるため、日本列島の基盤岩を形成する花こう岩の形成年代を反映して、西日本地域においてRbが多く、東日本地域においてSrが多いことによる。

第2図に、Rb-Sr散布図を示す。この散布図を見ると、陶器に注目した場合、No.20やNo.21あるいはNo.24やNo.25では相対的にRbが多く、No.19やNo.22はSrが相対的に高いといった傾向が見られる。同様に、珠洲系陶器についてもNo.11やNo.12あるいはNo.15では相対的にRbが多く、No.13ではSrが相対的に高い

こうしたRb-Srの相対的な違いは、製作地が異なる可能性を十分示している。なお、具体的な生産地については、三辻（1983）が示したデータと直接比較・検討できないため、ここでは言及できない。

なお、第2図には、三辻（1991）が分析した山海窯群および泉谷地窯群出土須恵器の分析値を範囲として示した。三辻（1991）の分析値は、標準試料JG-1のとの相対値で示しているが、ここでの値は現在のJG-1標準分析値に換算して示してある。この範囲と比較すると、須恵器や瓦など一部にはこの範囲と重複している焼き物が見られる。

## 5 考 察

縄文土器や土師器などの比較的低温で焼成された土器群は、用いられた粘土中に含まれる放散虫化石や珪藻化石あるいは骨針化石などの微化石類が含まれ、こうした場合には材料粘土の種類（起源）について知ることができる（車崎ほか、1996）。また、砂粒についても起源を推定する程度の砂粒が含まれるため、製作地における岩石あるいは鉱物学的な特徴について知ることができる。

ここで検討した土器群は、須恵器や陶器など比較的高温で焼成された土器であるため、多くの焼き物では微化石類や岩石・鉱物は溶融していた。しかし、薄片全面の観察により微化石類が検出でき、粘土についてその種類を推定することができた。

また、蛍光X線分析では、主成分10成分と微量元素2元素の定量分析を行い、土器胎土自体の化学特性が明らかとなった。ただし、これら焼き物の生産地については、比較試料の不足等により検討するには至らなかった。

現在、高温焼成された須恵器などについては、三辻（前出）により産地推定が行われているが、蛍光X線分析などよによる化学分析値から粘土の種類についての検討も行われている（藤根・Lomtatize、1997）。こうした材料自体の化学的特徴（粘土の種類）と三辻（前出）の地域特性を組み合わせることにより、より具体的な生産地について検討できるものと考えている。

### 引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理、42、2、73-88。  
 地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）増補改訂 地学事典、平凡社、1612p。  
 菱田 量・車崎正彦・松本 完・藤根 久（1993）岩石学的方法に基づく胎土分析について－弥生時代後期の土器を例にして－。日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集、34-35。  
 藤根 久・Lomtatize Zauri（1997）須恵器や山茶碗などの材料学的検討－蛍光X線分析－。日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、p92-93。  
 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究、27、1-20。  
 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）(39)土器胎土の材料－粘土の起源を中心に－。日本考古学協会第62回総会研究発表要旨、日本考古学協会、p153-156。  
 三辻利一（1983）古代土器の産地推定法。考古学ライブラリー14、ニューサイエンス社、p80  
 三辻利一（1991）附編-1. 山海窯群出土須恵器・須恵系土器の蛍光X線分析。山谷新田遺跡・山海窯群発掘調査報告書、東北農政局・山形県教育委員会、p1-14。

第1表 出土焼き物の種類と出土位置

No.	種 別	器 種	出 土 地 点	No.	種 別	器 種	出 土 地 点
1	須 恵 器	甕	ST237	16	瓦 器	火 鉢	SD 9
2	須 恵 器	甕	ST262	17	瓦 器	火 鉢	SK114
3	須 恵 器	坏	ST262	18	瓦 器	火 鉢	SK454
4	須 恵 器	甕	ST290	19	陶 器	甕	SE116
5	須 恵 器	甕	SG300	20	陶 器	甕	SK177
6	須 恵 器	甕	SG300 F-1	21	陶 器	甕	SE393
7	須 恵 器	甕	SD327 RP 7	22	陶 器	播 鉢	SE393
8	須 恵 器	甕	ST486	23	陶 器	甕	SK1179
9	須 恵 器	坏	ST1190 EL1187	24	陶 器	甕	SK1179
10	須 恵 器	甕	ST1276	25	陶 器	甕	SD1194
11	珠洲系陶器	甕	SD683 L-4	26	瓦	平 瓦	SE999
12	珠洲系陶器	甕	SK699	27	瓦	平 瓦	SE999
13	珠洲系陶器	甕	SK717	28	瓦	平 瓦	H-8 G
14	珠洲系陶器	甕	SK941	29	土 管		SK183
15	珠洲系陶器	甕	SK994	30	土 管		SK183





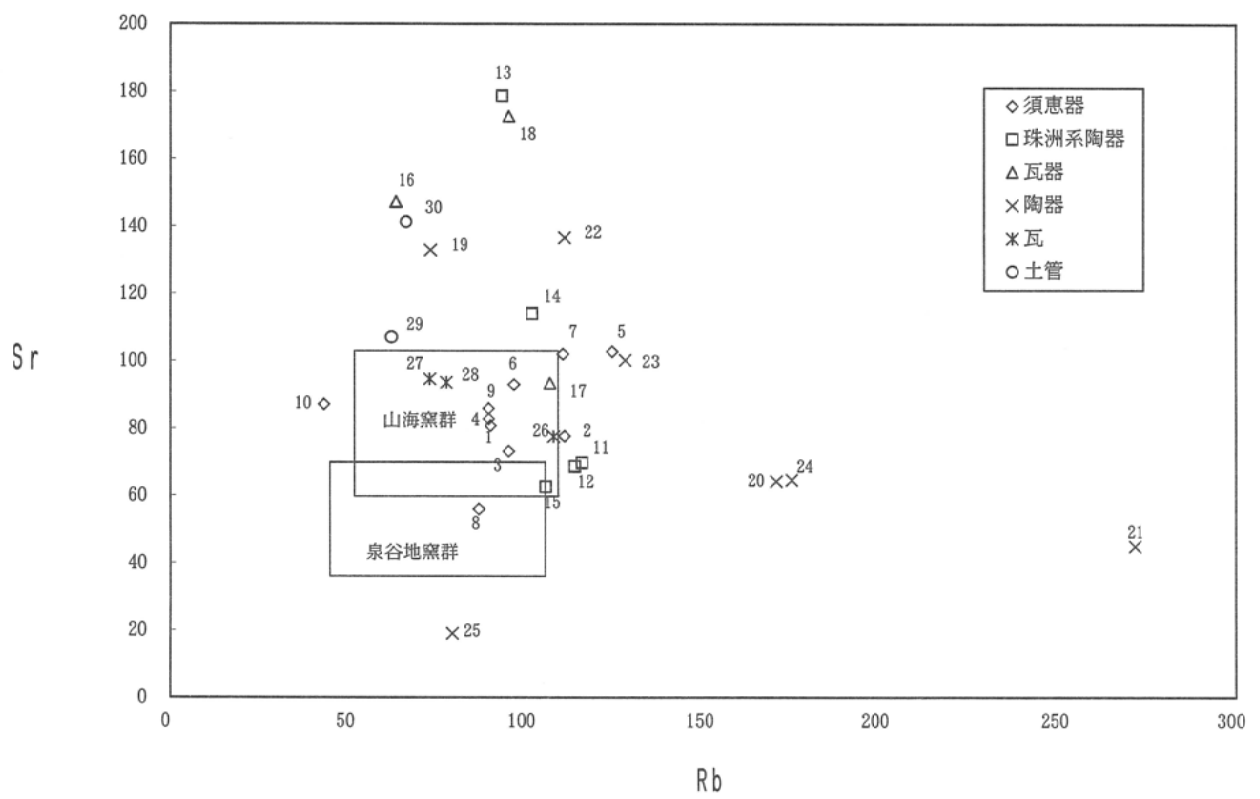


第3表 出土焼き物の粒子の特徴と化学特性

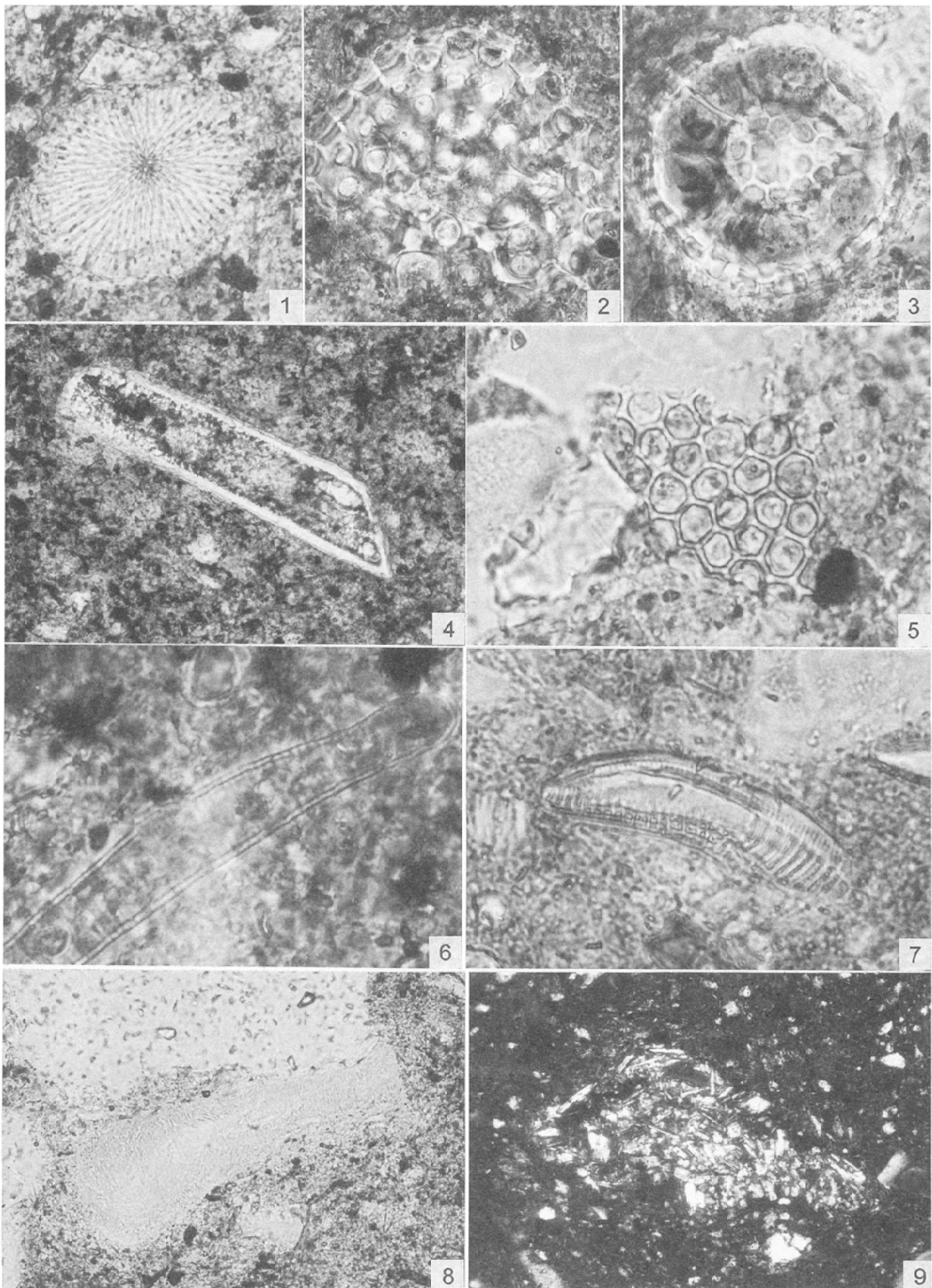
No.	種別	器種	出土地点	粘土の特徵		砂粒の特徵	Rb-Srの化学特性
				分類	種類		
1	須恵器	甕	ST237	-		[堆積岩類]	中間
2	須恵器	甕	ST262	※ 外洋成		堆積岩類、[テフラ]	中間
3	須恵器	坏	ST262	水成		堆積岩類>火山岩類、凝灰岩質、[テフラ]	中間
4	須恵器	甕	ST290	-		[堆積岩類]	中間
5	須恵器	甕	SG300	海成		堆積岩類>テフラ>火山岩類、凝灰岩質	中間
6	須恵器	甕	SG300 F-1	その他		堆積岩類>テフラ	中間
7	須恵器	甕	SD327 RP 7	水成		堆積岩類>深成岩類、火山岩類、テフラ	中間
8	須恵器	甕	ST486	その他		[堆積岩類]	中間
9	須恵器	坏	ST1190 EL1187	水成		堆積岩類>テフラ	中間
10	須恵器	甕	ST1276	※ 外洋成		堆積岩類>テフラ	Sr高
11	珠洲系陶器	甕	SD683 L-4	水成		堆積岩類	中間
12	珠洲系陶器	甕	SK699	水成		堆積岩類	中間
13	珠洲系陶器	甕	SK717	淡水成		堆積岩類>テフラ>火山岩類、凝灰岩質	Sr高
14	珠洲系陶器	甕	SK941	水成		堆積岩類>テフラ>凝灰岩質>火山岩類	中間
15	珠洲系陶器	甕	SK994	-		[堆積岩類]	中間
16	瓦器	火鉢	SD 9	淡水成		堆積岩類、凝灰岩質、深成岩類、火山岩類	Sr高
17	瓦器	火鉢	SK114	水成		深成岩類、凝灰岩質	中間
18	瓦器	火鉢	SK454	淡水成		深成岩類、凝灰岩質、火山岩類	Sr高
19	陶器	甕	SE116	淡水成		深成岩類、火山岩類	Sr高
20	陶器	甕	SK177	-		-	Rb高
21	陶器	甕	SE393	-		-	Rb高
22	陶器	播鉢	SE393	水成		堆積岩類、深成岩類	Sr高
23	陶器	甕	SK1179	-		深成岩類、[火山岩類]	中間
24	陶器	甕	SK1179	-		-	Rb高
25	陶器	甕	SD1194	-		深成岩類、[火山岩類]	Rb高
26	瓦	平瓦	SE999	水成		深成岩類、[火山岩類]	中間
27	瓦	平瓦	SE999	その他		堆積岩類>火山岩類、凝灰岩質	中間
28	瓦	平瓦	H-8 G	水成		火山岩類>堆積岩類、深成岩類、[テフラ]	中間
29	土管		SK183	淡水成		堆積岩類>火山岩類	Sr高
30	土管		SK183	水成		火山岩類>堆積岩類、深成岩類、[テフラ]	Sr高

第4表 出土遺物の蛍光X線分析による分析値 (Na<sub>2</sub>O~Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は%単位、RbとSrはppm単位)

No.	種	類	器種	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	Ti <sub>2</sub> O	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Total	Rb	Sr
1	須恵	器	甗	0.58	0.849	21.48	68.09	0.036	1.50	0.62	0.99	0.014	6.82	101.0	90.0	80.7
2	須恵	器	甗	0.85	0.854	20.41	70.53	0.022	1.62	0.39	1.01	0.007	4.51	100.2	110.8	77.6
3	須恵	器	坏	0.41	0.615	17.97	74.06	0.049	1.37	0.49	1.00	0.013	4.31	100.3	95.2	73.1
4	須恵	器	甗	0.65	1.012	26.92	61.76	0.043	1.46	0.69	0.98	0.017	7.92	101.4	89.4	82.7
5	須恵	器	甗	0.94	1.040	27.72	63.89	0.044	2.03	0.58	0.84	0.011	3.58	100.7	124.3	102.7
6	須恵	器	甗	0.66	0.620	17.32	72.65	0.040	1.51	0.56	0.98	0.013	4.64	99.0	96.6	92.9
7	須恵	器	甗	0.72	0.783	19.95	69.10	0.037	1.62	0.65	1.03	0.024	5.10	99.0	110.4	102.0
8	須恵	器	甗	0.31	0.678	20.80	71.05	0.044	1.25	0.41	0.98	0.006	5.06	100.6	86.6	55.9
9	須恵	器	坏	0.58	0.892	23.50	67.17	0.051	1.40	0.67	0.99	0.021	5.71	101.0	89.4	85.8
10	須恵	器	甗	0.97	0.574	21.43	67.46	0.046	1.02	0.62	0.99	0.010	7.75	100.9	42.5	87.1
11	珠洲系	陶器	甗	0.38	0.858	23.49	69.46	0.041	1.89	0.46	0.88	0.010	3.45	100.9	115.9	69.7
12	珠洲系	陶器	甗	0.43	0.825	22.43	70.53	0.041	1.89	0.44	0.88	0.005	3.27	100.7	113.8	68.6
13	珠洲系	陶器	甗	1.46	0.877	22.29	67.75	0.062	1.77	1.05	1.07	0.013	4.23	100.6	93.3	178.6
14	珠洲系	陶器	甗	0.86	0.747	20.18	67.92	0.146	1.91	0.55	0.95	0.013	4.89	98.2	101.7	114.0
15	珠洲系	陶器	甗	0.48	0.671	19.06	73.71	0.054	1.92	0.40	0.73	0.003	2.76	99.8	105.6	62.5
16	瓦	器	火鉢	1.57	0.847	26.15	58.96	0.372	1.15	1.75	1.08	0.018	5.73	97.6	63.0	147.2
17	瓦	器	火鉢	0.45	0.456	18.64	70.32	1.198	1.64	0.49	0.75	0.027	2.56	96.5	106.8	93.3
18	瓦	器	火鉢	1.30	1.107	25.61	59.15	0.189	2.15	1.44	1.08	0.072	7.10	99.2	95.2	172.6
19	陶	器	甗	1.41	0.890	23.49	63.64	0.092	1.52	1.24	1.19	0.075	7.56	101.1	72.9	132.8
20	陶	器	甗	2.16	0.143	32.00	63.11	0.024	3.47	0.55	0.25	0.000	1.25	102.9	170.6	64.2
21	陶	器	甗	2.15	0.213	30.88	63.59	0.028	3.43	0.44	0.34	0.016	1.49	102.6	271.6	44.9
22	陶	器	播鉢	0.96	0.900	16.57	69.79	0.088	2.40	0.41	0.93	0.035	6.34	98.4	110.9	136.5
23	陶	器	甗	0.81	0.977	24.81	67.11	0.043	2.64	0.42	0.97	0.011	3.16	101.0	128.0	100.1
24	陶	器	甗	2.11	0.145	31.62	62.92	0.022	3.50	0.54	0.25	0.001	1.26	102.4	175.0	64.6
25	陶	器	甗	0.25	0.482	17.61	73.35	0.028	3.45	0.19	0.30	0.000	1.92	97.6	79.1	19.0
26	瓦		平瓦	0.82	0.611	16.17	73.97	0.044	1.67	0.42	1.07	0.015	4.07	98.9	107.8	77.5
27	瓦		平瓦	1.10	2.967	20.30	63.72	0.149	2.33	0.79	0.80	0.144	7.62	99.9	72.7	94.6
28	瓦		平瓦	0.98	1.178	18.22	67.56	0.074	1.60	0.88	1.28	0.058	6.71	98.5	77.4	93.5
29	土	管		0.67	0.507	17.04	73.85	0.076	1.28	0.73	0.79	0.021	3.26	98.2	61.8	107.0
30	土	管		1.34	1.233	18.41	66.01	0.722	1.44	2.07	1.04	0.071	6.72	99.0	65.9	141.2
平均			値			0.94	0.818	22.08	67.74	0.130	1.93	0.70	0.88	0.025	4.69	99.9
最大			値			2.16	2.967	32.00	74.06	1.198	3.50	2.07	1.28	0.144	7.92	127.3
最小			値			0.25	0.143	16.17	58.96	0.022	1.02	0.19	0.25	0.000	1.25	78.2
標準			偏差			0.53	0.483	4.40	4.28	0.240	0.70	0.41	0.26	0.030	2.00	13.3



第2図 焼き物のRb-Sr散布図



図版1 胎土中の粒子顕微鏡写真 (スケール; 1 : 50  $\mu\text{m}$ 、4, 8 : 100  $\mu\text{m}$ 、5, 6 : 20  $\mu\text{m}$ 、9 : 200  $\mu\text{m}$ )

- |                                            |                                                           |                                   |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 放射虫化石 No.2                              | 2. 放射虫化石 No.10                                            | 3. 放射虫化石 No.10                    |
| 4. 骨針化石 (網目構造)                             | 5. 珪藻化石 ( <i>Coscinodiscus</i> 属/ <i>Thalassiosira</i> 属) | 6. 珪藻化石 ( <i>Eunotia</i> 属) No.13 |
| 7. 珪藻化石 ( <i>Eptihemia turgida</i> ) No.10 | 8. リング・ガラス No.13                                          | 9. 珪晶質 No.13                      |



# 埴埜およびスラグ付着物の蛍光 X 線分析

宮野 義則 (パレオ・ラボ)

## 1 はじめに

城南一丁目遺跡は、JR山形駅西口に所在する遺跡である。調査では、奈良・平安時代や江戸時代あるいは明治時代以降の遺構や遺物が検出されている。遺物として主に赤色物が付着した埴埜やスラグも出土している。

ここでは、埴埜の表面付着物とスラグについて、蛍光 X 線分析計を用いて元素を測定し、埴埜やスラグに係わる金属について検討した。

## 2 試料および方法

試料は、埴埜片 6 点、スラグ片 4 点の合計 10 試料である。試料は、予め肉眼観察あるいは実体顕微鏡を用いた観察を行った。なお、試料番号は、須恵器などの焼き物の胎土分析を行っているため、続き番号である。分析は、蛍光 X 線分析計を用いて定性的に元素組成を調べた。分析装置は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA-2001L である。X 線発生部の管球はロジウム (Rh) ターゲット、ベリリウム (Be) 窓、X 線検出器は Si (Li) 半導体検出器である。測定条件は、測定時間 300 秒、照射径 10mm、電流 2 ~ 10  $\mu$ m、電圧 50kV、試料室内は真空である。

測定結果は蛍光 X 線スペクトル図を示し、各ピークの X 線名称を示した。なお、ロジウム (Rh) のピークは X 線管球ターゲットに由来するピークであり、埴埜やスラグに係わる元素ではない。

## 3 結 果

第 1 表に、試料の種類とともに測定結果を示す。なお、測定結果は、関係する金属元素とその他元素に分けて表した。また、第 1 図および第 2 図に 10 試料の蛍光 X 線スペクトル図を示した。埴埜では、関係すると思われる金属元素として、No.32 と No.40 以外において銅 (Cu) や鉄 (Fe) が共通に高率で検出され、No.31 や No.34 あるいは No.35 では錫 (Sn) や鉛 (Pb) も検出されている。なお、No.32 では低率ながら金 (Au) が検出されている。スラグでは、共通して鉄 (Fe) が高率で検出され、低率であるが銅 (Cu) も検出された。なお、全体を通じて、その他の元素として、アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、リン (P)、イオウ (S)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、クロム (Cr)、マンガン (Mn)、亜鉛 (Zn)、ニッケル (Ni)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) が検出された。

#### [各試料の肉眼観察および実体顕微鏡観察の記載]

- No.31：坩堝内側から口縁部やや外側にかけて明赤褐色（2.5YR 5/8）～橙色（5 YR 6/8）～にぶい赤褐色（5 YR 4/3）の付着物が広範囲に見られた。
- No.32：灰白色～緑灰色の自然釉が全面に付着する。なお、測定結果により金が検出されたため、実体顕微鏡で観察するとφ30～300ミクロンの金色粒子が散在することが観察された。
- No.33：坩堝内側から外側にかけて赤橙色（10R 6/8）～赤色（7.5R 4/8）の付着物が広範囲に見られた。なお、断面において緑錆が明瞭に認められた。
- No.34：坩堝内側に赤橙色（10R 6/8）～赤色（7.5YR 4/6）の付着物が見られた。
- No.35：坩堝内側から外側にかけて赤色（10R 5/8）～赤色（7.5R 4/6）の付着物が広範囲に見られた。なお、外側は自然釉が付着している。
- No.36：表面が黒色～赤褐色（10R 5/4）のガラス質あるいは自然？状の塊である。一部には黄褐色（10YR 5/8）塊が付着する。比重は岩石などに比べ大きい。やや磁性をもつ。
- No.37：全体的に橙色（7.5YR 6/8）からなる塊である。比重は著しく高い。なお、表面には炭化材の一部が付着する。
- No.38：主に黒色の？状物が付着する。内部は砂質である。比重は岩石に比べ低い。
- No.39：表面が黒色のガラス質あるいは自然釉状の熔融形状を示す塊である。一部に黄褐色（10YR 5/8）塊が付着する。比重は岩石に比べ低い。
- No.40：坩堝内側から口縁部やや外側にかけて黒色～オリーブ灰色（5GY 6/1）の自然釉が見られた。

#### 4 考 察

坩堝では、No.32とNo.40以外において銅や鉄が高率で検出されるが、鉄は土壤中において数～十%程度含まれ、かつ蛍光X線分析計では検出感度が高いため、本質的に係わる元素とは考えにくい。一方、鉛や錫は土壤ではほとんど含まれないことから、金属として関係が深い。こうした背景を考えると、No.31やNo.33、No.34やNo.35は青銅に係わる坩堝と考えて問題ない。銅と錫の合金を一般的に青銅と呼ぶが、銅はそのままでは柔らかく、錫との合金によって硬くて鋭利な農具や武器類の製作に適するものとなる（潮見、1991）。さらに、鉛を加えると溶けた合金の流動性が良くなり鑄物が作り易く、また製品が加工しやすくなるとされている（馬淵・富永、1982）。

一方、No.32の坩堝では、銅が低率ながら検出されるものの、低率ではあるが金が明瞭に検出されている。実体顕微鏡で観察すると坩堝内側に約30～300ミクロンの金色の粒子が付着することが観察される。こうしたことから、金を入れた坩堝と考える。なお、金が低率なのは、曲率の大きい坩堝内側にはこの金粒子が大きく見られるものの、測定平面とした場所には少ないことによる（測定は曲面が大きい場所は困難であるため）。

スラグでは、全体的に鉄が高率で検出され、鉄に関係して排出された鉍滓と考える。なお、No.37は磁性をもち比重がかなり高いことから、鉄滓と考える。銅や亜鉛あるいはニッケルなどがやや高率で検出されているが、これら元素は親鉄元素と呼ばれ、鉄と化合して固溶体をつくりや



すい（理化学辞典、1976）ことから、鉄に付随する元素と考える。

なお、No.32やNo.35、No.36やNo.39などでは、カルシウムが高率で検出されているが、これら表面に自然釉が付着しているため、灰などに多く含まれるカルシウムが高率で検出されたものと考ええる。

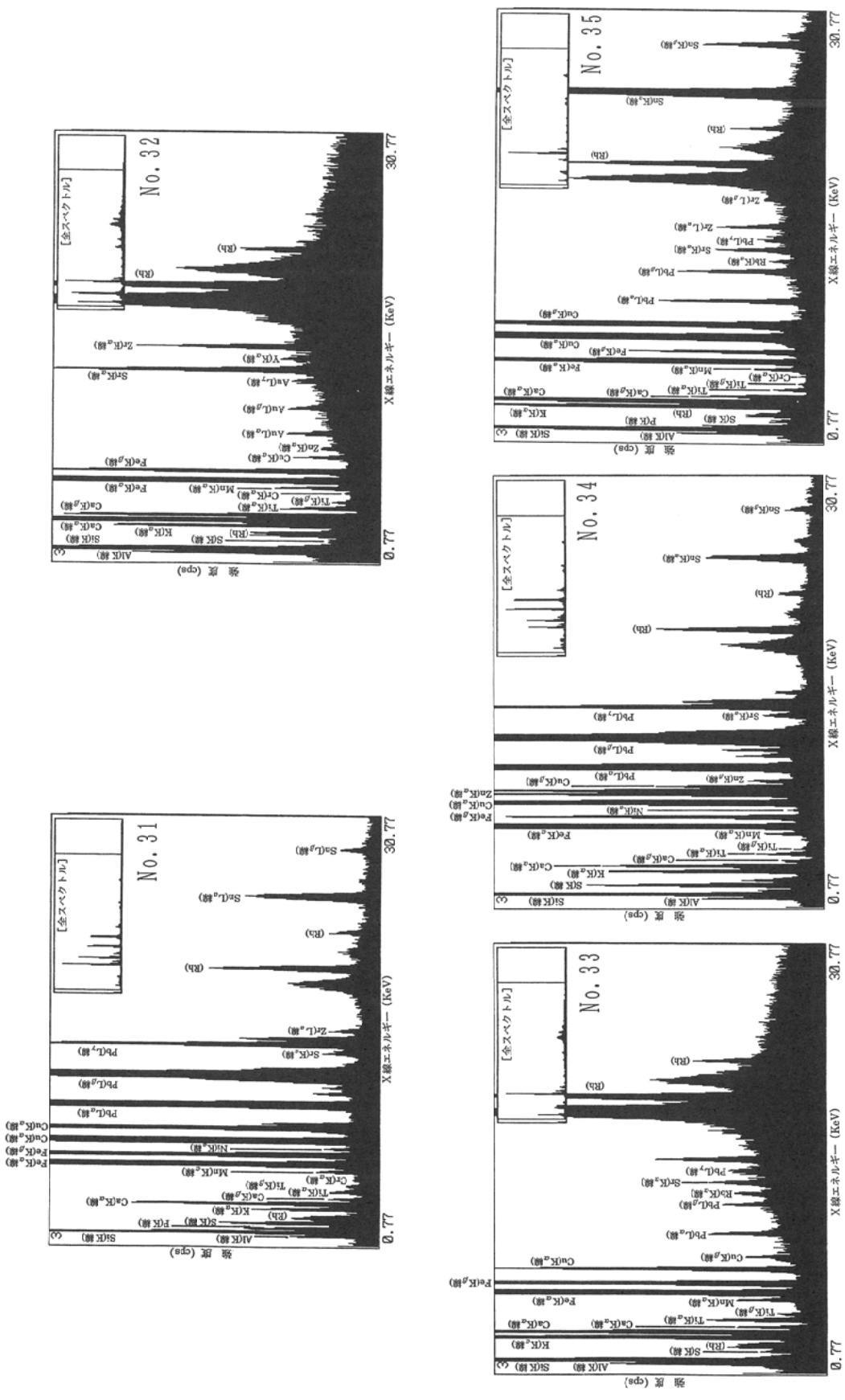
引用文献

瀧見 浩(1984)「図解 技術の考古学」、有斐閣選書、72-90p.  
 馬淵久夫・富永 健(1982)「考古学のための化学10章」、  
 東京大学出版会、157p-159p.理化学辞典（1976）親鉄元素.岩波書店、p664.

第1表 埴塙およびスラグから検出された元素（○は高率、△低率）

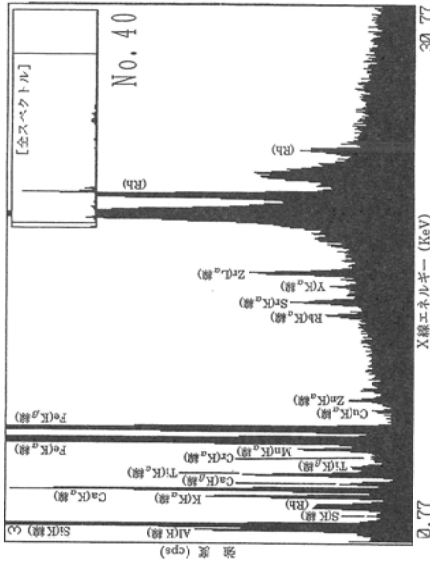
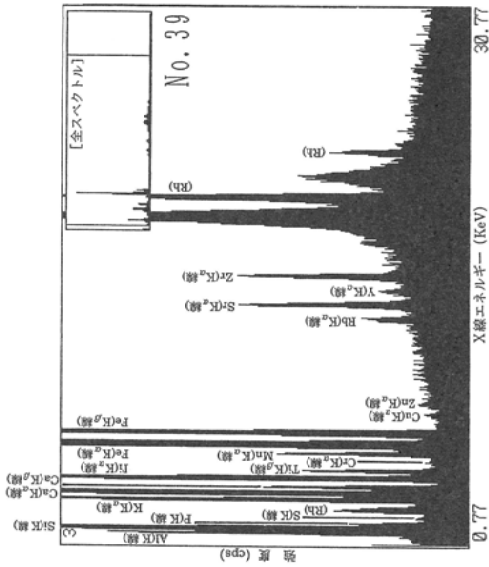
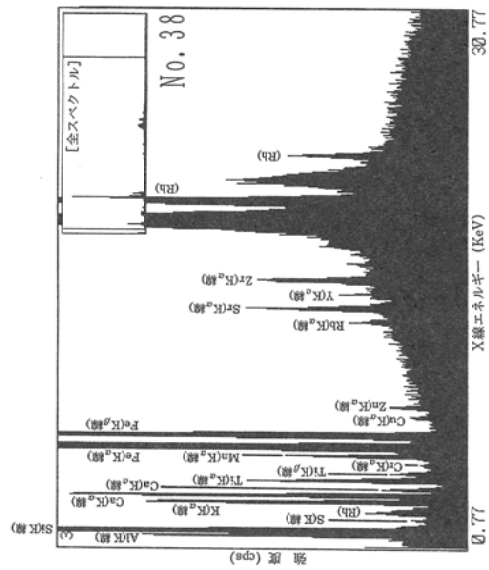
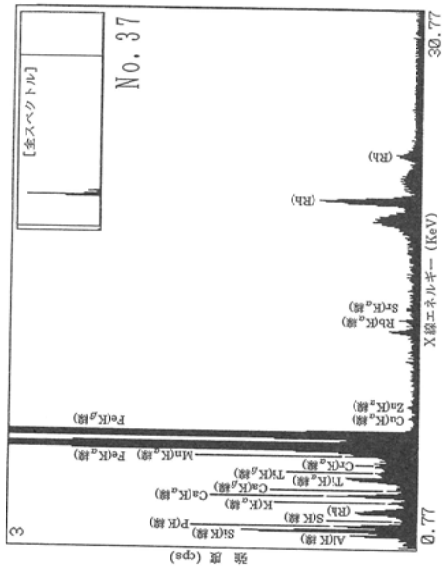
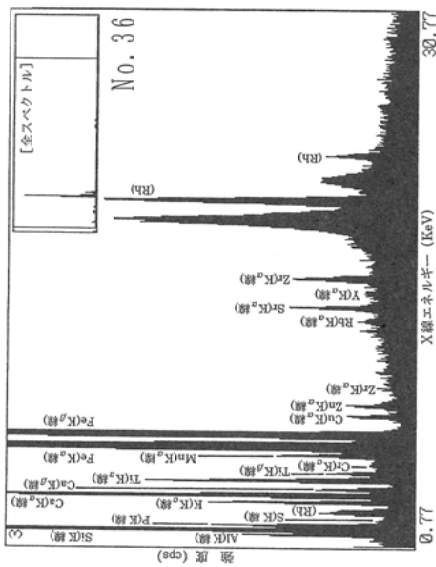
(元素記号 Al: アルミニウム、Si: ケイ素、P: リン、S: イオウ、K: カリウム、Ca: カルシウム、Ti: チタン、Cr: クロム、Mn: マンガン、Fe: 鉄、Ni: ニッケル、Cu: 銅、Pb: 鉛、Zn: 亜鉛、Au: 金、Rb: ルビジウム、Sr: ストロチウム、Y: イットリウム、Zr: ジルコニウム、Sn: 錫)

No.	種別	出土地点	関係する金属元素					その他検出された元素	種類
			Au	Cu	Sn	Pb	Fe		
31	埴塙	SK 8		○	○	○	○	Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Ni, Sr, Zr	青銅
32	埴塙	SK 8	△	△			○	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Zn, Sr, Y, Zr	金
33	埴塙	SD 9 E-6		○		△	○	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Rb, Sr	(青銅)
34	埴塙	SK 335		○	○	○	○	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Zn, Ni, Sr	青銅
35	埴塙	SK 695		○	○	△	○	Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Rb, Sr, Zr	青銅
36	スラグ	SK 695		△			○	Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Zn, Zr, Rb, Sr, Y	鉍滓 (スラグ)
37	スラグ	SK 697		△			○	Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Zn, Rb, Sr	鉄滓
38	スラグ	SK 697		△			○	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Zn, Rb, Sr, Y, Zr	鉍滓 (スラグ)
39	スラグ	SK 697		△			○	Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Zn, Rb, Sr, Y, Zr	鉍滓 (スラグ)
40	埴塙	SK 788		△			○	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Zn, Sr, Y, Zr	鉄?



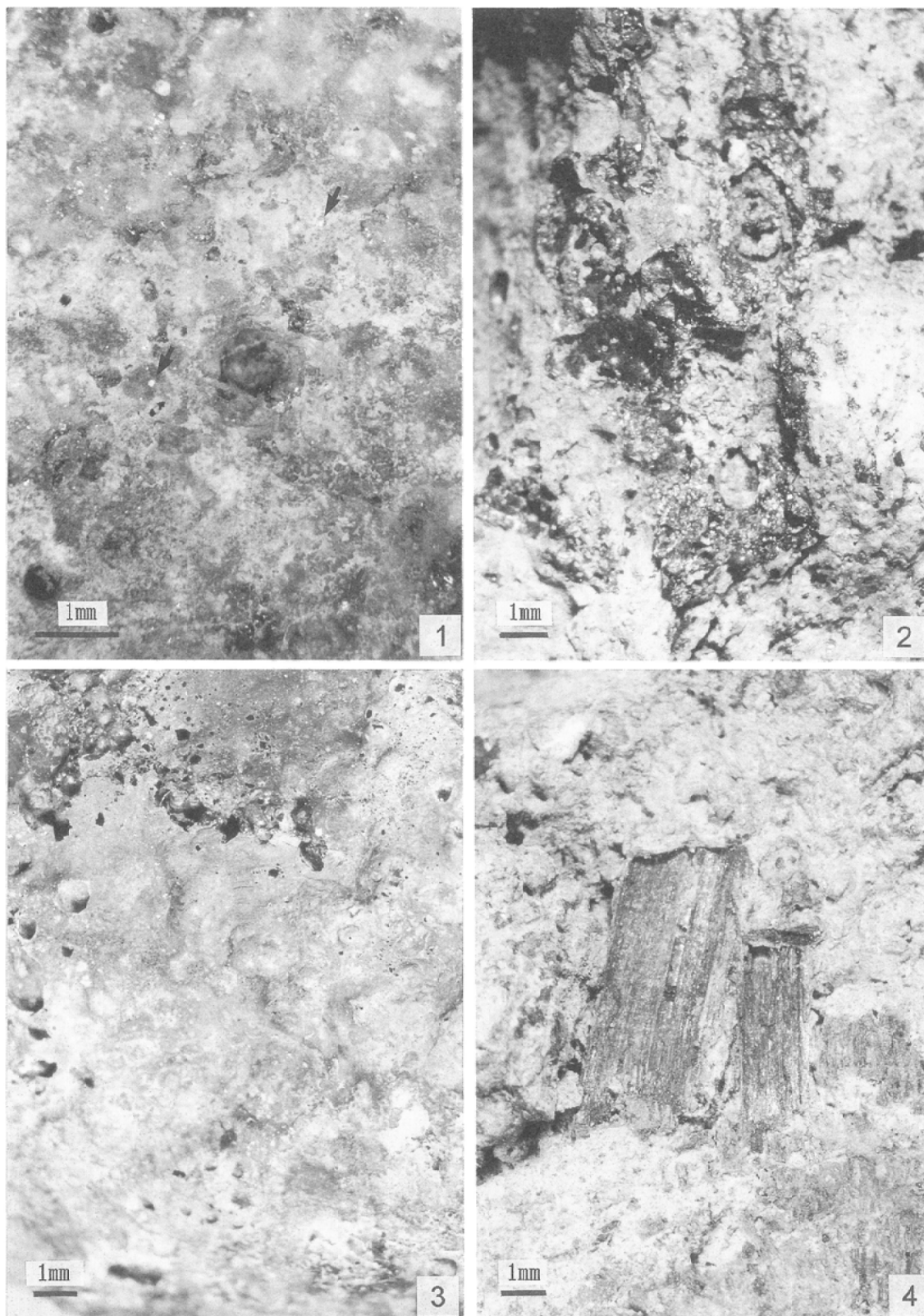
第1図 No.31～35の蛍光X線スペクトル図

(元素記号; Al: アルミニウム, Si: ケイ素, P: リン, S: イオウ, K: カリウム, Ca: カルシウム, Ti: チタン, Cr: クロム, Mn: マンガン, Fe: 鉄, Ni: ニッケル, Cu: 銅, Pb: 鉛, Zn: 亜鉛, Au: 金, Rb: ルビジウム, Sr: ストロチウム, Y: イットリウム, Zr: ジルコニウム, Sn: 錫)



第2図 No.36~40)の蛍光X線スペクトル図

(元素記号; Al: アルミニウム, Si: ケイ素, P: リン, S: イオウ, K: カリウム, Ca: カルシウム, Ti: タタン, Cr: クロム, Mn: マンガン, Fe: 鉄, Cu: 銅, Zn:亜鉛, Rb: ルビジウム, Sr: ストロンチウム, Y: イットリウム, Zr:ジルコニウム, Sn: 錫)



図版 1

1 : 増埇表面付着、金 (Au) (No.32)  
 3 : 青銅表面付着、金属酸化物 (No.35)

2 : 増埇表面付着、錳 (No.33)  
 4 : 鉄滓に含まれる炭化物 (No.37)

---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第69集

城南一丁目遺跡発掘調査報告書

1999年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-5301

印刷 ㈱大風印刷

---